

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第156集

# 間館Ⅰ遺跡発掘調査報告書

土地改良総合整備事業寺田西部地区関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

# 間館 I 遺跡発掘調査報告書

土地改良総合整備事業寺田西部地区関連遺跡発掘調査

## 序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,600カ所にも及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。特に幹線道路網の整備は、産業経済開発の大動脈として、多方面から期待されているところであります。

このような埋蔵文化財の保護と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団では埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告の間館Ⅰ遺跡は、西根町北方にあたる荒木田川左岸の丘陵地に立地し、平成元年度の発掘調査により、縄文時代の集落跡等が発見されました。北端部を中心に多数の遺構が検出され、縄文時代前期から中期にかけての遺物が出土するなど、貴重な資料を得ることができました。

本報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査および報告書作成に御協力、御援助を賜りました西根町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心から謝意を表します。

平成2年9月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 中村 直

## 例 言

- 1 本報告書は、岩手郡西根町荒木田第3地割28ほか<sup>まだて</sup>に所在する間館I遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、土地改良総合整備事業に伴う道路建設工事により遺跡の一部が消滅するため、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。調査は、岩手県農政部と岩手県教育委員会との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本遺跡の岩手県遺跡番号および調査略号は、次のとおりである。  
遺跡番号 KE05-2101 調査略号 MDI-89
- 4 調査面積は、3,935m<sup>2</sup>である。発掘調査は平成元年7月3日から9月26日まで、調査資料の整理は平成元年11月1日から平成2年3月31日まで実施した。
- 5 発掘調査は藤村敏男と斎藤邦雄が担当し、報告書の執筆は、土器の記述と遺構の一部については斎藤邦雄が、他は藤村敏男が担当した。
- 6 遺跡の基準点測量は、東奥測量設計会社に委託した。
- 7 分析鑑定は、下記の方々に依頼した。(敬称略)  
石質……………佐藤二郎(佐藤地質工学研究所)  
火山灰……………三辻利一(奈良教育大学)  
<sup>14</sup>C年代測定……………木越邦彦(学習院大学)
- 8 発掘調査および報告書の作成にあたっては、次の方々に指導・助言をいただいた。(敬称略)  
西根町教育委員会、伊藤喜兵衛(寺田公民館)、熊谷常正(県立博物館)、相原康二(県立図書館)、中村良幸(大迫町教育委員会)、竹内俊一(富山県朝日町笹川公民館)
- 9 野外調査においては本堂末太郎氏をはじめとする地元の方々の御協力をいただいた。
- 10 発掘調査による出土品及び記録資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。



# 目次

序

例言

## 本文

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の位置と地形	
1 位置	1
2 地形	1
3 基本層序	5
4 周辺の遺跡	6
III 調査の方法と室内整理	
1 野外調査	9
2 室内整理	10
IV 検出された遺構と遺構内の遺物	
1 竪穴住居跡	15
2 土坑	58
3 炉跡	88
4 土器埋設遺構	89
5 溝跡	89

## V 遺構外の出土遺物

1 土器	100
(1) 縄文時代の土器	100
(2) 弥生時代の土器	106
(3) 平安時代の土器	108
2 石器・石製品	135
3 土製品	164

## VI まとめ

1 遺構について	170
2 遺物について	171

## 付篇

出土火山灰の蛍光X線分析	182
年代測定	183

## 図版

第1図 間館I遺跡位置図	2
第2図 遺跡と周囲の地形図	3
第3図 地形分類図	4
第4図 周辺の遺跡位置図	7
第5図 間館I遺跡グリット配置図	11
第6図 間館I遺跡遺構配置図	13
第7図 第1号住居跡	16
第8図 第1号住居跡出土遺物(1)	17

第9図 第1号住居跡出土遺物(2)	18
第10図 第1号住居跡出土遺物(3)	19
第11図 第2号住居跡	21
第12図 第2号住居跡出土遺物(1)	22
第13図 第2号住居跡出土遺物(2)	23
第14図 第2号住居跡出土遺物(3)	24
第15図 第3号住居跡	26
第16図 第3号住居跡出土遺物(1)	27

第17図	第3号住居跡出土遺物(2)……………28	第48図	第15～17号土坑出土遺物……………76
第18図	第3号住居跡出土遺物(3)……………29	第49図	第6～17号土坑出土遺物……………77
第19図	第3号住居跡出土遺物(4)……………30	第50図	第18～21号土坑……………78
第20図	第4号住居跡……………32	第51図	第18号土坑出土遺物(1)……………80
第21図	第4号住居跡出土遺物(1)……………33	第52図	第18号土坑出土遺物(2)……………81
第22図	第4号住居跡出土遺物(2)……………34	第53図	第19～21・25号土坑、4F区、第1号 炉跡出土遺物……………83
第23図	第4号住居跡出土遺物(3)……………35	第54図	第18～20号土坑出土遺物……………84
第24図	第4号住居跡出土遺物(4)……………36	第55図	第22～23号土坑……………86
第25図	第5号住居跡出土遺物……………38	第56図	第24・25土坑、第1号炉跡……………88
第26図	第6・7号住居跡……………40	第57図	土器埋設遺構……………90
第27図	第7号住居跡出土遺物……………41	第58図	溝(北端部平坦面)……………91
第28図	第8号住居跡……………41	第59図	溝(北端部斜面の東側平坦面) ……93
第29図	第8号住居跡出土遺物……………42	第60図	溝(中央部平坦面)……………95
第30図	第5・7・8号住居跡出土遺物…44	第61図	溝(東端部斜面)……………97
第31図	第9号住居跡、出土遺物……………45	第62図	遺構外出土土器(1)……………109
第32図	第9・10号住居跡……………47	第63図	遺構外出土土器(2)……………110
第33図	第10号住居跡出土遺物(1)……………48	第64図	遺構外出土土器(3)……………111
第34図	第10号住居跡出土遺物(2)……………49	第65図	遺構外出土土器(4)……………112
第35図	第8・10号住居跡、第1号土坑 出土遺物……………50	第66図	遺構外出土土器(5)……………113
第36図	第11～19号住居跡……………51	第67図	遺構外出土土器(6)……………114
第37図	第11～15号住居跡出土遺物……………55	第68図	遺構外出土土器(7)……………115
第38図	第15・18・19号住居跡出土遺物…56	第69図	遺構外出土土器(8)……………116
第39図	第1～4号土坑……………59	第70図	遺構外出土土器(9)……………117
第40図	第1・2号土坑出土遺物……………60	第71図	遺構外出土土器(10)……………118
第41図	第3・5号土坑出土遺物……………63	第72図	遺構外出土土器(11)……………119
第42図	第5～8号土坑……………65	第73図	遺構外出土土器(12)……………120
第43図	第3・6号土坑出土遺物……………66	第74図	遺構外出土土器(13)……………121
第44図	第6～8・10号土坑出土遺物…68	第75図	遺構外出土土器(14)……………122
第45図	第9～13号土坑……………70	第76図	遺構外出土土器(15)……………123
第46図	第11・12・14号土坑出土遺物…72	第77図	遺構外出土土器(16)……………124
第47図	第14～17号土坑……………74	第78図	遺構外出土土器(17)……………125

第79図	遺構外出土土器(18)	126	第100図	遺構外出土石槍(3)	150
第80図	遺構外出土土器(19)	127	第101図	遺構外出土石槍(4)	151
第81図	遺構外出土土器(20)	128	第102図	遺構外出土石槍(5)・石錐	152
第82図	遺構外出土土器(21)	129	第103図	遺構外出土石匙(1)	154
第83図	遺構外出土土器(22)	130	第104図	遺構外出土石匙(2)	155
第84図	遺構外出土土器(23)	131	第105図	遺構外出土石匙(3)	156
第85図	遺構外出土土器(24)	132	第106図	遺構外出土石篋他(1)	158
第86図	遺構外出土土器(25)	133	第107図	遺構外出土石篋他(2)	159
第87図	遺構外出土土器(26)	134	第108図	遺構外出土削器・搔器(1)	160
第88図	遺構外出土石鏃(1)	137	第109図	遺構外出土削器・搔器(2)	161
第89図	遺構外出土石鏃(2)	138	第110図	遺構外出土石斧	162
第90図	遺構外出土石鏃(3)	139	第111図	遺構外出土不定形石器	165
第91図	遺構外出土石鏃(4)	140	第112図	遺構外出土礫石器	166
第92図	遺構外出土石鏃(5)	141	第113図	遺構外出土石器・土製品	167
第93図	遺構外出土石鏃(6)	142	第114図	遺構外出土石製品・土製品他	168
第94図	遺構外出土石鏃(7)	143	第115図	土器集成図(1)	176
第95図	遺構外出土石鏃(8)	144	第116図	土器集成図(2)	177
第96図	遺構外出土石鏃(9)	145	第117図	土器集成図(3)	178
第97図	遺構外出土石鏃(10)	146	第118図	円筒式土器・大木式土器	
第98図	遺構外出土石鏃(11)・石槍(1)	147		出土主要遺跡	179
第99図	遺構外出土石槍(2)	149			

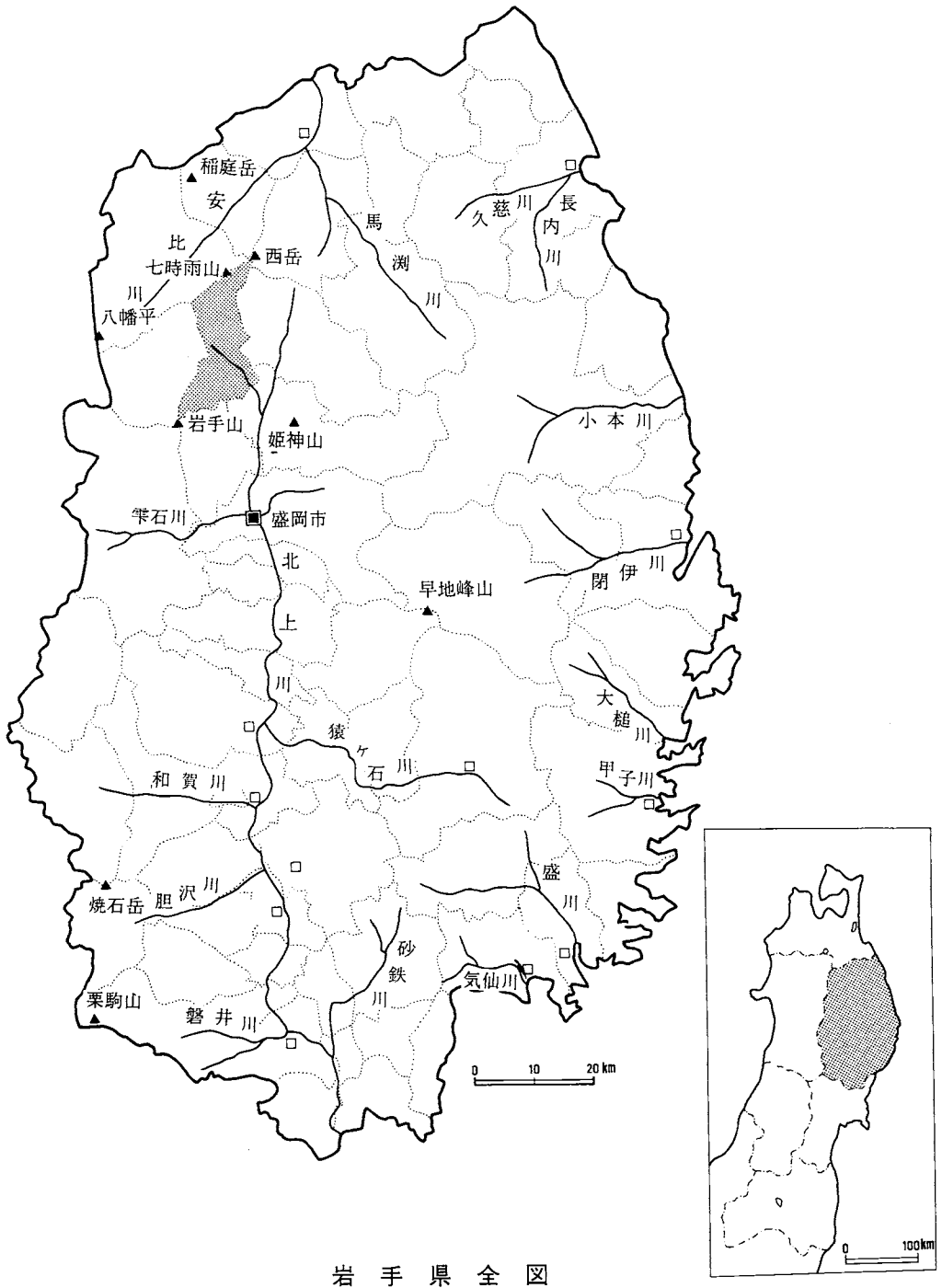
## 写真図版

写真図版 1	遺跡の遠景と完掘状況	187	写真図版 8	第 8・9号住居跡	194
写真図版 2	第 1号住居跡	188	写真図版 9	第 9・10号住居跡	195
写真図版 3	第 2号住居跡	189	写真図版10	第11・13号住居跡	196
写真図版 4	第 3号住居跡	190	写真図版11	第12・14・16号住居跡	197
写真図版 5	第 3号住居跡・炉跡、 第 4号住居跡	191	写真図版12	第15・18号住居跡	198
写真図版 6	第 5・6号住居跡	192	写真図版13	第14・17号住居跡、 土器埋設遺構	199
写真図版 7	第 7号住居跡	193	写真図版14	第19号住居跡	200

写真図版15	第1～4号土坑	201
写真図版16	第2～8号土坑	202
写真図版17	第9～14号土坑	203
写真図版18	第15～18号土坑	204
写真図版19	第19～22号土坑	205
写真図版20	第23～25号土坑、第1号炉跡	206
写真図版21	溝跡(北端部平坦面)	207
写真図版22	溝跡・その他	208
写真図版23	溝跡	209
写真図版24	溝跡	210
写真図版25	溝跡	211
写真図版26	第1・2・3号住居跡 出土遺物	212
写真図版27	第4号住居跡出土遺物	213
写真図版28	第4・8～10号住居跡 出土遺物	214
写真図版29	第1・2・3・10・15号 住居跡出土遺物	215
写真図版30	第4・5・7・8～10号 住居跡出土遺物	216
写真図版31	第11～19号住居跡 出土遺物	217
写真図版32	第1～3・5・8号土坑 出土遺物	218
写真図版33	第8・12・14・17号土坑 出土遺物	219
写真図版34	第17・18号土坑出土遺物	220
写真図版35	第18号土坑出土遺物(1)	221
写真図版36	第18号土坑出土遺物(2)、 土器埋設遺構	222
写真図版37	第1～17号土坑出土遺物	223

写真図版38	第19～21号土坑、4F区・ 第1号炉跡、遺構外出土遺物	224
写真図版39	第1号住居跡出土遺物(1)	225
写真図版40	第1号住居跡出土遺物(2)	226
写真図版41	第2号住居跡出土遺物(1)	227
写真図版42	第2号住居跡出土遺物(2)	228
写真図版43	第3号住居跡出土遺物(1)	229
写真図版44	第3号住居跡出土遺物(2)	230
写真図版45	第3号住居跡出土遺物(3)	231
写真図版46	第4号住居跡出土遺物(1)	232
写真図版47	第4号住居跡出土遺物(2)	233
写真図版48	第5・7・8号住居跡 出土遺物	234
写真図版49	第8・10号住居跡、 第1・3号土坑出土遺物	235
写真図版50	第6～17号土坑出土遺物	236
写真図版51	第17～20号土坑出土遺物	237
写真図版52	遺構外出土土器(1)	238
写真図版53	遺構外出土土器(2)	239
写真図版54	遺構外出土土器(3)	240
写真図版55	遺構外出土土器(4)	241
写真図版56	遺構外出土土器(5)	242
写真図版57	遺構外出土土器(6)	243
写真図版58	遺構外出土土器(7)	244
写真図版59	遺構外出土土器(8)	245
写真図版60	遺構外出土土器(9)	246
写真図版61	遺構外出土土器(10)	247
写真図版62	遺構外出土土器(11)	248
写真図版63	遺構外出土土器(12)	249
写真図版64	遺構外出土土器(13)	250
写真図版65	遺構外出土土器(14)	251

写真図版66	遺構外出土器(15) ……………	252	写真図版77	遺構外出土石匙(1) ……………	263
写真図版67	遺構外出土石鏃(1) ……………	253	写真図版78	遺構外出土石匙(2)他 ……………	264
写真図版68	遺構外出土石鏃(2) ……………	254	写真図版79	遺構外出土石筥他 ……………	265
写真図版69	遺構外出土石鏃(3) ……………	255	写真図版80	遺構外出土石筥・楔形石器・ 削器(1) ……………	266
写真図版70	遺構外出土石鏃(4) ……………	256	写真図版81	遺構外出土削器(2)・搔器 ……	267
写真図版71	遺構外出土石鏃(5) ……………	257	写真図版82	遺構外出土石斧 ……………	268
写真図版72	遺構外出土石鏃(6) ……………	258	写真図版83	遺構外出土不定形石器 ……	269
写真図版73	遺構外出土石鏃(7) ……………	259	写真図版84	遺構外出土礫器 ……………	270
写真図版74	遺構外出土石鏃(8)・ 石槍(1) ……………	260	写真図版85	遺構外出土石製品および土製品 ……………	271
写真図版75	遺構外出土石槍(2) ……………	261	写真図版86	遺構外出土土製品他 ……………	272
写真図版76	遺構外出土石槍(3)・石錐 ……	262			



岩手県全図



## I 調査に至る経過

西根町寺田西部地区における土地改良総合整備事業は、暗渠排水、農道、ほ場整備を行い、農業経営の安定と向上を目的に昭和54年度から着工され、平成4年度に完工の予定である。このうち、調査にかかる西根町荒木田地内の幹線2号は、総延長1,820m、幅員5mであり、昭和62年度に着手し、平成2年度に完了の予定である。

これに関連する埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、岩手県教育委員会が昭和55年から遺跡の分布調査を行っており、岩手県農政部と協議が重ねられ、止むを得ず消滅する遺跡については事前の発掘調査を実施することとした。

周知の遺跡である間館I遺跡は、昭和63年9月9日付け「教文32号」による県教育委員会文化課長から岩手北部土地改良事業所長あての「昭和64年度における埋蔵文化財関連土木工事等の調査について」照会し、昭和63年9月29日付け「農企号外」による回答をうけて現地確認が行われた。さらに、これをもとに両者で協議が行われ、昭和64年度に発掘調査を実施することとし、県教育委員会は調整のうえ、岩手県文化振興事業団の受託事業とした。

これにより、当埋蔵文化財センターは平成元年4月1日付け委託契約にもとづき調査に着手することとなった。

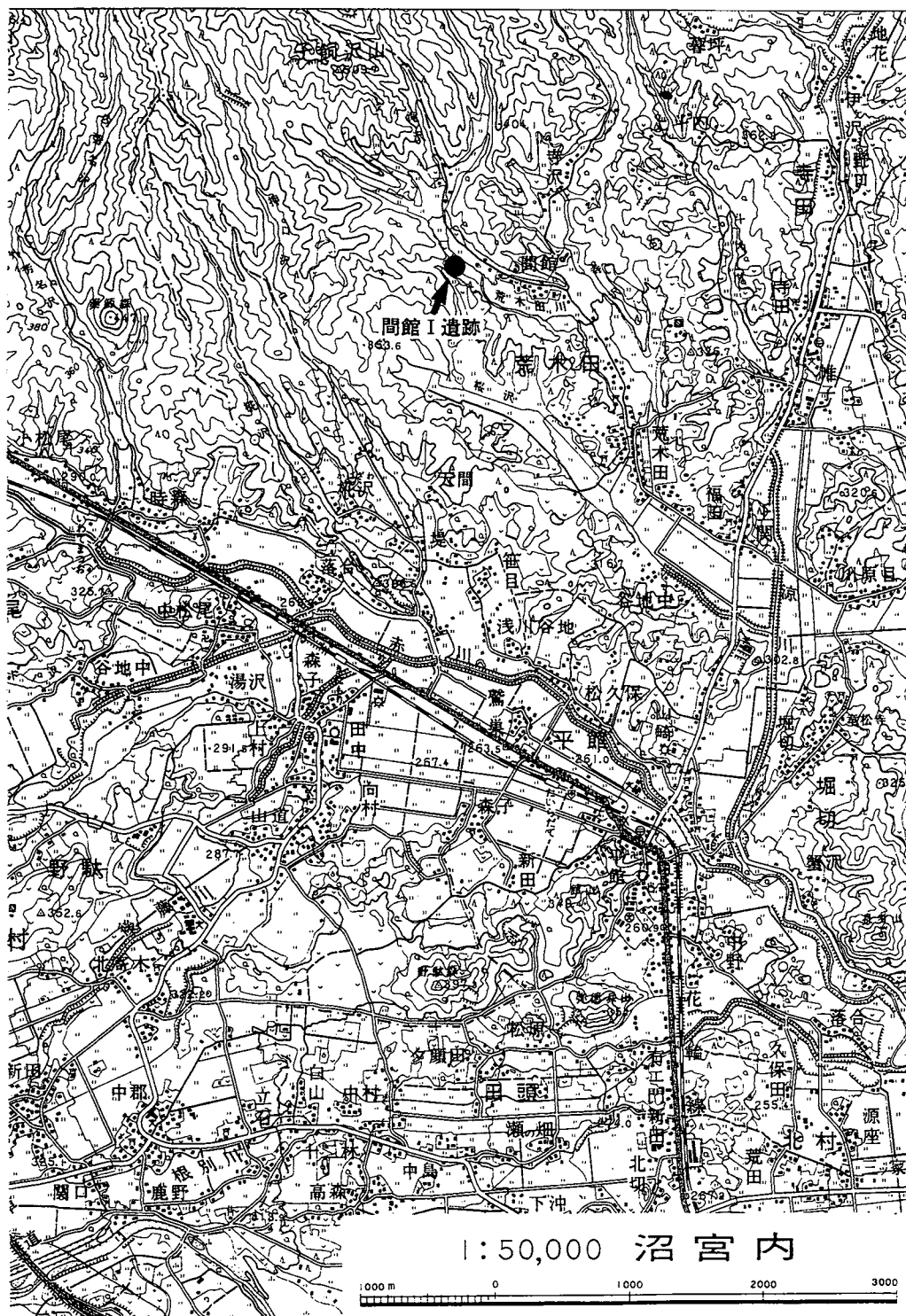
## II 遺跡の位置と地形

### 1 位置

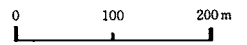
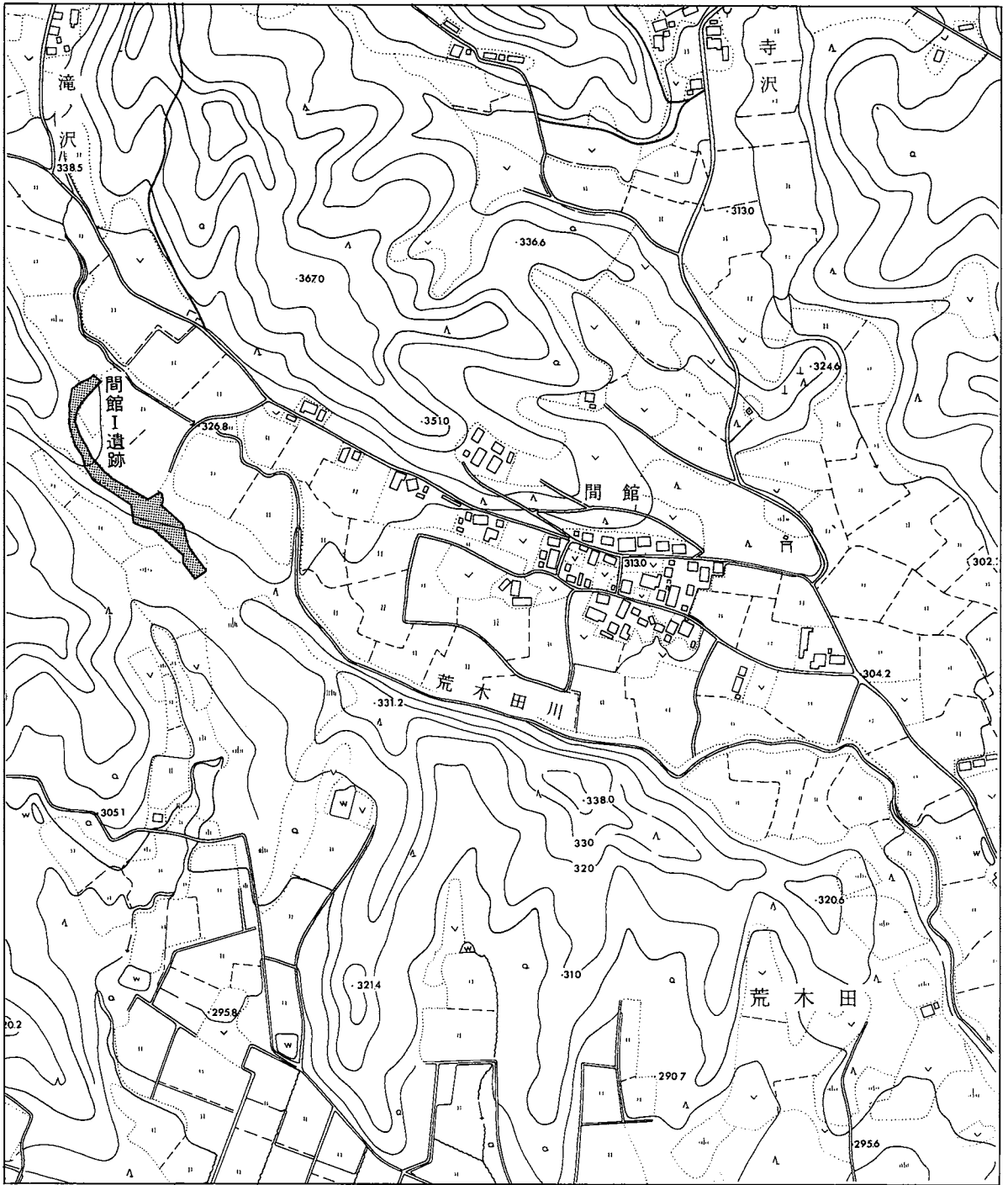
本遺跡は、岩手郡西根町荒木田第3地割28ほかに所在する。東日本旅客鉄道花輪線平館駅の北約4km付近に位置し、荒木田川の南岸の丘陵地に立地している。西根町は、東が岩手町、南が玉山村・滝沢村、西が松尾村、北が安代町・浄法寺町・一戸町と隣接する人口約19,000人の町である。

### 2 地形

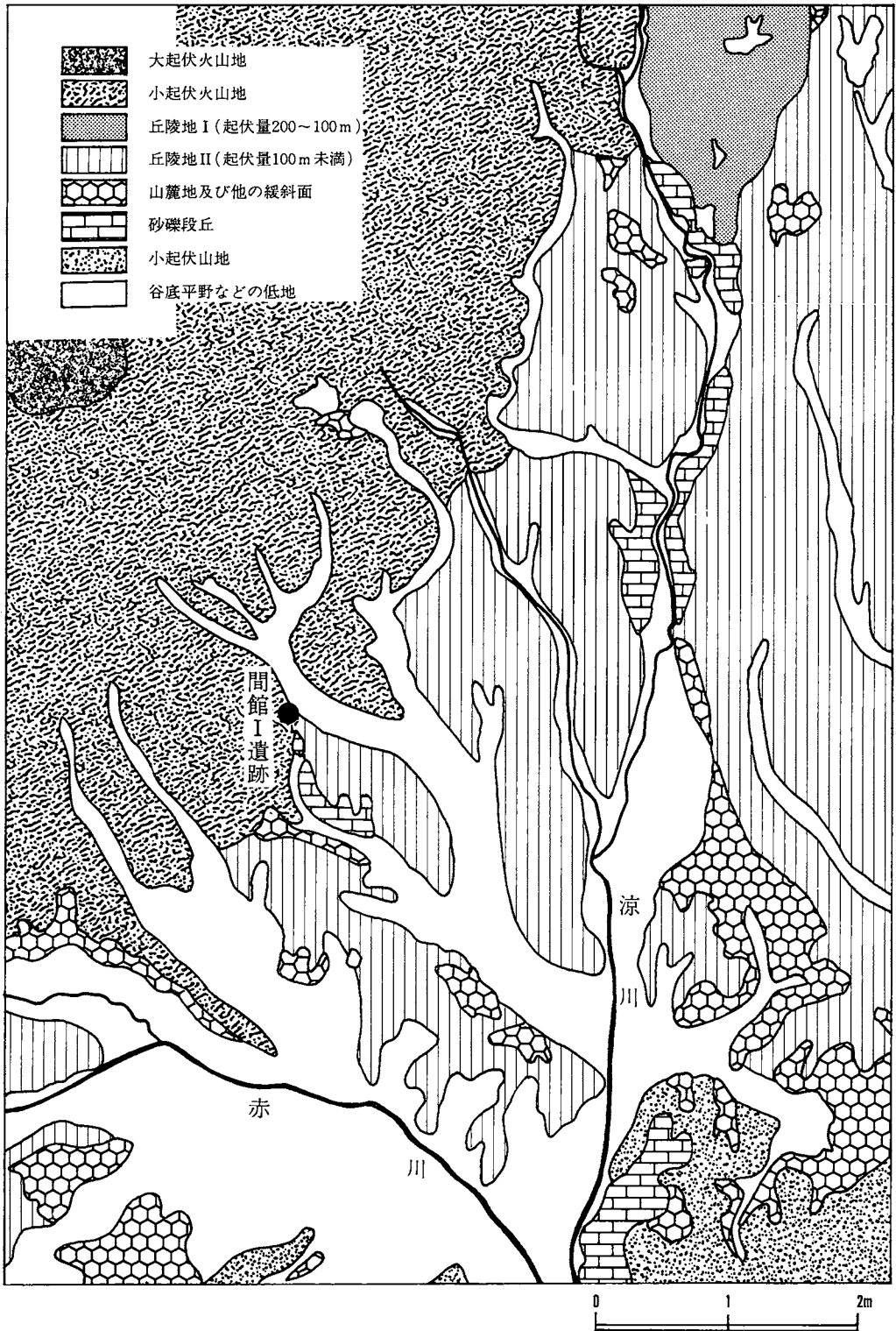
西根町は、東が北上川流域を挟んで北上山系が連なり、南・西・北を奥羽山系（東日本火山帯）に属する岩手山（2,041m）、八幡平（1,614m）、御月山（954m）、七時雨山（1,060m）、西岳（1,018m）に囲まれている。これらの北西・北部縁辺には東流・南東流する荒木田川、斗内川、暮坪川、涼川の小河川があり、小起伏の丘陵地及び段丘を形成している。西・南西・南部より東流する長川、赤川、松川の小河川は河岸段丘と氾濫原（谷底平野）を形成している。これら小河川の開折作用により取り残された送仙山（472m）、白屋山（428m）、丹谷山（392m）、野駄森（397m）等の孤立山体がある。



第1図 間館I遺跡位置図



第2図 遺跡と周囲の地形図



第3図地形分類図

遺跡は荒木田川南岸の丘陵地（一部山地）に立地している。この遺跡周辺の地形は、御月山の南東に荒木田山（807.5m）、上の山（586.4m）、子飼沢山（509.7m）とそれらから流れ下る滝の沢と小曲沢の合流した荒木田川よりなっている。これら火山性小起伏山地と丘陵の境界部に間館Ⅰ遺跡がある。調査区域の標高は320～343m、河川との比高は6m前後である。現況は、畑・山林・道路である。北部山地暖斜面の南西に続く平場を少し下った所に湧水がある。周辺には間館Ⅱ・荒木田Ⅰ～Ⅳ・寺沢Ⅰ～Ⅶ・上斗内Ⅰ～Ⅴ遺跡、荒木田館跡等がある。

### 3 基本層序

調査区内は起伏に富んでおり、東南部の急斜面から北西部の暖斜面に続く鰻の寝床状の範囲で、土層も一様でない。特に斜面においては再推積層が認められる。観察、記録した地点は北西部山地暖斜面裾近くの丘陵部（3F区）であるが、他地点の状況も含めた層序は次のとおりである。

- |        |                 |                                |  |
|--------|-----------------|--------------------------------|--|
| I層     | 黒色土（10Y R2/1）   | 現表土である。表面はバサバサしている。層厚10cm前後。   |  |
| II層    | 黒褐色土（10Y R2/2）  | 粘性・締まり弱い。遺物の含まれる層である。層厚15cm前後。 |  |
| III a層 | 暗褐色土（10Y R3/3）  | 浮石小粒・礫を含む。粘性・締まりあり、層厚7cm前後。    |  |
| III b層 | 暗褐色土（10Y R3/4）  | 浮石小粒・礫を多く含み、粘性・締まり弱い。層厚17cm前後。 |  |
| IV層    | 褐色土（10Y R4/6）   | 浮石小粒・礫（凝灰岩質）を含む砂質層。層厚25cm前後。   |  |
| V層     | 明黄褐色土（10Y R6/6） | 浮石小粒・礫を含み、締まりあり。層厚1m以上。        |  |

なお、縄文時代の遺構の埋土において火山灰が検出されている。この火山灰の降下時期と供給源については、付篇の鑑定結果を得ているが、明確な形で特定されている訳ではない。遺構の埋土の上部に位置することや当地方の遺構の特に古代のものが地表に凹地として確認されることから古代において、縄文時代の遺構が埋没し切らない段階に火山灰が降下し、凹地に集積した火山灰である可能性が考えられる。

#### 4 周辺の遺跡

西根町内の時代別・種類別の遺跡については、次のように分類されている。

集落・遺物散布地				城館跡	屋敷跡	寺院跡	古墳	墓と塚	一里塚 道標	渡し場	合計
縄文	弥生	古代	不明								
53	2	68	7	12	1	2	1	4	4	2	156

また、周辺の遺跡では72遺跡があげられ、次のように分類される。

縄文時代		古 代		縄文時代～古代		古 墳	館 跡 櫓 跡	その他	合計
集落	散布地	集 落	散布地	集 落	散布地				
8	19	3	16	6	5	2	10	3	72

町北部の遺跡の半分以上が間館 I 遺跡周辺の荒木田地区に分布している。町全域についても、荒木田・寺田地区に分布の偏りがある。間館 I 遺跡をはじめとして、縄文時代の遺跡は標高300m以上の地域に分布し、それ以降の時代のもは標高の低い地域に分布している。

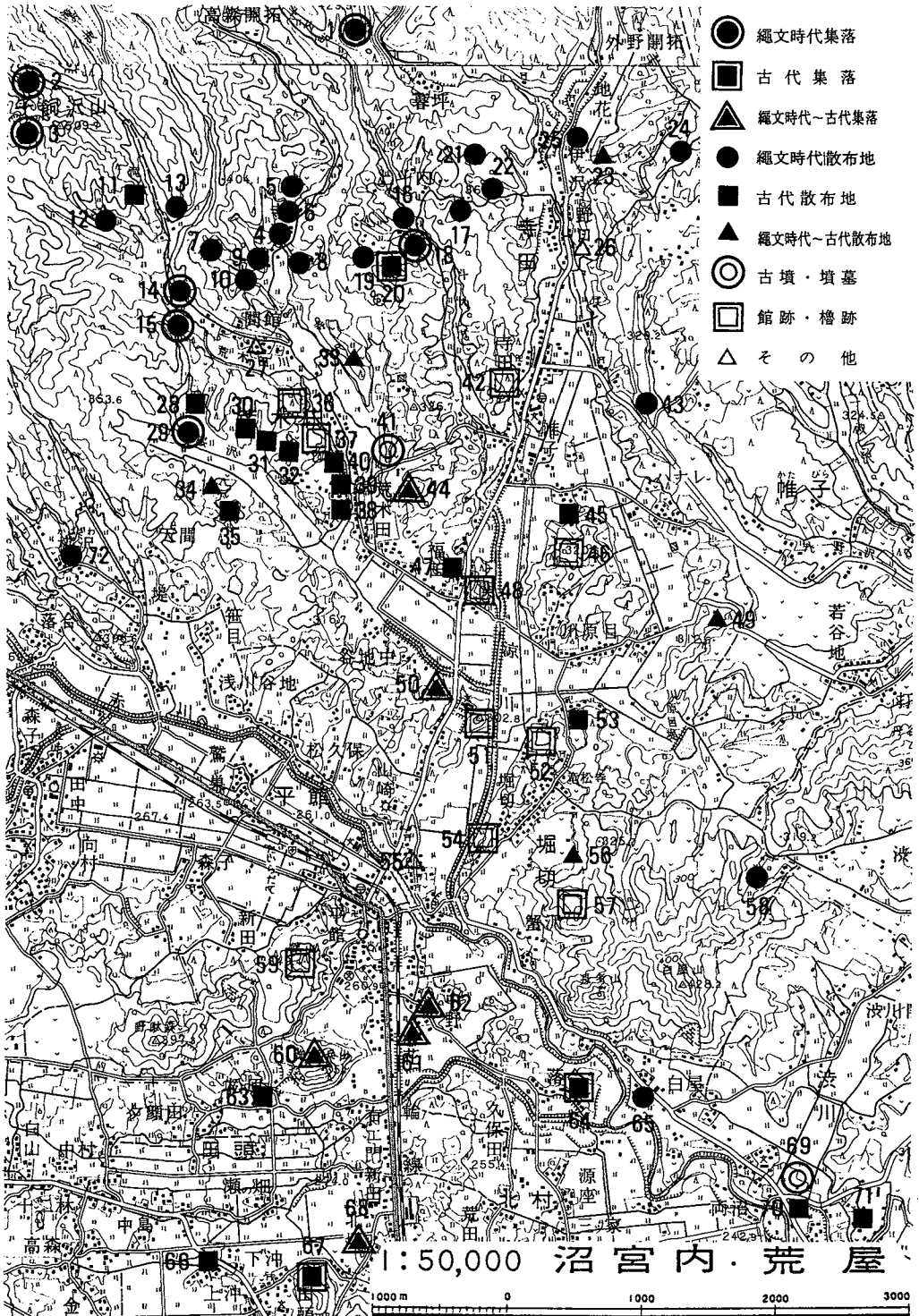
これまでに発掘調査が行われた遺跡は、昭和35年の谷助平古墳や、近年昭和58年以降に行った上斗内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡、荒木田Ⅱ遺跡、野口Ⅰ・Ⅱ遺跡がある。これらの遺跡から、縄文時代前期・後期・晩期、弥生時代、古墳時代、奈良時代の遺構が検出され、縄文時代早期から奈良時代までの遺物が出土している。

周辺地域において、古墳及び館跡の場合のように地表より突出しているものは、その観察例が報告されているのは当然であるが、竪穴住居跡と思われるものとして地表の窪みである竪穴群の報告例もある。前者には荒木田九ツ森古墳群、後者には寺田林暮坪竪穴群、子飼沢竪穴群などがある。

#### 《引用・参考文献》

- 岩手県企画開発室(1975)：『土地分類基本調査』沼宮内  
 片方宗明・光井文行(1985)：『荒木田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(勸岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第92集  
 高橋昭治(1975)：『北上川上流地域の考古学資料』北進考古学資料室  
 高橋興右衛門・大原一則(1984)：『上斗内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財センター埋蔵文化財調査報告書第71集  
 玉川英喜・中川重紀(1988)：『野口Ⅰ遺跡発掘調査報告書』(勸岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第128集  
 西根町史編纂委員会(1986)：『西根町史』上巻  
 平井進・中村良一(1989)：『野口Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(勸岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第144集





第4図 周辺の遺跡位置図

## 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	所在地	番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	所在地
1	暮坪高地集落	集落跡	縄文土器(中期) 木炭	寺田暮坪	37	荒木田櫓跡	櫓跡		荒木田
2	滝ノ沢	散布地	縄文土器(中期)	荒木田間館	38	堂後Ⅰ	散布地	縄文土器(中期) ・須恵器	荒木田第3地割
3	子飼沢山高地集落	集落地	縄文土器(中期)	荒木田間館	39	堂後Ⅱ	散布地	土師器	荒木田4-5-2
4	寺沢Ⅰ	集落跡	縄文土器(晩期)	荒木田第1地割寺沢	40	堂後Ⅲ	散布地	土師器	荒木田
5	寺沢Ⅱ	集落跡	縄文土器(晩期)	荒木田1	41	九ツ森	墳墓		荒木田第7地割
6	寺沢Ⅲ	散布地	縄文土器	荒木田1-61	42	寺田館跡	館跡		寺田
7	寺沢Ⅳ	散布地	縄文土器	荒木田2-79	43	寺田	散布地	縄文土器(早期) ・尖底土器	寺田第8地割
8	寺沢Ⅴ	散布地	縄文土器	荒木田1-60	44	福田	集落跡	縄文土器・土師器	荒木田福田
9	寺沢Ⅵ	散布地	縄文土器(後期)	荒木田2-11-1	45	春宮田	散布地	土師器	帷子・春宮田
10	寺沢Ⅶ	散布地	縄文土器	荒木田2-82	46	赤間館	館跡		寺田
11	小曲沢Ⅰ	散布地	土師器	荒木田14	47	上関	散布地	土師器・須恵器	上関第4地割
12	小曲沢Ⅱ	散布地	縄文土器(後期)	荒木田14-59	48	上関館	館跡		寺田
13	長渡沢	散布地	縄文土器(晩期)	荒木田14-61-1	49	川原口湧口	散布地	縄文土器(後晩期) ・土師器	帷子・川原目
14	間館Ⅱ	集落跡	縄文土器(中期)	荒木田2-64-13	50	山崎野	集落跡		山崎・堀切
15	間館Ⅰ	集落跡	縄文土器(中期)	荒木田	51	向館	館跡		山崎
16	上斗内Ⅰ	散布地	縄文土器	寺田上斗内	52	堀切館	館跡		堀切
17	上斗内Ⅱ	散布地	縄文土器	寺田暮坪・上斗内	53	川原口向い	散布地	土師器・須恵器	帷子・川原目
18	上斗内Ⅲ	集落跡	縄文土器	寺田暮坪・上斗内	54	堀切えぞ館	館跡	縄文土器	平館・堀切
19	上斗内Ⅳ	散布地	縄文土器	寺田暮坪・上斗内	55	山崎一里塚	一里塚		平館第8地割堀切
20	上斗内Ⅴ	集落跡	縄文土器土師器	寺田暮坪・上斗内	56	稲荷	散布地	縄文土器(後晩期) ・土師器	平館第5地割堀切
21	寺田暮坪	散布地	縄文土器	寺田暮坪・野口	57	稲荷山館	館跡		蟹沢
22	野口Ⅰ	散布地	縄文土器	寺田暮坪・野口	58	堀切	散布地	縄文土器(晩期)	平館堀切
23	野口Ⅱ	散布地	縄文土器・土師器	寺田暮坪・野口	59	平館	館跡		平館
24	野口Ⅲ	散布地	縄文土器	寺田・野口	60	大久保	集落跡	縄文土器・土師器	平館大久保
25	蒼前	散布地	縄文土器(前期) フツ型	寺田・蒼前	61	東部落	集落跡	土器・弥生(?) ・土師器	平館東部落
26	野口五輪塔	祭祀跡		寺田・野口	62	東部落Ⅱ	集落跡	土器・弥生(?)	平館東部落
27	治左エ門屋敷跡	屋敷跡		荒木田	63	間羽松	散布地	土師器	田頭第3地割
28	桜沢Ⅰ	散布地	土師器	荒木田4	64	落合	集落跡	土師器	平館落合
29	桜沢Ⅱ	集落跡	縄文土器 (前期～後期)	荒木田3	65	白屋	散布地	縄文土器	大更白屋
30	桜沢Ⅲ	散布地	土師器	荒木田14	66	館腰Ⅰ	散布地	土師器	田頭第26地割
31	桜沢Ⅳ	散布地	土師器	荒木田14	67	谷田森	集落跡	土師器	田頭館腰
32	荒木田Ⅰ	散布地	土師器	荒木田	68	北切	集落跡	縄文土器・土師器	大更北切
33	荒木田Ⅱ	散布地	縄文土器・土師器	荒木田	69	谷助平古墳	古墳	須恵器・土師器・直刀 鉄鏃・鉄輪・埴玉	大更洪川
34	荒木田Ⅲ	散布地	土器	荒木田	70	洪川えぞ館	散布地	土師器	大更洪川
35	荒木田Ⅳ	散布地	土師器	荒木田	71	洪川	散布地	土師器	大更洪川
36	荒木田館	館跡		荒木田	72	靴沢	散布地	縄文土器	平館靴沢

### III 調査の方法と室内整理

#### 1 野外調査

##### (1) 調査区の設定

調査グリッドの設定は調査範囲の広がる方向に基点を2点設けて行った。

各基点の成果は

基点1 X = -1906.789 Y = 21122.989 H = 333.07m

基点2 X = -1841.278 Y = 21001.786 H = 335.14mである。

基点2は農道建設に伴って設置されたI P13杭（路線北部の中心線を見通す杭）を用いた。基点2から建設路線北部の中心杭方向を10m毎に区画してA～Mを付し、基点2から基点1方向を10m毎に区画し1～27を付した。従ってグリッド名は2H、3Iのように呼称し、必要に応じて2m×2mの小区画名を付した。また区域内の位置を原点（NO・EO）からの1m×1mの小区画に基づいて呼称する形も併用した。なお基点1は20E1a区のN41・E190、基点2は3F1a区のN50・E20となる。北方向の座標軸線は真北にたいして41°東に偏している。

##### (2) 粗掘りと遺構検出

調査対象区は、大きく東端の丘陵裾、東端の斜面、中央の丘陵尾根、北端の山地緩斜面、北端の丘陵尾根平坦面、北端川原部に分けられる。北端平坦面から北側の粗掘りは人力により、他は重機を利用して表土除去を行った。

なお、遺物の取り上げに際しては、出土位置を調査範囲と地形との関係で略称し、中央部はC、縁東部はE、西部はW、上部はU、下部はLと必要に応じて表示した。

また、検出された遺構にはその種別毎に通し番号を付し、1号住のように呼称した。

##### (3) 精査

精査は、住居跡・住居状遺構は4分法、土坑・落とし穴・ピット・焼土遺構は2分法を用いた。溝については5mまたは10m間隔でセクションベルトを残して精査した。

##### (4) 記録

遺構の実測図は、住居跡などは平面・断面ともに20分の1縮尺で、溝跡の平面は40分の1、断面は20分の1で作成した。

写真撮影は、6×7のモノクロ、35mm版のモノクロ、カラーリバーサルの3種によった。

土層の区分は、基本層序の場合ローマ数字で上位からI、II…とし、細分される場合はa、b…を付した。遺構の埋土は、上位からアラビア数字で表示した。土層の色調は「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）によった。

## 2 室内整理

資料の整理は通常の手順によって行い、報告書の作成にあたった。

報告書の記述のうち、遺構は本文、図版、写真図版ともに種類別に掲載した。

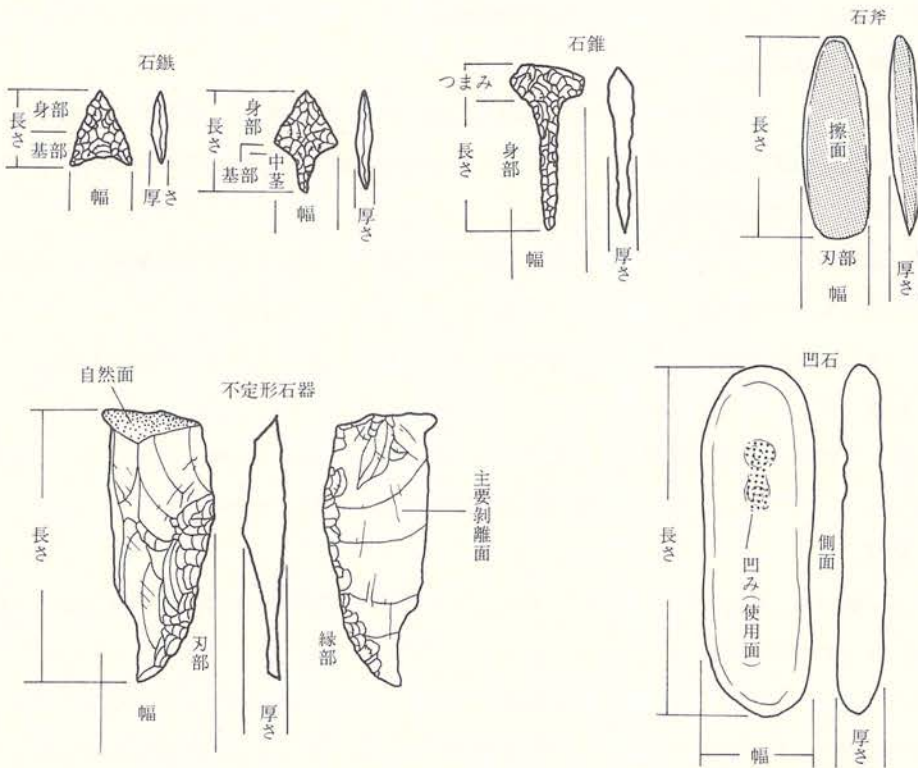
遺物は遺構内外や種類に関係なく、掲載順に1からの通し番号を付し、図版に掲載した遺物の番号もそれに対応させた。

遺構縮尺は40分の1と60分の1を原則として表示した。

図版は3分の2、2の1、3分の1、任意の縮尺である。写真図版の縮尺は3分の2、2分の1、3分の1、4分の1を原則とし、一部は原寸大、他は縮尺率を表示した。

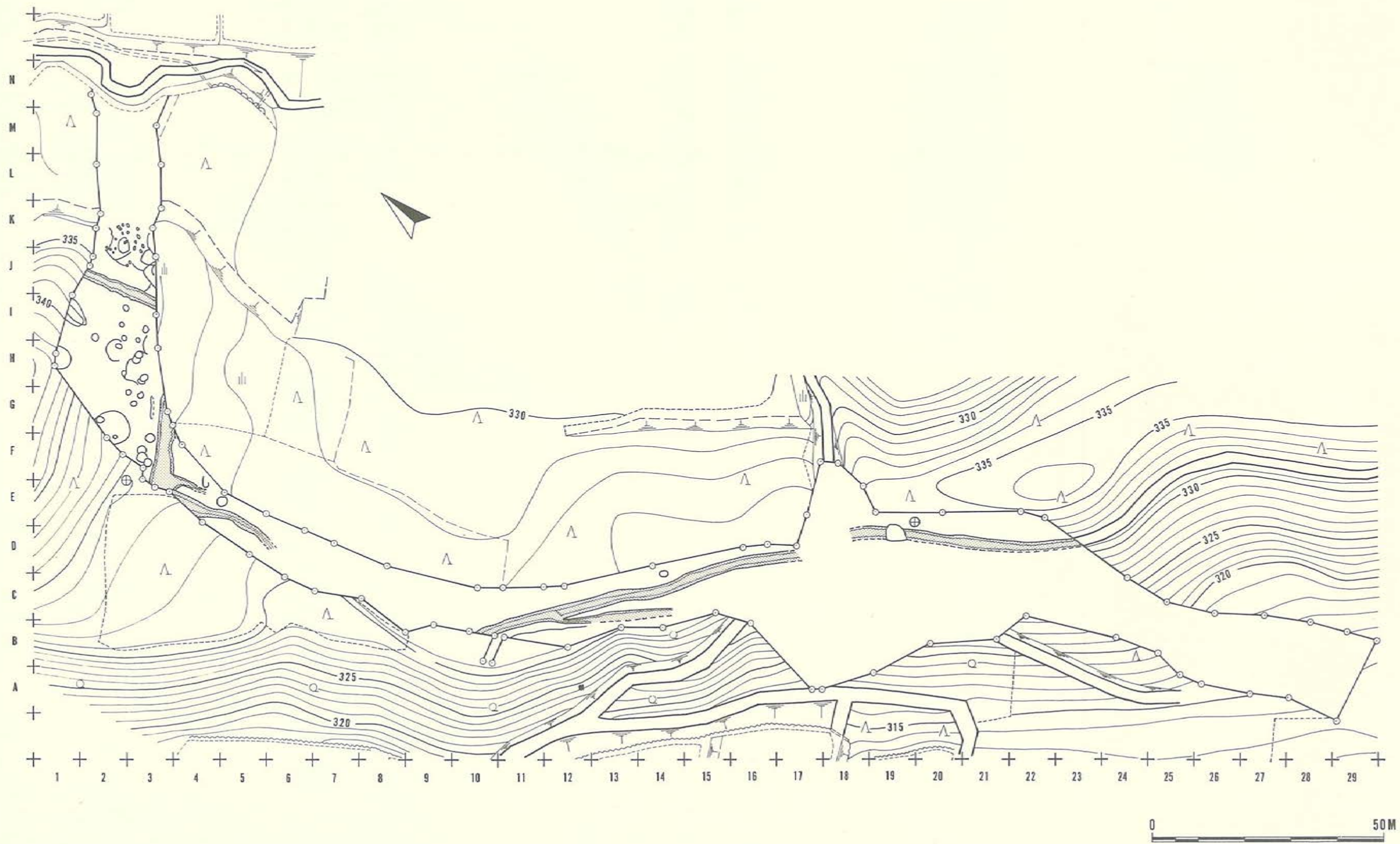
石器の一覧表において長さ・幅・厚さの単位はmmであり、重さの単位はgである。

なお、遺物については、中世から近世にかけての遺構から出土した縄文時代の遺物のように時期関係が明らかな場合において遺構外の扱いをした。

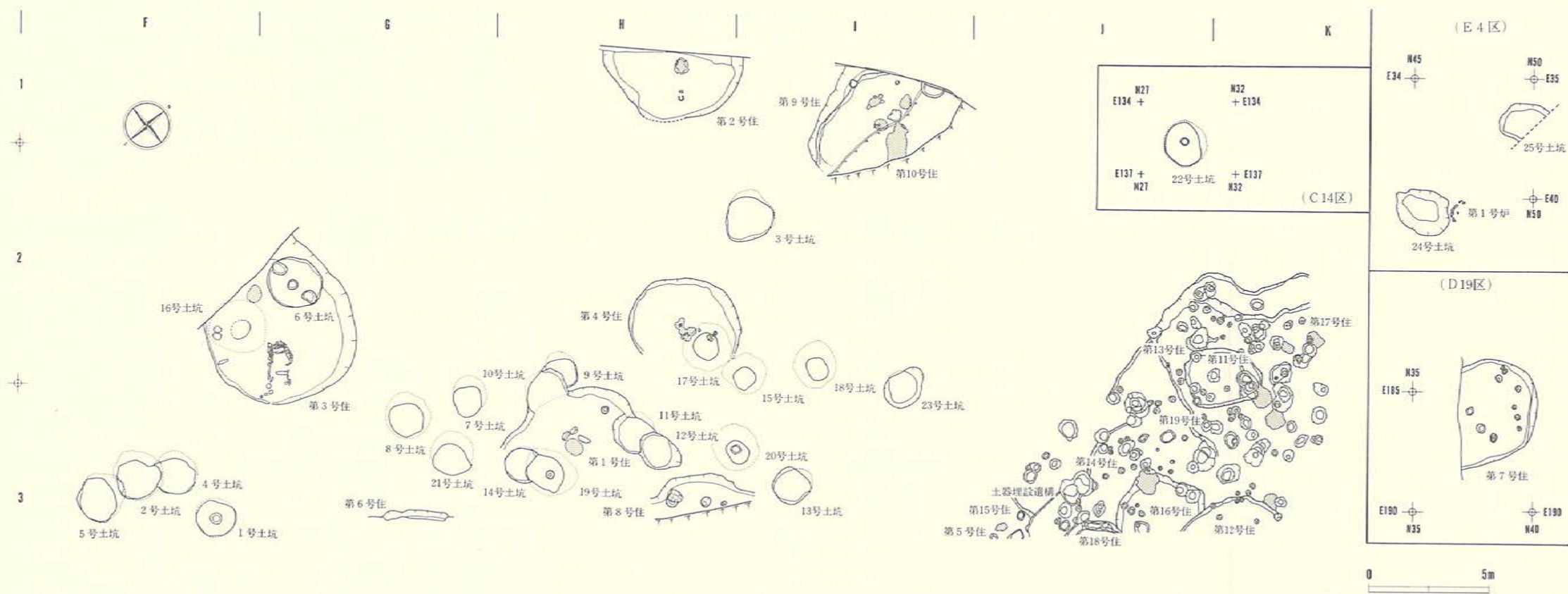


石器実測図凡例





第5図 問館I遺跡グリッド配置図



第6图 間館 I 遺跡遺構配置図 (住居跡・土坑)



## IV 検出された遺構と遺構内の遺物

### 1 竪穴住居跡

#### 第1号住居跡

〈遺構〉(第7図、写真図版2)

3H区の北側斜面際に位置する。表土を除去して黒色土が半月状に検出され、遺物が多量に出土したことから住居跡と確認された。住居跡の西側に第9・10号土坑、北側に第11・12号土坑、南東側に第14・19号土坑がそれぞれ重複しているが、いずれも住居跡より古い土坑である。

平面形は、斜面の東側が削平をうけて5分の3を残存するのみであるが、南北にやや広がる楕円形を呈する。推定される規模は5.5×4.0m、残存面積は17.1㎡である。

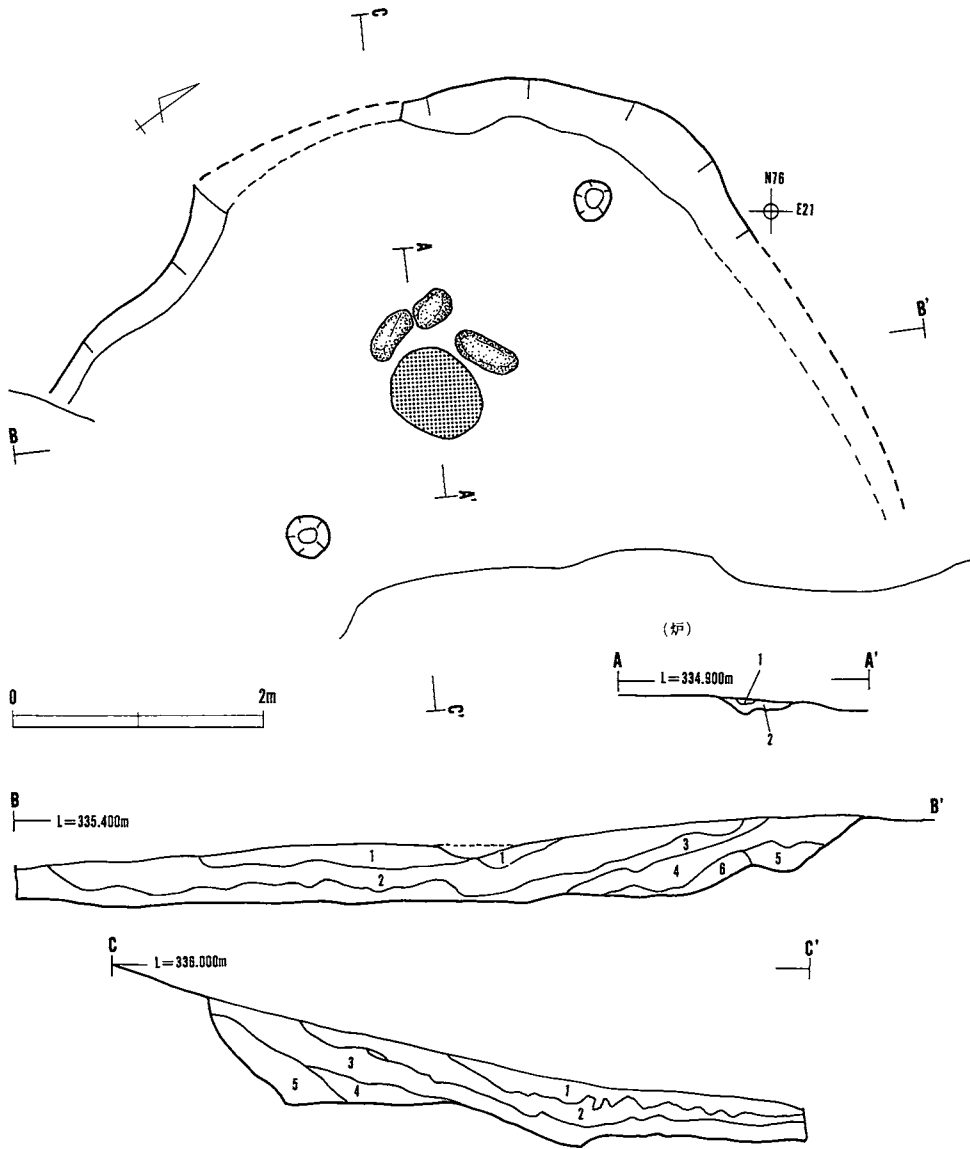
壁は北壁を除いて不明であり、南東側は削平をうけている。床面は東側に幾分傾斜しているが、床面に貼床の痕跡は認められない。柱穴は北壁付近に深さ50cm、直径10cm程の空洞状をした小穴が確認されたのみである。炉跡は数個の石が配列され、やや離れて焼土が認められたことから、石囲い炉と考えられる。

埋土は壁際を除いて単純な層相を呈する。埋土の上層からは縄文時代前期と中期中葉の土器、下層からは中期初頭以降の土器がみられる。遺構の時期は中期初頭以降と考えられる。

〈遺物〉(第8・9・10図、写真図版26・29・39・40)

**土器** 1、2は胴部最大径を上半にもち、単節斜縄文が施文された深鉢形土器である。2の口縁部は内湾ぎみに立ち上がり、口唇部にいたって外傾している。3は口唇部付近でやや外反する口縁部をもち、単節斜行縄文が施文された深鉢形土器である。4は波状口縁を呈し、単節斜行縄文が施文された小型の深鉢形土器である。口唇部には隆沈線による渦巻文が施されている。5は波状口縁を呈し、結束羽状縄文が施文された深鉢形土器である。6は口縁部文様帯に撚紐の圧痕が施文された隆帯・直線文・爪形文によって構成されている。地文は単節斜行縄文と垂下する波状貼付文が施された深鉢形土器である。

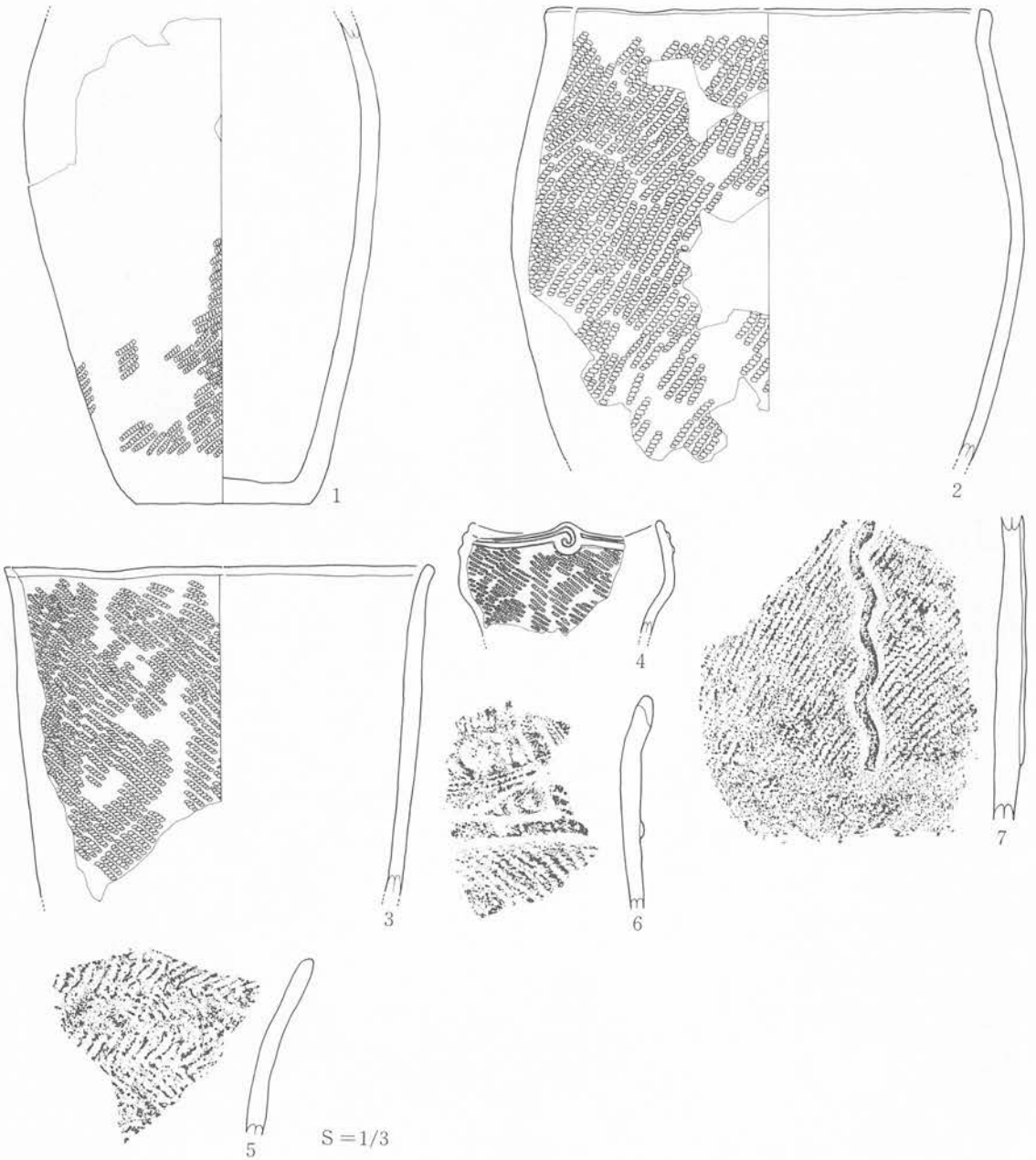
**石器** 不定形石器6点、半偏平状打製石器1点、石棒2点があり、石棒1点は磨製である。そのほか、石鏃、石匙数点が中位以上の埋土から出土している。



- |    |          |      |                       |
|----|----------|------|-----------------------|
| 1層 | 7.5YR2/1 | 黒色土  | 粘性・縮まりなし、少量の土器を含む。    |
| 2層 | 10YR 3/2 | 黒褐色土 | 粘性・縮まりあり、遺物を含む        |
| 3層 | 10YR4/4  | 褐色土  | 粘性・縮まりあり、遺物・少量の浮石を含む  |
| 4層 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土 | 粘性・縮まりあり、小円礫を微量含む     |
| 5層 | 7.5YR4/4 | 褐色土  | 粘性・縮まりあり、地山質ブロックを少量含む |
| 6層 | 10YR3/4  | 暗褐色土 | 粘性・縮まりあり、焼土を多く含む      |

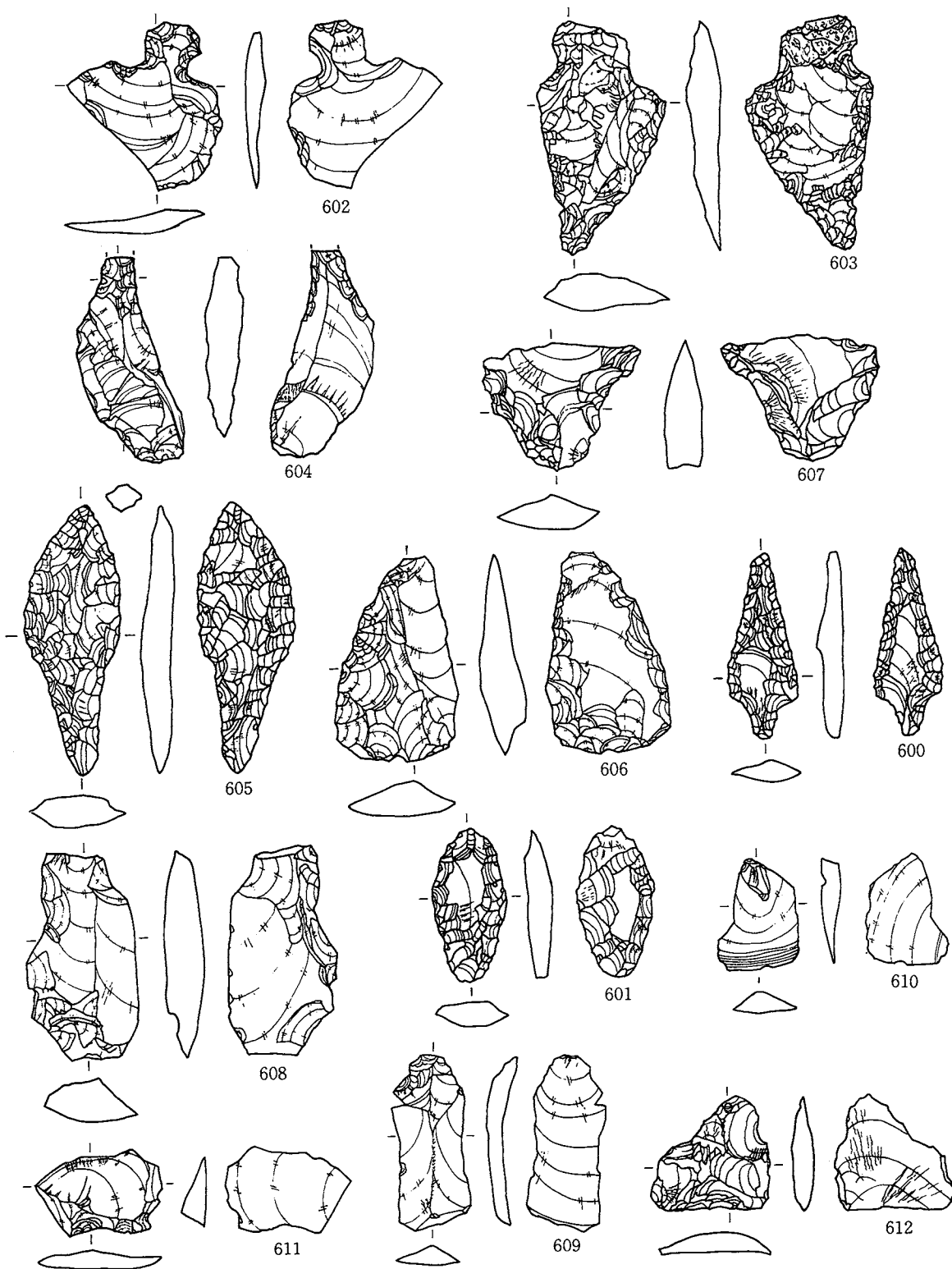
- (炉)
- |    |         |       |                       |
|----|---------|-------|-----------------------|
| 1層 | 5 YR3/3 | 暗赤褐色土 | 粘性・縮まりあり、焼土粒を多く含む(攪乱) |
| 2層 | 5 YR5/8 | 明赤褐色土 | 粘性・縮まりあり、地山が焼けている     |

第7図 第1号住居跡



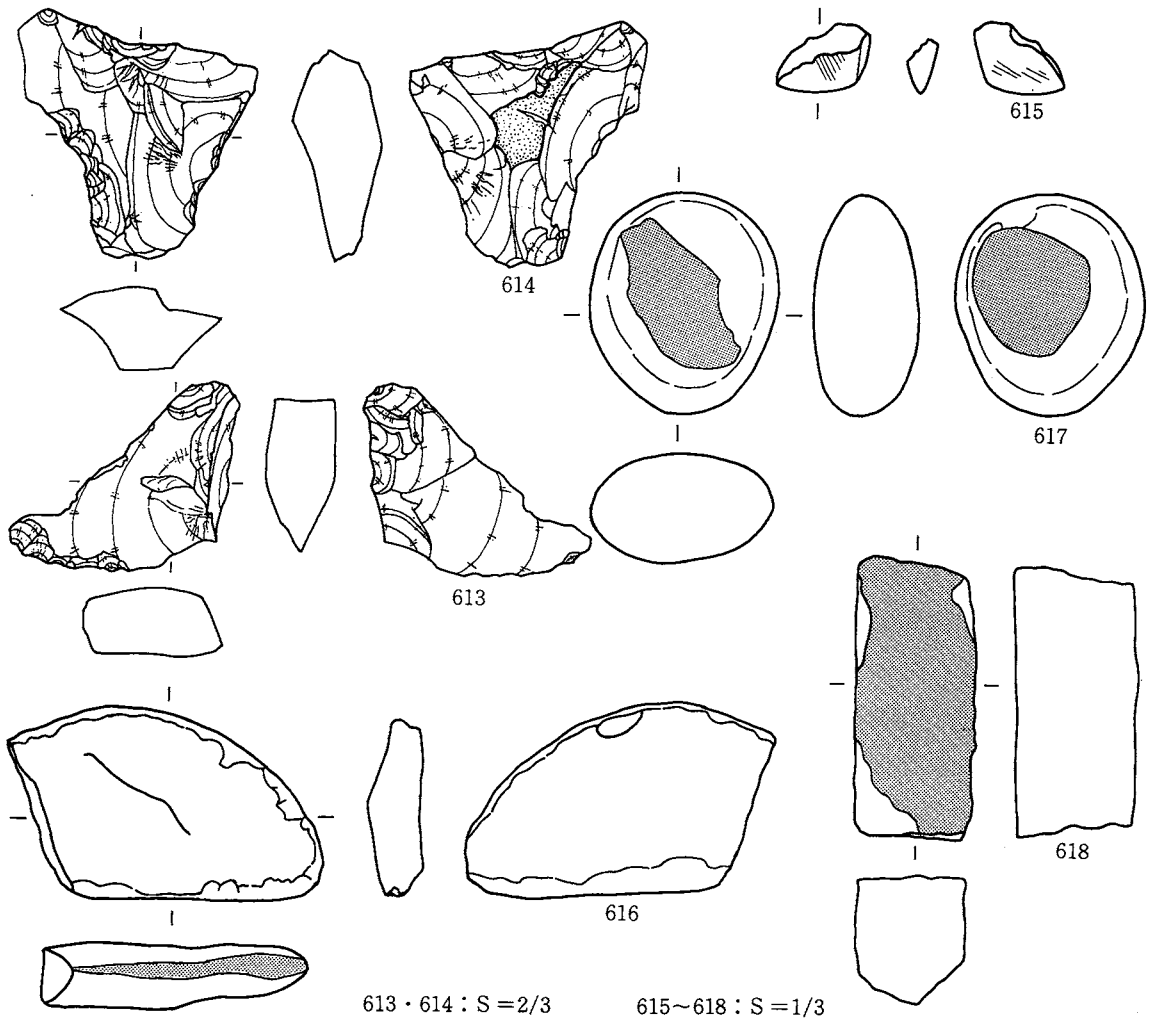
No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
1	1号住・ベルト最下部	深鉢	胸部	単節斜行縄文	ナデ	II群11類	26
2	1号住・ベルト最下部	深鉢	口縁部	単節斜行縄文	ナデ	II群11類	26
3	1号住・南壁際III層	深鉢	口縁部	単節斜行縄文	ナデ	II群11類	26
4	1号住・埋土	深鉢	口縁部	波状口縁、隆沈線、単節斜行縄文	ミガキ	II群8類b	26
5	1号住・埋土	深鉢	口縁部	波状口縁、結束羽状縄文、縦縞含	ナデ	I群6類	29
6	1号住・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕隆帯、爪形撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群2類a	29
7	1号住・埋土	深鉢	胸部上半	波状隆帯、単節斜行縄文	ナデ	II群8類a	29

第8図 第1号住居跡出土遺物(1)



S = 2/3

第9图 第1号住居迹出土遗物(2)



No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
600	石鏃	II 1 b	45	17	7	3.5	1号住 (Q 1) 埋土上部	チャート			39	211
601	石鏃	I 3	38	18	6	4.6	1号住 (Q 4) 埋土中部	珪質泥岩			39	213
602	石匙		41	38	5	5.6	1号住 (Q 1) 埋土中部	珪質泥岩	一部欠損		39	317
603	石匙		57	31	8	14.4	1号住 (W<) 埋土中位	チャート			39	526
604	石匙		50	26	9	8.6	1号住 (Q 1) 埋土上部	硬質泥岩	一部欠損		39	223
605	石槍	III	66	24	8	10.4	1号住 (Q 4) 埋土中部	珪質泥岩			39	214
606	石筥		50	30	11	13.2	1号住 (Q 1) 埋土中部	流紋岩			39	316
607	石鏃		31	39	9	8.5	1号住 (Q 4) 埋土下部	硬質泥岩			39	387
608	不定形石器 (一)		51	27	10	14.5	1号住 (Q 1) 埋土中部	硬質泥岩		未製品の	40	315
609	不定形石器 (一)		43	20	5	4.0	1号住 (Q 4) 埋土下部	硬質泥岩			40	318
610	不定形石器 (三)		27	20	5	1.9	1号住 (Q 4) 埋土下部	珪質泥岩			40	314
611	不定形石器 (一)		22	31	6	3.8	1号住 (Q 4) 埋土下部	硬質泥岩		挟入	40	313
612	不定形石器 (三)		28	29	6	4.3	1号住 (Q 4) 埋土下部	硬質泥岩			40	388
613	不定形石器 (一)		38	36	15	16.7	1号住 (Q 4) 埋土下部	硬質泥岩			40	312
614	不定形石器 (三)		50	48	17	30.3	1号住 (Q 4) 埋土下部	硬質泥岩			40	311
615	石斧		28	37	14	17.9	1号住 (Q 4) 暗褐色土	綠色細粒凝灰岩	一部欠損		40	474
616	半円状偏平打製石器		78	125	21	305.0	1号住 (Q 2) 埋土下部	両輝石安山岩	3/4残在	下側辺擦ってある	40	448
617	磨石		88	75	43	440.0	1号住 (Q 1) 埋土下部	両輝石安山岩			40	452
618	石棒 (磨)		103	49	50	460.0	1号住 (Q 3) 埋土下部	流紋岩			40	494
619	石棒		368	86	80	3000.0	1号住 (Q 3) 埋土下部	流紋岩		全体的に丸みを帯びる	40	493

第10図 第1号住居跡出土遺物(3)

## 第2号住居跡

〈遺構〉(第11図、写真図版3)

1 H区に位置し、調査区域外に続いている。斜面にかかるやや平坦な部分に降下火山灰の広がりが見出されたことから住居跡と確認された。重複する遺構は認められなかった。

平面形はほぼ円形になると思われ、調査区域外にも窪地が認められる。推定される規模は直径6 m程であり、面積は28m<sup>2</sup>である。

壁は北東側が流失しているが、残存する壁の最大高は49cmである。南壁は緩く傾斜している。床面は平坦で、中央部より東寄りに石囲い炉が位置する。焼土が厚く残存し、1個体の深鉢形土器が埋設されている。明瞭な柱穴は確認されなかった。

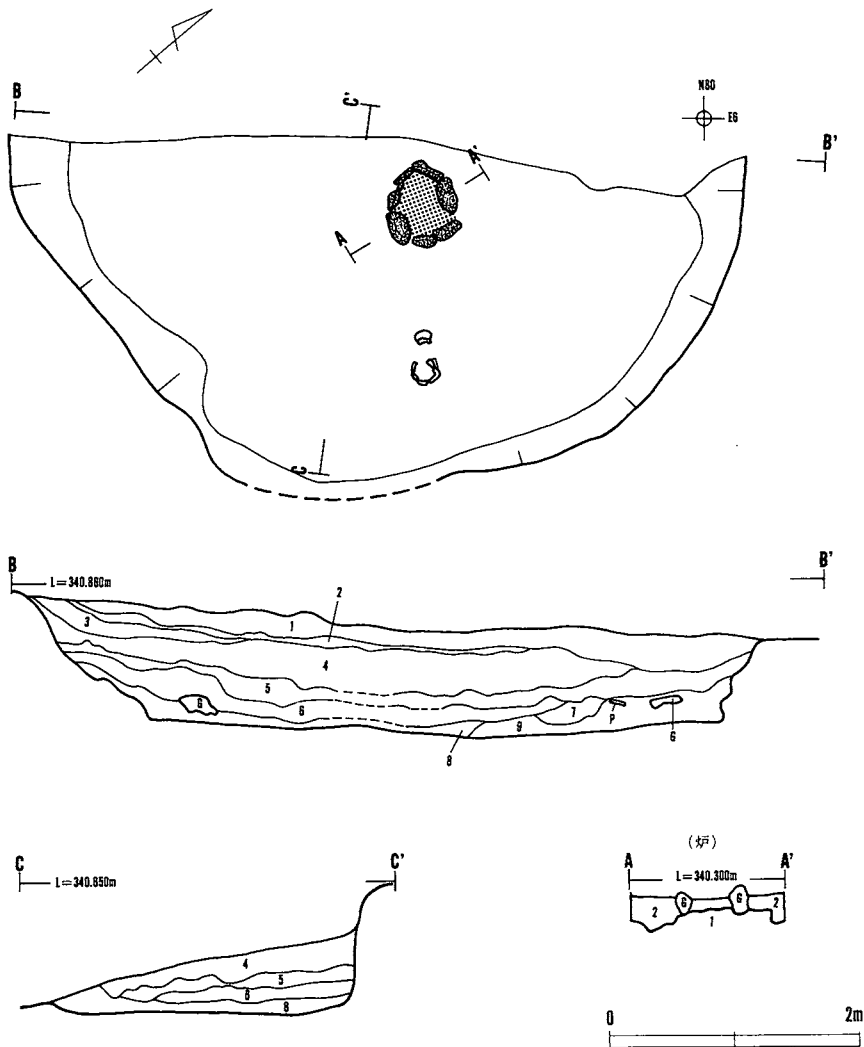
埋土は上部に降下火山灰がレンズ状に推積し、下部には炭化物の混入もみられる。全体に南西方向からの流入による推積が卓越している。

出土遺物から縄文時代中期初頭頃と考えられる。また、住居跡からやや離れた南東側にチップが多数出土しており、石器製作と関連する遺構である可能性もあげられる。

〈遺物〉(第11-14図、写真図版26・29・41・42)

**土器** 8は炉の埋設土器である。口縁部と胴部の文様帯が刺突の施された微隆帯によって区画されている。口縁部には隆帯とその間を埋めるように撚紐の側面圧痕が施文される。胴部上半は、単節斜行縄文と横位の撚糸文を分離して施文することによって文様帯を構成している。9は浅鉢形土器である。2個一對の山形突起を2カ所に持ち、大きな山形突起には円孔を有する。口縁部から底部にかけては、横位綾線文と単節斜行縄文が施文されている。10は浅鉢形土器である。口縁部文様帯には撚紐の圧痕、地文として単節斜行縄文、胴部上半には撚紐の弧状圧痕が施文されている。11は口縁部文様帯と胴部文様帯が区画された小型の深鉢形土器である。口縁部文様帯には、細い粘土紐貼付と沈線を併用し、粘土紐上には交互の刺突が加えられている。胴部文様帯は、単節斜行縄文を地文として垂下する粘土紐と沈線が施されている。12は小型の深鉢形土器である。文様帯は小型の深鉢形土器である。文様帯は口縁部に集中し、撚紐による圧痕文、胴部には斜行する撚糸文が施文されている。13は浅鉢形土器である。細い粘土紐が口縁部、胴部上半に曲折文の形で貼付されている。地文は単節斜行縄文である。14は波状口縁をなす小型の深鉢形土器である。磨消縄文の手法で長楕円形文が縦方向に展開している。地文は複節斜行縄文である。15は折り返し口縁を持つ深鉢形土器である。微隆帯で口縁部文様帯と胴部文様帯が区画され、口縁部文様帯は縦の貼付帯で方形に区画されており、単節斜行縄文が施文されている。16は深鉢形土器の弁状突起部分である。縄文が施文された細い粘土紐の貼付と、その間を埋めるように撚紐による爪形の圧痕文が施文されている。17は口縁部に小突起を持つ深鉢形土器である。口縁部文様帯には、沈線文と交互刺突文が描かれている。18は浅鉢形土器





- |    |       |        |                            |
|----|-------|--------|----------------------------|
| 1層 | 7.5YR | 墨褐色シルト | 腐植土、粘性・締まりなし               |
| 2層 | 7.5YR | 灰白色シルト | 火山灰、粘性・締まりなし               |
| 3層 | 7.5YR | 黒色シルト  | 粘性・締まりなし、微量の焼土を含む          |
| 4層 | 7.5YR | 黒色シルト  | 粘性・締まりなし、微量の炭化物を含む         |
| 5層 | 7.5YR | 褐色土シルト | 火山灰(?), 粘性・締まりなし           |
| 6層 | 7.5YR | 黒褐色シルト | 粘性・締まりなし、微量の焼土・炭化物・地山質土を含む |
| 7層 | 7.5YR | 明褐色土   | 粘性なし締まり大、焼土・炭化物・地山質土を含む    |
| 8層 | 7.5YR | 褐色土    | 粘性・締まりなし、焼土・炭化物・地山質土を含む    |
| 9層 | 7.5YR | 鈍褐色土   | 粘性なし締まり大、地山質ブロックを含む        |

- (炉)
- |    |          |       |                       |
|----|----------|-------|-----------------------|
| 1層 | 5YR3/4   | 暗赤褐色土 | 焼土層 粘性なし、緻密、焼土は粒子状で散在 |
| 2層 | 7.5YR4/4 | 褐色土   | 粘土層 粘性なし、緻密           |
| 3層 | 10YR5/6  | 黄褐色土  | 粘土層(地山)               |

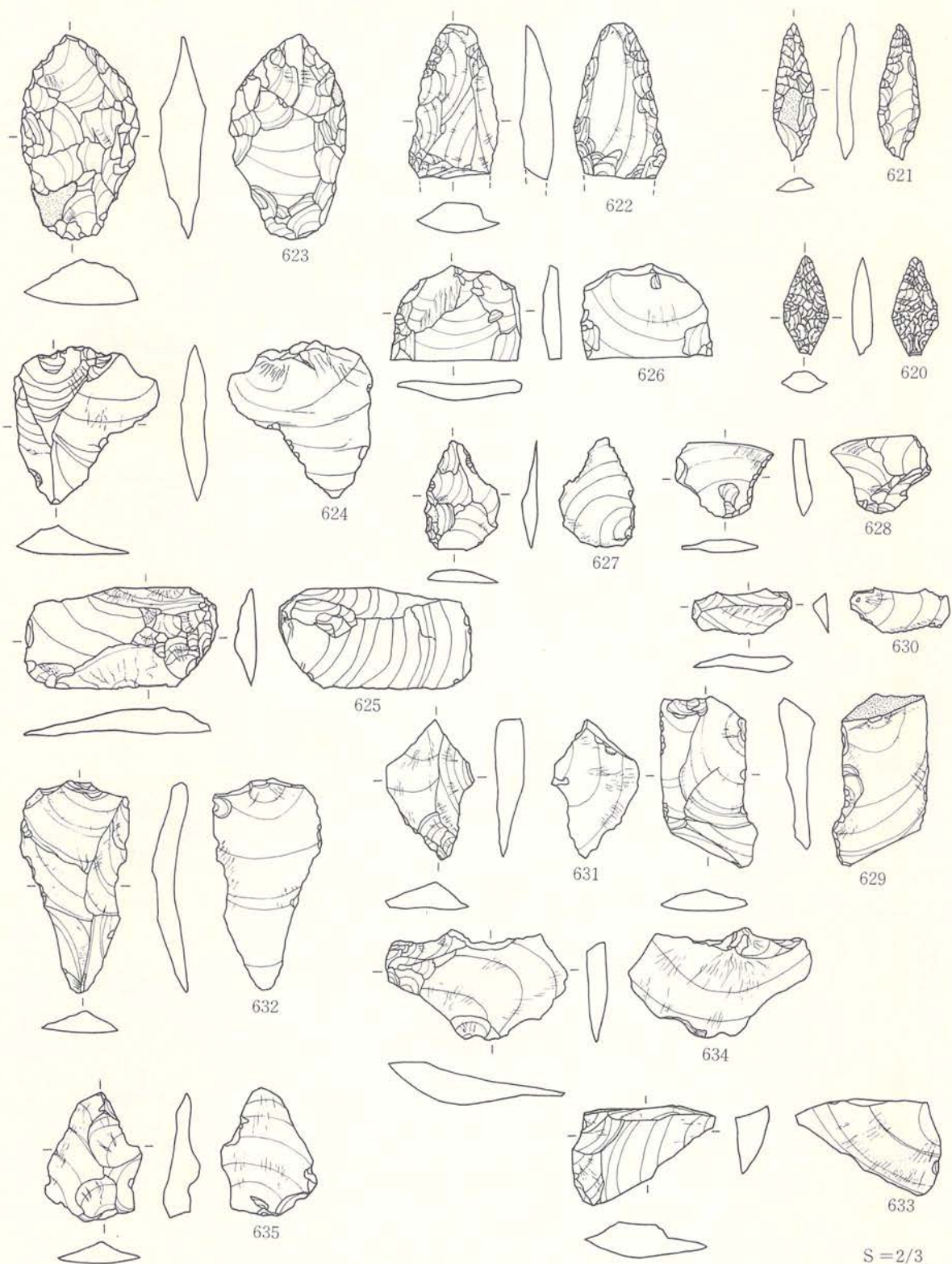
第11図 第2号住居跡



S = 1/3

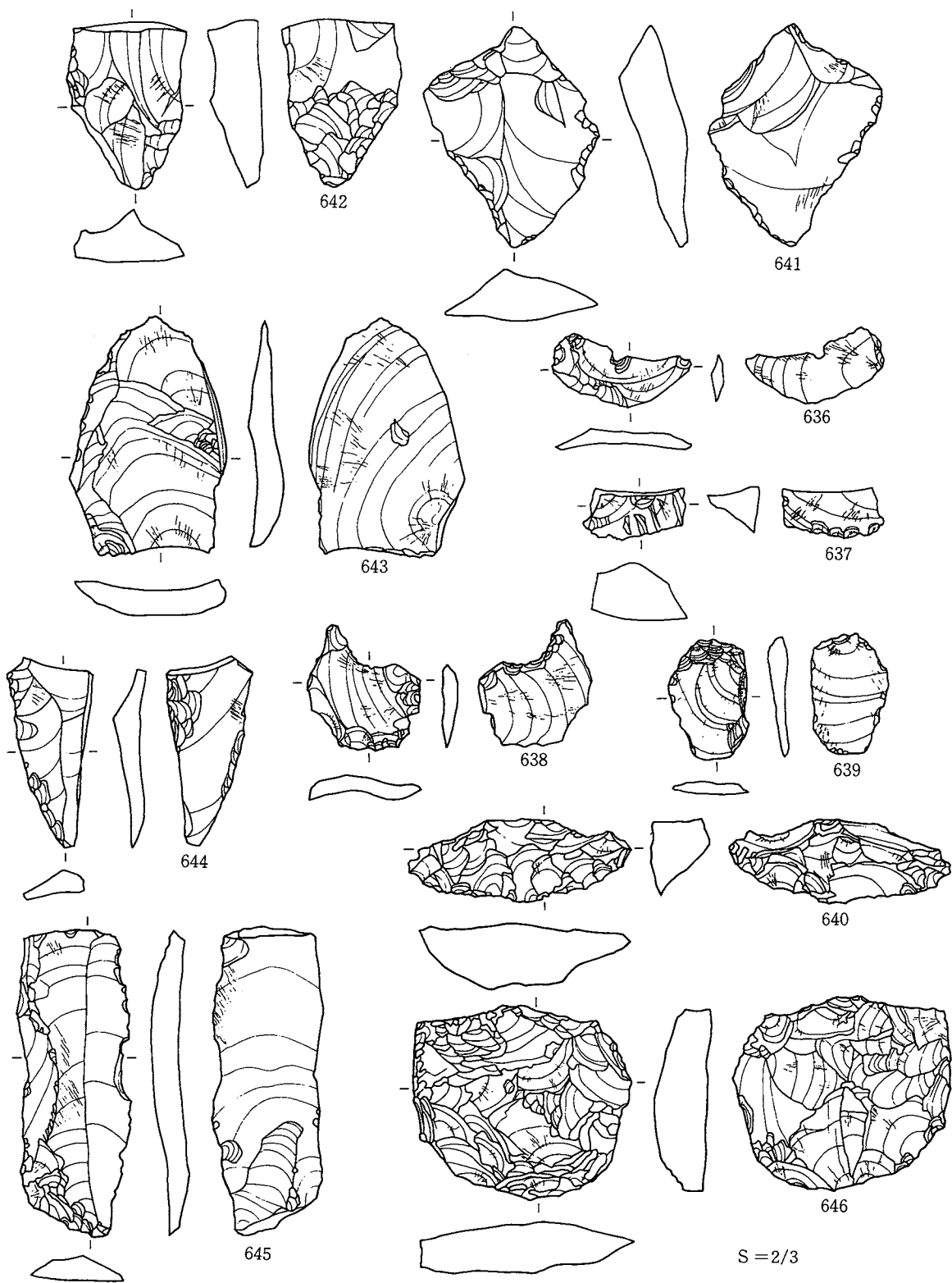
No.	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
8	2号住・炉	深鉢	胴部上半	刺突隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群 1類 a	26
9	2号住・埋土下部	浅鉢	口～底部	単節斜行縄文、綾織文	ナデ	II群 7類 a	26
10	2号住・埋土下部	浅鉢	胴部上半	撚紐圧痕（平行・鶏冠状）	ナデ	II群 7類 b	26
11	2号住・埋土下部	深鉢	口縁部	交互刺突文、工字文風隆帯、垂下する波状隆帯	ミガキ	II群 6類 a	26
12	2号住・埋土下部	深鉢	完形	撚紐圧痕、斜行する撚糸文、底部網代痕	ナデ	II群 7類 a	26
13	2号住・埋土上部	浅鉢	口～底	単節斜行縄文、細い粘土紐貼付（曲折文）	ナデ	II群 8類 a	26
14	2号住・埋土上部	深鉢	口～胴部	複節斜行縄文、冂状沈線文、磨消縄文	ナデ	II群 9類 a	26
15	2号住・埋土	深鉢	口～胴部	単節斜行縄文、粘土紐貼付、折り返し口縁	ナデ	II群 6類 c	26
16	2号住・埋土下部	深鉢	口縁部	弁状突起、撚紐圧痕隆帯、撚紐爪形圧痕	ナデ	II群 2類 a	29
17	2号住・埋土下部	深鉢	口縁部	小突起、交互刺突文、工字文風沈線、補修孔	ナデ	II群 6類 a	29
18	2号住・9層上部	浅鉢	口縁部	撚紐圧痕（直線・弧状）、単節斜行縄文	ナデ	II群 7類 a	29
19	2号住・9層上部	深鉢	口縁部	交互刺突文、短沈線、工字文風粘土紐貼付	ナデ	II群 6類 a	29

第12図 第2号住居跡出土遺物(1)



S = 2/3

第13图 第2号住居跡出土遺物(2)



第14图 第2号住居跡出土遺物(3)

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
620	石鏃	II 2 a	24	11	5	0.5	2号住 炉付近床直	硬質泥岩			41	524
621	石鏃	II 2 b	34	11	4	1.3	2号住 (Q 1) 埋土下部	粘板岩	一部欠損		41	151
622	石槍	I 2	38	22	8	6.6	2号住 (Q 1) 埋土下部	硬質泥岩	一部欠損		41	154
623	石槍	I 2	50	29	11	14.6	2号住 埋土下部	珪質泥岩		II的	41	1
624	石匙		39	36	6	9.6	2号住 (Q 2) 埋土下部	粘板岩	一部欠損		41	384
625	石匙		25	47	5	10.6	2号住 (Q 1) 埋土下部	珪質泥岩	一部欠損		41	381
626	不定形石器	(→)	23	33	5	4.9	2号住 埋土下部	珪質泥岩			41	5
627	不定形石器	(→)	26	19	5	1.5	2号住 埋土下部	硬質泥岩			41	283
628	不定形石器	(→)	18	25	4	1.5	2号住 埋土下部	流紋岩		挿入?	41	6
629	不定形石器	(→)	48	27	9	5.7	2号住 埋土下部	粘板岩			41	281
630	不定形石器	(→)	11	25	4	0.9	2号住 (Q 1) 埋土下部	硬質泥岩			41	284
631	不定形石器	(→)	35	22	7	4	2号住 (Q 1) 埋土下部	輝緑凝灰岩			41	287
632	不定形石器	(→)	52	27	6	6.4	2号住 埋土下部	硬質泥岩			41	280
633	不定形石器	(→)	24	36	8	5.7	2号住 (Q 1) 埋土下部	硬質泥岩			41	286
634	不定形石器	(→)	27	45	5	7.7	2号住 (Q 1) 埋土下部	硬質泥岩			41	288
635	不定形石器	(→)	32	24	7	4.1	2号住 (Q 1) 埋土下部	流紋岩質細粒凝灰岩			41	285
636	不定形石器	(→)	18	34	3	1.6	2号住 (Q 1) 埋土下部	硬質泥岩			42	289
637	不定形石器	(→)	13	25	13	3.4	2号住 (Q 1) 埋土下部	硬質泥岩			42	290
638	不定形石器	(→)	31	27	4	3.7	2号住 (Q 1) 埋土下部	硬質泥岩		挿入	42	292
639	不定形石器	(→)	29	19	5	2.3	2号住 埋土下部	硬質泥岩			42	282
640	不定形石器	(→)	20	54	14	14	2号住 (Q 2) 埋土下部	硬質泥岩		舟型	42	293
641	不定形石器	(→)	53	43	13	23.5	2号住 埋土下部	硬質泥岩		細部加工剥片?	42	3
642	不定形石器	(→)	40	28	13	13.7	2号住 埋土下部	硬質泥岩	一部欠損	先端部に茶色滓みあり	42	2
643	不定形石器	(→)	58	38	6	19.9	2号住 (Q 1) 埋土下部	硬質泥岩			42	291
644	不定形石器	(→)	46	21	7	4.8	2号住 埋土下部	硬質泥岩			42	4
645	不定形石器	(→)	74	27	7	16.8	2号住 (Q 2) 埋土上部	流紋岩質細粒凝灰岩			42	295
646	楔形石器		47	53	13	43.4	2号住 (Q 2) 埋土上部	流紋岩質細粒凝灰岩			42	294

の口縁部である。口縁部には撚紐の圧痕文、胴部は単節斜行縄文を地文とし、撚紐の圧痕による連続弧状文が施文されている。19は小型の深鉢形土器の口縁部である。交互刺突文、細い粘土紐の間をうめる縦の短い沈線による工字文風の文様が展開している。

石器 石鏃、石槍、石匙各2点のほかは不定形石器であり、床面直上と埋土下部からの出土である。

### 第3号住居跡

〈遺構〉(第15図、写真図版4・5)

第2号住居跡と同様に平坦部に近い2G区に位置し、調査区域外に続いている。表土を除去して降下火山灰が検出され、住居跡と確認された。第6・16号土坑と切りあい関係にあり、いづれも住居跡の床面で検出された土坑である。

平面形は東西方向に幾分広い楕円形であり、直径は6.5m、推定面積は33㎡である。壁は北側と北東側が確認されたが、東側から南側にかけては再堆積層となり、明瞭でない。床面はやや傾斜しているが、貼床は明確に識別できなかった。また、柱穴は第6土坑の北側に2個と炉の南側に2個であるが、明確ではなかった。

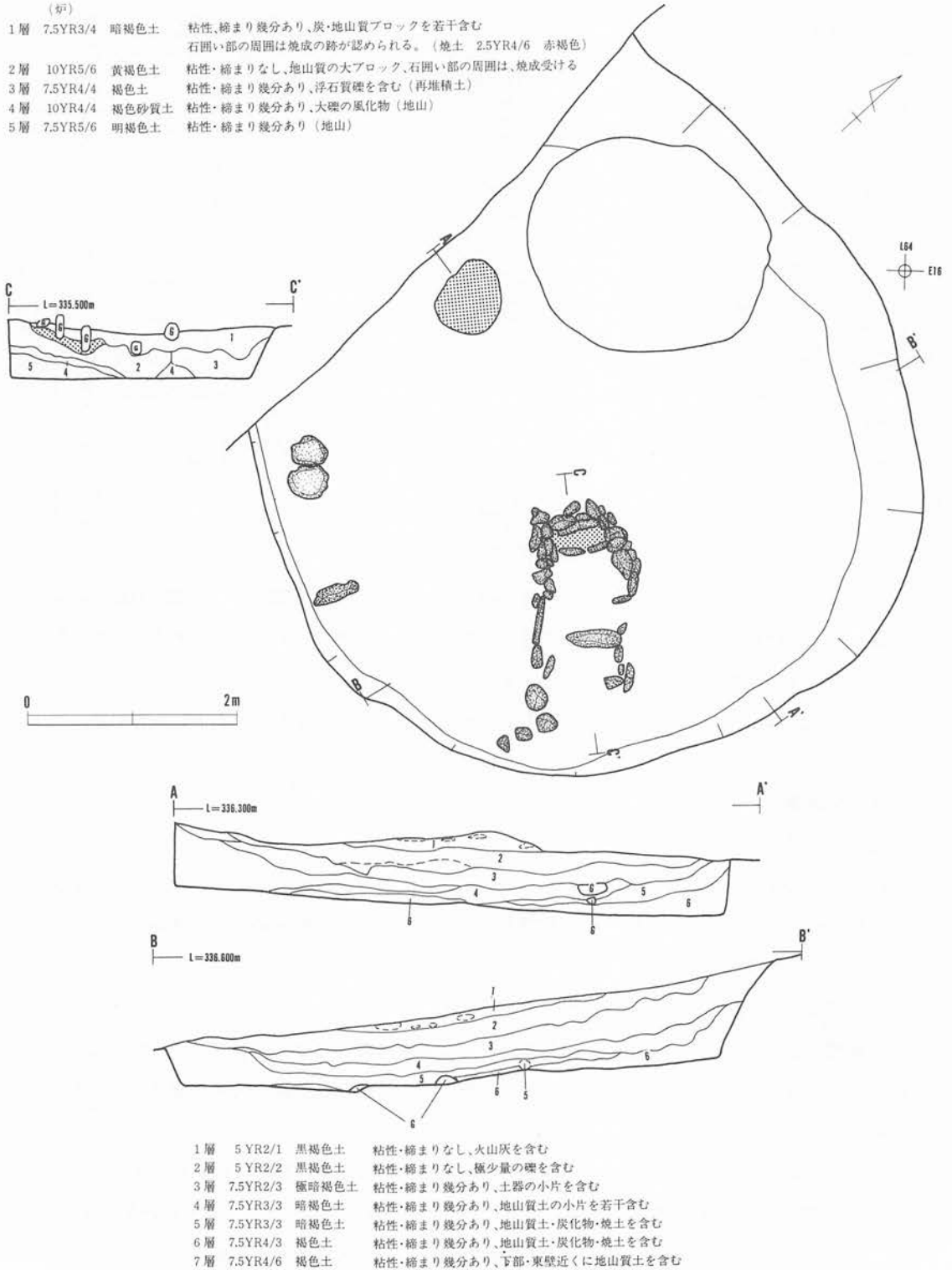
炉は石組の複式炉である。前庭部の南側には平坦な石が並び、北側には河原石が使用されている。前庭部からは石棒が横位の状態で出土しており、立石の形で存在していた可能性もあり、また炉の石を欠いていることから石棒が転用されていたことも考えられる。

埋土は全体に北側からの堆積が卓越し、下部には多量の焼土が観察された。床面の南西側に



(切)

- |    |          |       |   |
|----|----------|-------|---|
| 1層 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土  | 粘性・締まり幾分あり、炭・地山質ブロックを若干含む<br>石囲い部の周囲は焼成の跡が認められる。(焼土 2.5YR4/6 赤褐色) |
| 2層 | 10YR5/6  | 黄褐色土  | 粘性・締まりなし、地山質の大ブロック、石囲い部の周囲は、焼成を受ける                                |
| 3層 | 7.5YR4/4 | 褐色土   | 粘性・締まり幾分あり、浮石質礫を含む(再堆積土)  |
| 4層 | 10YR4/4  | 褐色砂質土 | 粘性・締まり幾分あり、大礫の風化物(地山)   |
| 5層 | 7.5YR5/6 | 明褐色土  | 粘性・締まり幾分あり(地山)  |



- |    |          |       |                            |
|----|----------|-------|----------------------------|
| 1層 | 5 YR2/1  | 黒褐色土  | 粘性・締まりなし、火山灰を含む            |
| 2層 | 5 YR2/2  | 黒褐色土  | 粘性・締まりなし、極少量の礫を含む          |
| 3層 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色土 | 粘性・締まり幾分あり、土器の小片を含む        |
| 4層 | 7.5YR3/3 | 暗褐色土  | 粘性・締まり幾分あり、地山質土の小片を若干含む    |
| 5層 | 7.5YR3/3 | 暗褐色土  | 粘性・締まり幾分あり、地山質土・炭化物・焼土を含む  |
| 6層 | 7.5YR4/3 | 褐色土   | 粘性・締まり幾分あり、地山質土・炭化物・焼土を含む  |
| 7層 | 7.5YR4/6 | 褐色土   | 粘性・締まり幾分あり、下部・東壁近くに地山質土を含む |

第15図 第3号住居跡

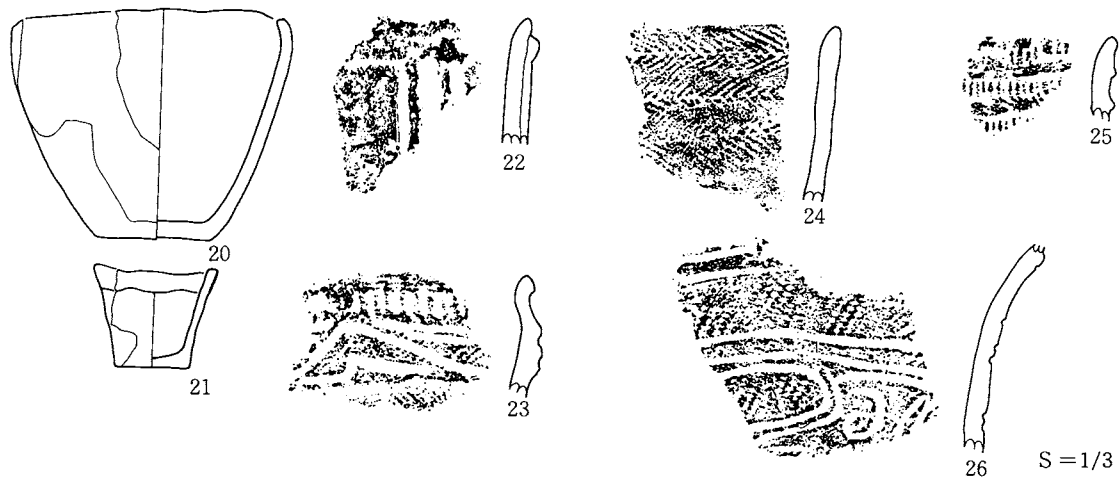
も焼土があり、消失した可能性もあげられる。

遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期前半と考えられる。

〈遺物〉(第16-19図、写真図版26・29・43~45)

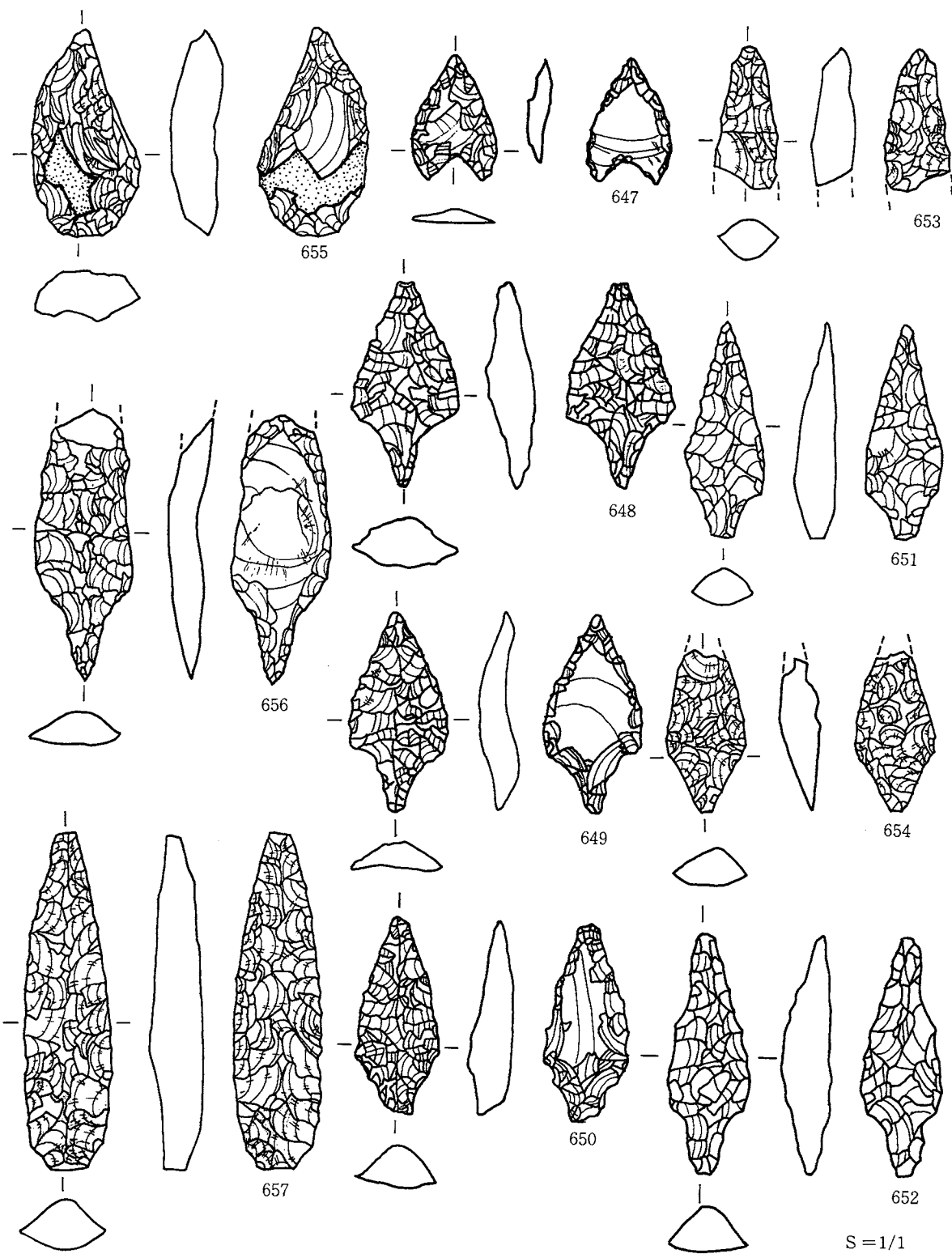
**土器** 20は無文の鉢形土器である。胎土に砂粒を含み、外面は強いミガキ様の調整で仕上げられている。21は折り返し口縁を持つ無文のミニチュア土器である。22は折り返しは口縁を持つ深鉢形土器である。折り返し口縁の下には小さな貼瘤がつき、無文の胴部上半には口縁直下から垂下する隆帯が貼付されている。23は口縁部に貼瘤と撚紐の縦圧痕、その直下には沈線により文様が施文されている。地文は単節斜行縄文である。24は横方向の結束羽状縄文が施文された深鉢形土器である。25は深鉢形土器の口縁部である。刻目のある隆帯が貼付されている。26は深鉢形土器の口縁部である。単節斜行縄文を地文とし、沈線により直線文や渦巻文が描かれている。一般にこれらの土器の胎土には、多量の砂粒が混入している。

**石器** 石鏃11点、不定形石器10点、石錐1点、石棒1点のほか、石皿、半円状打製石器等がある。石鏃の657は一部を欠損し、全体に粗雑なつくりであるが、アスファルトが付着している。石皿は直線的な擦り溝を有する。石棒と石錐は炉内からの出土である。



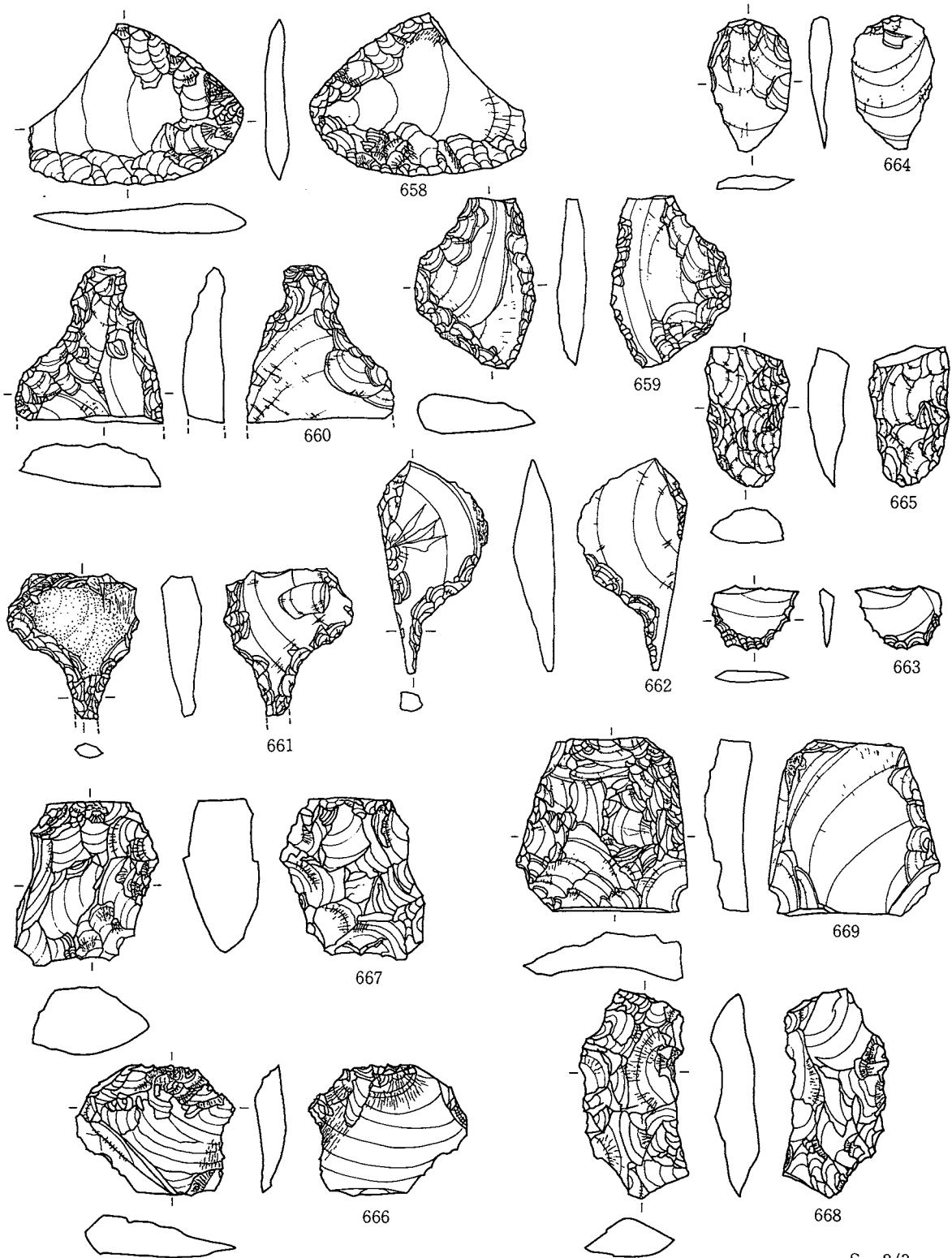
No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
20	3号住・埋土上部	鉢	口～底部	無文、ミガキ	ナデ	II群11類	26
21	3号住・埋土	鉢	口～底部	ミニチュア、口縁肥厚、無文	ナデ	II群11類	26
22	3号住・埋土下部	深鉢	口縁部	口縁肥厚、無文、貼瘤、隆帯垂下	ナデ	II群6類c	29
23	3号住・埋土4層	深鉢	口縁部	貼瘤、沈線文、撚紐側面圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群8類a	29
24	3号住・埋土下部	深鉢	口縁部	羽状縄文	ナデ	II群11類	29
25	3号住・埋土3層	深鉢	口縁部	刻目隆帯	ナデ	II群6類c	29
26	3号住・埋土3層	深鉢	口縁部	平行・渦巻文沈線、単節斜行縄文	ナデ	II群8類a	29

第16図 第3号住居跡出土遺物(1)



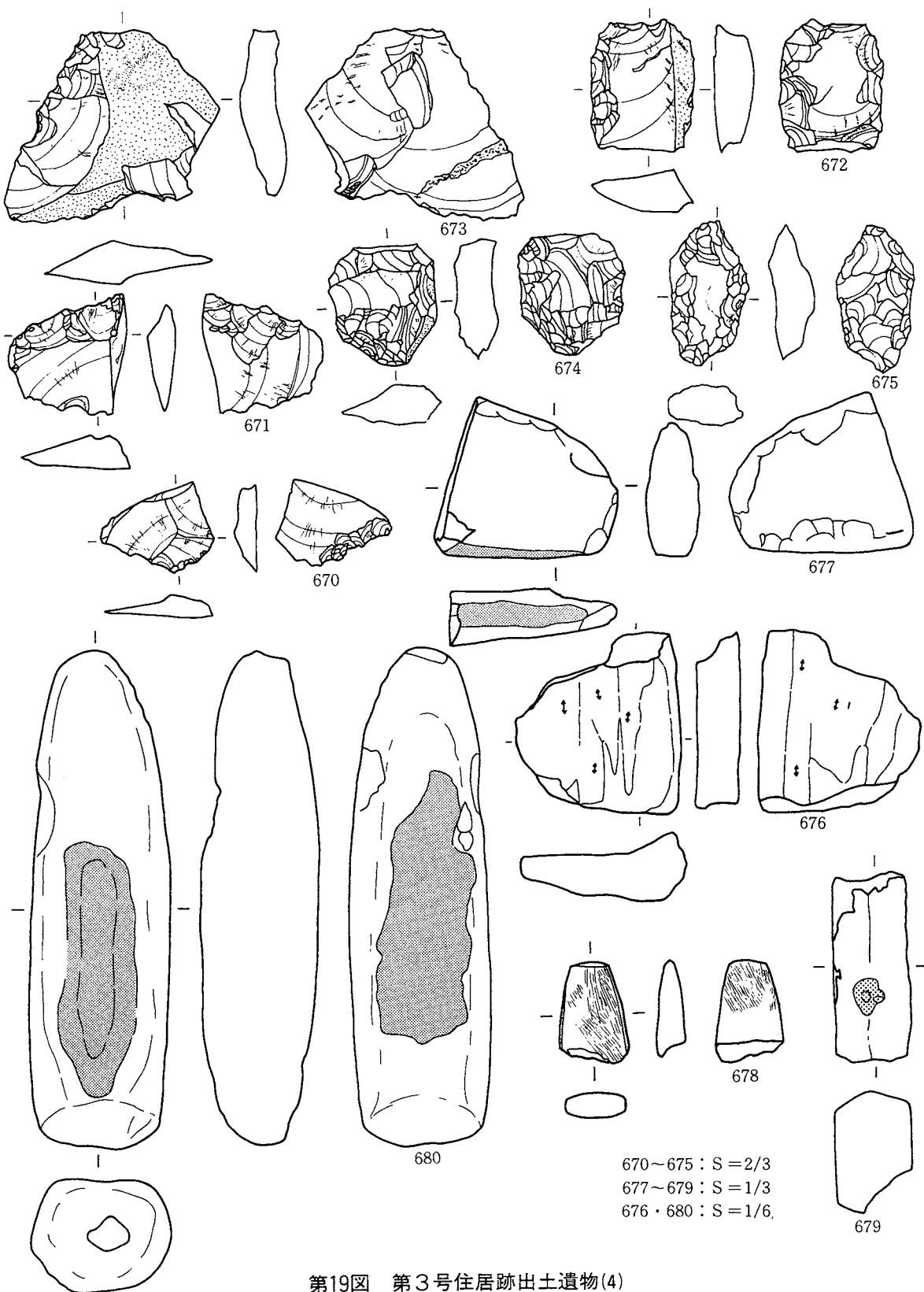
第17图 第3号住居跡出土遺物(2)





S = 2/3

第18图 第3号住居跡出土遺物(3)



670~675 : S = 2/3  
 677~679 : S = 1/3  
 676 · 680 : S = 1/6,

第19图 第3号住居跡出土遺物(4)

No.	名称	種類	分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
647	石鏃	I 2 c		20	14	3	0.6	3号住 2層	流紋岩			43	10
648	石鏃	II 1 b		33	18	8	3.0	3号住 2層	硬質泥岩	一部欠損		43	9
649	石鏃	II 1 b		33	16	6	2.4	3号住 4層	粘板岩			43	7
650	石鏃	II 2 a		32	14	7	2.7	3号住 2層	粘板岩			43	11
651	石鏃	II 1 b		36	13	7	2.3	3号住 (Q 5) 埋土下部	硬質泥岩	一部欠損		43	152
652	石鏃	II 1 b		40	14	8	3.1	3号住 4層	硬質泥岩			43	8
653	石鏃	I 4		23	11	7	1.5	3号住 埋土下部	珪質泥岩	破片		43	155
654	石鏃	II 2 a		26	13	7	1.7	3号住 埋土下部	粘板岩	一部欠損		43	157
655	石鏃	I 1 c		34	28	8	5.4	3号住 (Q 4) 埋土下部	珪質泥岩		平石下	43	273
656	石鏃	II 2 a		44	16	5	3.2	3号住 (Q 5) 埋土上部	硬質泥岩	一部欠損		43	523
657	石鏃	II 2 a		55	15	10	6.3	3号住 (Q 5) 埋土下部	流紋岩	一部欠損	アスファルト付着	43	158
658	石匙			39	52	6	13.4	3号住 (Q 3) 埋土中部	粘板岩	一部欠損	破片	44	277
659	石匙			30	42	9	10.1	3号住 東断面埋土	硬質泥岩	破片		44	278
660	石匙			38	36	10	13.3	3号住 (Q 4) 床直	粘板岩	一部欠損		44	270
661	石鏃			36	32	9	7.9	3号住 (Q 3) 埋土中部	粘板岩	一部欠損		44	268
662	石鏃			52	27	10	9.2	3号住 炉内 埋土	粘板岩			44	269
663	石筥			34	21	9	6.2	3号住 2層	流紋岩質細粒凝灰岩	破片		44	15
664	不定形石器	(-)		15	21	3	1.1	3号住 (Q 3) 床直	珪質泥岩		石匙の破片?	44	272
665	不定形石器	(-)		32	20	6	2.7	3号住 炉東 埋土 3層	硬質泥岩			44	279
666	不定形石器	(-)		32	39	7	10.8	3号住 (Q 5) 褐色土	硬質泥岩			44	276
667	不定形石器	(-)		40	36	18	25.2	3号住 (Q 3) 床直	チャート			44	274
668	不定形石器	(-)		51	27	10	12.6	3号住 東断面埋土	粘板岩			44	275
669	不定形石器	(-)		42	42	10	25.4	3号住 (Q 3) 床直	粘板岩	一部欠損		44	271
670	不定形石器	(-)		22	28	6	3.1	3号住 (Q 3) 埋土下部	珪質泥岩			45	297
671	不定形石器	(-)		30	30	8	5.5	3号住 (Q 3) 埋土下部	硬質泥岩		石匙の破片か	45	296
672	不定形石器	(-)		33	26	10	10.7	3号住 2層	粘板岩		両面調整	45	13
673	不定形石器	(-)		47	54	9	21.3	3号住 2層	硬質泥岩			44	14
674	楔形石器			30	27	10	10.2	3号住 2層	珪質泥岩			44	12
675	楔形石器			37	20	10	7.0	3号住 (Q 3) 埋土	珪質泥岩		横型	45	260
676	石皿			185	165	14	1530.0	3号住 (Q 4) 埋土下部	両輝石安山岩	欠損		45	451
677	半円状偏平打製石器			92	81	27	245.0	3号住 (炉E) 埋土	両輝石安山岩	2/5残存	下側辺擦ってある	45	449
678	石斧			51	35	14	40.4	3号住 (Q 3) 埋土下部	流紋岩質細粒凝灰岩	欠損	磨製	45	446
679	石棒 (凹)			96	40	49	280.0	3号住 (Q 3) 埋土下部	流紋岩		角柱の稜線を凹石として使用	45	490
680	石棒			493	143	118	10050.0	3号住 (炉) 埋土下部	石英安山岩		石皿的使用痕	45	489

#### 第4号住居跡

〈遺構〉(第20図、写真図版5)

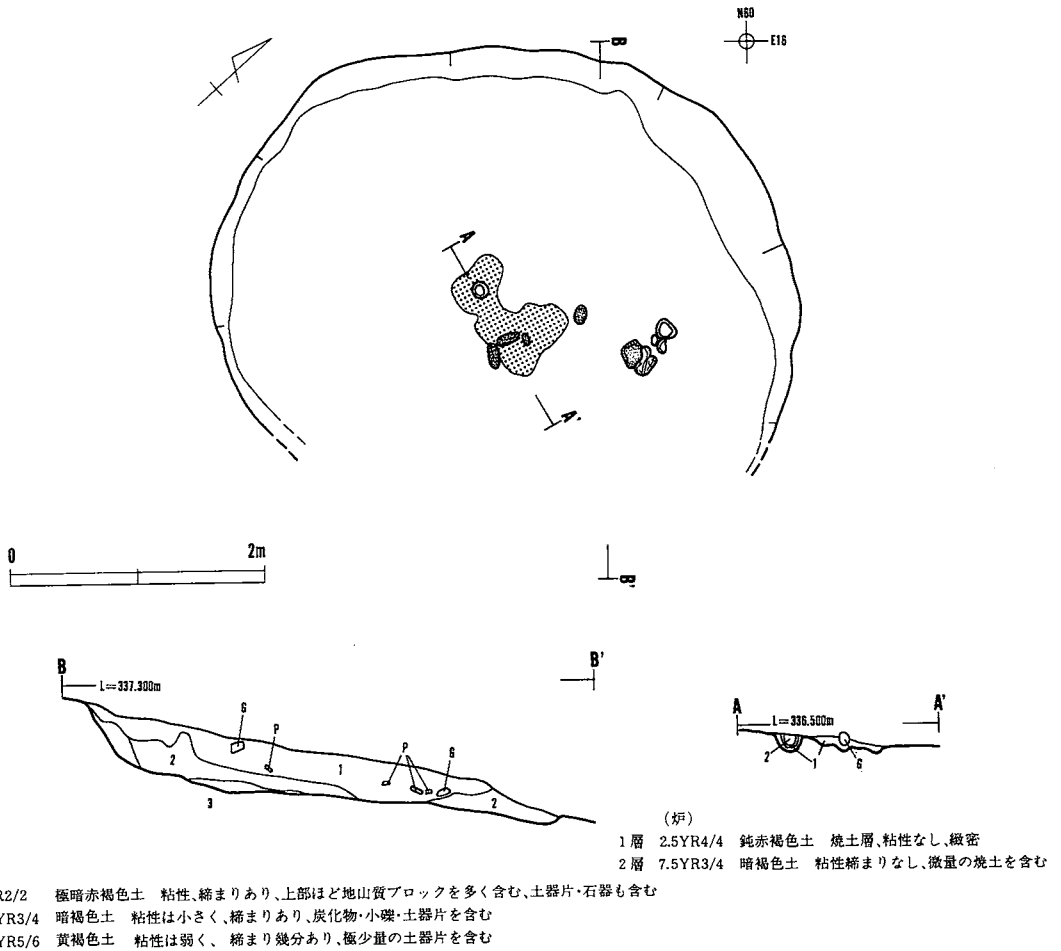
緩斜面のやや下降した2丁区に位置し、土器を多く伴うことから住居跡と確認された。第15・17号土坑と重複しているが、いずれも住居跡の床面に検出された土坑である。

平面形は、東南側が流出して不明であるが、ほぼ円形を呈するものと推定される。推定規模は直径4.5m、面積は16㎡である。

壁は北側から北西側にかけて残存し、壁高は56cmであるが、南側と南東側は不明瞭である。床面はほぼ平坦であり、石囲い炉のほかに柱穴は検出されなかった。

炉は鉢形土器を埋設した複式炉であり、石囲い部は欠損して半円状である。炉内の焼土化は弱く、周囲はよく焼けている。埋土は北西方向からの堆積が多く、東側の2層は再堆積層と考えられる。遺物は埋土中位以下に多く、土器は東南側に集中して出土している。

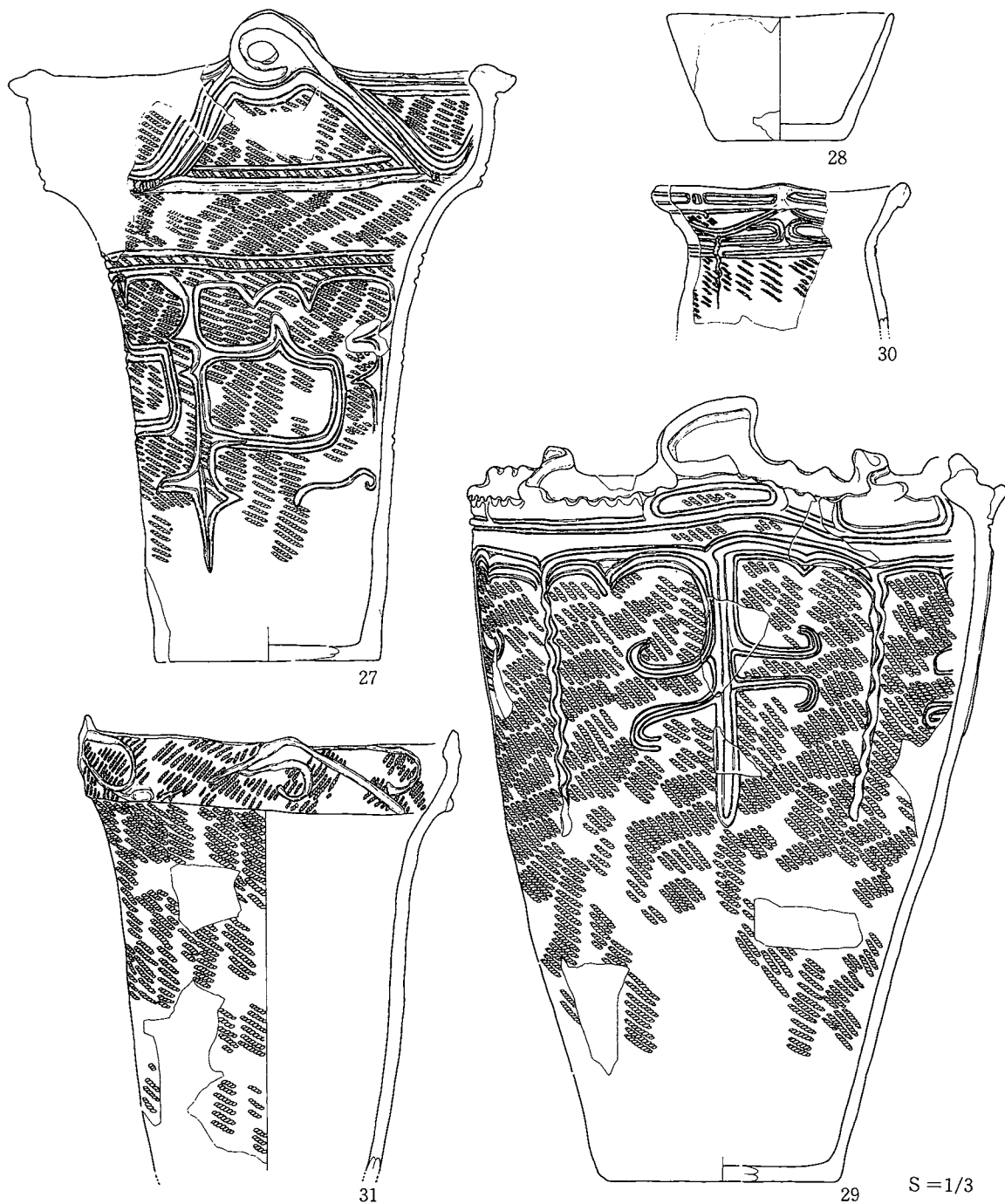
時期は、複式炉の埋設土器や床面から出土した遺物から縄文時代中期前葉と認められる。



第20図 第4号住居跡

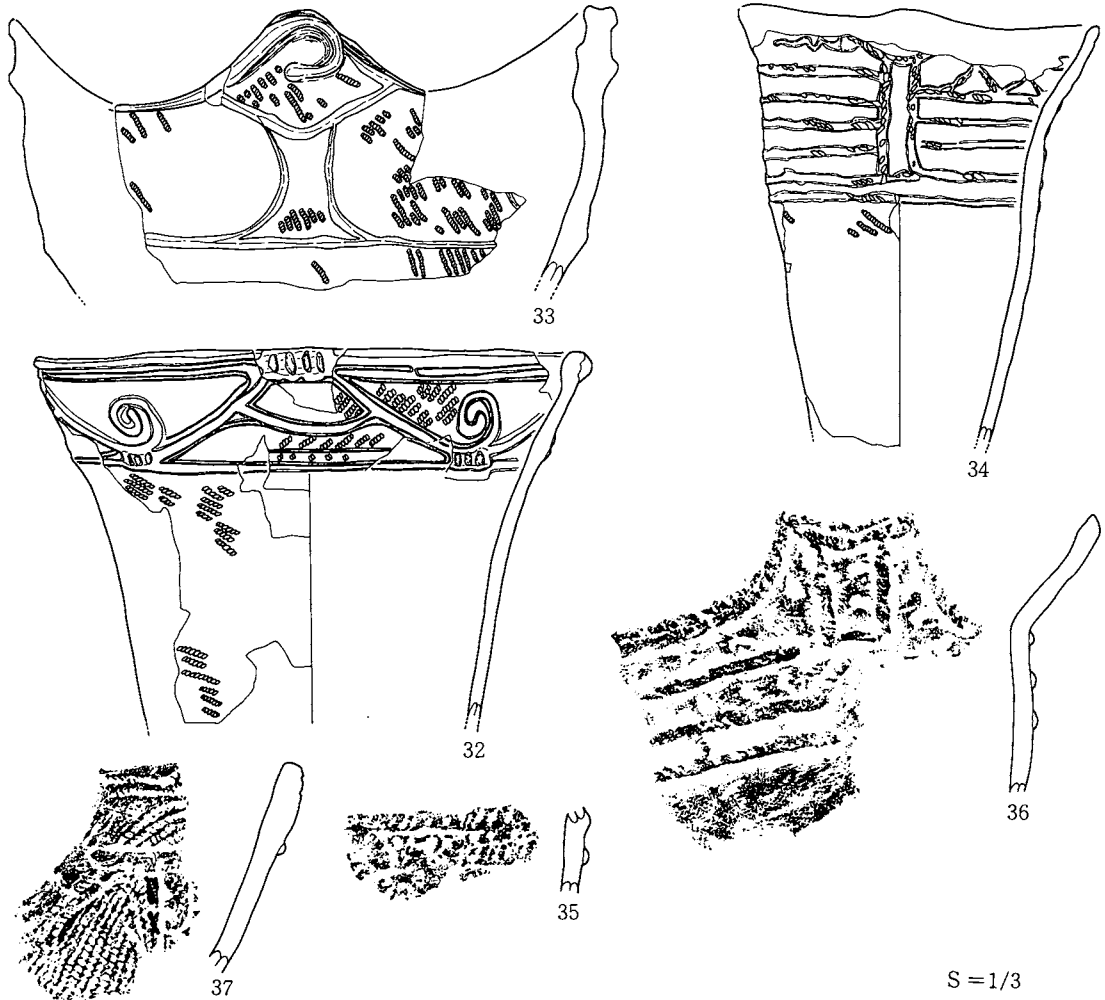
<遺物> (第21~24図、写真図版27・28・30・46・47)

土器 27は大小の突起各2個をもち、キャリパー形を呈する大型の深鉢形土器である。単節斜行縄文を地文とし、微隆帯と沈線文の併用により4単位の文様が展開している。口縁部文様帯では大小の突起と、頸部文様帯上半の刻目のある隆帯を連絡するように波状文が展開している。口縁部文様帯と胴部文様帯は平行沈線文により区画され、胴部文様帯には沈線により鶏冠状、有棘文が施文されている。28は無文の鉢形土器である。胎土に砂粒を含んでいる。29は地文として単節斜行縄文が施文された深鉢形土器である。口縁部には大突起2個、小突起6個が付き、突起間には波状文が付いている。口縁部文様帯には横長の方形区画文、胴部には沈線文と



No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
27	4号住・床面	深鉢	□～底部	突起(大2・小2)、単節斜行縄文、波状文、沈線文(鶏冠状・有棘状)	ナデ	II群8類a	27
28	4号住・床面	鉢	□～底部	無文	ナデ	II群11類	28
29	4号住・埋土下部	深鉢	□～底部	突起(大2・小6)、隆帯(鶏冠状・波状懸垂)、単節斜行縄文	ナデ	II群8類a	27
30	4号住・埋土	深鉢	□縁部	単節斜行縄文、貼瘤、工字文風沈線、懸垂波状粘土紐貼付	ナデ	II群8類a	28
31	4号住・埋土	深鉢	□～胴部	単節斜行縄文、波状・弧状粘土紐貼付	ナデ	II群8類a	27

第21図 第4号住居跡出土遺物(1)

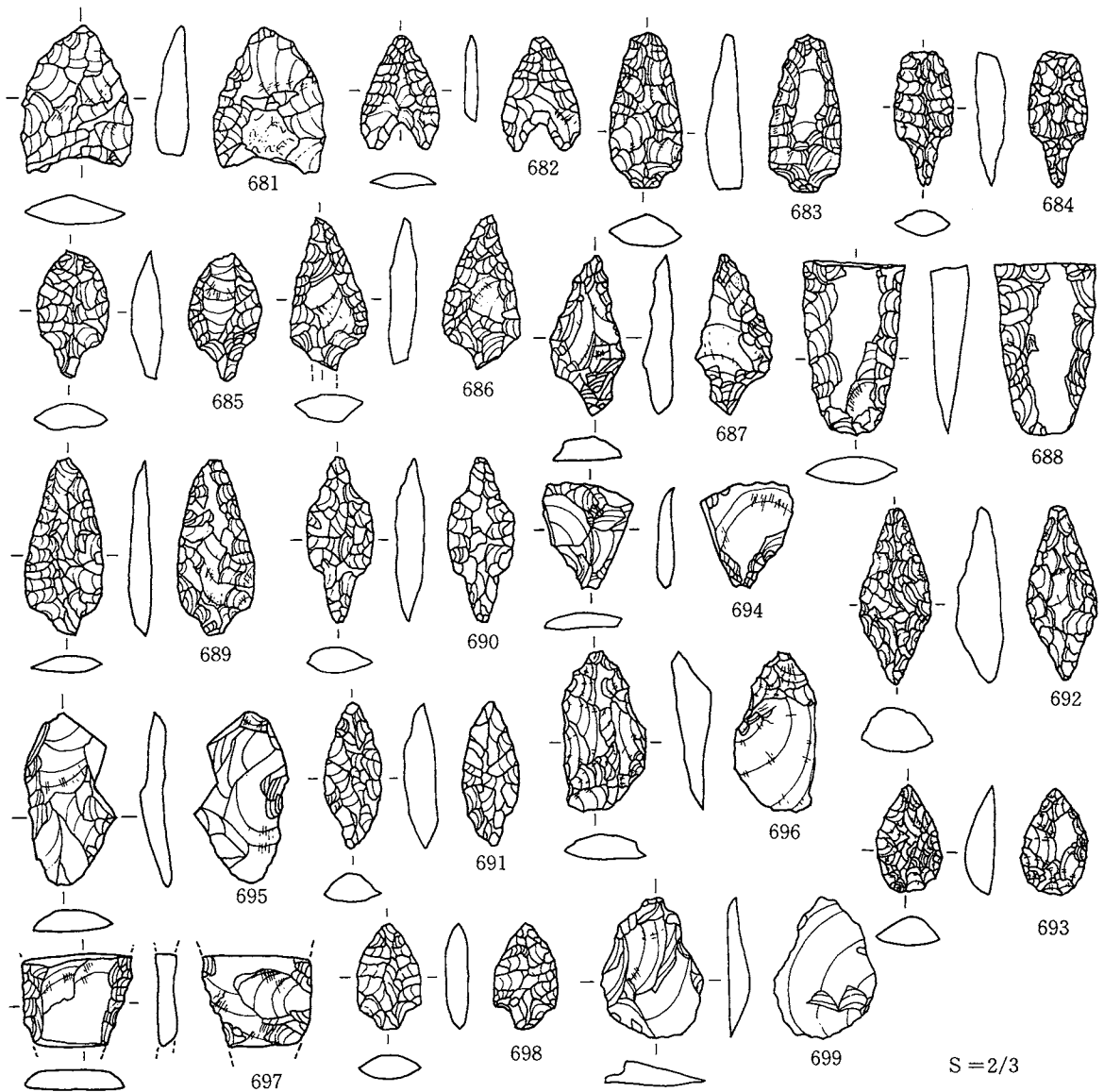


S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
32	4号住・埋土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、渦巻・波状隆帯、刻目	ナデ	II群8類a	28
33	4号住・埋土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、微隆帯弧状区画	ナデ	II群8類a	28
34	4号住・埋土	深鉢	口～胸部	単節斜行縄文、粘土紐貼付（弧状・小波状・平行）	ナデ	II群3類a	27
35	4号住・炉	深鉢	口縁部	刻目隆帯、刺突文（擦紐末端）	ナデ	II群2類a	30
36	4号住・埋土	深鉢	口縁部	弁状突起、擦紐圧痕隆帯、単節斜行縄文、擦紐爪形刺突文	ナデ	II群7類b	30
37	4号住・埋土	深鉢	口縁部	弁状突起、隆帯、擦紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	30

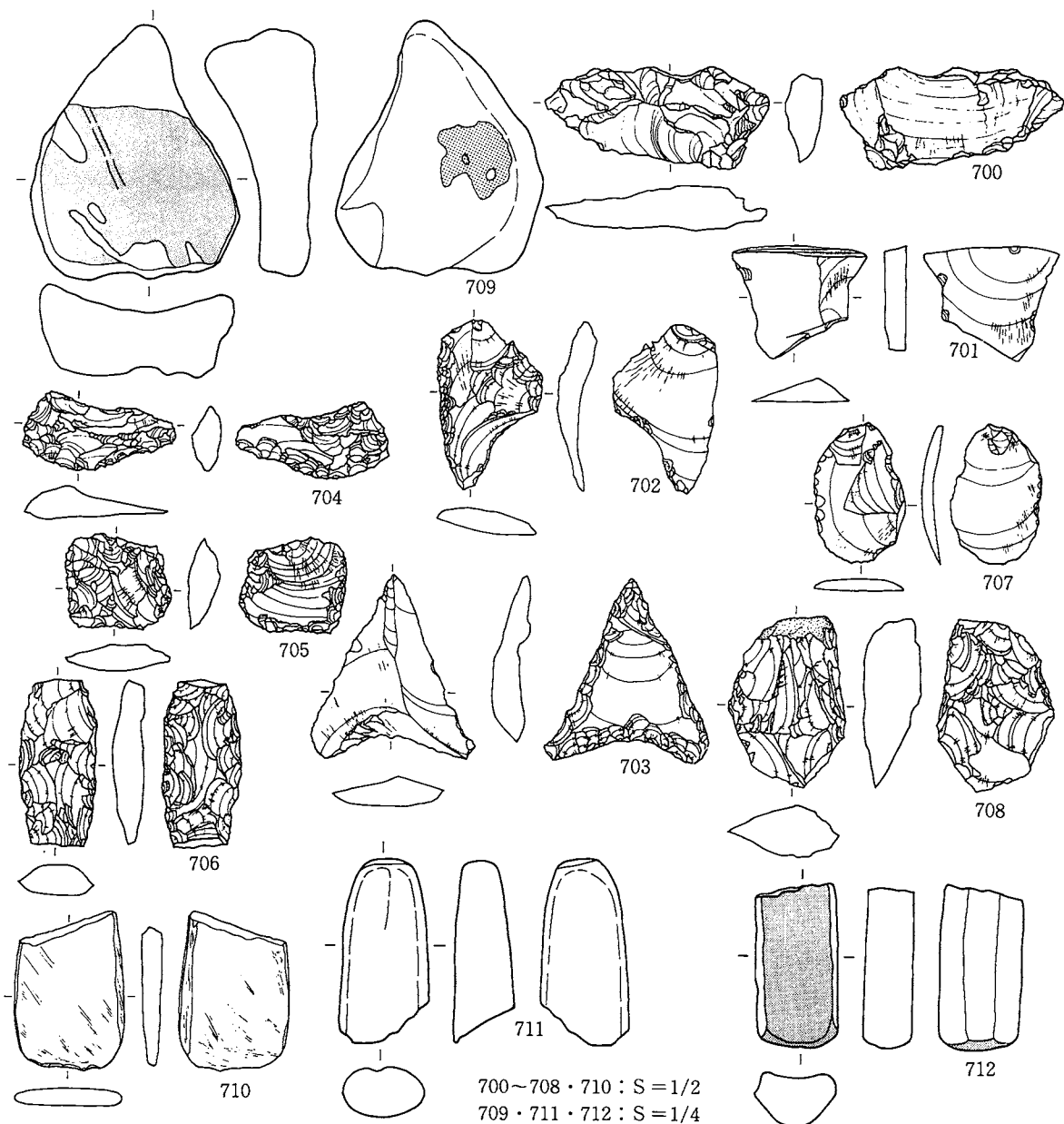
第22図 第4号住居跡出土遺物(2)

隆帯文により4単位の垂下する波状文・円弧文が施文されている。30は地文に単節斜行縄文が施行された深鉢形土器である。頸部から口縁部にかけて、沈線と細い粘土紐の貼付による波状文と方形区画文が施文され、胴部上半にも垂下する粘土紐の波状貼付文がみられる。31は地文として単節斜行縄文が施文されたキャリパー形を呈する深鉢形土器である。口縁部文様帯には、細い粘土紐の貼付により波状文と渦巻文が施文されている。32は平縁を呈し、地文に単節斜行縄文が施文された深鉢形土器である。口縁部は外反しながら立ち上がり、口唇部付近で内湾



No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
681	石鏃		30	34	7	4.5	4号住 埋土上部	流紋岩質細粒凝灰岩	一部欠損		46	235
682	石鏃	I 2 c 口	24	17	3	1.0	4号住 埋土上部	粘板岩			46	108
683	石鏃	II 1 b	33	15	7	3.4	4号住 埋土上部	粘板岩	一部欠損		46	232
684	石鏃	II 1 b	28	12	6	1.8	4号住 (下部)	流紋岩			46	17
685	石鏃	II 2 a	27	15	7	1.9	4号住 埋土上部	硬質泥岩			46	100
686	石鏃	II 2 a	32	17	6	2.7	4号住 埋土上部	粘板岩			72	60
687	石鏃	II 2 a	34	16	6	2.4	4号住 埋土上部	硬質泥岩			46	189
688	石槍	I 1	36	21	3	7.1	4号住 埋土上部	流紋岩質細粒凝灰岩	破片		46	322
689	石鏃	II 2 a	37	17	5	2.1	4号住 (Q 2) 埋土下部	粘板岩	一部欠損		46	527
690	石鏃	II 2 a	34	14	6	2.4	4号住 埋土上部	粘板岩			46	96
691	石鏃	II 2 b	30	12	7	2.4	4号住 埋土上部	粘板岩			73	40
692	石鏃	II 2 b	37	15	10	4.0	4号住 (2層)	粘板岩			46	16
693	石鏃	I 3	23	14	6	2.0	4号住 埋土	粘板岩			67	161
694	石鏃		19	24	3	1.5	4号住 (中位)	硬質泥岩	破片		46	26
695	石匙		36	19	5	3.4	4号住 (Q 1) (2層)	流紋岩質細粒凝灰岩	破片		46	28
696	不定形石器 (二)		34	18	7	3.1	4号住 (Q 1) (2層)	珪質泥岩			46	21
697	石匙		19	23	4	2.4	4号住 (中位)	硬質泥岩	破片		46	27
698	石鏃	II 2 a	22	14	5	1.5	4号住 埋土上部	チャート			46	91
699	不定形石器 (三)		19	21	4	2.6	4号住 (Q 1) (2層)	珪質泥岩			46	23

第23図 第4号住居跡出土遺物(3)



700~708・710 : S=1/2  
709・711・712 : S=1/4

№	名称	種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
700	不定形石器 (一)		30	66	11	24.3	4号住 (Q2) 埋土中部	流紋岩質細粒凝灰岩			47	319
701	不定形石器 (一)		33	40	7	7.9	4号住 (2層)	流紋岩質細粒凝灰岩			47	25
702	不定形石器 (三)		50	31	8	8.8	4号住 (Q1) (2層)	珪質泥岩		挟入	47	22
703	不定形石器 (三)		54	48	9	14.3	4号住 (Q2) (2層)	珪質泥岩		挟入	47	18
704	搔器		23	45	9	7.3	4号住 埋土中部	粘板岩			47	320
705	搔器		28	22	10	8.6	4号住 (Q2) 埋土下部	硬質泥岩		円形	47	321
706	石鏝		49	13	9	12.6	4号住 埋土上部	硬質泥岩	一部欠損		47	252
707	削器		41	27	4	4.5	4号住 (中位)	硬質泥岩		彫器的部分あり	47	24
708	楔形石器		50	34	17	23.9	4号住 (Q1) (2層)	粘板岩		横型一側縁に自然面残存	47	19
709	石皿		147	121	64	575.0	4号住 (Q2) 埋土下部	岡輝石安山岩溶岩	破片		47	450
710	磨製石斧		47	32	6	14.0	4号住 (Q2) (2層)	ホルンフェルス	破片	薄い	47	20
711	石斧		106	52	35	270.0	4号住 埋土上部	緑色砂質凝灰岩	一部欠損	一側面に自然面残る	47	467
712	磨石		96	49	29	200.0	4号住 埋土下部	流紋岩	一部欠損		47	491

第24図 第4号住居跡出土遺物(4)



している。文様帯は口縁部に集中し、隆帯と沈線により4単位の波状文・渦巻文が施文されている。これらの文様の連結部分には、刻目を持つ隆帯が貼付されている。33は波状口縁を呈し、地文に単節斜行縄文が施文されたキャリパー形を呈する深鉢形土器である。文様帯は、口縁部に集中し、隆帯により渦巻文・弧状文が施文されている。34は小型の深鉢形土器である。文様帯は胴部中央にまで及んでいる。口縁は4個の小波状をなし、波頂部には下向きの弧文、波頂間には粘土紐で波状文が貼付されている。口縁部及び胴部上半には、撚紐圧痕が施された粘土紐が波頂部から垂下し、さらに垂下した粘土紐の間は同様の手法により平行線文が貼付されている。口縁部と上半は無文であるが、胴部下半には地文として単節斜行縄文が施文されている。35は深鉢形の炉の埋設土器である。刻目を持つ太い隆帯と、その直下の刺突文により文様帯が構成されている。36は弁状突起を持つ深鉢形土器の口縁部である。撚紐の圧痕を持つ隆帯と、その間を埋めるように撚紐の爪形圧痕が施文されている。37は弁状突起を持ち、単節斜行縄文が施文された深鉢形土器である。素文の隆帯と、それに沿うように撚紐の圧痕文が施文されている。

**石器** 剥片石器が大半を占め、中でも石鏃が多く13点である。石鏃は有茎のものが多く、無茎のものは2点である。そのほか、不定形石器や定形石器の破片が含まれる。礫石器では磨製石斧、多孔質熔岩の石皿、砥石様の磨石などがある。

## 第5号住居跡

〈遺構〉(第25図、写真図版6)

北側平坦部の3J区に位置する。表土を除去し、方形状をなす隅の一部を検出したものである。大半が調査区域外に延びているため、全容は不明である。

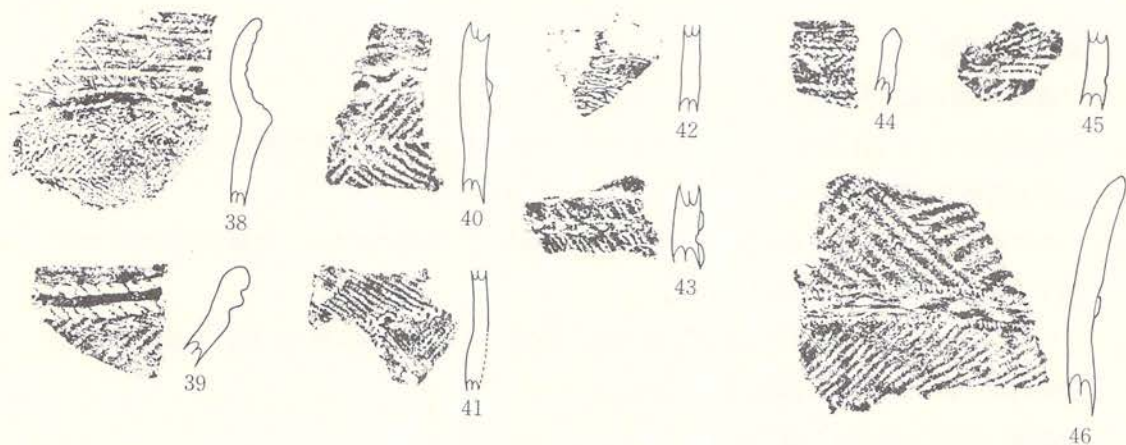
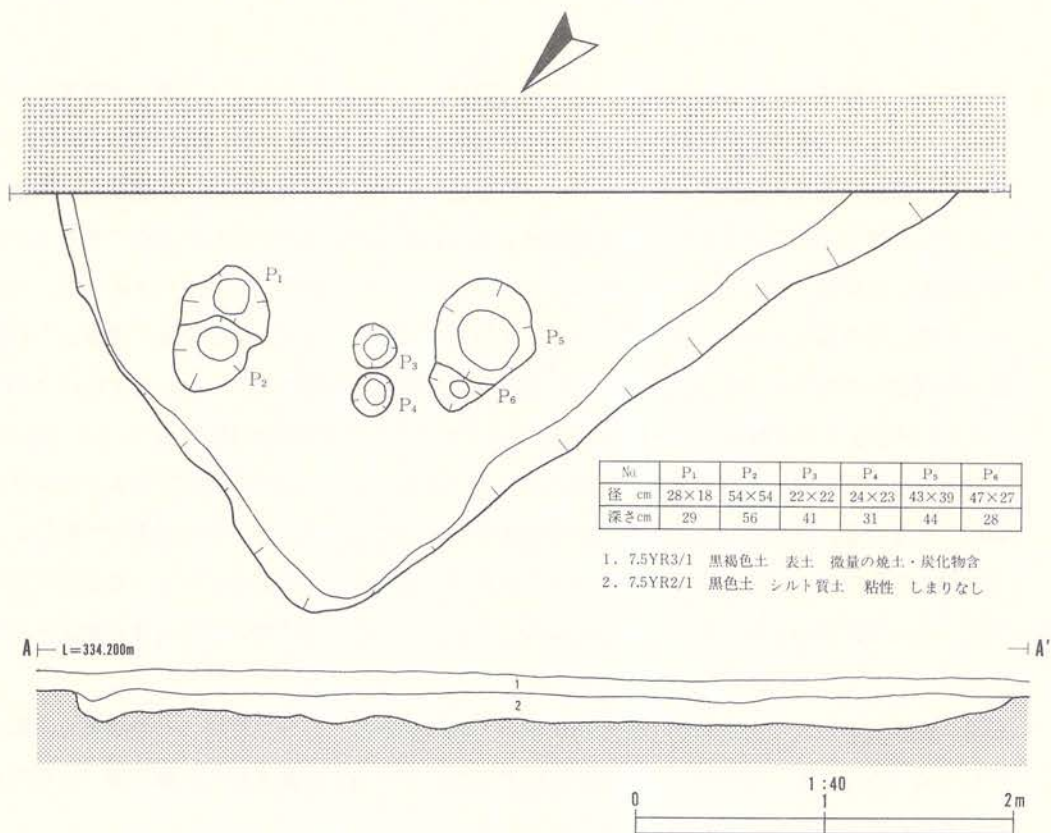
壁の高さは北西側で20cmを測る。床面は凹凸が著しく、平坦ではない。遺構に伴う柱穴や付属する施設は検出されなかった。

埋土は締まりのない黒色土の単層で柔らかく、近接する溝の上部の埋土に類似することから、時期的には新しい時期の遺構と考えられる。

〈遺物〉(第25・30図・写真図版30・48)

斜面の流入による堆積と思われる埋土と柱穴から出土した遺物である。

**土器** 38は撚紐の圧痕が施文された微隆帯で、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐の圧痕、胴部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。39は口縁部に太い撚紐の圧痕、地文に単節斜行縄文が施文されている。40は撚紐の圧痕が施された微隆帯で、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐の圧痕、胴部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。41は綾線文と羽状縄文が施文された深鉢形土器である。42は



No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
38	5号住・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、撚紐圧痕微隆帯、結束羽状縄文	ナデ	1群3類c	30
39	5号住・埋土	浅鉢	口縁部	撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類a	30
40	5号住・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕微隆帯、撚紐圧痕、結束羽状縄文	ナデ	1群3類b	30
41	5号住・埋土	深鉢	胴部	結束羽状縄文、縦線文	ナデ	1群6類	30
42	5号住・埋土	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	1群6類	30
43	5号住・埋土	深鉢	胴部	刺突隆帯（縄文施文）	ナデ	1群3類b	30
44	5号住・P <sub>1</sub>	深鉢	口縁部	撚紐圧痕	ナデ	1群7類a	30
45	5号住・P <sub>2</sub>	深鉢	胴部	撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	1群3類b	30
46	5号住・P <sub>3</sub>	深鉢	口縁部	刺突微隆帯、単軸絡条体圧痕文、結束羽状縄文	ナデ	1群3類c	30

第25図 第5号住居跡・出土遺物

不整撚糸文が施文され、胎土には微量の植物性繊維が含まれている。43は撚紐の施文された隆帯が貼付され、隆帯間には円形の刺突文が施されている。44は単節斜行縄文が施文され、その後撚紐の圧痕が施されている。45は胎土に微量の植物性繊維を含んでいる。撚紐の圧痕により幾何学文様が施文されている。46は刺突文が施された微隆帯で、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には単軸絡条体の圧痕による幾何学文様、胴部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。

石器（第30図、写真図版47）

石器 713,714の2点の不定形石器が出土している。これらの一側縁は急角度の剝離面を有している。713は図の上部、714は右側がその部分である。

## 第6号住居跡

〈遺構〉（第26図、写真図版6）

北端の斜面裾の3G区に位置し、切り土された断面に確認されたものである。壁際の位置部が残存するのみで、全容は把握できない。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は35cmである。床面は平坦であるが、付属する施設は検出されなかった。

埋土は焼土や炭化物粒を含む単層であり、遺物は出土していない。時期等も不詳である。

## 第7号住居跡

〈遺構〉（第26図、写真図版7）

19E区に位置する。東南側に延びる溝の精査中に、溝の底部と異なる土質が認められたことから遺構と確認された。

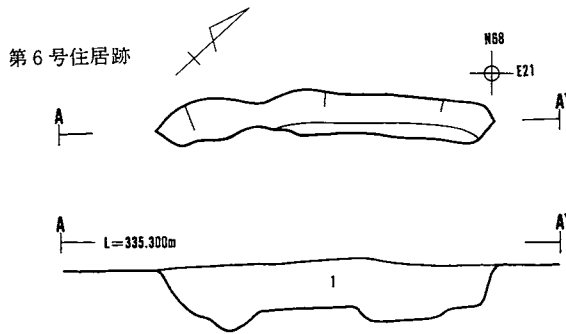
平面形はほぼ円形を呈し、直径4.5m、床面積は16m<sup>2</sup>である。壁は南西側が溝に切られて低くなる。残存部の壁高は41cmである。床面は平坦であり、3個の柱穴以外の施設は認められなかった。

埋土は一層のみ残存し、溝の影響を受けて全体に酸化鉄の集積があり、若干の炭化物粒が含まれる。

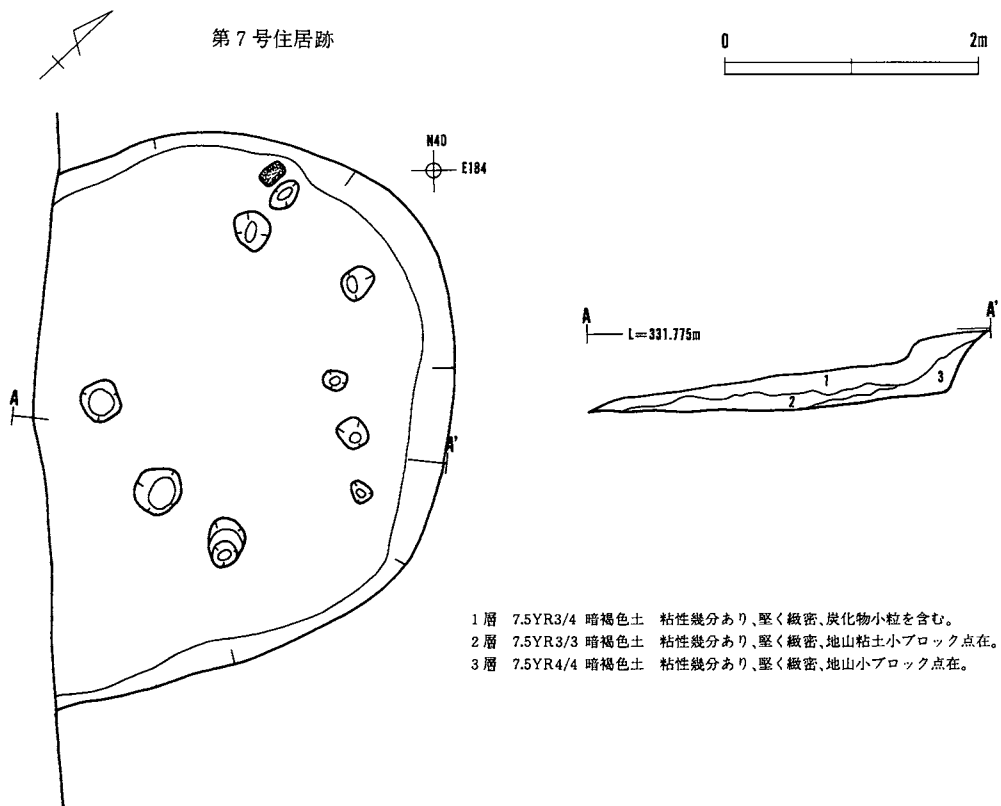
時期は、出土遺物から縄文時代前期後半以降に属するものと思われる。

〈遺物〉（第27・30図、写真図版30・48）

土器 47は深鉢形土器の口縁部であり、摩滅が著しいが、部分的に撚紐の圧痕文がみられる。48は単軸絡条体圧痕文が施文された深鉢形土器である。49は木目状撚糸文が施された深鉢形土器である。いずれも胎土に微量の植物繊維を含んでいる。

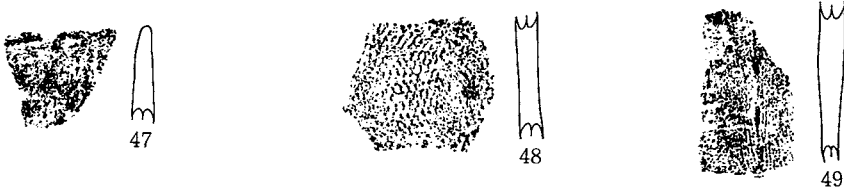


1層 7.5YR4/4 褐色土 強く緻密、微量の焼土・炭化物、土器片を含む。



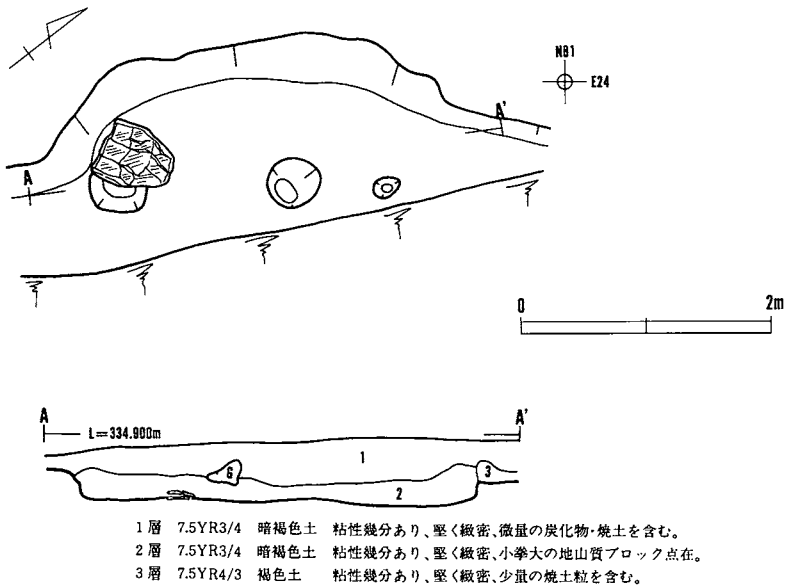
1層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性幾分あり、強く緻密、炭化物小粒を含む。  
 2層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性幾分あり、強く緻密、地山粘土小ブロック点在。  
 3層 7.5YR4/4 暗褐色土 粘性幾分あり、強く緻密、地山小ブロック点在。

第26図 第6・7号住居跡



No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
47	7号住・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、摩滅顯著	ナデ	I群6類	30
48	7号住・埋土	深鉢	胴部	多軸絡条体回転文	ナデ	I群6類	30
49	7号住・埋土	深鉢	胴部	木目状撚糸文	ナデ	I群6類	30

第27図 第7号住居跡出土遺物



第28図 第8号住居跡

石器 不定形石器5点であるが、2点は石匙の破片様のものである。

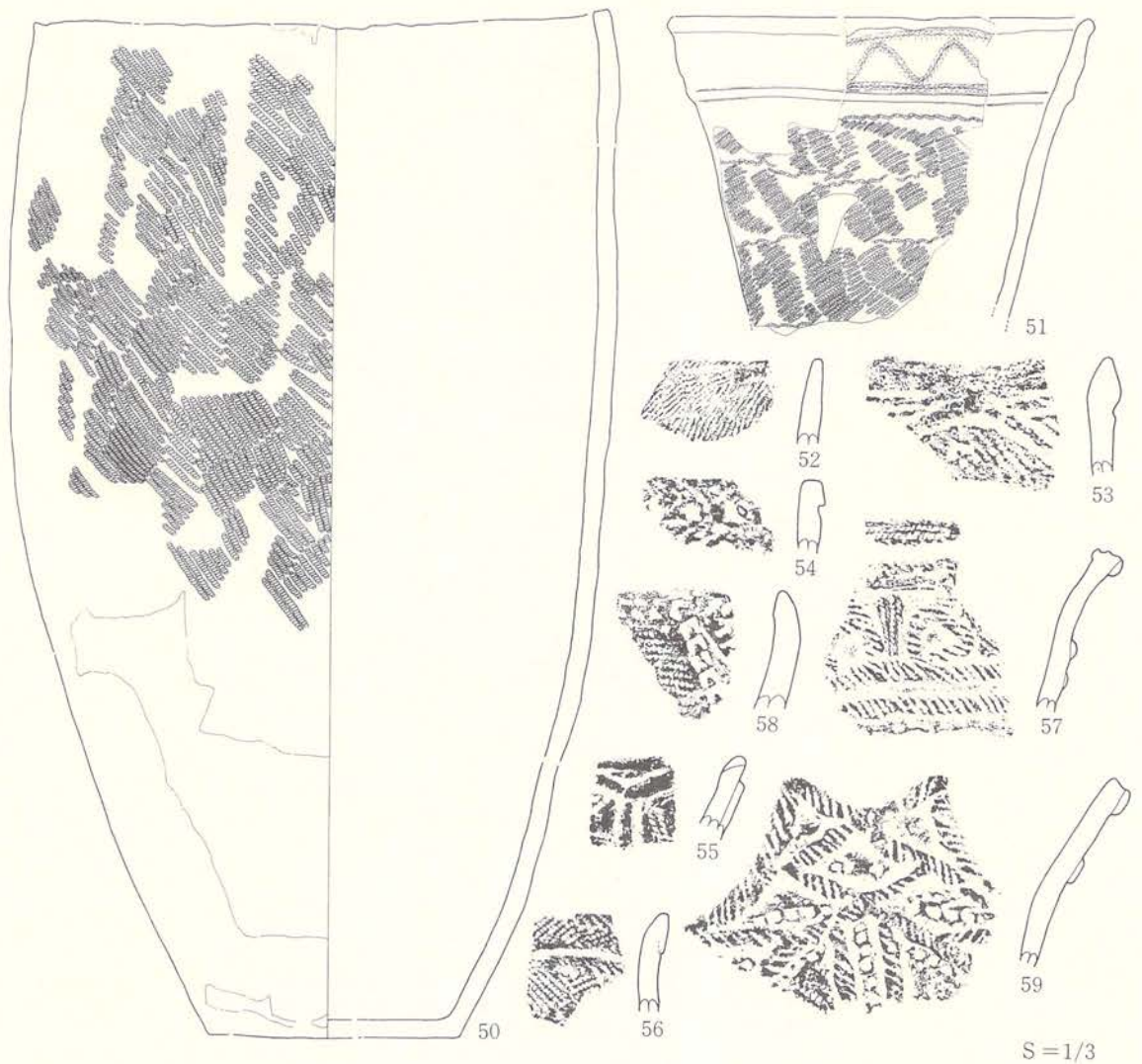
### 第8号住居跡

〈遺構〉(第28図、写真図版8)

3 I 区に位置し、第6号住居跡と同様に北端の斜面に断面で確認された遺構である。大部分が削平され、全容は不明である。

平面形は3カ月状に残存することからほぼ円形を呈するものと思われ、推定される直径は4.5m、面積は16㎡である。

壁は北西側を残して失われているが、ほぼ直に立ち上がり、壁高は72cmを測る。床面は4分の1程度であり、柱穴が北東側に検出されたほか、炉跡等の施設は不明である。



No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
50	8号住・床面	深鉢	口～底部	単節斜行縄文	ナデ	II群11類	28
51	8号住・埋土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、綾織文、撚紐圧痕（直線・波状）	ナデ	II群7類a	28
52	8号住・埋土	浅鉢	口縁部	単節斜行縄文、撚糸文	ナデ	II群11類	30
53	8号住・埋土	深鉢	口縁部	微隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	30
54	8号住・埋土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、三角状刺突文	ナデ	II群6類a	30
55	8号住・埋土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕	ナデ	II群7類b	30
56	8号住・埋土	深鉢	口縁部	折り返し口縁、結束羽状縄文	ナデ	II群6類c	30
57	8号住・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕隆帯、撚紐圧痕	ナデ	II群1類a	30
58	8号住・埋土	深鉢	口縁部	刻目隆帯、横走縄文、半截竹管刺突文	ナデ	II群6類a	30
59	8号住・埋土	深鉢	口縁部	弁状突起、撚紐圧痕隆帯、無文、円形刺突文	ナデ	II群4類b	30

第29図 第8号住居跡出土遺物

埋土は微量の炭化物や焼土を含む2層であるが、他は削平された後の再堆積層と思われる。時期は、床面から出土した土器から縄文時代中期初頭と考えられる。

〈遺物〉(第29・30・35図、写真図版28・30・48・49)

土器 50は大型の深鉢形土器である。器全体に単節斜行縄文が施文されている。51は口縁部が外傾する深鉢形土器である。口縁部文様帯と胴部文様帯は、粘土のつまみ出した微隆帯で区画されている。口縁部文様帯には撚紐の圧痕によって平行文・連続波状文が施され、胴部は単節斜行縄文を地文とし、横位綾線文が施文されている。52は口縁部付近に撚糸文、その直下には単節斜行縄文が施文されている。53は単節斜行縄文を地文とし、撚紐の厚痕と微隆帯により波状文が施文されている。54は単節斜行縄文を地文とし、口縁部には三角状の刺突文が施されている。55は隆帯とそれに沿うように撚紐の圧痕文が施文されている。56は折り返し口縁状で、地文として単節斜行縄文が施文されている。57は弁状突起状の口縁部である。口唇部・太い隆帯上・隆帯の間には撚紐の圧痕文が施文されている。58は地文に単節斜行縄文が施文され、貼付帯と半蔵竹管様工具による刺突文で文様が構成されている。59は弁状突起を持つ深鉢形土器の口縁部である。撚紐の圧痕文が施文された太い隆帯が貼付され、その間は円形の刺突文が施される。地文単節斜行縄文である。

石器 不定形石器4点、石篋1点、凹石1点である。不定形石器はいずれも1側辺を使用しているものであり、凹石は背面に擦痕があることから擦石として使用された可能性がある。

## 第9号住居跡

〈遺構〉(第32図、写真図版8・9)

1 I 区に位置し、調査区域外に続く焼土が検出され、土器の出土状況から住居跡と確認したものである。第10号住居跡と重複し、本遺構がこれを切って構築されている。

3分の1が調査区域外に続き、3分の1が削平されているため、全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。推定される規模は長軸方向で6.0m、短軸方向で4.0m、推定面積は20㎡である。

壁高は96cm、床面は平坦である。炉は地床炉で若干の焼土が認められたが、他の付属施設は確認されなかった。

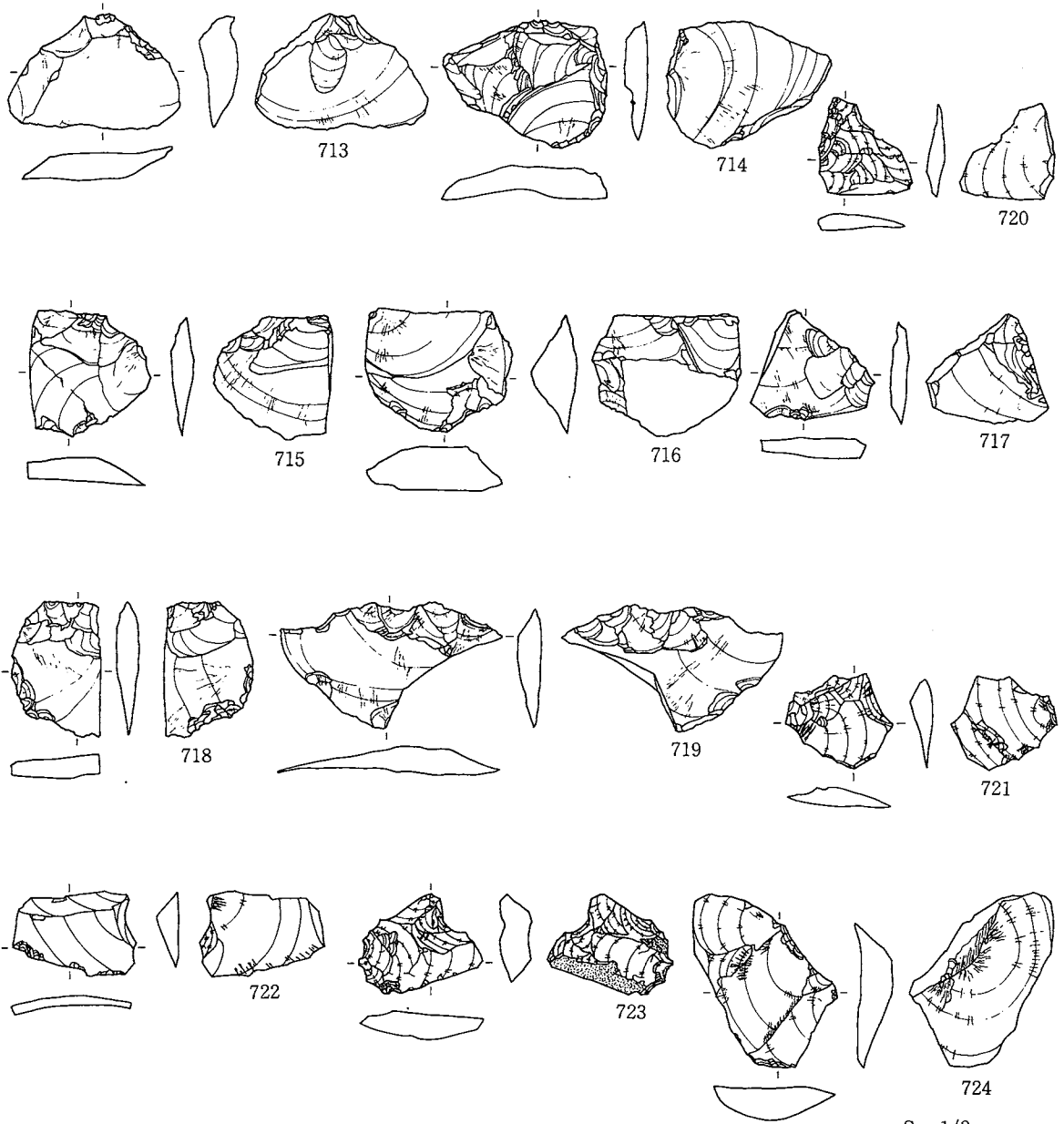
埋土は堆積の過程で流失と堆積が繰り返されたものと思われる。

時期は、出土遺物から縄文時代中期に位置付けられる。

〈遺物〉(第31図、写真図版28・30)

土器 60は斜行する撚糸文が施文され、胴部最大径を下半にもつキャリパー形の深鉢形土器である。口縁部文様帯には粘土紐による4単位の横方向の長楕円文が施されている。61は細い粘土紐貼付による渦巻文が施されている。62は隆帯が貼付され、地文は単節斜行縄文である。63は単節斜行縄文が施文された深鉢形土器の胴部である。



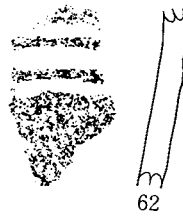
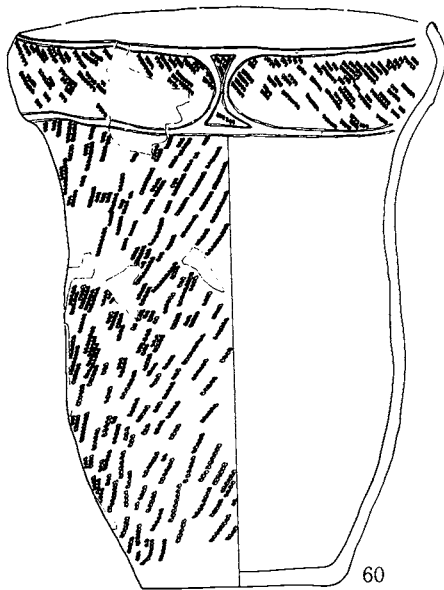
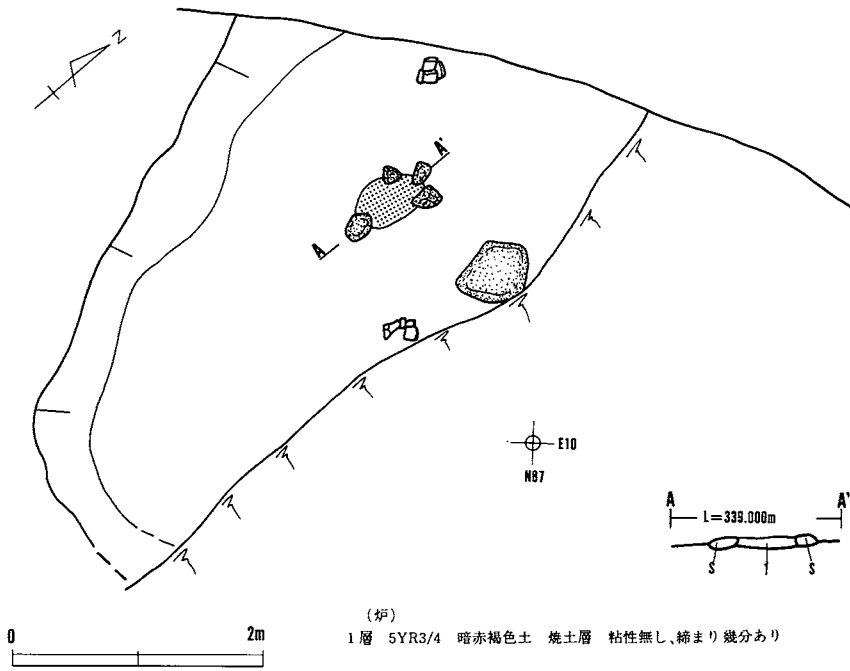


S = 1/2

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
713	搦器		33	50	10	17.3	5号住 埋土上部	珪質泥岩	一部欠損		48	298
714	不定形石器 (一)		37	48	7	14.2	5号住 埋土上部	流紋岩質細粒凝灰岩			48	299
715	不定形石器 (一)		37	35	7	11.6	7号住 埋土下部	珪質泥岩			48	300
716	不定形石器 (一)		36	43	13	18.6	7号住 埋土下部	硬質泥岩			48	301
717	不定形石器 (一)		32	36	5	7.9	7号住 埋土下部	粘板岩		未成品的	48	302
718	不定形石器 (二)		39	26	7	8.8	7号住 埋土下部	硬質泥岩		石匙の破片?	48	303
719	不定形石器 (二)		36	64	7	13.5	7号住 埋土下部	硬質泥岩		303と同様	48	304
720	不定形石器 (一)		29	27	5	2.9	8号住 埋土下部	珪質泥岩		先端部使用	48	306
721	不定形石器 (一)		28	31	7	4.2	8号住 埋土下部	粘板岩			48	305
722	不定形石器 (一)		25	36	7	5.6	8号住 埋土下部	硬質泥岩			48	310
723	石筥		29	36	8	7.3	8号住 埋土下部	珪質泥岩	破片		48	307
724	不定形石器 (一)		50	42	9	17.4	8号住 埋土下部	硬質泥岩			48	308

第30図 第5・7・8号住居跡出土遺物





Na	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
60	9号住・埋土	深鉢	口~底部	燃糸文、楕円形状粘土紐貼付	ナデ	II群8類a	28
61	9号住・床面	深鉢	口縁部	粘土紐貼付	ナデ	II群4類d	30
62	9号住・床面	深鉢	胴部上半	単節斜行縄文、隆帯	ナデ	II群8類b	30
63	9号住・床面	深鉢	胴部	単節斜行縄文	ナデ	II群11類	30

第31図 第9号住居跡・出土遺物

石器 フレークが数点出土している。

## 第10号住居跡

〈遺構〉(第32図・写真図版9)

1 I 区に位置し、第9号住居跡に切られて検出された住居跡である。第9号住居跡よりやや広く、平面形は楕円形を呈すると思われる。推定される規模は長軸方向で7.0m、短軸方向で5.0m、面積は28㎡である。

壁は第9号住居跡の南側と南西側に続き、床面は平坦であるが、壁際にやや高くなる。炉石が1個認められたことから石囲い炉と思われ、焼成の強い焼土が形成されている。柱穴等是不明である。

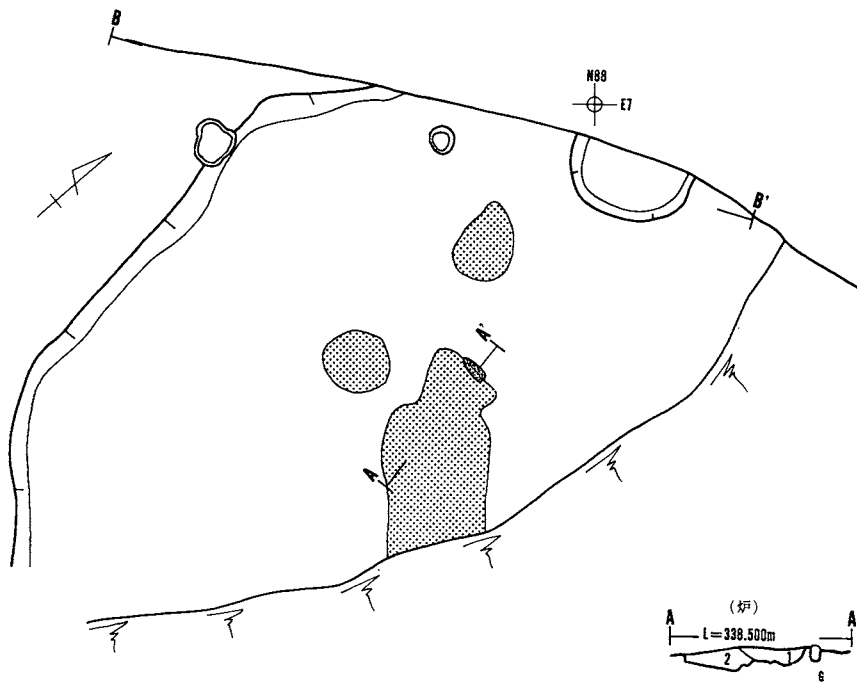
埋土には焼土の散乱が目立ち、焼失した可能性もあげられる。

時期は、床面から出土した遺物から縄文時代前期末葉から中期初頭と考えられる。

〈遺物〉(第33・34・35図、写真図版28～30・49)

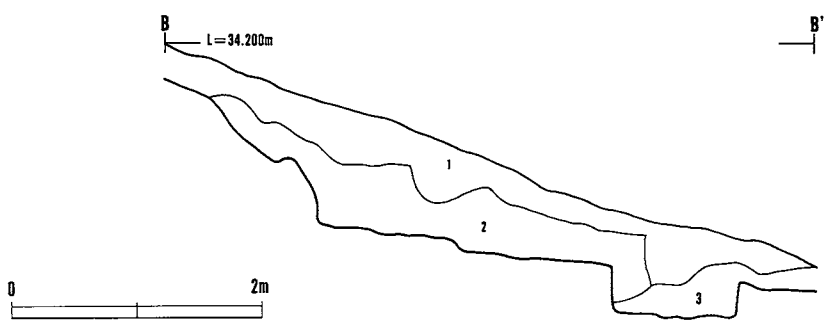
土器 64は4波状口縁を呈し、波頂部から縦の隆帯が貼付された大型の深鉢形土器である。頸部に横位の綾線文が施文され、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口唇部及び頸部の隆起部分には刻目が施され、その間には撚紐の圧痕が施されている。胴部には縦方向の結束羽状縄文が施文されている。65は折り返し口縁をもち、口縁部が外傾する深鉢形土器である。胴部には単節斜行縄文と横位綾線文が施文されている。66は単節斜行縄文と縦位の綾線文が施文された深鉢形土器である。底部には網代痕跡が認められる。67は単節斜行縄文と縦位の綾線文が施文された深鉢形土器である。68は波状口縁を呈する深鉢形土器である。撚紐の圧痕が施文された太く低い隆帯、さらに隆帯の上下にも撚紐の圧痕が施文されている。69は単節斜行縄文を地文とし、微隆線と沈線の併用で直線文、渦巻文が施文されている。70は単節斜行縄文と横位の綾線文が施文されている。71は微隆帯で口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐の圧痕文、胴部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。72は折り返し口縁を持つ深鉢形土器である。頸部には刻目のある隆帯、口縁部には斜位の短沈線が施されている。73は口縁部に三角形彫刻文、胴部に縦位綾線文が施文されている。74は刺突文の施された微隆帯で口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部には撚紐の圧痕文、胴部には撚糸文が施文されている。75は口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部には単軸絡条体圧痕文、胴部には木目状撚糸文が施文されている。76は口縁部に撚紐の圧痕によって幾何学文様が施文されている。77は胴部に附加条付の結束羽状縄文、78・79は木目状撚糸文が施文されている。

石器 フレーク数点と火熱をうけた角柱状の石棒が出土している。



10 (炉)

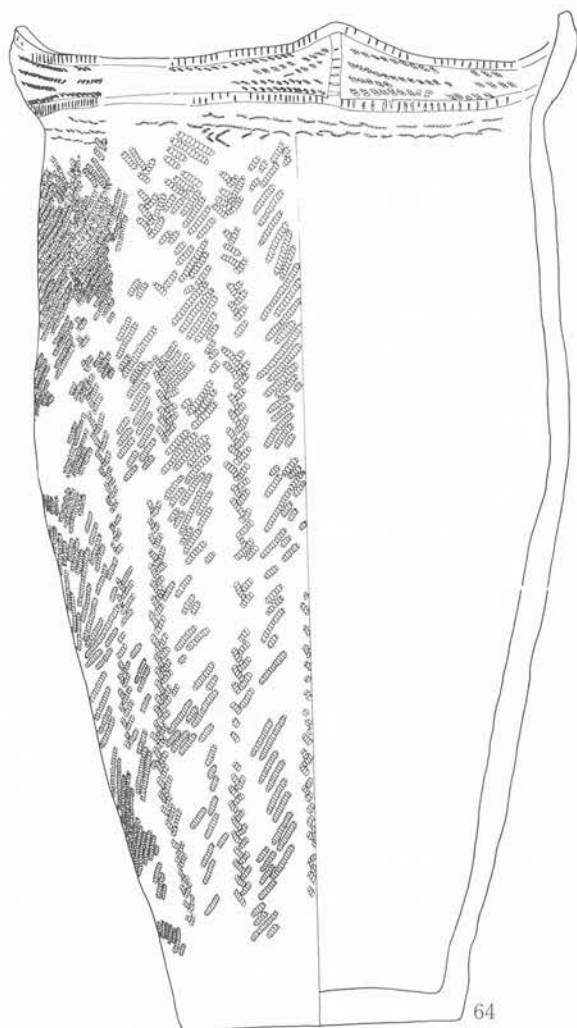
- 1層 5YR4/6 赤褐色土 焼土 粘性幾分有り、固く緻密。
- 2層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性幾分有り、締まり有り、若干量の焼土を含む。



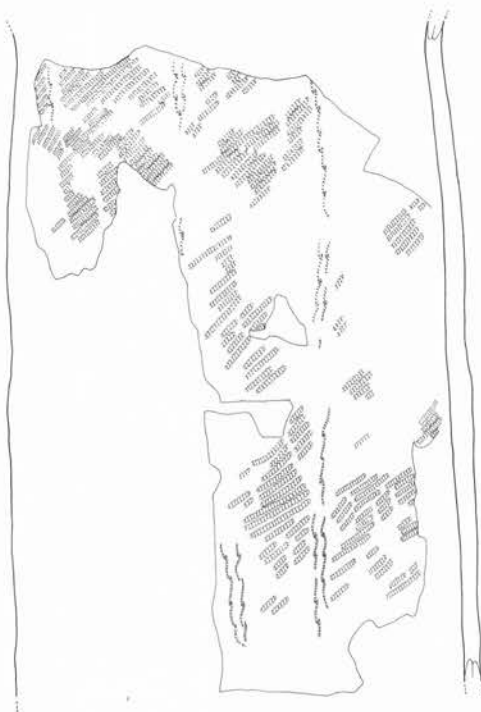
第9・10号住(断面)

- 1層 7.5YR2/1 黒色土 粘性締まり無し、黒ボク土。
- 2層 7.5YR4/3 褐色土 堅く緻密、微量の焼土・炭化物、地山質ブロックを含む。
- 3層 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性無し締まり大、微量の焼土・地山質ブロックを含む。

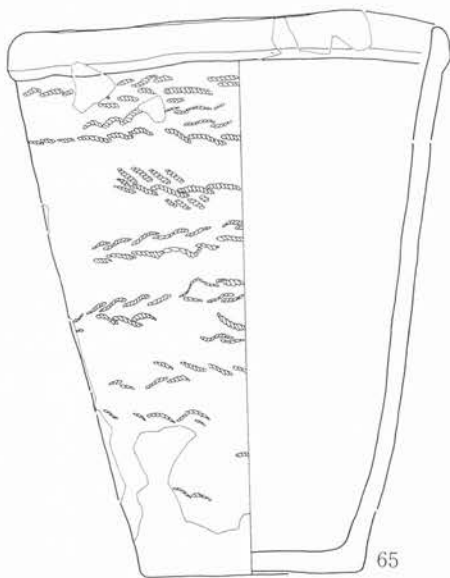
第32図 第10号住居跡



64



67



65

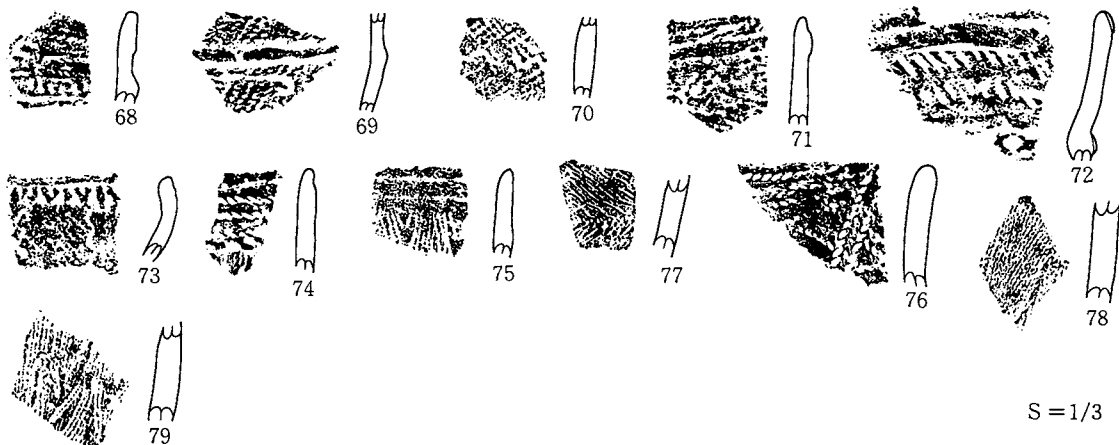


66

S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
64	10号住・床面	深鉢	口～底部	刻目、貼付帯、撚紐圧痕、綾織文、羽状織文	ナデ	I群3類d	28
65	10号住・床面	深鉢	口～底部	綾織文、単節斜行織文	ナデ	II群6類c	29
66	10号住・床面	深鉢	胴部下半	綾織文、単節斜行織文、底部網代痕有	ナデ	II群6類	29
67	10号住・埋土下部	深鉢	胴部	綾織文、単節斜行織文	ナデ	II群6類	29

第33図 第10号住居跡出土遺物(1)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
68	10号住・炉内	深鉢	口縁部	撚紐圧痕隆帯、隆帯間撚紐圧痕	ナデ	II群1類a	30
69	10号住・炉内	深鉢	胴部	微隆帯、単節斜行縄文、沈線文	ナデ	II群8類a	30
70	10号住・炉内	深鉢	胴部	単節斜行縄文、綾線文	不明	II群11類	30
71	10号住・床面	深鉢	口縁部	微隆帯、撚紐圧痕、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	30
72	10号住・埋土下部	深鉢	口縁部	刻目隆帯、斜位短沈線	ナデ	II群6類a	30
73	10号住・埋土下部	深鉢	口縁部	三角形彫刻文、綾線文、沈線	ナデ	II群6類a	30
74	10号住・埋土下部	深鉢	口縁部	刺突微隆帯、撚紐圧痕、単軸絡条体回転文	ナデ	I群3類b	30
75	10号住・埋土下部	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕文、木目状捺糸文	ナデ	I群3類b	30
76	10号住・脇Pit	深鉢	口縁部	撚紐圧痕（幾何学文様）	ナデ	I群3類c	30
77	10号住・脇Pit	深鉢	胴部	結束羽状縄文（附加条付）	ナデ	II群11類	30
78	10号住・脇Pit	深鉢	胴部	木目状捺糸文	ナデ	I群6類	30
79	10号住・脇Pit	深鉢	胴部	木目状捺糸文	ナデ	I群6類	30

第34図 第10号住居跡出土遺物(2)

### 第11号住居跡

〈遺構〉(第36図、写真図版10)

北端平坦面の2K区に位置し、第13号住居跡の下位から検出された。

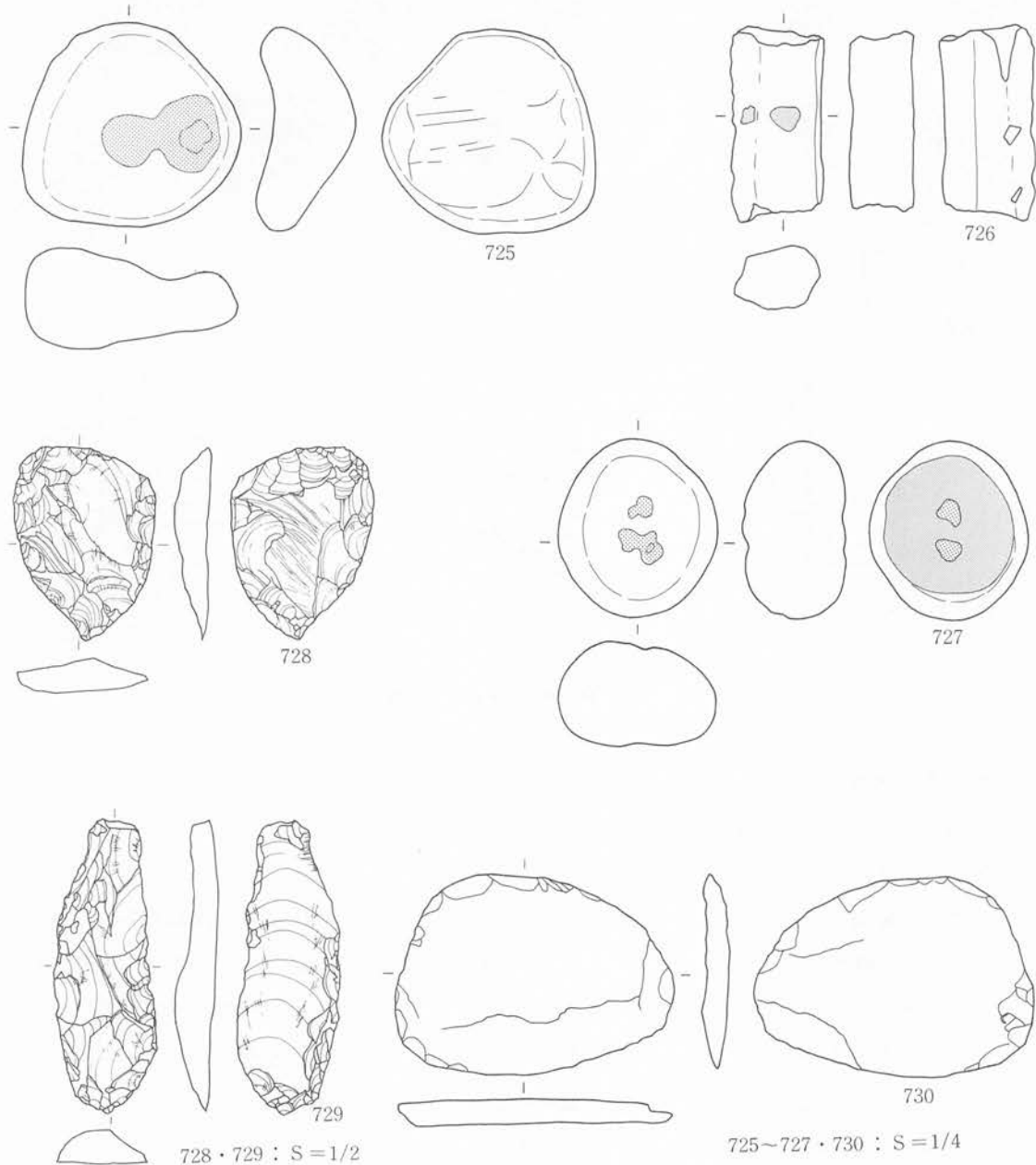
平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸方向で3.0m、短軸方向で2.2mである。壁高は37~28cmを測り、西壁がやや高い。床面は比較的平坦であるが、北側に10cm程高いベンチ状の平坦な面がみられる。中央部に浅皿状の凹みが認められるが、特に熱を受けた痕跡は認められず、灼跡に相当するものではない。柱穴はP<sub>1</sub>~P<sub>6</sub>でありこのうちの4個は各隅の壁に接している。

埋土は、焼土・炭化物混じりの比較的堅い暗褐色土が主体である。

時期は、出土遺物から縄文時代前期に比定される。

〈遺物〉(第37図、写真図版31)

土器 3点とも埋土からの出土である。80は口縁部文様帯と胴部文様帯が刺突の施された微隆帯によって区画されている。口縁部文様帯には撚紐の側面圧痕、胴部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。胎土に微量の植物性繊維が含まれている。81は木目状捺糸文が施文された深鉢形土器の胴部である。胎土に微量の植物性繊維が含まれている。82は結束羽状縄文が施文されている。



No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
725	凹石		116	125	47	855.0	8号住 埋土下部	両輝石安山岩			49	458
726	石棒		112	53	37	325.0	10号住 (P埋土)	流紋岩	一部欠損		49	492
727	凹石		102	91	59	755.0	10号住 (P埋土)	両輝石安山岩			49	456
728	削器		56	41	10	20.6	1号土坑 (E)埋土	硬質泥岩			49	502
729	石筥		84	29	11	27.7	1号土坑 (S)埋土	粘板岩	一部欠損		49	501
730	半円状偏平打製石器		160	115	14	385.0	1号土坑 埋土	両輝石安山岩		下側辺が鋭角	49	447

第35図 第8・10号住居跡・1号土坑出土遺物





第36図 第11～19号住居跡

## 第12号住居跡

〈遺構〉(第36図、写真図版31)

北端平坦面の3 K区に位置し、大半が調査区域外に伸びている。遺構の一部を検出し、第13・16号住居跡の精査中に確認された住居跡である。重複する第16号遺跡より新しいが、第13号住居跡との新旧関係は不明である。

平面形は直径の5.0m前後の円形を呈するものと思われる。壁高は残存する西側で15cmを測る。床面は平坦で、比較的堅い。柱穴はP<sub>7</sub>～P<sub>10</sub>が検出されたが、この住居跡に関係するのはP<sub>7</sub>・P<sub>8</sub>である。

埋土は焼土が若干混じった暗褐色土である。遺物は出土していないが、縄文時代前期後半に比定される。

## 第13号住居跡

〈遺構〉(第36図、写真図版10)

北端平坦面の2 J・K区に位置し、基本層序II層の暗褐色土を除去して検出された。第11・19号住居跡と重複し、いずれの住居跡より新しい。

平面形は長方形または隅丸長方形を呈し、規模は長辺が8.0m、短辺が4.0m程と推定される。壁高は残存する西側で40cm、南側で25cmを測る。住居跡の長軸線上に並ぶ現地性の焼土が3カ所検出されており、No.1・2が炉跡に相当する。柱穴はP<sub>11</sub>～P<sub>21</sub>が検出されており、P<sub>11</sub>～P<sub>19</sub>は壁に接している。

埋土は地山に類似した堅い褐色土であり、微量の炭化物・焼土を含んでいる。

時期は、出土遺物から縄文時代前期後半に比定される。

〈遺物〉(第37図、写真図版31)

土器 83は炉の焼土内から出土している。刺突文が施された微隆帯で、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には単軸絡条体圧痕文、胴部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。85～89は埋土内からの出土である。84は、刺突文が施された微隆帯で口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐の圧痕文、胴部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。85は口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には単軸絡条体圧痕文および横位綾線文、胴部文様帯には木目状撚糸文が施文されている。86は刺突文が施された微隆帯で、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐の圧痕、胴部文様帯には木目状撚糸文が施文されている。87は口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐の圧痕文、胴部文様帯には木目状撚糸文が施文されている。88は木目状撚糸文が口縁部上半から施文されている。89は撚紐の圧痕文で口縁部文



様帯と胴部文様帯が区画され、口縁部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。90は多軸絡条体圧痕文、91は単節斜行縄文、92は結束羽状縄文がそれぞれ施文されている。

#### 第14号住居跡

〈遺構〉(第36図、写真図版11・13)

北端平面の3 K区に位置し、II層の暗褐色土を掘り下げている過程で壁と床面、柱穴の一部を検出したものである。第16・18号住居跡と重複し、第16号住居跡より新しく第18号住居跡との関係は不明である。

平面形は、柱穴・炉の配置から直径5.0mの円形または不整形円形を呈していたものと推定される。壁は西側のみ残存し、壁高は12cmである。炉はほぼ中央部に位置し、地面をほりくぼめた地床炉である。柱穴はP<sub>22</sub>～P<sub>26</sub>が相当するものと思われる。他の柱穴については不明である。

埋土は、炭化物・焼土混じりの褐色土である。

時期は、出土遺物から縄文時代前期後半に比定される。

〈遺物〉(第37図、写真図版31)

土器 93は炉の中から出土している。口縁部文様帯と胴部文様帯が区画され、口縁部文様帯には撚紐の圧痕・刺突文が、胴部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。他はすべて埋土からの出土である。94は口縁部文様帯と胴部文様帯が区画され、口縁部文様帯には撚紐の圧痕文が施文されている。95、96は口縁部文様帯に単軸絡条体圧痕文により幾何学文様が施文されている。97は単節斜行縄文、98は単節斜行縄文が胴部に施文されている。

#### 第15号住居跡

〈遺構〉(第36図、写真図版12)

北端平坦面の3 K区に位置し、II層の暗褐色土を掘り下げている過程で炉跡と、壁・柱穴の一部を検出したものである。北端斜面を取り巻くように位置する溝と重複しており、溝よりも古い。

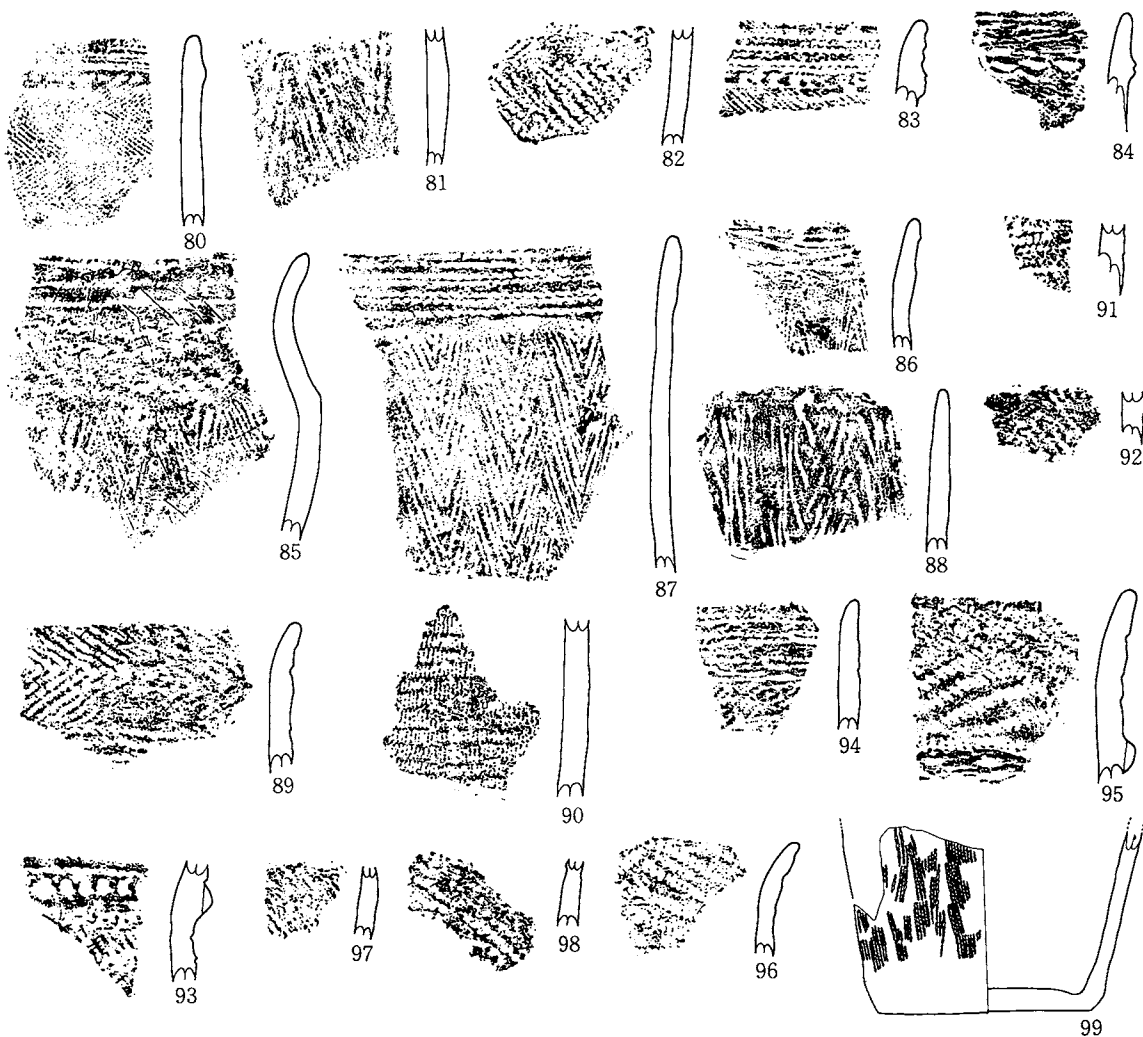
形状や規模は不明であり、壁は残存する北側で5 cmである。炉は深鉢形土器を正立に埋設した形態であるが、土器は胴部上半を欠いている。埋土土器は良く熱を受けており、非常に脆弱である。柱穴P<sub>27</sub>・P<sub>28</sub>が伴うものと考えられる。

埋土は、褐色土をブロック状に含んだ炭化物混じりの暗褐色土が主体である。

時期は、炉の埋設土器と埋土から出土している遺物から縄文時代前期後半に比定される。

〈遺物〉(第37・38図、写真図版29・31)

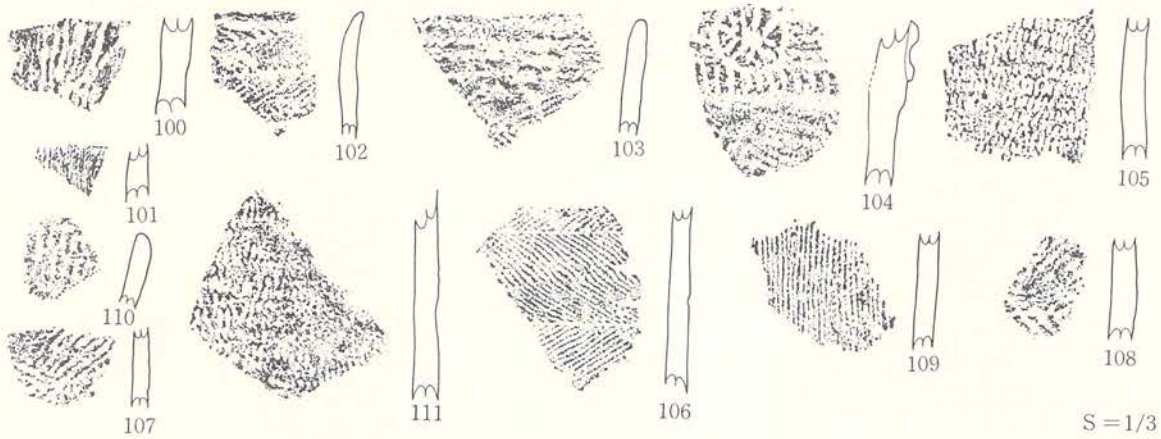
土器 99は炉に埋設されていた深鉢形土器である。木目状撚糸文が施文された胴部下半が残存している。100は撚糸文、101は木目状撚糸文が施文され、両者とも胎土に微量の植物性繊維を



S=1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
80	11号住・埋土	深鉢	口縁部	刺突微隆帯、撚紐圧痕、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	31
81	11号住・埋土	深鉢	胴部	木目状捺糸文	ナデ	I群3類	31
82	11号住・埋土	深鉢	胴部	結束羽状縄文	ナデ	I群6類	31
83	13号住・炉内	深鉢	口縁部	刺突微隆帯、単軸絡条体圧痕文、結束羽状縄文	ミガキ	I群3類b	31
84	13号住・柱穴	深鉢	口縁部	刺突微隆帯、撚紐圧痕、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	31
85	13号住・埋土	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕文、縦線文、木目状捺糸文	ナデ	I群3類c	31
86	13号住・埋土	深鉢	口縁部	刺突微隆帯、撚糸圧痕、木目状捺糸文	ナデ	I群3類b	31
87	13号住・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、木目状捺糸文	ナデ	I群3類b	31
88	13号住・埋土	深鉢	口縁部	木目状捺糸文	ナデ	I群3類b	31
89	13号住・埋土	深鉢	口縁部	結束羽状縄文、撚紐圧痕	ミガキ	I群1類c	31
90	13号住・柱穴	深鉢	胴部	多軸絡条体圧痕文	ナデ	I群6類	31
91	13号住・柱穴	深鉢	胴部	単節斜行縄文	ナデ	I群6類	31
92	13号住・柱穴	深鉢	胴部	結束羽状縄文	ナデ	I群6類	31
93	14号住・炉内	深鉢	口縁部	竹管刺突微隆帯、撚紐圧痕、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	31
94	14号住・柱穴	深鉢	口縁部	撚紐圧痕	ナデ	I群3類b	31
95	14号住・柱穴	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕文、刺突微隆帯	ミガキ	I群3類c	31
96	14号住・柱穴	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕文	ナデ	I群3類c	31
97	14号住・柱穴	深鉢	胴部	単節斜行縄文	ナデ	II群11類	31
98	14号住・柱穴	深鉢	胴部	単節斜行縄文	ナデ	I群6類	31
99	15号住・炉埋設土器	深鉢	胴～底部	木目状捺糸文	ナデ	I群6類	29

第37図 第11・13・14・15住居跡出土遺物



No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
100	15号住・柱穴	深鉢	胴部	単軸絡糸体回転文	ナデ	I群6類	31
101	15号住・柱穴	深鉢	胴部	木目状燃糸文	ナデ	I群6類	31
102	18号住・埋土	深鉢	口縁部	撻紐圧痕、羽状縄文	ナデ	I群3類b	31
103	18号住・埋土	深鉢	口縁部	撻紐圧痕、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	31
104	18号住・埋土	深鉢	口縁部	撻紐圧痕隆帯、単節斜行縄文	ナデ	I群3類d	31
105	18号住・埋土	深鉢	胴部	多軸絡糸体回転文	ナデ	I群6類	31
106	19号住・柱穴	深鉢	胴部	結束羽状縄文	ナデ	I群6類	31
107	19号住・柱穴	深鉢	胴部	結束羽状縄文	ナデ	I群6類	31
108	19号住・柱穴	深鉢	胴部	結束羽状縄文	ナデ	I群6類	31
109	19号住・柱穴	深鉢	胴部	縦走燃糸文	ミガキ	I群6類	31
110	19号住・柱穴	深鉢	胴部	爪形圧痕文	ナデ	II群6類a	31
111	19号住・柱穴	深鉢	胴部	多軸絡糸体回転文	ナデ	I群6類	31

第38図 第15・18・19号住居跡出土遺物

含んでいる。

### 第16号住居跡

〈遺構〉(第36図、写真図版11)

北端平坦面の3K区に位置する。北端平坦面の基本層序第III層の褐色土を掘り下げている過程で一部が検出された。第12・14・18号住居跡と重複し、本遺構がいずれの住居跡より古い。

平面形は残存する壁の一部から不整円形を呈するものと思われ、壁高は西側で8cm、北側で11cmを測る。P<sub>29</sub>・P<sub>30</sub>が柱穴の一部と考えられる。

埋土は、炭化物・焼土を僅かに含んだ堅い黒褐色土である。

遺物は出土していないが、時期は縄文時代前期に比定される。

### 第17号住居跡

〈遺構〉(第36図、写真図版13)

北端平坦面の2K区に位置し、第13号住居跡の精査中に焼土、壁と柱穴の一部が検出された。第13号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

平面形は、円形ないし不整円形を呈するものと思われる。壁高は残存する西側で13cmである。床面から現地性の焼土が2カ所で検出されており、北側に位置する焼土が地床炉に相当すると思われる。P<sub>31</sub>～P<sub>34</sub>が柱穴の一部と考えられる。

埋土は、炭化物・焼土混じりの堅い暗褐色土である。

遺物は出土していないが、第13号住居跡との関係から時期は縄文時代前期に比定される。

#### 第18号住居跡

〈遺構〉(第36図、写真図版12)

北端平坦面の3K区に位置する。第14号住居跡精査中に壁と周溝の一部が検出された。第14・16号住居跡と重複しており、第16号住居跡より新しく、第14号住居跡より古い。

平面形は円形を呈すると思われるが、規模については不明である。残存する北壁は、第14号住居跡の床面から30cmを測る。壁際を周溝が巡り、床面からの深さは20cmを測る。

埋土は、地山の土に類似した褐色土が多量に入り込んだ暗褐色土である。

時期は、周溝内などから出土している遺物から縄文時代前期後半に比定される。

〈遺物〉(第38図、写真図版31)

**土器** 102・103は口縁部に撚紐の側面圧痕、地文に結束羽状縄文が施文されている。104は口縁部文様帯と胴部文様帯が隆帯により区画されている。区画帯と口縁部内の円形の隆帯上には撚紐の圧痕が施文されている。105は地文として多軸絡条体の圧痕文が施文されている。4点とも胎土に微量の植物性繊維が含まれている。

#### 第19号住居跡

〈遺構〉(第36図、写真図版14)

北端平坦面の2J区に位置する。壁や床面は確認されなかったが、柱穴の配置から遺構としたものである。第11・13号住居跡と重複しており、第13号住居跡より古い。第11号住居跡との新旧関係は不明である。

P<sub>36</sub>～P<sub>40</sub>の5個の支柱穴で5角形状の柱穴構成をしていたものと思われる。一般に柱穴は深く、埋土は炭化物・焼土を比較的多く含む褐色土～暗褐色土のものが多い。

時期は、柱穴から出土している遺物から縄文時代前期後半に比定される。

〈遺物〉(第38図、写真図版31)

**土器** 柱穴の埋土から出土している。106・107・108は結束羽状縄文、109は浅い爪形文、111は多軸絡条体圧痕文が施文されている。

## 2. 土坑

### 第1号土坑

〈遺構〉(第39図、写真図版15)

3F区に位置し、直径50cm程の小さい落込みで検出された。

平面形はほぼ円形を呈し、断面はフラスコ状である。開口部の直径は1.50m、底部の径は1.60mである。検出面からの深さは69cmである。底部はほぼ水平であり、中央部に直径50cm、深さ31cmの副穴がある。埋土は炭化物や焼土を含み、短期間に堆積したと考えられる層相である。

時期は出土遺物から縄文時代前期中葉から中期初頭に位置付けられ、副穴をもつことから陥し穴の可能性が高い。

〈遺物〉(第40図、写真図版32・37)

**土器** すべて埋土からの出土である。112は深鉢形土器である。口縁部が欠損しており、全容は不明である。口縁部文様帯と胴部文様帯が横位の撚紐の圧痕により区画されている。胴部上半には結束の羽状縄文、下半には縦位の撚糸文が施されている。底部はやや上げ底風となっている。胎土に微量の植物性繊維を含んでいる。113は深鉢形土器の口縁部である。口唇部には刺突、口縁部は隆帯上に縦位の撚紐の圧痕、胴部上半には単節斜行縄文が施されている。114は波状頂部に円孔が穿たれた深鉢形土器の口縁部である。口唇部には深い沈線が施文され、口縁部と胴部の境には円形の浅い刺突が施される。115と116は非結束の羽状縄文が施文された深鉢形土器の胴部である。両者とも胎土に微量の植物性繊維を含んでいる。117は胴部に木目状撚糸文、118は胎土に微量の植物性繊維を含み胴部に多軸絡条体の圧痕文が施文されている。

**石器** 3点が出土している。730の半円状偏平打製石器は下辺が鋭角であり、他と様相を異にしている。

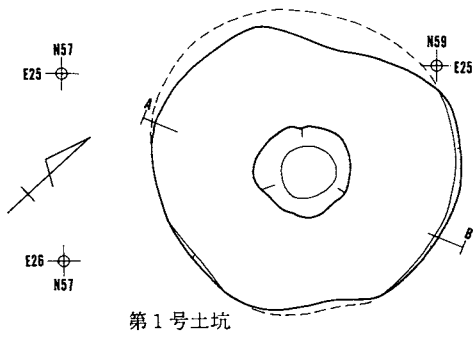
### 第2号土坑

〈遺構〉(第39図、写真図版15)

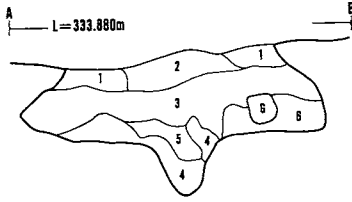
斜面裾の3F区に位置し、カッティング面に検出された。第4・5号土坑と重複し、第4号土坑より新しく、第5号土坑より古い。

平面形はほぼ円形を呈し、断面形はフラスコ状である。開口部の直径は1.30m、底部の直径2.00m、検出面からの深さは89cmである。壁は内傾している。底部は平坦であるが、東側にやや傾斜している。埋土は中央部に腐植質土がみられ、河原石が含まれるが、石は使用痕など認められず使用に伴うものと考えられない。

時期は出土遺物から縄文時代中期中葉以降に位置付けられる。

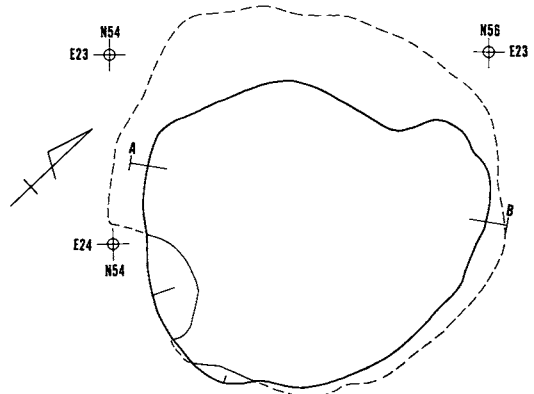


第1号土坑

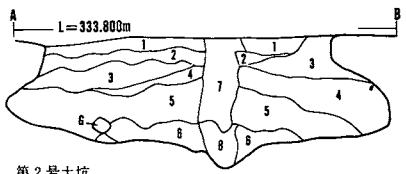


第1号土坑

- 1層 7.5YR4/4 褐色粘土 地山の再堆積層、固く緻密である。微量の炭化物・焼土を含む。
- 2層 7.5YR3/3 暗褐色シルト 固く緻密である。微量の炭化物・焼土を含む。
- 3層 7.5YR3/2 黒褐色シルト 固く緻密である。大粒の炭化物・焼土を含む。
- 4層 7.5YR4/4 褐色粘土 地山の再堆積層（壁の崩落土）、固く緻密である。
- 5層 7.5YR3/3 暗褐色シルト 固く緻密である。炭化物・焼土を含む。
- 6層 7.5YR3/4 暗褐色シルト 固く緻密である。炭化物・焼土を含む。

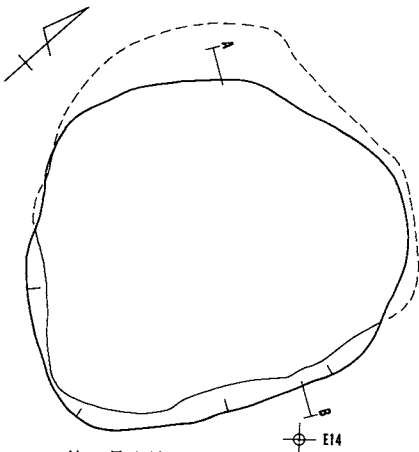


第2号土坑

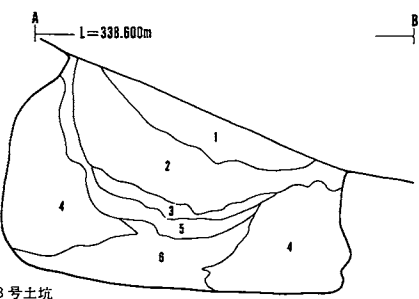


第2号土坑

- 1層 10YR4/6 褐色土 火山岩小礫を含む。粘性なし、締まり幾分あり
- 2層 7.5YR4/6 褐色土 火山岩小礫を含む。粘性なし、締まり幾分あり
- 3層 7.5YR4/4 褐色土 粘性及び締まり幾分あり、礫が1・2層と比較して多い、ブロック状に地山を含む。
- 4層 7.5YR4/6 褐色土 火山岩小礫は減少する。粘性、締まり幾分増す。
- 5層 7.5YR4/4 褐色土 粘性及び締まり幾分あり、礫が1・2層と比較して多い。ブロック状地山を全面に含む。
- 6層 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性及び締まり幾分あり
- 7・8層 7.5YR3/1 黒褐色土 粘性及び締まり幾分あり、火山岩小礫も含む。

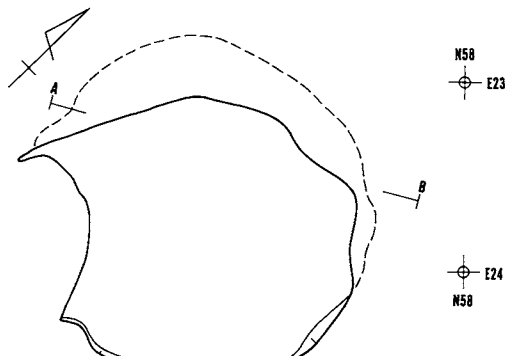


第3号土坑

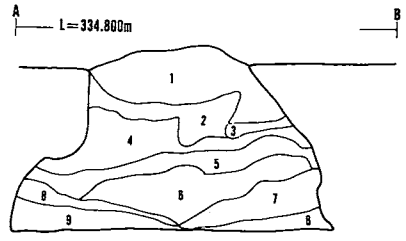


第3号土坑

- 1層 5YR2/2 黒褐色土 粘性なし、締まり幾分あり、土器・円礫も含む
- 2層 10YR4/4 褐色土 粘性、締まりなし、礫を少量含む  
南側にはほぼ1個体分の土器を含む
- 3層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性、締まりなし、多くの炭化物を含む
- 4層 10YR5/6 黄褐色土 粘性、締まりなし、地山質ブロックを多く含む
- 5層 7.5YR4/4 褐色土 粘性、締まりなし、地山質ブロックは少ない
- 6層 10YR3/4 暗褐色土 粘性、締まりなし、地山質ブロックを含む



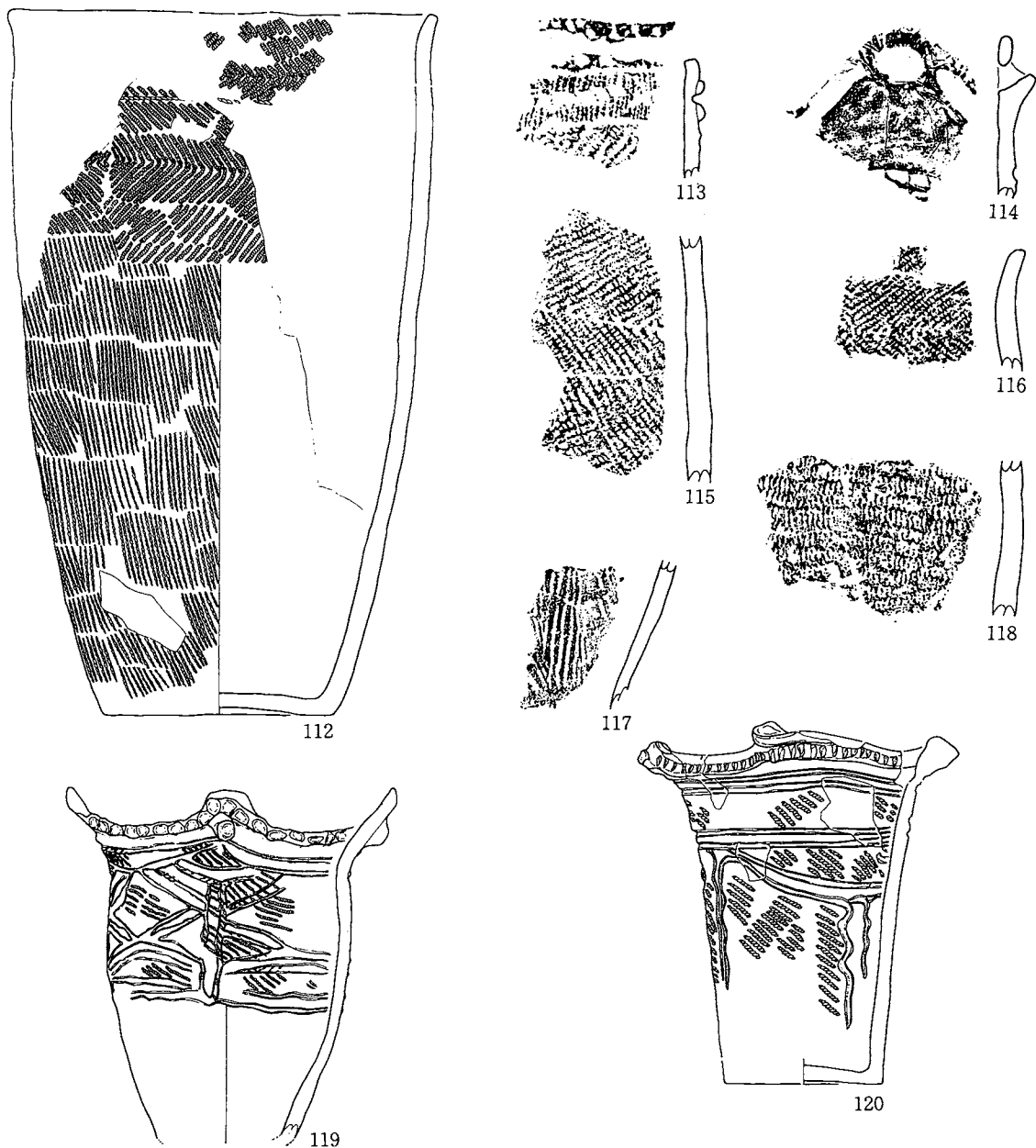
第4号土坑



第4号土坑

- 1層 7.5YR4/6 褐色粘土 固く、緻密である。微量の焼土を含む
- 2層 7.5YR5/6 明褐色粘土 固く、緻密である。少量の焼土を含む
- 3層 7.5YR5/6 明褐色粘土 固く、緻密である
- 4層 10YR4/6 褐色粘土 固く緻密である、少量の焼土を含む
- 5層 7.5YR5/6 明褐色粘土 固く、緻密である、少量の焼土、地山ブロックを含む
- 6層 7.5YR5/6 明褐色粘土 固く、緻密である、地山壁の崩落土
- 7層 7.5YR5/6 明褐色粘土 固く、緻密である、部分的に酸化した土がみられる
- 8層 7.5YR4/4 褐色土 固く、緻密である、焼土・炭化物を含む
- 9層 7.5YR5/6 明褐色粘土 固く、緻密である、地山壁の崩落土

第39図 第1～4号土坑



S = 1/3

Na	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
112	1号土坑・埋土	深鉢	胴部	撚紐圧痕、結束羽状縄文、縦位撚糸文	ナデ	I群1類c	32
113	1号土坑・埋土	深鉢	口縁部	口唇部刺突、撚紐圧痕の隆帯、単筋斜行縄文	ナデ	II群1類c	37
114	1号土坑・埋土	深鉢	口縁部	口唇部沈線、口縁部円孔、円形刺突	ミガキ	II群8類b	37
115	1号土坑・埋土	深鉢	胸部	結束羽状縄文、纖維含	ナデ	I群6類	37
116	1号土坑・埋土	深鉢	胸部	結束羽状縄文	ナデ	I群6類	37
117	1号土坑・埋土	深鉢	胸部下半	木目状撚糸文	ナデ	I群6類	37
118	1号土坑・埋土	深鉢	胸部下半	多筋条体圧痕文、纖維含	ナデ	I群6類	37
119	2号土坑・埋土	深鉢	口～胸部	口唇部指頭圧痕、粘土紐貼付、波状口縁、撚糸文	ナデ	II群4類a	32
120	2号土坑・埋土	深鉢	完形	三角状刺突、平行沈線、懸垂沈線、単筋斜行縄文	ナデ	II群8類a	32

第40図 第1・2号土坑出土遺物

〈遺物〉(第40図、写真図版32)

**土器** すべて埋土からの出土である。120は4個の小波状突起を持つ小型の深鉢形土器である。口縁部には三角状の棒状刺突がなされ、その下に2条の平行沈線文が巡る。口縁部文様帯と胴部文様帯は沈線により区画され、胴部には地文の斜行縄文が施文される。口縁部と胴部を区画する沈線から2条の懸垂する沈線文が施文されている。底部はやや上げ底風である。119は4個の波状突起を持つ小型の深鉢形土器である。口縁部上端には波状に沿うように指頭圧痕が施文され、波状頂部には4個のボタン状の貼り付けが施される。文様帯は胴部の中央部にまで展開し、細い粘土紐により平行・弧状のモチーフが描かれる。地文に撚糸文が施文され、撚糸文の施文は粘土紐にも及んでいる。胴部下半は無文研磨されている。

### 第3号土坑

〈遺構〉(第39図、写真図版15)

斜面中央の2 I 区に位置し、ほぼ円形の落込みとして検出された。

平面形は不整な方形であり、断面形はピーカー状である。開口部の直径1.80m、底部の直径1.90m、検出面からの深さは1.25mである。壁はほぼ直行して立ち上がり、部分的な崩落がみられる。底面は平坦であるが、東側に幾分傾斜している。

埋土は西側に壁の崩落土がみられ、全体に自然堆積の層相である。

時期は出土遺物から縄文時代中期初頭から中期中葉に位置付けられる。

〈遺物〉(第41・43図、写真図版32・37・49)

**土器** すべて埋土からの出土である。121は埋土中位からの出土である。4個の突起を持ち波状を呈する大型の深鉢形土器である。口縁部文様は波頂部を中心に展開し、波頂部下に円孔が穿たれ粘土紐の貼付により文様が施される。口縁部から胴部全体に地文の単節斜行縄文が施文される。122は平縁を呈する深鉢形土器の口縁部である。緩やかに外反し口唇部付近で肥厚する。2条の太い撚紐が口縁部を1周し、部分的に粘土紐の隆帯が垂下している。地文として単節斜行縄文が施され、横位の綾線文が胴部を巡る。123は口縁部に沿うように撚紐の圧痕が施された深鉢形土器の口縁部である。内湾してたちあがり、口唇部付近で肥厚している。地文は単節斜行縄文で、部分的に撚紐の圧痕がみられる。124は4個の大きな弁状突起を持つ波状を呈する深鉢形土器の口縁部である。口唇部に刻目を持ち、太く浅い沈線による文様が描かれる。125は細い粘土紐が貼付され、その上下に爪形の刺突が施された深鉢形土器の口縁部である。126は地文に斜行する撚糸文が施文された浅鉢形土器の口縁部である。

**石器** 不定形石器2点、楔形石器1点、鋸歯状石器1,090は1側辺に交互剝離を施し、波状に鋭利な刃部を作り出している。不定形石器とした1,092は石鏃の破片ともみられる。



#### 第4号土坑

〈遺構〉(第39図、写真図版15)

北端部斜面裾の3F区に位置する。平坦部境の切り土面に褐色土及び明褐色土の広がりが出され、平坦部に続いていたことから土坑と確認された。第2号土坑によって底部が切られている。

平面形は円形であり、断面形はフラスコ形を呈する。開口部の直径は1.0m、底部の直径は1.80m、検出面からの深さは96cmである。底部は平坦でほぼ水平である。

埋土には焼土等残存し、全体的に水平堆積であり、人為的に埋め戻された可能性がある。

出土遺物はないが、切り合いの関係から縄文時代中期中葉以前と考えられる。

#### 第5号土坑

〈遺構〉(第42図、写真図版16)

北端部斜面裾の3F区に位置する。第2号土坑の南側に埋土の異なる部分が認められ、重複する土坑と確認された。掘り込み面は第2号土坑と同様であるが、新旧関係は本遺構が新しい。

平面形は円形であり、断面形はフラスコ状である。開口部の直径は1.00m、底部の直径は2.00m、検出面からの深さは77cmである。壁は内傾しており底面はほぼ水平で平坦である。

埋土は2号土坑下層と比較して黒みがかかった黒褐色土である。

時期は出土した遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。

〈遺物〉(第41図、写真図版32・37)

土器 すべて埋土からの出土である。127はキャリパー型を呈する平縁の深鉢形土器である。頸部にくびれを持ち、口縁部文様帯と胴部文様帯を区画している。口唇部に刻目を持ち4個の横C字状の貼付があり、さらに刻目は口唇部を一周している。口縁部文様帯は4単位を基本とし、隆帯と沈線により曲線的な文様が施されている。整形過程として、隆帯貼付→地文(単節斜行縄文)施文→沈線という手順が観察される。胎土に砂の混入が顕著である。128は口唇部・口縁部に素文の細い粘土紐が貼付された深鉢形土器の口縁部である。摩滅が著しく地文は不明であるが、部分的に撚紐の圧痕が認められる。129は浅鉢形土器の口縁部である。沈線で渦巻文が描かれ、口縁部には太い撚紐の圧痕、胴部には単節斜行縄文が施文されている。130は深鉢形土器の口縁部である。円形の隆帯が貼付され、その下位には口縁部を一周する刺突が施される。胴部上半には撚紐の圧痕が施文されている。



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴		内面	分類	写真図版
121	3号土坑・埋土中位	深鉢	口～底部	波状口縁、円孔、粘土紐貼付、単節斜行縄文		ナデ	II群6類b	32
122	3号土坑・埋土	浅鉢	口縁部	撚紐圧痕、隆帯、横位綾線文、単節斜行縄文		ナデ	II群6類c	37
123	3号土坑・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、単節斜行縄文		ナデ	II群6類c	37
124	3号土坑・埋土	深鉢	口縁部	弁状突起、口唇部刻目、沈線		ナデ	II群6類b	37
125	3号土坑・埋土	深鉢	口縁部	粘土紐貼付、爪形の刺突文		ナデ	II群6類a	37
126	3号土坑・埋土	浅鉢	口縁部	撚糸文		ナデ	II群8類a	37
127	5号土坑・埋土	深鉢	完形	口唇部刻目、横C字状文貼付、隆帯、沈線		ミガキ	II群8類a	32
128	5号土坑・埋土	深鉢	口縁部	粘土紐貼付、撚紐の圧痕		ナデ	II群1類b	37
129	5号土坑・埋土	浅鉢	口縁部	渦巻沈線、撚紐圧痕、単節斜行縄文		ナデ	II群7類b	37
130	5号土坑・埋土	深鉢	口縁部	円形粘土紐貼付、刺突文、撚紐圧痕		ナデ	I群3類d	37

第41図 第3・5号土坑出土遺物

## 第6号土坑

〈遺構〉(第42図、写真図版16)

北端斜面の2G区に位置し、第3号住居の床面で検出された。住居跡に切られている。

平面形は円形である。開口部の直径は2.25m、底部の直径は2.10m、検出面からの深さは29cmである。壁は底部からやや内傾して立ち上がり、底部は水平で平坦である。中央部に直径45cm、深さ16cmの副穴がある。埋土は単層であるが、踏み固められたためか堅く緻密である。

時期は出土遺物から縄文時代前期末葉から中期初頭に位置付けられる。

〈遺物〉(第43・44・49図、写真図版37・50)

**土器** すべて埋土からの出土である。131は結束羽状縄文が施文された深鉢形土器の口縁部である。132は口縁部から単節斜行縄文が施文された深鉢形土器の口縁部である。133は、胎土に微量の植物性繊維が含まれた深鉢形土器である。胴部に羽状縄文と横位の綾線文が施文されている。134と135は浅鉢形土器の口縁部である。両者とも胎土に多量の砂粒が含まれている。134は口唇部に沿うように太い撚紐による2条の圧痕文が施されている。地文は単節斜行縄文である。  
**石器** 石鏃、石匙各1点と不定形石器2点がある。石鏃は平基であり、やや大型である。石匙は縦形の幾分粗雑な作りである。そのほか、凹石がある。

## 第7号土坑

〈遺構〉(第42図、写真図版16)

北端斜面の2G区に位置し、斜面下位の平坦面に直径50cm程の小さい落込みとして検出された。

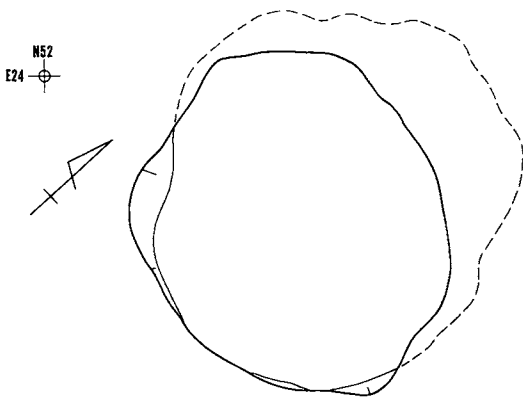
平面形は東側を欠いているが、円形である。断面形は残存する壁からフラスコ状と思われる。開口部の直径は1.0m以上、底部の直径1.60m、検出面からの深さ75cmである。

埋土の底部付近に焼土がみられる。層相から斜面下位側が削平をうけた後に一気に埋積された可能性が考えられる。

時期は、出土遺物から縄文時代前期中葉から前期末葉に比定される。

〈遺物〉(第44図、写真図版37)

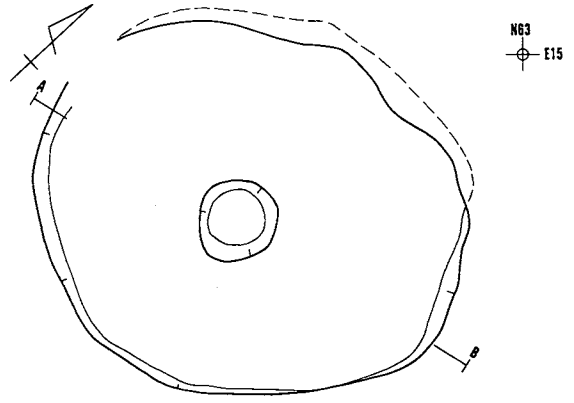
**土器** 3点とも埋土から出土している。136は浅く小さい刺突文とその上下に施文された撚紐の圧痕文によって口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。地文として口縁部文様帯、胴部文様帯に単節斜行縄文が施されている。137は単軸絡条体圧痕文が施文された屈曲部で口縁部文様帯と胴部文様帯が分離されている。口縁部文様帯には撚紐による圧痕文、胴部文様帯には羽状縄文と横方向の綾線文が施されている。138は胴部下半に縦走る撚糸文が施文された深鉢形土器の底部付近である。いずれも胎土に微量の植物性繊維を含んでいる。



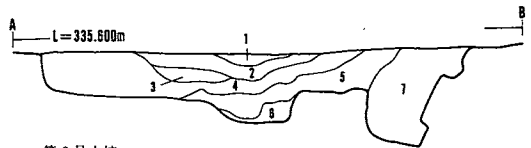
第5号土坑

E26 N52 N54 E26

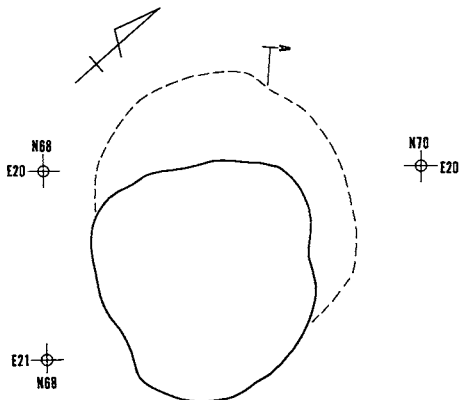
第5号土坑  
1層 5YR2/2 黒褐色土 粘性なし、縮まり幾分あり、土器・円礫も含む



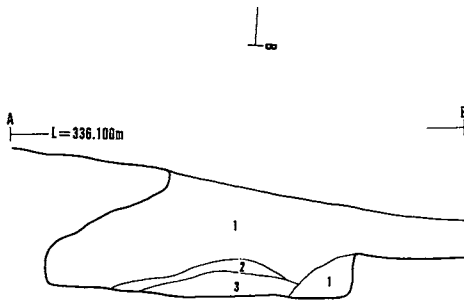
第6号土坑



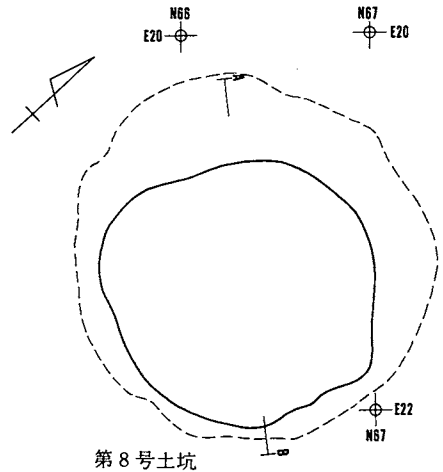
第6号土坑  
1層 7.5YR4/4 褐色土 堅く、緻密である、焼土・炭化物を含む  
2層 7.5YR4/4 褐色土 堅く、緻密である  
3層 7.5YR4/6 褐色土 堅く、緻密である、炭化物を含む  
4層 7.5YR4/4 褐色土 堅く、緻密である、炭化物を含む  
5層 7.5YR4/4 褐色土 堅く、緻密である  
6層 7.5YR4/4 褐色土 堅く、緻密である、地山質ブロックを含む  
7層 7.5YR3/4 暗褐色土 堅く、緻密である、焼土・炭化物を含む（3号住の柱穴）



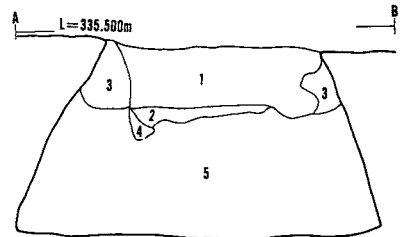
第7号土坑



第7号土坑  
1層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まり大、少量の炭化物を含む  
2層 5YR3/3 暗赤褐色土 粘性・縮まり大、焼土の再堆積層  
3層 7.5YR4/3 褐色土 粘性・縮まり大

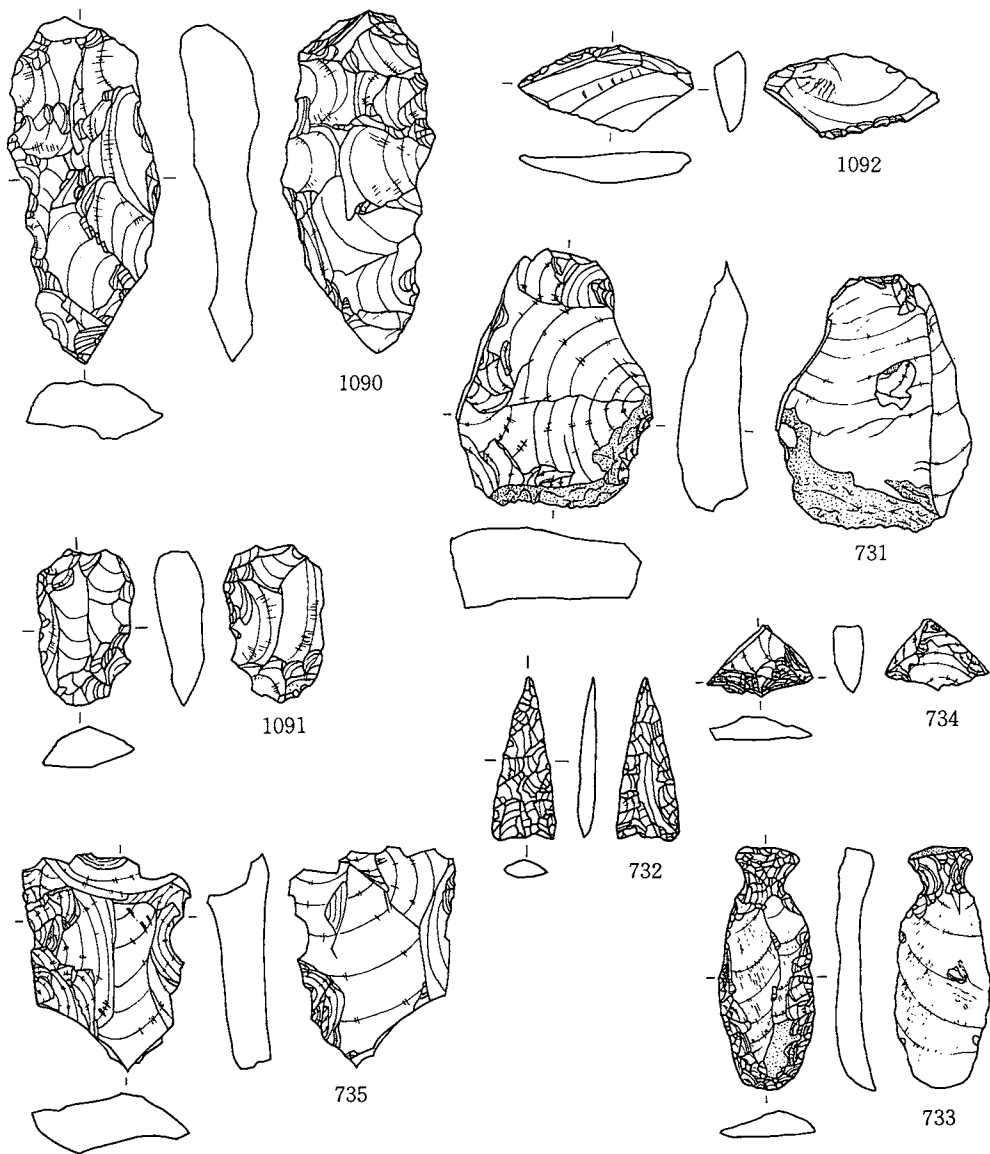


第8号土坑



第8号土坑  
1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりあり、少量の炭化物・土器片・礫を含む  
2層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりあり  
3層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まりあり、少量の土器片・浮石礫を含む  
4層 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりあり  
5層 7.5YR4/3 褐色土 粘性・縮まりあり

第42図 第5～8号土坑



S=1/2

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
1090	石鏃		86	38	17	50.5	3号土坑・埋土中部	硬質泥岩	一部欠損	交互剝離	49	29
1091	楔形石器		39	24	12	11.7	3号土坑・埋土中部	硬質泥岩			49	30
1092	不定形石器(二)		21	44	8	6.2	3号土坑・(中部)	流紋岩		彫器的	49	31
731	不定形石器(一)		64	49	16	60.5	3号土坑・埋土	チャート	欠損	先端部	49	325
732	石鏃	Ilc	41	16	5	2.6	6号土坑・埋土下部	珪質泥岩			50	131
733	石鏃		60	24	8	10.5	6号土坑・埋土下部	珪質泥岩	一部欠損		50	171
734	不定形石器		18	27	7	2.9	6号土坑・埋土	珪質泥岩	破片		49	326
735	不定形石器(一)		54	42	14	31.5	6号土坑・埋土	珪質泥岩		鋸状	50	330

第43図 第3・6号土坑出土遺物

## 第8号土坑

〈遺構〉(第42図、写真図版16)

北端斜面の3G区に位置し、斜面下位寄りの平坦面に小規模の落ち込みとして検出された。

平面形はほぼ円形であり、断面形はピーカー状である。開口部の直径は1.40m、底部の直径は1.90m、検出面からの深さは1.02mである。壁は部分的に凹凸があるが、直線的に立ち上がる。床面はほぼ水平で平坦である。

埋土は大別すると2層に分けられ、下層は葉埋状で地山質であり、上層は炭化物も含む。また表面の破片と接合する101の土偶も出土している。

時期は出土遺物から縄文時代前期中葉以降と考えられる。

〈遺物〉(第44図、写真図版32・33・37)

土器 4点とも埋土からの出土であり、139・140は埋土下部である。すべて胎土に微量の植物性繊維を含む。139は1条の刺突列により口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には単軸絡条体圧痕文と撚紐の圧痕が交互に、胴部文様帯には縦方向に結束羽状縄文が施文されている。140は3条の撚紐の圧痕文により口頸部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口頸部文様帯・胴部文様帯には横方向の結束羽状縄文が施文されている。胎土には少量の植物性繊維が含まれている。141は撚紐の圧痕が施文された微隆帯により口頸部文様帯と胴部文様帯が区画されている。約7cmの口縁部文様帯・胴部文様帯には横方向の結束羽状縄文が施文されている。胎土には少量の植物性繊維が含まれている。142は単節斜行縄文が施文された深鉢形土器である。胎土には微量の植物性繊維が含まれている。

## 第9号土坑

〈遺構〉(第45図、写真図版17)

北端斜面の2H区に位置し、第1号住居跡の精査中に検出された。重複する第1号住居跡と第10号土坑に切られている。

平面形はほぼ円形、断面形はフラスコ状である。推定される開口部の直径は90cm、底部の直径は1.00m、検出面からの深さは90cmである。壁は内傾して立ち上がり、底面はほぼ水平で平坦である。

埋土は一時的に埋め戻された層相であり、上部には焼土粒が含まれる。

遺物は出土していないが、時期は形状等から縄文時代前期末葉と思われる。



S = 1/3

N <sub>o</sub>	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
131	6号土坑・埋土	深鉢	口縁部	結束羽状縄文、織雜含	ナデ	I群6類	37
132	6号土坑・埋土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文	ナデ	II群6類	37
133	6号土坑・埋土	深鉢	胴部	横位綾線文、羽状縄文、織雜含	ナデ	I群6類	37
134	6号土坑・埋土	浅鉢	口縁部	捻紐の圧痕、単節斜行縄文、補修孔	ナデ	II群7類a	37
135	6号土坑・埋土	浅鉢	口縁部	原体側面圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	37
136	7号土坑・埋土最上部	深鉢	胴部	刺突、捻紐圧痕、単節斜行縄文、織雜含	ナデ	I群1類c	37
137	7号土坑・埋土	深鉢	胴部	捻紐圧痕、単軸絡糸体圧痕、綾線文、羽状縄文、織雜含	ナデ	I群3類c	37
138	7号土坑・埋土	深鉢	胴部下半	縦位捺糸文、織雜含	ナデ	I群6類	37
139	8号土坑・埋土下部	深鉢	口～胴部	捻紐・単軸絡糸体圧痕、刺突、縦位結束羽状縄文	ナデ	I群2類b	32
140	8号土坑・埋土下部	深鉢	口～胴部	捻紐圧痕、結束羽状縄文、織雜含	ナデ	I群1類c	33
141	8号土坑・埋土	深鉢	口縁部	微隆帯、捻紐圧痕、結束羽状縄文、織雜含	ナデ	I群1類c	37
142	8号土坑・埋土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、織雜含	ナデ	I群1類	37
143	10号土坑・埋土	深鉢	口縁部	隆帯、刺突、縦位綾線文、単節斜行縄文	ナデ	I群1類	37
144	10号土坑・埋土	深鉢	口縁部	折り返し口縁、横位綾線文、単節斜行縄文	ナデ	II群11類	37
145	10号土坑・埋土	深鉢	口縁部	捻紐圧痕、単節斜行縄文、織雜含	ナデ	I群3類b	37

第44図 第6・7・8・10号土坑出土遺物

## 第10号土坑

〈遺構〉(第45図、写真図版17)

北端斜面の2H区に位置し、第9号土坑と同様第1号住居跡の精査中に検出された。重複する第9号土坑を切り、第1号住居跡に切られている。

平面形は円形であり、断面形は壁が内傾気味に立ち上がるがビーカー状であると思われる。推定される規模は開口部の直径1.40m、底部の直径1.40m、検出面からの深さは80cmである。床面はほぼ水平でかつ平坦である。

埋土は水平埋積であり、人為的な堆積と考えられる。

時期は、出土遺物と第1号住居跡の時期から縄文時代前期末葉以降と推測される。

〈遺物〉(第44図、写真図版37)

土器 3点とも埋土からの出土である。143は口縁部に刺突の施された隆帯を持ち、胴部は単節斜行縄文を地文とし、2本1組の縦位の綾線文が施されている。144は折り返し口縁を持つ深鉢形土器である。胴部は単節斜行縄文を地文とし、横位の綾線文が施されている。145は口縁部に3条の撚紐による圧痕、胴部には単節斜行縄文が施文される。胎土に微量の植物性繊維が含まれる。

## 第11号土坑

〈遺構〉(第45図、写真図版17)

北端斜面縁の3H区に位置する。第1号住居跡と同一面に検出された。第1号住居跡と第12号土坑と重複し、いずれの遺構にも切られている。

平面形は円形と推定され、断面形はフラスコ状である。推定される規模は、開口部の直径1.00m、底部の直径1.48mであり、検出面からの深さは85cmである。底面は凹凸があるが、全体的に水平である。

埋土はほぼ単相である。

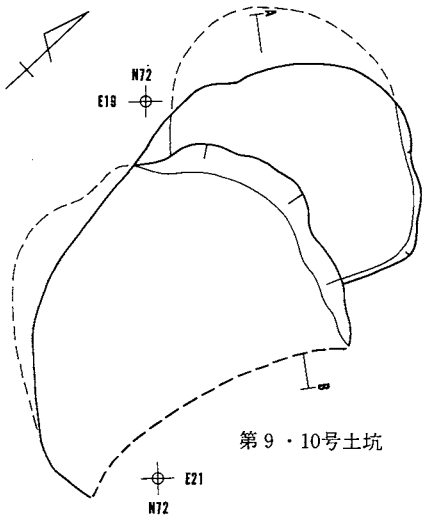
時期は出土遺物から縄文時代前期前葉から中期初頭に位置付けられる。

〈遺物〉(第46・49図、写真図版37・50)

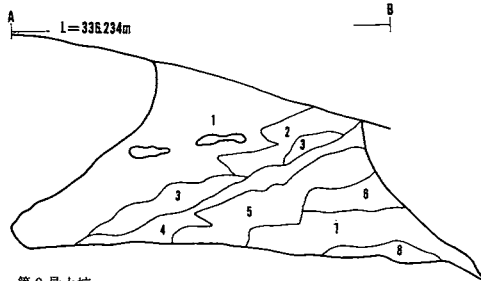
土器 2点とも埋土からの出土である。146は復節斜縄文が施された深鉢形土器である。胎土に微量の植物性繊維が含まれる。147は地文として単節斜行縄文が施文され、さらに横位の綾線文が施されている。

石器 737の石鏃1点である。無茎で基部がハの字形に開き、粗雑な作りの部分もみられる。





第9・10号土坑

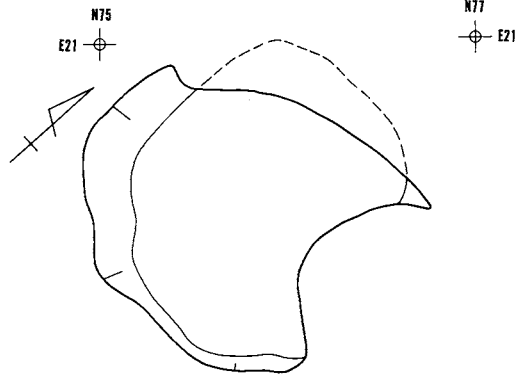


第9号土坑

- 1層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まりあり、少量の炭化物・土器片・焼土を含む
- 2層 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まりあり
- 3層 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まりあり、地山ブロック、浮石を多く含む

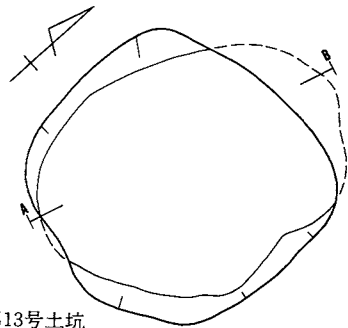
第10号土坑

- 4層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まりあり、少量の炭化物・土器片・焼土を含む
- 5層 10YR4/4 褐色砂土 粘性・縮まり少ない、下部は地山崩落土
- 6層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まりあり、浮石・礫を少量含む
- 7層 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まりあり、粘質土ブロック・炭化物を含む
- 8層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりあり、焼土質小粒・炭化物を少量含む

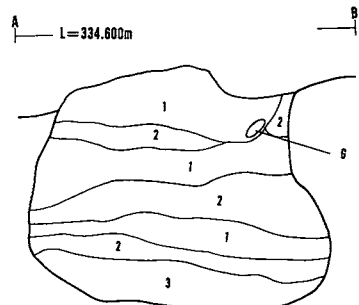


第11号土坑

- 1層 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりややあり、微量の焼土・炭化物を含む

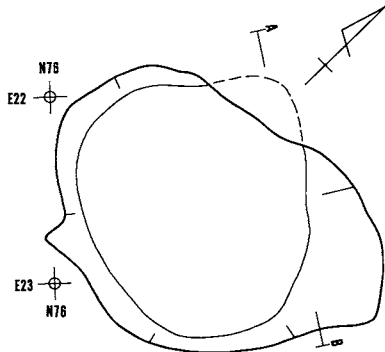


第13号土坑

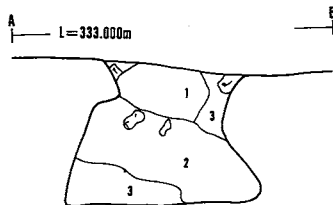


第13号土坑

- 1層 7.5YR4/3 褐色土 粘性・縮まり大、微量の焼土・炭化物を含む (10YR6/8 明黄褐色 地山ブロックを含む)
- 2層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まり大、地山ブロックを含む
- 3層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まり大、地山(拳大)ブロックを含む



第12号土坑



第12号土坑

- 1層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まりややあり、微量の焼土・炭化物を含む  
地山ブロックを含む
- 2層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まりややあり、微量の焼土・炭化物を含む  
地山ブロック(拳大-半頭大)を含む
- 3層 10YR6/6 明黄褐色土 地山の崩落土及び、再堆積層

第45図 第9～13号土坑

S=1/40

## 第12号土坑

〈遺構〉(第45図、写真図版17)

北端斜面の3H区に位置し、第1号住居跡と同一面で検出された。重複する第1号住居跡より古く、第11号土坑より新しい。

平面形はほぼ円形、断面形はピーカー状と推定される。規模は、推定される開口部の直径1.30m、底部の直径1.25m、検出面からの深さ94cmである。底面は幾分凸凹があるが、全体に平坦である。

埋土はほぼ1層とみなされる。焼土粒を少量含み、土器片が多くみられる。

時期は第1号住居跡との切り合い関係より中期初頭と考えられる。

〈遺物〉(第46・49図、写真図版33・37・50)

土器 8点とも埋土からの出土である。148は小波状の口縁を呈する円筒型の深鉢形土器で、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には4段の撚紐の圧痕、胴部には単節斜行縄文が施文されている。胎土に微量の植物性繊維が含まれる。149は単節斜行縄文が施された深鉢形土器である。150は網目状撚糸文が施された深鉢形土器である。胎土に微量の植物性繊維が含まれる。151は太く浅い沈線が口縁部に施文された深鉢形土器である。152は口縁部に2条の撚紐の圧痕、地文として結束羽状縄文が施された深鉢形土器である。胎土に微量の植物性繊維が含まれる。153は胴部下半に縦走する撚糸文が施された深鉢形土器の底部付近である。胎土に微量の植物性繊維が含まれる。154は深鉢形土器の胴部である。地文として単節斜行縄文が施文され、長楕円状の沈線により区画された後部分的に縄文が磨り消されている。155は、胎土に微量の植物性繊維を含み胴部に結束羽状縄文が施された深鉢形土器である。

石器 738は搔器である。739は1側辺の一部に調整を加えた不定形石器である。740は全周が擦られ、片面が凹石様の磨石である。

## 第13号土坑

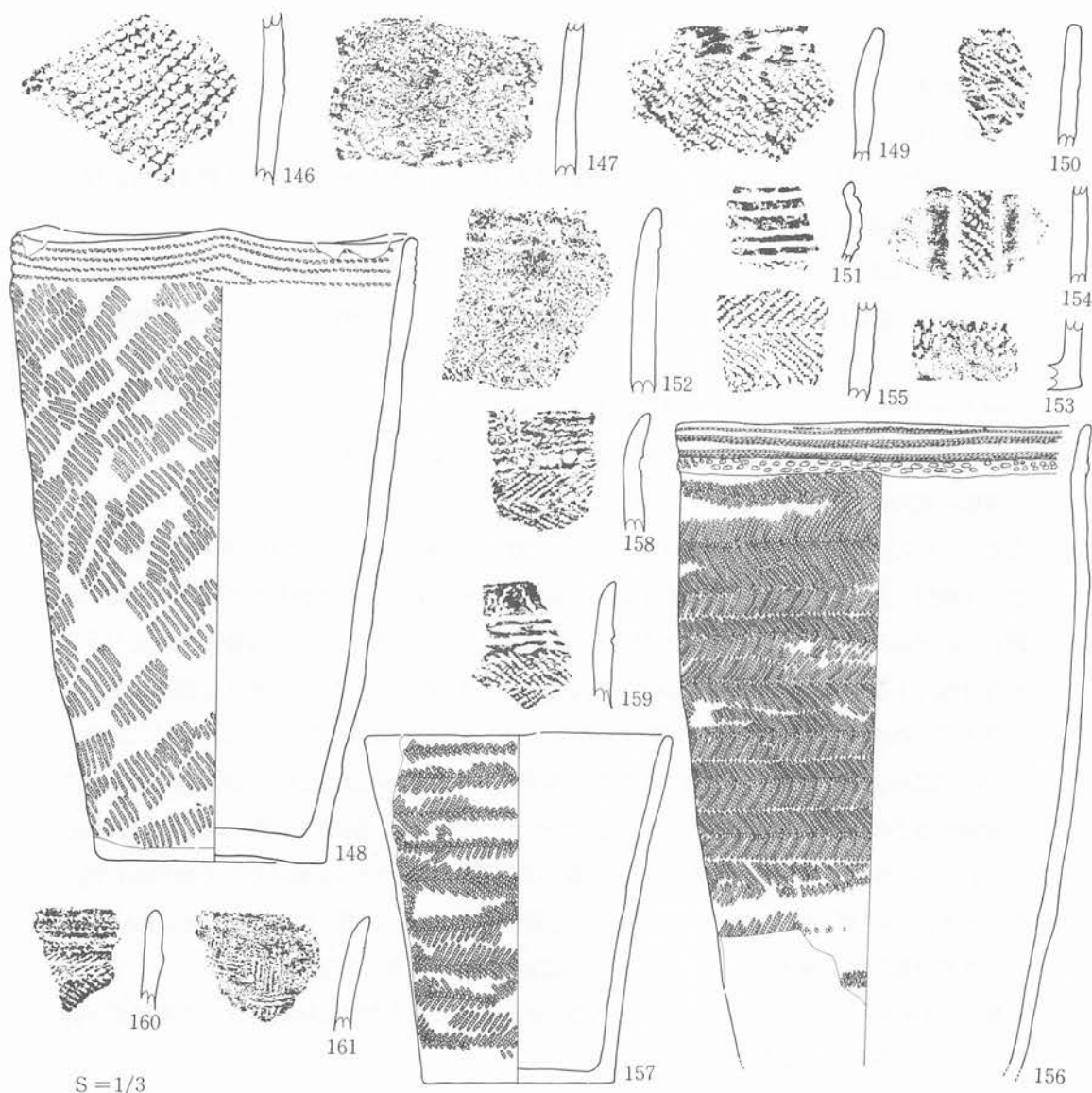
〈遺構〉(第45図、写真図版17)

北端斜面裾の3I区に位置し、切り土の面に検出された。

平面形は円形、断面形は壁が直に立つピーカー形である。閉口部と底部の直径は1.40m、検出面からの深さは97cmである。底面は多少凹凸があるが、ほぼ水平である。

埋土は地山混在土であり、人為的な堆積と考えられる。

出土遺物はないが、形状等から縄文時代の土坑と思われる。



No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
146	11号土坑・埋土	深鉢	胸部	複節斜行縄文、織維含	ナデ	I群6類	37
147	11号土坑・埋土	深鉢	胸部	単節斜行縄文、横位綾線文	ナデ	II群11類	37
148	12号土坑・埋土	深鉢	口～底部	単節斜行縄文、撚紐圧痕、織維含	ナデ	I群3類b	33
149	12号土坑・埋土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文	ミガキ	I群11類	37
150	12号土坑・埋土	深鉢	口縁部	網目状撚糸文、織維含	ナデ	I群11類	37
151	12号土坑・埋土	深鉢	口縁部	平行沈線、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	37
152	12号土坑・埋土	深鉢	胸部下部	撚紐圧痕、結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群3類b	37
153	12号土坑・埋土	深鉢	胸部下半	縦位撚糸文、織維含	ナデ	I群6類	37
154	12号土坑・埋土	深鉢	胸部	沈線、磨消縄文、単節斜行縄文	ナデ	II群9類a	37
155	12号土坑・埋土	深鉢	胸部	結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群6類	37
156	14号土坑・埋土	深鉢	口～胸部	単軸絡条体圧痕文、結束羽状縄文(附加条付)	ナデ	I群3類b	33
157	14号土坑・埋土	深鉢	口～底部	結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群3類	33
158	14号土坑・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、原体末端刺突、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	37
159	14号土坑・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、刺突、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	37
160	14号土坑・埋土	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕、微隆帯、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	37
161	14号土坑・埋土	深鉢	口縁部	撚糸文、撚紐圧痕	ナデ	II群3類	37

第46図 第11・12・14号土坑出土遺物

## 第14号土坑

〈遺構〉(第47図、写真図版17)

北端斜面縁の3H区に位置し、第1号住居跡の精査中に床面から検出された。重複する第1号住居跡と第19号土坑に切られている。

平面形は円形、断面形はフラスコ状を呈する。開口部と底部の直径は1,20m、検出面からの深さは59cmである。床面は平坦でかつ水平である。

埋土は1層であり、底面近くに土器片を多く含む。

時期は出土遺物から縄文時代前期末葉以降に比定される。

〈遺物〉(第46・49図、写真図版33・37)

土器 6点とも埋土から出土している。156は刺突の施された微隆帯を挟んで口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。約2cm幅の口縁部文様帯には縄の束によると思われる3段の絡条体圧痕文、胴部には附加条付の結束羽状縄文が施されている。157は器面全体に結束羽状縄文が施されたバケツ形を呈する深鉢形土器である。158は1条の刺突列を挟んで口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐の圧痕、胴部文様帯には結束羽状縄文が施されている。159は交互に施文された撚紐の圧痕文と刺突列を挟んで、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐の圧痕による連続山形文、胴部文様帯には結束羽状縄文が施されている。160は微隆帯を挟んで口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には3条の撚紐の圧痕、胴部文様帯には結束羽状縄文が施されている。161は小波状を呈する深鉢形土器の口縁部である。斜行する撚糸文を地文とし、部分的に撚紐の圧痕が施文されている。158～160の胎土に微量の植物性繊維が含まれる。

石器 2面に使用痕のある磨石741が出土している。

## 第15号土坑

〈遺構〉(第47図、写真図版18)

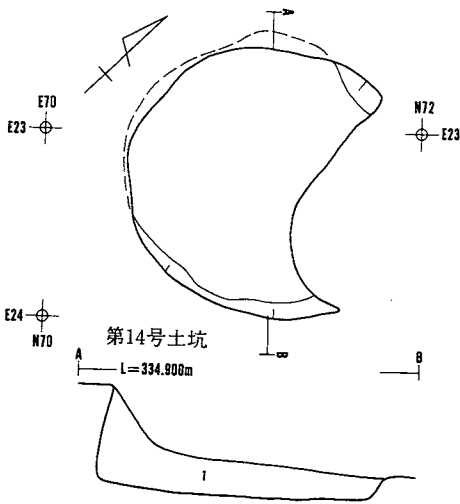
北端斜面の2I区に位置する。第4号住居跡の精査終了後住居の壁外に検出された。平面形は不整な円形、断面形はフラスコ状である。開口部の直径は90cm、底部の直径1.85m、検出面からの深さは1.08mである。床面は東側に凹みが認められるほか平坦である。

埋土は底部に崩落土が多くみられ、一気に埋没したものと思われる。

時期は出土遺物から縄文時代前期以降に位置付けられる。

〈遺物〉(第48図、写真図版37)

土器 埋土から出土した162の1点である。胴部に結束羽状縄文の施された深鉢形土器であり、胎土に微量の植物性繊維が含まれる。

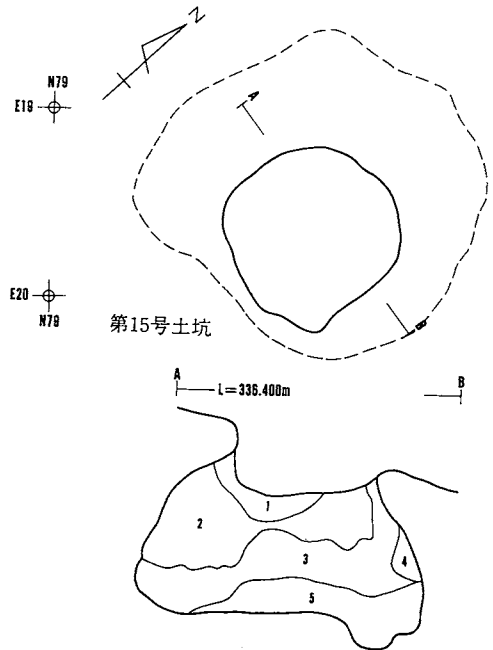


第14号土坑

L=334.800m

第14号土坑

1層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まりややあり、微量の焼土・炭化物を含む

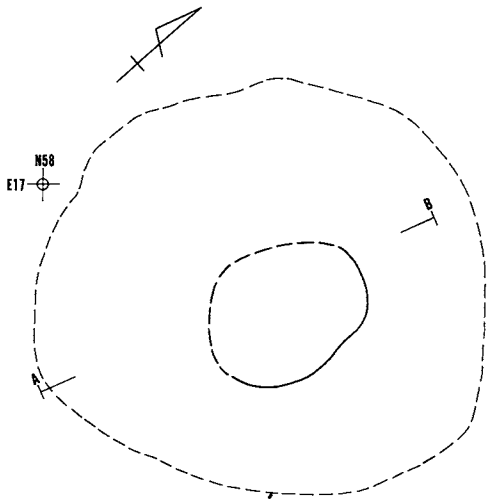


第15号土坑

L=336.400m

第15号土坑

1層 5 YR3/4 暗赤褐色土 粘性・縮まりあり、土器細片・極小礫等少量含む  
 2層 7.5YR4/6 褐色土 粘性・縮まりややあり、地山質を多く含む  
 3層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりあり、地山質アロクが点在  
 4層 7.5YR4/6 褐色土 粘性・縮まりややあり、地山崩落土  
 5層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりあり、炭化物が点在

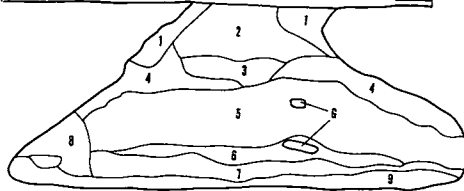


第16号土坑

L=335.400m

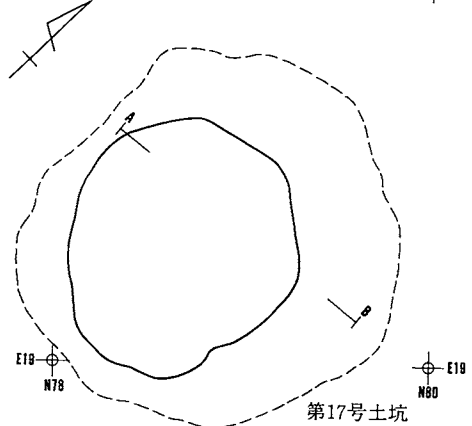
E19 N58

E19 N60



第16号土坑

1層 7.5YR4/4 褐色粘質土 粘性・縮まり強い、地山質崩落土  
 2層 7.5YR4/6 褐色土 粘性・縮まりあり、極少量礫を含む  
 3層 7.5YR3/4 暗褐色粘質土 粘性・縮まりあり、礫(卵大)・土器片を含む  
 4層 7.5YR4/6 褐色粘質土 粘性・縮まり強い、地山質崩落土・土器片を含む  
 5層 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 粘性・縮まり強い、準大の礫を含む  
 6層 7.5YR3/4 暗褐色粘質土 粘性・縮まり強い、炭化物を多く含む  
 7層 7.5YR3/4 暗褐色粘質土 粘性・縮まり強い、炭化物を含む  
 8層 7.5YR4/4 褐色粘質土 粘性・縮まり強い、地山質崩落土  
 9層 7.5YR4/6 褐色土 粘性・縮まりあり、炭化物・土器細片を含む

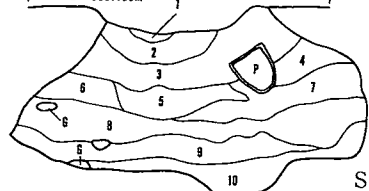


第17号土坑

L=336.400m

E19 N78

E19 N80



第17号土坑

1層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりあり、炭化物を多く含む  
 2層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まりあり、極少量の炭化物・浮石を含む  
 3層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まりあり、地山質ブロックを多く含む  
 4層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・縮まりあり、少量の炭化物・地山ブロックを含む  
 5層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりあり、炭化物・焼土・土器片を含む  
 6層 5 YR3/3 暗赤褐色砂質土 粘性・縮まり弱い、炭化物を若干含む  
 7層 5 YR2/4 暗赤褐色土 粘性・縮まりあり、若干の礫と地山質ブロックを含む  
 8層 7.5YR6/4 褐色土 粘性・縮まりあり、土器片を含む  
 9層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まりあり、炭化物・土器細片を少量含む  
 10層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりあり、土器細片を極少量含む

S=1/40

第47図 第14～17号土坑

## 第16号土坑

〈遺構〉(第47図、写真図版18)

北端斜面の2F区に位置する。第3号住居跡の床面から検出され、住居跡に切られている。

平面形はほぼ円形であり、断面形はフラスコ状を呈する。開口部の直径は90cm、底部の直径は2.20m、検出面からの深さは1.30mである。底面は水平でかつ平坦である。

埋土は暗褐色粘質土が主体である。

時期は出土遺物から縄文時代前期末葉以降と考えられる。

〈遺物〉(第48・49図、写真図版37・50)

土器 2点とも埋土の下部から出土している。163は口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。約3cmの口縁部文様帯には撚紐の圧痕と刺突列、胴部文様帯には結束羽状縄文が施されている。胎土に微量の植物性繊維を含んでいる。164は緩やかな波状を呈する口縁部をもち、撚紐の圧痕によって口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐で幾何学文様、胴部文様帯には木目状撚糸文が施文されている。

石器 742の石棒1点である。節理による稜を擦っており、先端部の擦りは特に顕著である。

## 第17号土坑

〈遺構〉(第47図、写真図版18)

北端斜面の2H区に位置する。第4号住居跡の床面から検出され、住居跡に切られている。

平面形はほぼ円形であり、断面形はフラスコ状である。開口部の直径は1.05m、底部の直径は2.00m、検出面からの深さは91cmである。床面は東側に凹みがあるが、副穴でない。

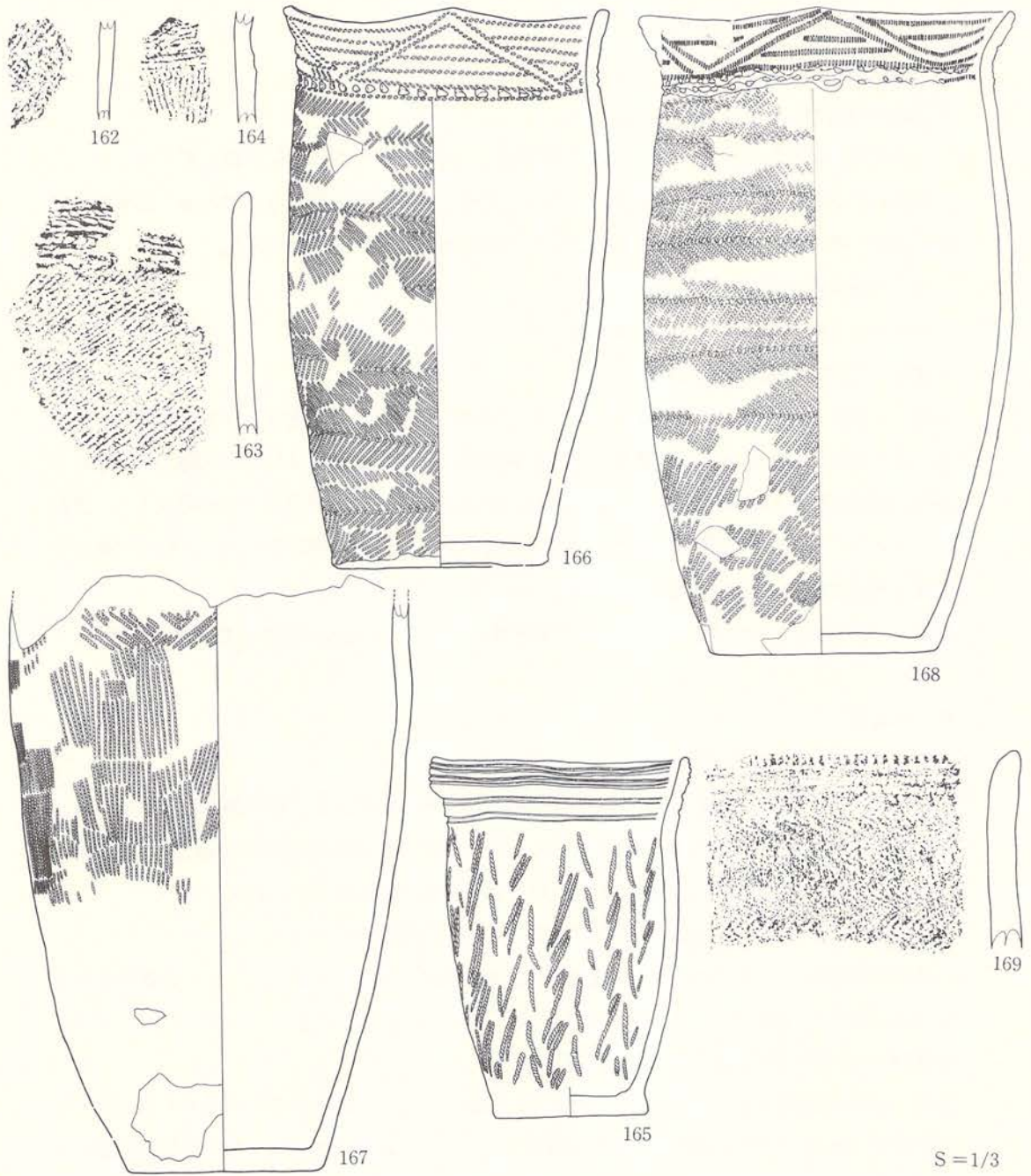
埋土はほぼ水平な堆積であり、中部～上部に遺物が比較的多い。

時期は底面から出土した遺物から縄文時代前期中葉に位置付けられる。土器の底部から出土した炭化物の<sup>14</sup>C測定では、BC3,660(±130)年の結果を得ている。

〈遺物〉(第48・49図、写真図版33・34・51)

土器 168が底面直上から、他は埋土からの出土である。165は頸部に膨らみをもち、2条の太い沈線で口縁部文様帯と胴部文様帯が分離されている。口縁部文様帯には半截竹管様工具による沈線文、胴部文様帯には木目状撚糸文が施されている。166と168は緩やかな小波状を呈する口縁をもつ深鉢形土器である。刺突列によって口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。約4cm幅の口縁部文様帯には撚紐により幾何学文様が、胴部文様帯には横方向の結束羽状縄文が施されている。167は口縁部が欠損して全容が不明であるが、円筒形を呈する深鉢形土器と思われる。胴部上半には結束羽状縄文、下半には縦位の撚糸文が施されている。

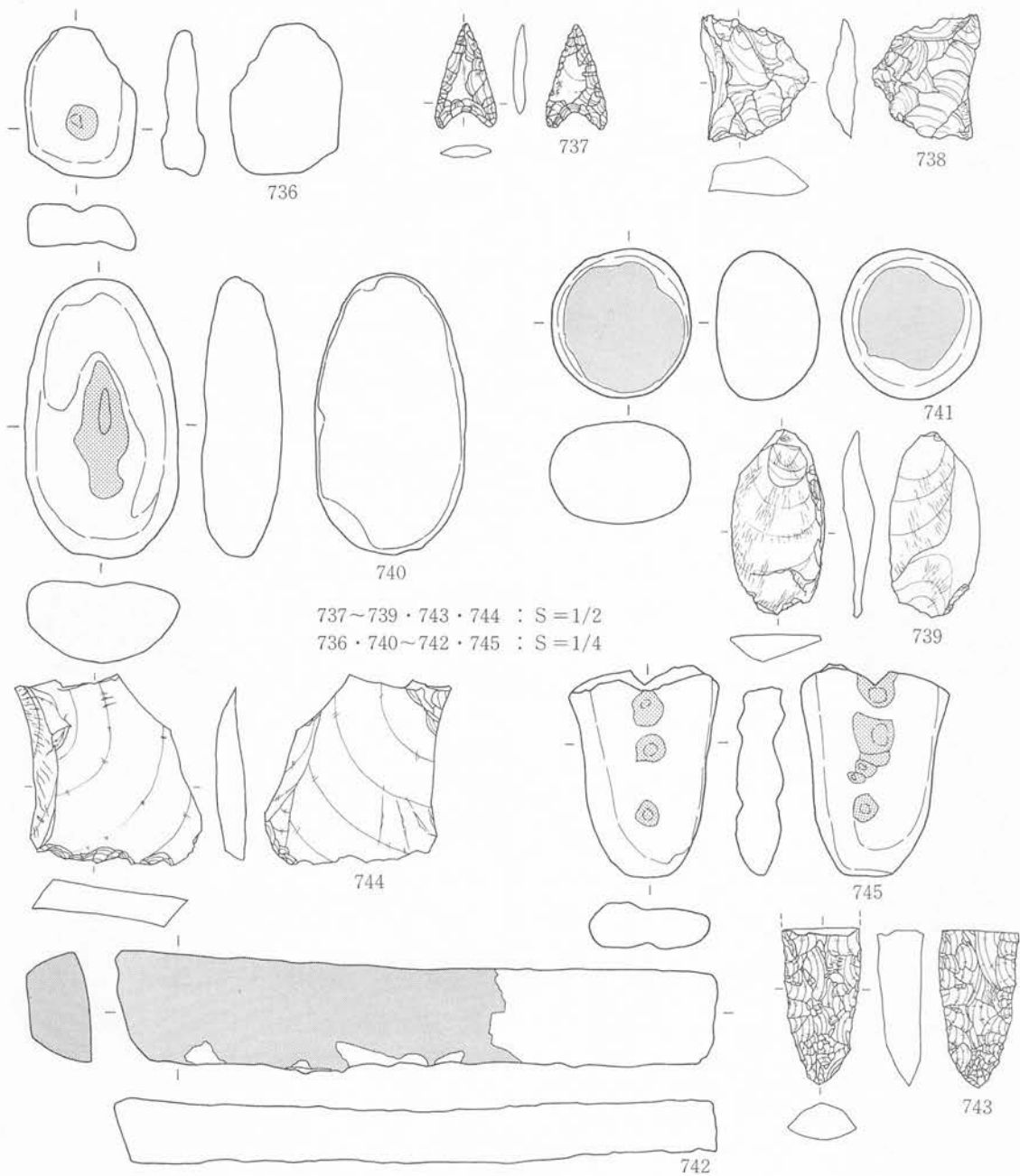
石器 743の石槍、744の不定形石器、745の凹石の各1点が出土しているが、いずれも欠損して



No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
162	15号土坑・埋土	深鉢	胴部	結束羽状縄文、縦織合	ナデ	I群6類	37
163	16号土坑・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、刺突文、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	37
164	16号土坑・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、木目状撚糸文	ナデ	I群3類b	37
165	17号土坑・埋土中部	深鉢	口～底部	沈線文、木目状撚糸文	ナデ	I群5類b	33
166	17号土坑・埋土	深鉢	口～底部	撚紐圧痕、刺突文、結束羽状縄文	ナデ	I群3類c	34
167	17号土坑・埋土中～上部	深鉢	胴～底部	結束羽状縄文、縦位撚糸文	ナデ	I群3類	34
168	17号土坑・埋土	深鉢	口～底部	単軸絡条体圧痕文、刺突文、結束羽状縄文	ナデ	I群3類c	34
169	17号土坑・埋土	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕文、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	37

第48図 第15～17号土坑出土遺物



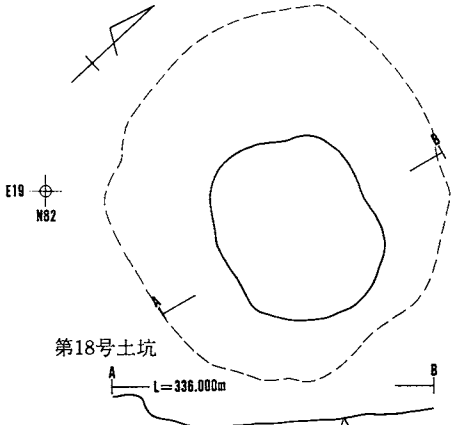


737~739・743・744 : S=1/2  
 736・740~742・745 : S=1/4

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
736	凹石		88	65	26	190.0	6号土坑・埋土	両輝石安山岩			50	457
737	石鏃	I 2 b	30	19	4	1.7	11号土坑・埋土上部	硬質泥岩			50	212
738	搔器		37	31	8	11.2	12号土坑・埋土下部	硬質泥岩			50	324
739	不定形石器(一)		54	27	9	11.8	12号土坑・埋土下部	硬質泥岩			50	323
740	磨石		165	90	47	970.0	12号土坑・埋土上部	両輝石安山岩			50	454
741	磨石		88	83	60	620.0	14号土坑・埋土	両輝石安山岩			50	453
742	石棒		354	72	37	1210.0	16号土坑・埋土下部	流紋岩			50	495
742	石棒		351	68	43	1220.0	16号土坑・埋土下部	流紋岩			50	496
743	石鏃	I 1	46	24	14	16.7	17号土坑・埋土下部	硬質泥岩	破片		51	256
744	不定形石器(一)		56	56	8	34.2	17号土坑・埋土	粘板岩			50	327
745	凹石		124	87	27	300.0	17号土坑・埋土下部	両輝石安山岩	一部欠損		50	459

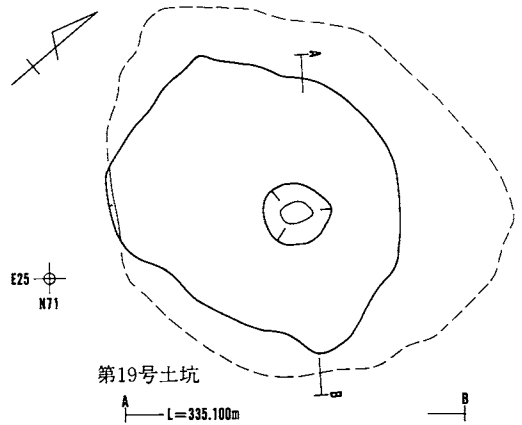
第49図 第6・11・12・14・16・17号土坑出土遺物





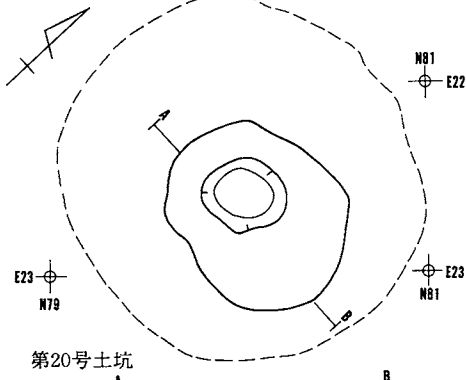
第18号土坑

- 第18号土坑
- |     |          |        |                           |
|-----|----------|--------|---------------------------|
| 1層  | 7.5YR3/4 | 暗褐色土   | 粘性・縮まりあり、小粒の地山質ブロックを含む    |
| 2層  | 7.5YR3/4 | 暗褐色礫質土 | 粘性・縮まり弱い、拳大の地山質ブロックを含む    |
| 3層  | 7.5YR3/3 | 暗褐色土   | 粘性・縮まりあり、小粒の地山質ブロックを含む    |
| 4層  | 7.5YR3/4 | 暗褐色土   | 粘性・縮まりあり、炭化物・土器片・地山崩落土を含む |
| 5層  | 7.5YR3/4 | 暗褐色土   | 粘性・縮まりあり、小粒の地山質ブロックを含む    |
| 6層  | 7.5YR3/4 | 暗褐色土   | 粘性・縮まりあり、炭化物・土器片・大礫を含む    |
| 7層  | 7.5YR3/3 | 暗褐色土   | 粘性・縮まりあり、小粒の地山質ブロックを含む    |
| 8層  | 10YR3/3  | 暗褐色土   | 粘性・縮まりあり、炭化物・土器片を少量含む     |
| 9層  | 10YR3/3  | 暗褐色土   | 粘性・縮まりあり、小粒の地山質ブロックを含む    |
| 10層 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土   | 粘性・縮まりあり、小粒の地山質ブロックを含む    |



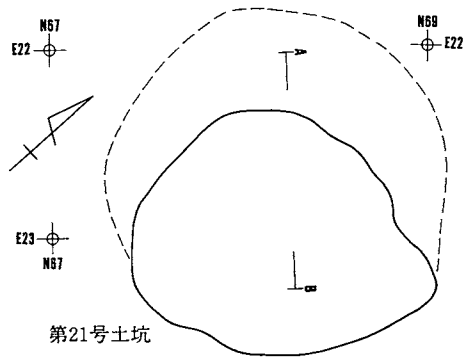
第19号土坑

- 第19号土坑
- |    |          |      |                         |
|----|----------|------|-------------------------|
| 1層 | 7.5YR4/3 | 褐色土  | 粘性・縮まりあり、少量の炭化物・浮石・礫を含む |
| 2層 | 7.5YR4/3 | 褐色土  | 粘性・縮まりあり、地山質ブロックを多く含む   |
| 3層 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土 | 粘性・縮まりあり、炭化物・礫・土器片を多く含む |
| 4層 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土 | 粘性・縮まりあり、炭化物を多く含む       |
| 5層 | 10YR3/4  | 暗褐色土 | 粘性・縮まりあり、炭化物を若干含む       |
| 6層 | 7.5YR4/4 | 褐色土  | 粘性・縮まりあり、地山質ブロックを多く含む   |



第20号土坑

- 第20号土坑
- |    |          |       |                       |
|----|----------|-------|-----------------------|
| 1層 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土  | 粘性・縮まりあり、土器片・大礫を含む    |
| 2層 | 10YR5/6  | 黄褐色土  | 粘性・縮まりあり、地山崩落土を含む     |
| 3層 | 10YR5/6  | 黄褐色土  | 粘性・縮まりあり、地山崩落土を含む     |
| 4層 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土  | 粘性・縮まりあり、土器片・大礫を含む    |
| 5層 | 10YR5/6  | 黄褐色土  | 粘性・縮まりあり、地山崩落土を含む     |
| 6層 | 7.5YR3/3 | 暗褐色土  | 粘性・縮まり弱い、炭化物を多く含む     |
| 7層 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色土 | 粘性・縮まり弱い、炭化物・礫・土器片を含む |



第21号土坑

- 第21号土坑
- |     |          |      |                         |
|-----|----------|------|-------------------------|
| 1層  | 7.5YR4/4 | 褐色土  | 粘性・縮まりあり、緑色の極小礫を含む      |
| 2層  | 7.5YR3/3 | 暗褐色土 | 粘性・縮まり弱い、炭化物・礫・土器片を含む   |
| 3層  | 7.5YR3/4 | 暗褐色土 | 粘性・縮まりあり、地山質ブロックを含む     |
| 4層  | 7.5YR3/4 | 暗褐色土 | 粘性・縮まりあり、土器片・礫を含む       |
| 5層  | 7.5YR4/4 | 褐色土  | 粘性・縮まりあり、地山質ブロックを含む     |
| 6層  | 7.5YR3/3 | 暗褐色土 | 粘性・縮まり弱い、炭化物・礫・土器片を含む   |
| 7層  | 7.5YR4/4 | 褐色土  | 粘性・縮まりあり、地山質ブロックを含む     |
| 8層  | 7.5YR3/3 | 暗褐色土 | 粘性・縮まり弱い、地山質ブロックを含む     |
| 9層  | 7.5YR4/4 | 褐色土  | 粘性・縮まりあり、炭化物・地山質ブロックを含む |
| 10層 | 10YR4/4  | 褐色土  | 粘性・縮まりあり、極少量の炭化物を含む     |
| 11層 | 7.5YR3/3 | 暗褐色土 | 粘性・縮まりあり、礫・極少量の炭化物を含む   |

第50図 第18~21号土坑

いる。凹石は両面を使用している。

## 第18号土坑

〈遺構〉(第50図、写真図版18)

北端斜面の下部2 I 区に位置し、平坦面に検出された。

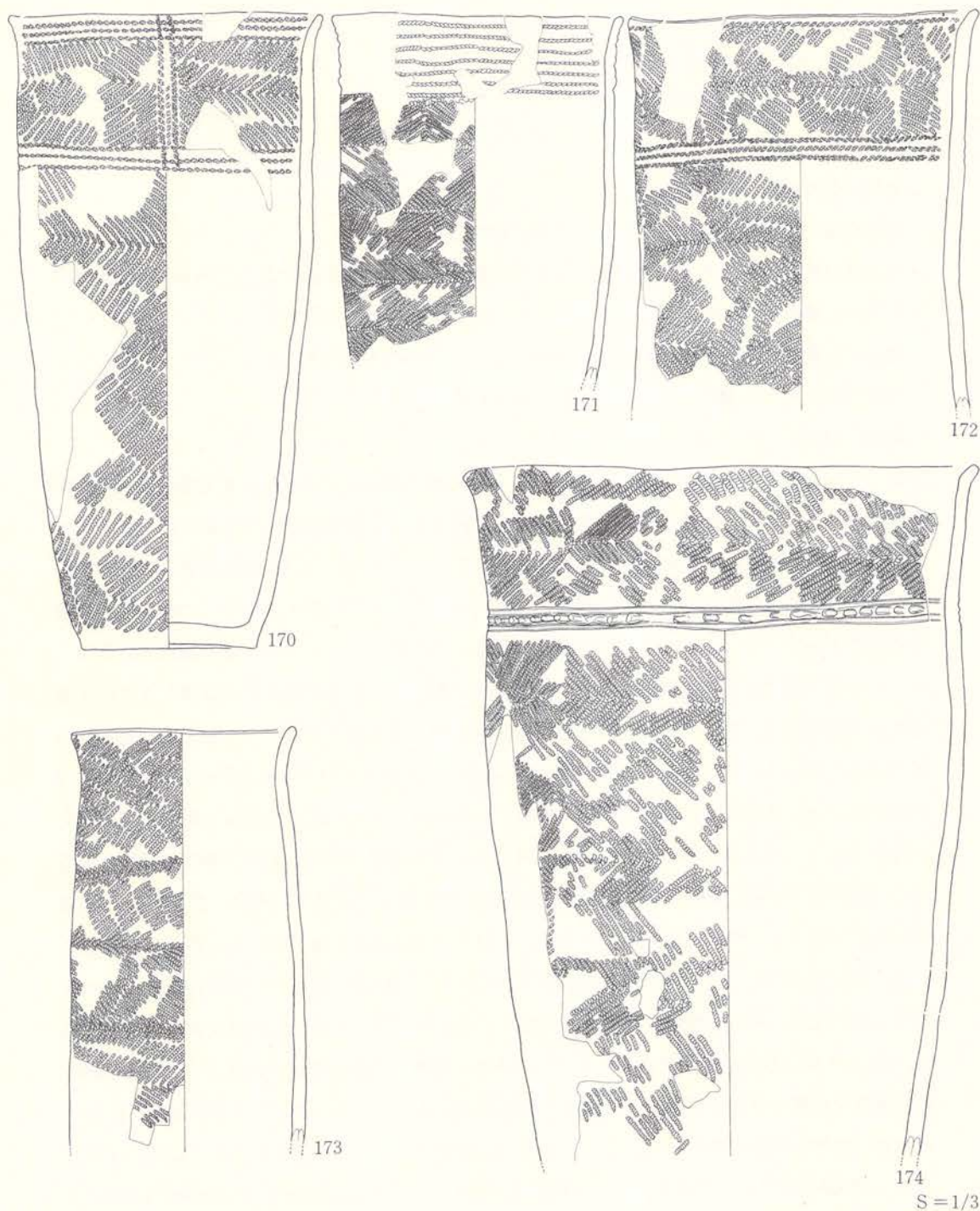
平面形はほぼ円形であり、断面形はフラスコ状を呈する。開口部の直径は90cm、底部の直径は1.90m、検出面からの深さは1.15mである。底面は水平かつ平坦である。

埋土は自然堆積であり、下部に炭化物が多く、土器が多量に含まれる。

時期は埋土出土の遺物から縄文時代前期中葉以降に位置付けられる。

〈遺物〉(第51・52・54図、写真図版34～36・51)

土器 すべて埋土からの出土である。170は3条の撚紐の圧痕により、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。幅広の口縁部文様帯には口唇部付近に横位撚紐及び4組の垂下する撚紐の圧痕、器面全体には横方向の結束羽状縄文が施されている。171は口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。幅広の口縁部文様帯には7条の撚紐の圧痕、胴部文様帯には横方向の結束羽状縄文が施文されている。胎土には植物性繊維が含まれている。172は3条の撚紐の圧痕により、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。幅広の口縁部文様帯には口唇部付近に2条の横位撚紐の圧痕、器面全体には横方向の結束羽状縄文が施文されている。胎土には植物性繊維が含まれている。173は胎土に植物性繊維が含まれた深鉢形土器である。頸部に括れを持ち口縁部は緩やかに外反している。口縁部文様帯には単節斜行縄文、胴部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。174は沈線と1条の刺突列によって口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。幅広の口縁部文様帯及び胴部文様帯には横方向の結束羽状縄文が施文されている。175は胴部最大径を上半に持つ深鉢形土器である。6個の小突起を持ち波状を呈する折り返し口縁である。波状頂部の下にはそれぞれ貼瘤が配されている。口縁部文様帯には半截竹管様工具により浅く細い沈線、胴部文様帯には単節斜行縄文を地文としさらに縦位の綾線文が施文されている。176は3条の単軸絡条体圧痕文により、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。幅広の口縁部文様帯及び胴部文様帯には結束羽状縄文が施されている。器壁は非常に薄く、胎土には微量の植物性繊維が含まれている。177は頸部に括れをもち、口縁部の外反する深鉢形土器である。口唇部には円形竹管様工具による刺突文が全周し、口唇部文様帯には単軸絡条体圧痕文・胴部には横方向の結束羽状縄文が施されている。胎土に小礫を多量に含んでいる。178は体部最大径を胴部中央に持つ深鉢形土器である。胴部には単節斜行縄文を地文とし、2条1組の縦位の綾線文が施文されている。底部は上げ底風で、胎土には多量の小礫が含まれている。179～186は深鉢形土器の底部及び胴部である。すべて胎土には微量の小礫と植物性繊維が含まれている。



S=1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
170	18号土坑・埋土	深鉢	口～底部	撚紐圧痕、結束羽状縄文	ナデ	I群1類c	34
171	18号土坑・埋土中～上部	深鉢	口～胴部	撚紐圧痕、結束羽状縄文	ナデ	I群5類b	35
172	18号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	撚紐圧痕、結束羽状縄文	ナデ	I群1類c	35
173	18号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	結束羽状縄文	ナデ	I群1類d	35
174	18号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	刺突、沈線、結束羽状縄文	ナデ	I群1類c	35

第51図 第18号土坑出土遺物(1)



No.	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
175	18号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	沈線、突起、貼瘤、縦位綾織文	ナデ	I群5類b	35
176	18号土坑・埋土中～上部	深鉢	口～胴部	単軸絡糸体圧痕文、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	35
177	18号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	口唇部凹形刺突文、単軸絡糸体圧痕文、結束羽状縄文	ナデ	I群2類b	35
178	18号土坑・埋土底面	深鉢	胴～底部	縦位綾織文、単節斜行縄文	ナデ	II群11類	35
179	18号土坑・埋土中～上部	深鉢	底部	単節斜行縄文、織維含	ナデ	I群6類	35
180	18号土坑・埋土	深鉢	胴～底部	複節斜行縄文、織維含	ナデ	I群6類	35
181	18号土坑・埋土	深鉢	胴～底部	結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群6類	35
182	18号土坑・埋土	深鉢	胴部	結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群6類	35
183	18号土坑・埋土	深鉢	底部	結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群6類	35
184	18号土坑・埋土	深鉢	底部	結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群6類	35
185	18号土坑・埋土	深鉢	胴～底部	縦位撚糸文、織維含	ナデ	I群6類	35
186	18号土坑・埋土中～上部	深鉢	底部	縦位撚糸文、織維含	ナデ	I群6類	35
187	18号土坑・埋土中～上部	深鉢	胴部	186と同一個体、縦位撚糸文、結束羽状縄文	ナデ	I群6類	35
188	18号土坑・埋土	深鉢	胴部	上半結束羽状縄文、下半縦位撚糸文、織維含	ナデ	I群6類	35

第52図 第18号土坑出土遺物(2)

179は地文として単節斜行縄文が施文されている。180は地文として複節斜行縄文が施文されている。181・182は横方向、183・184は縦方向の結束羽状縄文が施文されている。185は縦位の撚糸文が施されている。同一個体の186・187・188は、胴部上半に横方向の結束羽状縄文、胴部下半に縦位の撚糸文が施されている。

石器 欠損した747、748の石匙2点、746の石鏃1点、749の半円状偏平打製石器1点が出土している。749は下辺部を擦っている。

### 第19号土坑

〈遺構〉(第50図、写真図版19)

北端斜面縁の3H区に位置し、第1号住居跡の床面から検出された。第1号住居跡によって切られ、第14号土坑を切っている。

平面形はほぼ円形であり、断面形はフラスコ状を呈する。開口部の直径は1.00m、底部の直径は2.00m、検出面からの深さは1.30mである。底面は水平であり、中央部に直径33cm、深さ26cmの副穴を有する。

埋土は自然堆積であり、炭化物や焼土粒が多く混入する。副穴の埋土は腐植質土である。

時期は出土遺物から縄文時代前期末葉に位置付けられる。

〈遺物〉(第53・54図、写真図版38・51)

土器 すべて埋土からの出土である。189はバケツ形を呈する深鉢形土器である。縦位の綾線文が施された単節斜行縄文を地文とし、口縁部文様帯を意識した撚糸文が口唇部付近に部分的に施文されている。胎土に少量の植物性繊維が含まれている。190は撚紐の末端による刺突列によって口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐の圧痕により幾何学文様、胴部文様帯には結束羽状縄文が施文されている。胎土に少量の植物性繊維が含まれている。191は深鉢形土器の胴部上半である。地文として単節斜行縄文が施文され、細い粘土紐の貼付による隆線文による文様が描かれる、隆線文上は素文である。192は地文として単節斜行縄文の回転方向を変化させて羽状縄文状を表出している。

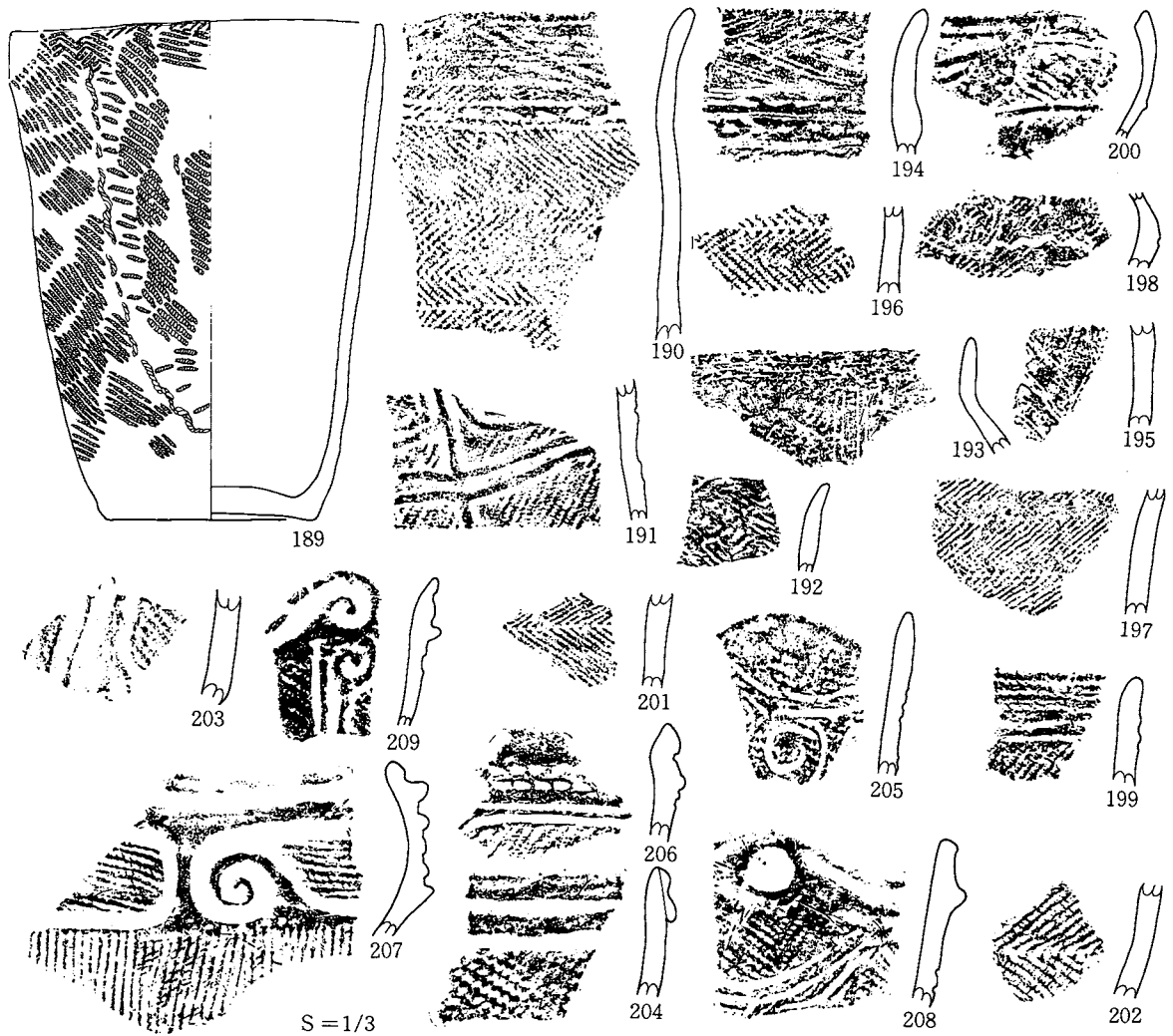
石器 750の横型石匙1点と751の搔器1点である。

### 第20号土坑

〈遺構〉(第50図、写真図版19)

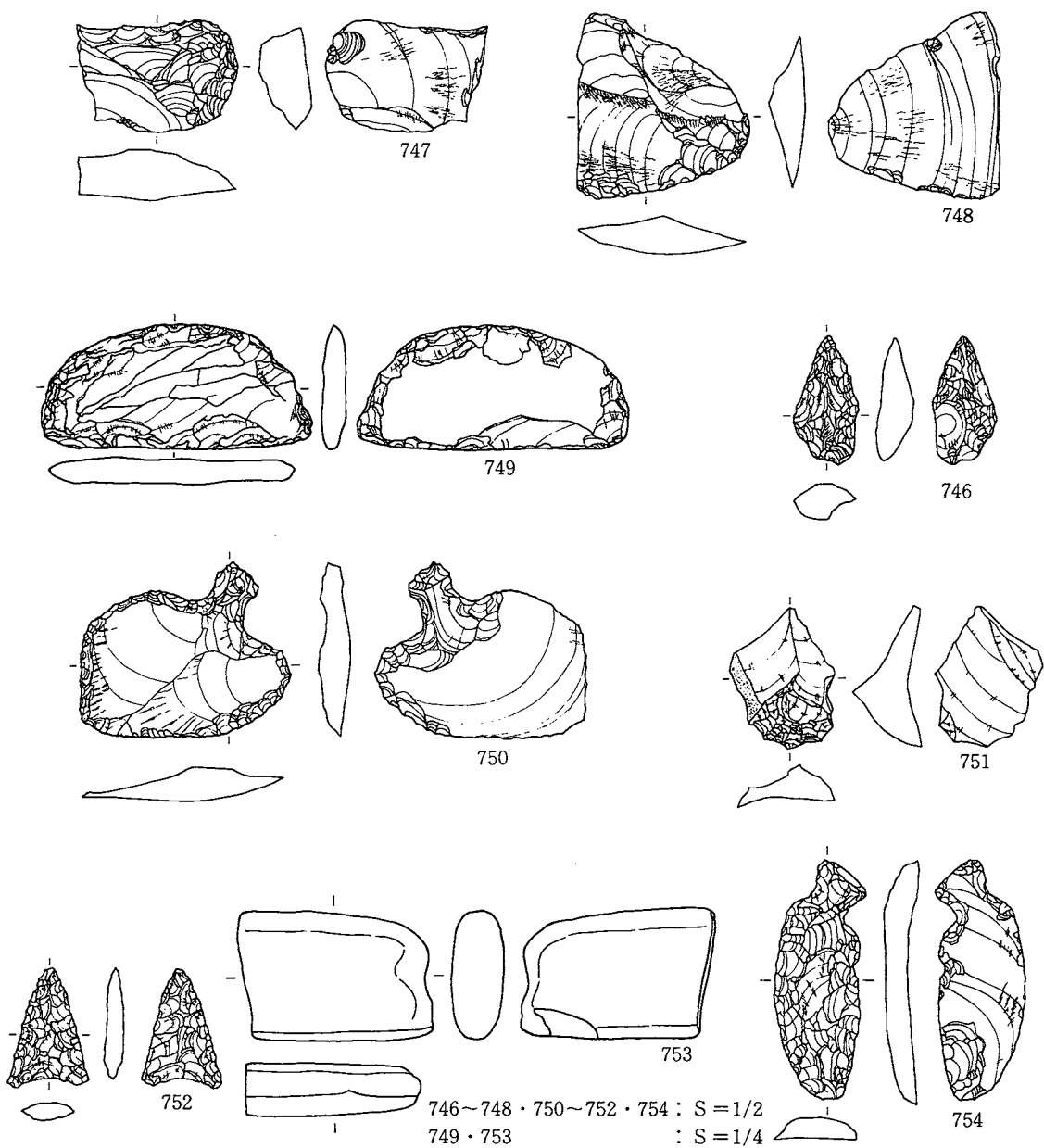
北端の斜面際3I区に位置し、単独のものとして検出された。

平面形はほぼ円形である。断面形は東側を欠いているが、全体としてフラスコ状である。開口部の直径は80cm、底部の直径は1.85m、検出面からの深さは1.25mである。底面は水平であり、



No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
189	19号土坑・埋土	深鉢	口～底部	縦位綾線文、単節斜行縄文、捺糸文、織維含	ミガキ	I群6類	36
190	19号土坑・埋土	深鉢	口縁部	捺紐圧痕、原体末端の刺突、結束羽状縄文、織維含	ミガキ	I群3類c	38
191	19号土坑・埋土	深鉢	口～胴部	粘土紐貼付、単節斜行縄文	ナデ	II群4類a	38
192	19号土坑・埋土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文不規則回転	ナデ	II群11類	38
193	20号土坑・埋土下部	壺	口縁部	平行沈線文	ナデ	I群5類a	38
194	20号土坑・埋土	深鉢	口縁部	捺紐圧痕、微隆帯、刺突文	ミガキ	I群3類c	38
195	20号土坑・埋土	深鉢	胴部	網目状捺糸文	ナデ	II群11類	38
196	20号土坑・埋土下部	深鉢	胴部	結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群6類	38
197	20号土坑・埋土	深鉢	胴部	結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群6類	38
198	20号土坑・埋土	深鉢	胴部	横位綾線文、単節斜行縄文	ナデ	I群6類	38
199	21号土坑・埋土	深鉢	口縁部	捺紐圧痕、微隆帯、刺突、織維含	ミガキ	I群3類b	38
200	21号土坑・埋土	深鉢	口縁部	微隆線、単節斜行縄文	ナデ	II群8類a	38
201	21号土坑・埋土2層	深鉢	胴部	結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群6類	38
202	21号土坑・埋土	深鉢	胴部	結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群6類	38
203	第1号炉跡	深鉢	胴部	隆沈線、単節斜行縄文	ナデ	II群9類a	38
204	4 F区・地山直上	深鉢	口縁部	隆沈線、単節斜行縄文	ナデ	II群8類b	38
205	4 F区・地山直上	深鉢	口縁部	渦巻沈線文、単節斜行縄文	ナデ	II群8類b	38
206	4 F区・地山直上	深鉢	口縁部	微隆帯、刺突文、単節斜行縄文	ナデ	II群8類b	38
207	25号土坑・埋土	深鉢	口縁部	隆沈線渦巻文、捺糸文	ナデ	II群8類b	38
208	25号土坑・埋土	深鉢	口縁部	沈線、単節斜行縄文、盲孔	ナデ	II群8類b	38
209	25号土坑・埋土	深鉢	口縁部	渦巻隆沈線、単節斜行縄文	ナデ	II群8類b	38

第53図 第19～21・25号土坑、4 F区、第1号炉跡出土遺物



746~748・750~752・754 : S = 1/2  
 749・753 : S = 1/4

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
746	石鏃	I 3	38	19	10	5.3	18号土坑・埋土中部	粘板岩	一部欠損		51	230
747	石匙		32	46	14	27.3	18号土坑・埋土中部	珪質泥岩	一部欠損		51	390
748	石匙		54	50	11	29.0	18号土坑・埋土	珪質泥岩	一部欠損	油脂付着	51	389
749	半円状偏平打製石器		16	77	14	260.0	18号土坑・埋土	チャート			51	371
750	石匙		51	61	9	24.2	19号土坑・埋土上部	珪質泥岩			51	215
751	搔器		40	30	16	13.5	19号土坑・埋土中部	珪質泥岩		未製品の	51	328
752	石鏃	I 2 a	34	23	6	2.7	20号土坑・埋土上部	流紋岩	一部欠損		51	218
753	磨石		75	102	30	423.0	20号土坑・埋土中部	緑色砂質凝灰岩			51	455
754	石匙		51	61	9	24.2	19号土坑・埋土上部	珪質泥岩			51	215

第54図 第18~20号土坑出土遺物



底部に直径40cm、深さ16cmの副穴を有する。

埋土は炭化物や土器片を含む崩落土であり、一気に埋没したと考えられる。

時期は出土遺物から縄文時代前期末葉から中期初頭に比定される。

〈遺物〉(第53・54図、写真図版38・51)

**土器** すべて埋土からの出土である。193は壺形土器の口縁部である。細く浅い沈線により縦横に平行沈線文が施文されている。一部に単節斜行縄文の痕跡が認められるが、摩滅が著しく詳細は不明である。194は刺突列と撚紐による幾何学文様、胴部文様帯には単節斜行縄文が施文されている。胎土に微量の植物性繊維が含まれている。195は網目状撚糸文が施文された深鉢形土器である。胎土に多量の小礫が含まれている。196・197は結束羽状縄文が施文された深鉢形土器である。胎土に少量の植物性繊維が含まれる。192は胴部中央に強い膨らみをもつ深鉢形土器である。単節斜行縄文を地文とし、横位の綾線文が施されている。

**石器** 752の石鏃1点と753の半円状偏平打製石器様の磨石1点である。753は約3分の1を欠損している。短側辺に抉入がある。全体に擦痕があり、下辺部で顕著である。

#### 第21号土坑

〈遺構〉(第50図、写真図版19)

北端斜面の3G区に位置し、旧削平面に検出された。

平面形はほぼ円形であり、断面形は壁の3分の1を欠いているがフラスコ状である。開口部の直径は1.10m、底部の直径は1.80m、検出面からの深さは1.15mである。底面は水平かつ平坦である。

埋土は焼土粒や炭化物粒を含む暗褐色土層と地山ブロックを含む層が互層をなし、時期は出土遺物が縄文時代前期末葉から中期中葉に比定されることから、中期中葉以降と考えられる。

〈遺物〉(第53図、写真図版38)

**土器** 4点とも埋土からの出土である。199は刺突列の施された微隆帯により、口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯には撚紐による圧痕文、胴部文様帯には単節斜行縄文が施文されている。胎土には微量の植物性繊維が含まれている。200はキャリパー型を呈する深鉢形土器の口縁部である。地文として単節斜行縄文が施文され、さらに粘土紐による微隆線が貼付されている。201・202は胎土に植物性繊維が含まれ、地文として結束羽状縄文が施されている。



### 第22号土坑

〈遺構〉(第55図、写真図版19)

中央部の14C区に位置し、単独の落込みとして検出された。

平面形はほぼ円形であり、断面形は残存する北壁の立ち上がりからフラスコ状と思われる。

開口部の直径は1.20m、底部の直径は1.70m、検出面からの深さは53cmである。底面はほぼ水平であり、底部に直径32cm、深さ17cmの副穴を有する。

埋土は崩落土でほぼ1層であり、副穴の埋土は砂質土である。

時期を特定できる遺物はないが、形状から縄文時代の土坑と考えられる。

〈遺物〉

摩滅した縄文時代の土器細片1点が出土している。

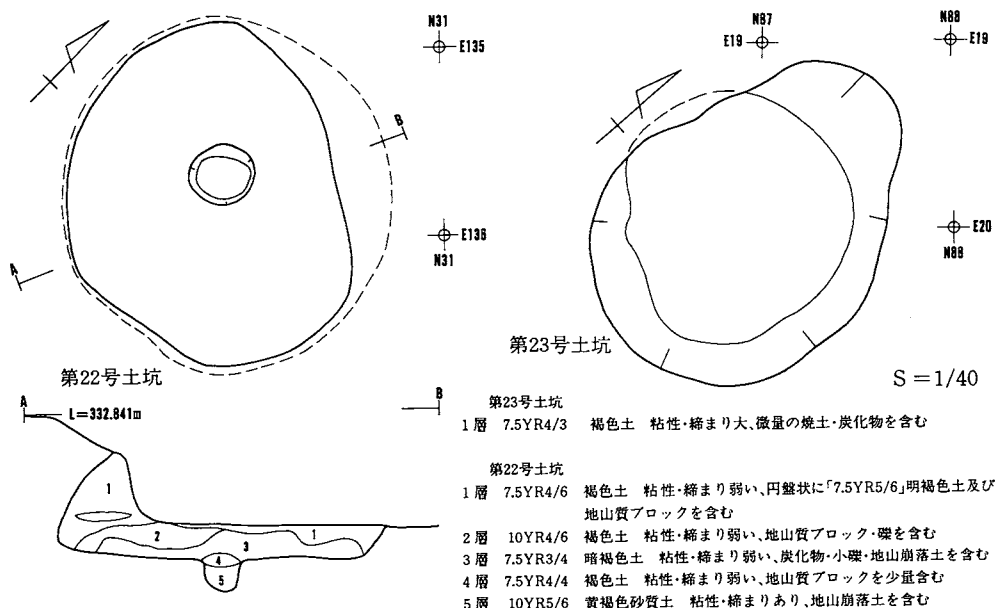
### 第23号土坑

〈遺構〉(第55図、写真図版20)

北端斜面の3 I 区に位置し、斜面裾から不整形な落ち込みとして検出された遺構である。

平面形は上端が北側にふくらんでいるが底部はほぼ円形である。断面形は浅いピーカー状である。開口部径は1.50m、底部径1.15m、深さは1.06mである。底面はほぼ水平である。埋土は霜降り状の崩落土で1層である。

時期を特定できる遺物はないが、埋土の状況や形状から縄文時代の土坑と考えられる。



第55図 第22・23号土坑

## 第24号土坑

〈遺構〉(第56図、写真図版20)

北端斜面の南東側4E区に、第1号炉跡に近接する形で検出された。これは黒色の粘質土を除去した後に確認された遺跡である。第1号炉跡との切り合い関係は不明である。

平面形はほぼ楕円形であるが、壁はゆるく外傾して断面は皿状となる。開口部の長軸長2.50m、単軸長1.80m、底部はそれぞれ1.60m、0.90mである。

埋土はほぼ水平に堆積し、微量の焼土を含む。

時期については溝に切られているが、伴出遺物もなく不明である。

## 第25号土坑

〈遺構〉(第56図、写真図版20)

4F区に位置する。褐色土面に微量の焼土や炭化物を含み遺物が混在する部分が検出され、遺構と確認された。東側は調査区域外に続き、中央部は溝に削平されている。

平面形はほぼ楕円形であり、長軸方向は2.6m、短軸方向は1.7m、面積は26m<sup>2</sup>である。壁は西側に緩く傾斜し、底面には凹凸がみられる。

埋土は微量の焼土や炭化物を含み、遺物が混在している。

時期は出土遺物から縄文時代中期中葉に比定される。

〈遺物〉(第53図、写真図版38)

207は縦位撚糸文を地文とし、口縁部文様帯に横S字状文・方形区画文が隆沈線により施文され区画の内部は撚糸文で充填される。208は波状口縁を呈する深鉢形土器である。口唇部に凹線が巡り、波頂部の下には盲孔がみられる。単節斜行縄文を地文とし、沈線により波状文が施文される。209は波状口縁を呈する小型の深鉢形土器である。沈線文により縦方向に展開する蕨状文が施文される。

この土坑の近くの地山直上に認められた204～206については遺構外出土物であるが以下に記述する。

204は単節斜行縄文を地文とし、口縁部上端に隆沈線が巡っている。205は、胴部が膨らみ波状口縁を呈する小型の深鉢形土器である。単節斜行縄文を地文とし沈線により渦巻文が施文されている。206は単節斜行縄文を地文とし、口縁部文様帯に平行沈線文と刺突文が施文される。

### 3 炉跡

#### 第1号炉跡

〈遺構〉(第56図、写真図版20)

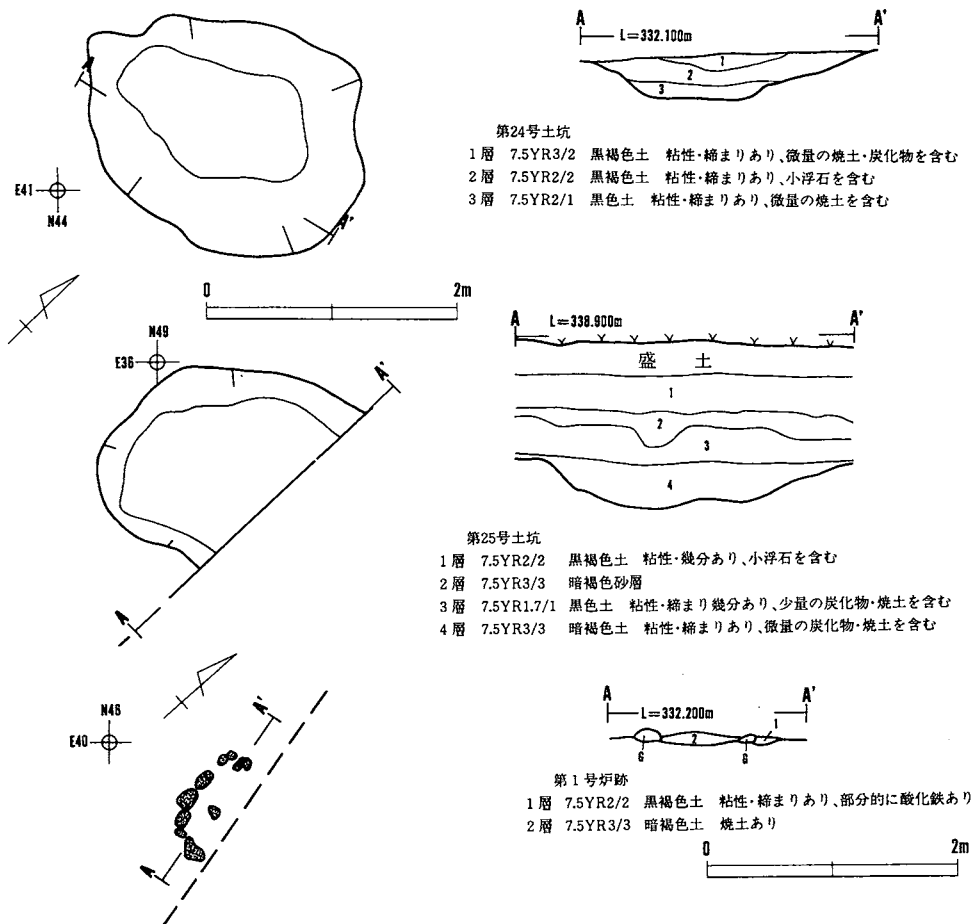
4 F区に位置する。石囲い炉が検出されたが、壁や柱穴、床面は確認されなかったものである。想定される平面は、調査区域外に続き、また一部は溝に削平されている。

炉には厚さ4cmの焼土が形成されている。

時期は出土遺物から縄文時代中期中葉に比定される。

〈遺物〉(第53図、写真図版38)

土器 203は隆沈線による縦方向の渦巻文が施文される。地文は単節斜行縄文である。



第56図 第24・25号土坑・第1号炉跡

## 4 土器埋設遺構

### 第1号土器埋設遺構

〈遺構〉(第57図、写真図版13)

北端平坦面の3 J区に位置し、II層の暗褐色土を掘り下げている過程で検出された。

平面形は円形、断面形は円筒形を呈する土坑に土器が倒立の状態で見出された遺構である。土坑の規模は開口部の直径65×54cmであり、検出面からの深さは80cmである。埋土は地山に類似した褐色土であり、微量の焼土粒が含まれている。

土器は底部を欠損しているが、周辺から出土した土器に接合するものや底部に穿孔されたものが発見されていないことから、埋設当初から欠けていたものと考えられる。

時期は土器から縄文時代中期中葉に位置付けられる。

〈遺物〉(第57図、写真図版36)

4個の大波状突起をもち、キャリパー形を呈する大型の深鉢形土器である。波頂部には円孔が穿たれ、大突起の間は小波状口縁である。地文として器面全体に単節斜行縄文が施される。口縁部文様帯には貼付文によって波状文、渦巻文が施されている。波状文の連結する頸部には原体末端による刻み目の施された隆起帯が貼付されている。

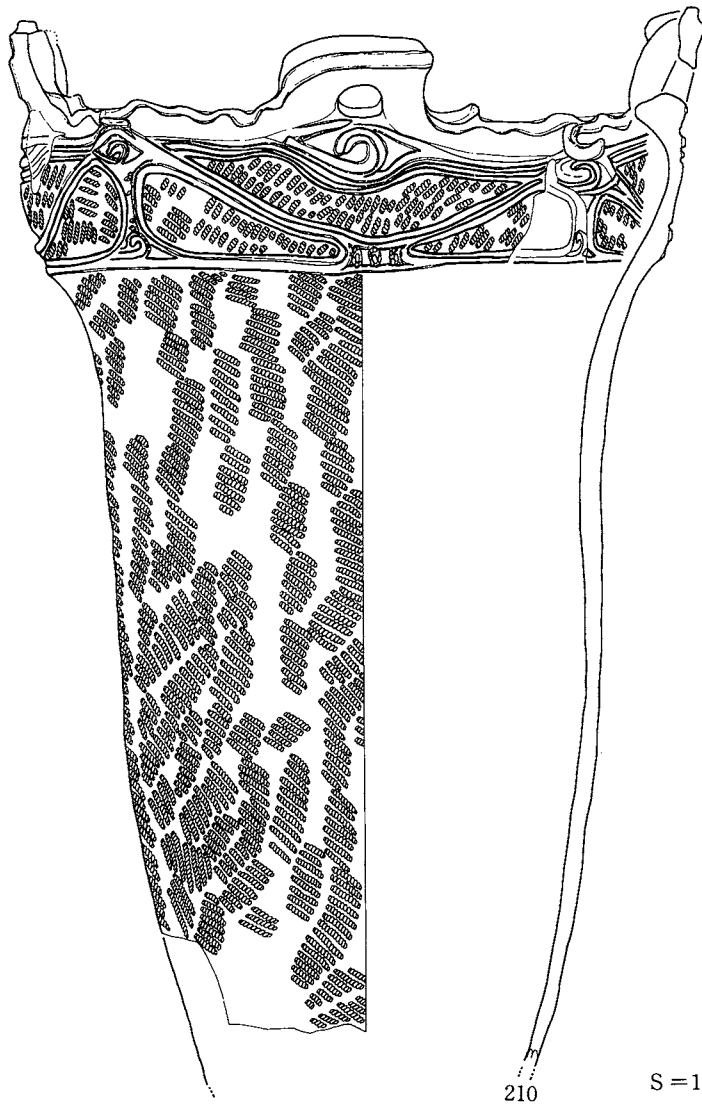
## 5 溝跡

北西端から東端にかけて表土を除去して検出された溝跡である。走行方向や形状から一連の溝と考えられるが途中切れていることから地区別に記述することとする。なお、溝の開削時期を特定できる遺物は出土していない。

### 北端部平坦面(第58図、写真図版21)

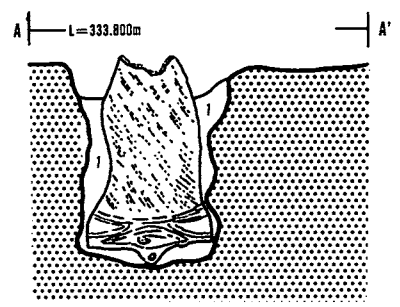
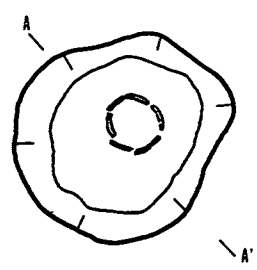
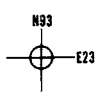
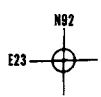
北端部の斜面裾に沿ったJ 2-3区に位置する。北東部の地形も平坦なので、溝は平坦であり、削平されず調査区域外に延びている。確認された全長は15.8m、上幅3.53m、深さは最大60cmである。断面形は底辺から緩やかに外傾している。両端の底辺の比高差は47cmで南に傾斜している。

埋土は黒褐色を主体にしているが、底部では円礫や砂が認められる。全体に法面の崩落による堆積や斜面からの流入が多く、微量の焼土粒が混入する。また、縄文時代の遺物が多数含まれる。



210

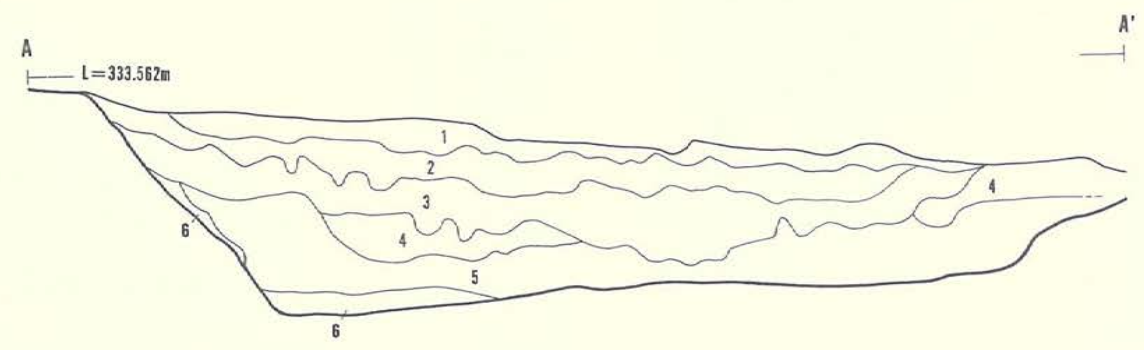
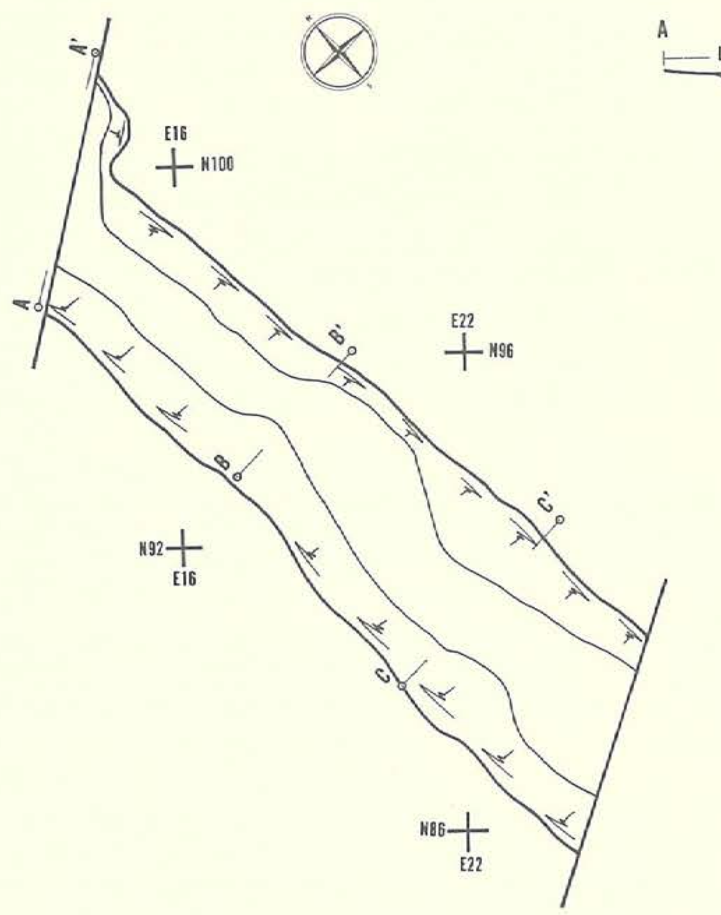
S = 1/3



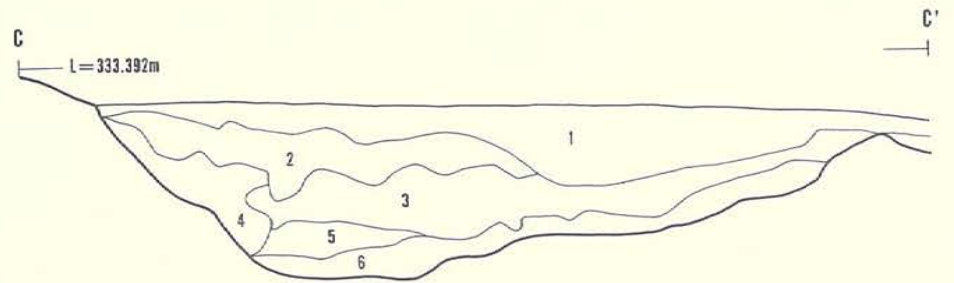
1層 7.5YR4/4 褐色土 粘性あり、微量の焼土混入

S = 1/40

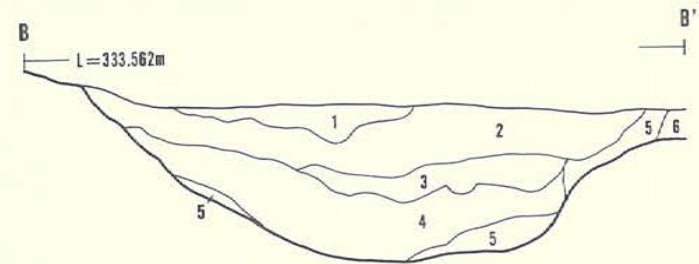
第57図 土器埋設遺構



- 平坦 M-Aベルト
- 1層 7.5YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締まりなし、微量の焼土・炭化物を含む、Φ 5mm大の黄褐色浮石細粒混入
  - 2層 7.5YR4/3 褐色シルト 粘性・締まりなし、微量の焼土・炭化物を含む
  - 3層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりなし、微量の焼土・炭化物を含む
  - 4層 7.5YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締まりなし、微量の焼土・炭化物を含む、3層がやや黒みを帯びたもの
  - 5層 7.5YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締まりなし、少量の焼土・Φ 10mm位の粘土ブロック混入
  - 6層 10YR6/6 明黄褐色粘土 締まりがあり、堅く緻密、壁の崩落土か



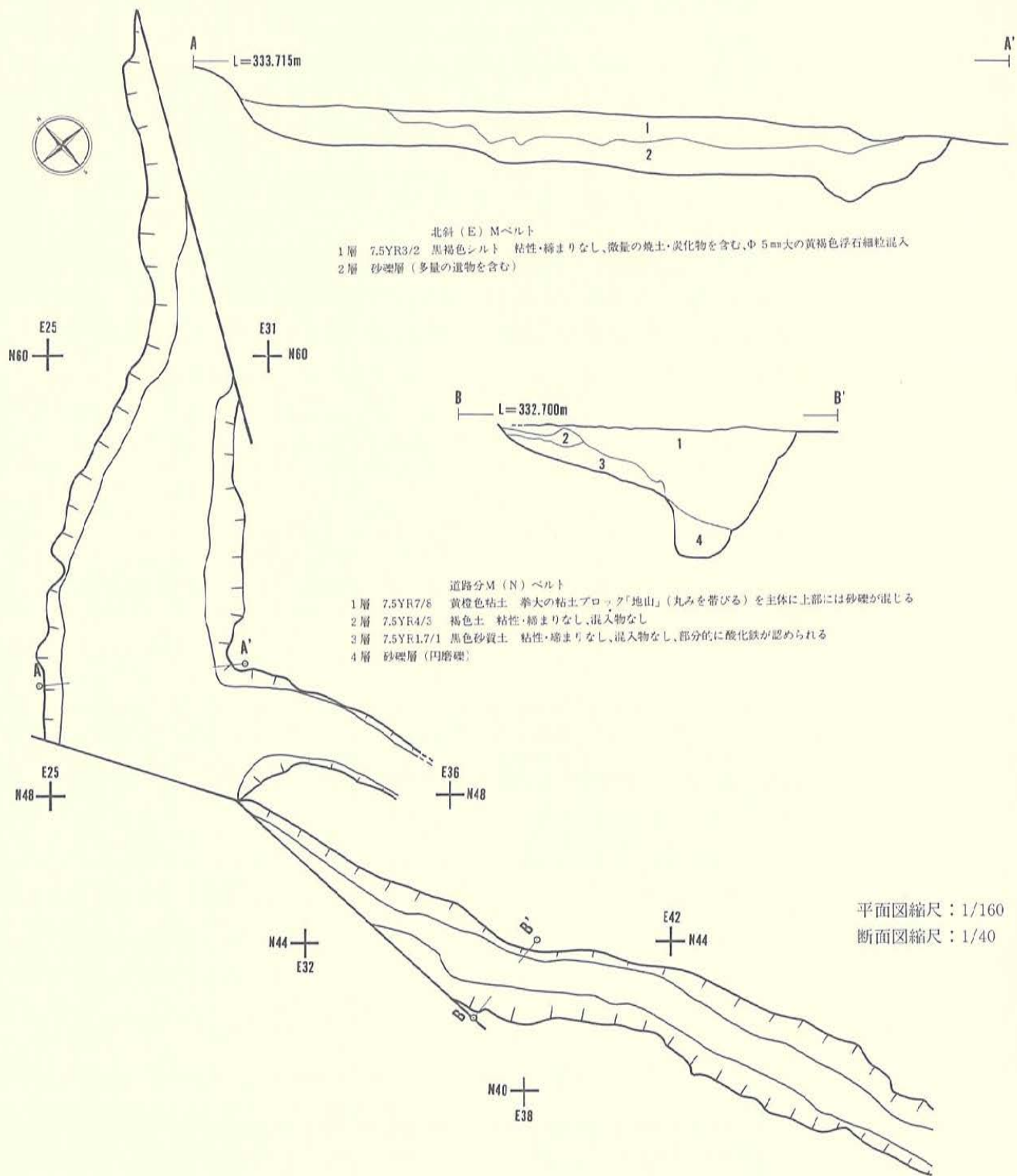
- M-Cベルト
- 1層 7.5YR3/1 黒褐色シルト 黒ボクか、粘性・締まりなし、微量の焼土混入
  - 2層 7.5YR3/1 黒褐色シルト 粘性・締まりなし、微量の焼土混入
  - 3層 7.5YR3/1 黒褐色シルト Φ 5-20mm大の粘土ブロック少量混入、粘性・締まりなし
  - 4層 10YR6/6 明黄褐色粘土 締まりがあり、堅く緻密、壁の崩落土か
  - 5層 7.5YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締まりなし、少量の焼土・Φ 10mm位の粘土ブロック混入
  - 6層 礫層



- M-Bベルト
- 1層 7.5YR4/3 褐色シルト 粘性・締まりなし、微量の焼土・炭化物を含む
  - 2層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりなし、微量の焼土・炭化物を含む
  - 3層 7.5YR3/3 暗褐色土 明黄褐色粘土(10YR6/6)が大量に混在
  - 4層 7.5YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締まりなし、少量の焼土・Φ 10mm位の粘土ブロック混入
  - 5層 10YR6/6 明黄褐色粘土 締まりがあり、堅く緻密、壁の崩落土か
  - 6層 7.5YR4/4 褐色粘土 再堆積層、緻密で堅い、焼土・炭化物混入、多量の遺物を含む

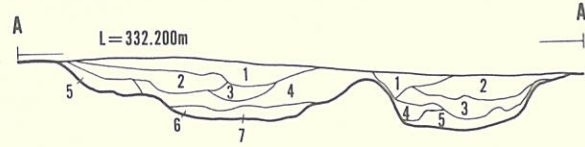
平面図縮尺：1/160  
断面図縮尺：1/40

第58図 北端部平坦面溝跡



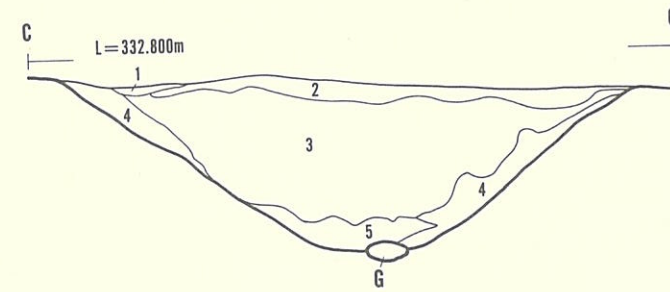
第59図 北端部斜面の東側平坦面溝跡





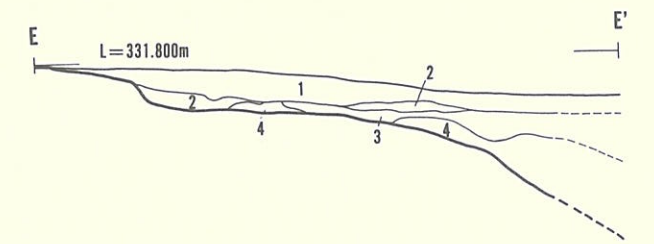
N25 E110区内ベルト

- 左側
- 1層 5 YR7/1 黒色土 粘性・締まり幾分あり、風化地山ブロック・砂質土を含む
  - 2層 7.5YR3/3 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし、小礫を若干含む
  - 3層 7.5YR4/3 褐色砂質土 粘性・締まりなし、2層より砂礫多い
  - 4層 7.5YR4/3 褐色砂質土 粘性・締まりなし、風化地山ブロックを含む
  - 5層 7.5YR4/4 褐色砂質土 粘性・締まりなし、地山ブロックを含む
  - 6層 7.5YR5/4 鈍褐色礫質土 粘性・締まりなし、酸化砂礫を含む
  - 7層 7.5YR3/4 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし、酸化地山ブロック、砂礫を含む
- 右側
- 1層 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり、地山ブロックを含む
  - 2層 2.5YR2/1 赤黒色土 粘性・締まりあり、地山ブロックを含む
  - 3層 5 YR2/1 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり、地山ブロックを少量含む
  - 4層 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり、黒色土多く含む
  - 5層 7.5YR4/6 褐色砂礫質土 粘性・締まりなし、砂礫を含む



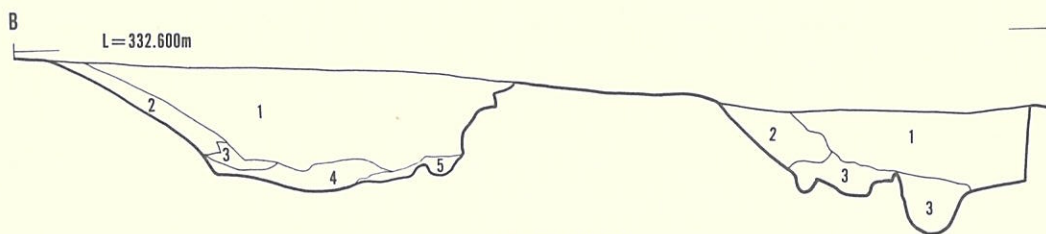
N30 E140区内ベルト

- 1層 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり
- 2層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まり幾分あり、薄層状に砂質地山が認められる
- 3層 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・締まり幾分あり、風化地山質土を含む
- 4層 5 YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり、風化地山質土を全面に含む
- 5層 7.5YR3/3 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし、地山ブロック・砂・礫を多く含む



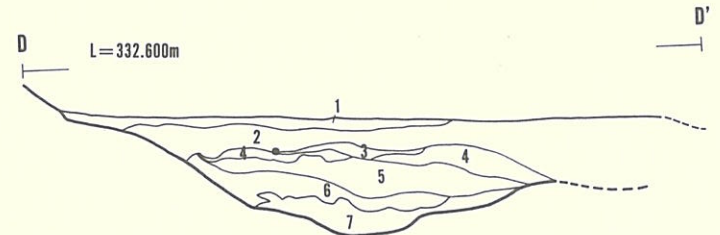
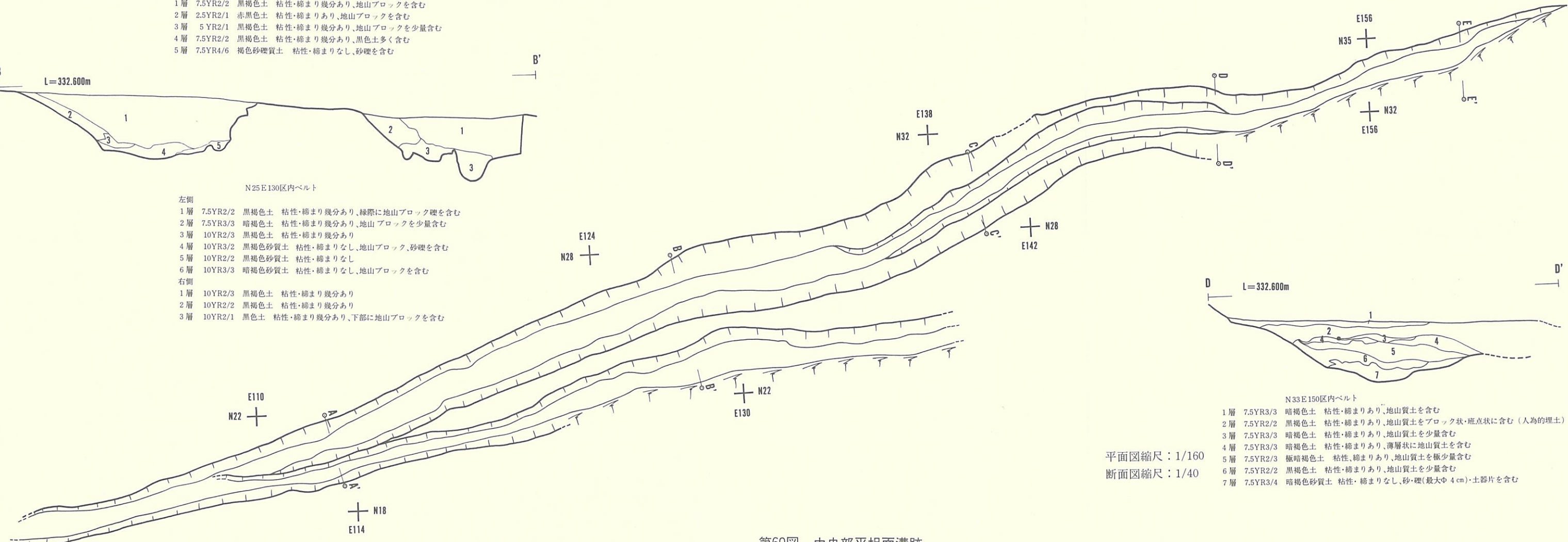
N35 E160区内ベルト

- 1層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まり幾分あり、風化地山ブロックを含む
- 2層 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり
- 3層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まり幾分あり、地山質土を少量含む
- 4層 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし、砂・礫・土器を含む



N25 E130区内ベルト

- 左側
- 1層 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり、縁際に地山ブロック礫を含む
  - 2層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まり幾分あり、地山ブロックを少量含む
  - 3層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり
  - 4層 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・締まりなし、地山ブロック、砂礫を含む
  - 5層 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性・締まりなし
  - 6層 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし、地山ブロックを含む
- 右側
- 1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり
  - 2層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり
  - 3層 10YR2/1 黒色土 粘性・締まり幾分あり、下部に地山ブロックを含む



N33 E150区内ベルト

- 1層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりあり、地山質土を含む
- 2層 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりあり、地山質土をブロック状・斑点状に含む (人為的埋土)
- 3層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりあり、地山質土を少量含む
- 4層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりあり、薄層状に地山質土を含む
- 5層 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・締まりあり、地山質土を極少量含む
- 6層 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりあり、地山質土を少量含む
- 7層 7.5YR3/4 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし、砂・礫(最大Φ 4cm)・土器片を含む

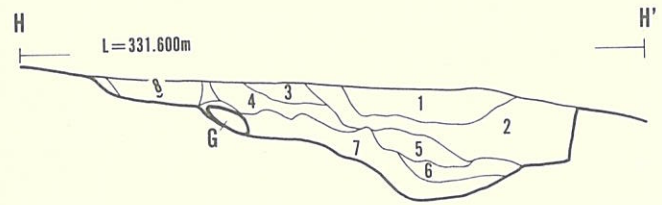
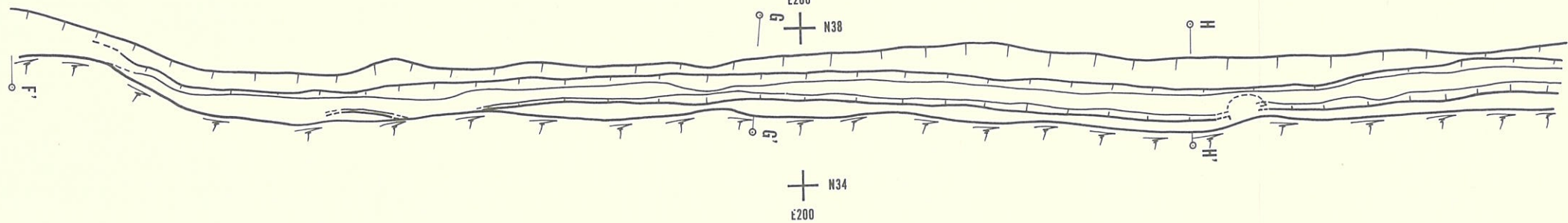
平面図縮尺：1/160  
断面図縮尺：1/40

第60図 中央部平坦面溝跡



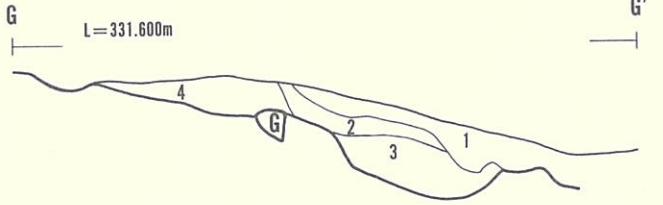


F



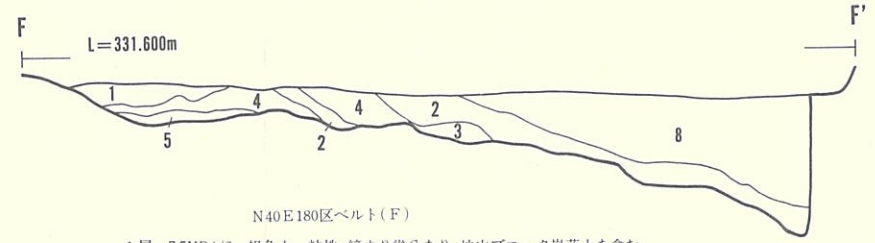
N38E210区ベルト(H)

- 1層 7.5YR4/3 褐色土 粘性・締まり幾分あり、地山崩落土を若干含む
- 2層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まり幾分あり、地山質土を少量に含む
- 3層 7.5YR4/6 褐色土 粘性・締まり幾分あり、地山質ブロックを若干含む
- 4層 7.5YR4/6 褐色土 粘性・締まり幾分あり、地山質ブロックを若干含む
- 5層 7.5YR3/4 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし
- 6層 7.5YR4/3 褐色土 粘性・締まりあり、幾分砂質
- 7層 7.5YR4/1 褐灰色砂礫土 粘性・締まりなし、地山ブロック・砂・礫を多く含む
- 8層 7.5YR3/2 黒褐色土 表土



N38E200区ベルト(G)

- 1層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・締まり幾分あり
- 2層 7.5YR3/4 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし、砂・礫を含む
- 3層 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし、砂・礫を含む
- 4層 10YR4/6 褐色砂礫土 粘性・締まりなし



N40E180区ベルト(F)

- 1層 7.5YR4/6 褐色土 粘性・締まり幾分あり、地山ブロック崩落土を含む
- 2層 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性・締まり幾分あり
- 3層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりなし、砂・礫を多く含む
- 4層 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり幾分あり
- 5層 10YR3/3 褐色砂質土 粘性・締まりなし、地山ブロックを含む
- 6層 7.5YR4/4 褐色砂質土 粘性・締まりなし、地山ブロック・小礫を含む
- 8層 現代の埋土 (ブロック状・層状埋積)

第61図 東端部斜面溝跡

平面図縮尺：1/160  
断面図縮尺：1/40

#### 北端部斜面の東側平坦面（第59図、写真図版21・22）

北端部の斜面裾に沿った東側は大部分調査区域外に続いているが、F3区からE3区にかけて湾曲して西方向に延びている。確認された長さは13.4m、上幅4.25m、深さは30cmである。両端の底面の比高差は58cmで西側に低い。

埋土は底部に礫層がみられるが、ほとんど北端部と同様である。

東側平坦面のE3区からD5区にかけては南東方向に流路を変え、全長22.0m、上幅2.30m、深さは最大65cmである。底部は流水の開析作用と思われる凹凸が多くみられる。埋土には人為的に埋め戻されたと考えられる層もある。北側に平行する溝は流水によって開削された可能性も考えられる。いずれも西端は調査区域外に続いて不明である。

#### 中央部平坦面（第60図、写真図版23・24）

農道によって削平されたB10-D17区に位置する。地形に沿ってわずかに湾曲し、全長は調査区域外に続く。全長は69.7m、上幅2.5m、深さは最大95cmである。西側のN20E108地点からは分岐した小溝が斜面に延びて調査区域外に続く。確認された長さは8.5m、上幅1.4m、深さ21cmである。両端の底部の比高差はそれぞれ35cm、10cmでいずれも南側に傾斜している。

埋土の下部は砂礫土が主体であり、北端部よりその量比は多くなる。焼土粒等はみられず、縄文時代の遺物も少ない。

#### 東端部斜面（第61図、写真図版25）

丘陵の東側のD18-23区に位置する。ほぼ直線状に走行し、南側は調査区域外に続いている。大部分が農道によって削平され、特に南側ほどわずかに底部が残存するのみである。第7号住居跡と重複しているが、これを切って開削されている。

確認された長さは38.8m、上幅は1.8m前後、深さは最大54cmである。両端の底部の比高差は10cmで南に傾斜し、北部平坦面における底面との比高差は1.5mである。

底部の埋土は砂礫が多く、縄文時代の遺物を若干含んでいる。

## V 遺構外の出土遺物

### 1 土器

遺構外から出土した土器は、コンテナ80箱である。これらの大部分は北端の斜面と平坦面、溝跡からの出土であり、縄文時代前期・中期を主体に、少量の縄文時代後期、弥生時代、平安時代の土器である。

縄文時代から順に記述することとし、分類にあたっては一部遺構内出土の土器を含めて行い、細分は口縁部の破片を主たる対象とした。

#### (1) 縄文時代の土器

##### 第1群土器

ここでは、縄文時代前期に属する土器群を一括した。大木式土器と円筒下層式土器があり、施文方法、文様の特徴により次のように細分した。

- 1類 口縁部文様帯と胴部文様帯が区画され、比較的幅の広い口縁部文様体には縄文原体の回転によって施文される一群。口縁部文様帯の回転縄文の種類、隆帯の有無により細分した。
- 2類 口縁部文様帯と胴部文様帯が区画され、口縁部文様帯に押圧縄文が施文される一群。
- 3類 口縁部文様帯と胴部文様帯が区画され、幅の狭い口縁部文様帯には押圧縄文が施文される一群。
- 4類 無文に粘土紐が貼付される一群。
- 5類 棒状工具、半截竹管様工具により浅く太い沈線で文様が施文される一群。
- 6類 第1群に所属するが、地文のみで明確な位置付けが不明な一群。

##### 第I群1類a (第70図、写真図版57-253~259)

口縁部文様帯に綾線文が施文される一群。縦位の撚糸文と併用されるものが多く、横位に施文される綾線文は、数段の場合と口縁部文様帯の全域に展開するものがある。指頭様圧痕が施文された区画帯を持つものも少数存在する。黒褐色を呈するものが多く、胎土にはすべて植物性繊維を含んでいる。口唇部は丸みをもつものが多く、口縁部は外反している。これらの土器群は円筒下層b<sub>1</sub>式に相当すると思われる。

##### 第I群1類b (第70図、写真図版57-260・261)

回転縄文により施文された幅の広い口縁部を持ち、口縁部文様帯と胴部文様帯の区画として隆帯を持つものである。隆帯が2条のもの、隆帯上に刺突がくわえられたものもある。胎土には植物性繊維を含んでいる。これらの土器群は円筒下層b<sub>2</sub>式に相当すると思われる。

第 I 群 1 類 C (第70図、写真図版57—262~265)

1 類 b 同様回転縄文により施文された幅の広い口縁部を持ち、口縁部文様帯と胴部文様帯の区画として撚紐の圧痕文、刺突文が施文される一群。撚紐の圧痕は区画帯として施文されるほかに、口唇部付近から垂下して施文される場合もある。胴部文様帯には縦位の撚糸文を施文したものが少数例があるが、大部分のものは結束羽状縄文が施文されている。丸味のある口唇部を持ち、口縁部は外反し口唇部付近で外側にやや突き出している。胎土には植物性繊維を含んでいる。これらの土器群は円筒下層 b<sub>2</sub> 式に相当すると思われる。

第 I 群 1 類 d (第51図、写真図版35—173他)

回転縄文により施文された幅の広い口縁部をもつが、1 類 a ~ c とは異なり、特に胴部との区画帯は無い。器形、胎土、色調が 2 類 a ~ c に酷似しており、これらの土器は円筒下層 b 式のなかで理解してもよいと思われる。

第 I 群 2 類 a (第62・70図、写真図版38・57—211・266・267)

口縁部文様帯に撚糸の圧痕により、平行線文・菱形文・幾何学文が施文される。胎土には植物性繊維を含み、口唇部は厚く丸味を持ち、口縁部はやや外反している。これらの土器群は円筒下層 c 式に相当すると思われる。

第 I 群 2 類 b (第70図、写真図版57—268~273)

口縁部文様帯に単軸絡条体圧痕文により、平行線文・菱形文・幾何学文が施文される。胎土には植物性繊維を含み、口唇部は厚く丸味を持ち、口縁部はやや外反している。これらの土器群は円筒下層 c 式に相当すると思われる。

第 I 群 3 類 a (第70図、写真図版57—274)

口縁部文様帯の施文技法からは 1 類に属するものであろう。しかし、口縁部文様帯の幅・区画帯の施文技法・器形・胎土から本類に含めることとした。口縁部文様帯及び胴部文様帯に結束羽状縄文が施文され、幅の狭い口縁部文様帯と胴部文様帯の区画に刺突文が用いられている。胎土には植物性繊維を含んでいる。この土器は現段階では円筒下層 d<sub>1</sub> 式としてとらえておく。

第 I 群 3 類 b (第62・62・71図、写真図版52・57・58—215・216・275~296)

口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。幅 3 cm ほどの口縁部文様帯には、単軸絡条体・撚紐の圧痕により様々な押圧縄文が施文される。微隆帯・撚紐の圧痕文あるいは刺突文などが区画帯としての役割をはたしている。区画帯の種類と口縁部の文様の組み合わせはバリエーションに富む。胎土には植物性繊維を含んでいる。これらの土器群は円筒下層 d<sub>1</sub> 式に相当すると思われる。

第 I 群 3 類 c (第72・73図、写真図版58—297~312)

口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。3 類 b に比較し口縁部文様帯の幅は広く、単

軸絡条体・撚紐の圧痕により様々な押圧縄文が施文される。微隆帯・撚紐の圧痕文あるいは刺突文などが区画帯としての役割をはたしている。口頸部に屈曲を持ち、外反するものが多くなる。区画帯の種類と口縁部の文様の組み合わせはバリエーションに富む。胎土には植物性繊維を含んでいる。これらの土器群は円筒下層d<sub>1</sub>式に相当すると思われる。

#### 第I群3類d (第63・73図、写真図面52・58・59—217~220・313~323)

3類a~c同様口縁部文様帯と胴部文様帯が区画されている。口縁部文様帯の幅は広く、単軸絡条体・撚紐の圧痕により様々な間隔の広い押圧縄文が施文される。微隆帯・撚紐の圧痕文あるいは刺突文などが区画帯としての役割をはたしている。区画帯の種類と口縁部の文様の組み合わせはバリエーションに富む。以前まで見られた区画帯としての隆帯は、波状口縁の波頂部から垂下するように、または幅の広い口縁部文様帯のなかにリング・ボタン状に貼付される。胎土には微量の植物性繊維を含んでいる。隆帯上には、刺突文・圧痕文が施文される例が多い。これらの土器群は円筒下層d<sub>2</sub>式に相当すると思われる。

#### 第I群4類a (第73図、写真図版59—324)

1点のみ出土している。無文面上に粘土紐を貼付させ、縦方向に展開する格子目状の文様が施されている。胎土には小礫が含まれ、かたく緻密である。大木5式に相当すると思われる。

#### 第I群4類b (第73図、写真図版59—325)

1点のみ出土している。無文面上に細い粘土紐を貼付させ、波状文・小形文が施文される。胎土に小礫が含まれ、かたく緻密である。大木5式に相当すると思われる。

#### 第I群5類a (第64・74図、写真図版53・59—221・222・326~333)

棒状工具・半截竹管様工具により太く浅い沈線で、曲線状・弧状・波状・鍵状の文様が施文される。これら個々の文様要素は単独で用いられるものが多く、波頂部の下に貼瘤を持つものも少数例ある。焼成が良好なものが多く、胎土もかたく緻密である。口縁部に膨らみを持ち、概して外反の形状をとるものが多い。これらの土器群は大木6式に相当すると思われる。

#### 第I群5類b (第74図、写真図版59—334~343)

棒状工具・半截竹管様工具により太く浅い沈線で、平行沈線文・斜位短沈線が複合して施文される。なかにはこれらの要素とともに、円形の刺突文が加わる場合もある。焼成が良好なものが多く、胎土もかたく緻密である。これらの土器群は大木6式に相当すると思われるが、一部円筒下層式の特徴が加味されたものも認められる。

#### 第I群6類 (第75図、写真図版59—344~347)

木目状撚糸文・網目状撚糸文・多軸絡条体回転文・結束羽状縄文・複節斜行縄文のものである。胎土にすべて植物性繊維を含んでいる。第1群のなかでも1~3類の円筒下層式土器の中に含まれるであろう。

## 第II群土器

ここでは、縄文時代中期に属する土器群を一括した。大木式土器・円筒上層式土器があり、施文方法・文様の特徴により次のように細分した。

- 1類 口縁部文様帯を中心に太く幅の広い隆帯が貼付され、隆帯間に撚紐の圧痕文が施文される一群。
- 2類 口縁部文様帯を中心に太く幅の広い隆帯が貼付され、隆帯間に撚紐による爪形圧痕文が施文される一群。
- 3類 口縁部文様帯を中心に太く幅の広い隆帯が貼付され、隆帯間には棒状工具・半截竹管様工具により円形刺突文・爪形圧痕文が施文される一群。
- 4類 口縁部文様帯・胴部上半を中心に、細い粘土紐が貼付され、波状文・直線文などが施文される一群。
- 5類 弧状の沈線文により文様が施文される一群。
- 6類 単独の文様要素だけで文様帯を構成することはなく、施文部位・施文工具に変化を持たせ各種沈線文・刺突文・隆帯・粘土紐貼付帯などが複合して施文される一群。
- 7類 撚紐の側面圧痕を多用して文様が施文される一群。
- 8類 細い粘土紐の貼付・隆帯・沈線文により、渦巻文・鶏冠状文・曲折文・波状文が施文される一群。
- 9類 沈線により円形文・縦位楕円文が施文される一群。
- 10類 微隆帯と刺突文により文様が施文される一群。
- 11類 明らかに第II群に属すると思われるが、明確な位置付けが不明な一群。

### 第II群1類a（第75・76図、写真図版59・60—348～368）

口縁部文様帯を中心に、幅が広く高い隆帯が波状・直線状に貼付され、隆帯の間にはそれに沿うように直線状・曲線状の撚紐の圧痕文が施文される。また、直線状の撚紐の圧痕文の間に縦の短い撚紐の圧痕が施文されるものも少数例見られる。隆帯上には必ず撚紐の圧痕が施文されている。口唇部は厚く、口縁部は外反するものが多い。小波状あるいは弁状突起を持つ口縁部も認められる。胎土は比較的良好なものが使用されており、焼成も良くかたく緻密なものが多い。色調は褐色・明褐色など明るいものが多い。内面調整は、丁寧なミガキ調整を施すものも多い。円筒上層a<sub>1</sub>式に相当すると思われる。

### 第II群1類b（第76図、写真図版60—369～370）

口縁部文様帯を中心に撚紐により圧痕文が施文され、この間を同様に撚紐の圧痕により波状・鋸歯状の文様が施文されている。隆帯を持つ場合もある。胎土・色調・焼成・内面調整はII群1類aに酷似している。円筒上層a<sub>2</sub>式に相当すると思われる。



第II群2類a (第66・76・77図、写真図版54・60—239・371～384)

口縁部文様帯を中心に、幅が広く高い隆帯が波状・直線状に貼付され、撚紐圧痕が施文された隆帯の間にはそれに沿うように撚紐によりC字形・爪形・馬蹄形の圧痕文が施文される。弁状突起を持つ大型の深鉢形土器が多く、口縁部は大きく外反するものが多い。明るい色調を呈するものも多く、内面の調整も丁寧である。円筒上層b式に相当すると思われる。

第II群3類a (第77図、写真図版60—385～392)

口縁部文様帯を中心に、幅が広く高い隆帯が波状・曲線状に貼付され、隆帯間の無文面上には特に施文されない。隆帯上には撚紐の圧痕が施文される。弁状突起を持つものも多く、波頂部の下には円孔・盲孔を持つものもある。口縁部は大きく外反するものが主体で、明るい色調を呈するものも多く、内面の調整も丁寧である。円筒上層c式に相当すると思われる。

第II群3類b (第77・78、写真図版61—393～403)

口縁部文様帯を中心に、幅が広く高い隆帯が波状・曲線状に貼付され、隆帯間の無文面上・地文間には棒状工具・竹管様工具により刺突文が施文される。隆帯上には撚紐の圧痕が施文される。弁状突起を持つものも多く、波頂部の下には円孔を持つものもある。口縁部は大きく外反するものが主体で、明るい色調を呈するものも多く、内面の調整も丁寧である。縄文施文→隆帯貼付→隆帯上撚紐圧痕→刺突文という施文順位をたどるようである。円筒上層c式に相当すると思われる。

第II群4類a (第78図、写真図版61—404～410)

口縁部文様帯・胴部上半を中心に、細い粘土紐が貼付され波状文・弧状文・肋骨文などが施文される。地文に単節斜行縄文が施文されるものと無文のもの、貼付される粘土紐にも撚紐の圧痕があるものと素文の両者がある。小ぶりの四波状口縁を呈する深鉢形土器が多いようである。前項までの円筒上層各型式では文様が口縁部に凝集されていたものが、本類では胴部上半まで拡大する傾向をみせる。円筒上層d式に相当すると思われる。

第II群5類a (第78図、写真図版61—411)

膨隆した口唇部に凹線が巡り、それに沿うように円形の刺突文が施文される。文様は単節斜行縄文を地文とし、下向きの弧状の沈線文が重層して施文される。器壁は薄く、かたく緻密である。榎林式に相当すると思われる。

第II群6類a (第64～68・78・79・81図・写真図版53・61～63—223・224・412～435・484)

沈線文・刺突文が文様構成の主要素である。文様の組み合わせによりグループ分けが可能である。平行沈線文の間にC字形・爪形の刺突文が施文されたもの(412～418)。平行沈線文と斜位沈線文により綾杉文様が施文されるもの(419～423)。これらは刻目の施された隆帯と併用される場合が多い。平行沈線文と交互刺突文が併用されたもの(425～427)。半截竹管様工具によ

り平行沈線文・押し引き刺突文が施文されるもの(428~435)。半截竹管による刺突文は、平行沈線文間に施文されるほかに沈線で描かれた工字文風の内部に施文された例もある。棒状工具あるいは半截竹管様工具により、連続波状沈線文・山形文沈線文が施文されるもの(450~471)。刻目・短沈線と併用される場合が多い。口縁部文様帯の上半部分を中心に、三角形彫刻文・三角形刺突文が施文されるもの(472~477)。平行沈線文との併用が多い。口縁部文様帯の平行沈線文・蕨状沈線文の間に、短沈線が充填されるもの(478~485)。本類は沈線文・刺突文など、言わばマイナスの加飾法であり、さらに平行沈線間を同様の手法で充填することに特徴を持っている。大木7 a 式に相当すると思われる。

#### 第II群6類b(第79・80図、写真図版62—436~441)

太く浅い沈線文の組み合わせにより、弁状突起を中心に方形区画文・弧状文が施文される。刻目の施された隆帯と併用される例が多い。弁状突起の波頂部には円孔を持つ場合が多く、波頂口唇部にも刻目が施される。また、盲孔を中心に沈線文が放射状に展開するものもある。胎土に砂粒を含むものが多く、焼成も良好である。褐色~明赤褐色を呈するものが多く、内面は丁寧なミガキ調整が施されている。(436~441)。大木7 a 式に相当すると思われる。

#### 第II群6類c(第66・67・80・82・83図、写真図版54・55・62・63—235~238・243・442~449・485~504)

隆帯・粘土紐貼付を主要素とし、これらが口縁部文様帯から垂下し胴部上半にまで及ぶ。隆帯は口唇部に貼付されるとともに波状口縁の波頂部に巻き付けたり、波頂部から2本1組で垂下させたり、口縁部文様帯内に渦巻状に貼付させたものなどがある。(442~449)。隆帯上には刻目・指頭状圧痕をもつ場合が多い。特に細い粘土紐を貼付したものなどは、口縁部文様帯内に三角状の空間を作る例もある(446~448)。一方、左右からおしつぶしたような波状の粘土紐を貼付して文様を構成するものもある。このような手法をとるものは、口唇部に沿うように貼付される場合が多い(496~504)。大木7 a 式~7 b 式に相当すると思われる。

#### 第II群7類a(第68・83図、写真図版56・64—247・505~515)

口縁部文様帯を中心に撚紐の側面圧痕を使用して、直線文・弧状文・連弧状文が施文される(505~515)。太い原体をした例が多い。胎土は良く、焼成も良好でかたく緻密である。内面はミガキ調整されたものが多い。大木7 b 式に相当するものと思われる。

#### 第II群7類b(第84・85図、写真図版64・516~534)

口縁部文様帯を中心に撚紐の側面圧痕を使用し隆帯と併用して、直線文・弧状文・連弧状文が施文される(516~534)。口縁部が大きく外反する弁状突起を持つものが多い。太い原体で施文した例が多い。胎土は良く、焼成も良好でかたく緻密である。内面はミガキ調整されたものが多い。大木7 b 式に相当すると思われる。



**第II群8類a** (第67・68・85、写真図版55・65—240・245・248・535～545)

キャリパー形を呈する大型の深鉢形土器が多い。口縁部文様帯を中心に粘土紐貼付・隆帯・沈線によって、波状文・曲折文・渦巻文が施文される(535～545)。波状文の交差する部分には、刻目の施された楕円状の貼付がなされる例が多い。一方、大突起を持つ平縁で口縁部文様帯に鱗状の隆帯が巡り、垂下する波状隆帯が胴部上半に貼付されたものもある。これなどは、古い要素を残している例である。大木8a式に相当すると思われる。

**第II群8類b** (第67・85・86図、写真図版55・65—241・242・244・546～557)

隆沈線・沈線文により渦巻文・有棘渦巻文・蕨状文が施文される。波状口縁を呈するものが多い。口縁部文様帯に施文される場合は横方向、胴部に施文される場合は縦方向に文様が展開するようである(546～557)。口頸部に刺突文が施文された例もある。大木8b式に相当すると思われる。

**第II群9類a** (第86図、写真図版65—558～560)

沈線文と磨消縄文手法により、縦位楕円文が施文される。地文としては、単節斜行縄文・撚糸文のものがある。焼成・胎土は良好で、内面は丁寧にミガキ調整されている。大木9式に相当すると思われる。

**第II群9類b** (第86図、写真図版65—561・562)

沈線文と磨消縄文手法により、円形文が施文される。円形文の内部は刺突文により充填される。焼成・胎土は良好で、内面は丁寧にミガキ調整されている。大木9式に相当すると思われる。

**第II群10類a** (第86図、写真図版65—563)

口縁部上半につまみ出したような微隆帯がめぐり、さらに微隆帯上には円形の刺突文が施される。大木10式に相当すると思われる。

**第II群11類** (第86・87図、写真図版65・66—564～578)

折り返し口縁、隆帯の貼付、綾縷文施文のものがある。大木7a、7b式のいずれかに相当するものと思われる。

**第III群土器** 縄文時代後期に比定される土器群 (第87図、写真図版66)

この群に分類される土器は1点である。579は小型の深鉢形土器の口縁部である。波状を呈し、波頂部は二又状となっておりその下には2個一対の円形の刺突文が施される。浅い沈線文と充填縄文により入組み状の文様が展開する。十腰内I式に相当すると思われる。

## (2) 弥生時代の土器 (第87図、写真図版66、580～585)

北端斜面及び斜面南東側の溝から出土している。対象となる個体が少ないため、特に細分は行わず器種ごとに記載する。出土地点が大きく異なっており、時期的にはまとまりを欠くものである。

### 甕形土器

583・584は同一個体である。器壁は非常に薄く、口縁部は外反し口唇部付近で屈曲し直線的に口唇端部にいたる。地文は単節斜行縄文で口縁部は丁寧にミガキ調整され、口唇部付近に鋭い沈線で鋸歯状文が描かれる。口頸部付近には、2条の平行沈線文と2条の鋸歯状沈線文が重層して施文されている。沈線には鋭いものと、太めで浅いものがあり2種類の工具が使用されている。

### 浅鉢形土器

581と582は無文の浅鉢形土器と思われる同一個体である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、口唇部付近で肥厚している。口縁部に3条の平行沈線文が巡り、対峙する鍵状の沈線が部分的に施文されている。胎土は精選され、焼成も良く堅く緻密である。

### 鉢形土器

580は胴部中央に最大径をもつ、鉢型土器あるいは筒型土器の口縁部に相当すると思われる。単節斜行縄文を地文とし、口縁部に平行沈線文が施文されている。胎土は緻密で、内外面とも丁寧なミガキ調整がなされている。

### 高坏形土器

185は、高坏形土器の脚部と思われる。鋭い平行沈線文が施文されているが、文様の展開については不明である。

上述のように本遺跡から出土している弥生土器は、時期的にまとまりは欠くものの、おおよそ2時期に分けられる。鉢形土器・高坏形土器としたものは、波状文による文様施文・口縁部文様帯に無文帯を形成することから小田野編年の第I期に属すると思われる(小田野:1987)。一方、工字風の名残をとどめる平行沈線文・鍵状沈線の施文された浅鉢形土器と、連続山形沈線文・鋸歯状沈線文の施文された甕形土器は同じく小田野編年の第III期の終わり頃に相当するものと思われる。

### (3) 平安時代の土器 (第87図、写真図版66)

5号竪穴住居跡・北端平坦面溝の埋土、北端平坦面上層から出土している。個体数が少ないため、器種ごとに調整技法を中心に記述する。掲載にあたっては、実測図は割愛し、写真を掲載した。これらの遺物は、比較的集中して出土し、時期的にまとまりを持つものと考えられる。

#### 坏形土器・高台付坏形土器

586は、ロクロ成形で内面ミガキ調整・黒色処理が施されている。587は、ロクロ成形で内面ミガキ調整・黒色処理が施され、底部は回転糸切り無調整である。

#### 坏形土器

3点ともロクロ未使用の坏形土器である。588は、口縁部が短く外反している。外面ケズリ調整・内面ナデ調整がなされている。589は頸部が長く、口縁部が外傾している。内外面ともミガキ調整が施されている。590は、口縁部がほぼ直立している。内面ナデ調整、外面は縦位のヘラケズリ調整がなされている。

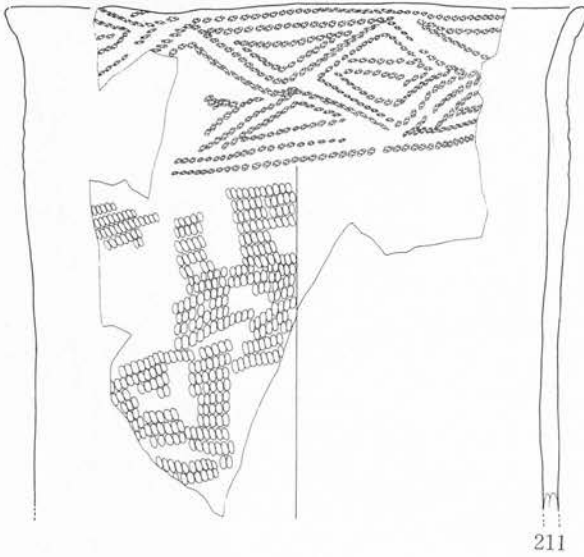
#### 鉢形土器

591は口縁部が内湾するロクロ未使用の鉢形土器である。内面ナデ調整、外面ヘラケズリ調整がなされている。

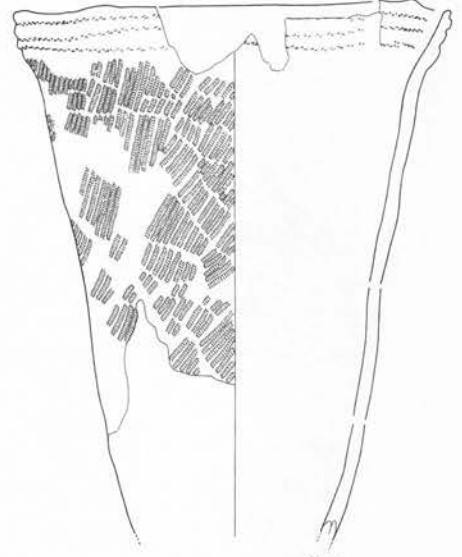
#### 須恵器甕

592・593は、須恵器甕の胴部上半である。外面には平行タタキ目がなされている。

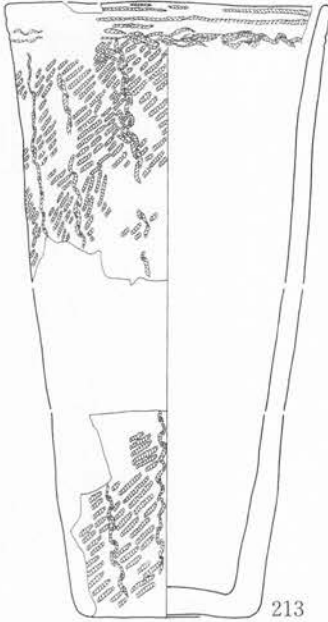
土師器ではロクロを使用した坏、高台付坏がみられ、底部は回転糸切り無調整のものである。甕はロクロを使用せず全体に雑な調整をするものが主体をなし、これに須恵器の甕が加わる。土器のセットの内容・特徴からこれらの一群は高橋編年（高橋：1982）の第III期2群に相当すると思われる。



211



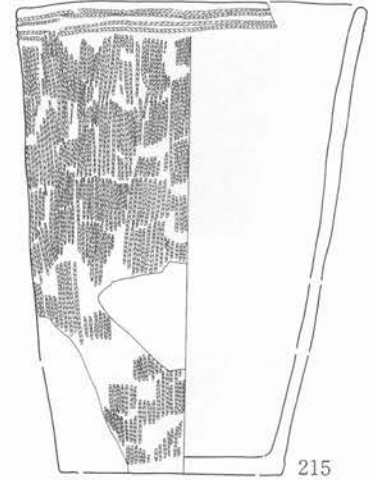
212



213



214

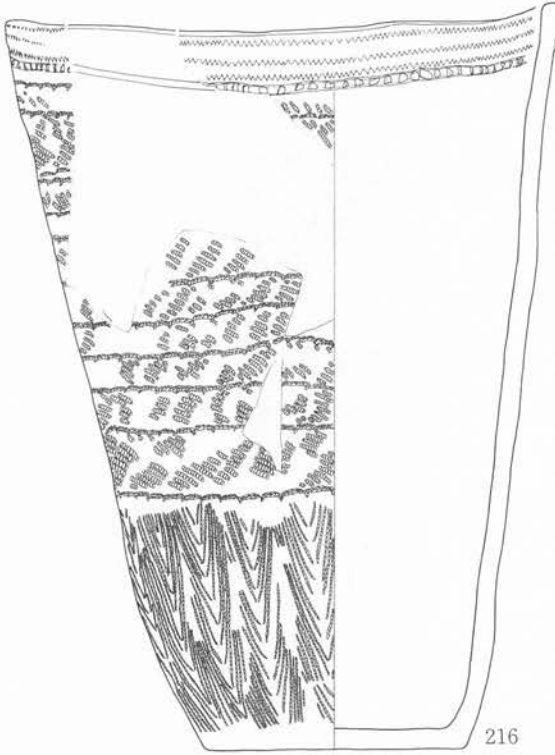


215

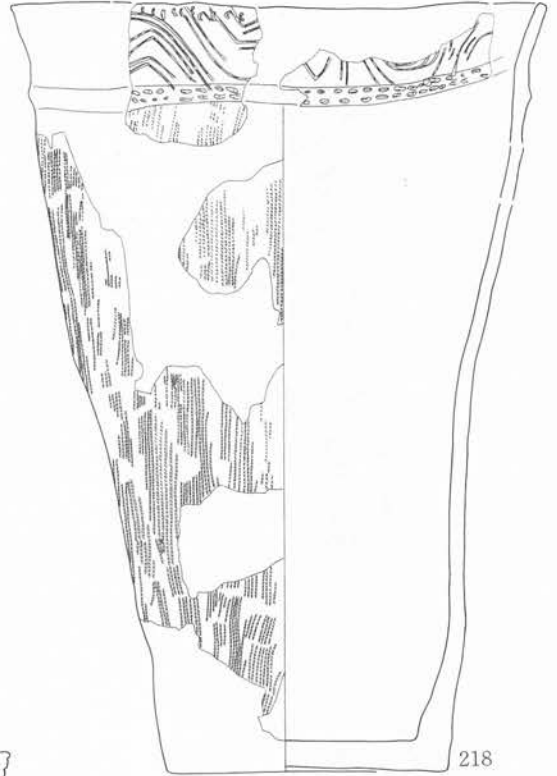
S=1/3

No.	地点・層位	器種	文様の特徴	内面	分類	写真図版
211	北平・暗褐色土下部	深鉢	撚紐圧痕による幾何学文様、直前段多条	ナデ	I群2類a	38
212	北平	深鉢	撚紐平行圧痕、単節斜行縄文	ナデ	I群3類b	38
213	北平・黒褐色土	深鉢	撚紐圧痕、単節斜行縄文、綾織含	ナデ	I群3類b	38
214	北斜縁	深鉢	単軸絡条体圧痕文、結束第1種	ナデ	I群3類b	38
215	北平・暗褐色土下部	深鉢	撚紐圧痕(縄の束)、縦位撚糸文、綾織含	ミガキ	I群3類b	52

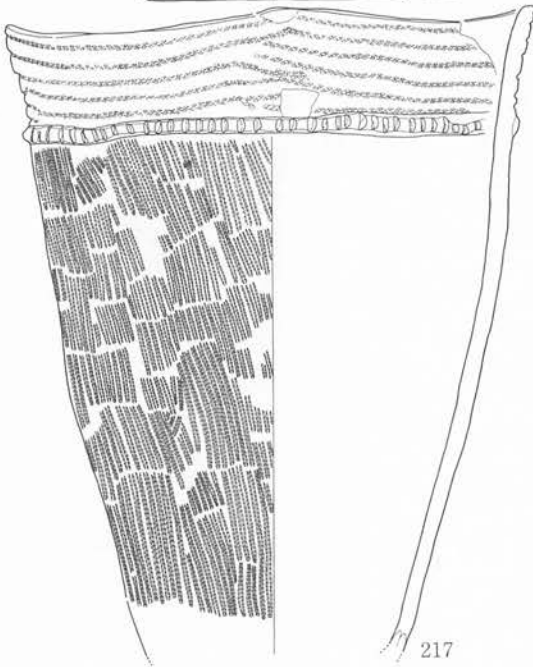
第62図 遺構外出土土器(I)



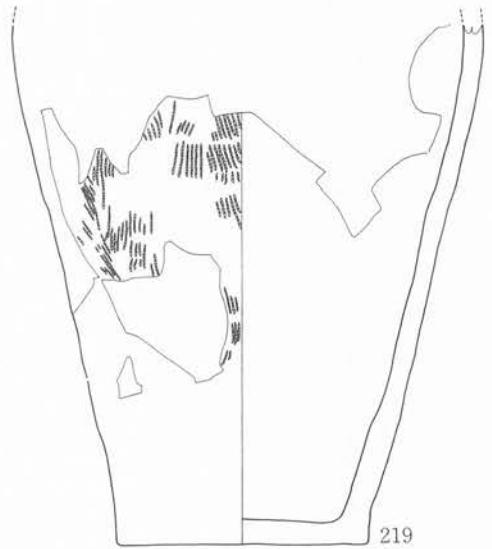
216



218



217

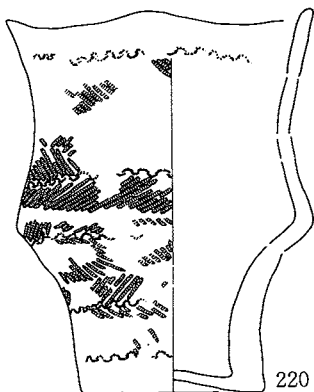


219

S=1/3

No	地点・層位	器種	文様の特徴	内面	分類	写真図版
216	北平・黒褐色土	深鉢	単軸絡条体圧痕文、単節斜行縄文、綾線文、木目状擦糸文、微隆帯	ナデ	I群3類b	52
217	北平・黒褐色土	深鉢	燃紐圧痕、刻目隆帯、単軸絡条体回転文	ミガキ	I群3類d	52
218	北斜H2・黒褐色土	深鉢	微隆帯、半截竹管弧状沈線、刺突文、単軸絡条体回転文	ナデ	I群3類d	52
219	北斜・粗掘り	深鉢	木目状擦糸文	ナデ	I群3類d	52

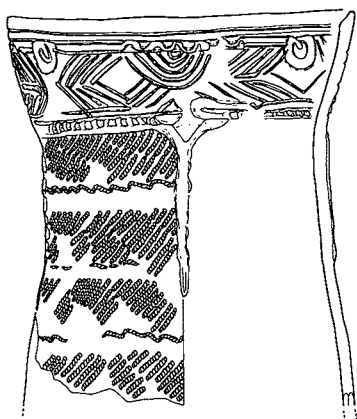
第63図 遺構外出土土器(2)



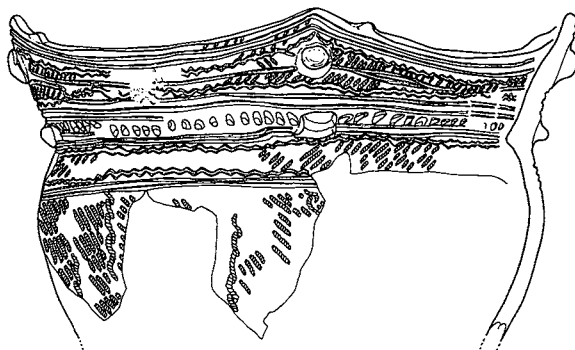
220



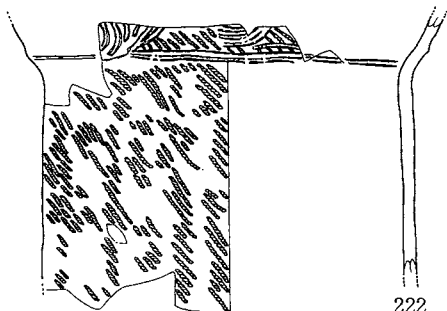
223



221



224



222

S = 1/3

No	地点・層位	器種	文 様 の 特 徴	内面	分 類	写真図版
220	北斜・4号住西壁外	深鉢	繊維微乱舎、羽状縄文、上げ底風	ナデ	I群3類d	53
221	北平・暗褐色土	深鉢	半截竹管沈線文(孤状・綾杉文様)、半截竹管連続刺突文、交互刺突文、垂下隆帯、単節斜行縄文	ミガキ	I群6類a	53
222	北斜下部・黒色土	深鉢	微隆帯、円圈状沈線文、単節斜行縄文	ナデ	I群6類a	53
223	北平・黒褐色土	深鉢	半截竹管押し引き沈線文、刺突文、隆帯、大突起	ナデ	II群6類a	53
224	北斜トレンチ・粗掘り	深鉢	半截竹管平行・山形沈線文、刺突文、貼瘤、綾線文、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	53

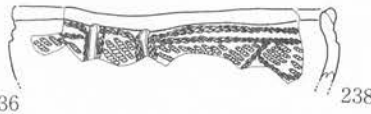
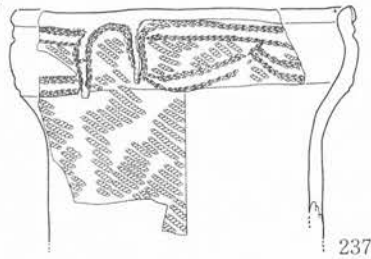
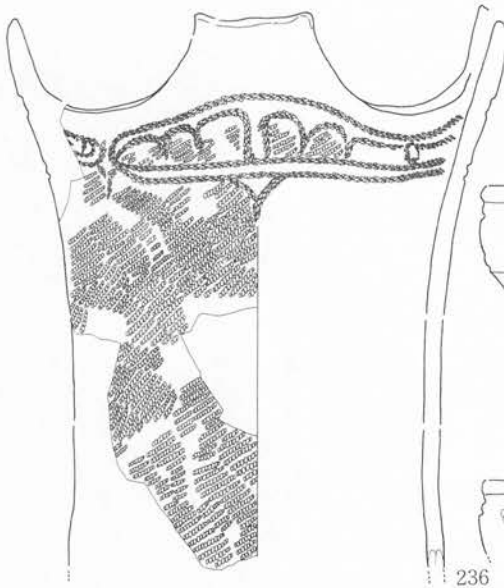
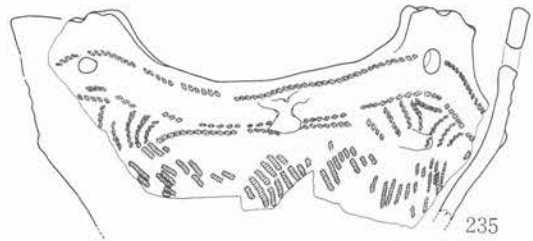
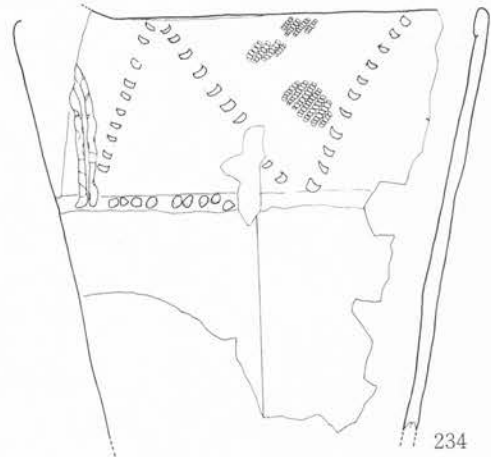
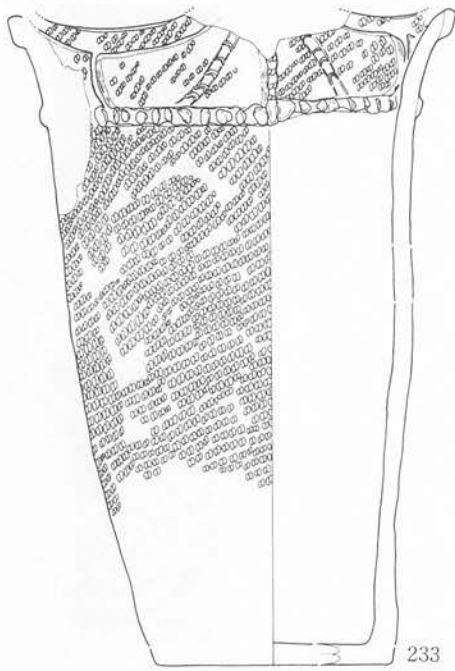
第64図 遺構外出土土器(3)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	文様の特徴	内面	分類	写真図版
225	北平・暗褐色土	深鉢	小波状口縁、交互刺突文、鶏冠状沈線文、単節斜行縄文	ミガキ	II群6類a	54
226	北平・黒褐色土	深鉢	三角形彫刻文、連続山形沈線文、縦位綾線文、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	54
227	2 G 3 c	深鉢	刻目隆帯、半截竹管連続波状沈線文、縦位綾線文、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	54
228	北平・黒褐色土	深鉢	連続波状沈線文、結束羽状縄文	ナデ	II群6類a	53
229	北斜2日2e・明褐色土	深鉢	燃紐圧痕隆帯、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	53
230	北平・黒褐色土	深鉢	微隆帯、燃紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	53
231	北斜線3I2a	深鉢	折り返し口縁、燃紐圧痕、貼瘤、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	53
232	北平・黒色土	深鉢	小突起、垂下沈線、盲孔、渦巻沈線	ミガキ	II群6類c	54

第65図 遺構外出土土器(4)

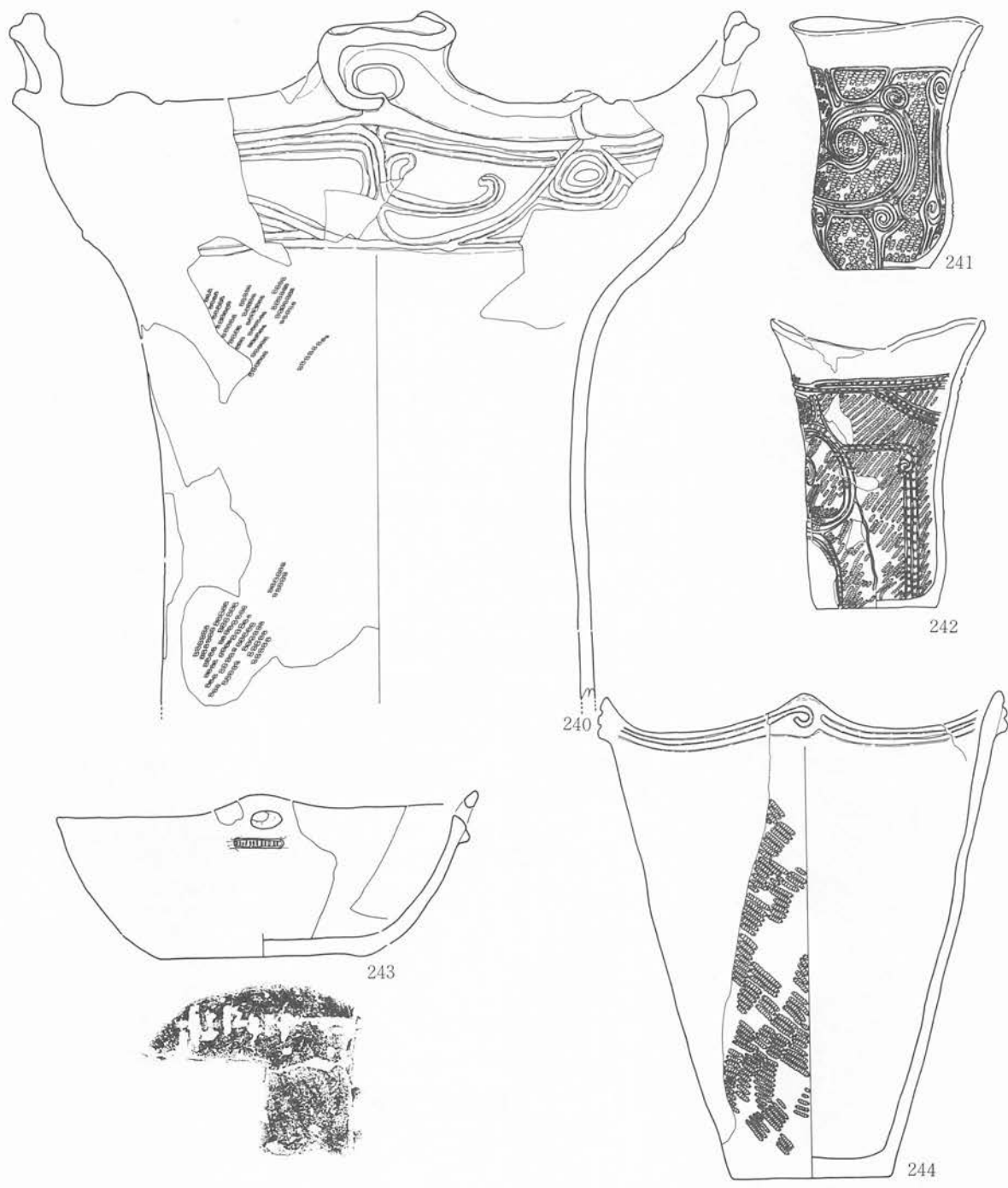


S = 1/3

No	地点・層位	器種	文様の特徴	内面	分類	写真図版
233	北平・黒褐色土	深鉢	折り返し口縁、半截竹管押し引き、隆帯、刻目隆帯、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	54
234	表採	深鉢	半截竹管押し引き、刻目隆帯、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	54
235	北平黒褐色土	深鉢	燃紐圧痕文、単節斜行縄文、弁状突起	ナデ	II群6類c	54
236	北平・黒褐色土	深鉢	燃紐圧痕文、単節斜行縄文、弁状突起	ミガキ	II群6類c	54
237	北平・黒褐色土	深鉢	燃紐圧痕文、単節斜行縄文、弁状突起	ミガキ	II群6類c	54
238	北平・黒褐色土	深鉢	燃紐圧痕文、単節斜行縄文、弁状突起	ミガキ	II群6類c	54
239	北平・黒褐色土	深鉢	弁状突起、燃紐圧痕隆帯、原体末端圧痕、羽状縄文	ナデ	II群2類a	54

第66図 遺構外出土土器(5)

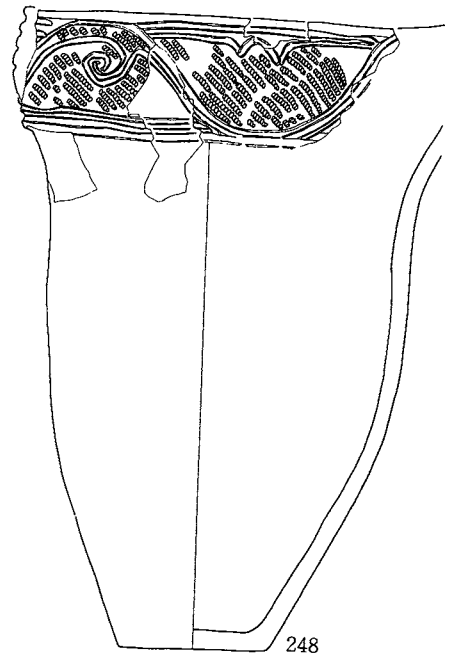
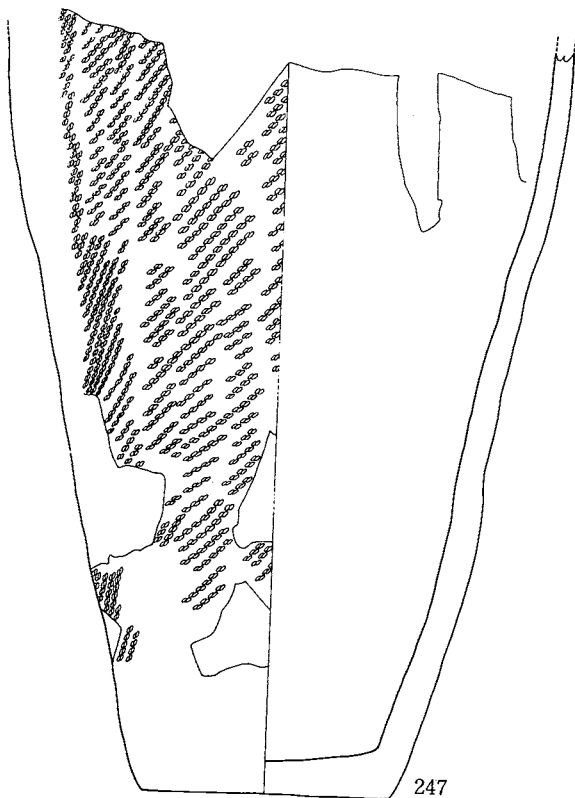
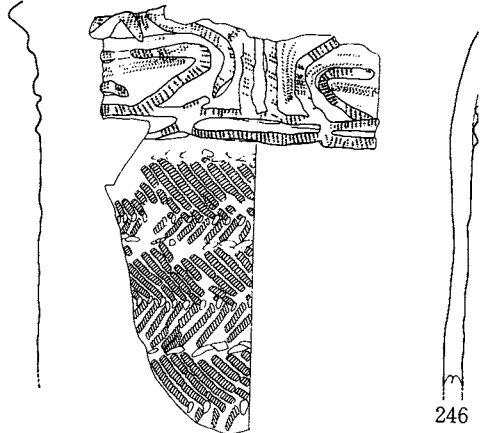
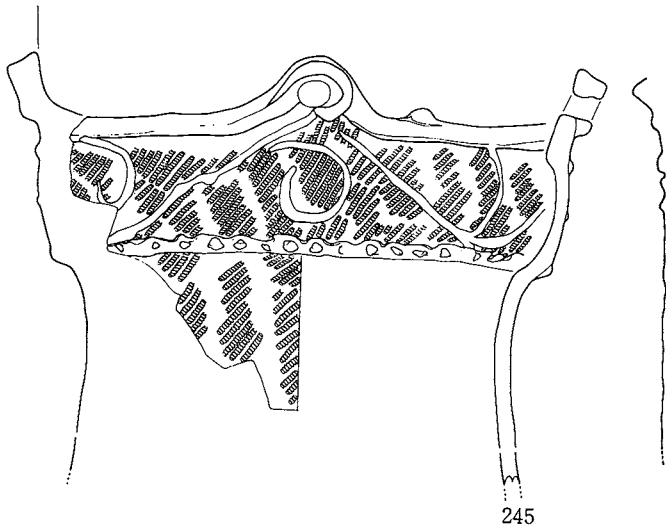




S=1/3

No	地点・層位	器種	文様の特徴	内面	分類	写真図版
240	北斜縁	深鉢	キャリバー形、円孔を持つ山形突起、粘土紐波状文、複節斜行縄文	ナデ	II群 8類 a	55
241	北平・暗褐色土	深鉢	沈線文、有棘渦巻文、単節斜行縄文	ミガキ	II群 8類 b	55
242	3 E 1 e	深鉢	沈線渦巻文、単節斜行縄文	ミガキ	II群 8類 b	55
243	北斜トレンチ	浅鉢	無文、刻目隆帯、円孔、網代痕	ミガキ	II群 6類 c	55
244	3 G 1 e 落ち込み	深鉢	波状口縁部、隆沈線、単節斜行縄文	ナデ	II群 8類 b	55

第67図 遺構外出土土器(6)



245

246

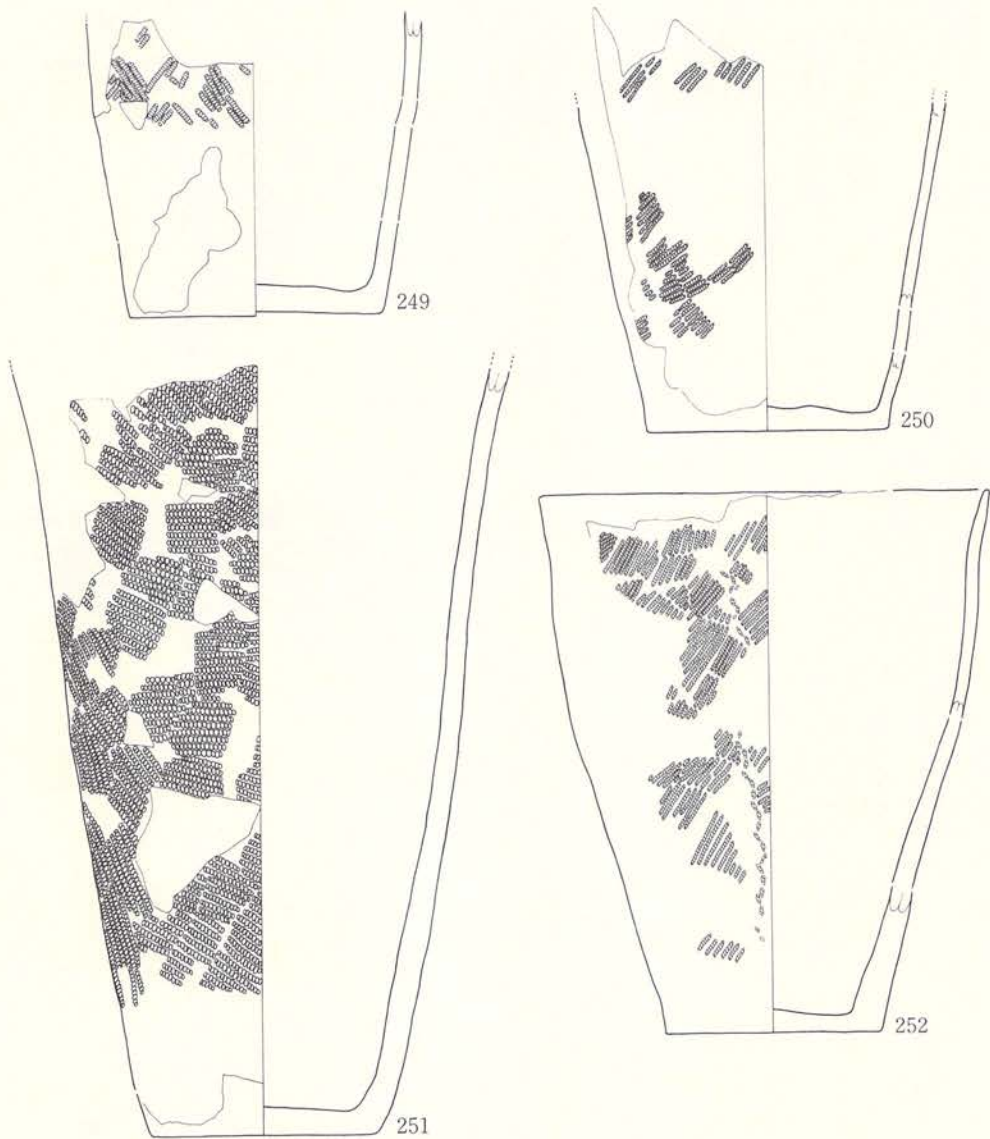
247

248

S = 1/3

№	地点・層位	器種	文様の特徴	内面	分類	写真図版
245	北斜縁・黒色土	深鉢	キャリバー形、円孔を持つ山形突起、粘土紐波状文、刺突隆帯、単筋斜行組文	ナデ	II群8類a	55
246	北斜縁・312a	深鉢	撚紐圧痕隆帯、撚紐圧痕文、羽状組文	ミガキ	II群3類a	56
247	北斜	深鉢	複筋斜行組文	ナデ	II群7類	56
248	北平・黒褐色土	深鉢	キャリバー形、波状、渦巻き沈線文、無文	ナデ	II群8類a	55

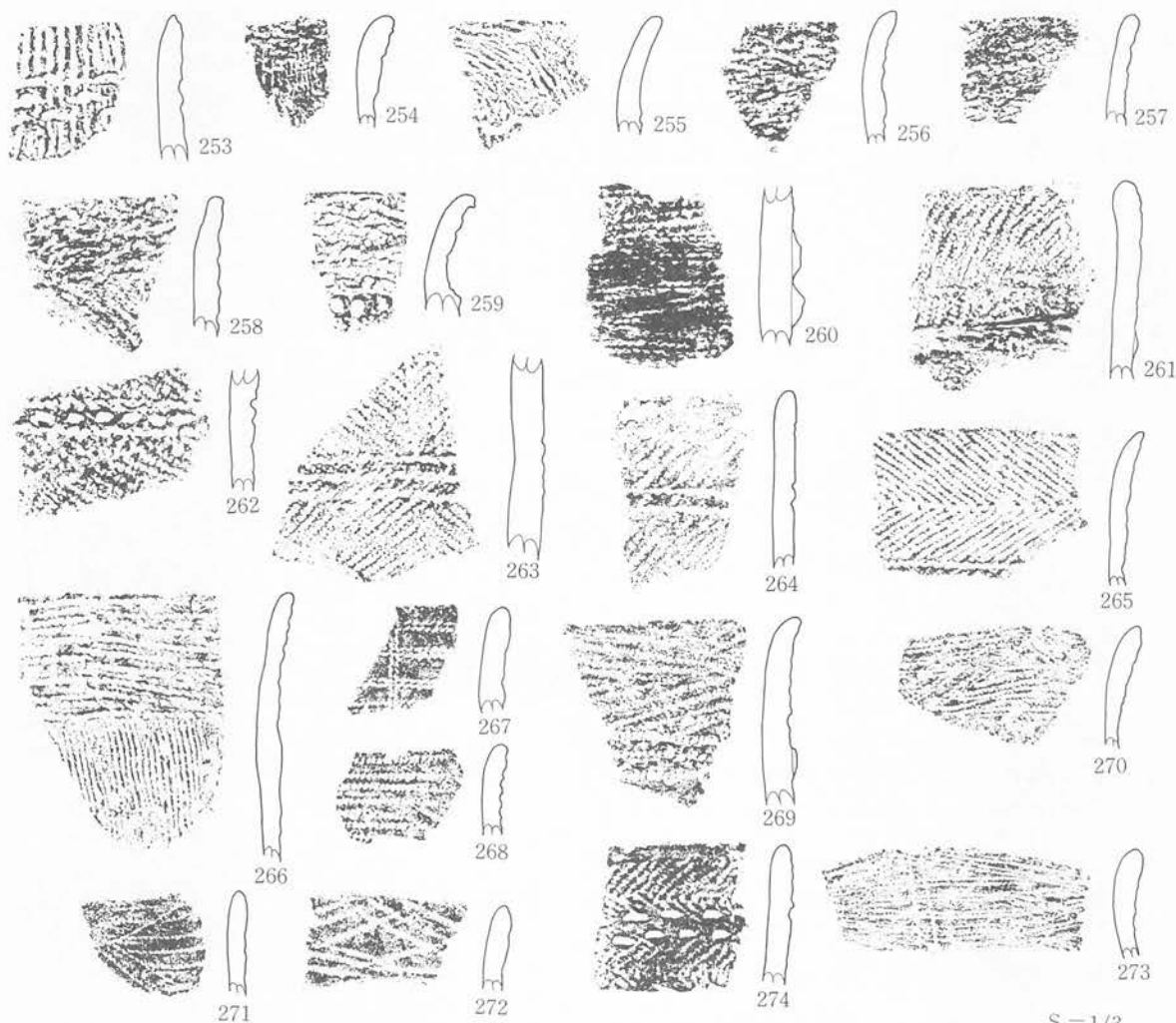
第68図 遺構外出土土器(7)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	文様の特徴	内面	分類	写真図版
249	2 H・褐色土	深鉢	結束羽状縄文	ナデ	II群6類	56
250	2 H 1 c	深鉢	単節斜行縄文	ナデ	II群6類	56
251	北平・黒褐色土	深鉢	単節斜行縄文	ナデ	II群6類	56
252	北斜トレンチ	深鉢	単節斜行縄文、縦位綾線文	ミガキ	II群6類	56

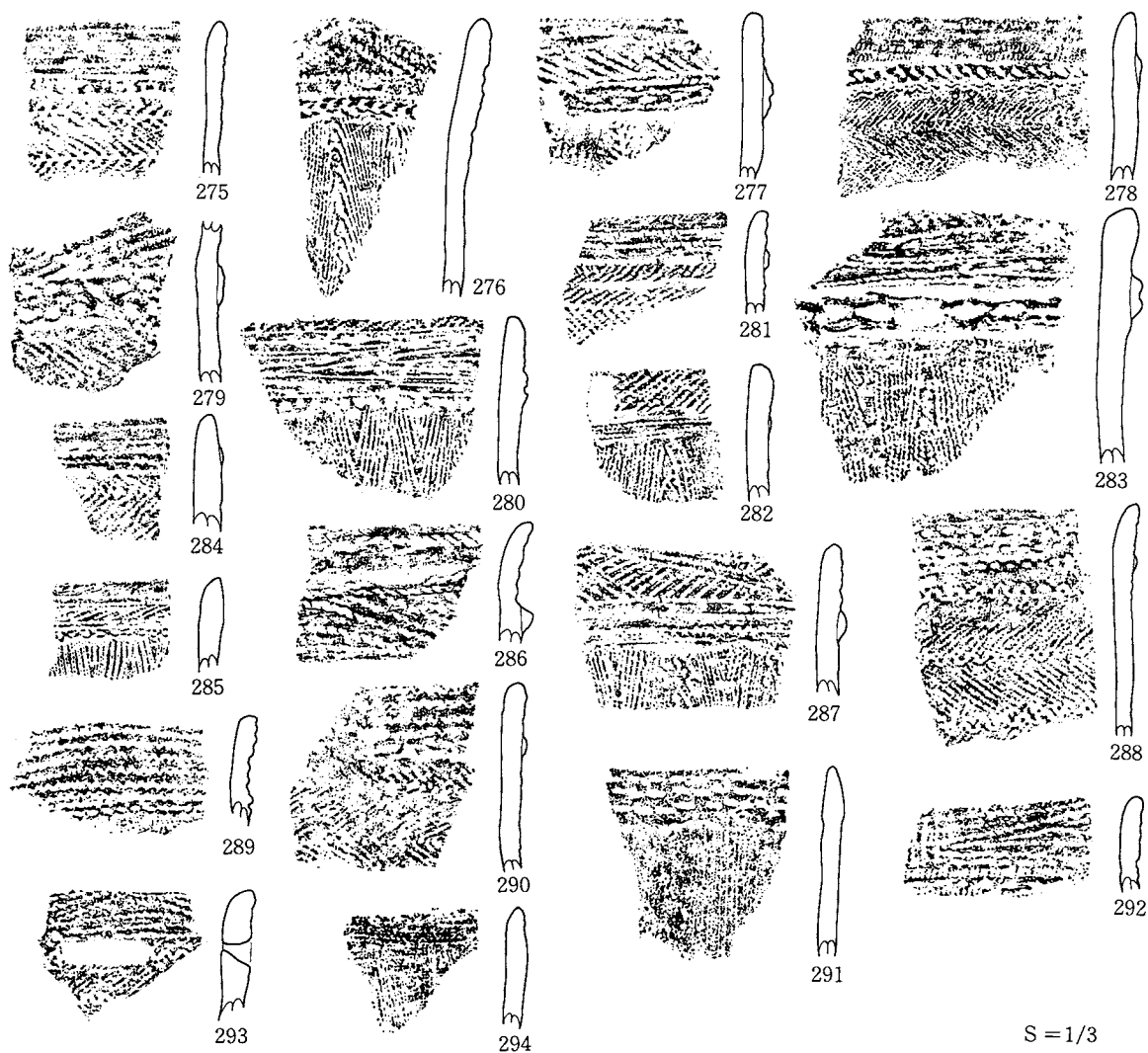
第69図 遺構外出土土器(8)



S = 1/3

No.	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
253	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	縦位燃糸文、綾織文、織維含	ナデ	I群1類a	57
254	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	縦位燃糸文、綾織文、織維含	ナデ	I群1類a	57
255	北斜・クリーニング	深鉢	口縁部	燃糸文、綾織文、織維含	ナデ	I群1類a	57
256	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	綾織文、織維含	ナデ	I群1類a	57
257	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	綾織文、織維含	ナデ	I群1類a	57
258	北斜2G・おちこみ	深鉢	口縁部	綾織文、単節斜行縄文、小窪含	ナデ	I群1類a	57
259	北平・溝埋土	深鉢	口縁部	綾織文、圧痕を持つ隆帯、織維含	ナデ	I群1類a	57
260	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、擦紐圧痕、織維含	ナデ	I群1類b	57
261	北平北・黒色土	深鉢	口縁部	微隆帯、刺突列、単節斜行縄文、織維含	ナデ	I群1類b	57
262	道路溝・埋土	深鉢	口縁部	擦紐圧痕、結束羽状縄文、刺突、織維含	ナデ	I群1類c	57
263	H25E130区内溝・埋土	深鉢	口縁部	擦紐圧痕、結束羽状縄文、織維含	ナデ	I群1類c	57
264	北平溝・埋土	深鉢	口縁部	擦紐圧痕、単節斜行縄文、織維含	ナデ	I群1類c	57
265	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	結束羽状縄文、擦紐圧痕、織維含	ナデ	I群1類c	57
266	北平3J・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	擦紐圧痕、縦位燃糸文、織維含	ナデ	I群1類c	57
267	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	無文、擦紐圧痕、織維含	ミガキ	I群2類a	57
268	北斜・北部へり際	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕、織維含	ナデ	I群2類a	57
269	北平端・黒色土	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕、隆帯、織維含	ナデ	I群2類b	57
270	北平3J・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕、織維含	ナデ	I群2類b	57
271	北平北・黒色土	深鉢	口縁部	擦紐圧痕、織維含	ナデ	I群2類b	57
272	北斜溝・暗土下部	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕文、織維含	ナデ	I群2類b	57
273	北平3J・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕文、織維含	ナデ	I群2類b	57
274	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	結束羽状縄文、織維含、刺突	ナデ	II群3類a	57

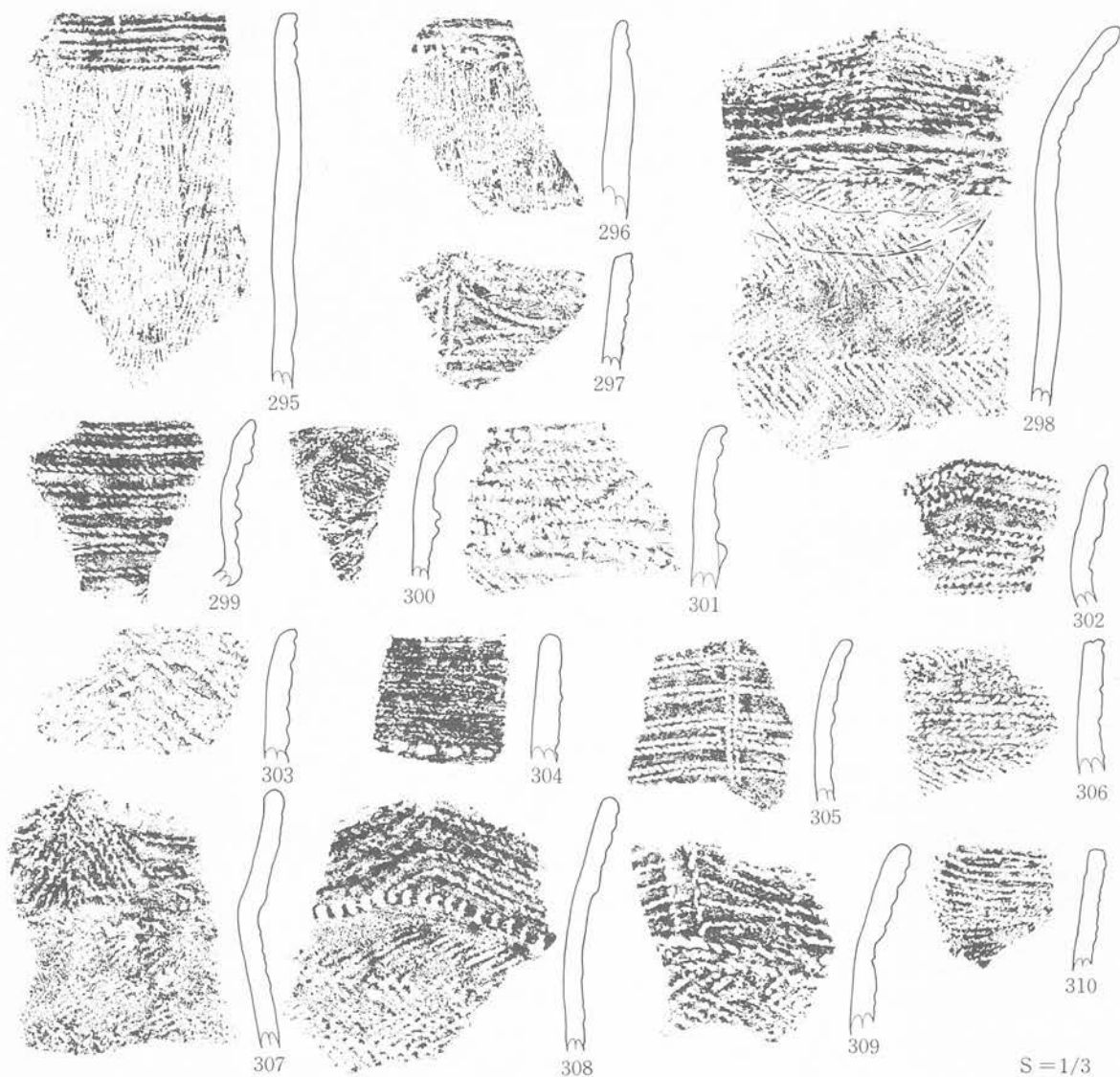
第70図 遺構外出土土器(9)



S = 1/3

Na	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
275	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	微隆帯、単軸絡糸体圧痕文、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	57
276	北端トレンチ	深鉢	口縁部	微隆帯、単軸絡糸体圧痕文、刺突、木目状捺糸文	ナデ	I群3類b	57
277	北斜溝・埋土	深鉢	口縁部	微隆帯、捺紐圧痕、刺突、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	57
278	北斜2 I	深鉢	口縁部	微隆帯、単軸絡糸体圧痕文、刺突、綾線文、結束羽状縄文（附加条付）	ナデ	I群3類b	57
279	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	隆帯、単軸絡糸体圧痕文、圧痕文、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	57
280	北平緑	深鉢	口縁部	微隆帯、刺突文、捺紐圧痕、木目状捺糸文、繊維含	ミガキ	I群3類b	57
281	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	隆帯、捺紐圧痕、結束羽状縄文、繊維含	ナデ	I群3類b	57
282	北平3 J・暗褐色土	深鉢	口縁部	微隆帯、捺紐圧痕、木目状捺糸文、繊維含	ナデ	I群3類b	57
283	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、刺突、捺紐圧痕、木目状捺糸文、繊維含	ナデ	I群3類b	57
284	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	微隆帯、捺紐圧痕、結束羽状縄文、繊維含	ナデ	I群3類b	57
285	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	微隆帯、捺紐圧痕、木目状捺糸文、繊維含	ナデ	I群3類b	57
286	北平3 K・暗褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、捺紐圧痕、繊維含	ナデ	I群3類b	57
287	北端Aトレンチ	深鉢	口縁部	微隆帯、単軸絡糸体圧痕、捺紐圧痕、木目状捺糸文、綾線文	ナデ	I群3類b	57
288	北平溝・埋土	深鉢	口縁部	微隆帯、捺紐圧痕、刺突、結束羽状縄文、綾線文	ナデ	I群3類b	57
289	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	微隆帯、刺突、単軸絡糸体圧痕文	ナデ	I群3類b	57
290	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	微隆帯、単軸絡糸体圧痕文、刺突、結束羽状縄文	ナデ	I群3類b	57
291	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	刺突文、木目状捺糸文、繊維含	ナデ	I群3類b	57
292	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	刺突、単軸絡糸体圧痕文、繊維含	ナデ	I群3類b	57
293	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	捺紐圧痕、綾線文、繊維含、円孔	ナデ	I群3類b	57
294	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	捺紐圧痕、木目状捺糸文、繊維含	ナデ	I群3類b	57

第71図 遺構外出土土器(10)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
295	北平2 J・暗褐色土	深鉢	口縁部	単軸絡糸体圧痕文、木目状擦糸文	ナデ	I群3類b	58
296	北平2 J・暗褐色土	深鉢	口縁部	単軸絡糸体圧痕文、木目状擦糸文	ナデ	I群3類b	58
297	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、微隆帯、織維含	ナデ	I群3類c	58
298	北平3 K・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、微隆帯、圧痕文	ナデ	I群3類c	58
299	北斜中央下部・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕	ミガキ	I群3類c	58
300	北斜道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	単軸絡糸体圧痕文、隆帯、刺突文、羽状織文、織維含	ナデ	I群3類c	58
301	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	単軸絡糸体圧痕文、竹管様工具刺突文	ナデ	I群3類c	58
302	北平溝・埋土下部	深鉢	口縁部	単軸絡糸体圧痕文、緩やかな波状口縁	ナデ	I群3類c	58
303	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	太い撚紐圧痕、織維含	ナデ	I群3類c	58
304	北平3 J 2 d・暗褐色土	深鉢	口縁部	単軸絡糸体圧痕文、刺突文、織維含	ナデ	I群3類c	58
305	北平3 K・暗褐色土	深鉢	口縁部	単軸絡糸体圧痕文、織維含	ナデ	I群3類c	58
306	北平緑・黒色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、綾織文、織維含	ナデ	I群3類c	58
307	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、綾織文、結束羽状織文、織維含	ナデ	I群3類c	58
308	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、圧痕文、結束羽状織文、織維含	ナデ	I群3類c	58
309	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、結束羽状織文、織維含	ナデ	I群3類c	58
310	北斜北側縁・黒色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕	ナデ	I群3類c	58

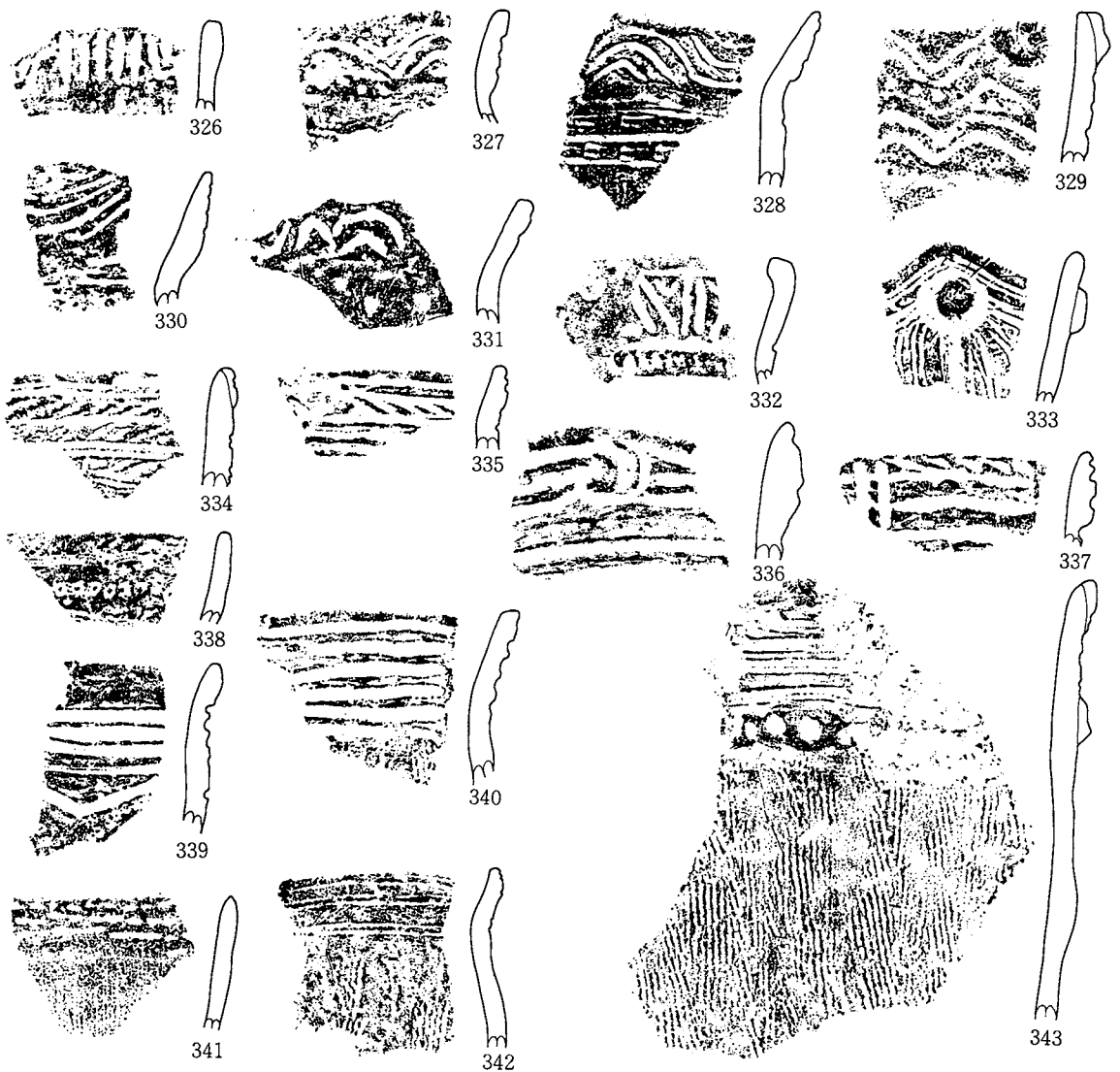
第72図 遺構外出土土器(II)



№	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
311	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、単軸絡糸体圧痕文、竹管圧痕、木目状撚糸文	ナデ	I群3類c	58
312	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、綾織文、斜行細文	ナデ	I群3類c	58
313	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	単軸絡糸体圧痕文、ボタン状貼付、木目状撚糸文、刺突文	ナデ	I群3類d	58
314	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	ボタン状貼付、円形刺突、木目状撚糸文	ナデ	I群3類d	58
315	3 I 2 a・落ち込み	深鉢	口縁部	貼瘤、折り返し口縁、撚紐圧痕、単節斜行細文、繊維含	ナデ	I群3類d	58
316	北平縁・黒色土	深鉢	口縁部	ボタン状貼付、単軸絡糸体圧痕文、竹管刺突、木目状撚糸文	ナデ	I群3類d	58
317	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	ボタン状貼付、撚紐圧痕、竹管刺突、単軸絡糸体圧痕、単節斜行細文	ナデ	I群3類d	58
318	北斜・黒褐色土	深鉢	口縁部	粘土紐貼付、円形刺突、単軸絡糸体圧痕文	ナデ	I群3類d	58
319	北平3 J・暗褐色土	深鉢	口縁部	粘土紐貼付、微隆帯、撚紐圧痕、竹管刺突文、繊維含	ナデ	I群3類d	58
320	北平溝・埋土	深鉢	口縁部	粘土紐貼付、太い撚紐圧痕、繊維含	ナデ	I群3類d	59
321	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	粘土紐貼付、刺突文、撚紐圧痕、綾織文、結束羽状細文、繊維含	ナデ	I群3類d	59
322	北斜1 I・落ち込み上部	深鉢	口縁部	粘土紐貼付、単軸絡糸体圧痕文、綾織文、繊維含	ナデ	I群3類d	58
323	北斜3 H 1 c・落ち込み埋土	深鉢	口縁部	粘土紐貼付、撚紐圧痕、単節斜行細文、繊維含	ナデ	I群3類d	59
324	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	無文、格子目状粘土紐貼付	ナデ	I群4類a	59
325	道路分溝・埋土下部	深鉢	口縁部	細い波状粘土紐貼付	ナデ	I群4類b	59

第73図 遺構外出土土器(12)



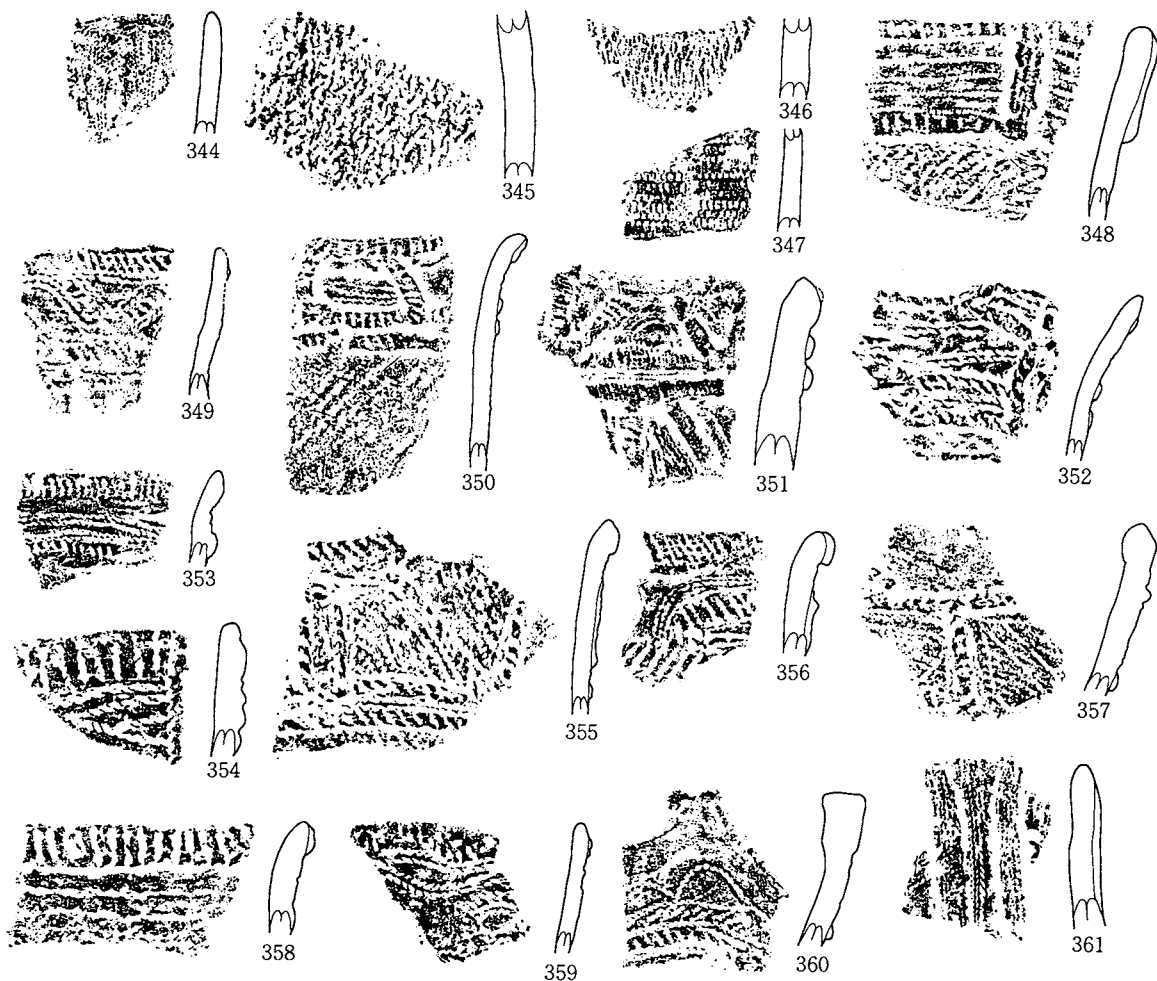


S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
326	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	縦・カギ状沈線	ナデ	I群5類a	59
327	北平溝・埋土	深鉢	口縁部	弧状沈線、単節斜行縄文	ナデ	I群5類a	59
328	表採	深鉢	口縁部	口縁部肥厚、弧状沈線、半截竹管刺突、撚糸文	ナデ	I群5類a	59
329	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	ボタン状貼付、弧状沈線、刺突文、単節斜行縄文	ナデ	I群5類a	59
330	北端Aトレンチ	深鉢	口縁部	弧状沈線	ナデ	I群5類a	59
331	北斜溝・埋土	深鉢	口縁部	弧状沈線、指頭状圧痕文	ナデ	I群5類a	59
332	北斜溝・埋土下部	深鉢	口縁部	縦・斜位・カギ状沈線、三角状刺突文	ナデ	I群5類a	59
333	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	ボタン状突起、半截竹管による円圖文	ナデ	I群5類a	59
334	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、半截竹管平行沈線	ナデ	I群5類b	59
335	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	半截竹管平行沈線、棒状工具背面押圧、撚紐圧痕	ナデ	I群5類b	59
336	北平溝・埋土	深鉢	口縁部	太く浅い平行・渦巻沈線	ミガキ	I群5類b	59
337	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	棒状工具斜位背面押圧、縦・平行沈線文	ミガキ	I群5類b	59
338	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	円形刺突文、竹管様工具沈線	ナデ	I群5類b	59
339	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	円形刺突文、平行沈線文、鋸齒状沈線文	ナデ	I群5類b	59
340	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	平行沈線文、絡糸体回転文	ナデ	I群5類b	59
341	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	刺突文、縦位条痕	ナデ	I群5類b	59
342	北平・方形落ち込み埋土	深鉢	口縁部	半截竹管様工具平行沈線文、木目状撚糸文	ナデ	I群5類b	59
343	北平3丁・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	半截竹管様工具平行沈線文、木目状撚糸文、隆帯上指頭状圧痕	ミガキ	I群5類b	59

第74図 遺構外出土土器(13)

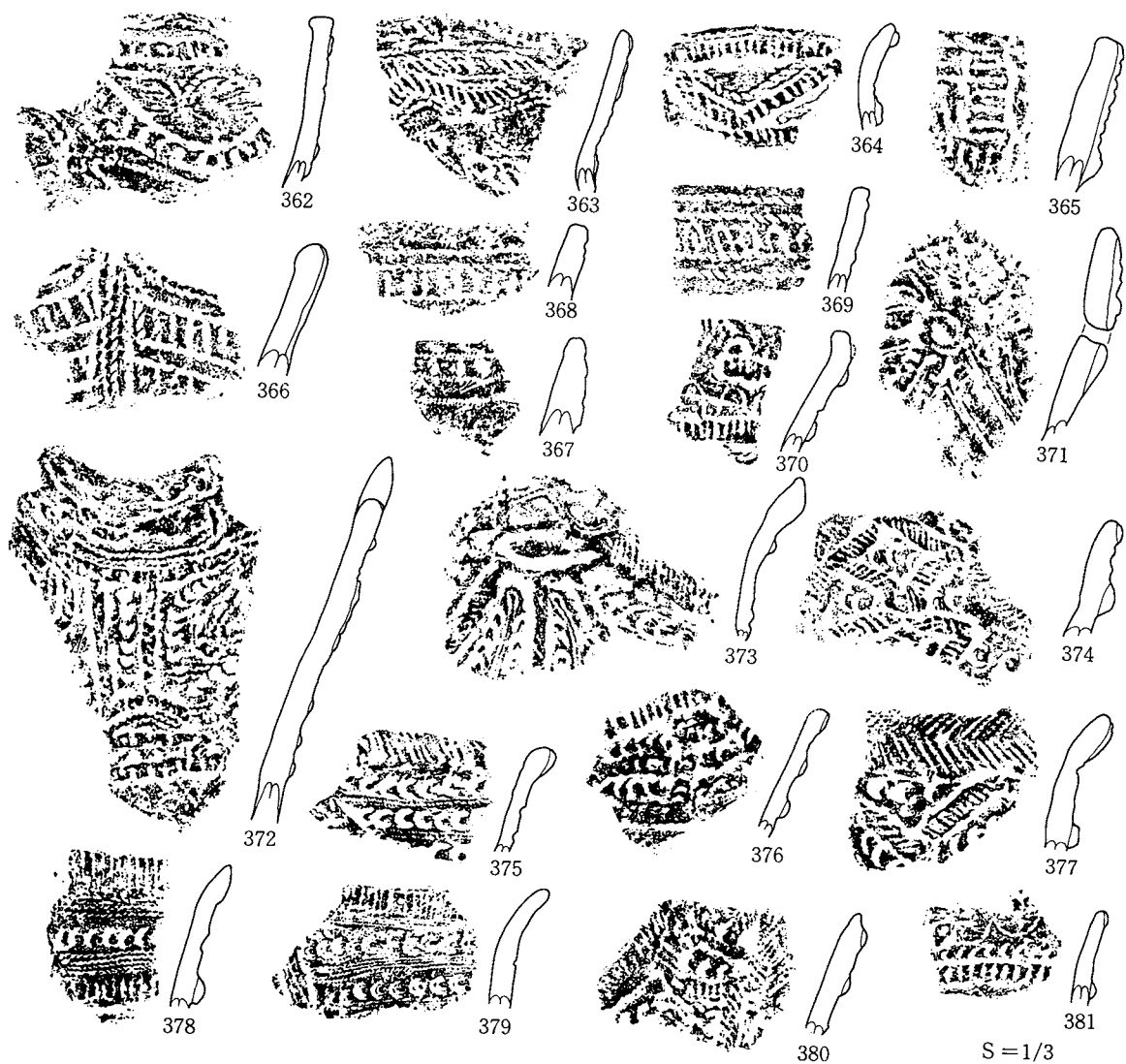




S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
344	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	木目状燃糸文	ナデ	I群6類	59
345	道路分溝・埋土	深鉢	胴部下半	網目状燃糸文、纖維含	ナデ	I群6類	59
346	北平・暗褐色土	深鉢	胴部下半	網目状燃糸文、纖維含	ナデ	I群6類	59
347	北平・暗褐色土	深鉢	胴部下半	多軸絡糸体圧痕文、纖維含	ナデ	I群6類	59
348	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐直線文、単節斜行縄文	ミガキ	II群1類a	59
349	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐曲線文	ナデ	II群1類a	59
350	北斜緑	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐直線圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群1類a	59
351	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐圧痕、弁状突起	ナデ	II群1類a	59
352	3日3b	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐圧痕、無文	ミガキ	II群1類a	59
353	北平緑・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐圧痕、無文	ナデ	II群1類a	59
354	北平	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐圧痕、無文	ナデ	II群1類a	59
355	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐圧痕、単節斜行縄文	ミガキ	II群1類a	60
356	北斜緑・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群1類a	59
357	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐圧痕、弁状突起、単節斜行縄文	ナデ	II群1類a	60
358	北平・表土	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群1類a	59
359	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	波状隆帯、燃紐曲線圧痕	ナデ	II群1類a	59
360	北斜緑・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐圧痕、単節斜行縄文、弁状突起	ミガキ	II群1類a	60
361	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	隆帯、燃紐圧痕(異種の縄の束)	ナデ	II群1類a	60

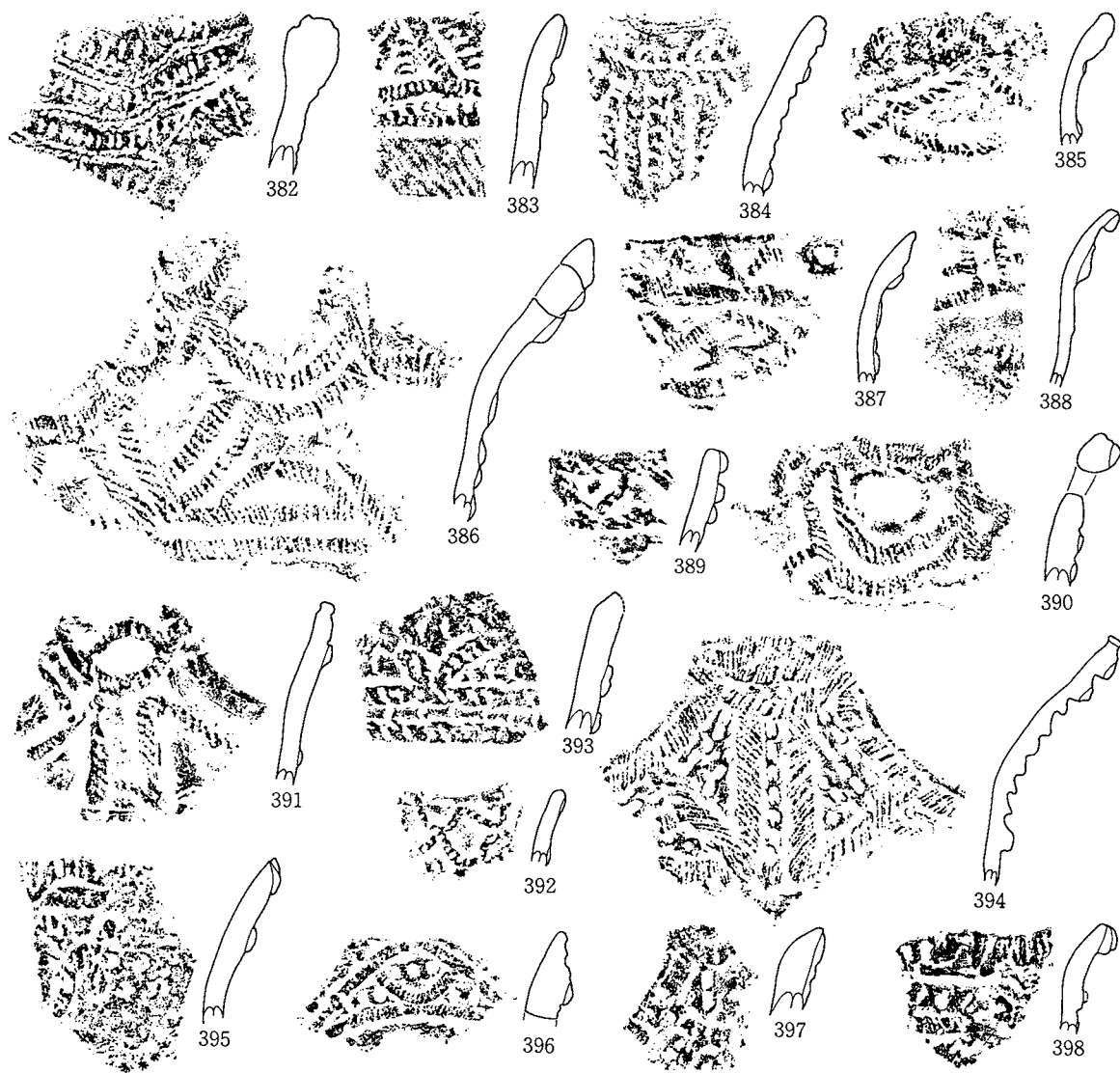
第75図 遺構外出土土器(14)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
362	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	刻目隆帯、擦紐圧痕	ミガキ	II群1類a	60
363	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	波状貼付帯、擦紐圧痕	ミガキ	II群1類a	60
364	北斜緑・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、擦紐圧痕	ミガキ	II群1類a	60
365	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	隆帯、擦紐圧痕	ナデ	II群1類a	60
366	北平緑・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、擦紐縦圧痕	ナデ	II群1類a	60
367	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	単軸絡条体圧痕文、擦紐圧痕	ミガキ	II群1類a	60
368	北平緑・黒色土	深鉢	口縁部	擦紐平行・縦圧痕	ミガキ	II群1類a	60
369	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	擦紐平行・波状圧痕	ミガキ	II群1類b	60
370	2 I・落ち込み	深鉢	口縁部	波状隆帯、擦紐波状圧痕	ナデ	II群1類b	60
371	北平中部緑	深鉢	口縁部	弁状突起、隆帯、擦紐渦巻・爪形圧痕、円孔	ナデ	II群2類a	60
372	北平・黒褐色土斜	深鉢	口縁部	弁状突起、粘土紐貼付、擦紐直線・爪形圧痕	ナデ	II群2類a	60
373	北斜緑	深鉢	口縁部	弁状突起、隆帯、擦紐曲線・爪形圧痕	ナデ	II群2類a	60
374	北斜中央部緑	深鉢	口縁部	弁状突起、隆帯、擦紐爪形圧痕	ナデ	II群2類a	60
375	北斜中央部緑	深鉢	口縁部	隆帯、擦紐直線・爪形圧痕	ナデ	II群2類a	60
376	3 I 2 a 緑	深鉢	口縁部	弁状突起、隆帯、擦紐爪形圧痕	ナデ	II群2類a	60
377	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	折り返し口縁、隆帯、擦紐矢羽根状・爪形圧痕	ミガキ	II群2類a	60
378	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	隆帯、擦紐直線・爪形圧痕	ナデ	II群2類a	60
379	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、擦紐直線・爪形圧痕	ナデ	II群2類a	60
380	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	弁状突起、隆帯、擦紐爪形圧痕	ナデ	II群2類a	60
381	3 H 1 c・落ち込み埋土	深鉢	口縁部	小突起、隆帯、擦紐弧状・爪形圧痕	ナデ	II群2類a	60

第76図 遺構外出土土器(15)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
382	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐曲線・爪形疔痕	ミガキ	II群2類a	60
383	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐曲線・爪形疔痕、単節斜行縄文	ナデ	II群2類a	60
384	北平斜面寄り	深鉢	口縁部	弁状突起、隆帯、撚紐曲線・爪形疔痕	ナデ	II群2類a	60
385	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	無文、撚紐疔痕波状隆帯	ミガキ	II群3類a	60
386	北平縁・黒色土	深鉢	口縁部	無文、弁状突起、撚紐疔痕波状隆帯、円孔	ミガキ	II群3類a	60
387	道路部溝・埋土	深鉢	口縁部	無文、ボタン状突起、撚紐疔痕隆帯	ナデ	II群3類a	60
388	北平・表土	深鉢	口縁部	無文、撚紐疔痕隆帯	ナデ	II群3類a	60
389	表探	深鉢	口縁部	無文、撚紐疔痕隆帯	ミガキ	II群3類a	60
390	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	無文、弁状突起、撚紐疔痕隆帯、円孔	ミガキ	II群3類a	60
391	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	無文、弁状突起、撚紐疔痕隆帯	ナデ	II群3類a	60
392	北平・表土	深鉢	口縁部	無文、撚紐疔痕隆帯	ナデ	II群3類a	60
393	道路分・粗掘り	深鉢	口縁部	無文、撚紐疔痕隆帯、爪形疔痕	ミガキ	II群3類b	61
394	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	弁状突起、無文、撚紐疔痕隆帯、刺突文	ナデ	II群3類b	61
395	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	無文、撚紐疔痕隆帯、爪形疔痕	ミガキ	II群3類b	61
396	北斜中央部・黒色土	深鉢	口縁部	弁状突起、無文、撚紐疔痕隆帯、円形刺突文	ミガキ	II群3類b	61
397	北斜中央・落ち込み下部	深鉢	口縁部	弁状突起、無文、撚紐疔痕隆帯、刺突文	ナデ	II群3類b	61
398	北斜縁・黒色土	深鉢	口縁部	折り返し口縁、無文、撚紐疔痕隆帯、刺突文	ナデ	II群3類b	61

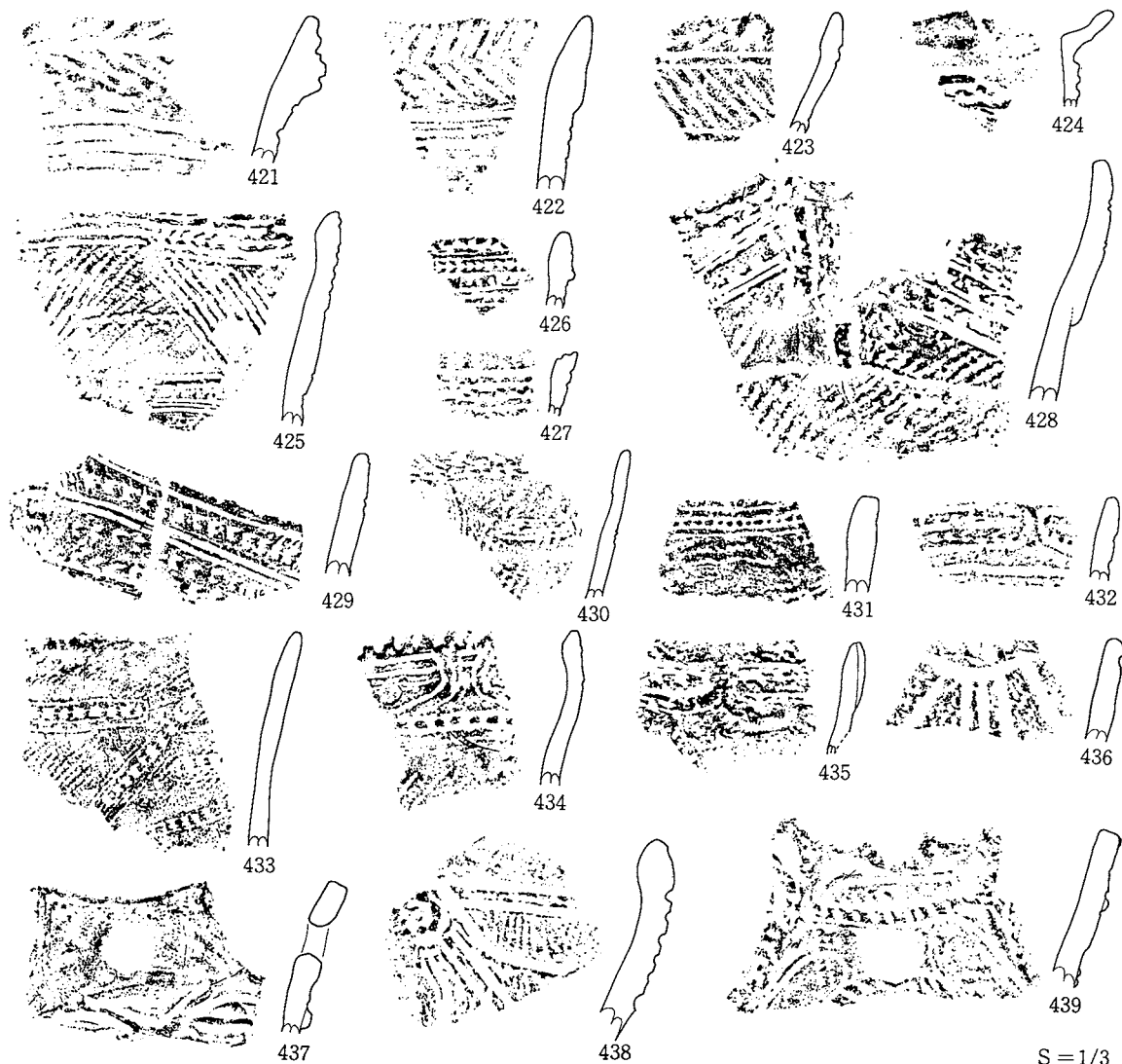
第77図 遺構外出土土器(16)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面		写真図版
					分類		
399	道路分溝・埋土下部	深鉢	口縁部	無文、擦紐圧痕隆帯、刺突文	ナデ	II群3類b	61
400	北斜緑・黒色土	深鉢	口縁部	無文、擦紐圧痕隆帯、爪形刺突文	ミガキ	II群3類b	61
401	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	無文、擦紐圧痕隆帯、円形刺突文	ミガキ	II群3類b	61
402	北斜緑・褐色土	深鉢	口縁部	無文、擦紐圧痕隆帯、爪形刺突文	ナデ	II群3類b	61
403	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	無文、擦紐圧痕隆帯、円形刺突文	ミガキ	II群3類b	61
404	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	無文、波状粘土紐貼付、平行・縦沈線	ナデ	II群4類a	61
405	北斜緑・黒色土	深鉢	口縁部	無文、細い粘土紐貼付(助骨文)	ミガキ	II群4類a	61
406	北斜下部・落ち込み	深鉢	口縁部	無文、ボタン状突起、波状粘土紐貼付	ミガキ	II群4類a	61
407	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	無文、擦紐圧痕粘土紐貼付	ナデ	II群4類a	61
408	北斜緑・黒色土	深鉢	口縁部	平行・波状粘土紐貼付、単節斜行縄文	ミガキ	II群4類a	61
409	北斜緑	深鉢	口縁部	波状粘土紐貼付、単節斜行縄文	ナデ	II群4類a	61
410	北斜緑・黒色土	深鉢	口縁部	平行・波状粘土紐貼付、単節斜行縄文	ナデ	II群4類a	61
411	北斜緑	深鉢	口縁部	円形刺突文、弧状沈線文、単節斜行縄文	ナデ	II群5類a	61
412	北平溝・埋土下部	深鉢	口縁部	無文、平行沈線文、刺突文	ナデ	II群6類a	61
413	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	平行沈線文、爪形圧痕文、綾線文	ミガキ	II群6類a	61
414	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	平行沈線文、爪形圧痕文、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	61
415	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	円筒状圧痕文、折り返し口縁	ナデ	II群6類a	61
416	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	折り返し口縁、爪形圧痕文	ナデ	II群6類a	61
417	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	粘土紐貼付、無文、爪形圧痕文	ナデ	II群6類a	61
418	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	平行沈線文、単節斜行縄文、爪形圧痕文、圧痕のある隆帯	ナデ	II群6類a	61
419	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	指頭状圧痕隆帯、綾形沈線文、刻目	ナデ	II群6類a	61
420	北平・表土	深鉢	口縁部	折り返し口縁、刻目隆帯、斜位沈線	ナデ	II群6類a	61

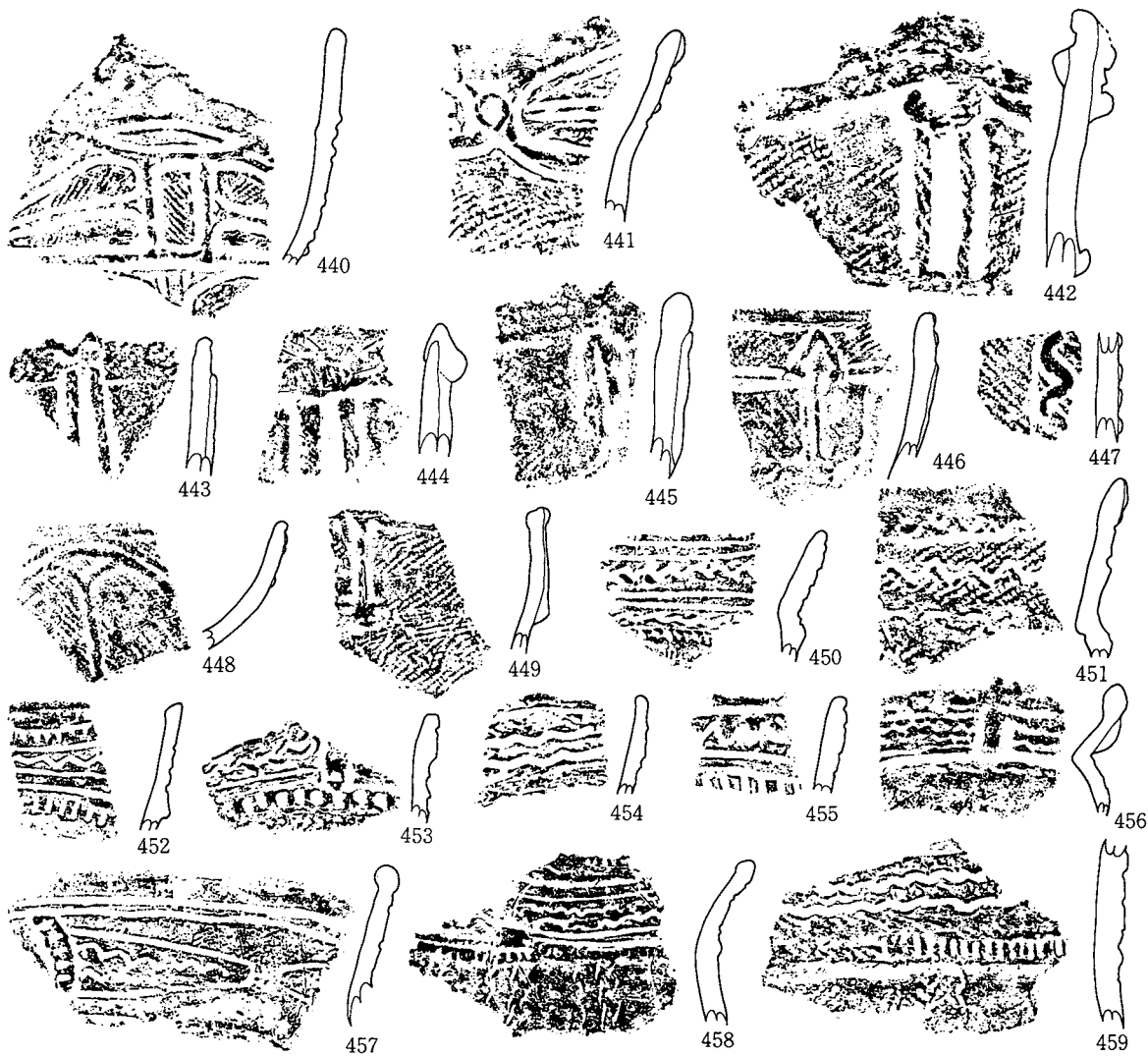
第78図 遺構外出土器(17)



S=1/3

Na	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
421	北端Aトレンチ	深鉢	口縁部	平行・矢羽根状沈線文	ミガキ	II群6類a	61
422	北平2J・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	縷衫状・平行沈線文	ナデ	II群6類a	61
423	3H1c・落ち込み	深鉢	口縁部	斜位・平行沈線文、粘土紐貼付	ナデ	II群6類a	61
424	北斜縁・褐色土	深鉢	口縁部	沈線文、交互刺突文、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	61
425	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	平行・斜位沈線文、交互刺突文、結束第1種	ミガキ	II群6類a	61
426	3I2a・落ち込み	深鉢	口縁部	交互刺突文、平行沈線文、竹管様工具刺突文	ナデ	II群6類a	61
427	北平瀧・埋土下部	深鉢	口縁部	交互刺突文、沈線文、内面沈線有り	ナデ	II群6類a	61
428	北平縁・黒色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕隆帯、撚紐圧痕文、半截竹管様工具押し引き刺突文、単節斜行縄文	ミガキ	II群6類a	61
429	北平2J・暗褐色土	深鉢	口縁部	刻目隆帯、半截竹管沈線文・刺突文	ミガキ	II群6類a	61
430	北平・表土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、半截竹管刺突文、沈線文、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	62
431	北斜縁	深鉢	口縁部	半截竹管刺突文・沈線文、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	61
432	道路分漕・埋土	深鉢	口縁部	匹字状沈線、半截竹管刺突文	ナデ	II群6類a	61
433	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	半截竹管刺突文・沈線文、単節斜行縄文	ミガキ	II群6類a	62
434	北平瀧・黒色土	深鉢	口縁部	半截竹管押し引き刺突、匹字状沈線文、口唇部刻目、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	61
435	北斜縁	深鉢	口縁部	匹字状隆帯、半截竹管刺突文、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	61
436	北平縁・黒色土	深鉢	口縁部	弁状突起、口唇部刻目、太描き沈線、単節斜行縄文	ミガキ	II群6類b	62
437	北平瀧・埋土	深鉢	口縁部	弁状突起、太描き沈線、円孔	ミガキ	II群6類b	62
438	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	太描き沈線、盲孔、縦位単節縄文	ミガキ	II群6類b	62
439	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	弁状突起、単節斜行縄文、円孔、刻目隆帯、沈線文	ナデ	II群6類b	62

第79図 遺構外出土土器(18)



S=1/3

№	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
440	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、太描き沈線、弁状突起、円孔	ミガキ	II群6類b	62
441	北斜縁上部	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、太描き沈線、盲孔	ナデ	II群6類b	62
442	北平縁・黒色土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、折り返し口縁、隆帯	ミガキ	II群6類c	62
443	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、折り返し口縁、隆帯	ミガキ	II群6類c	62
444	3H1b・埋土下部	深鉢	口縁部	折り返し口縁、隆帯、貼瘤	ミガキ	II群6類c	62
445	北斜中央部・黒色土	深鉢	口縁部	折り返し口縁、突起、隆帯、単節斜行縄文	ナデ	II群6類c	62
446	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、撚紐圧痕、微隆帯、沈線文	ナデ	II群6類c	62
447	北斜・表探	深鉢	胴部	単節斜行縄文、波状隆帯、沈線文	ナデ	II群6類c	62
448	道路分溝・埋土	浅鉢	口縁部	単節斜行縄文、微隆帯	ナデ	II群6類c	62
449	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、微隆帯、鋸歯状撚紐圧痕	ナデ	II群6類c	62
450	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	平行・波状沈線文、刻目隆帯、絡糸体回転文	ミガキ	II群6類a	62
451	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	折り返し口縁、連続波状沈線文、結束第1種	ナデ	II群6類a	62
452	道路分溝・埋土下部	深鉢	口縁部	平行・短・連続山形沈線文	ナデ	II群6類a	62
453	北斜・焼土落ち込み	深鉢	口縁部	平行・連続山形沈線文、爪形刺突文	ナデ	II群6類a	62
454	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	連続波状沈線文、単節斜行縄文	ミガキ	II群6類a	62
455	道路分・埋土	深鉢	口縁部	平行・連続山形・短沈線文	ナデ	II群6類a	62
456	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	平行・連続波状沈線文	ナデ	II群6類a	62
457	北平3K・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	平行・連続山形沈線文、刻目隆帯	ナデ	II群6類a	62
458	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	平行・連続山形沈線文、縦位綾線文、貼瘤	ミガキ	II群6類a	62
459	北平溝・埋土	深鉢	口縁部	連続波状沈線文、刺突文、綾線文、複節斜行縄文	ナデ	II群6類a	62

第80図 遺構外出土土器(19)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
460	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	平行・連続波状沈線文	ナデ	II群6類a	62
461	北端トレンチ	深鉢	口縁部	連続山形沈線文、折り返し口縁、刺突文	ナデ	II群6類a	62
462	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	捻紐圧痕、半載竹管連続波状沈線文	ナデ	II群6類a	62
463	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	半載竹管弧状・平行沈線文、刺突文	ミガキ	II群6類a	62
464	北平	深鉢	口縁部	連続山形沈線文、ボタン状貼付、半載竹管刺突文	ナデ	II群6類a	62
465	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	凹形刺突文、連続山形沈線文	ナデ	II群6類a	62
466	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	刻目隆帯、半載竹管平行・波状沈線文	ナデ	II群6類a	62
467	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	半載竹管弧状沈線文	ナデ	II群6類a	62
468	道路分・黒色粘質土	深鉢	口縁部	半載竹管連続波状沈線文	ナデ	II群6類a	62
469	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	半載竹管連続山形・平行沈線文	ナデ	II群6類a	62
470	3H3b・落ち込み	深鉢	口縁部	連続波状・平行沈線文	ナデ	II群6類a	62
471	北端トレンチ	深鉢	口縁部	刻目隆帯、三角状刺突、平行沈線文、綾織文、羽状縄文、盲孔、隆帯	ミガキ	II群6類a	63
472	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	半載竹管平行沈線文、三角状刺突文、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	63
473	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	平行沈線文、三角形彫刻文	ミガキ	II群6類a	63
474	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	折り返し口縁、平行沈線文、刻目、三角形彫刻文	ナデ	II群6類a	63
475	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	平行沈線文、三角形彫刻文、刻目、綾織文、単節斜行縄文	ナデ	II群6類a	63
476	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	刺突文、平行沈線文、口唇部肥厚	ナデ	II群6類a	63
477	北斜中央部	深鉢	口縁部	刻目、三角形刺突文、沈線文	ナデ	II群6類a	63

第81図 遺構外出土土器(20)

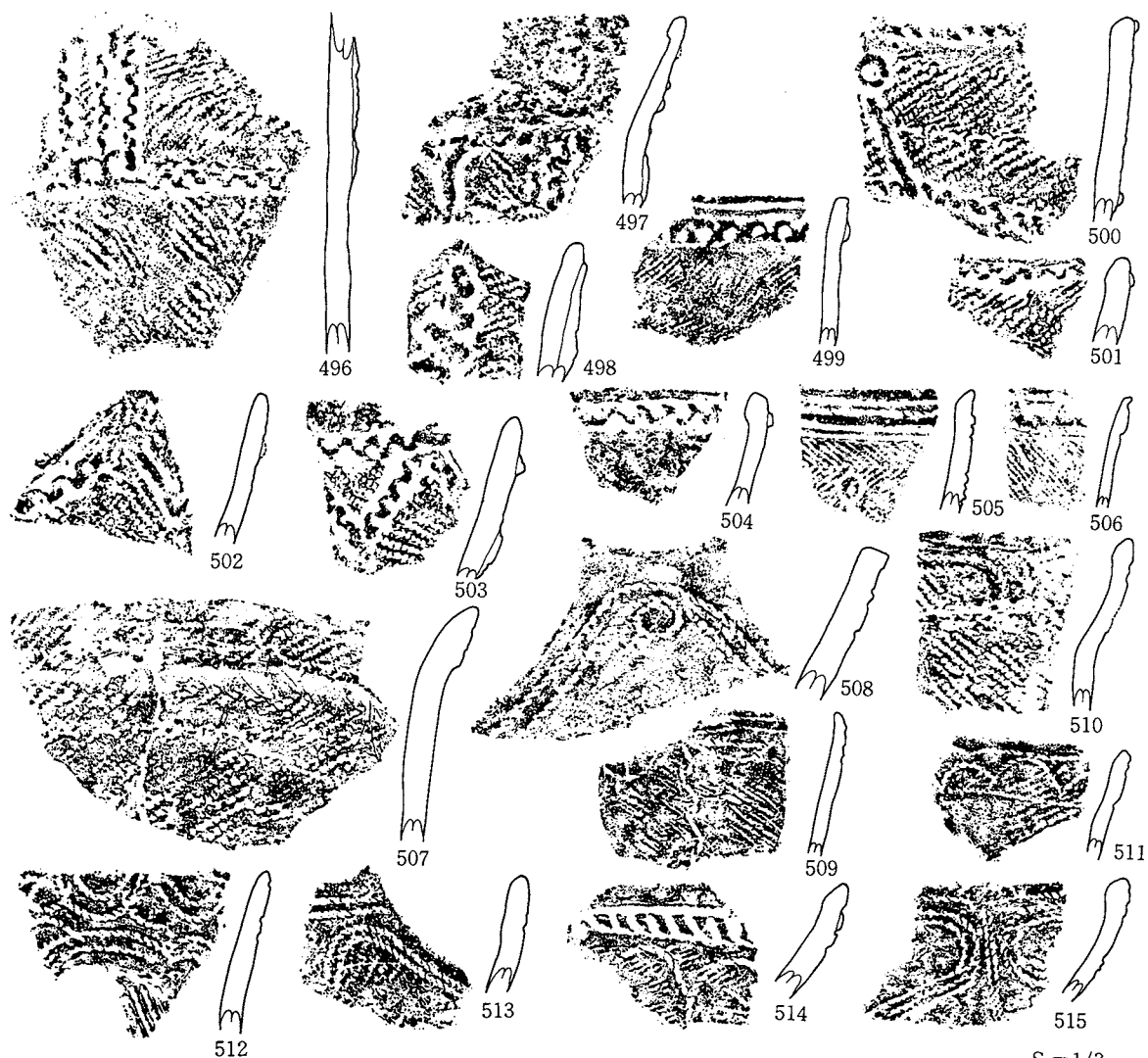




S = 1/3

No.	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
478	北平溝・埋土	深鉢	口縁部	口唇部肥厚・平行沈線、短沈線	ナデ	II群6類a	63
479	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	平行沈線、短沈線	ナデ	II群6類a	63
480	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	平行沈線、短沈線	ナデ	II群6類a	63
481	道路分溝・埋土下部	深鉢	口縁部	平行沈線、短沈線、棘手状沈線	ナデ	II群6類a	63
482	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	平行沈線、連続弧状沈線	ナデ	II群6類a	63
483	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	太描き斜位沈線、単節斜行細文(附加条付)	ミガキ	II群6類a	63
484	道路分クリーニング	深鉢	口縁部	太描き平行・縦沈線	ナデ	II群6類a	63
485	北平・表土	深鉢	口縁部	刻目隆帯、平行沈線、綾線文	ナデ	II群6類c	63
486	北平3J・暗褐色土	深鉢	口縁部	刻目隆帯、平行沈線、短沈線	ミガキ	II群6類c	63
487	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	指頭状圧痕隆帯、綾線文、縦方向羽状細文	ミガキ	II群6類c	63
488	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	指頭状圧痕隆帯、沈線文、短沈線	ナデ	II群6類c	63
489	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	刻目隆帯、平行沈線文、刺突文	ナデ	II群6類c	63
490	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	刻目隆帯、刺突文	ナデ	II群6類c	63
491	3I2a縁	深鉢	口縁部	刻目隆帯	ナデ	II群6類c	63
492	北平3K・暗褐色土	深鉢	口縁部	押圧圧痕隆帯、平行沈線文、単節斜行細文、綾線文	ナデ	II群6類c	63
493	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	渦巻状隆帯、平行沈線、単節斜行細文、粘土紐貼付	ナデ	II群6類c	63
494	北斜2G2c	深鉢	口縁部	刻目隆帯、単節斜行細文	ナデ	II群6類c	63
495	3H3b・落ち込み	深鉢	口縁部	渦巻状刻目隆帯、無文	ナデ	II群6類c	63

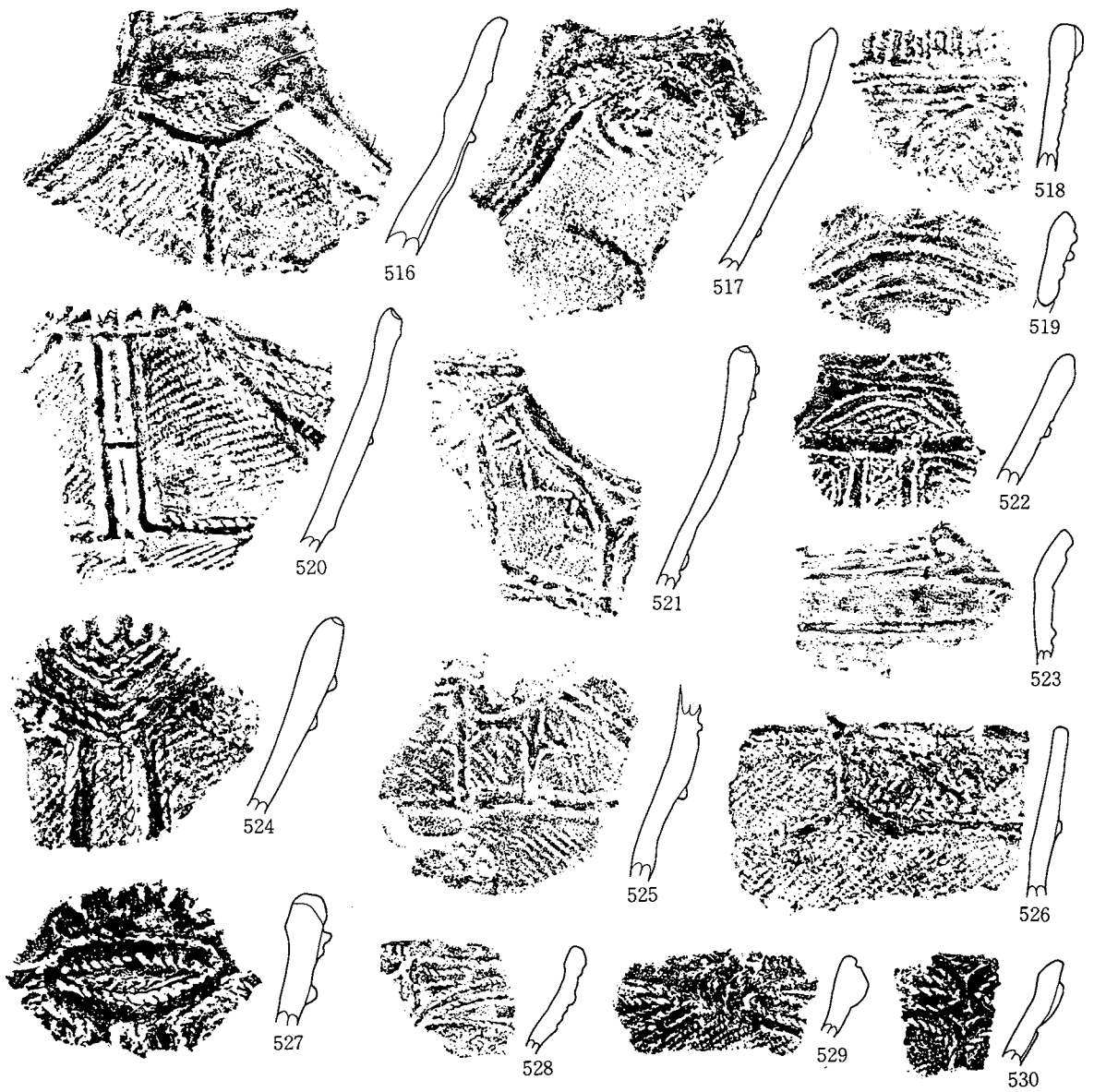
第82図 遺構外出土土器(21)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
496	3 I 2 a 緑	深鉢	口縁部	波状粘土紐貼付、単節斜行縄文	ナデ	II群6類c	63
497	2 I 落ち込み	深鉢	口縁部	波状粘土紐貼付、ボタン状貼付、単節斜行縄文	ナデ	II群6類c	63
498	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	波状粘土紐貼付、単節斜行縄文、折り返し口縁	ナデ	II群6類c	63
499	北斜縁	深鉢	口縁部	波状粘土紐貼付、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群6類c	63
500	3 I 2 a 緑	深鉢	口縁部	波状粘土紐貼付、直線粘土紐貼付、盲孔、結束第1種	ナデ	II群6類c	63
501	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	波状粘土紐貼付、単節斜行縄文	ナデ	II群6類c	63
502	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	波状粘土紐貼付、単節斜行縄文、弁状突起	ミガキ	II群6類c	63
503	北平縁・黒色土	深鉢	口縁部	波状粘土紐貼付、単節斜行縄文	ミガキ	II群6類c	63
504	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	波状粘土紐貼付、口縁部肥厚、無文	ナデ	II群6類c	63
505	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、沈線文、結束羽状縄文	ナデ	II群7類a	64
506	北斜中央部縁・褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類a	64
507	表採	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、結束第1種	ミガキ	II群7類a	64
508	北斜下部・褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、単節斜行縄文、弁状突起	ミガキ	II群7類a	64
509	3 H 1 d・落ち込み埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕(直線・弧状)、綾線文、単節斜行縄文	ミガキ	II群7類a	64
510	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、単節斜行縄文	ミガキ	II群7類a	64
511	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕(直線・弧状)、単節斜行縄文	ナデ	II群7類a	64
512	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕(弧状)、撚糸文	ミガキ	II群7類a	64
513	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、単節斜行縄文、弁状突起	ナデ	II群7類a	64
514	北平溝・埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕、斜位短沈線	ナデ	II群7類a	64
515	3 H 1 b・落ち込み埋土	深鉢	口縁部	撚紐圧痕	ナデ	II群7類a	64

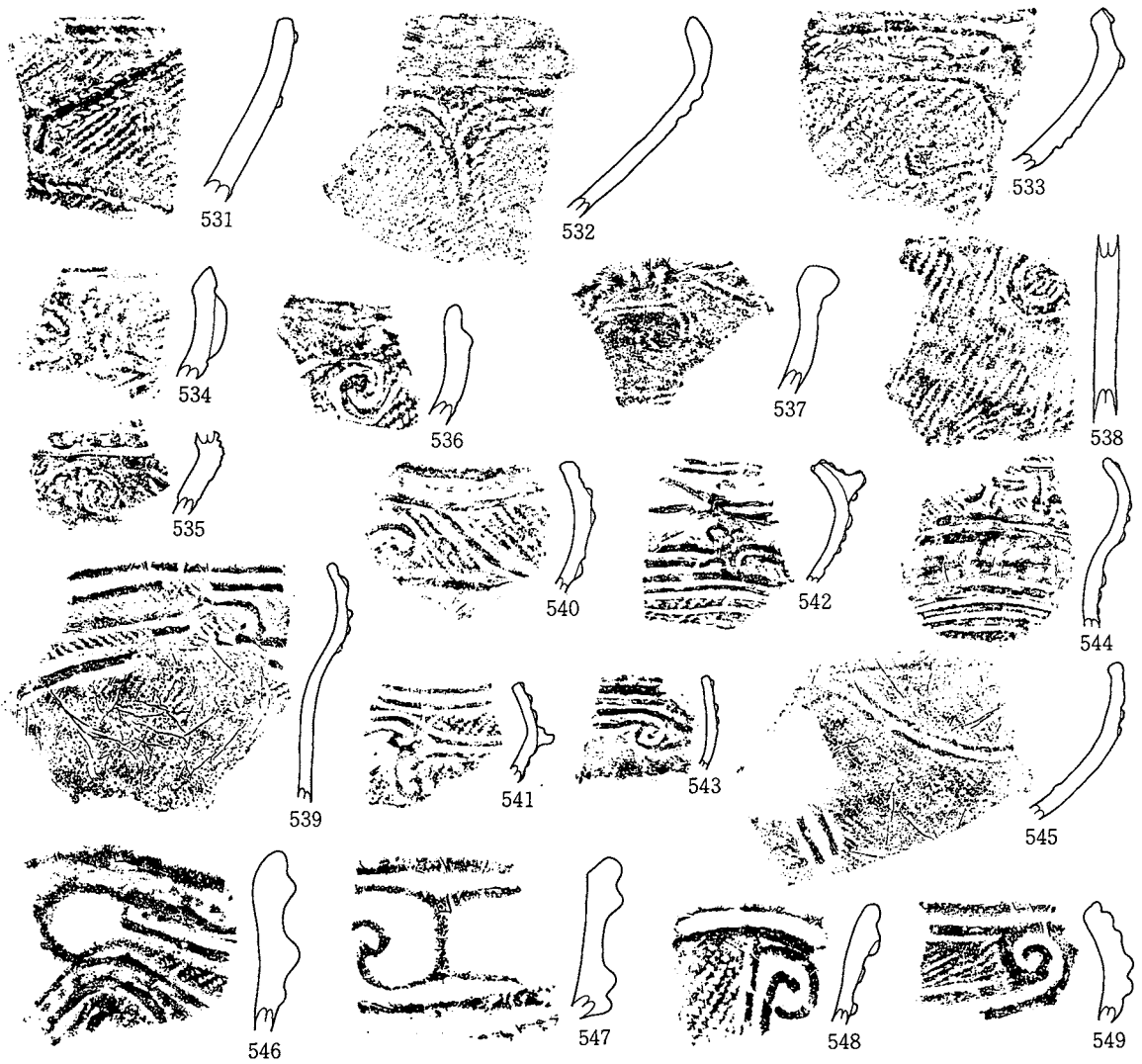
第83図 遺構外出土土器(22)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
516	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、弁状突起	ミガキ	II群7類b	64
517	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、弁状突起	ミガキ	II群7類b	64
518	北平・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕(直線・渦巻)	ナデ	II群7類b	64
519	3 I 2 a 縁	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、弁状突起、円孔	ナデ	II群7類b	64
520	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、弁状突起、単節斜行縄文、口唇部刻目	ミガキ	II群7類b	64
521	北斜縁・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕(鋸歯)、弁状突起、口唇部刻目	ナデ	II群7類b	64
522	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文、弁状突起	ナデ	II群7類b	64
523	3 H 1 b・落ち込み下部	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、突起	ナデ	II群7類b	64
524	北平縁・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、弁状突起、口唇部刻目	ナデ	II群7類b	64
525	表探	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	64
526	北平・表土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	64
527	北斜縁・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、弁状突起、口唇部刻目	ミガキ	II群7類b	64
528	北斜縁・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕	ナデ	II群7類b	64
529	北平滑・埋土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	64
530	2 G 4 a・落ち込み	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	64

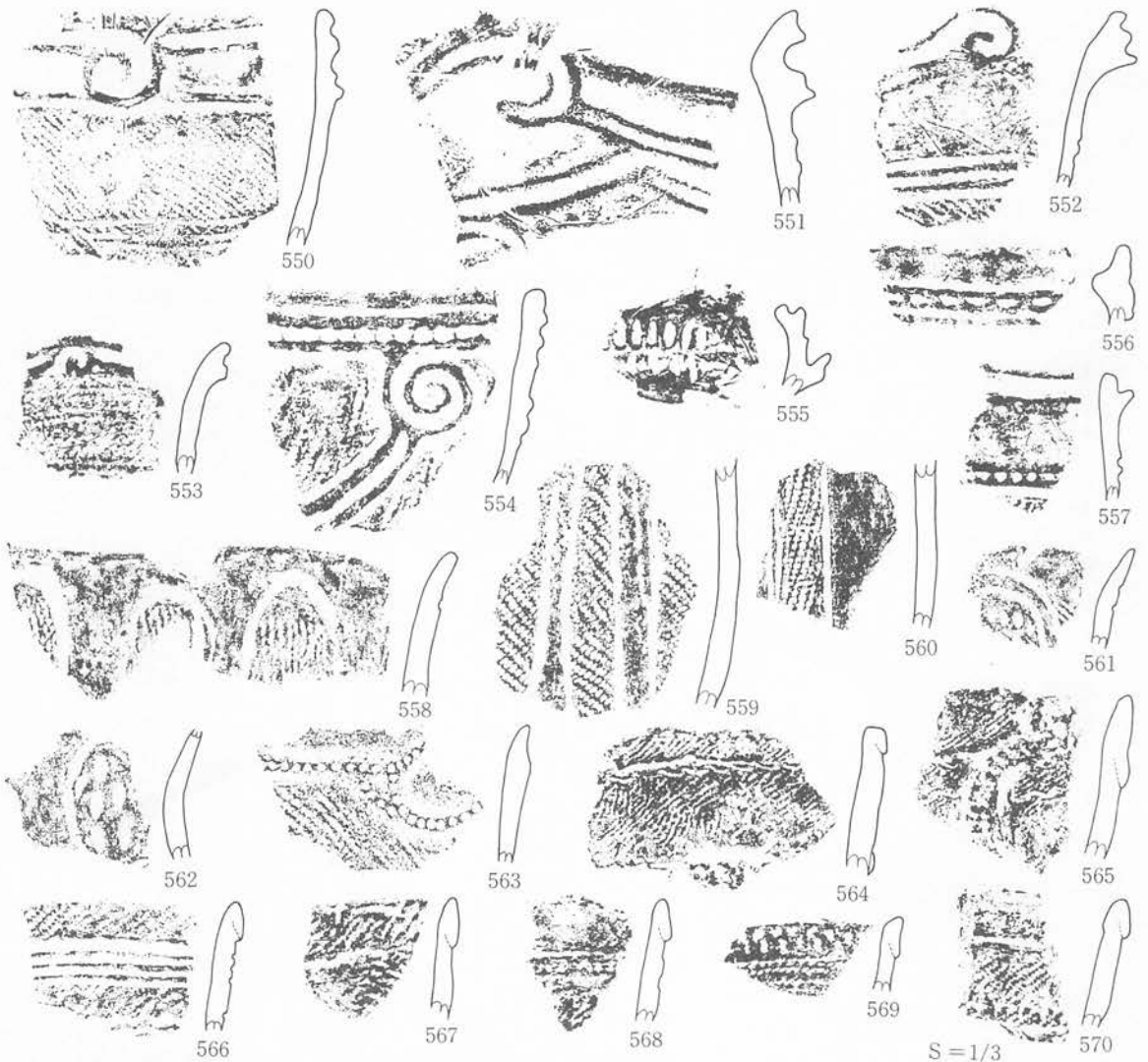
第84図 遺構外出土土器(23)



S = 1/3

No.	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
531	北斜線・黒色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	64
532	北平・暗褐色土	浅鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	64
533	北平・暗褐色土	浅鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	64
534	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	隆帯、撚紐圧痕、単節斜行縄文	ナデ	II群7類b	64
535	北平2K・暗褐色土	深鉢	口縁部	渦巻・平行沈線、円形刺突文、単節斜行縄文	ナデ	II群8類a	65
536	北平線・黒色土	深鉢	口縁部	渦巻沈線文、単節斜行縄文	ミガキ	II群8類a	65
537	北斜線	深鉢	口縁部	渦巻・平行沈線文	ナデ	II群8類a	65
538	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	渦巻沈線文、単節斜行縄文	ナデ	II群8類a	65
539	北斜3G3d	深鉢	口縁部	細い粘土紐貼付、単節斜行縄文、キャリバー形	ナデ	II群8類a	65
540	北斜線・黒色土	深鉢	口縁部	細い粘土紐貼付、単節斜行縄文、キャリバー形	ナデ	II群8類a	65
541	道路分洩・埋土	深鉢	口縁部	細い粘土紐貼付、単節斜行縄文	ナデ	II群8類a	65
542	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	細い粘土紐貼付、単節斜行縄文	ミガキ	II群8類a	65
543	3H1b・落ち込み下部	深鉢	口縁部	細い粘土紐貼付、単節斜行縄文	ナデ	II群8類a	65
544	北斜東中央線	深鉢	口縁部	細い粘土紐貼付、平行沈線、単節斜行縄文、キャリバー形	ナデ	II群8類a	65
545	道路分洩・埋土	浅鉢	口縁部	細い粘土紐貼付、単節斜行縄文	ナデ	II群8類a	65
546	北斜線	深鉢	口縁部	隆沈線渦巻文、単節斜行縄文	ナデ	II群8類b	65
547	道路分洩・埋土	深鉢	口縁部	隆沈線渦巻文	ナデ	II群8類b	65
548	道路分洩・埋土	深鉢	口縁部	隆沈線、単節斜行縄文	ナデ	II群8類b	65
549	北斜線3G3d	深鉢	口縁部	隆沈線渦巻文、単節斜行縄文	ナデ	II群8類b	65

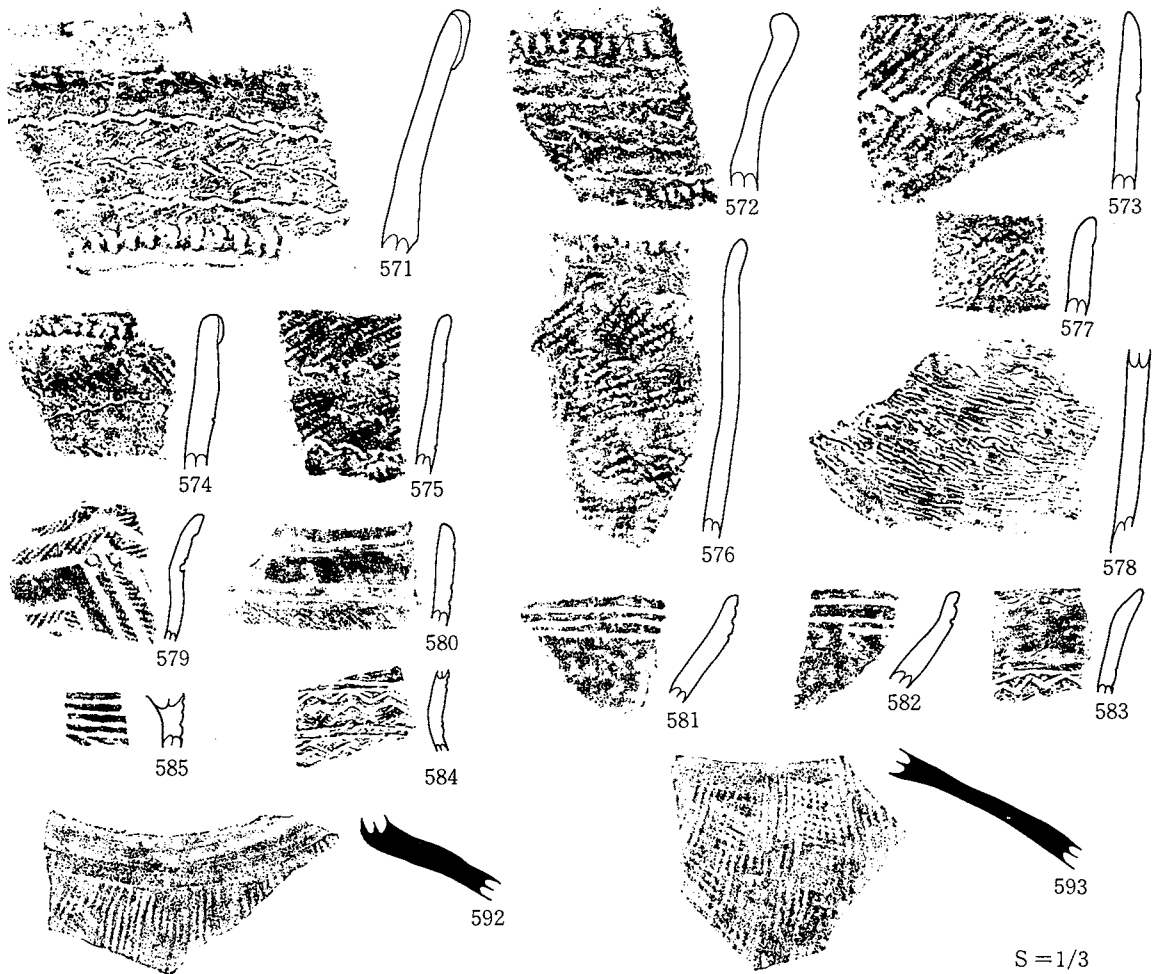
第85図 遺構外出土土器(24)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
550	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	隆沈線渦巻文、単節斜行縄文	ナデ	II群8類b	65
551	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	隆沈線渦巻文	ナデ	II群8類b	65
552	北平溝・埋土下部	深鉢	口縁部	隆沈線渦巻文、平行沈線文、単節斜行縄文	ナデ	II群8類b	65
553	道路分	深鉢	口縁部	隆沈線渦巻文、横走縄文	ナデ	II群8類b	65
554	北斜縁	深鉢	口縁部	隆沈線渦巻文、円形刺突文、復節斜行縄文	ナデ	II群8類b	65
555	道路分溝・埋土下部	深鉢	口縁部	隆沈線、刺突文	ナデ	II群8類b	65
556	道路分	深鉢	口縁部	平行沈線文、刺突文	ナデ	II群8類b	65
557	道路分溝・埋土下部	深鉢	口縁部	隆沈線、刺突文、単節斜行縄文	ナデ	II群8類b	65
558	道路分溝・粘質土	深鉢	口縁部	∩ 状沈線文、擦糸文、磨消縄文	ミガキ	II群9類a	65
559	道路分溝・埋土	深鉢	胴部	∩ 状沈線文、単節斜行縄文、磨消縄文	ミガキ	II群9類a	65
560	表探	深鉢	胴部	∩ 状沈線文、単節斜行縄文、磨消縄文	ミガキ	II群9類a	65
561	北斜・表土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、磨消縄文、∩ 状沈線文、刺突文充填	ミガキ	II群9類b	65
562	4 F地山直上	深鉢	胴部上半	円形沈線文(刺突文充填)、磨消縄文	ナデ	II群9類b	65
563	旧道・表探	深鉢	口縁部	微隆帯上円形刺突、単節斜行縄文	ナデ	II群10類a	65
564	北斜3H3b	深鉢	口縁部	折り返し口縁、刻目隆帯、単節斜行縄文、綾線文	ナデ	II群11類	65
565	表探	深鉢	口縁部	折り返し口縁、撚紐圧痕隆帯、単節斜行縄文、綾線文	ナデ	II群11類	65
566	道路分溝・埋土	深鉢	口縁部	折り返し口縁、平行沈線文、波状沈線文、単節斜行縄文	ナデ	II群11類	65
567	北斜縁	深鉢	口縁部	折り返し口縁、単節斜行縄文	ミガキ	II群11類	65
568	3H3b縁	深鉢	口縁部	折り返し口縁、平行沈線文、単節斜行縄文	ナデ	II群11類	65
569	表探	深鉢	口縁部	折り返し口縁、撚紐圧痕、刺突文	ナデ	II群11類	65
570	3H3b	深鉢	口縁部	折り返し口縁、単節斜行縄文、綾線文	ナデ	II群11類	65

第86図 遺構外出土土器(25)



S = 1/3

No	地点・層位	器種	部位	文様の特徴	内面	分類	写真図版
571	北畑Aトレンチ	深鉢	口縁部	擦紐瓦痕、綾線文	ナデ	II群11類 b	66
572	北平・暗褐色土	深鉢	口縁部	刺突文、綾線文	ナデ	II群11類 b	66
573	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、綾線文	ナデ	II群11類 b	66
574	北平緑・黒色土	深鉢	口縁部	綾線文、隆帯、刺突、単節斜行縄文	ナデ	II群11類 b	66
575	北平緑・黒色土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、綾線文	ナデ	II群11類 b	66
576	北平・表土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、綾線文、擦紐瓦痕	ミガキ	II群11類 b	66
577	北平・黒褐色土	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、綾線文	ナデ	II群11類 b	66
578	北平J3・暗褐色土下部	深鉢	口縁部	無節斜行縄文、綾線文	ミガキ	II群11類 b	66
579	道路分溝・埋土下部	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、充填縄文、円形刺突文、波状口縁	ミガキ	III類	66
580	北斜・粗掘り	深鉢	口縁部	単節斜行縄文、平行沈線文	ミガキ	弥生	66
581	北斜縁・黒色土	鉢	口縁部	無文、平行沈線文、工字文風沈線	ミガキ	弥生	66
582	北斜縁・黒色土	鉢	口縁部	無文、平行沈線文、工字文風沈線、304と同一個体	ミガキ	弥生	66
583	北斜縁	壺	口縁部	平行・連続山形沈線文、波状沈線文、単節斜行縄文	ミガキ	弥生	66
584			胴部上半	583と同一個体	ミガキ	弥生	66
585	道路分溝・埋土	高坏	脚部	平行沈線文	ミガキ	弥生	66

No	地点・層位	器種	部位	外面調整	内面調整	分類	写真図版
586	北平溝・埋土	坏	口縁部		黒色処理、ミガキ	平安	66
587	北平・方形落ち込み	高台坏	底部	回転糸切り、無調整	黒色処理、ミガキ	平安	66
588	北平・黒色土	壺	口縁部	横ナデ、ナデ	横ナデ、ケズリ	平安	66
589	道路分溝・埋土	壺	口縁部	ミガキ	ミガキ	平安	66
590	北平・方形落ち込み	壺	口縁部	横ナデ、ケズリ	横ナデ、ナデ	平安	66
591	北平溝・埋土	鉢	口縁部	横ナデ、ケズリ	横ナデ	平安	66
592	表採	須恵壺	頸部	平行たつき目		平安	66
593	南斜面・粗掘り	須恵壺	頸部	平行たつき目		平安	66

第87図 遺構外出土土器(26)

## 2 石器・石製品

出土した石器・石製品のすべてを、器種別に述べることにし、特記事項のないものは、実測図、写真図版、一覧表のみとした。各器種毎の計測箇所や部位名は図に示すとおりである。

### 石鏃（第88・～98図、写真図版67～74）

矢の先端に付ける石器（石製鏃）である。

中茎の有無や基部の形状によって分類した。中茎の有無で第Ⅰ群と第Ⅱ群に分け、基部等の形状によって更に細分した。

第Ⅰ群 無茎鏃…中茎のないもの、基部の形状等で細分してある。

1類 平基…基部が直線的なもので身部の形状で細分した。

a族 ほぼ正三角形を呈するもの（該等なし）

b族 ほぼ二等辺三角形を呈するもの（該等なし）

c族 基部に懸けて丸みを帯びるもの 6点（755、756、757、758、759、762）

755はb族にちかい物である。他の族共通することであるが、造りは粗雑である。755、756、758、762には一次剝離面が残存している。

2類 凹基…基部に扶込みのあるものでその形状から細分した。

a族 緩い弧状をなすもの 5点（760、761、763、764、765）

760、763、765には一次剝離面が残存している。761の場合は基部が更に扶込まれている。

b族 八字状に開くもの 5点（766、767、768、769、770）

766には両面に、768、770には片面に、一次剝離面が残存している。

c族 逆U字状になるものの内、U字が歪んでいるものをイ、そうでないものをロとした。

イ 3点（771、772、773）

771、773は調整が粗雑である。772のような器形をもつものは一点しかない。

ロ 8点（774、775、776、777、778、779、780、781）

774、775、776、778にも一次剝離面が多く残存している。

3類 円基…基部が丸みを帯びるもの 23点（782～804）

782、784、786、787、795、797は両面に、788、789、793、798、799、800には片面に一次剝離面が残存している。783は基部の一部が研磨されている。791、792と801、802はこの族のなかでも調整が丁寧である。

4類 尖基…基部が尖るもの 5点（805～809）

807、808は基部が幾分中茎状になっている。



第II群 有茎鏃…中茎があるもので基部・身部の形状で細分した。

1類 平基…中茎の明瞭なもので身部の形状で細分した。

a族 身部がほぼ正三角形を呈するもの（該当なし）

b族 身部がほぼ二等辺三角形となるもの 18点（810～827）

ほぼ完形なものは、10点である。なかでも、815はこの族で大型であるが中茎は小さい。817、820、821、826には一次剝離面が残存している。823、824は次の族に分類できそうでもあるが、全体的に整った形態をしているのでこの族に区分した。

2類 凸基…基部が突出するもの

a族 基部が丸みをもつもの 66点（828～893）

ほぼ完形なものは、38点である。全般的に左右が対称でないが、これらの片側が丸みを帯びているのでこの族に分類した。834は、区分した中でも中茎の造りだしが特異なものである。一次剝離面の残存するものは、828、831、832、835、836、840、842～846、850、854、864、869、872～874、878、880～889の28点と半数近くになる。836～844は、比較的左右対称形のものである。847、849、850、851は細長形である。

b族 基部の両端部から直線的に中茎となるもの 30点（894～923）

ほぼ完形のものは、17点である。この分類に入るものも、左右対称形ではないものが大半である。一次剝離面の残存するものは、897、898、901、903、904、905、910～914、917、918、922で約半数である。

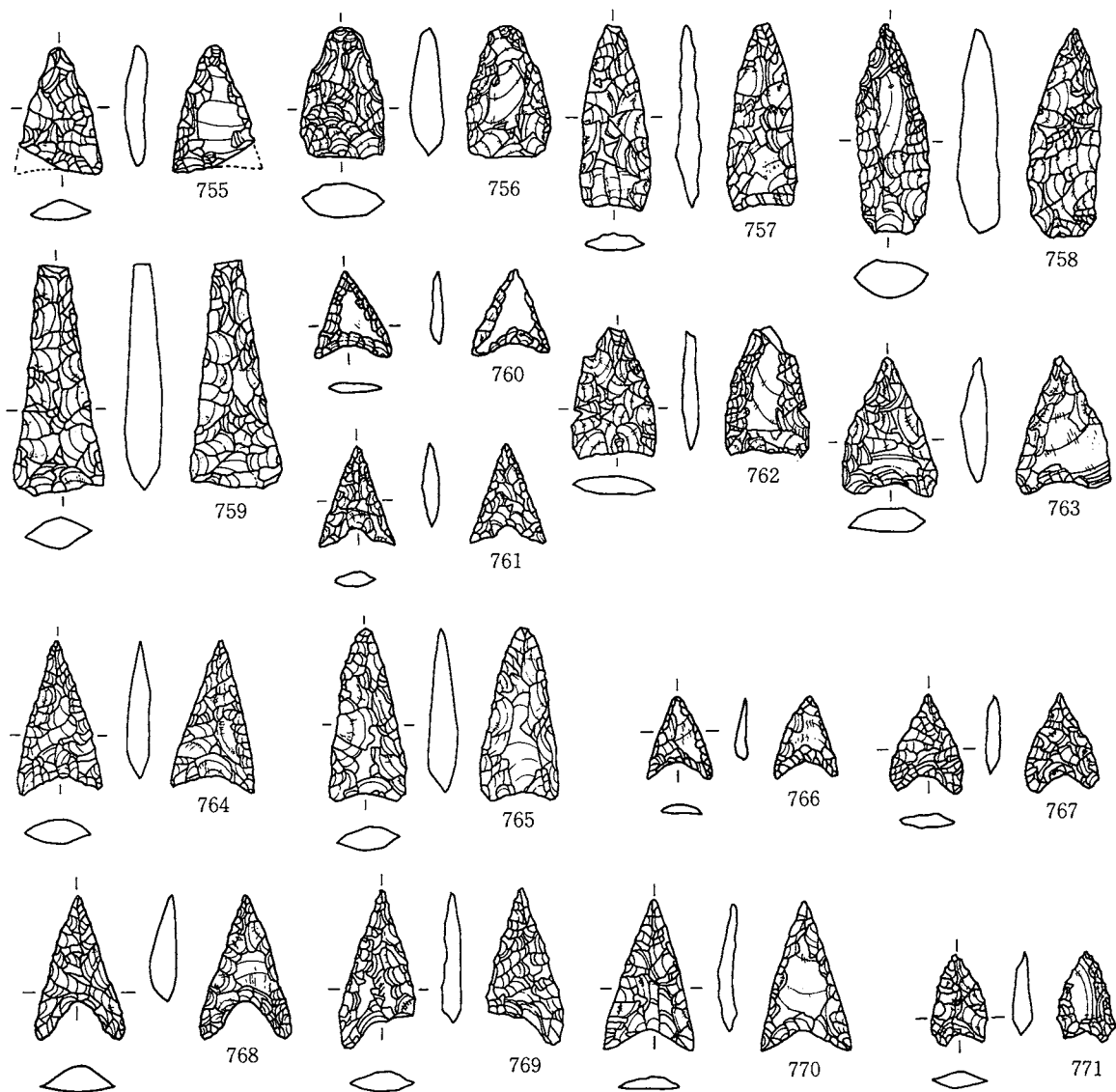
出土した石鏃は総計196点でこれらはすべて完形もしくは完形にちかいものである。これら石鏃の分類別比率は以下のとおりである。

群	I							II		
	1 c	2 a	2 b	2 c イ	2 c ロ	3	4	1 b	2 a	2 b
比率	1%	3%	3%	2%	6%	12%	6%	11%	37%	16%

中茎を有するものの出土数が多い。またタールの付着するものも多いが、このことは石鏃の中茎を矢柄に装着するために接着剤として用いているからと考えられる。

石鏃の出土量が多い場所は、約30%を占める北端部の溝である。つぎが第三・四号住居跡を含めた北端斜面である。出土分布などから使用前のものより使用後のものが多いと考えられる。この石鏃を含めた石器の製作に伴うチップの濃密に分布するところが第二号住居跡の近くに認められている。

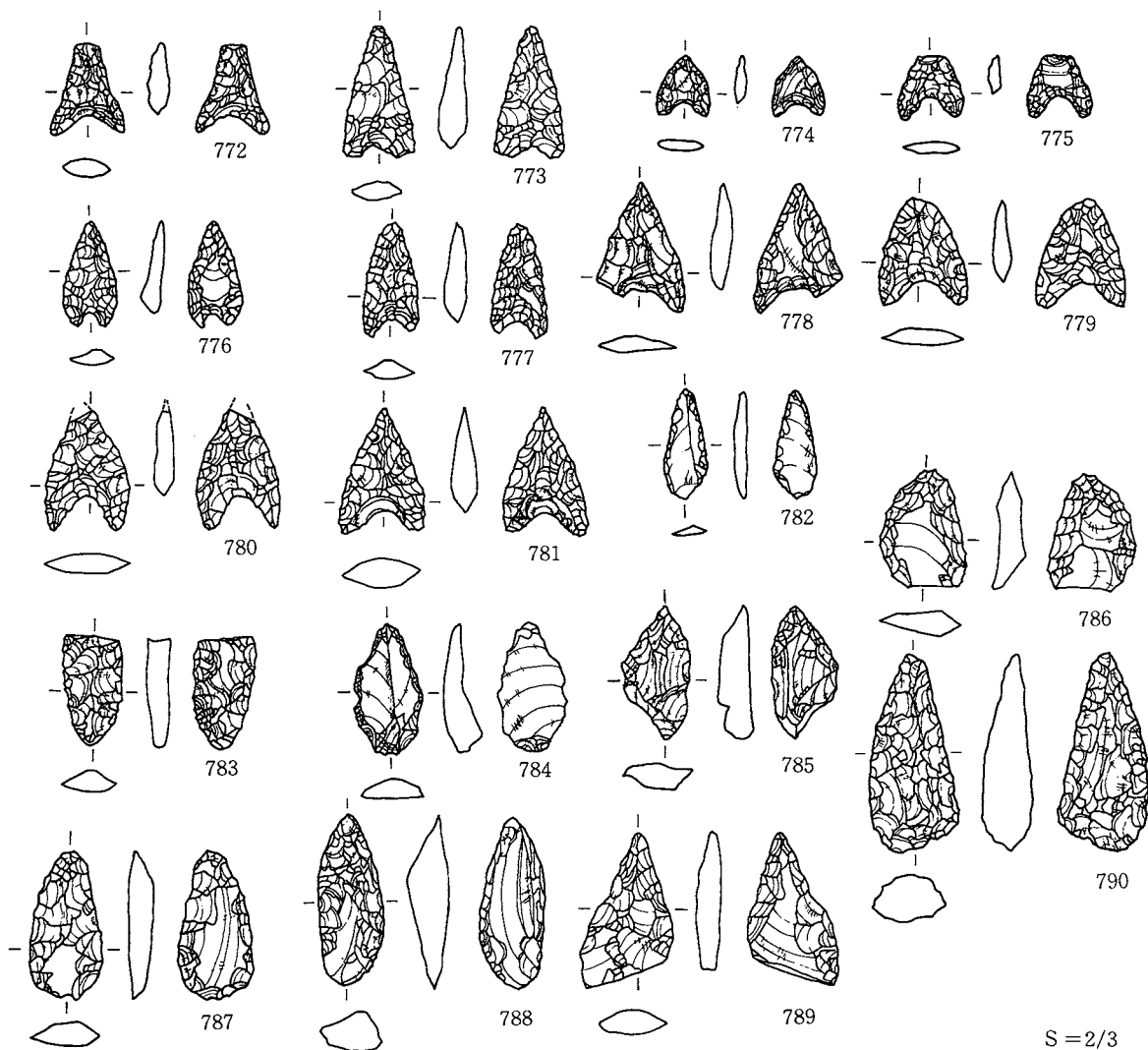
石鏃の石材は硬質泥岩が33%、珪質泥岩が23%であり細工のしやすいものを選んでいえる。これら堆積岩は合わせて90%以上で、残り10%は火成岩の流紋岩である。



S = 2/3

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
755	石鏃	I 1 c	26	16	4	1.7	北斜M (E) 埋土	珪質泥岩	一部欠損		66	142
756	石鏃	I 1 c	27	17	7	3.4	北平	褐色土			66	397
757	石鏃	I 1 c	39	15	5	2.1	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩			66	75
758	石鏃	I 1 c	43	16	9	4.8	北平 (K 3)	暗褐色土			66	253
759	石鏃	I 1 c	48	19	8	5.2	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩	一部欠損		66	99
760	石鏃	I 2 a	18	16	3	0.5	表面採集	0層			66	216
761	石鏃	I 2 a	21	16	4	0.6	北斜M (E) 埋土下部	流紋岩			66	219
762	石鏃	I 1 c	27	18	4	1.9	北斜縁E	黒色土			66	396
763	石鏃	I 2 a	29	20	5	2.6	北斜	2層			66	41
764	石鏃	I 2 a	32	18	5	2.0	北斜M (E) 埋土下部	粘板岩			67	105
765	石鏃	I 2 a	36	16	6	3.0	北斜M 1 (E) 埋土	流紋岩			67	103
766	石鏃	I 2 b	18	14	3	0.4	北斜M (E) 埋土	珪質泥岩			67	199
767	石鏃	I 2 b	21	15	3	0.7	北平	褐色土			67	73
768	石鏃	I 2 b	30	19	6	1.6	北斜M (E) 埋土	チャート			67	179
769	石鏃	I 2 b	33	16	4	1.6	北斜M (E) 埋土	粘板岩			67	83
770	石鏃	I 2 b	31	19	3	1.2	北斜M (E) 埋土	珪質泥岩			67	128
771	石鏃	I 2 c-イ	19	12	4	0.8	北斜 (CS)	黒色土			67	137

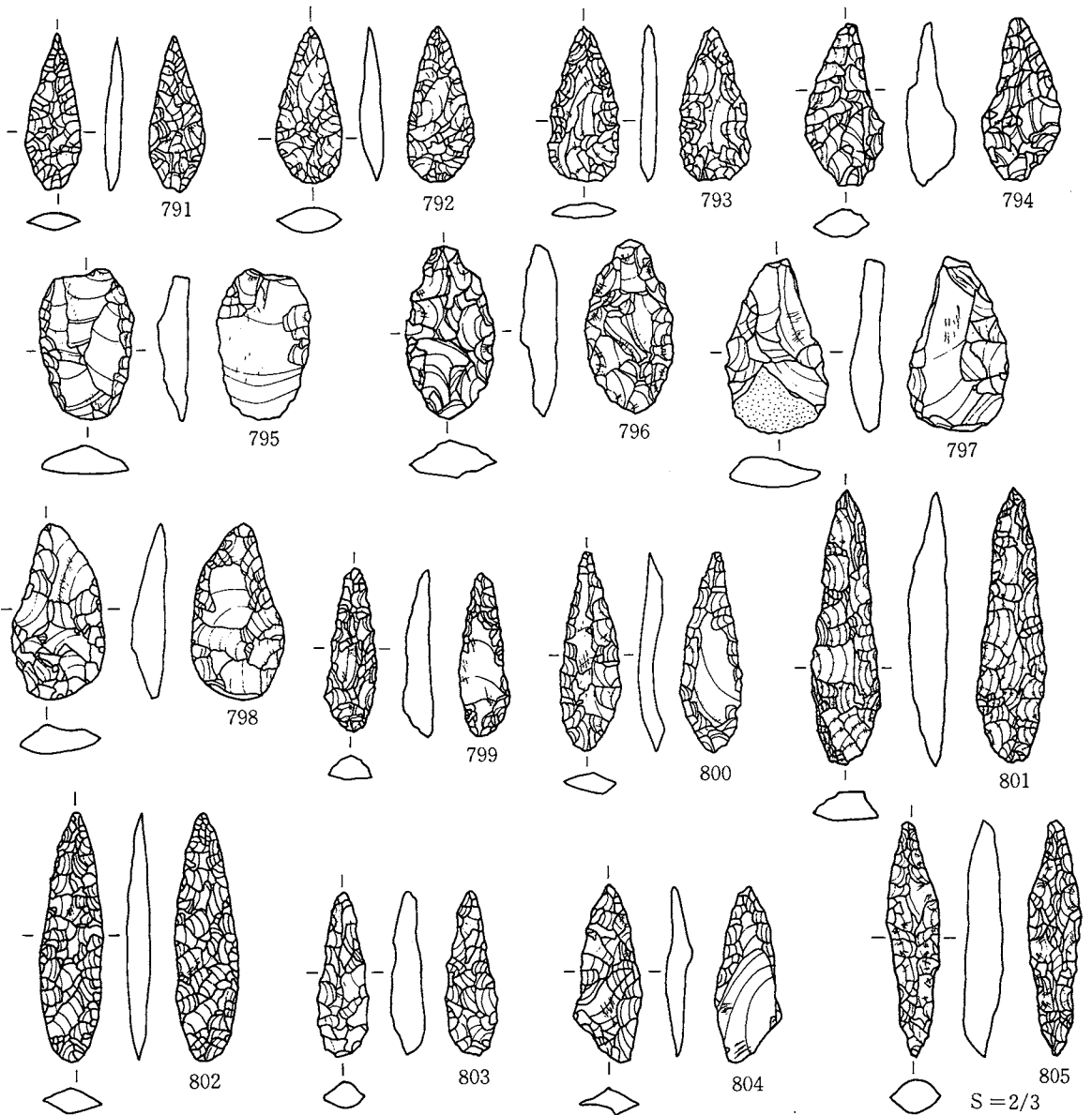
第88図 遺構外出土石鏃(I)



S = 2/3

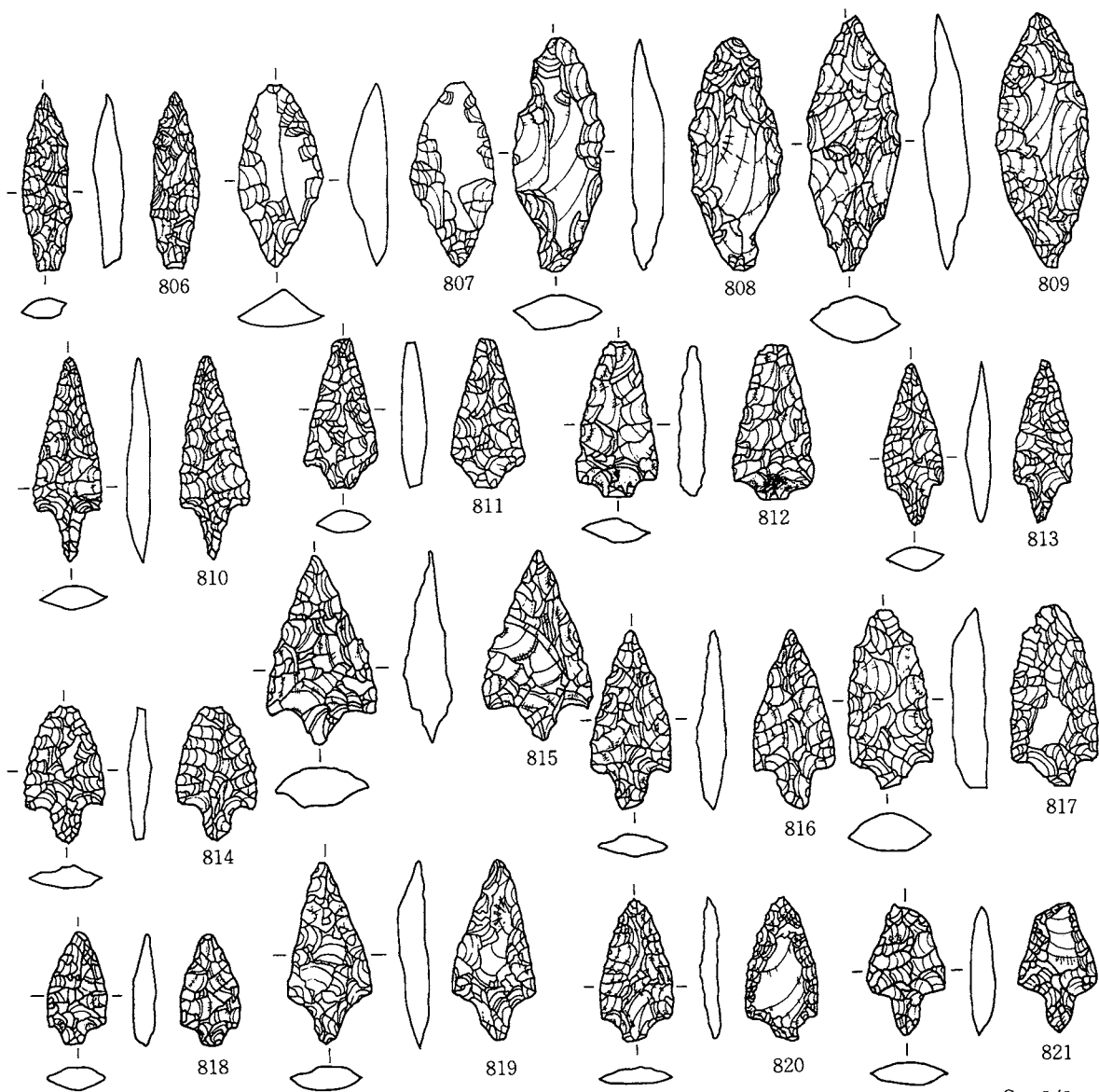
No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
772	石鏃	I 2 c i	19	15	4	0.8	N35E160 埋土下部	粘板岩	先端欠損		67	160
773	石鏃	I 2 c i	27	15	6	1.6	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩			67	63
774	石鏃	I 2 c o	13	11	3	0.3	北斜縁 攪乱土	珪質泥岩			67	153
775	石鏃	I 2 c o	13	14	3	0.4	北平	褐色土 チャート	一部欠損		67	156
776	石鏃	I 2 c o	21	11	4	0.7	北斜M1-B 埋土	珪質泥岩			67	93
777	石鏃	I 2 c o	23	12	4	0.9	北斜(20) 黒褐色土	珪質泥岩			67	140
778	石鏃	I 2 c o	26	18	4	1.1	北平方落 埋土	硬質泥岩	一部欠損		67	227
779	石鏃	I 2 c o	22	18	4	1.1	北斜M (E) 埋土下部	珪質泥岩			67	58
780	石鏃	I 2 c o	24	17	4	1.3	北斜M (E) 埋土下部	粘板岩	一部欠損		67	101
781	石鏃	I 2 c o	26	18	6	1.8	北斜(C) 2層	粘板岩			67	122
782	石鏃	I 3	22	9	3	0.4	北平	褐色土 チャート			67	87
783	石鏃	I 3	23	12	5	1.6	北斜M (E) 埋土	流紋岩	2/3破片	基部に擦面	67	136
784	石鏃	I 3	27	14	7	1.9	北平M1-C 埋土上部	珪質泥岩	一部欠損		67	352
785	石鏃	I 3	27	14	7	2.4	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩	一部欠損		67	353
786	石鏃	I 3	24	17	6	2.4	北斜(S) 黒色土	粘板岩	一部欠損		67	141
787	石鏃	I 3	30	15	5	2.3	北平 1層	硬質泥岩	一部欠損		67	217
788	石鏃	I 3	35	14	9	3.6	北斜M2 (E) 埋土	珪質泥岩			67	221
789	石鏃	I 3	31	19	7	2.6	北斜(CS) 黒色土	珪質泥岩	一部欠損		67	149
790	石鏃	I 3	40	18	11	6.3	北斜(2H3a) 3層	硬質泥岩			67	222

第89図 遺構外出土石鏃(2)



No	名称	器種	分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
791	石鏃	I 3		33	12	4	1.0	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩			68	68
792	石鏃	I 3		33	14	5	2.1	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩			68	56
793	石鏃	I 3		33	15	3	18.0	表面採集 0層	硬質泥岩			68	184
794	石鏃	I 3		34	17	10	3.8	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩			68	71
795	石鏃	I 3		32	20	7	3.8	北斜 (C) 1層	硬質泥岩			68	130
796	石鏃	I 3		36	14	8	4.6	北斜 2層	硬質泥岩			68	67
797	石鏃	I 3		36	21	7	5.6	北平 1層	珪質泥岩			68	147
798	石鏃	I 3		37	19	7	4.6	北平 暗褐色土	粘板岩			68	148
799	石鏃	I 3		35	11	7	1.7	北斜M 2 (E) 埋土	チャート			68	220
800	石鏃	I 3		42	13	4	2.1	北平 褐色土	硬質泥岩			68	104
801	石鏃	I 3		58	15	9	5.0	北平P 2 埋土	珪質泥岩			68	525
802	石鏃	I 3		53	13	5	3.0	北斜 (2 I 3 a) 3層	粘板岩			68	210
803	石鏃	I 4		35	11	7	2.3	北斜 (CS) 黒色土	硬質泥岩	一部欠損		68	113
804	石鏃	I 3		37	14	5	1.9	北斜 (CS) 黒色土	硬質泥岩	一部欠損		68	143
805	石鏃	I 4		50	12	8	3.5	北斜 (20) 黒色土	硬質泥岩			68	176

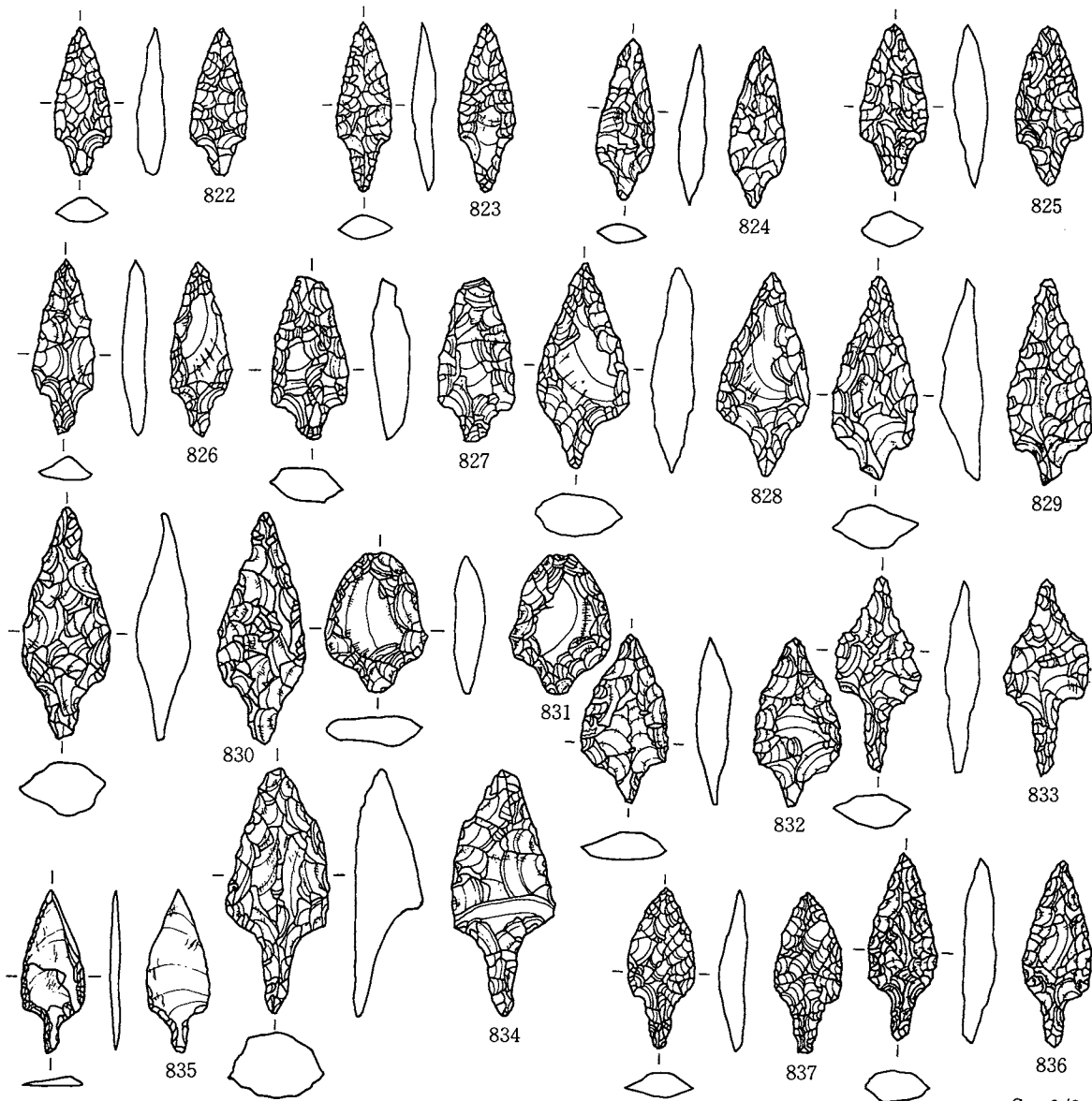
第90図 遺構外出土石鏃(3)



S = 2/3

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
806	石鏃	I 4	37	12	6	2.2	北斜縁E 黑色土	硬質泥岩			68	398
807	石鏃	I 4	39	18	8	3.9	北斜M 1 (E) 埋土下部	チャート			68	182
808	石鏃	I 4	49	20	7	6.9	北斜縁 (3 I) 黒褐色土	硬質泥岩			68	400
809	石鏃	I 4	54	20	9	9.1	北平 褐色土	珪質泥岩			68	399
810	石鏃	II 1 b	43	15	5	2.4	北斜M (E) 埋土下部	流紋岩質細粒凝灰岩			69	191
811	石鏃	II 1 b	31	16	5	1.5	北平 暗褐色土	硬質泥岩			69	528
812	石鏃	II 1 b	33	17	6	2.5	北斜縁 (3 F) 褐色土	硬質泥岩			69	123
813	石鏃	II 1 b	34	13	5	1.7	北斜縁 (3 H) 黒褐色土	珪質泥岩			69	178
814	石鏃	II 1 b	29	17	5	1.8	北斜M (E) 埋土下部	硬質泥岩			69	80
815	石鏃	II 1 b	40	24	9	5.2	北斜 1層	粘板岩			69	42
816	石鏃	II 1 b	38	17	6	2.3	北斜 1層	粘板岩			69	126
817	石鏃	II 1 b	39	18	7	5.4	北斜 (CL) 黒褐色土	粘板岩			69	120
818	石鏃	II 1 b	24	13	5	1.1	北斜M (E) 埋土下部	硬質泥岩			69	35
819	石鏃	II 1 b	38	18	6	3.3	北平 褐色土	珪質泥岩			69	507
820	石鏃	II 1 b	30	15	4	1.7	北平 (2 K) 褐色土	硬質泥岩	一部欠損		69	190
821	石鏃	II 1 b	28	17	5	1.7	北平 褐色土	硬質泥岩	一部欠損		69	204

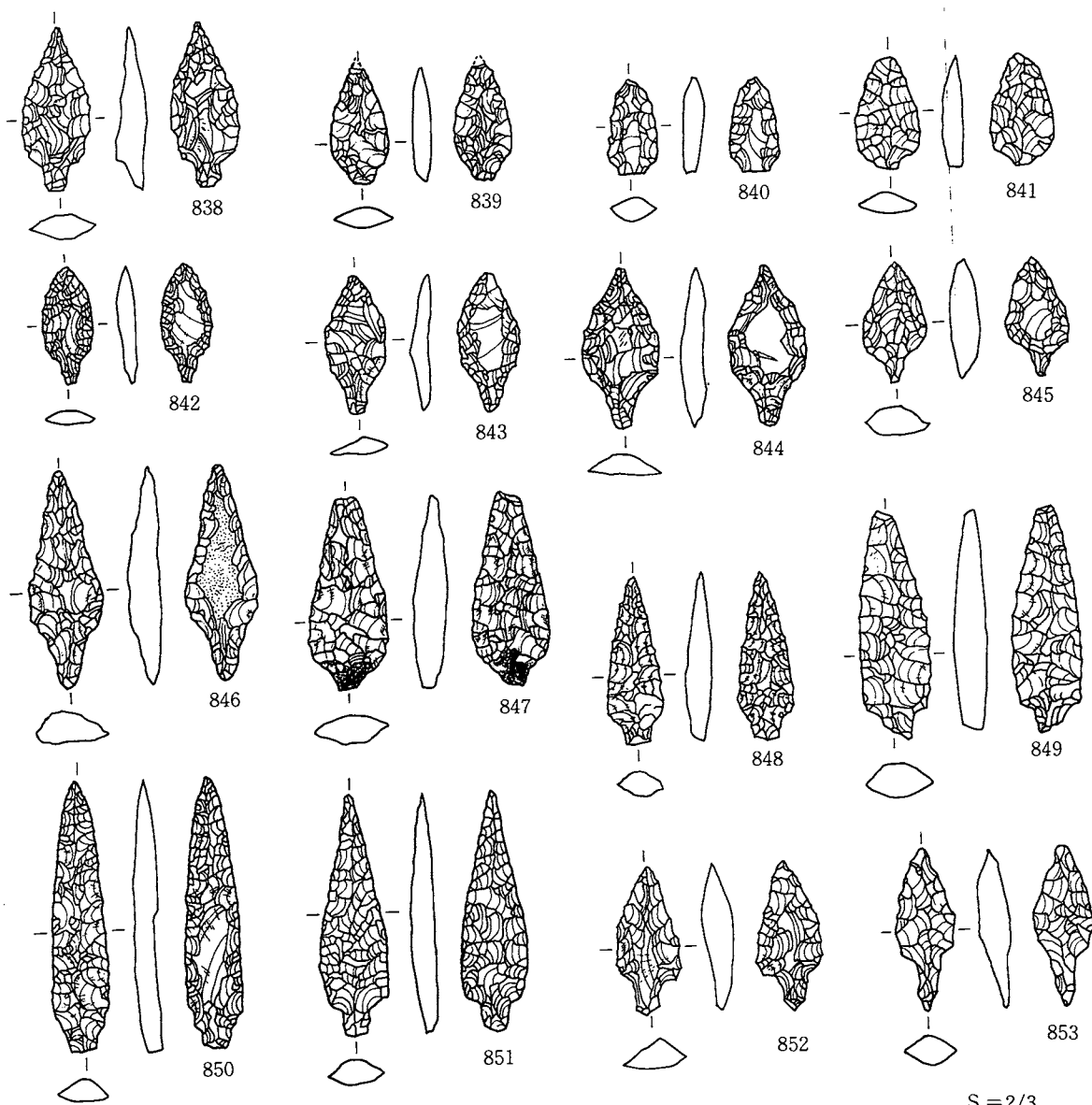
第91図 遺構外出土石鏃(4)



S = 2/3

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
822	石鏃	II 1 b	31	12	6	1.5	北斜M (E) 埋土下部	珪質泥岩			69	59
823	石鏃	II 1 b	35	12	5	1.4	北斜	黒褐色土 流紋岩質細粒凝灰岩			69	115
824	石鏃	II 1 b	34	12	6	1.8	北平	褐色土 硬質泥岩			69	374
825	石鏃	II 1 b	34	15	12	2.4	北斜 2層	流紋岩質細粒凝灰岩			69	32
826	石鏃	II 1 b	37	13	5	2.0	北斜 (2H)	褐色土 硬質泥岩			69	195
827	石鏃	II 1 b	34	16	8	4.3	旧道 1層	粘板岩			69	48
828	石鏃	II 2 a	43	20	9	6.1	北斜M (E) 埋土下部	硬質泥岩			69	62
829	石鏃	II 2 a	43	18	9	5.7	北平	褐色土 流紋岩質細粒凝灰岩			69	85
830	石鏃	II 2 a	49	19	11	6.5	北斜	硬質泥岩			70	33
831	石鏃	II 2 a	29	22	6	4.3	北斜 (CSB)	黒褐色土 珪質泥岩			70	231
832	石鏃	II 2 a	35	18	7	4.1	北平	褐色土 硬質泥岩			70	392
833	石鏃	II 2 a	41	18	7	3.1	北斜M (E) 埋土下部	硬質泥岩			70	78
834	石鏃	II 2 a	52	22	15	10.5	北斜	黒褐色土 硬質泥岩			70	129
835	石鏃	II 2 a	24	14	2	0.8	北斜 1層	チャート			70	51
836	石鏃	II 2 a	39	15	7	3.0	北斜縁 (3 I) 3層	珪質泥岩			70	187
837	石鏃	II 2 a	34	14	5	2.2	北斜縁 (3 G) 埋土	粘板岩			70	196

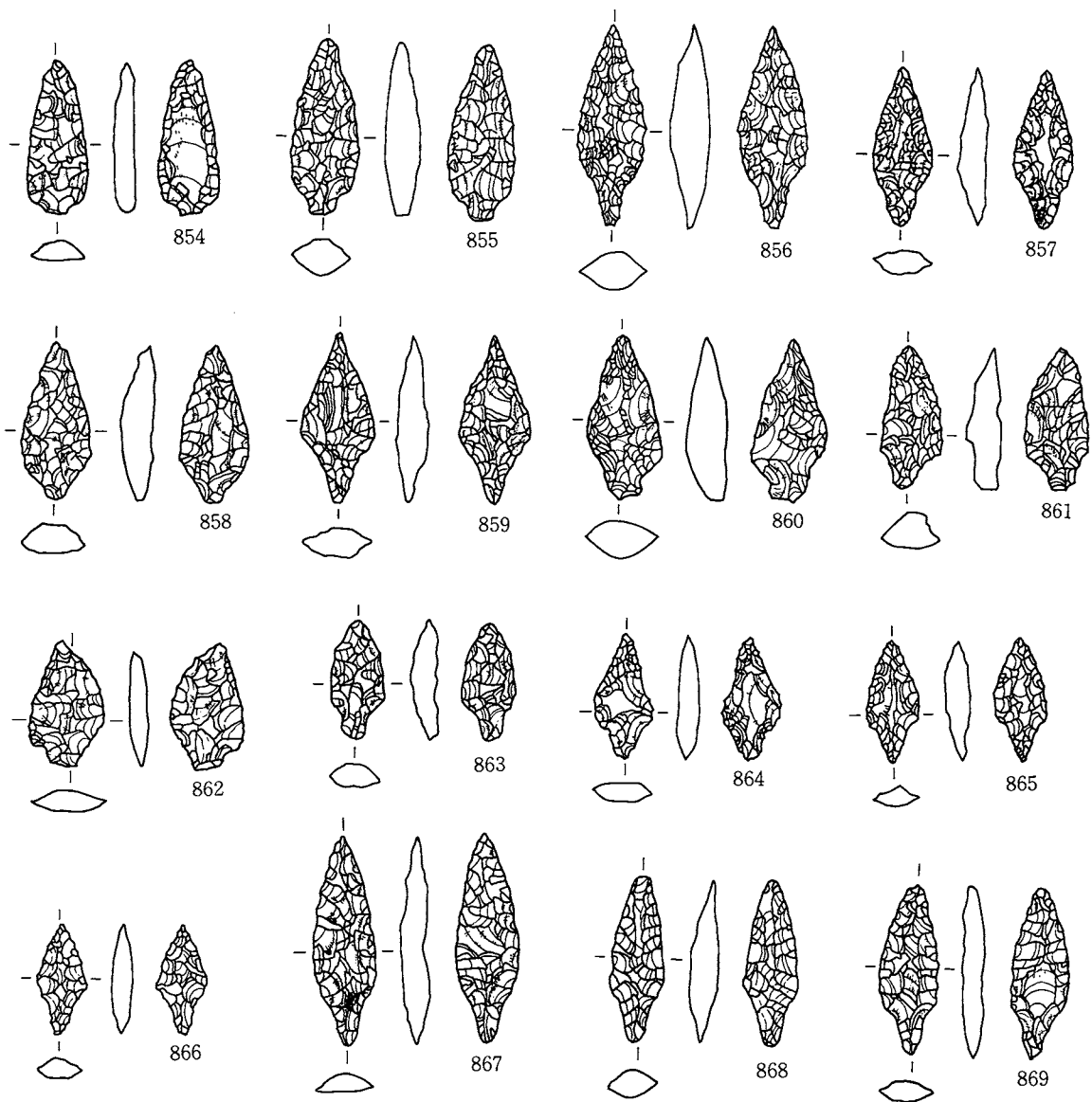
第92図 遺構外出土石鏃 (5)



S = 2/3

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
838	石鏃	II 2 a	4	15	6	2.0	北平 褐色土	硬質泥岩			70	77
839	石鏃	II 2 a	24	13	4	1.1	北斜M (E) 埋土下部	粘板岩			70	54
840	石鏃	II 2 a	20	11	5	1.1	北斜M (E) 埋土下部	硬質泥岩			70	90
841	石鏃	II 2 a	24	14	5	1.4	北斜 黒褐色土	チャート			70	114
842	石鏃	II 2 a	25	11	4	1.0	北斜 黒色土	珪質泥岩			70	391
843	石鏃	II 2 a	29	13	4	1.2	北斜M (E) 埋土	珪質泥岩			70	49
844	石鏃	II 2 a	34	16	5	2.3	北斜M (E) 埋土	珪質泥岩			70	43
845	石鏃	II 2 a	25	13	6	1.9	北斜 黒色土	珪質泥岩			70	92
846	石鏃	II 2 a	45	16	7	3.5	北斜 2層	粘板岩			70	36
847	石鏃	II 2 a	41	12	12	4.0	北斜(2H3a) 3層	硬質泥岩	一部欠損	アスファルト付着	70	228
848	石鏃	II 2 a	36	12	6	1.8	北斜縁(3I) 3層	硬質泥岩	一部欠損		70	185
849	石鏃	II 2 a	48	15	7	4.7	北平 1層	流紋岩			70	117
850	石鏃	II 2 a	57	12	5	3.5	北斜縁 黒色土	チャート			71	180
851	石鏃	II 2 a	51	15	5	3.2	北平 褐色土	硬質泥岩			71	88
852	石鏃	II 2 a	31	14	7	2.1	北斜縁(3I) 3層	粘板岩			71	198
853	石鏃	II 2 a	34	13	7	1.9	北斜(CS) 黒色土	硬質泥岩			71	112

第93図 遺構外出土石鏃(6)

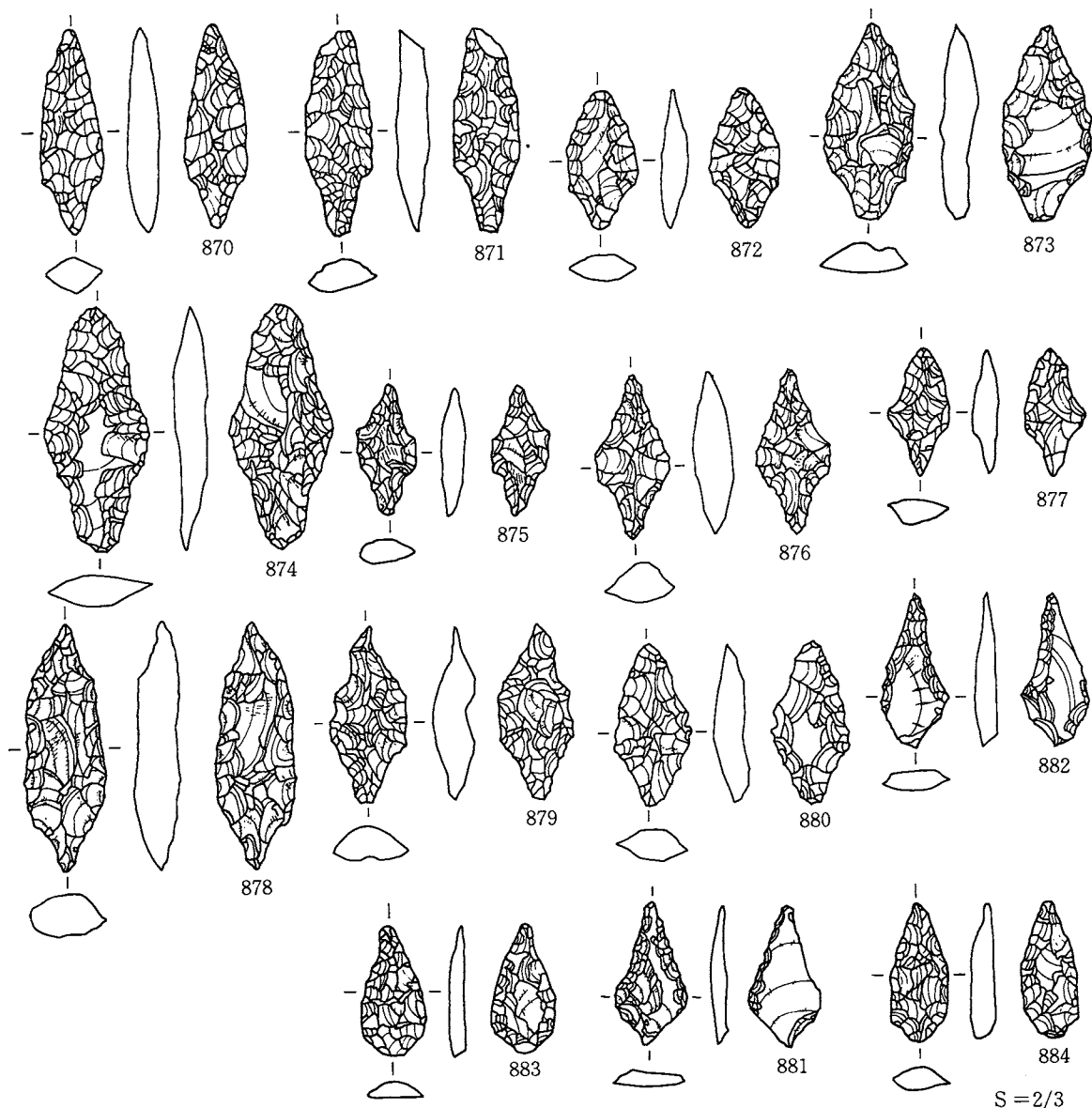


S = 2/3

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
854	石鏃	II 2 a	32	13	4	1.7	北平M1-C 埋土下部	硬質泥岩			71	76
855	石鏃	II 2 a	36	14	13	3.0	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩			71	39
856	石鏃	II 2 a	41	14	8	3.7	北斜縁 (3 I) 3層	流紋岩質細粒凝灰岩			71	197
857	石鏃	II 2 a	33	13	6	1.6	北斜縁 (2 H) 3層	硬質泥岩			71	183
858	石鏃	II 2 a	32	15	7	2.7	北斜M (E) 埋土	流紋岩			71	70
359	石鏃	II 2 a	35	15	7	2.2	北平 褐色土	流紋岩			71	37
860	石鏃	II 2 a	34	16	8	3.5	北斜縁 (3 I) 黑色土	流紋岩質細粒凝灰岩	一部欠損		71	181
861	石鏃	II 2 a	29	13	7	2.3	北斜 黒褐色土	珪質泥岩			71	116
862	石鏃	II 2 a	26	16	4	1.7	北斜M1 (E) 埋土	珪質泥岩			71	55
863	石鏃	II 2 a	25	11	6	1.2	北平 褐色土	粘板岩			71	74
864	石鏃	II 2 a	26	12	4	1.3	北斜 1層	硬質泥岩			71	134
865	石鏃	II 2 a	25	11	5	0.9	北斜M (E) 埋土下部	珪質泥岩			71	79
866	石鏃	II 2 a	23	11	4	0.7	北斜M1-A 埋土	チャート			71	65
867	石鏃	II 2 a	44	12	6	2.2	北斜 (C) 黒褐色土	チャート			71	125
868	石鏃	II 2 a	35	12	6	1.8	北斜M1 (E) 埋土下部	珪質泥岩			71	106
869	石鏃	II 2 a	36	13	5	2.0	北平 1層	粘板岩			71	127

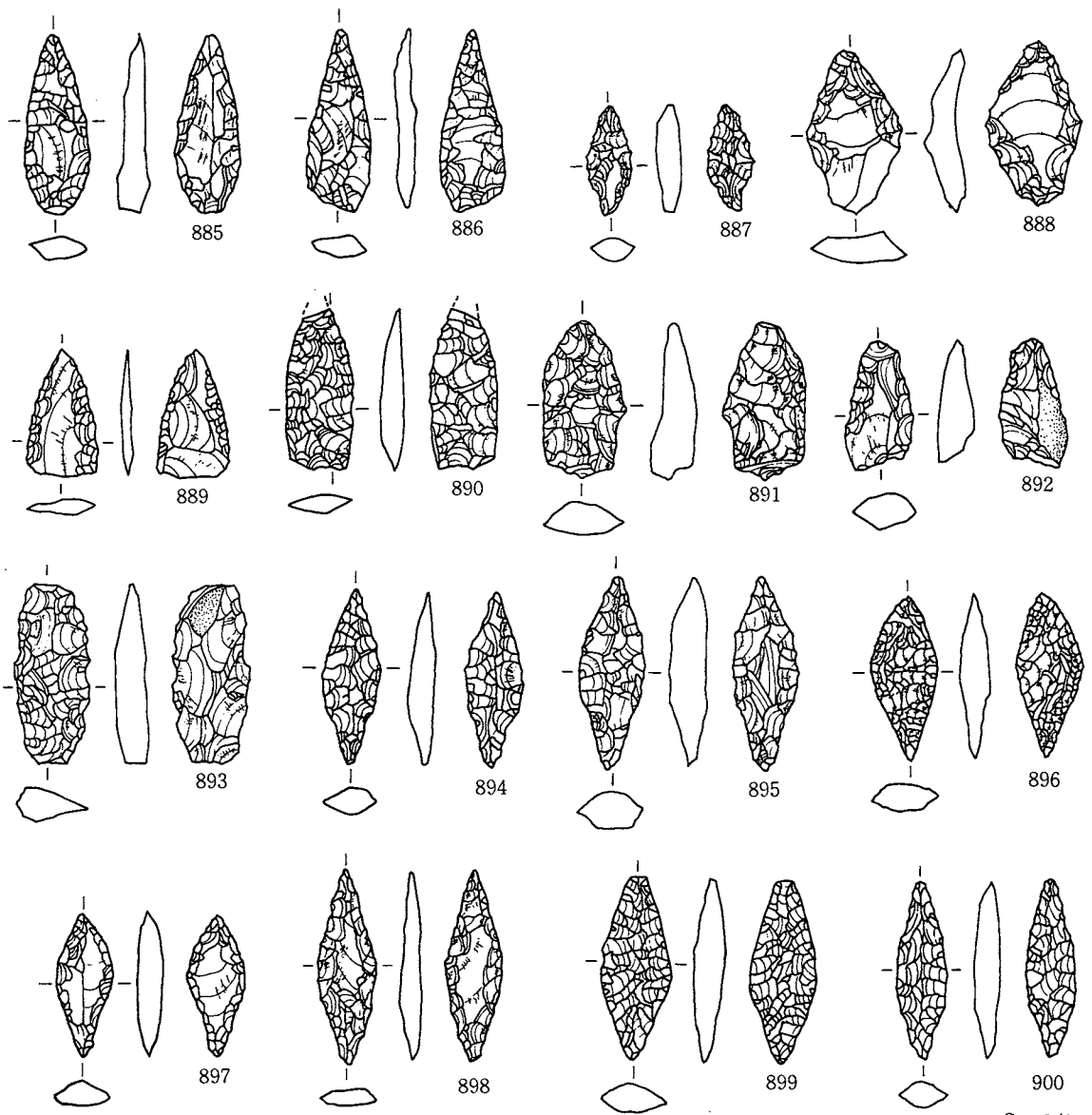
第94図 遺構外出土石鏃(7)





No.	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
870	石鏃	II 2 a	43	13	7	3.1	北斜緑 (NE) 褐色土	硬質泥岩			72	144
871	石鏃	II 2 a	43	14	7	3.9	北斜 2層	珪質泥岩			72	89
872	石鏃	II 2 a	29	15	6	1.9	北斜 (C) 埋土	流紋岩質細粒凝灰岩			72	146
873	石鏃	II 2 a	41	19	7	6.5	北斜緑 (E) 黑色土	硬質泥岩			72	394
874	石鏃	II 2 a	51	22	7	6.0	北斜M (E) 埋土	流紋岩			72	98
875	石鏃	II 2 a	27	13	5	1.3	北平M 1 - C 埋土下部	流紋岩			72	34
876	石鏃	II 2 a	34	16	8	3.1	北斜M (E) 埋土	流紋岩質細粒凝灰岩			72	84
877	石鏃	II 2 a	7	13	5	1.5	北斜M 1 (E) 埋土下部	珪質泥岩			72	107
878	石鏃	II 2 a	52	17	10	7.8	北平 1層	流紋岩質細粒凝灰岩			72	124
879	石鏃	II 2 a	37	16	8	3.4	北斜M (E) 埋土	粘板岩			72	118
880	石鏃	II 2 a	34	16	6	3.1	北平 黑色土	流紋岩			72	86
881	石鏃	II 2 a	30	15	3	1.3	北平 褐色土	硬質泥岩	一部欠損		72	395
882	石鏃	II 2 a	32	15	5	17.0	北斜 0層	珪質泥岩	破片	石刃鏃的	72	194
883	石鏃	II 2 a	27	14	4	1.3	北斜緑 (3H) 黒褐色土	チャート	一部欠損		72	201
884	石鏃	II 2 a	29	12	6	1.9	北平M 1 - A 埋土下部	チャート			72	110

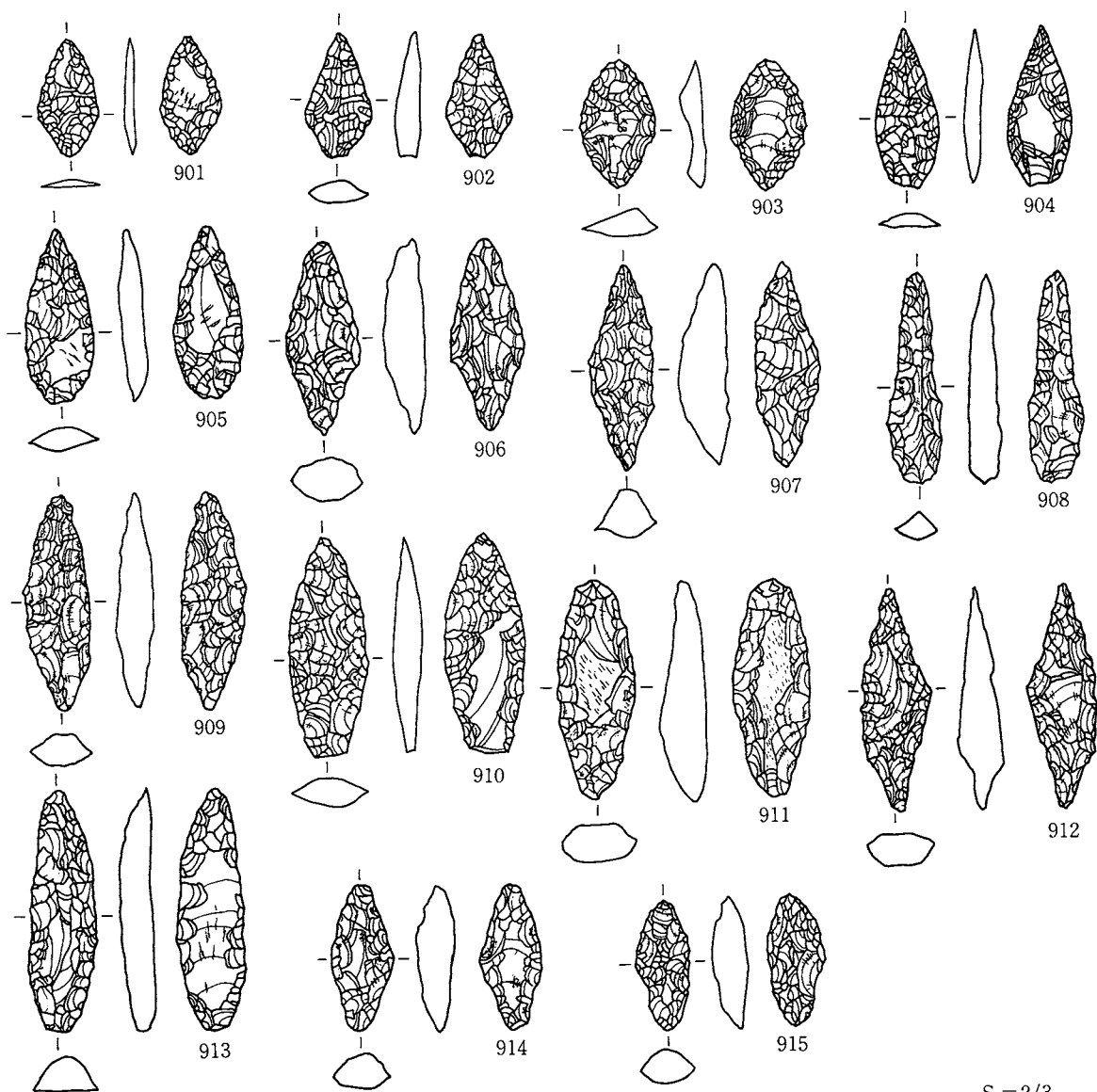
第95図 遺構外出土石鏃(8)



S = 2/3

No.	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
885	石鏃	II 2 a	37	14	7	2.5	北斜(3H3b)2層	珪質泥岩	一部欠損		72	200
886	石鏃	II 2 a	38	13	4	2.1	北斜(N)1層	硬質泥岩	一部欠損		72	202
887	石鏃	II 2 a	22	10	5	1.0	北斜1層	珪質泥岩			72	135
888	石鏃	II 2 a	34	20	7	3.7	北斜(CL)黒褐色土	チャート			72	139
889	石鏃	II 2 a	27	15	2	1.1	北斜M(E)埋土下部	珪質泥岩			73	121
890	石鏃	II 2 a	32	14	5	2.0	北斜(N)1層	流紋岩			73	132
891	石鏃	II 2 a	33	17	9	4.1	北斜(2H3a)黒色層	珪質泥岩	一部欠損	アスファルト付着	73	233
892	石鏃	II 2 a	27	14	8	2.3	北平 黒色土	硬質泥岩			73	97
893	石鏃	II 2 a	37	16	6	4.1	北斜緑 黒色土	粘板岩			73	102
894	石鏃	II 2 b	36	13	6	2.0	北斜 2層	硬質泥岩			73	44
895	石鏃	II 2 b	40	14	8	3.8	北平 褐色土	硬質泥岩			73	46
896	石鏃	II 2 b	34	14	6	1.7	北斜 黒色土	珪質泥岩			73	186
897	石鏃	II 2 b	30	12	5	1.3	北斜 1層	流紋岩			73	94
898	石鏃	II 2 b	40	12	5	2.1	北平 1層	流紋岩			73	150
899	石鏃	II 2 b	38	14	7	2.8	北斜(S) 黒色土	珪質泥岩			73	111
900	石鏃	II 2 b	37	11	6	1.8	北斜M(E) 埋土	硬質泥岩			73	61

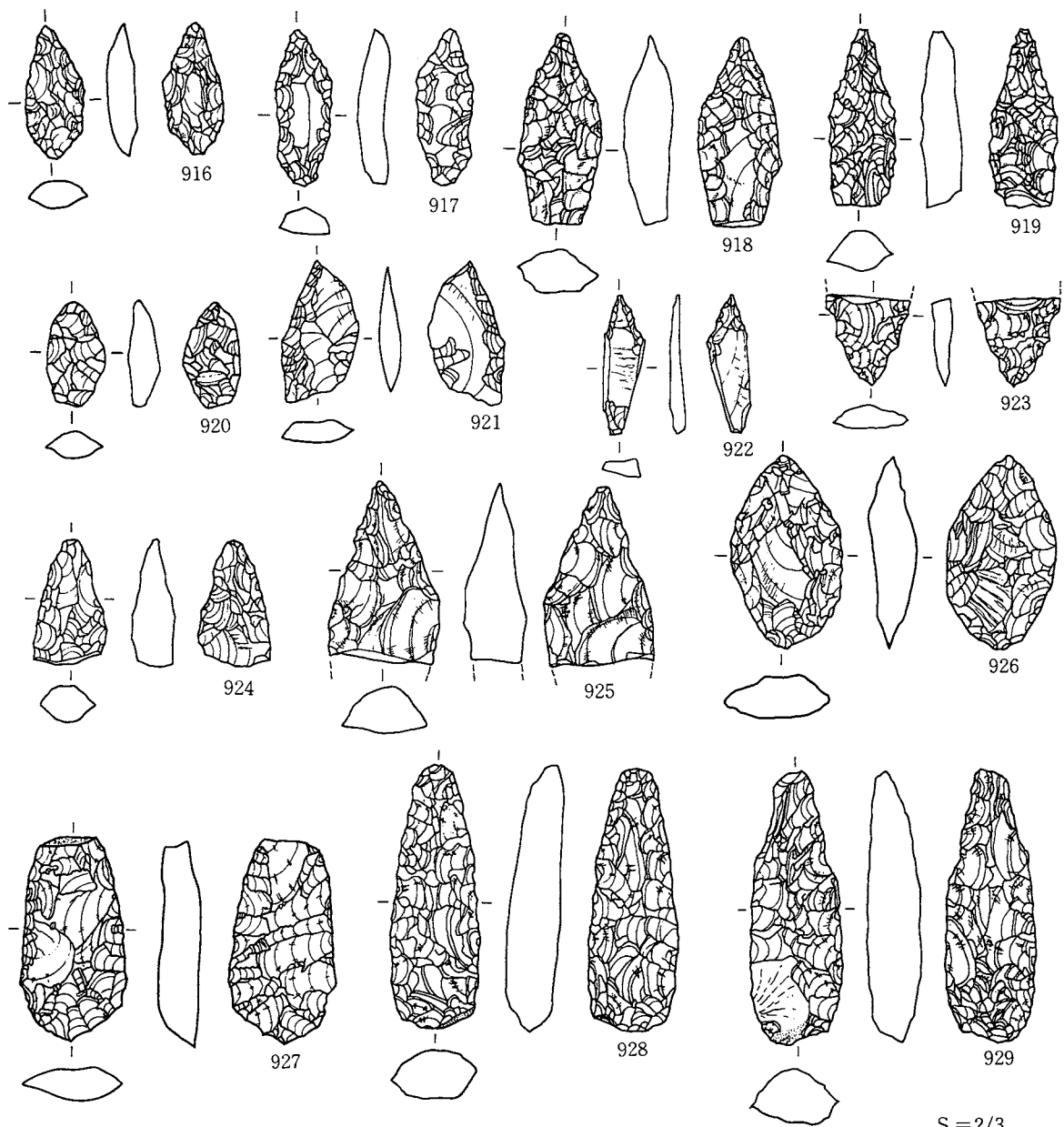
第96図 遺構外出土石鏃(9)



S = 2/3

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
901	石鏃	II 2 b	25	13	2	0.6	北斜M (E) 埋土	珪質泥岩			73	82
902	石鏃	II 2 b	26	14	5	1.5	北斜M-A 埋土	珪質泥岩			73	109
903	石鏃	II 2 b	27	16	5	2.0	北斜M 2 (E) 埋土	チャート			73	193
904	石鏃	II 2 b	34	13	4	1.5	北斜M 1 (E) 埋土下部	粘板岩			73	50
905	石鏃	II 2 b	37	15	5	2.5	北斜M (E) 埋土下部	流紋岩			73	45
906	石鏃	II 2 b	40	16	9	4.6	北平M 1-C 埋土下部	硬質泥岩			73	72
907	石鏃	II 2 b	43	13	10	5.6	北斜M 1 (E) 埋土	粘板岩			73	47
908	石鏃	II 2 b	44	12	7	2.7	北斜M-A 埋土	流紋岩			73	52
909	石鏃	II 2 b	46	14	8	3.7	北斜縁 (3 I) 黒褐色土	珪質泥岩			73	159
910	石鏃	II 2 b	46	17	6	4.3	北斜 (3 H) 褐色土	珪質泥岩	一部欠損		73	192
911	石鏃	II 2 b	46	16	10	6.3	北斜M (E) 埋土下部	硬質泥岩			73	38
912	石鏃	II 2 b	47	15	9	4.5	北平 褐色土	硬質泥岩			74	393
913	石鏃	II 2 b	51	14	7	6.3	北斜M (E) 埋土	流紋岩			74	95
914	石鏃	II 2 b	31	13	8	2.5	北斜M 1-B 埋土	粘板岩			74	69
915	石鏃	II 2 b	28	12	7	2.1	北斜M (E) 埋土下部	チャート			74	119

第97図 遺構外出土石鏃(10)



S = 2/3

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真版	遺物番号
916	石鏃	II 2 b	28	13	6	1.9	北斜縁 黒色土	硬質泥岩			74	53
917	石鏃	II 2 b	34	13	6	2.7	北平 褐色土	流紋岩			74	81
918	石鏃	II 2 b	42	13	11	7.2	北斜(2H3a) 3層	粘板岩	一部欠損		74	229
919	石鏃	II 2 b	38	15	9	5.0	北斜 1層	珪質泥岩			74	133
920	石鏃	II 2 b	23	13	7	2.1	北斜M(E) 埋土	硬質泥岩	一部欠損		74	145
921	石鏃	II 2 b ?	16	31	5	2.2	北平 褐色土	珪質泥岩		未成品としたが別の器種かもしれない。	74	234
922	石鏃	II 2 b	30	10	3	1.0	北斜M 1-B 埋土	珪質泥岩			74	64
923	石鏃	II 2 b	14	14	4	1.4	北斜M 2 (E) 埋土	硬質泥岩	破片	器種を推定した。	74	188
924	石槍	I 2	27	16	9	3.9	北平 褐色土	硬質泥岩		先端部残存	74	66
925	石槍	I 1	39	24	13	4.3	北斜M 1 (E) 埋土	硬質泥岩		先端部残存	74	203
926	石槍	I 1	42	24	10	9.0	北斜縁 黒色土	珪質泥岩			74	423
927	石槍	I 1	44	23	9	10.4	北平(K3) 暗褐色土	粘板岩	一部欠損		74	254
928	石槍	I 1	57	20	12	13.5	北斜(S) 2層	硬質泥岩			74	224
929	石槍	I 1	59	20	12	14.7	北斜 黒色土	粘板岩			74	225

第98図 遺構外出土石鏃(II)・石槍(I)

## 石槍（第98～102図、写真図版74～76）

尖頭部と基部を持ち刺突具または切削具としての用途を持つものである。

形態によって木葉形・半月形・有舌形・有肩形の四つに細分される。

第I群 木葉形…扁平で、基部が丸みをもつ。この群は更に調整の仕方によって次の二つに細分される。

1類 丁寧な二次調整が施され、鋭い刃部が作り出されているもの 10点(925～930、932～935)

932～935は典型的なもので、その他のものもこの類に含めた。932は下部に着柄によるものと思われる変色部が認められる。932、934は使用によってできたと考えられる刃こぼれ状の部分がある。

2類 調整が雑で、未成品的なもの 32点(924、931、936～945、947～965、967)

942～944は一次剝離面が多く残存している。953～958、960～962は小木葉形であり、比較的形が整っている。963～965は950、952、959のグループに近い形状であるが、更に粗雑な調整で全体形としても整った形状ではない。965では自然面を多く残存させている。967は多くの調整を加えてあるが、全体的に形は整っていない。先端部が欠損しているとも考えられる。

第II群 半月形…弧状側縁が薄く、他側縁はやや分厚い 1点(946)

一時剝離面が残存するなど、調整が粗雑である。これ以外にも平面形としては、半月形をなす非対称形のものがあるが、断面形の条件を満たすものはこれのみである。

第III群 有舌形…基部に中茎を作り出したもの 1点(968)

両端が欠損しているが、身部の膨らみ具合から有舌形と判断した。一次剝離面は残存しているが比較的調整は丁寧である。

第IV群 有肩形…両面調整や、主要剝離面の一部にのみ調整を施して肩部を有するもの。出土石槍に該当するものなし。

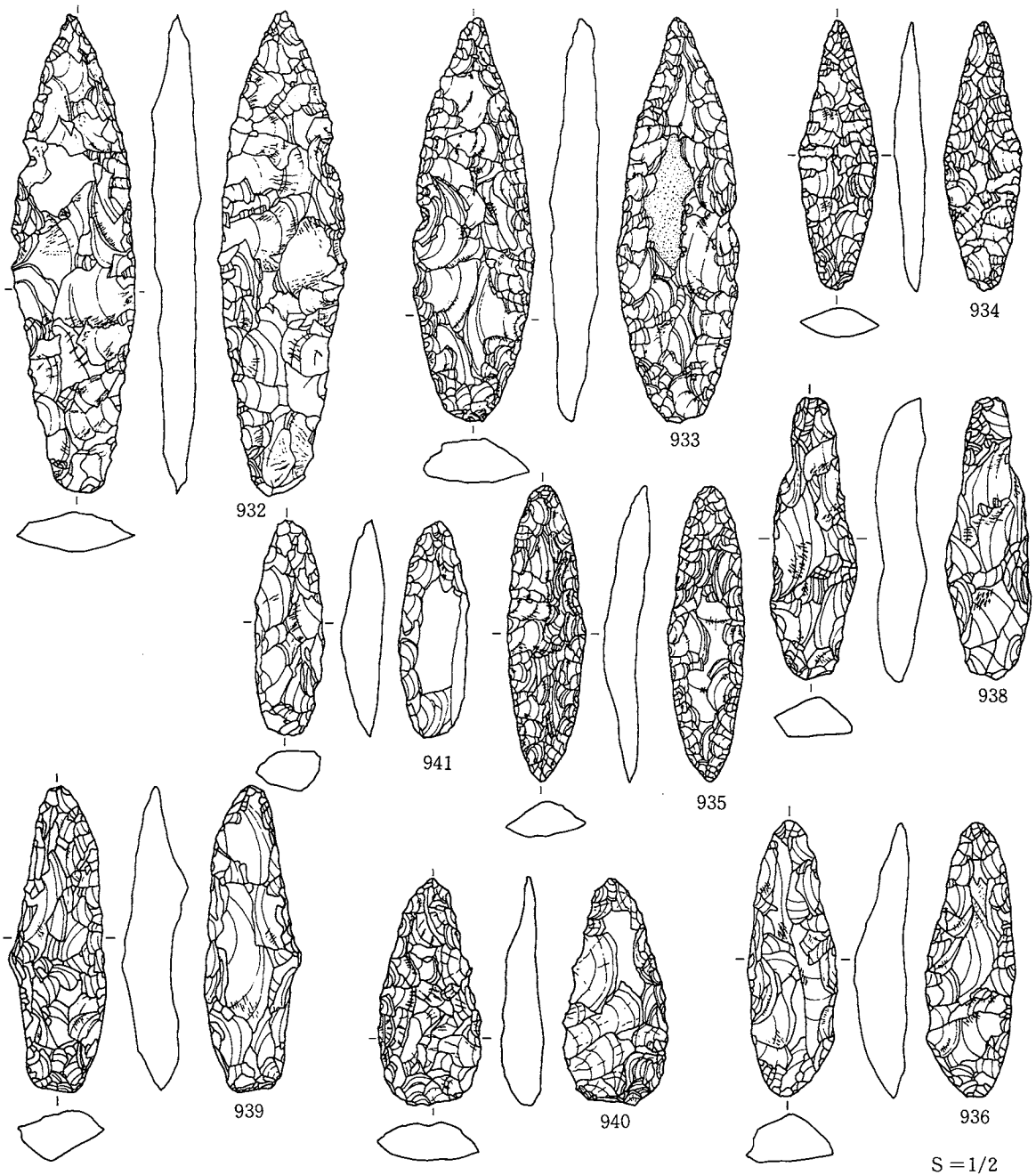
出土した石槍は総計44点である。石鏃に比して欠損品が多く、36.4%である。石槍の分類別百分率は以下のとおりである。

I<sub>1</sub>類は 23%、I<sub>2</sub>類は 71%、II群は 2%、III群は 4% である。

I<sub>2</sub>類が最も多く、使用目的だけを満足させるだけに作られた実用性を有するものであると考えられる。次に多いI<sub>1</sub>類は形態的に整い、実用性も有するものである。特に932は着柄痕を有し、933と同様の大型のもので、縄文時代前期を下らない古いものであると考えられる。

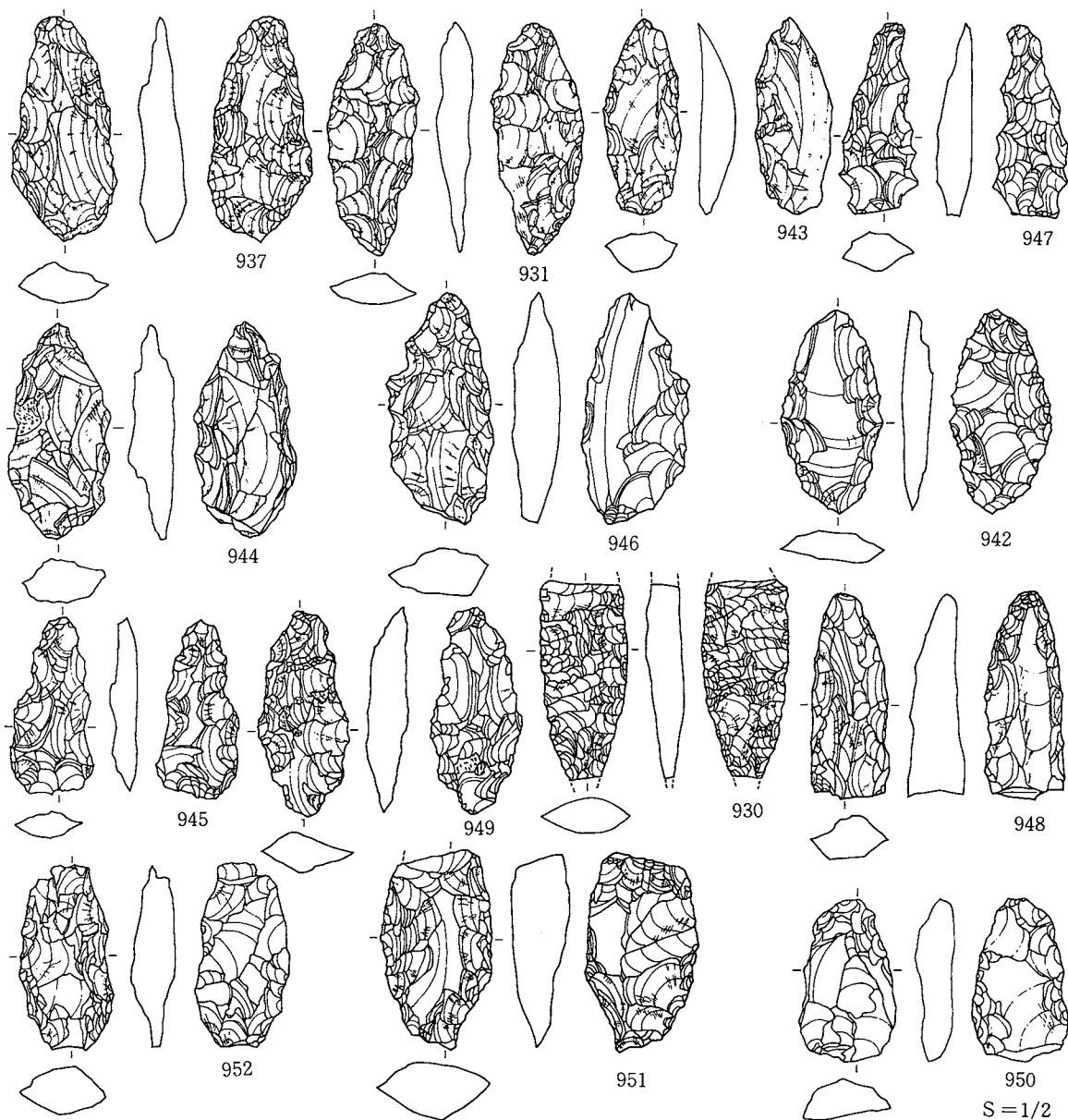
石槍の出土位置は、遺跡の北端部に集中している。北端部における出土内訳比率は、平坦部 29%、溝部分 32%、斜面部 39% である。

使用石材は硬質泥岩が52%と群を抜き次いで珪質泥岩となり、他は石鏃と同じ傾向にある。



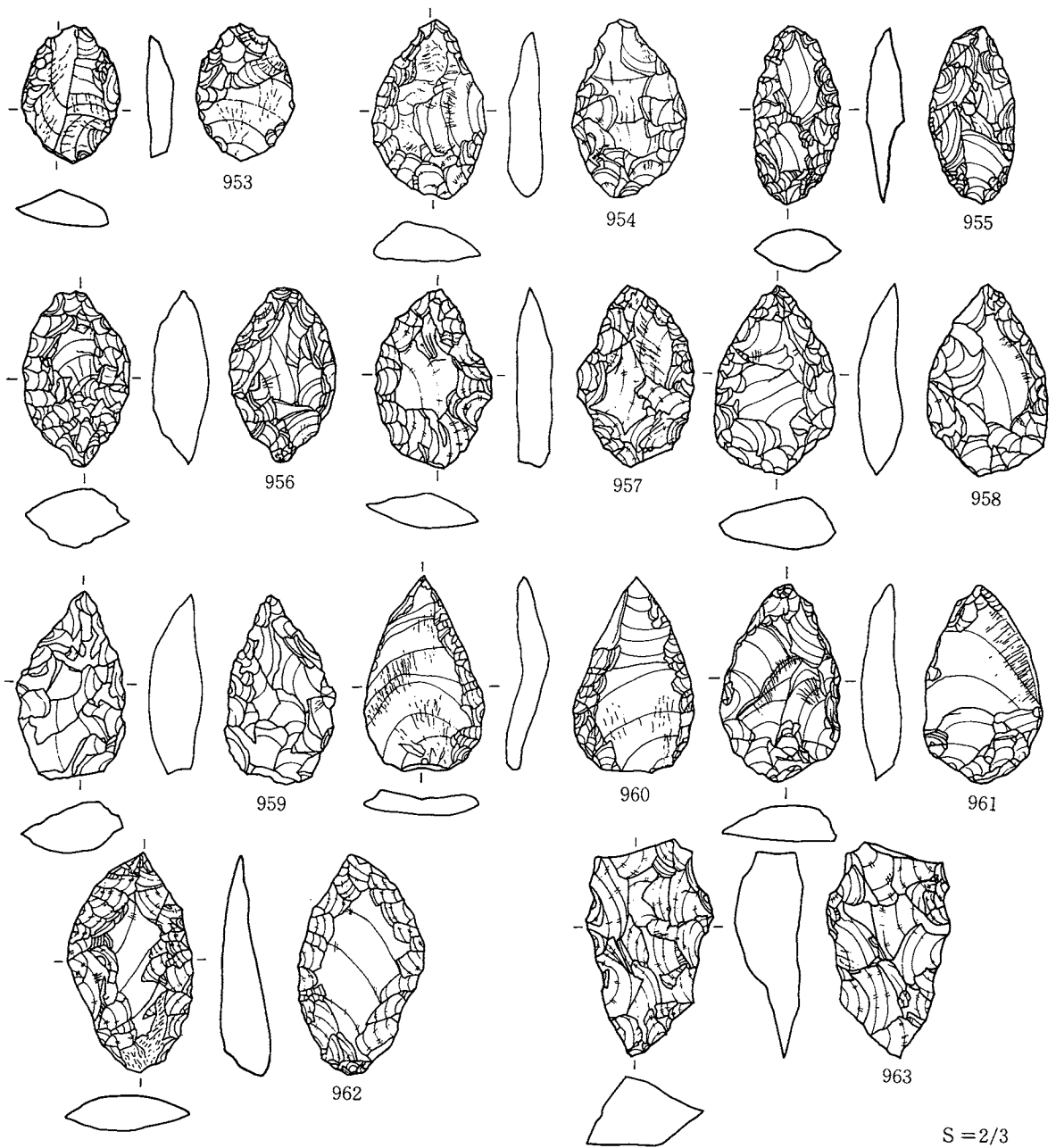
No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
932	石槍	I 1	143	37	15	60.0	北平 (K) 褐色土	流紋岩			75	163
933	石槍	I 1	120	36	14	58.0	北平 (K) 黒色土	珪質泥岩			75	164
934	石槍	I 1	80	33	9	12.9	北平 1層	硬質泥岩			75	236
935	石槍	I 1	88	23	10	19.2	北斜(2H3b) 黒色土	粘板岩			75	205
936	石槍	I 2	82	27	16	31.4	北平M1-C 埋土下部	硬質泥岩			75	238
938	石槍	I 2	84	26	14	29.1	北平 褐色土	硬質泥岩			75	237
939	石槍	I 2	91	29	17	43.1	北平 1層	硬質泥岩			75	239
940	石槍	I 2	68	31	13	22.5	北斜M (E) 埋土	チャート			75	241
941	石槍	I 2	64	20	12	17.3	北平 暗褐色土	流紋岩質細粒凝灰岩			75	530

第99図 遺構外出土石槍(2)



No.	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
930	石槍	I 1	58	25	11	16.8	北平 黑色土	硬質泥岩	一部欠損		74	248
931	石槍	I 2	66	26	10	13.7	北斜M (E) 埋土	珪質泥岩			74	209
937	石槍	I 2	64	30	14	24.3	北斜 (2G4a) 3層	粘板岩			75	255
942	石槍	I 2	58	30	9	14.1	北斜縁 黑色土	硬質泥岩			75	245
943	石槍	I 2	56	52	10	12.7	北斜縁 (N) 1層	硬質泥岩			75	258
944	石槍	I 2	67	29	13	23.1	北平 1層	チャート	一部欠損		75	240
945	石槍	I 2	51	24	8	9.3	北斜M 2 (E) 埋土	硬質泥岩			75	244
946	石槍	II	67	31	13	25.4	北斜 (C) 1層	珪質泥岩	一部欠損		75	242
947	石槍	I 2	54	24	10	20.2	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩	一部欠損		75	247
948	石槍	I 2	59	23	16	11.4	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩	一部欠損		75	246
949	石槍	I 2	59	27	12	15.9	北平M 1-B 埋土下部	チャート			75	243
950	石槍	I 2	46	38	11	16.4	北斜縁 (C L) 黑色土	粘板岩	端部欠損	石筥的	75	264
951	石槍	I 2	57	32	17	31.7	北斜M 1-A 埋土	硬質泥岩	一部欠損		75	249
952	石槍	I 2	53	27	13	19.5	北斜M (E) 埋土下部	流紋岩	一部欠損		76	348

第100図 遺構外出土石槍(3)

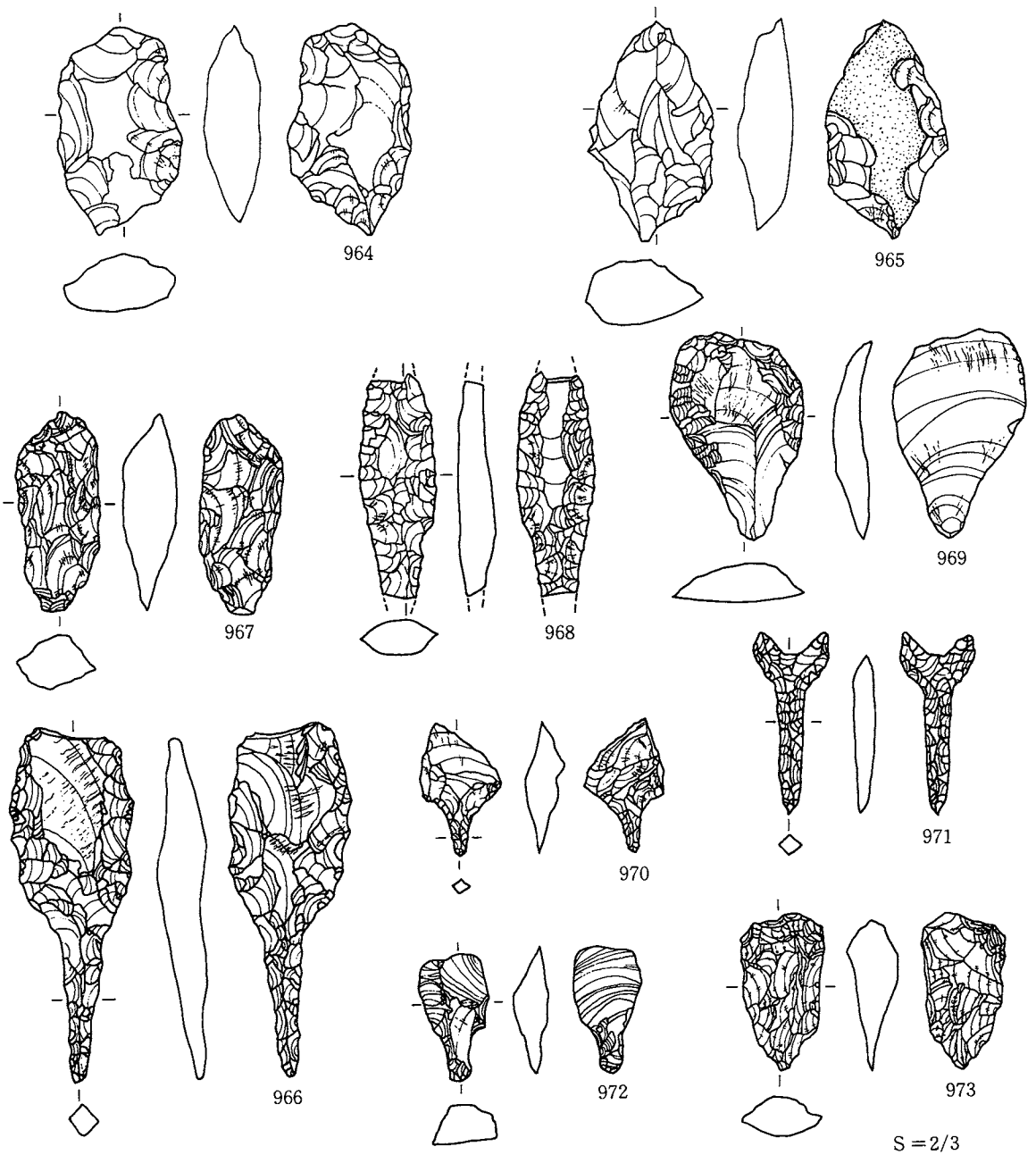


S = 2/3

No.	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
953	石槍	I 2	30	22	6	4.5	北斜M (E) 埋土下部	珪質泥岩	一部欠損		76	369
954	石槍	I 2	39	25	8	7.9	北斜M (E) 埋土	ホルンフェルス			76	364
955	石槍	I 2	39	19	8	6.0	北斜 表土	硬質泥岩			76	421
956	石槍	I 2	39	24	13	9.7	北斜縁 黒色土	硬質泥岩		IIIの要素もある	76	422
957	石槍	I 2	40	26	8	8.2	北斜M 2 (E) 埋土	流紋岩質細粒凝灰岩			76	257
958	石槍	I 2	42	27	10	12.2	北平 褐色土	流紋岩質細粒凝灰岩			76	531
959	石槍	I 2	42	24	17	11.4	北平 褐色土	硬質泥岩			76	265
960	石槍	I 2	43	27	6	6.2	北斜 (CS) 埋土	硬質泥岩			76	424
961	石槍	I 2	44	26	8	10.1	北平 褐色土	硬質泥岩			76	425
962	石槍	I 2	31	42	8	12.7	北斜M (E) 埋土下部	硬質泥岩			76	366
963	石槍	I 2	48	28	14	15.5	北斜M 2 (E) 埋土	硬質泥岩	一部欠損		76	259

第101図 遺構外出土石槍(4)





S = 2/3

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
964	石槍	I 2	46	28	12	15.6	北斜(2G) 埋土	粘板岩	一部欠損		76	263
965	石槍	I 2	49	27	13	14.6	北斜(N) 1層	硬質泥岩	一部欠損		76	262
967	石槍	I 2	44	19	12	86.0	道央沢 1層	硬質泥岩	一部欠損		76	226
968	石槍	III	50	18	8	6.8	北平 褐色土	粘板岩	1/2残存	上下端欠損	76	57
966	石錐		78	27	11	15.5	北斜M(E) 埋土下部	珪質泥岩			76	208
969	石錐		46	30	7	13.4	北斜H2(C) 暗褐色土	珪質泥岩			76	441
970	石錐		29	18	8	2.3	北斜M1-A 埋土	珪質泥岩			76	175
971	石錐		40	17	5	1.3	北斜(20) 黒褐色土	珪質泥岩			76	207
972	石錐		28	15	8	3.1	北斜緑(N) 1層	黒曜石			76	516
973	石錐		35	18	11	6.4	N 3 5 E 1 6 0 区埋土下部	珪質泥岩	一部欠損		76	355

第102図 遺構外出土石槍(5)・石錐

### 石錐 (第102図、写真図版76)

両縁部からの調整で錐状の突出した刃部を作り出した石器である。6点(966、969～973) 966は大型の単刃の典型的なもので、右側にねじれている。969はこの類より少しはみ出した物であるが、この類に区分した。970は石鏃的な面もっている。971はつまみをもち、先端部を細身に尖らせたもので、縄文時代後・晩期の遺跡の出土例が多い。972は黒曜石製の単刃であるが、調整は粗雑である。973は身部の作りだしが不完全である。

出土した石錐は破片も含めると11点である。粗雑な作りが多く、少数ながら小型のものから大型のものまでみられる。出土場所は比較的遺構内のもの方が多。石材としては、他の場合と同様に珪質泥岩が半数ちかく用いられている。

### 石匙 (第103～106図、写真図版77～79)

つまみ状の小突起をもち片面からの加撃によって刃部がつくられる打製石器である。形態により分けられ、さらにつまみの位置によって細分した。

#### 第1類 縦型のもの

a族 つまみが右に寄るもの 6点(975～978、983、985)

b族 つまみが左に寄るもの 8点(974、979～982、984、986、987)

975、976、980は長身で細身のものである。982は長身であるが、先端が丸みを帯びている。974は石槍に近い断面を有する黒曜石製である。983は台形状である。985は調整が粗雑な黒曜石製である。987は2個のつまみを有する。

#### 第2類 横型のもの

a族 つまみが右によるもの 5点(989、990、992、994、1000)

b族 つまみが左によるもの 6点(988、991、993、995～997)

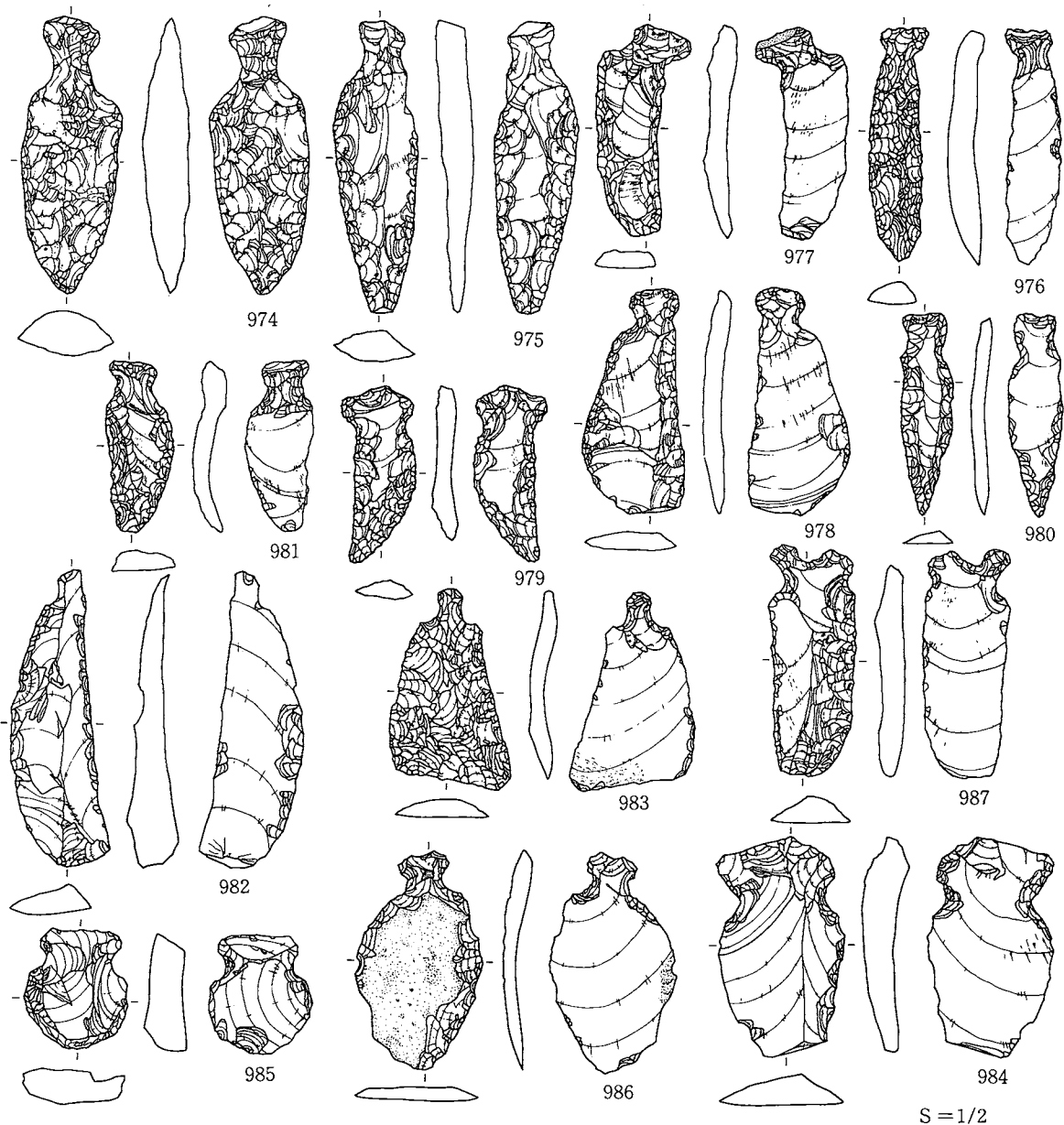
989、990、992は大型のものである。988は大型の下側刃部にえぐり込みを有する。991と993は技法的に類似している。

#### 第3類 第1・2類以外のもの 15点(995、998、999、1001～1012)

石匙、搔器または削器にも分類されるが、つまみを想定してここに含めたものである。出土した石匙の総計は55点であり、30%程はつまみ部を欠損している。分類別の比率は、I a類が20%、I b類が16%、II a類が13%、II b類が17%である。石材は堆積岩の珪質、硬質泥岩が多い。

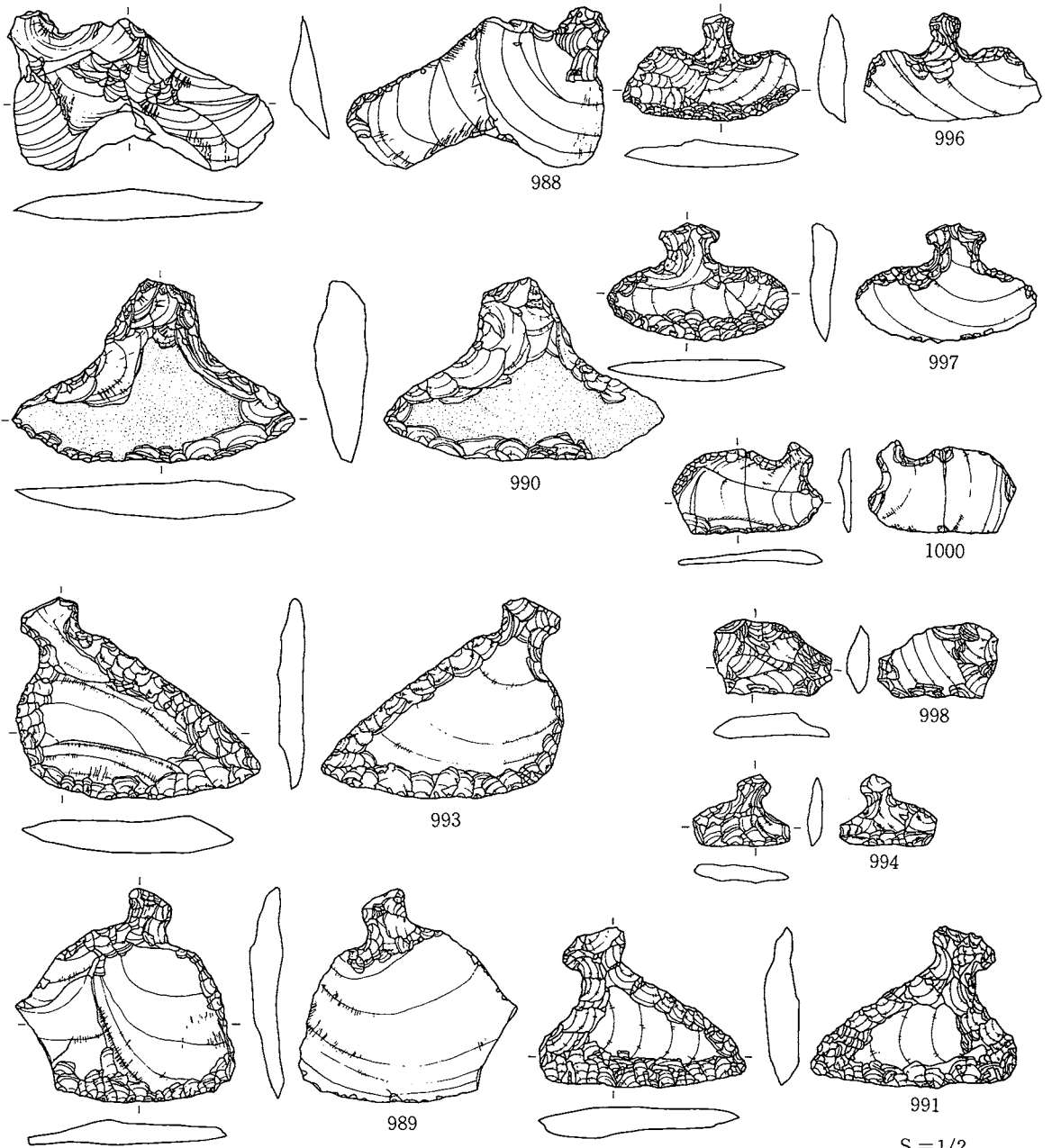
### 石篋 (第106、107図、写真図版79・80)

下方が幅広で、上方は狭い左右対称の形状である。1014、1016～1018、1020、1021、1023の



No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
974	石匙		80	29	14	22.5	北斜(C) 1層	黒曜石		柄部と身部接合	77	206
975	石匙		85	25	10	19.6	北斜(CS) 黒色土	硬質泥岩			77	174
976	石匙		68	15	9	9.1	北平	褐色土			77	408
977	石匙		62	27	8	10.6	北斜M1(E) 埋土	流紋岩質細粒凝灰岩			77	170
978	石匙		66	30	6	12.4	北斜M1(E) 埋土	珪質泥岩			77	167
979	石匙		51	21	7	6.7	北平M1-C 埋土下部	珪質泥岩			77	266
980	石匙		58	16	4	4.7	北斜M(E) 埋土下部	硬質泥岩			77	177
981	石匙		49	20	7	7.2	北斜M(E) 埋土	珪質泥岩			77	173
982	石匙		85	28	14	21.2	北斜縁	黒色土			77	403
983	石匙		58	35	6	12.9	北斜	黒色表土		流紋岩質細粒凝灰岩	77	405
984	石匙		64	37	11	23.6	北斜E沢	埋土			77	401
985	石匙		34	30	12	12.0	北斜トレ中	黒色土		黒曜石	77	406
986	石匙		64	33	6	11.6	北斜E沢	黒色土		珪質泥岩	77	402
987	石匙		67	26	8	12.2	北斜M(E) 埋土	流紋岩			77	172

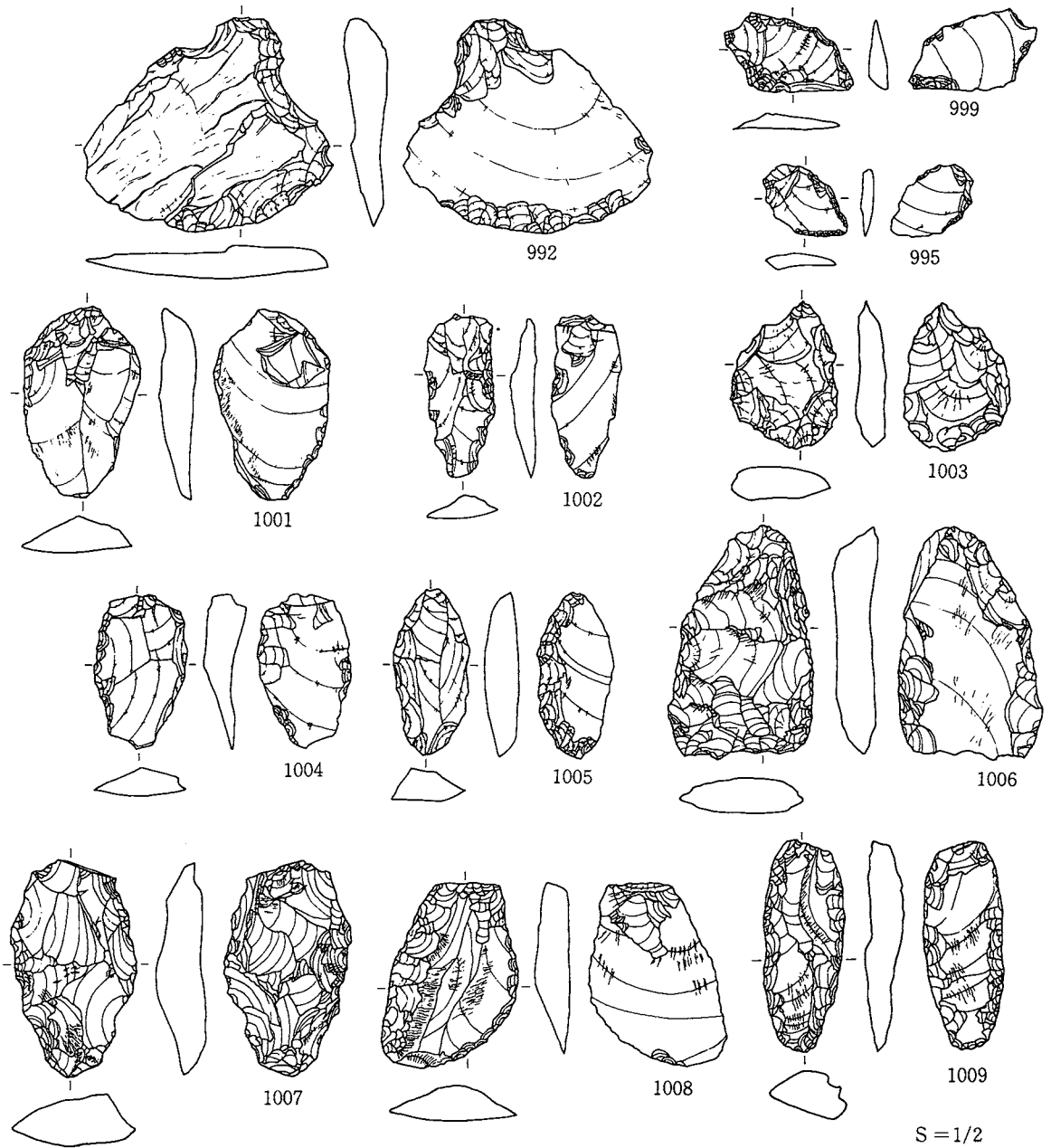
第103図 遺構外出土石匙(1)



S=1/2

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
988	石匙		47	78	9	29.8	北斜M1(E) 埋土	珪質泥岩			78	534
989	石匙		63	65	10	30.5	北斜M(E) 埋土	珪質泥岩			78	169
990	石匙		54	83	15	47.0	北斜M(E) 埋土	流紋岩質細粒凝灰岩			78	267
991	石匙		47	61	10	21.7	北平 表土	硬質泥岩			78	407
993	石匙		59	71	8	37.5	北斜縁 黒色土	硬質泥岩			78	165
994	石匙		23	29	5	2.2	北斜M(E) 埋土下部	流紋岩			78	168
996	石匙		32	52	8	8.8	北斜M1(E) 埋土	流紋岩質細粒凝灰岩			78	532
997	石匙		35	54	7	11.0	中央道路 表土	珪質泥岩			78	409
998	石匙		22	35	6	6.3	北斜M(E) 埋土下部	チャート	1部欠損		78	358
1000	石匙		28	45	4	5.2	北斜M1(E) 埋土	珪質泥岩			78	166

第104図 遺構外出土石匙(2)



S = 1/2

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
992	石匙		63	74	12	39.1	北斜 黒色土	硬質泥岩			78	404
995	石匙		21	26	3	2.6	北斜M 2 (E) 埋土	硬質泥岩	一部欠損		78	360
999	石匙		23	38	6	4.1	北平M 1-A 埋土下部	珪質泥岩	一部欠損		78	359
1001	石匙		56	34	10	21.3	北斜M (E) 埋土下部	珪質泥岩	一部欠損		78	343
1002	石匙		48	21	7	6.2	北斜M 1-A 埋土	硬質泥岩	一部欠損		78	356
1003	石匙		44	31	9	13.4	北斜M 1-B 埋土	流紋岩質細粒凝灰岩	一部欠損		78	368
1004	石匙		45	38	11	10.3	北斜M 1 (E) 埋土	流紋岩質細粒凝灰岩	一部欠損		78	357
1005	石匙		49	22	10	11.6	北斜M 1 (E) 埋土	硬質泥岩	一部欠損		78	351
1006	石匙		69	42	12	42.4	南大斜上M 埋土	硬質泥岩	一部欠損		78	380
1007	石匙		63	37	15	32.6	北平M 1-C 埋土上部	珪質泥岩	一部欠損		78	347
1008	石匙		54	40	10	22.8	北平M 1-C 埋土下部	流紋岩質細粒凝灰岩	一部欠損		78	346
1009	石匙		62	24	12	16.5	北斜M 2 (E) 埋土	粘板岩	一部欠損		78	336

第105図 遺構外出土石匙(3)

7点は典型的なものである。この内で1018、1021は大型のものである。1015、1019、1022、1029の4点は上方と下方の区別が付きにくいものである。1025、1028の2点は他のものと比較して調整が雑で、打製石斧的要素も有する。

出土した石筥は総計23点である。この器種の場合も珪質泥岩が石材として50%ちかく用いられている。

#### 楔形石器（第111図、写真図版80）

両極剥離痕が認められ、二辺一對の刃部を有する打製石器である。1027、1030、1031の3点である。1027は横長で他の2点は縦長である。遺構内出土物も含めて、使用痕と思われる部位を有する物もある。

出土総数は8点である。石材は珪質泥岩が半数を越え圧倒的に多い。

#### 搔器（第108～109図、写真図版81）

急角度に調整された刃部をもつものである。1036、1037～1040、1043、1049の7点である。1036は刃部片面調整、1043は縁部調整の円形搔器である。出土総数は16点である。石材は他の器種と同様珪質泥岩を多用している。

#### 削器（第108～109図、写真図版80・81）

剣辺の側縁に連続的な調整によって刃部を作り出したものである。1032～1035、1040～1042、1044～1050の12点である。1032～1034の3点あり横型削器である。他は縦型削器であり、1042～1048の4点は凹刃的要素をもっている。

出土総数は20点であり、石材は珪質泥岩などの堆積岩を用いている。

#### 石斧（第110図、写真図版82）

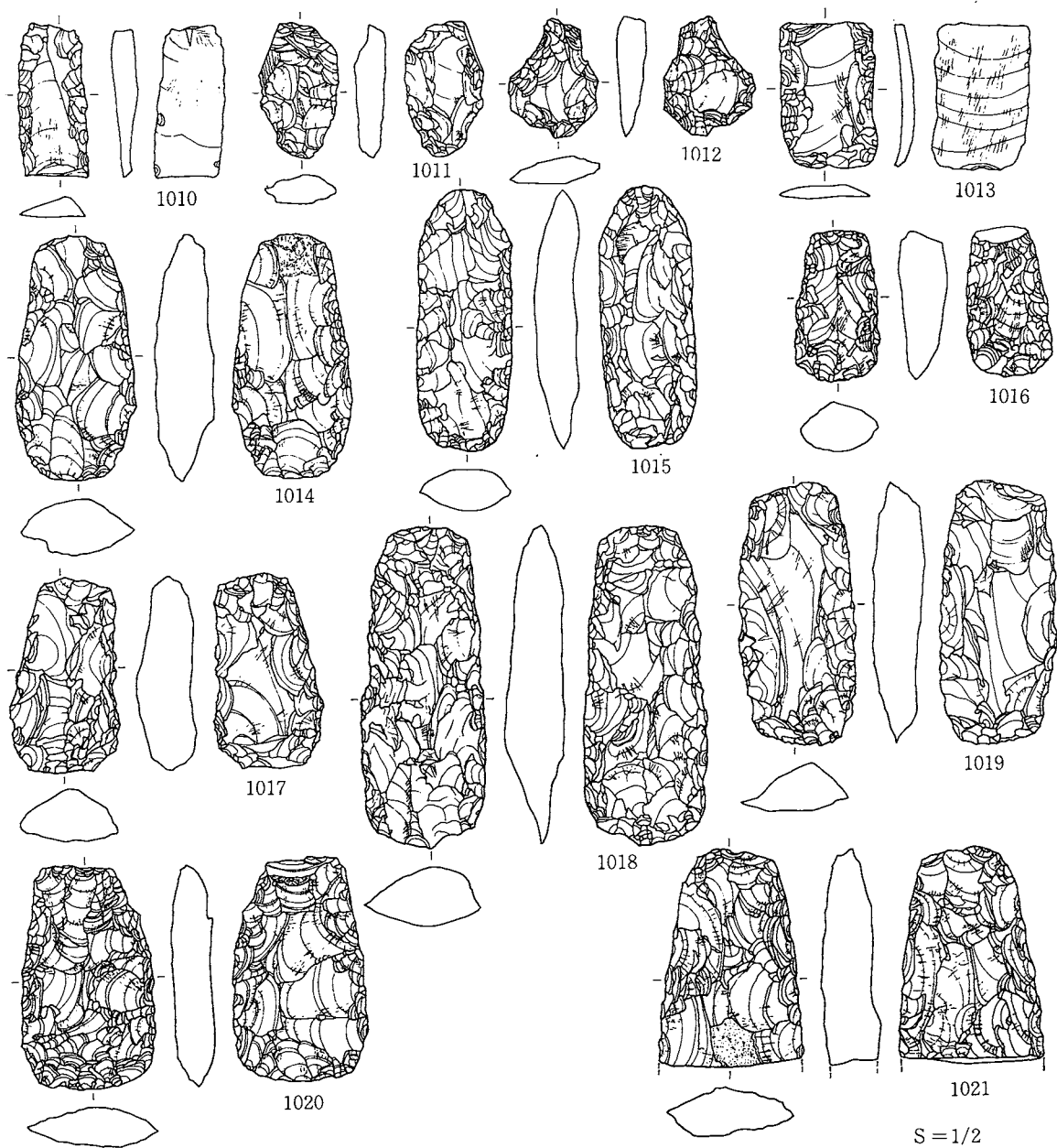
石材を打ち欠いたままか、さらに研磨して幅広の刃部とすばまった基部を有する石器である。全体の形状および製作技法から4群に分けられる。

##### 第I群 擦切のもの 6点（1051、1053、1055、1058、1060）

基部の残存するのは1051、1053、1058の3点であり、刃部を残存するのは1053、1060である。後者は欠損したものを再度整形して使用している。

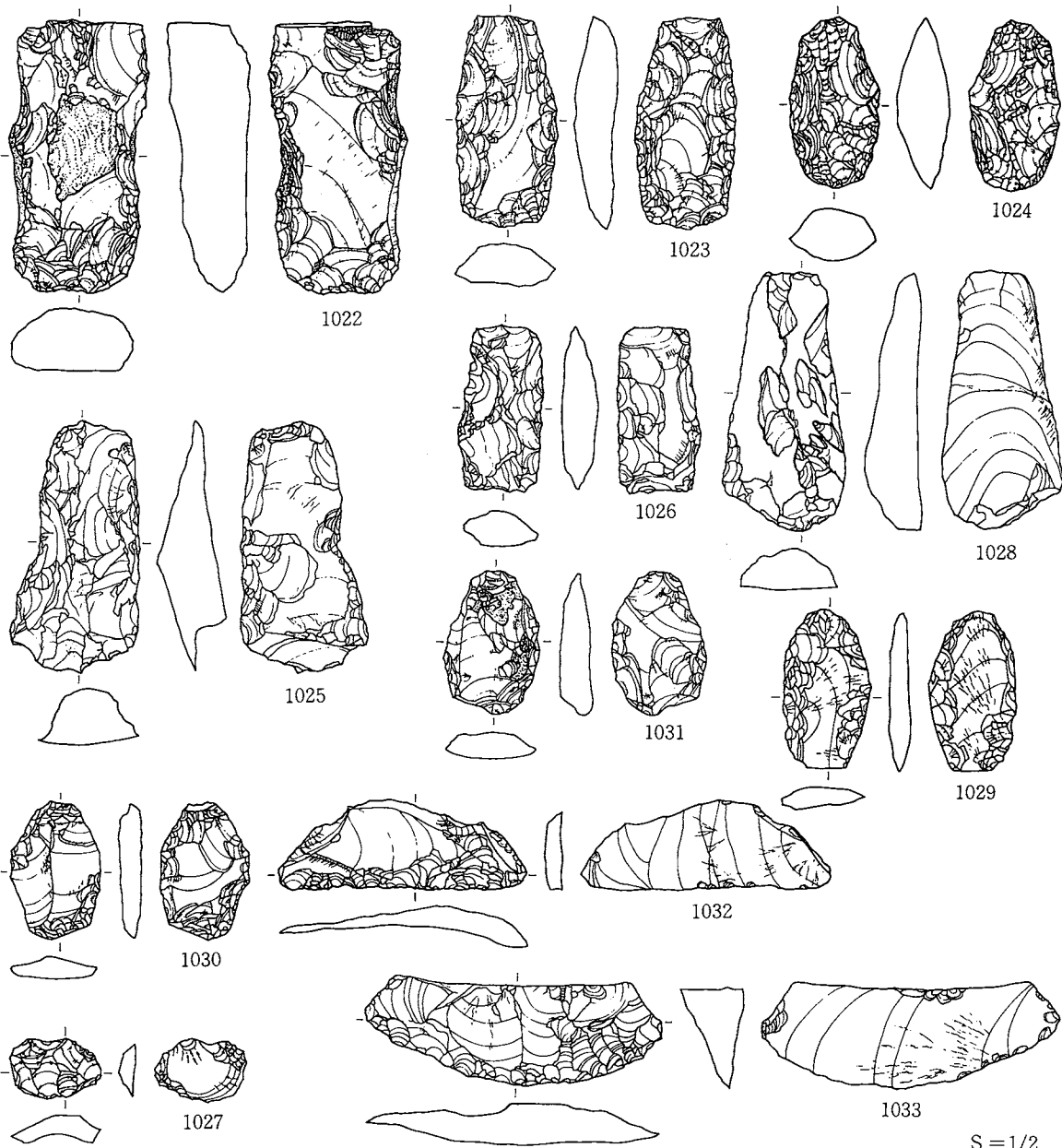
##### 第II群 乳房状のもの 3点（1056、1057、1062）

刃部の残存するものは1056、基部の残存するものは1057、1062である。1062は欠損部に片凸刃をつくりだしている。また、I面には凹みが2カ所確認される。



No.	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
1010	石匙		45	20	7	7.9	北斜M1-B 埋土	粘板岩	一部欠損		79	340
1011	石匙		39	23	8	8.1	北斜M(E) 埋土	硬質泥岩	一部欠損		79	363
1012	石匙		35	26	7	5.8	北斜M(E走) 埋土	珪質泥岩	一部欠損		79	410
1013	石匙		43	28	4	8.0	北斜M(E) 埋土下部	珪質泥岩	一部欠損		79	339
1014	石筥		71	35	17	44.2	中央M(道路) 埋土	硬質泥岩			79	332
1015	石筥		76	26	12	34.5	北斜縁 黒色土	流紋岩			79	373
1016	石筥		44	25	14	16.2	北斜縁 黒色土	粘板岩	一部欠損		79	375
1017	石筥		57	32	16	31.5	北平 1層	流紋岩質細粒凝灰岩			79	379
1018	石筥		93	46	17	65.0	北斜縁NE 褐色土	硬質泥岩			79	377
1019	石筥		76	34	15	43.8	北平 1層	硬質泥岩			79	378
1020	石筥		65	39	12	39.3	北斜M1-A 埋土	粘板岩			79	333
1021	石筥		63	42	16	46.2	北斜M(E) 埋土	流紋岩	一部欠損		79	334

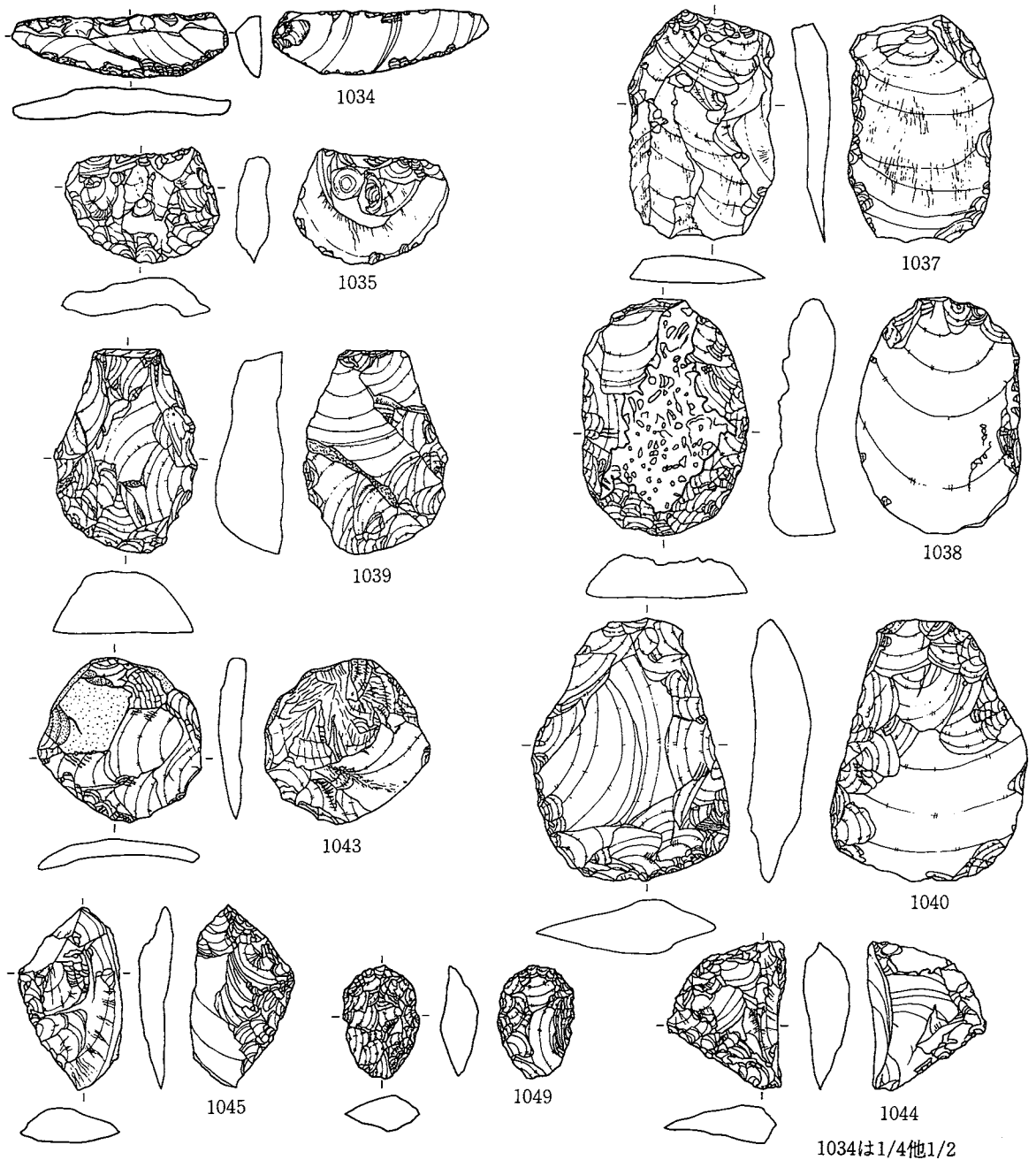
第106図 遺構外出土石筥他(1)



No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
1022	石筥		79	40	23	82.0	北斜M(E) 埋土下部	硬質泥岩	一部欠損		80	331
1023	石筥		61	30	17	23.3	北斜M(E) 埋土	流紋岩			80	335
1024	石筥		49	26	15	17.9	北斜緑N 褐色土	珪質泥岩			80	434
1026	石筥		48	25	11	12.7	北斜緑NE 褐色土	硬質泥岩			80	372
1028	石筥		74	36	16	46.2	北平 暗褐色土	珪質泥岩			80	529
1029	石筥		45	26	6	7.8	北斜M1(E) 埋土	硬質泥岩			80	367
1025	石筥		73	37	17	44.5	北斜(2H1c) 黒色土	硬質泥岩	一部欠損		80	376
1032	削器		26	72	5	13.9	北斜M1(E) 埋土	珪質泥岩			80	414
1033	削器		32	86	18	36.6	北平下 表探	流紋岩質細粒凝灰岩			80	512
1027	楔形石器		27	17	7	3.2	北平 暗褐色土	珪質泥岩			80	138
1030	楔形石器		40	26	7	7.3	N35E160 埋土	硬質泥岩			80	362
1031	楔形石器		41	28	9	10.8	北斜M1(E) 埋土下部	硬質泥岩			80	365

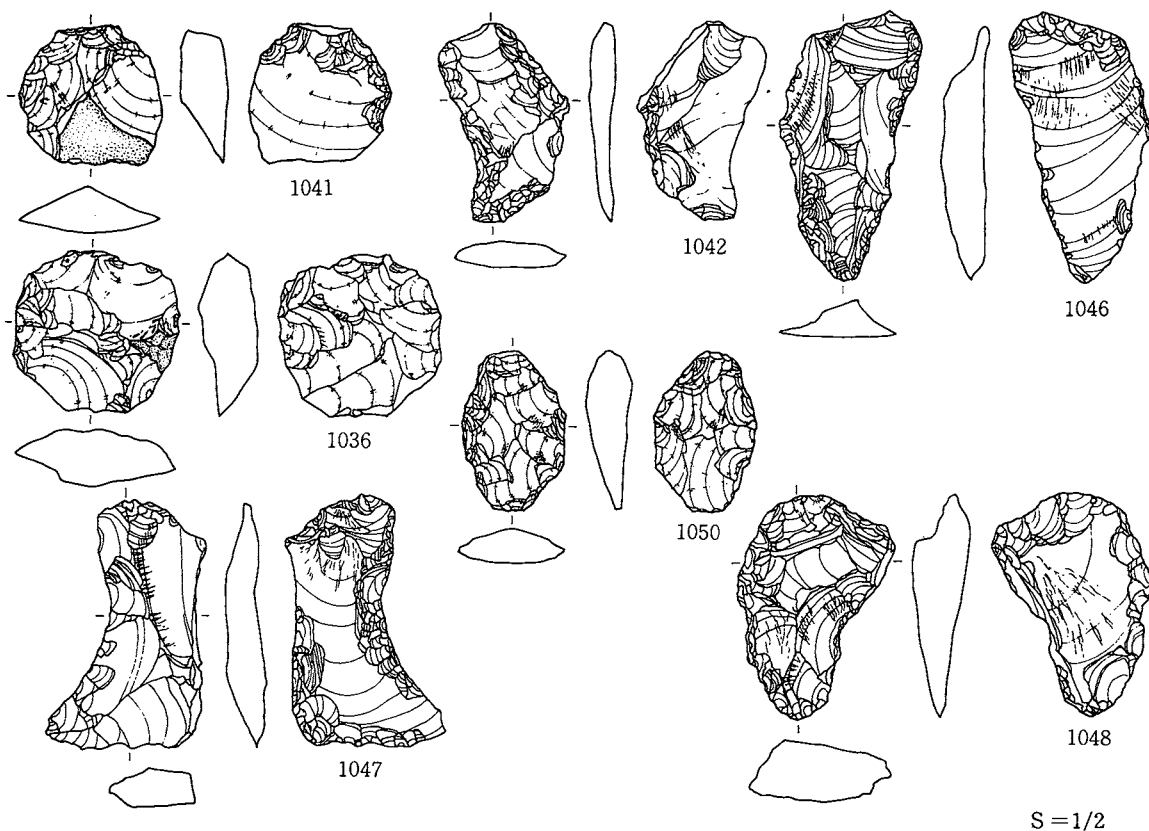
第107図 遺構外出土石筥他(2)





No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
1034	削器		39	129	14	80.0	北斜 表土	硬質泥岩			81	413
1035	削器		35	46	10	20.8	北斜M1 (E) 埋土	粘板岩			81	419
1044	削器		49	35	14	19.3	北斜 (C) 黑色土	硬質泥岩			81	418
1045	削器		55	31	10	14.7	北斜縁 (E) 埋土	珪質泥岩			81	420
1037	搔器		69	44	10	31.9	北斜M1 (E) 埋土	硬質泥岩			81	338
1038	搔器		71	50	17	65.0	北斜 表土	珪質泥岩			81	438
1039	搔器		61	43	20	58.2	北斜 (2H5c) 褐色土	珪質泥岩			81	439
1040	搔器		79	59	17	70.0	北斜下部 (S) 黑色土	流紋岩質細粒凝灰岩			81	440
1043	搔器		49	49	7	22.4	北斜 表土	硬質泥岩			81	437
1049	搔器		34	23	11	7.7	北斜 (E次) 黑色土	硬質泥岩			81	432

第108図 遺構外出土削器・搔器 (I)



No.	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
1041	削器		37	38	12	17	北平M1-B 埋土下部	硬質泥岩			81	431
1042	削器		53	35	7	13.2	北斜M1-A 埋土	珪質泥岩			81	415
1046	削器		72	38	11	25.2	北平(3K) 褐色土	珪質泥岩			81	411
1047	削器		66	41	10	26.5	北斜(C)BS埋土	珪質泥岩			81	412
1048	削器		59	42	15	35.5	北斜M(E) 埋土	珪質泥岩			81	416
1050	削器		42	28	12	11.3	北斜 黒色土	硬質泥岩			81	433
1036	搔器		43	54	15	28.4	北斜M(E) 埋土	硬質泥岩			81	436

第109図 遺構外出土削器・搔器(2)

第III群 定角をなすもの 2点(1052、1061)

刃部の破片である。緑色細粒凝灰石製で第I群の材質と同様であるが、刃部が幅広で片刃に近いものである。両側面と頭部が研磨されているが、1052は稜が認められない。

第IV群 その他のもの 2点(1054、1059)

1054は乳房状に近いが、残存部から第II群に含めなかったものである。1059は実用品とは考えられないものである。

石斧の総数は16点である。第I群は41%、第II群は25%、第III群は17%である。石材は30%が火成岩である。



S = 1/3

No.	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
1051	石斧		59	41	21	85.0	N 2 5 E 1 3 0 埋土下部	輝石安山岩	基部残存	磨製	82	461
1052	石斧		51	55	27	100.0	北斜線N 黒色土	緑色細粒凝灰色	基部欠損		82	471
1053	石斧		87	43	23	170.0	北斜線N 暗褐色土	輝石安山岩	基部欠損	擦切技法	82	463
1054	石斧		30	47	23	29.7	北斜線 黒色土	花崗閃緑岩	先端部残存		82	473
1055	石斧		53	40	26	75.0	中央道路M 埋土	緑色細粒凝灰色	基部残存	擦切技法	82	466
1056	石斧		80	43	30	150.0	北斜線N 暗褐色土	花崗閃緑岩	基部残存	乳棒状、全体的に粗面。	82	469
1057	石斧		110	57	39	360.0	北平 褐色土	緑色砂質凝灰岩	基部残存	乳棒状	82	468
1058	石斧		62	40	29	110.0	北斜 表土	緑色細粒凝灰色	基部残存	擦切技法	82	465
1059	石斧		52	25	13	28.4	北斜線 黒色土	凝灰岩質砂岩	基部欠損		82	472
1060	石斧		83	42	29	170.0	北斜線N(H2) 暗褐色土	緑色細粒凝灰色	基部欠損	擦切技法	82	464
1061	石斧		63	53	27	120.0	北斜一道トレ 黒色土	緑色細粒凝灰色	基部欠損		82	470
1062	石斧		126	108	33	380.0	北斜線(E) 埋土	輝石安山岩	先端部欠損	乳棒状、二次の使用。	82	462

第110図 遺構外出土石斧

### 不定形土器 (第111図、写真図版83)

剥片石器のうち、定形石器に区分できなかったものである。1063～1074の11点である。1063～1065の3点は搔器的要素が強く全縁または3辺に刃部をもつものである。1066～1069の4点は前述の要素が弱いものである。1070は円形の搔器的要素をもつ。1071は石匙の破片様で、1072もわずかながら同様の傾向を有するものである。1073、1074の2点には刃部の意図的な形成が認められない。

出土総数は71点で、遺構内として扱ったものが半数を越し、石材も堆積岩が主で珪質泥岩が半数以上である。

### 礫石器

#### 凹石 (第112図、写真図版84)

自然石の表面を擦り凹めるか、または敲打して作った凹みのある石器である。1075～1077、1079の4点である。1079を除いては両面を使用している。1075は長辺方向に並ぶ複数の凹みを両面に有するものである。1076は拳大の礫の両面に凹みを有する。1077は平板状の両面に単孔を有する。1079は短辺の一部を打ち欠いて形を整えた形跡が認められるが、2個の凹みが片面にのみ確認されるだけで他の用途は不明である。この凹みは他の3点と異なって、ほぼ円形を呈する。

出土総数は7点である。石材は約90%が火成岩である。

#### 磨石 (第112図、写真図版84)

摩擦痕を有する礫石器である。1078、1080～1082、1084、1085、1088の8点である。このうち、1078は石皿に近い形態のものである。1080、1081、1088は自然面を残す小型の磨石である。1082は一側辺が明確に使用されているのみで他の面は使用痕はない。1084は側面より平面が多く使用されている。1085は全面が磨かれ部分的に陵が認められる。刻線および凹所があり、他の磨石と異なる。

出土総数は12点である。本来的な磨石は少なく、また使用頻度の少ないものが多い。石材は半数が火成岩である。

#### 石皿 (第112図、写真図版84)

中央を凹めた皿形の石器である。1083の1点である。両面ともよく使用され中央部は薄くなっている。粗面な石質を利用している。出土総数は3点であり、石材はすべて火成岩である。

### 半円状偏平打製石器（第112図、写真図版84）

直線的な底縁を主な使用面とする石器である。1086の1点である。下辺を打ち欠いて形が整えてある。下辺には磨石様の使用痕が認められる。

半円状偏平打製石器の出土総数は5点である。石材は火成岩を用いている。

### 石棒（写真図版86）

先端が丸く作り出され、体部の断面がほぼ円形を成す石器である。磨製の石棒は出土していない。破片をもとに区分された石棒の総数は7点で、他の石器に転用されているものが多い。石材は流紋岩が大半である。

### その他の石製品（第113～114図、写真図版86）

石を材料として製作されたもののうち上記の分類のいずれにも属さないものを一括する。砥石、石冠、異形石器、垂れ飾りの4種類である。1111～1114の4点は砥石である。1111は石棒様の先端部を用いている。1112～1114は時期的に新しいものである。

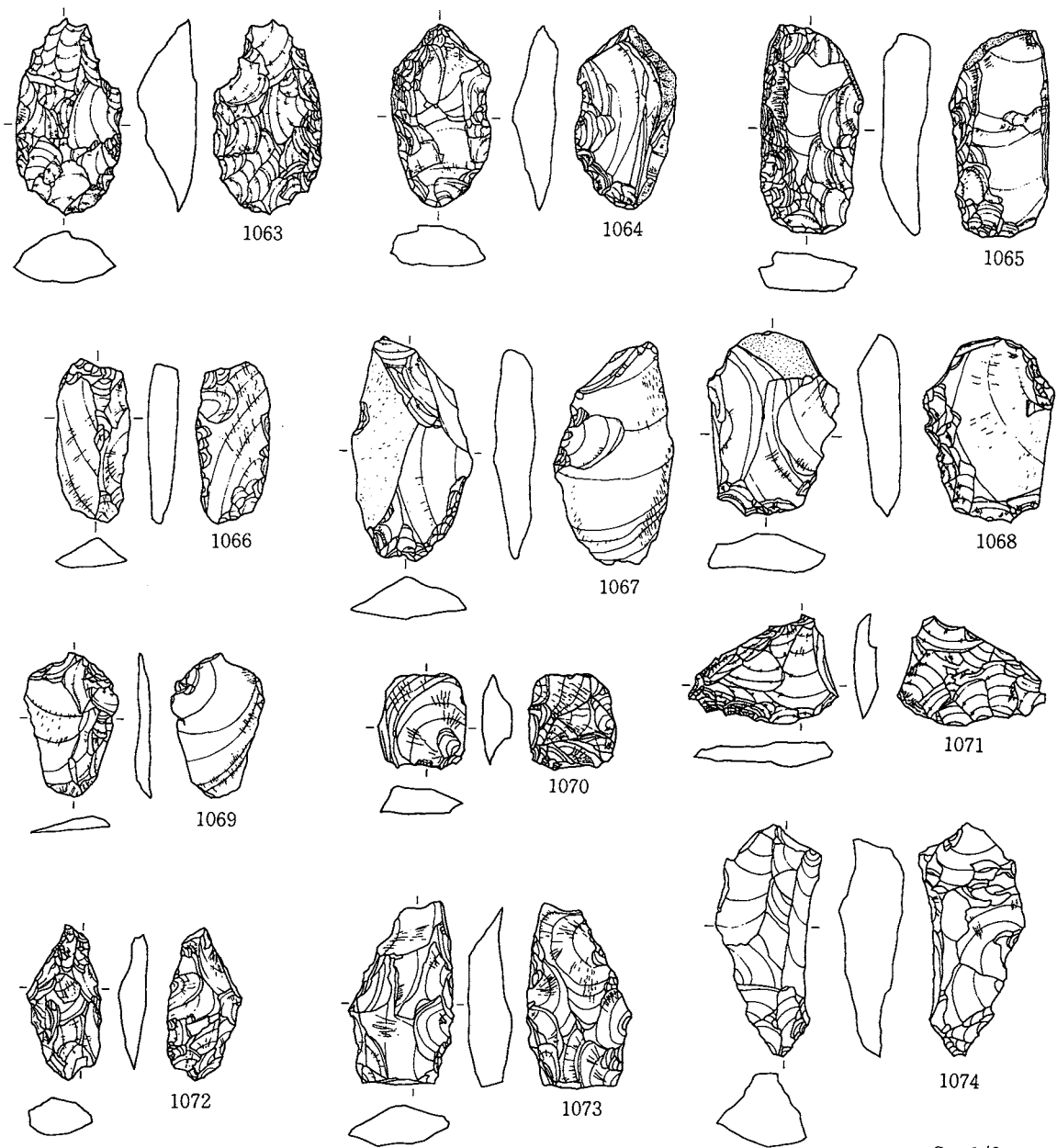
1087の石冠は、僅かな凹みがある1側面を除いてほぼ平面を呈し、全面に擦痕が多少認められる。1089、1093の異形石器にはいずれも長辺に抉り様の調整が認められる。

1094はヒスイの垂れ飾りである。溝跡出土のもので、酸化作用を受けている。上端部に両面穿孔の加工痕が認められるが、片面は調整程度のものである。

## 3 土製品

### 土偶（第113～114図、写真図版87）

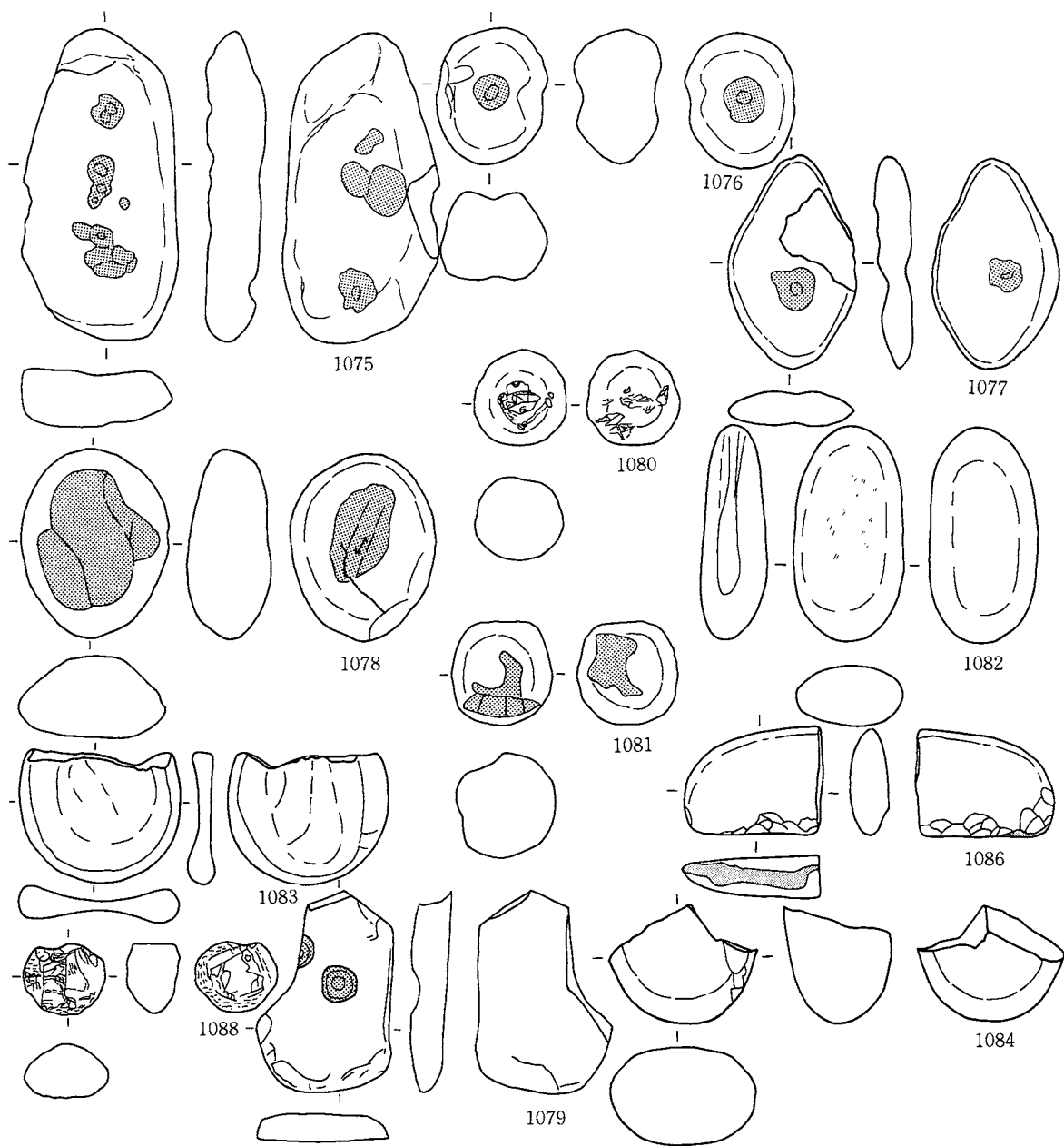
1097～1101の5点である。いずれも抽象的な形態のものである。1097と1100は類似する形態である。1098は刺突孔が円形でなく、動物型土製品も想定される。貫通孔は一对で表面の径が大きく、裏面が小さい。1099、1101は立体的であり、1101には下部から上部に貫通孔が設けられている。1099は頭部とみられる上部の左右に対となる貫通孔があったと思われる。1101は刺突や沈線の施し方等により1099より時期は古いものと思われる。



S = 1/2

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
1063	不定形石器 (二)		57	31	17	23.5	北平 黒色土	硬質泥岩		握器的か。	83	435
1064	不定形石器 (一)		53	29	12	18.4	北斜M (E) 埋土下部	粘板岩		鋸状	83	344
1065	不定形石器 (三)		60	30	14	28.3	北平M1-C 褐色プロ	硬質泥岩		他器種の未製品の	83	341
1066	不定形石器 (三)		48	21	8	9.6	北斜M (E) 埋土下部	流紋岩質細粒凝灰岩			83	337
1067	不定形石器 (一)		54	45	12	23.0	北斜M (E) 埋土下部	硬質泥岩			83	345
1068	不定形石器 (一)		54	38	12	25.4	北平M1-C 埋土下部	硬質泥岩		鋸状	83	342
1069	不定形石器 (一)		42	27	5	4.2	北斜M (E) 埋土	珪質泥岩			83	361
1070	不定形石器 (四)		28	25	9	7.2	北斜M1 (E) 埋土下部	珪質泥岩			83	370
1071	不定形石器 (一)		31	43	7	9.7	北平ベルトC 埋土	硬質泥岩		鋸状	83	329
1072	不定形石器 (一)		45	22	8	9.3	北斜M (E) 埋土	硬質泥岩		鋸状	83	350
1073	不定形石器		53	31	13	21.5	北斜M (E) 埋土	粘板岩			83	349
1074	不定形石器 (一)		67	30	18	28.6	北斜M2 (E) 埋土	硬質泥岩			83	261

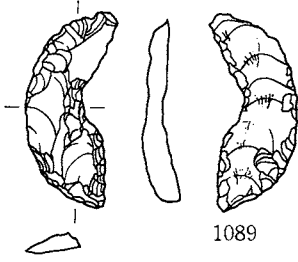
第111図 遺構外出土不定形石器



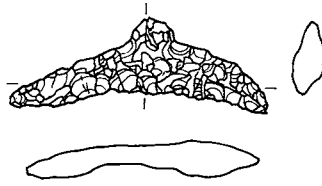
1075~1082・1084・1086・1088 : S = 1/2  
1083 : S = 1/8

No.	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	石材名	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
1075	凹石		181	92	34	630.0	北平 暗褐色土	両輝石安山岩		両面使用	84	479
1076	凹石		80	65	50	340.0	北斜 表土	両輝石安山岩			84	480
1077	凹石		122	76	21	280.0	北平M1-C 褐色土	流紋岩質細粒凝灰岩	一部欠損		84	475
1079	磨(凹)石		118	79	22	280.0	N 2 5 E 1 3 0 区埋土下部	細粒凝灰岩	欠損	打製石斧的	84	478
1078	磨石		111	86	49	615.0	北斜(31) 黒色土	細粒凝灰岩		溝状部分あり	84	486
1081	磨石		51	58	57	275.0	北斜(2H5c) 暗褐色土	石英(脈)		自然面(結晶)残存	84	481
1080	磨石		55	54	48	195.0	北斜M1-A 埋土	両輝石安山岩		自然面残存	84	482
1084	磨石		69	86	67	380.0	北斜縁 黒色土	両輝石安山岩	約2/5残存		84	484
1088	磨石		40	48	40	70.0	北斜縁 黒色土	チャート	約2/3残存		84	483
1083	石皿		154	187	31	1100.0	北平(3K) 黒褐色土	両輝石安山岩溶岩	一部欠損	縁辺を打ち欠いて整形	84	488
1086	半円状扁平打製石器		62	83	23	190.0	北平M1-B 埋土下部	両輝石安山岩	1/2残存	下側刃探ってある	84	476

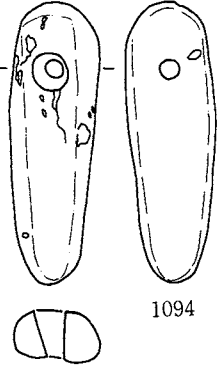
第112図 遺構外出土礫石器



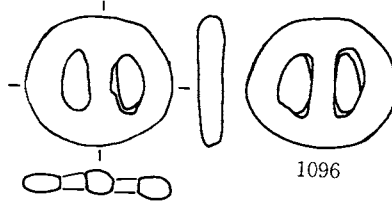
1089



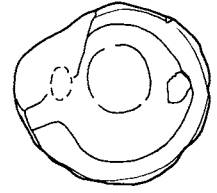
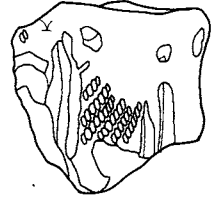
1093



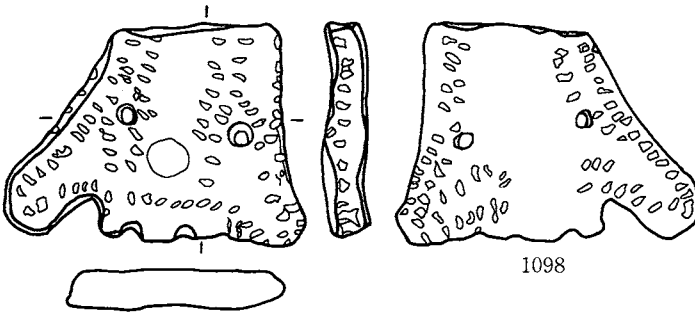
1094



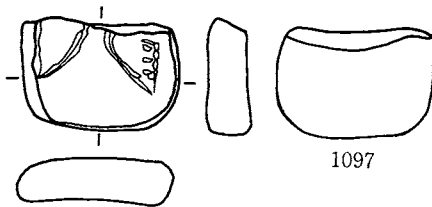
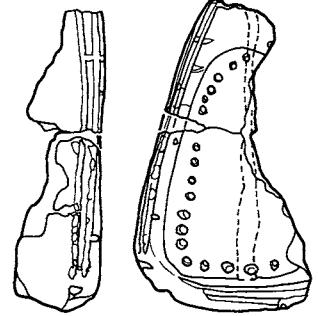
1096



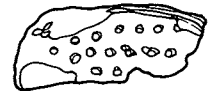
1099



1098



1097



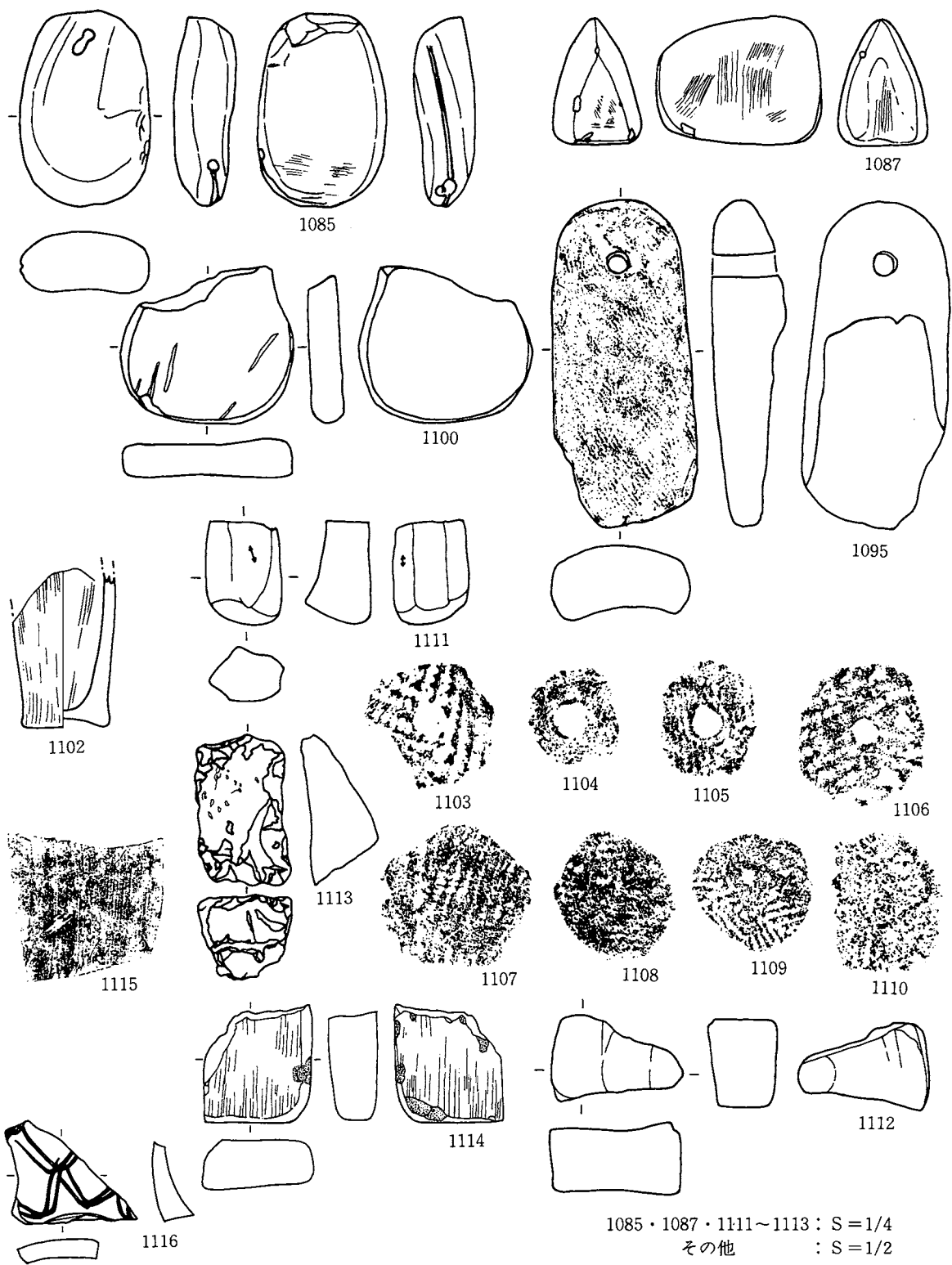
1101

1101 : S = 1/3  
その他 : S = 2/3

No	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	材質	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
1089	異形石器		39	18	5	2.7	北平 褐色土	硬質泥岩		挟入	85	510
1093	異形石器		19	51	6	2.7	北斜M (E) 埋土	チャート			85	417
1094	垂飾り		56	18	14	16.5	北斜M (E) 埋土	硬玉			85	162
1096	装飾品		25	39	5	3.0	北斜 (E) M1下部		ほぼ完形	酸化鉄付着	85	539
1097	土版		22	30	10	6.8	北平表探	0層	破片	層位不明、八字状縁面と駒突痕あり。焼褐色。層位不明、2層の写通乳と駒突列がある。	85	536
1098	土偶		42	60	8	21.5	北平 褐色土		破片		85	542
1099	土偶		35	40	35	29.2	北平 褐色土		破片	頭部と墨おれる上部左右に貫通孔がある。	85	543
1101	土偶		122	72	37	154.0	8土坑 下部		破片	頭部破片と縁面・肥厚している周辺部に比較	85	545

第113図 遺構外出土石器・土製品





第114図 遺構外出土石製品・土製品

№	名称	器種分類	長さ	幅	厚さ	重さ	出土地点・層位	材質	欠損状況	備考・特徴	写真図版	遺物番号
1085	磨石(刻線)		127	85	39	500.0	北斜(CS) 黒色土	流紋岩質灰岩		側面に凹所、刻線がある	84	477
1082	磨石		125	40	54	475.0	北斜C 黒色土	細粒凝灰岩		一側辺擦ってある	84	485
1095	垂れ飾り		105	46	23	108.0	北斜 O層	土製品	中下部欠損	化粧粘土多用、全面に磨いた痕跡を認める	85	544
1100	土版		51	55	13	30.5	第一号住(Q1)中位		破片	部位不明、器状に部らんでいない	86	541
1102	ミニチュア土器		48	35	26	21.5	北平3K 暗褐色土		口縁部欠損	体下部から樹状工具で、平行線を上部まで施文	86	540
1103	円盤状土製品		42	43	9	18.1	北斜 黒色土			中央に穿穴。色調は純褐色	86	553
1104	円盤状土製品		35	32	9	11.3	北平2K 暗褐色土			中央に穿穴。全体的に磨滅。表面の色調は褐色	86	551
1105	円盤状土製品		40	35	8	11.2	北平 褐色土			中央に穿穴。全体的に磨滅。表面は褐色	86	550
1106	円盤状土製品		49	43	7	16.6	10号土坑 埋土上部			中央に穿穴。不整形。色調は褐色	86	552
1107	円盤状土製品		49	46	6	17.9	北平 暗褐色土			口縁部近く、角閃石結晶を含む。色調は純褐色	86	548
1108	円盤状土製品		40	40	8	16.4	北平3K 暗褐色土			角閃石結晶を含む。色調は純褐色	86	547
1109	円盤状土製品		40	40	11	18.6	第三号住(Q5)褐色土			器底の磨滅。角閃石結晶を含む。色調は褐色	86	546
1110	円盤状土製品		37	47	10	18.9	北平 黒色土			磨滅。器底の角閃石結晶を含む。色調は褐色	86	549
1111	砥石		67	49	42	140.0	北平M1-B 埋土下部	流紋岩			86	535
1112	砥石		58	85	45	190.0	南斜E中端 黒褐色土	両輝石安山岩溶岩			86	487
1113	砥石		70	44	31	110.0	北斜 黒色土	輝石安山岩		三面使用	86	515
1114	砥石		38	35	16	347.0	旧道 黒色土	流紋岩		全面使用	86	514
1115	須恵器		50	50	8	28.1	北斜(E)M11層		破片	胴下部、断口等に酸化鉄付着。	86	538
1116	磁器		30	42	6	13.1	表探 表土		破片	茶碗の一部、表面灰白色に髹	86	537

#### その他の土製品(第113~114図、写真図版67)

1102はミニチュア土器である。全体的に磨滅し、底部から体部にかけての脆くなった破片である。器形は単純で、施文も刷毛状のもので筋目を施しているだけである。

1095は比較的大きなもので、表面に縄文が施されている。上部には貫通孔が認められる。

1096は表面に酸化作用が認められるもので、装身具的な形態をなしている。

1103~1110の8点は土器転用の円盤状土製品である。1103~1106は中心部に孔を有し、他の4点にはそれがない。

#### 4 その他

1115は須恵器の小型壺の体部片と思われる。須恵器の破片は他に表探遺物として2点ある。

1116は茶碗の破片で江戸以降の伊万里焼の磁器である。

## V ま と め

### 1. 遺構について

検出された遺構は、縄文時代の住居跡19棟、炉跡1基、土坑25基、土器埋設遺構1基、中・近世の溝1条である。

#### (1) 住居跡

調査区の北端部に集中し、特に北端平坦面に密度が高い。北端斜面には5棟であり、かつては緩傾斜面であったと想定される平坦面には10棟が検出された。遺構の占地状況からはさらに調査区域外に存在することが推測され、集落の一部を構成する住居跡と考えられる。

平坦面においては、いずれも住居跡相互に重複するものであるが、古い順に第19号住居跡－第16号住居跡－第18号住居跡－第11号住居跡－第12・13・14・17号住居跡－第15号住居跡となる。共伴する遺物から縄文時代前期末葉から中期初頭に位置付けられる。

北端の斜面で重複する住居跡は、第9号住居跡と第10号住居跡のみであるが、他は多くの土坑を切って構築されている。北端斜面での共伴遺物からみた新旧関係は古い順に、第1・2・3・8・10号住居跡－第4号住居跡－第9号住居跡の順となる。これらは、縄文時代中期初頭から中葉の時期に属する。また、第5号住居跡は最も新しく位置付けられる。

#### (2) 土坑

大半の土坑は北端の斜面に集中し、住居跡に重複して検出されている。形状はプラスチック状を呈するものが大部分である。そのうち、第6・19・20・22号の4基が副穴をもつものである。

土坑出土の遺物は、縄文時代前期中葉から中期後葉までの土器が出土しているが、第17号土坑は前期末葉に属し、第6・19・20号土坑は縄文時代前期末から中期初頭に位置付けられる。

いずれも住居跡に対応するものと考えられるが、個々の対応関係は明らかでない。

#### (3) 溝

6E-10C区と18D区で途切れているが、残存する溝の走行方向や形状から一連の溝跡と考えられ、埋土や底部の状況から流水路として開削された溝跡と推測される。両端の比高差は1.5mであり、緩やかな勾配である。3E区から10C区にかけては開析された可能性が高い。

開削の時期については、共伴する遺物がないため不明であるが、調査区の南東1.5kmに位置する荒木田城への導水路である「土樋」と伝承されており、これによれば中世後半に比定される。この「土樋」は昭和初期まで平坦面に窪地として残存していたとされるものであり、近世に使用されていた可能性もあげられる。また、荒木田城の堀が水堀であったかは不明であり、中・近世の時期を特定できる資料は見当たらない。

## 2 遺物について

### (1) 土器

#### (1) 大木式土器と円筒式土器のあり方 (第1・2表)

第1・2表は本遺跡の遺構外から出土した土器の口縁部破片個体数を、時期別に表したものである。遺構外出土土器の9割以上は、北端斜面・北端平坦面・斜面南東平坦面・溝埋土から出土している。口縁部個体数の算出にあたっては、地文だけの破片は除き文様から所属時期の明確なものを対象にして行った。同一個体であると思われる口縁部破片の場合でも複数個体として算出した。様々な問題点はあるが、本遺跡における土器の在り方の最大値であり、一つの傾向性を示すものと考えられる。また、概括的ではあるが地点ごとにある程度の時期的なまとまりが看取される。斜面南東平坦面は縄文時代中期中葉・北端斜面は縄文時代中期初頭～中葉、北端平坦面は縄文時代前期末葉～中期初頭の土器の集中がうかがわれる。

前述のように、本遺跡からは縄文時代前期・中期の大木式土器と円筒式土器が出土しており、時間幅も広く複雑な様相を呈している。縄文時代前期についてみるならば、大木5・6式が少量出土しているものの円筒式土器は下層b・c・dの各型式の土器が出土しており、下層d式の時期に一つのピークをむかえるようである。一方、縄文時代中期には円筒上層式土器が漸次減少傾向にあり、大木式土器では大木7b式期にピークをむかえて減少の傾向にあり、円筒上層式土器と拮抗状態にある。これら遺物の在り方は、遺構の在り方と符合するようである。

縄文時代前期・中期に東北地方北半に分布する大木式土器と円筒式土器については、従来からその併行関係・両文化圏の境界の問題が様々論じられてきた。この観点から本遺跡をみた場合、純粋な大木6式土器も少量出土しているが併行関係にあると考えられている円筒下層d式の出土量ははるかに多い。また、本遺跡で分類上円筒下層d式と分類したもののなかには明らかに大木式の影響を受けたと思われる土器も少量出土している。縄文時代前期にはこの周辺は円筒式土器が主流を占める地域であり、この傾向は円筒下層d式期に一段と強くなり、徐々にではあるが大木式の影響がみえはじめる。今回の調査では、縄文時代中期の円筒上層式に比定される遺構は検出されていないが、遺物が比較的多量に出土しており、周辺に該期の遺構の存在が十分に予想される。他方、遺物・遺構とも縄文時代中期初頭～中葉にかけて大木系が卓越する傾向にあり、円筒式文化圏に包括されていたこの地域が漸次大木式文化圏に移行したのではないかと考えられる。

## (2) 土器群の時間的位置付けと分布について (第115～117図)

既に、各土器群の概略的な位置付けについては前項で述べた。ここでは周辺地域での発掘事例と比較することとする。

第Ⅰ群とした土器は口縁部文様帯に回転縄文が施文される一群である。そのなかで1類aとしたものは口縁部文様帯に綾線文・不整撚糸文が施文されている。一部円筒下層a式も含んでいると思われるが大半は円筒下層b<sub>1</sub>式におさまるものと思われる。また、1類b～dは典型的な円筒下層b<sub>2</sub>式である。本遺跡から出土しているこの群に属する土器は区画帯としての隆帯がほとんどみられない。それに代わり区画帯としての役割をはたしているのは、刺突文・撚紐の圧痕である。全体に口縁部文様帯の幅が広く、口唇部付近で外側に外反するのが特徴である。口径と底径の差は小さく、なかには縦位の撚糸文が施文されているものもあるが、口縁部から底部にかけて施文されるのは圧倒的に結束羽状縄文が多い。円筒下層b式は西根町の地花遺跡・松尾村長者屋敷遺跡・一戸町子守A遺跡・久慈市大尻遺跡・野田村上明内遺跡・軽米町入屋敷I a・I b遺跡・大日向II遺跡などから出土している。特に、この時期の土器を比較的多く出土した久慈市大尻遺跡では、胴部文様帯に木目状撚糸文・単節斜行縄文・縦位綾線文・多軸絡条体回転文がみられ内陸部のそれとはやや様相を異にしている。分布の傾向としては県北部の馬淵川流域、内陸部では北上川流域の奥羽山脈寄りの松尾村・西根町地域、海岸部では野田村周辺までその分布が知られる。これらの地域では、この時期に対応する大木系の土器の分布は希薄である。

次に、第Ⅰ群2類としたものは円筒下層c式に比定されると思われる。本県においてこの時期の土器を出土する遺跡はほとんどなく実態は不明な部分が多い。特に本遺跡で2類bとした口縁部文様帯に、口縁部と平行するように単軸絡条体の圧痕文が施文された一群は、口縁部文様帯の幅、口縁部文様帯の施文技法の点では、円筒下層d<sub>1</sub>式に分類されるものであろう。しかし、口径と定径の差が著しく小さく、または口縁部が外反しており、器形の面ではむしろ円筒下層b式に近いものである。現時点ではこのような一群を円筒下層c式のなかでも下層b式に近いものとしてとらえておきたい。類似する土器は、久慈市大尻遺跡・松尾村長者屋敷遺跡など県北半に僅かにみられる程度である。

第Ⅰ群3類とした円筒下層d式に比定される一群は、本遺跡では質・量とも充実している。口縁部文様帯には、撚紐・単軸絡条体の圧痕を使用して様々な文様が施文される。胴部文様としては、単節斜行縄文・羽状縄文・縦位撚糸文・木目状撚糸文などがみられる。口径と底径の差の大きい一群と、その差が顕著でない一群が認められる。概して前者はバケツ形を呈し、後者は胴部に膨らみをもつものが多い。また、218・165・220のように円筒式土器と大木式土器の折衷様式のような一群もみられる。円筒下層d式が主体に出土している遺跡は、久慈市大尻遺

跡・野田村広内遺跡・九戸村田代遺跡・松尾村水切場遺跡・雫石町塩ヶ森Ⅰ遺跡をはじめ、県北部の馬淵川上流域に散見される。これらの遺跡のなかには、同じ時期に併行するといわれる大木6式も僅かに出土しているが円筒下層d式の出土量とは比較にならない。一方、大木6式を比較的多量に出土する遺跡としては、北上市滝ノ沢遺跡・江釣子村鳩岡崎遺跡・金ヶ崎町和光6区遺跡・大船渡市清水貝塚などがあるが、これらの遺跡では円筒下層d式に比定されるような土器の出土はほとんど皆無である。縄文時代前期末葉の時期には大木系土器が徐々にではあるが円筒下層式土器分布圏のなかに浸透し始めており、円筒系土器の分布の南限地域は内陸部では雫石川流域、沿岸部では田野畑村周辺が考えられる。

第Ⅱ群1類は円筒上層a式に比定される土器群である。口縁部文様帯に隆帯を貼付し、撚紐の圧痕を多用することがこの一群の特徴である。胎土に植物性繊維を混入させる手法は廃れ、土器内面を丁寧に磨いたものが多くなる。いわゆる弁状突起と呼ばれる四波状を呈する大型の深鉢形土器がこの時期からみえはじめる。口縁部に平行する撚紐圧痕の間に縦に短い撚紐の圧痕を充填して設問する手法は、施文工具に相違はあるものの本遺跡で大木7a式（第Ⅱ群6類a）と位置付けたものの一部に類似している。

第Ⅱ群2・3類はそれぞれ円筒上層b・c式に比定されると思われる。両者の違いは、刺突文を施文する際に縄文原体の末端を使用するか、棒状工具を使用するかにある。ただし、弁状突起を持つ大型の深鉢形土器は上層b式に多く見られ、四波状を呈する小型の深鉢形土器が上層c式からみえはじめる傾向がうかがえる。

第Ⅱ群4類は円筒上層d式に比定される一群である。大型の土器は見られなくなり、小型の四波状を呈する深鉢形土器が主体を占めるようになる。隆帯は前型式に引き続き文様構成の主流ではあるが、隆帯というよりはむしろ細い粘土紐が貼付されたものである。口縁部文様帯を中心に文様が展開していたものが、この時期に至って胴部上半にまで拡大してくる。粘土紐が貼付された空間には、特に刺突文・圧痕文などはみられない。

第Ⅱ群6類としたものは、一部大木6式、大木7b式と重複する部分もあると思われるが、大半は大木7a式で把握可能な一群である。平縁が主体であるが、弁状突起をもつ一群は大木7a式のなかでも、より7b式に近いものであろう。文様構成の要素としては、平行・波状・山形・沈線文等の刺突文・刻目などがあり、これらの要素が複雑に結び付いて文様を構成している。施文工具として半截竹管・棒状工具が使用され、器表面に刻み込むというマイナスの加飾法がとられる。この類のなかでも、粘土紐を貼付する一群は7b式に帰属する可能性もある。一般にこの第Ⅱ群6類の土器は、胎土に小礫を含み、焼成が良好でかたいものが多い。丹羽編年の大木7様式の古相・中相に対応するものであろう（丹羽：1989）

第Ⅱ群7類とした一群は縄文原体の側面圧痕、あるいは隆帯と併用され文様が施文される。

多くは平縁をなすが、なかには弁状突起を持つ大型の深鉢形土器もある。圧痕文に使用される縄文原体は、一般に太い撚りのものが多い。焼成が良くかたいものが多いが、胎土には多量の砂粒が含まれる。丹羽編年の大木7様式の新相に対応するものであろう（丹羽：1989）

第II群8類とした一群は大木8a式に比定されるものである。キャリパー形を呈する深鉢形土器が多い。口縁部に弁状突起の名残と考えられる大突起をもつものが多い。これらのなかでも、29・120・32・27は大木8a式でも古く位置付けられるのではなかろうか。胴部文様帯まで垂下する波状文、鶏冠状のモチーフ、口縁部への刻目は前型式から受け継いだものと思われる。多くのものは、丹羽編年の大木8a式古相に対応すると思われる。（丹羽：1989）

次に、縄文時代中期の円筒上層系土器と大木系土器の関係について触れてみたい。この両者の関係については田代遺跡の報告のなかで、「今回の調査での印象としては、第4群1類の時期（村越の円筒上層e式）に、大木8b式の影響を強く受けて円筒土器が変わると共に急速に大木式土器文化に吸収されていったようである」という見解がある（遠藤：1982）。また熊谷常正は、「北上川中流域における大木8a式土器」のなかで、円筒上層式土器との関係に触れ、大木7b式と円筒上層c式、大木8a式（古）と円筒上層d式、大木8a式（新）と円筒上層e式の併行関係を考えている（熊谷：1989）。久慈市三崎III遺跡では、キャリパー形に近い土器の口縁部に刺突文が施されており、これを上層d式との近似を指摘しながら上層c式として把握している（千田：1978）。この土器を器形をみれば、大木7b～大木8a式のものに近い。

本遺跡で大木系土器と円筒上層系土器の明確な共伴関係をとらえた事例はすくない。以下の点を指摘しまとめとする。①大木7a式の口縁部文様帯の平行沈線間を刺突文で埋める手法と、円筒上層a式にみられる撚紐による同様の手法は類似する。②上層b・c式にみられる大型の弁状突起は、大木7a式（新）から7b式の土器にみられる。③江釣子村鳩岡崎遺跡では第5群と分類された大木7b式の一部に、胴部上半に垂下する隆帯の末端にボタン状貼付が施されたものがある。久慈市三崎III遺跡で上層c式とされた土器の胴部上半にも同様にボタン状貼付が施されたものが存在する。④上層d式に使用される細い粘土紐貼付と大木8a式古相にみられる粘土紐貼付に共通性がみられる。⑤久慈市三崎III遺跡で平縁のキャリパー形を呈する土器の口縁部文様帯に円筒上層c式にみられる刺突文が施文されている。このような手法は、本来この時期に対応する大木式土器にはみられない。相互の要素が複合した土器と考えられる。⑥本遺跡第2号土坑埋土出土資料のなかで、119は円筒上層d式に、120は大木7b式の新相ないしは大木8a式の古相に比定されるものである。⑦第4号住居跡出土の大木8a式の古相グループに対応する一群と円筒上層d式に比定される土器が共伴している。⑧陸前高田市古館遺跡では、円筒上層b式と大木7b式の土器が土坑内で共伴状態で出土している。（中川：1988）

上述のような諸事例・諸見解から強引ではあるが、現段階では大木7a式の古相と円筒上層a

式、大木7 a 式の一部と円筒上層 b 式、大木7 b 式と円筒上層 c 式、大木8 a 式古相と円筒上層 d 式の併行関係が想定される。

## (2) 石器

掲載した石器は500点を越える。その他フレーク、磨石、凹石、石皿等を含めた総重量は60kg以上である。

器種別では、石鏃が40%、石匙と石槍が各10%、石筥が5%である。組成からは多様な使用目的が考えられる石匙と石槍の比率がやや高いという特徴がみられる。やや粗雑なつくりの石器や大型の石器には油脂と思われる付着物の観察されるものが認められる。礫石器では磨製石斧が比較的多い。

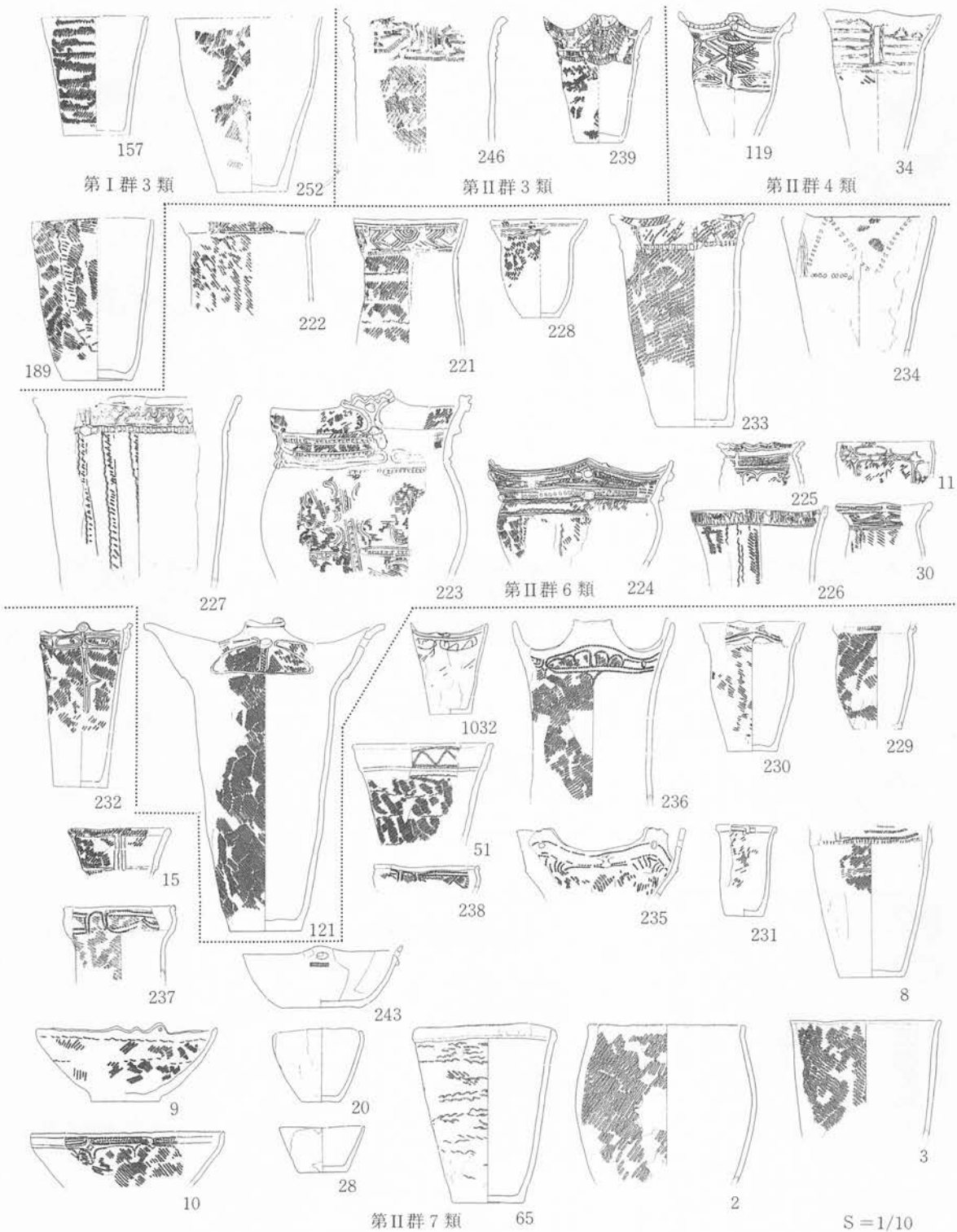
石材は堆積岩の硬質または珪質泥岩が60%を越え、鑑定によれば泥岩は岩手郡雫石町西部産に比定されている。黒曜石は2%ほどであるほか、硬玉が含まれる。

硬玉は主成分であるヒスイ輝石の微量成分の含有により様々な色調をおびるが、磨製石斧に緑色細粒凝灰岩を多用していることから緑色を呈するものを意識的に用いたことも考えられる。供給地は糸魚川周辺とされるが、西田遺跡の出土例や穿孔の技法等から縄文時代中期と推定される。

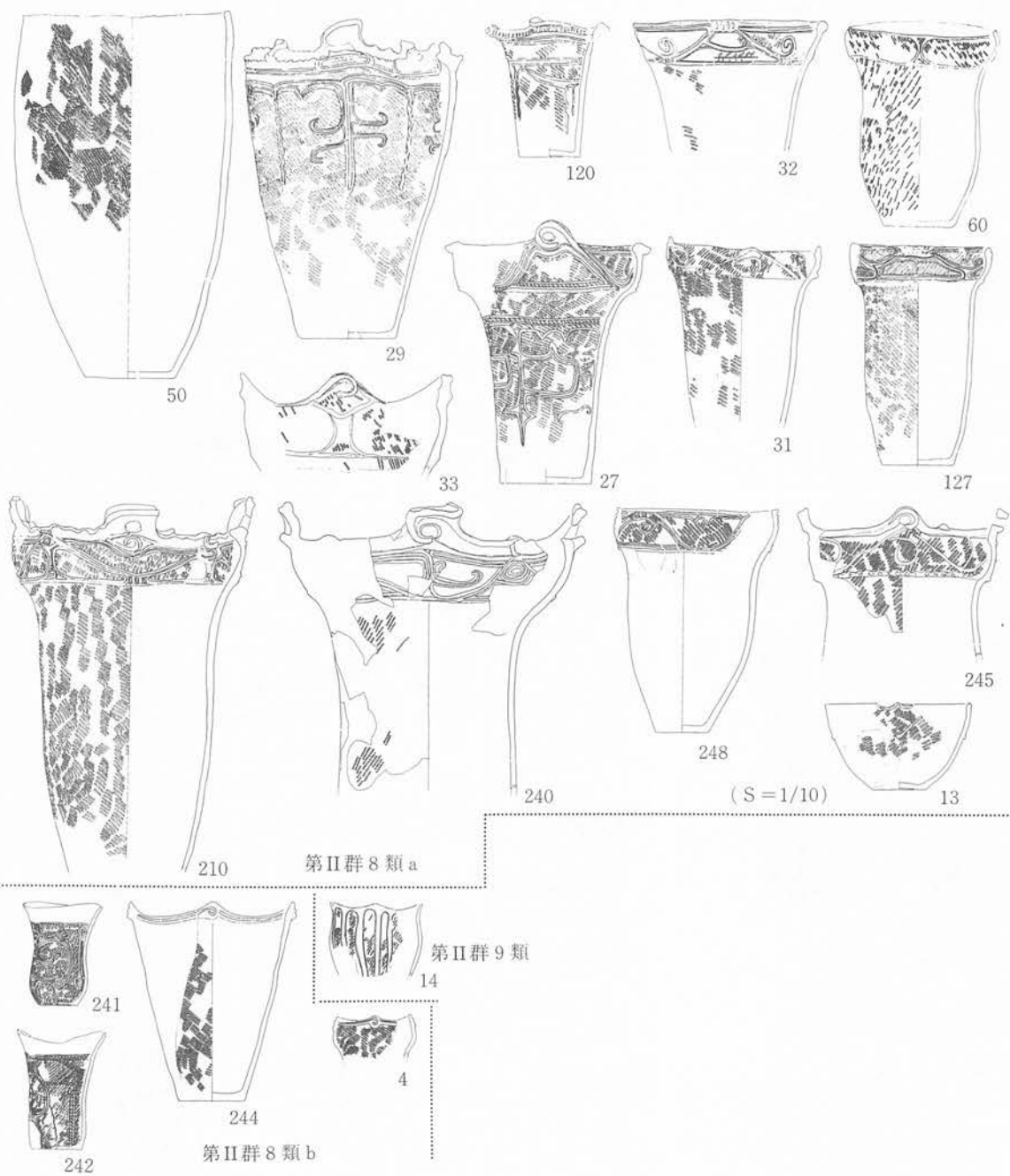




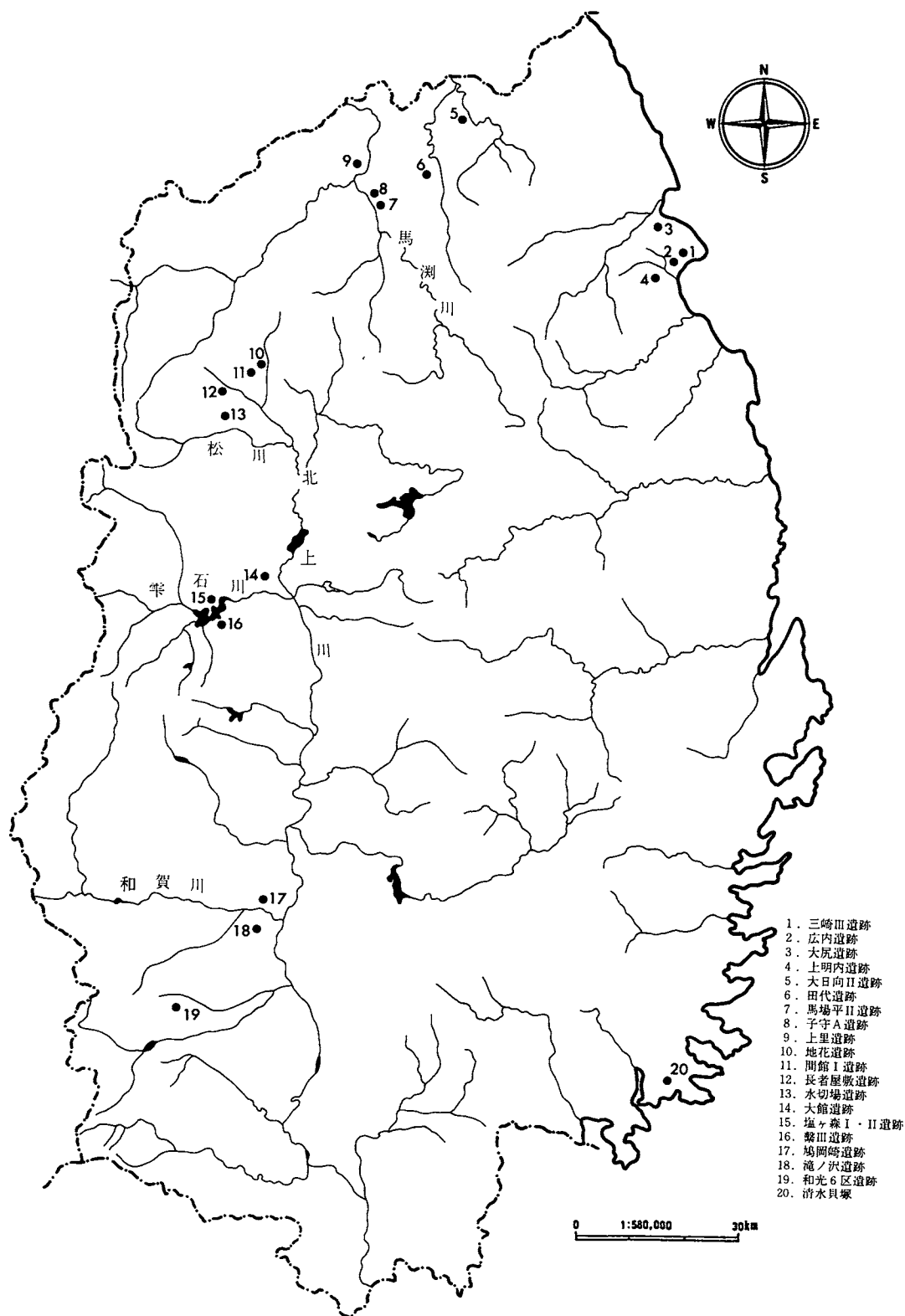
第115図 集成図(1)



第116图 集成图(2)

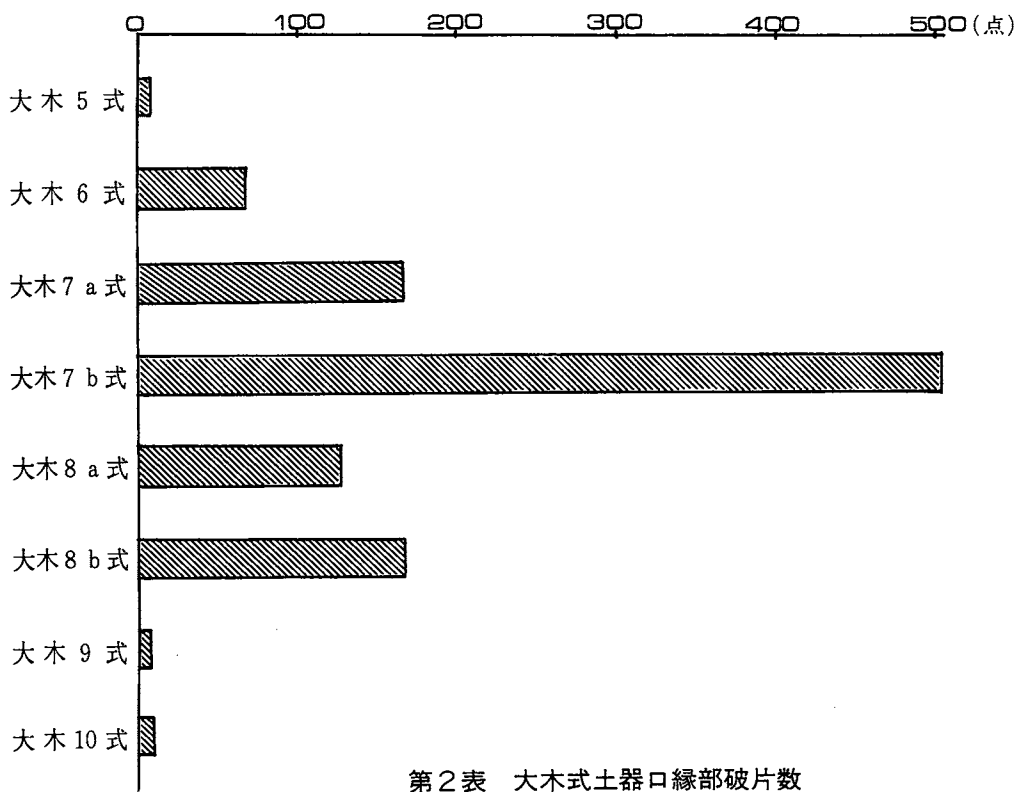
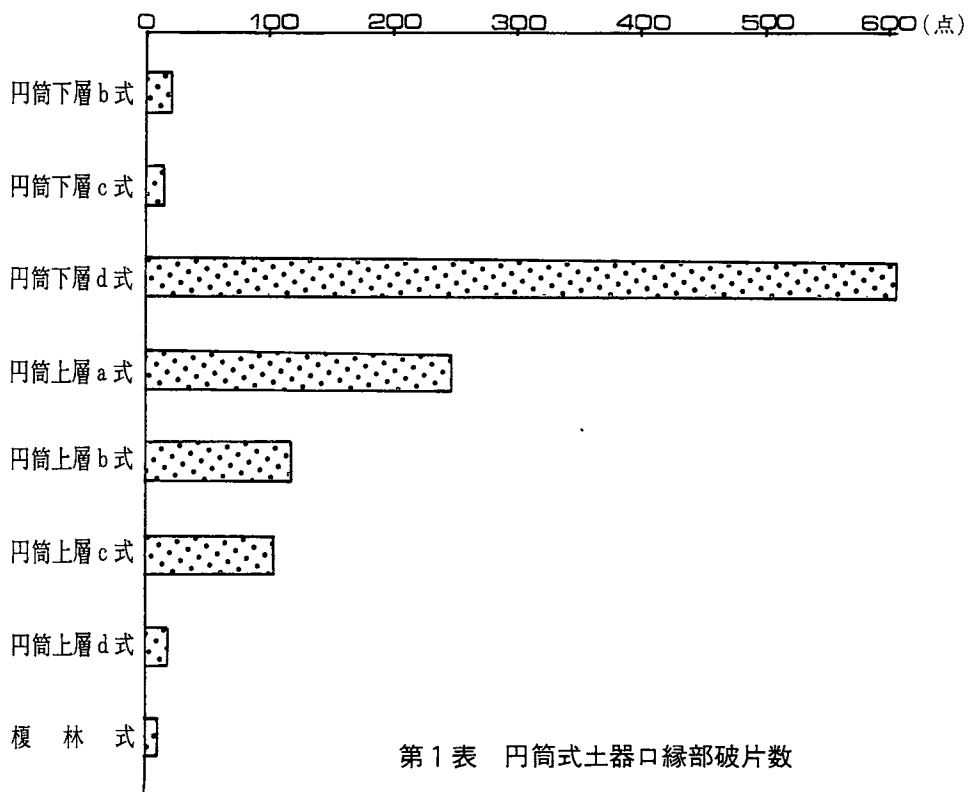


第117図 集成図(3)



1. 三崎Ⅲ遺跡
2. 広内遺跡
3. 大尻遺跡
4. 上明内遺跡
5. 大日向Ⅱ遺跡
6. 田代遺跡
7. 馬場平Ⅱ遺跡
8. 子守A遺跡
9. 上里遺跡
10. 地花遺跡
11. 間館Ⅰ遺跡
12. 長者屋敷遺跡
13. 水切場遺跡
14. 大館遺跡
15. 塩分森Ⅰ・Ⅱ遺跡
16. 磐山遺跡
17. 鳩岡崎遺跡
18. 滝ノ沢遺跡
19. 和光6区遺跡
20. 清水貝塚

第118図 円筒式土器・大木式土器出土主要遺跡



## 引用・参考文献

- 相原康二他(1979)：『大渡野遺跡』岩手県教育委員会  
相原康二他(1982)：『江釣子村鳩岡崎遺跡』東北縦貫自動車道埋文報告XV 岩手県教育委員会  
青木重孝他(1987)：『史跡寺地遺跡』青海町教育委員会  
稲野裕介(1983)：『滝ノ沢遺跡』北上市教育委員会  
岩手県教育委員会(1980)：「西田遺跡」『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書VII』  
平井進也(1989)：『寺前I・II・片地家館遺跡』(勲)岩手県埋蔵文化財センター  
内山真澄(1980)：「寿都3遺跡」寿都町文化財調査報告書II  
江坂輝彌(1955)：「青森県女館貝塚発掘調査報告」石器時代3号  
江坂輝彌(1958)：「青森県蟹沢遺跡調査報告」石器時代5号  
江坂輝彌(1970)：『石神遺跡』ニュー・サイエンス社  
遠藤勝博・高橋義介(1982)：『田代遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財センター  
及川洵(1982)：「縄文時代の文化」田野畑村史I 田野畑村教育委員会  
小笠原幸範他(1978)：『熊沢遺跡』青森県教育委員会  
小笠原好彦(1968)：「東北地方における前期末から中期初頭の縄文土器『仙台湾周辺の考古学的研究』  
小野田哲憲(1978)：「岩手の弥生式土器編年試論」岩手県立博物館研究報告第5号  
加藤普平・鶴丸俊明(1980)：『図録石器の基礎知識I』柏書房  
加藤普平他(1983)：「縄文人の精神文化」『縄文文化の研究9』雄山閣  
加藤普平(1983)：「道具と技術」『縄文文化の研究7』雄山閣  
興野義一(1970)：「大木式土器理解のために(IV)」考古学ジャーナル48  
興野義一(1984)：「大木式土器について」『宮城の研究I』清文堂  
草間俊一(1971)：「岩手県田代遺跡調査報告書」岩手大学学芸部研究年報第13巻  
草間俊一(1971)：「野田村広内遺跡」日本考古学年報19 日本考古学協会  
工藤泰博他(1980)：『大平遺跡発掘調査報告書』青森県教育委員会  
熊谷・小田野・高橋(1982)：『岩手の土器』岩手県立博物館  
熊谷常正(1989)：「北上川中流域における大木8a式土器」岩手県立博物館研究報告第7号  
後藤守一(1956)：「縄文時代の生活—衣食住」日本考古学講座3 河出書房  
佐々木清文・佐々木嘉直(1987)：『和光6区遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
鈴木克彦他(1975)：『中の平遺跡発掘調査報告書』青森県教育委員会  
鈴木道之助(1981)：『図録石器の基礎知識II』柏書房  
白鳥良一(1989)：「前期大木式土器様式」『縄文土器大観I』講談社  
鈴木孝志(1958)：「岩手県岩手郡松尾村水切場遺跡調査概報」上代文化28輯  
芹沢長介編(1974)：『碁石遺跡』大船渡市教育委員会社教シリーズ17  
高橋昭治(1973)：「西根町地花遺跡」北進考古学資料室  
高橋与右エ門(1983)：『上里遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財センター  
竹内俊一他(1969)：『はまやま—勾玉の故郷—』富山県教育委員会  
千田和文(1978)：『三崎(III)遺跡発掘調査報告書』久慈市教育委員会  
中村良幸他(1979)：『立石遺跡』大迫町教育委員会  
丹羽茂(1981)：「大木式土器」『縄文文化の研究4』雄山閣  
丹羽茂(1989)：「中期大木式土器様式」『縄文土器大観I』講談社  
林謙作(1967)：「縄文文化の発展と地域性—東北」『日本の考古学II』河出書房新社  
藤沼邦彦他(1969)：『長根貝塚』宮城県教育委員会  
北海道教育委員会(1980)：『美沢川流域の遺跡群IV』  
三田史学会(1952)：『加茂遺跡』  
宮城県教育委員会(1978)：『上深沢遺跡』東北自動車道遺跡報告書I  
三宅徹也(1982)：「円筒土器」『縄文文化の研究3』雄山閣  
三宅徹也(1989)：「円筒土器下層様式」『縄文土器大観I』講談社  
三宅徹也(1989)：「円筒土器上層様式」『縄文土器大観I』講談社  
村越潔(1974)：『円筒土器文化』雄山閣  
面代民義・千葉啓蔵(1987)：『大尻遺跡発掘調査報告書』久慈市教育委員会  
葉科哲雄他(1987)：「ヒスイの産地分析」富山市考古資料館紀要第6号

写 真 图 版



遺跡全景 南東より



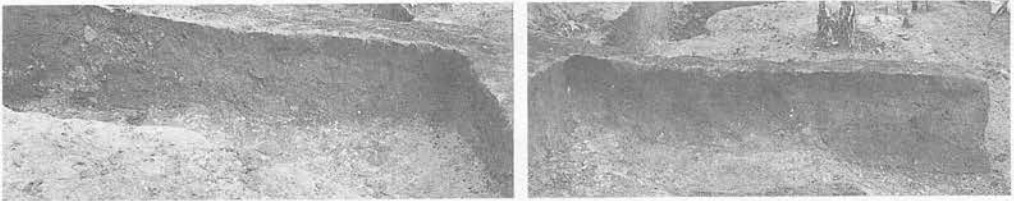
北端斜面 尾根裾部 土坑群

写真図版1 遺跡の全景・土坑群

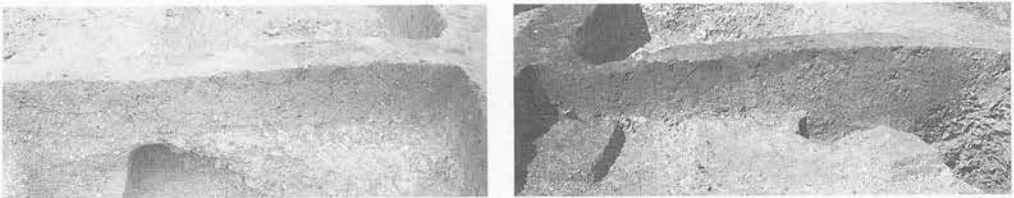




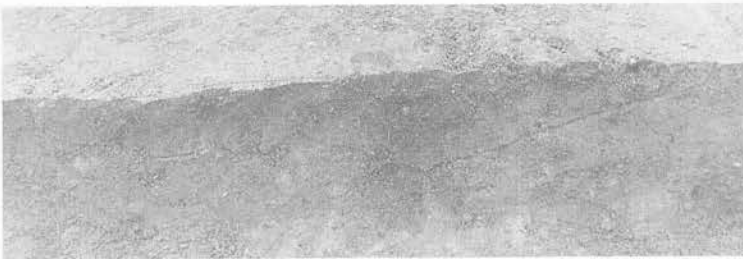
炉断面



南北埋土断面



東西埋土断面



第1号住居跡平面

写真図版2 第1号住居跡



第2号住居跡平面



埋土南北断面



石囲炉下出土土器

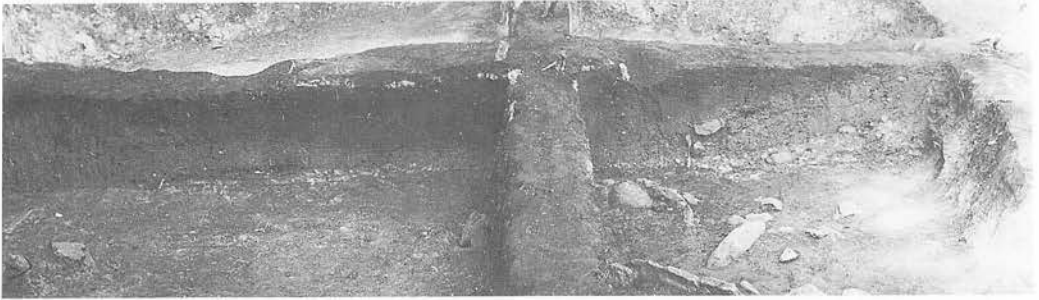


同左断面

写真図版3 第2号住居跡



第3号住居跡平面

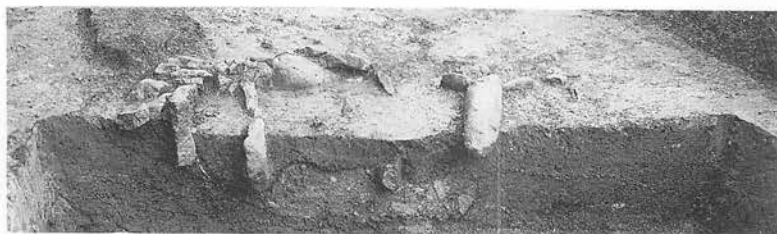


埋土東西断面



埋土南北断面

写真図版4 第3号住居跡



第3号住居跡炉断面



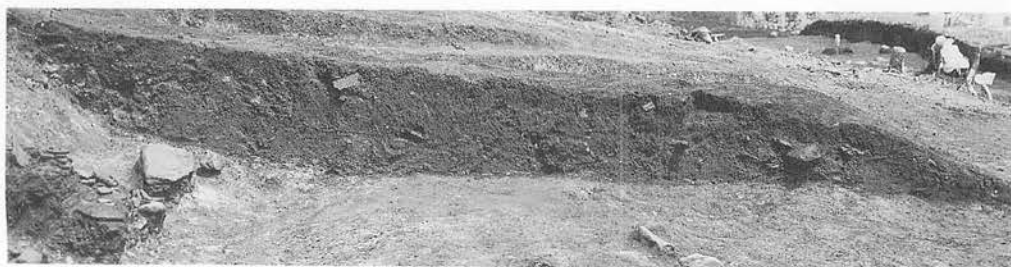
第4号住居跡炉平面



同左断面



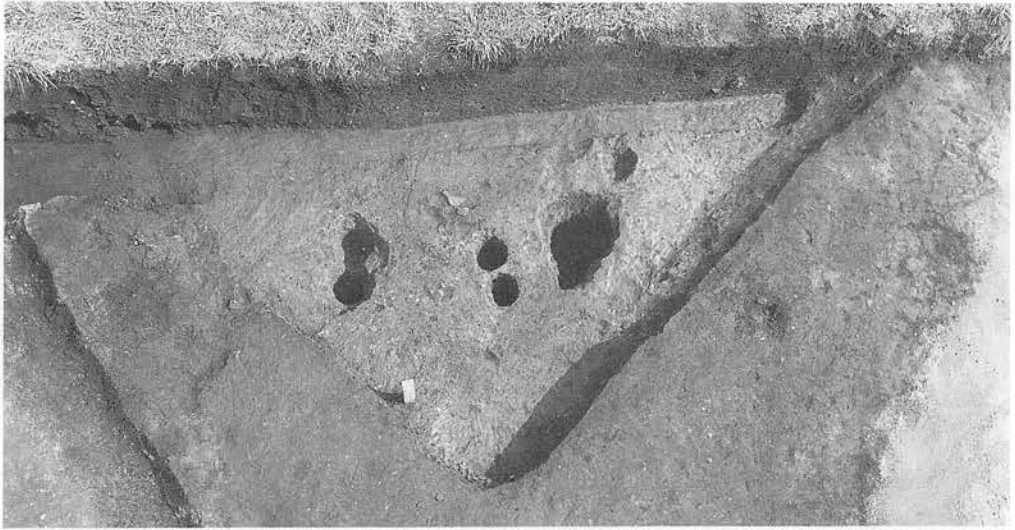
第4号住居跡平面



同東西埋土断面

写真図版5 第3号住居跡・炉跡、第4号住居跡





第5号住居跡平面



第6号住居跡平面

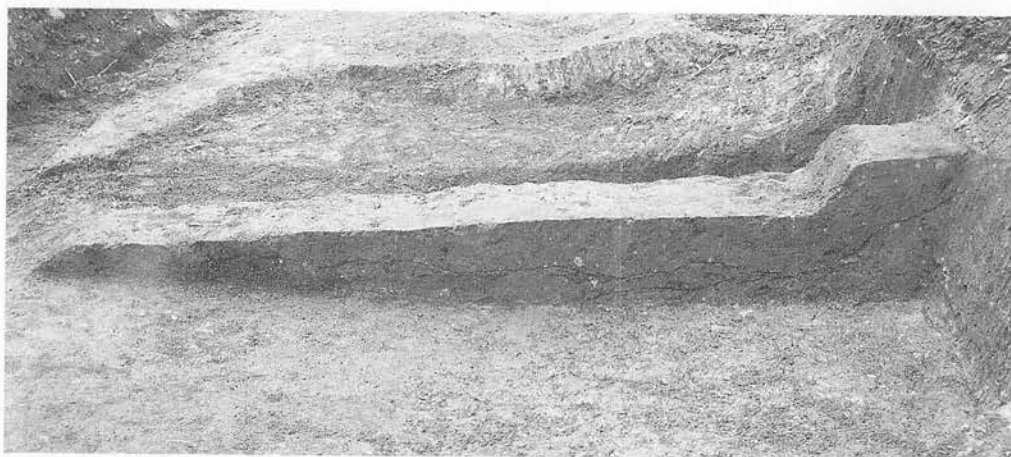


第6号住居跡断面

写真図版6 第5・6号住居跡



第7号住居跡平面



埋土南北断面



第8号住居跡平面



第8号住居跡断面

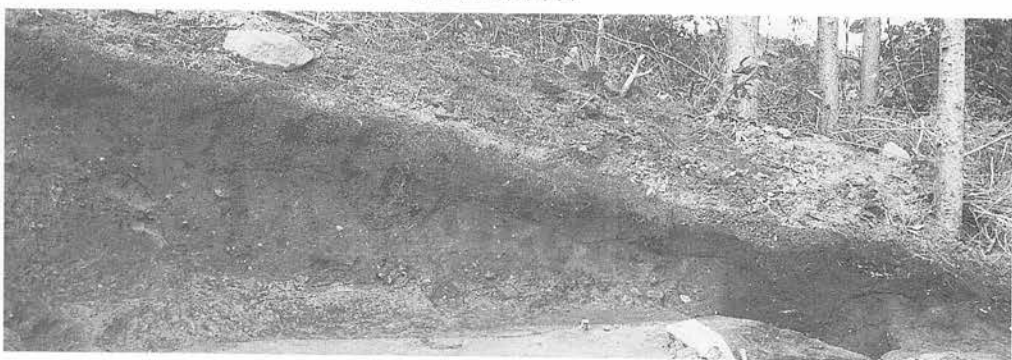


第9号住居跡断面

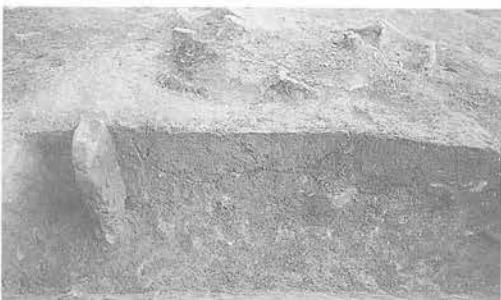
写真図版8 第8・9号住居跡



第9号住居跡平面



第10号住居跡断面



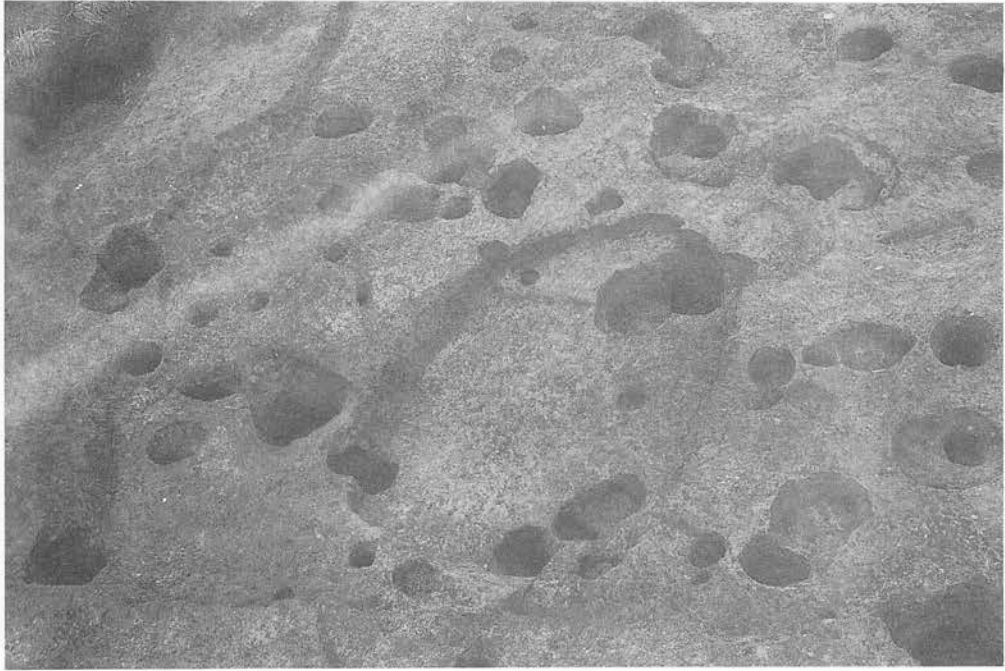
第10号住居炉断面



第10号住居内土坑断面

写真図版9 第9・10号住居跡

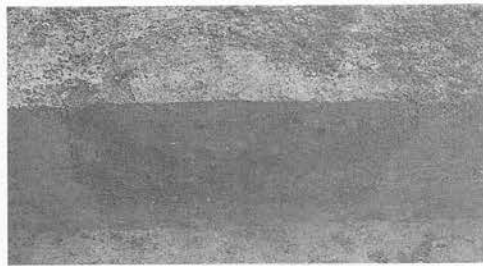




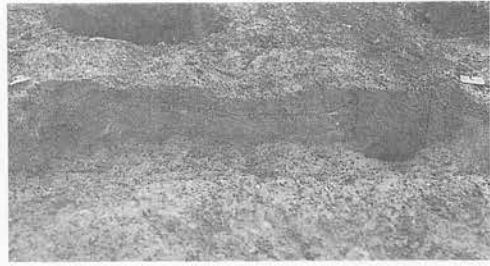
第11号・13号住居跡平面



北端平坦面東西土層断面



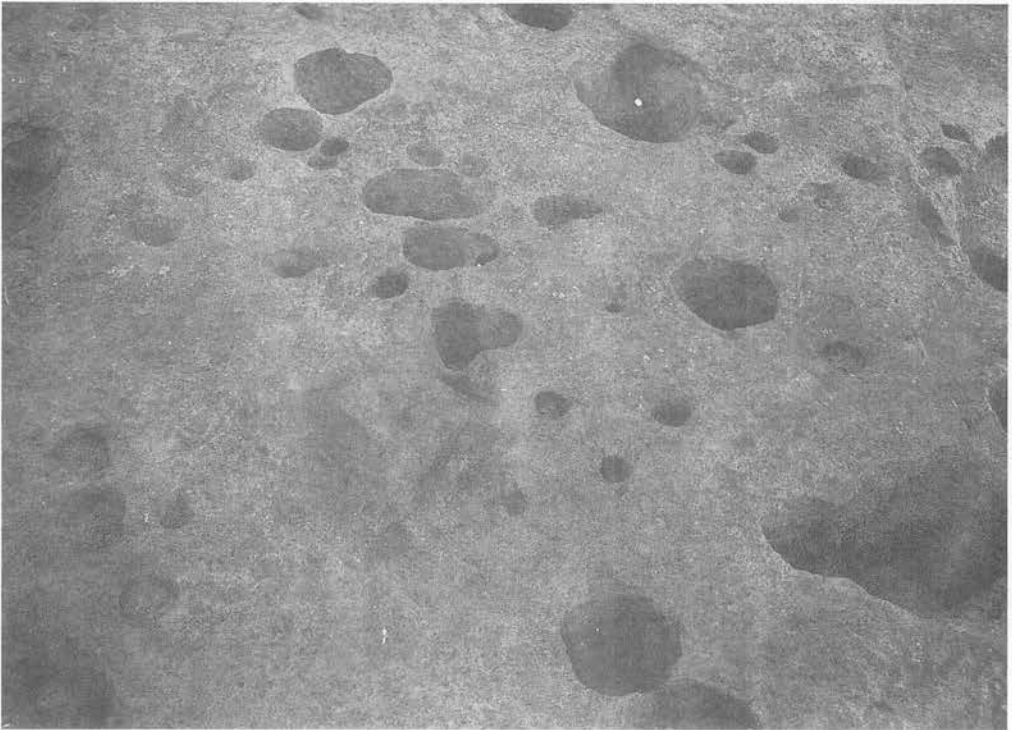
第13号住居跡1号炉断面



第13号住居跡2号炉断面

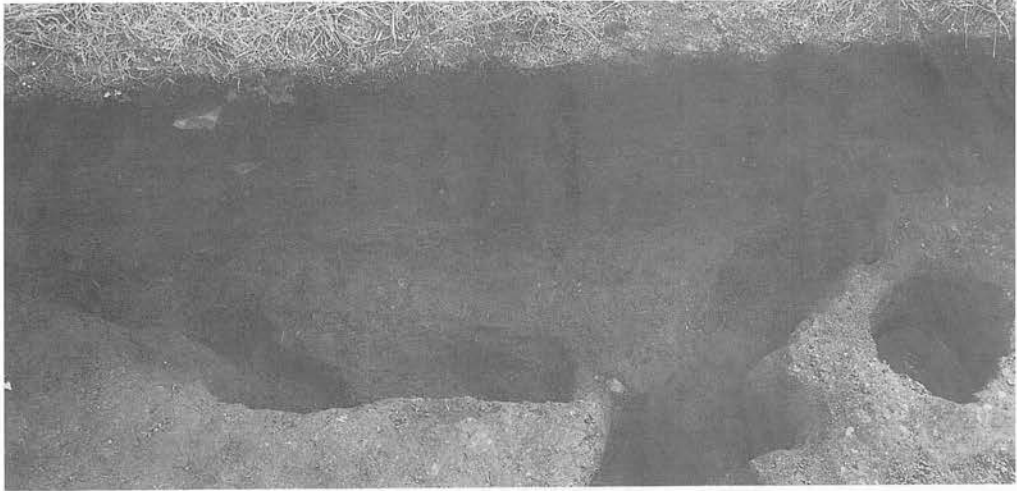


第12号住居跡平面



第14号・16号住居跡平面

写真図版11 第12・14・16号住居跡



第18号住居跡平面



第15号住居跡平面



第15号住居跡炉平面



第15号住居跡炉断面



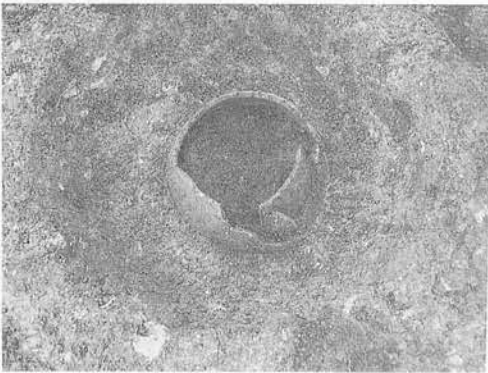
第17号住居跡平面



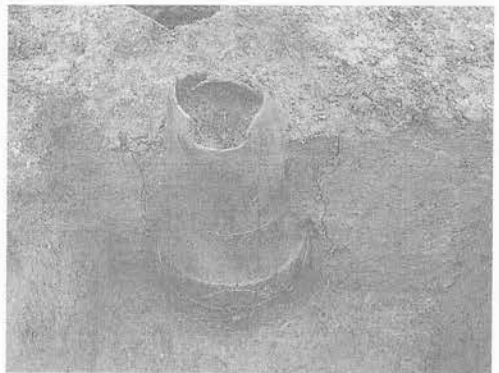
第14号住居跡炉断面



第17号住居跡炉断面

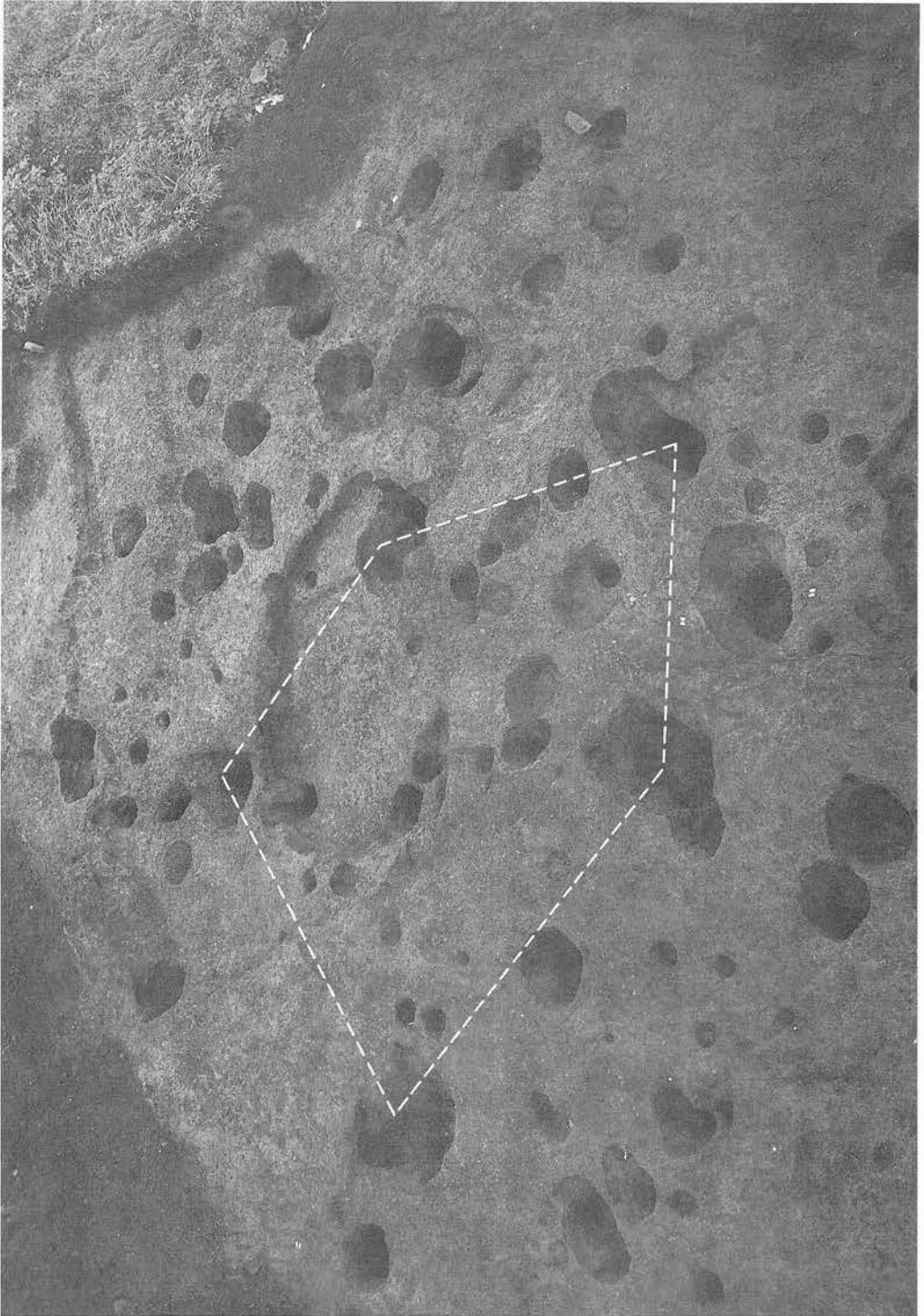


土器埋設遺構平面



土器埋設遺構断面





第19号住居跡平面

写真図版14 第19号住居跡



第1号土坑平面



第2号土坑平面



同上断面



同上断面



第3号土坑平面



第4号土坑平面



同上断面



同上断面

写真図版15 第1～4号土坑



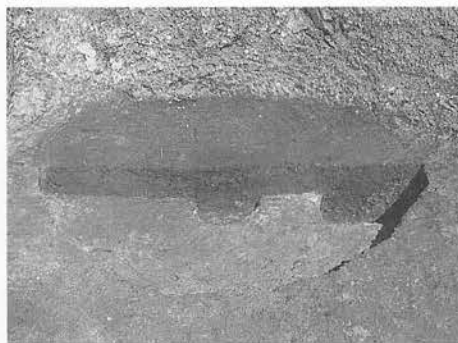
第5・2・4号土坑平面



第6号土坑平面



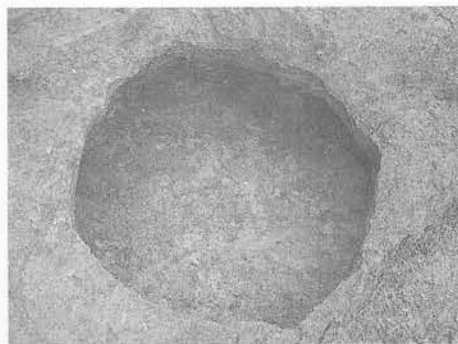
第5号土坑平面



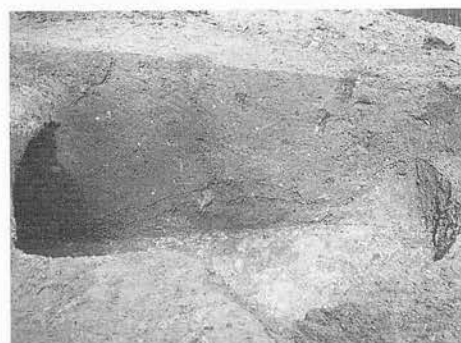
同上断面



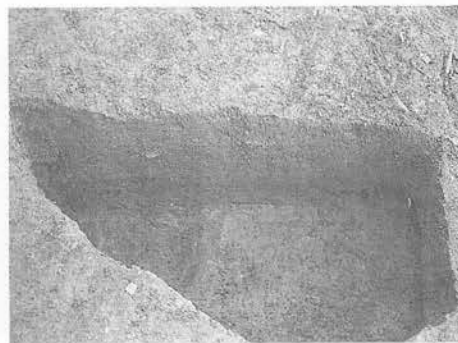
第7号土坑平面



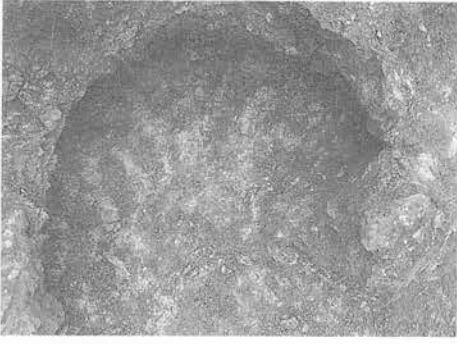
第8号土坑平面



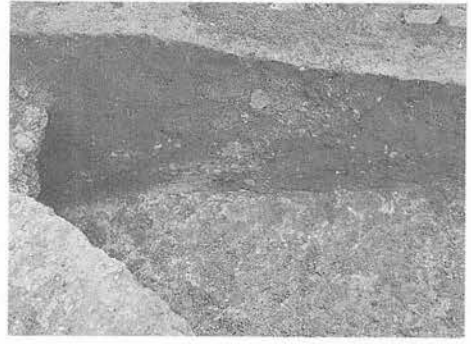
同上断面



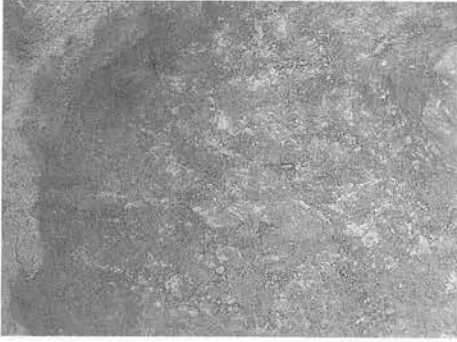
同上断面



第9号土坑平面



第9・10号土坑断面



第10号土坑平面



第11・12号土坑



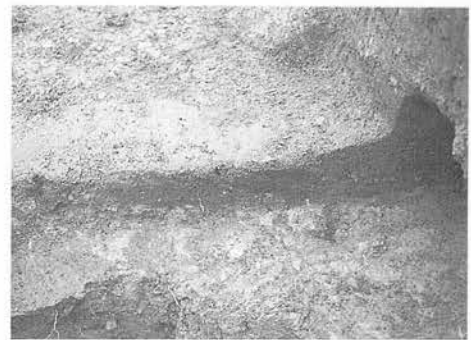
第13号土坑平面



第14号土坑平面



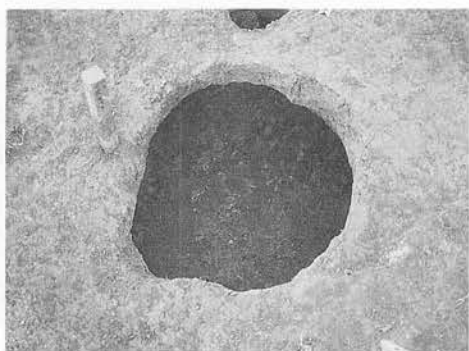
同上断面



同上断面

写真図版17 第9～14号土坑





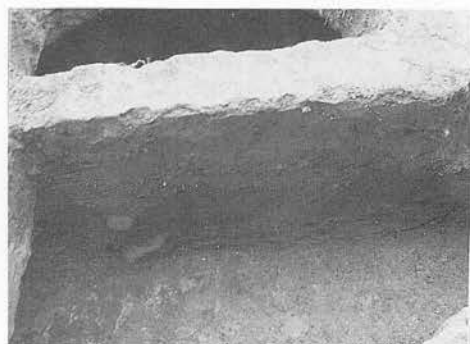
第15号土坑平面



第16号土坑平面



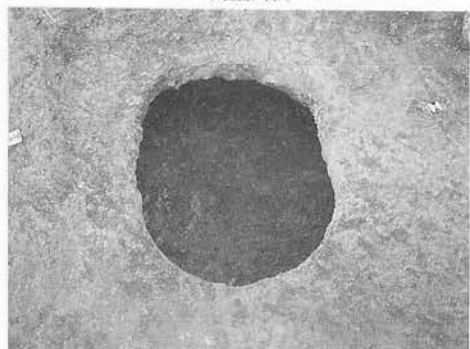
同上断面



同上断面



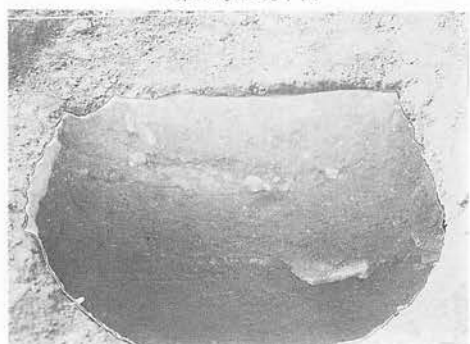
第17号土坑平面



第18号土坑平面



同上断面

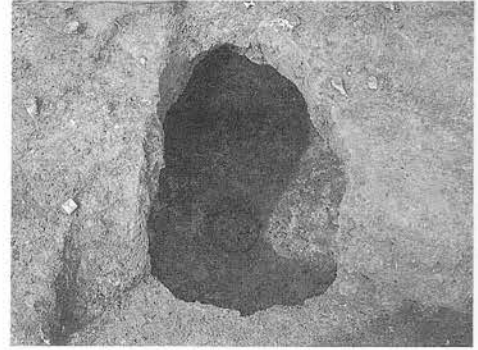


同上断面

写真图版18 第15~18号土坑



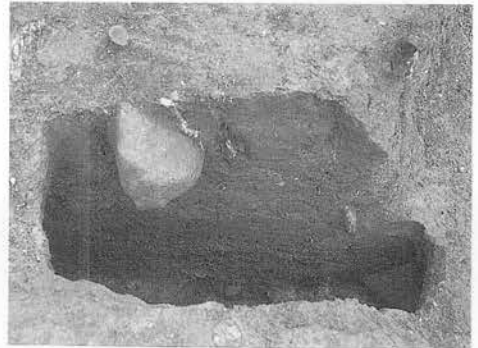
第11号土坑平面



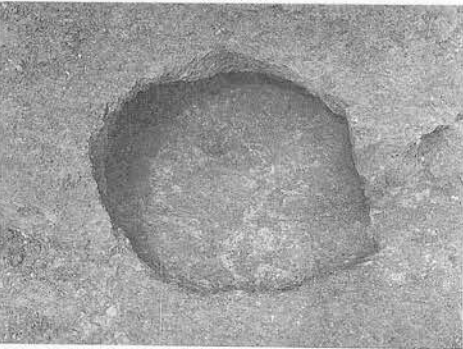
第20号土坑平面



同上断面



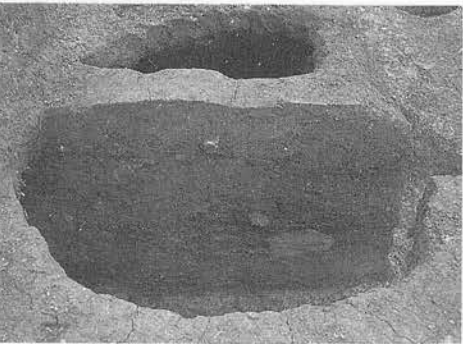
同上断面



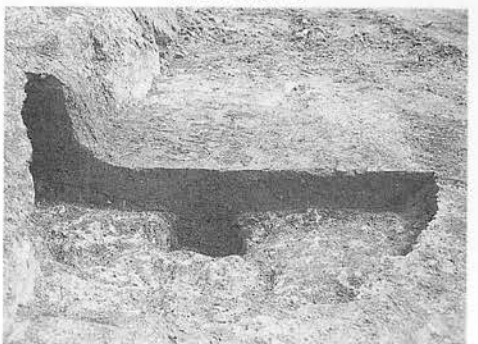
第21号土坑平面



第22号土坑平面



同上断面



同上断面

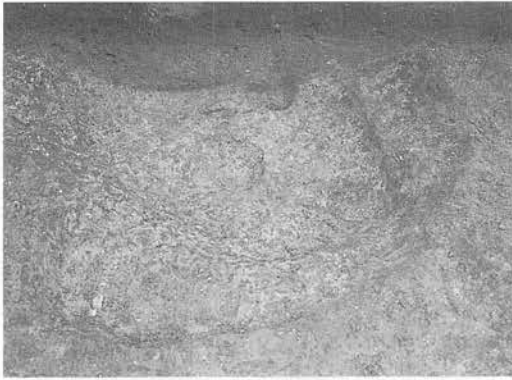
写真図版19 第19~22号土坑



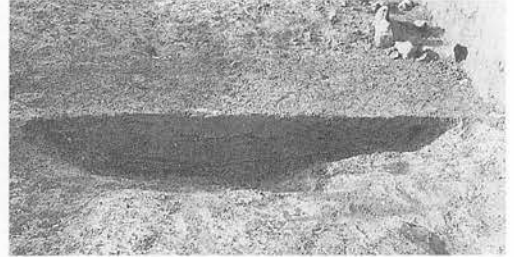
第23号土坑平面



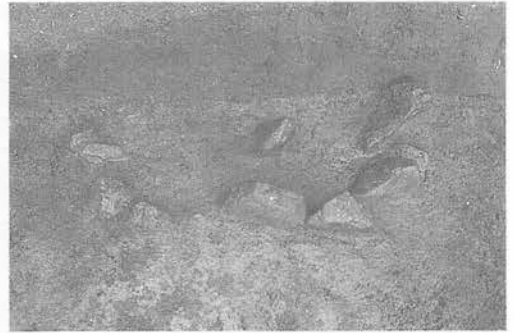
第24号土坑平面



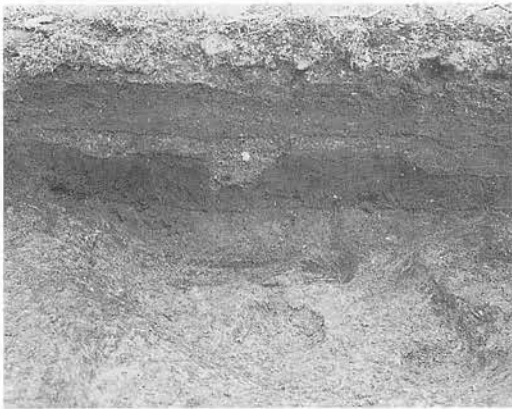
第25号土坑平面



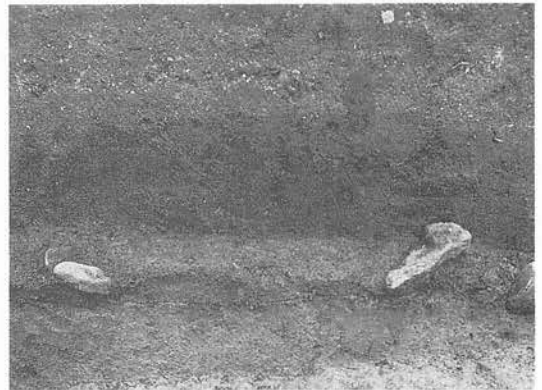
同上断面



第1号炉迹平面



同上断面

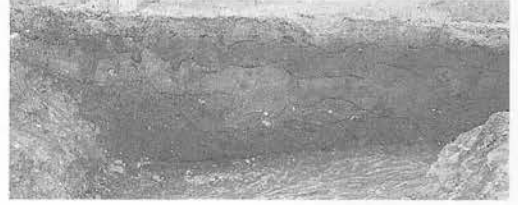


同上断面

写真图版20 第23~25号土坑·第1号炉迹



北端平坦部溝跡平面



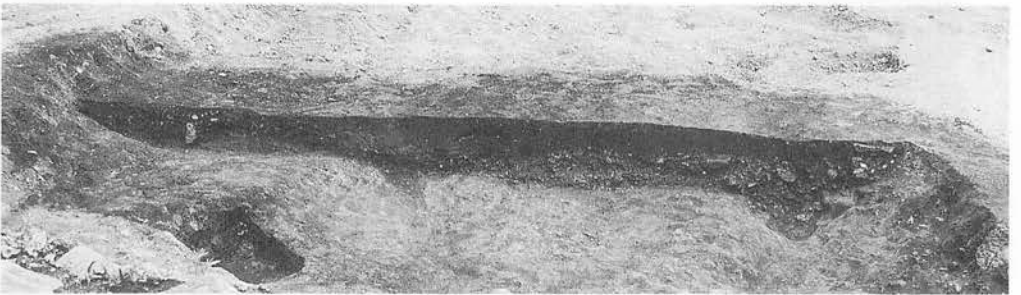
同左ベルト A 断面



同左ベルト B 断面



同左ベルト C 断面



北端斜面縁東部断面

写真図版21 溝跡（北端部平坦面他）





北端斜面東側溝跡平面



北端斜面南側溝跡断面

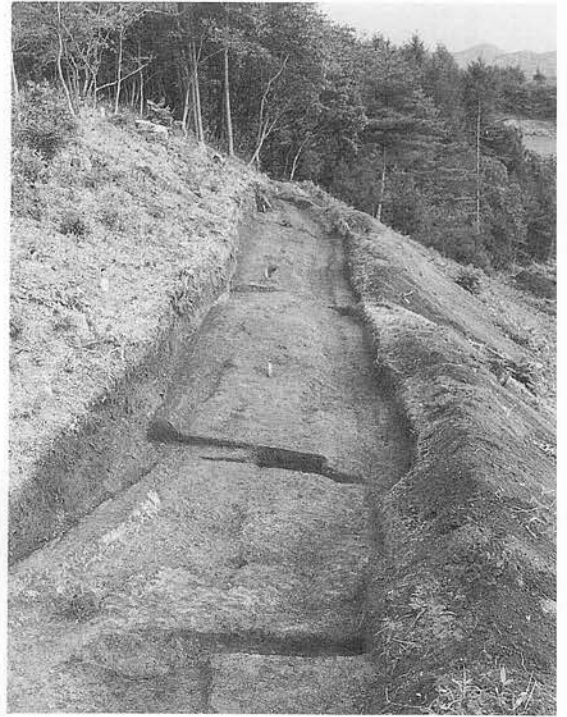


北端斜面南側溝跡平面

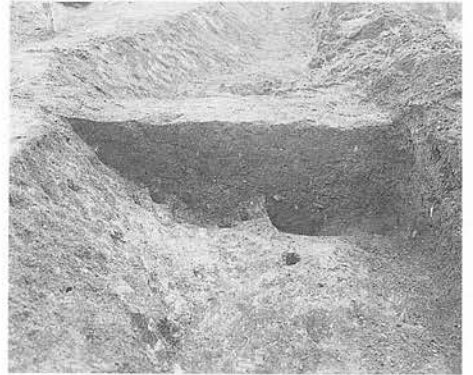
写真図版22 溝跡（北端斜面東側）



中央道路部分溝跡平面



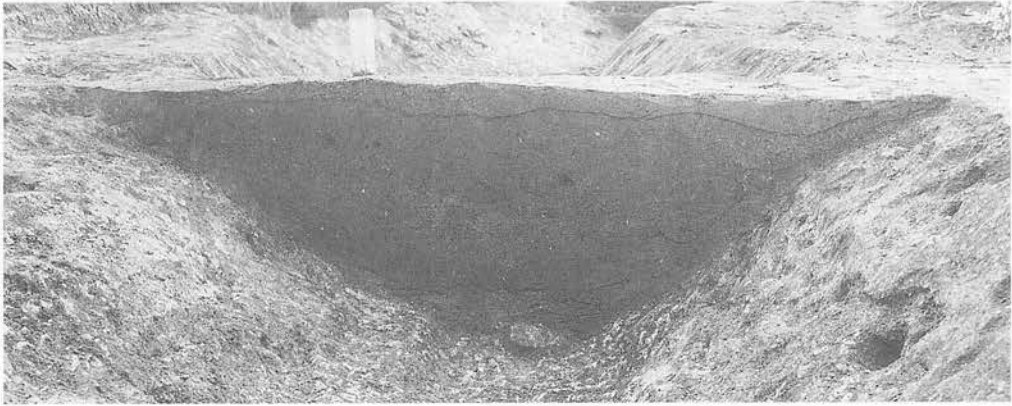
東端部斜面溝跡平面



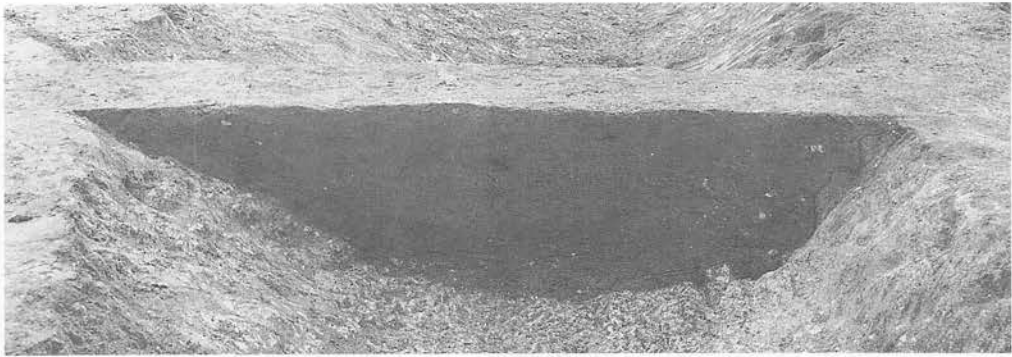
同左 右側小溝跡断面



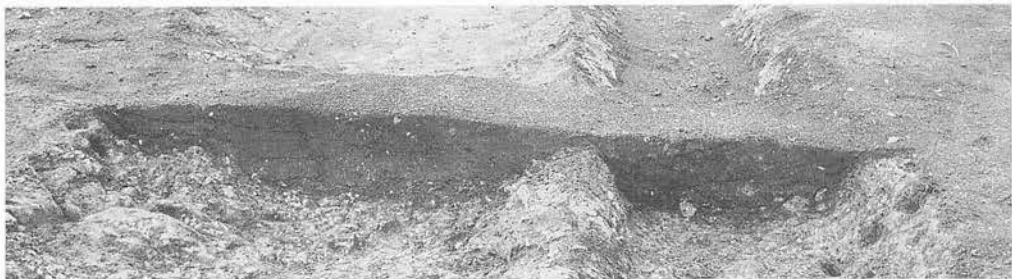
中央道路部分溝跡断面 (DD')



同上 (CC')



同上 (BB')

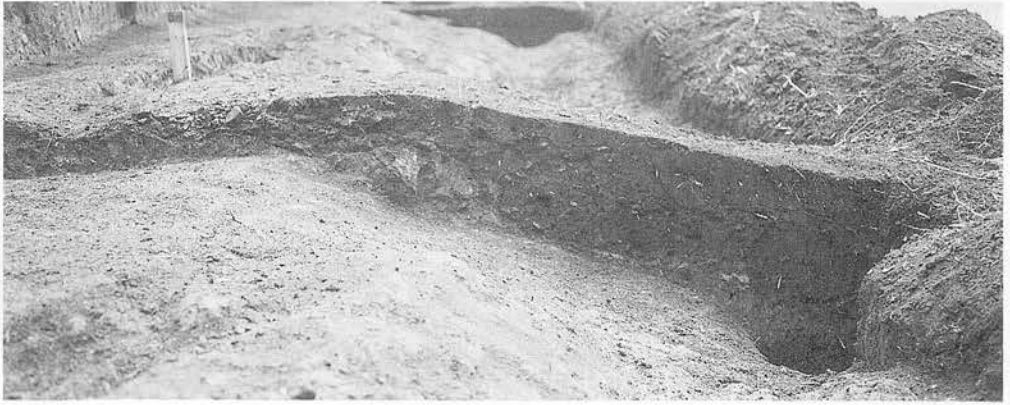


同上 (AA')

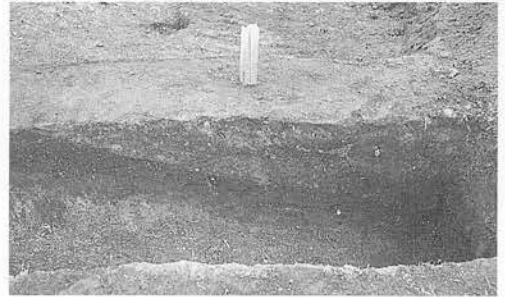
写真図版24 溝跡



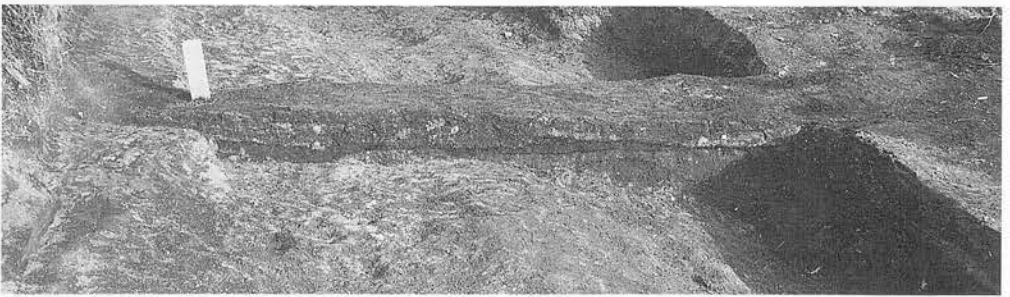
東端斜面 溝跡断面 (HH')



同上 (GG')



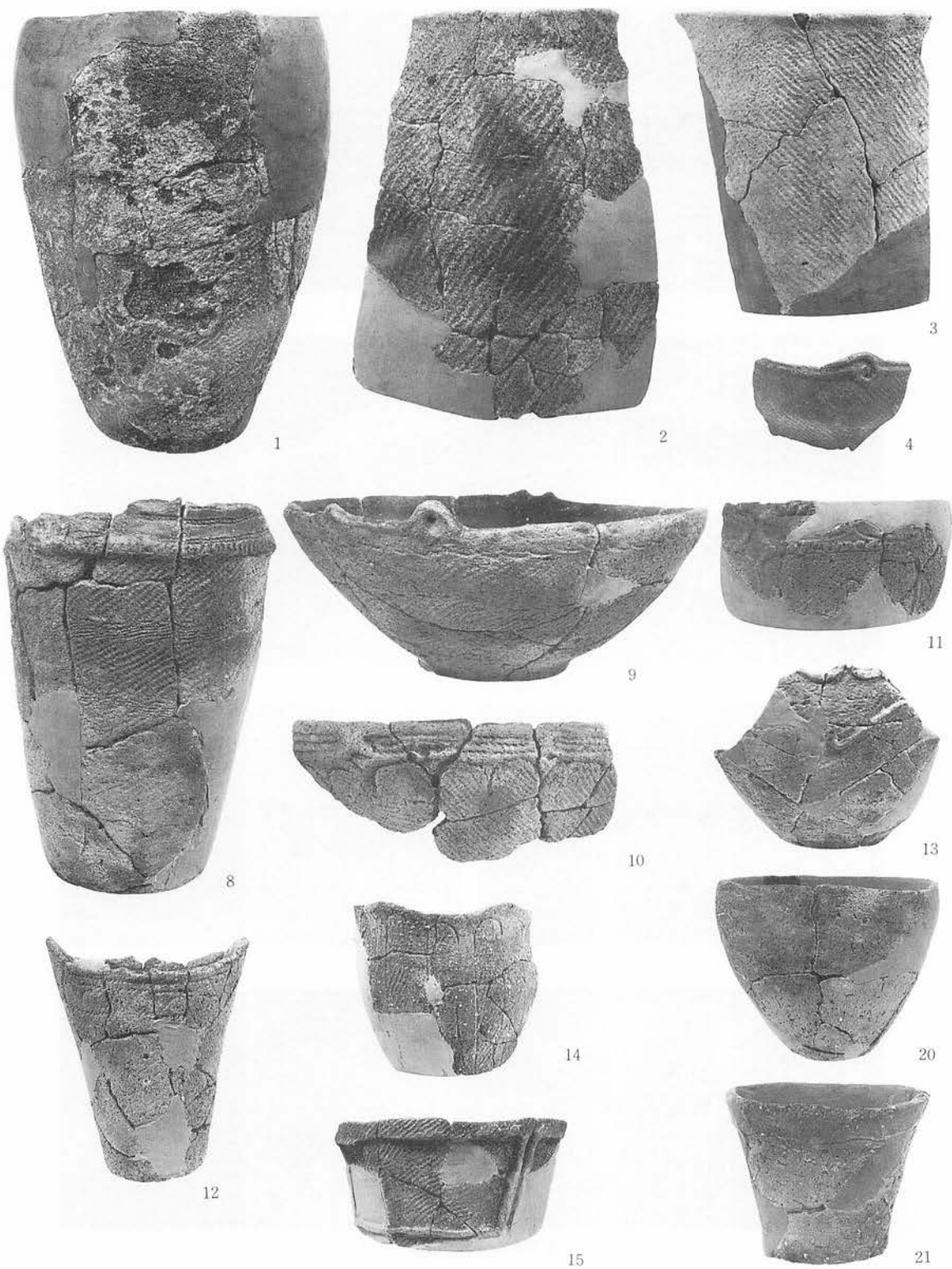
同上 (FF')



中央道路部分 溝跡断面 (EE')

写真図版25 溝跡





写真図版26 第1・2・3住居跡出土遺物



29



31

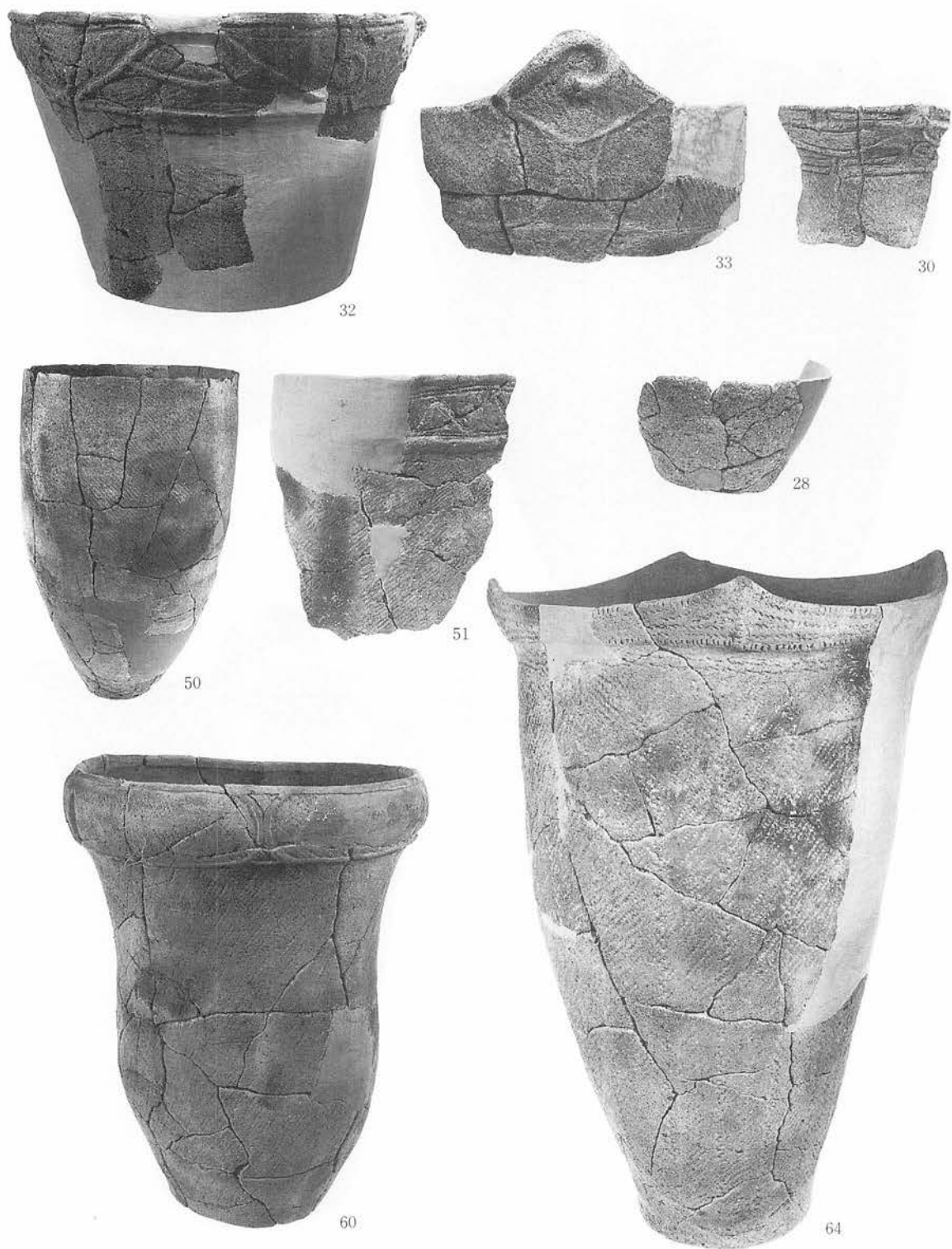


34



27

写真図版27 第4号住居跡出土遺物



写真図版28 第4・8～10号住居跡出土遺物



65



67



99



66



5



6



7



16



17



18



19



22



23



24

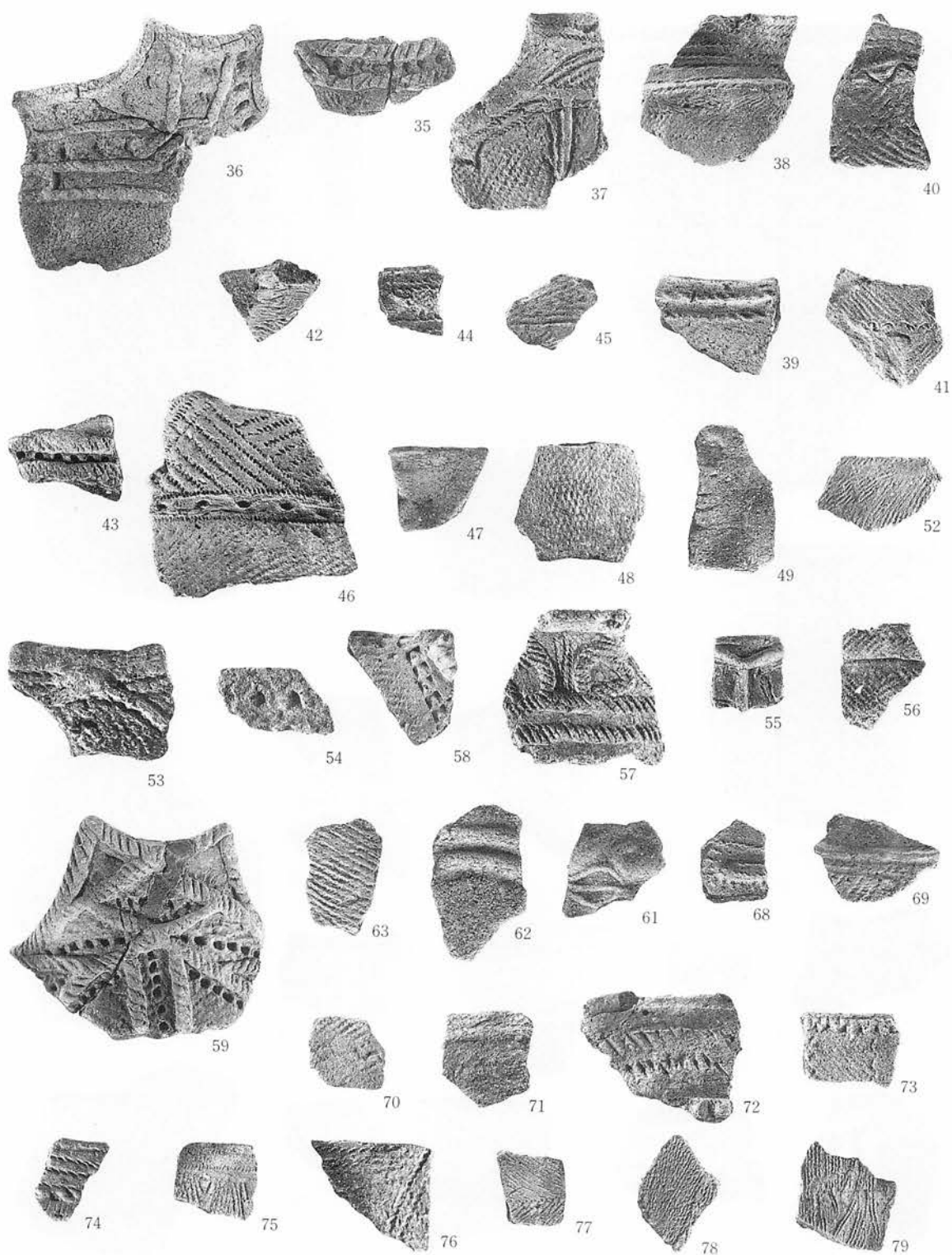


25



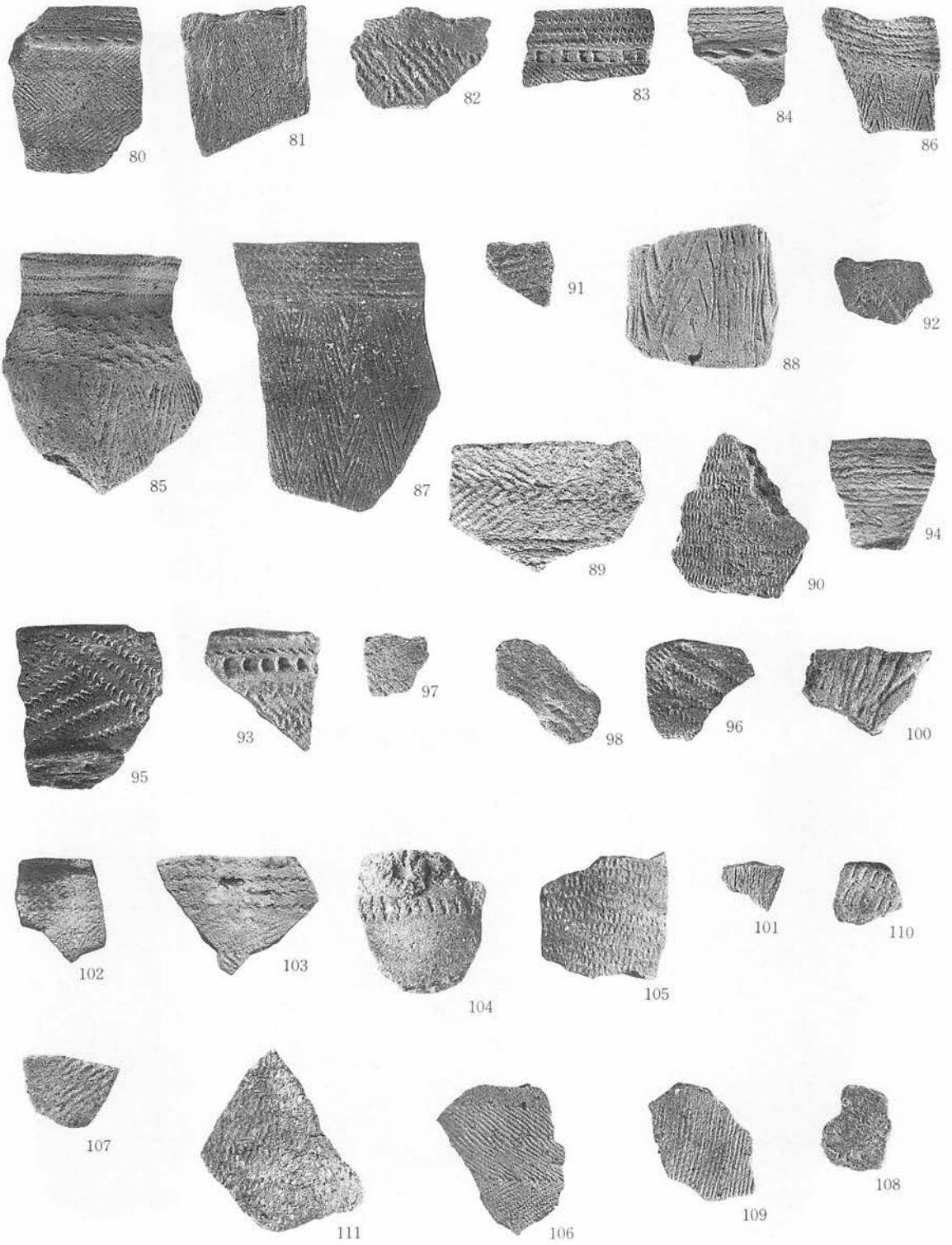
26

写真図版29 第1・2・3・10・15号住居跡出土遺物



写真图版30 第4・5・7・8~10号住居跡出土遺物





写真图版31 第11~19号住居跡出土遺物



112



119



120



121



127



139

写真図版32 第1～3・5・8号土坑出土遺物



140



148



156



157



165

写真図版33 第8・12・14・17号土坑出土遺物





166



167



168



170

写真図版34 第17・18号土坑出土遺物



171



172



173



174



175



179



180



176



178

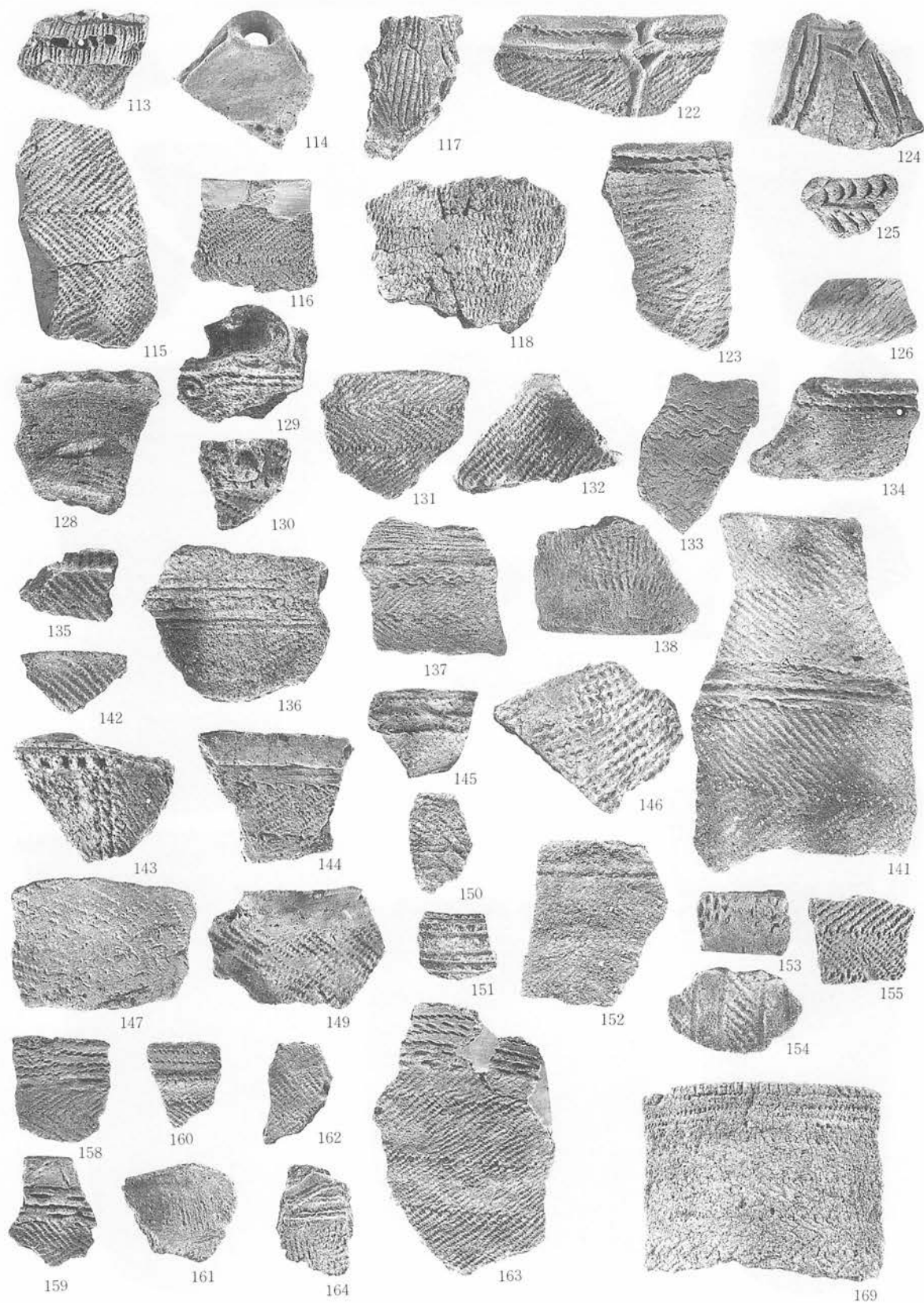


177

写真図版35 第18号土坑出土遺物(1)



写真図版36 第18号土坑出土遺物(2)・土器埋設遺構

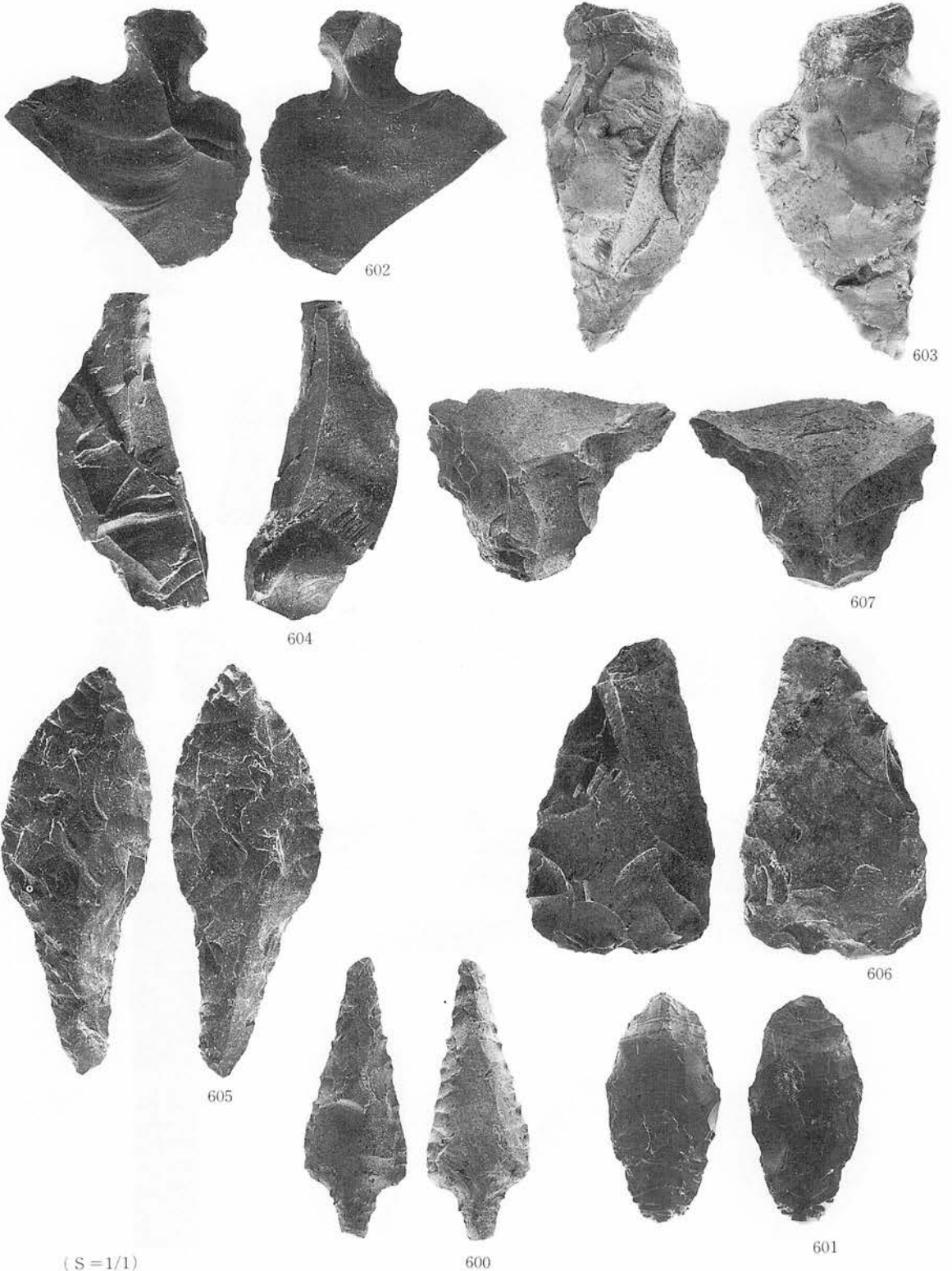


写真图版37 第1~17号土坑出土遗物





写真图版38 第19~21·25号土坑·4F区第1号炉·遺構外出土遺物



(S=1/1)

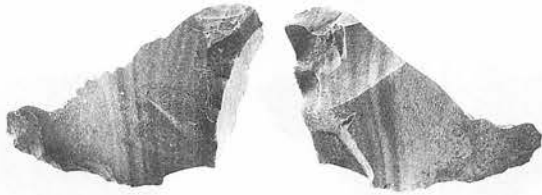
写真图版39 第1号住居跡出土遺物(1)



614



608



613



609



612



611

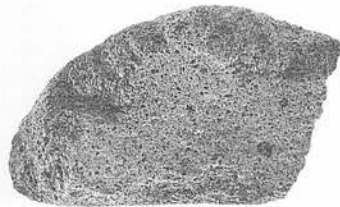
(608~612 : S = 2/3)



610



(S = 1/4)



616



615



617

(615 · 617~619 : S = 1/3)



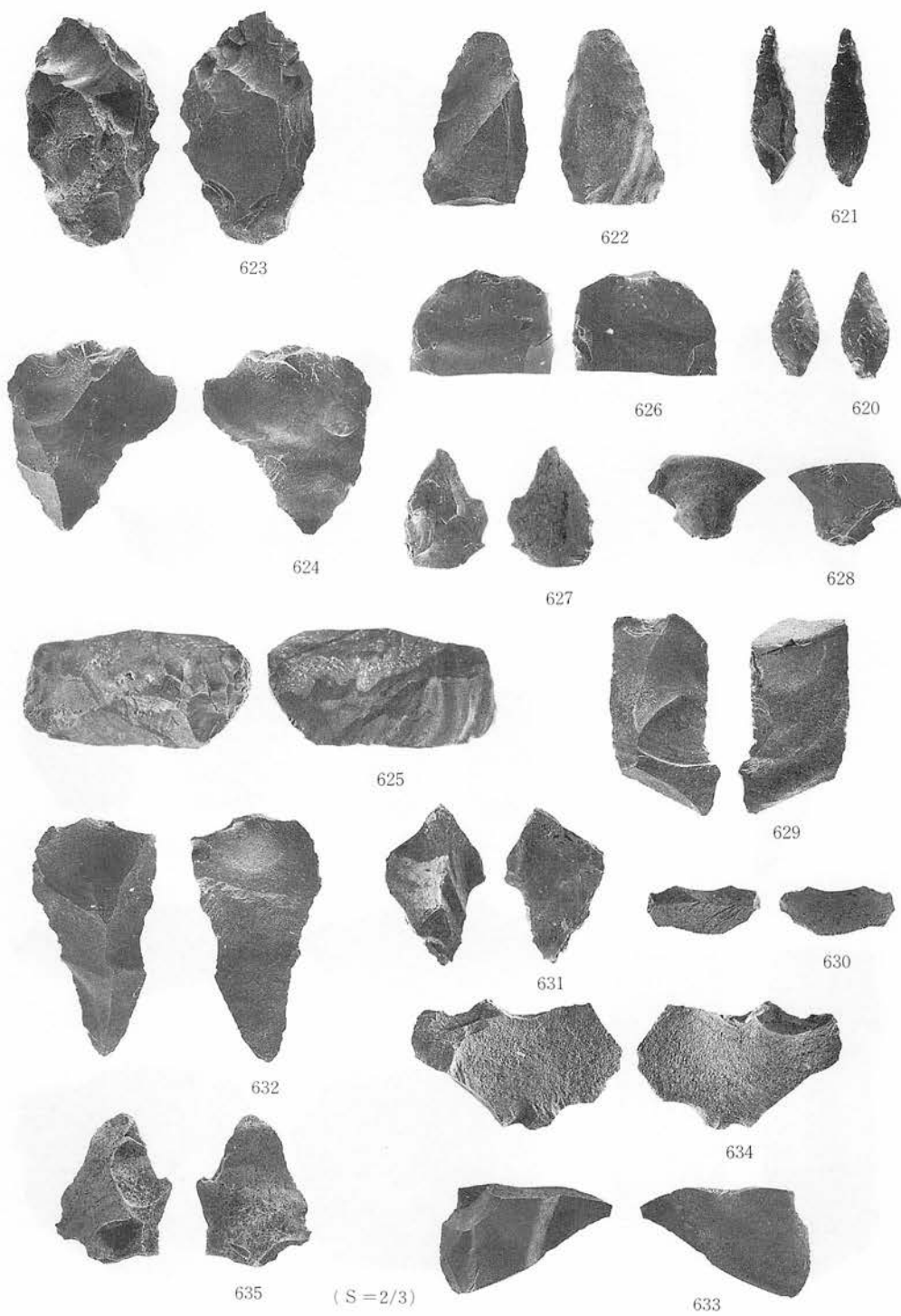
618



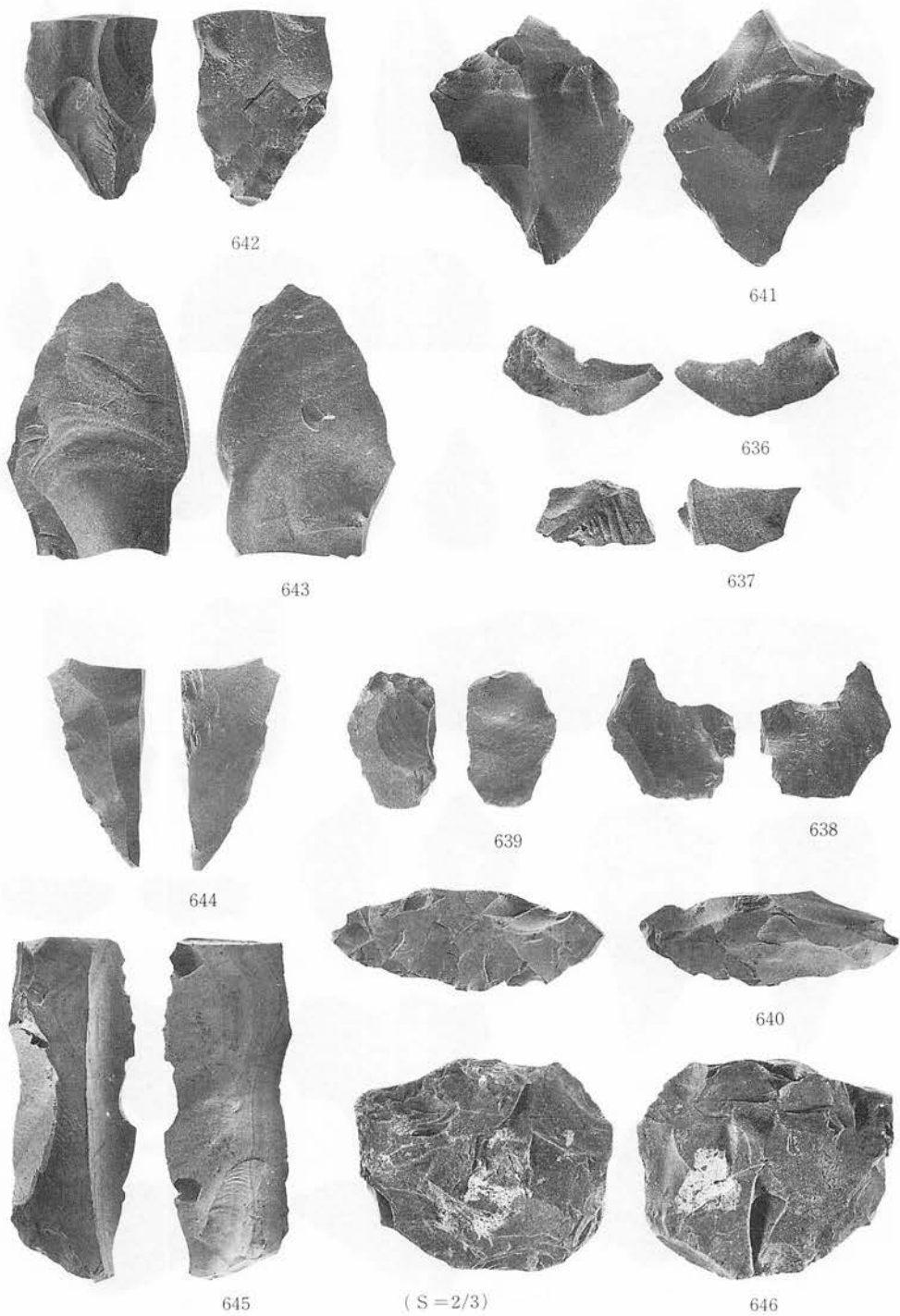
619

写真図版40 第1号住居跡出土遺物(2)





写真图版41 第2号住居跡出土遺物(1)



写真図版42 第2号住居跡出土遺物(2)



655



647



653



656



648



651



649



654



657

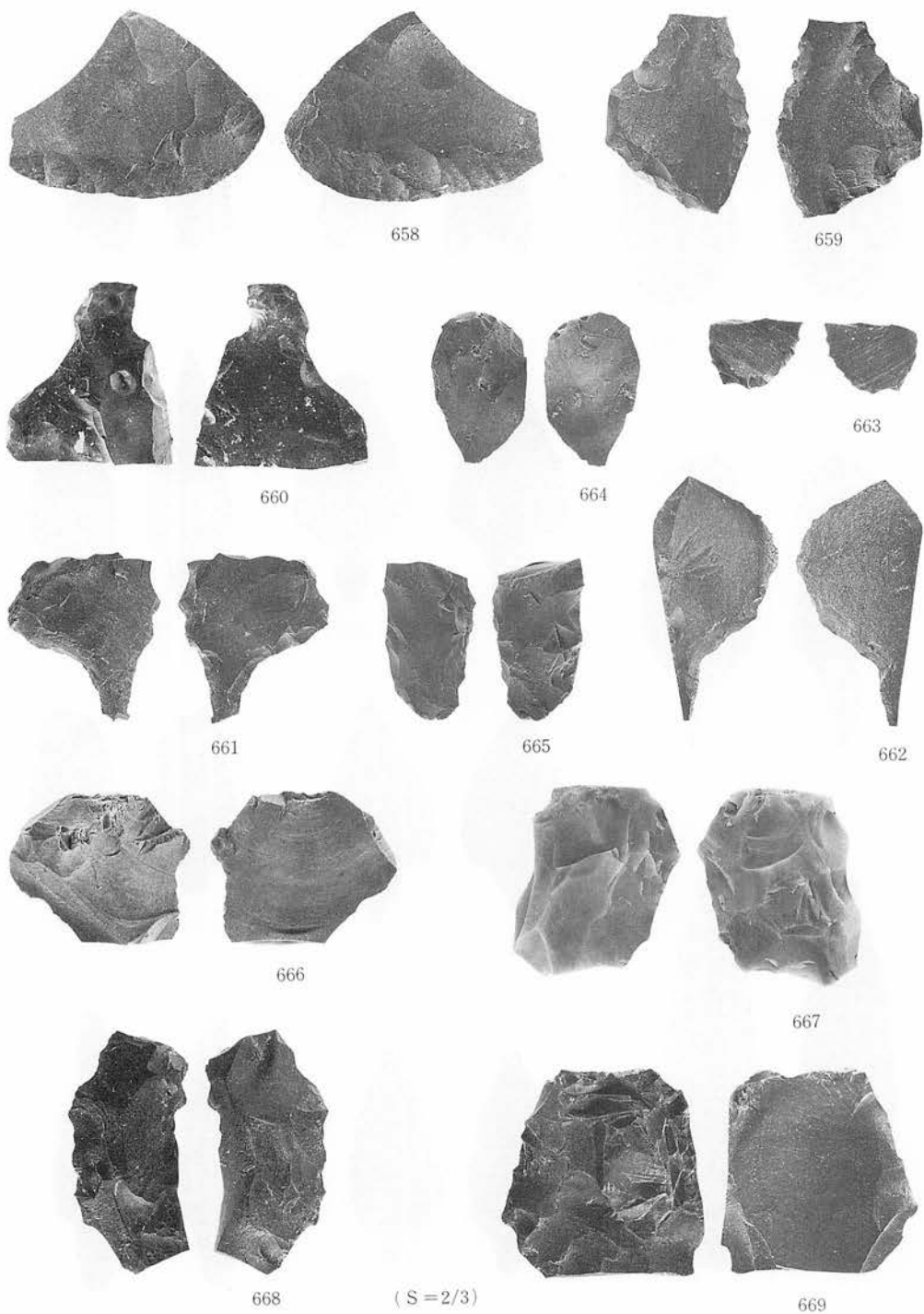


650

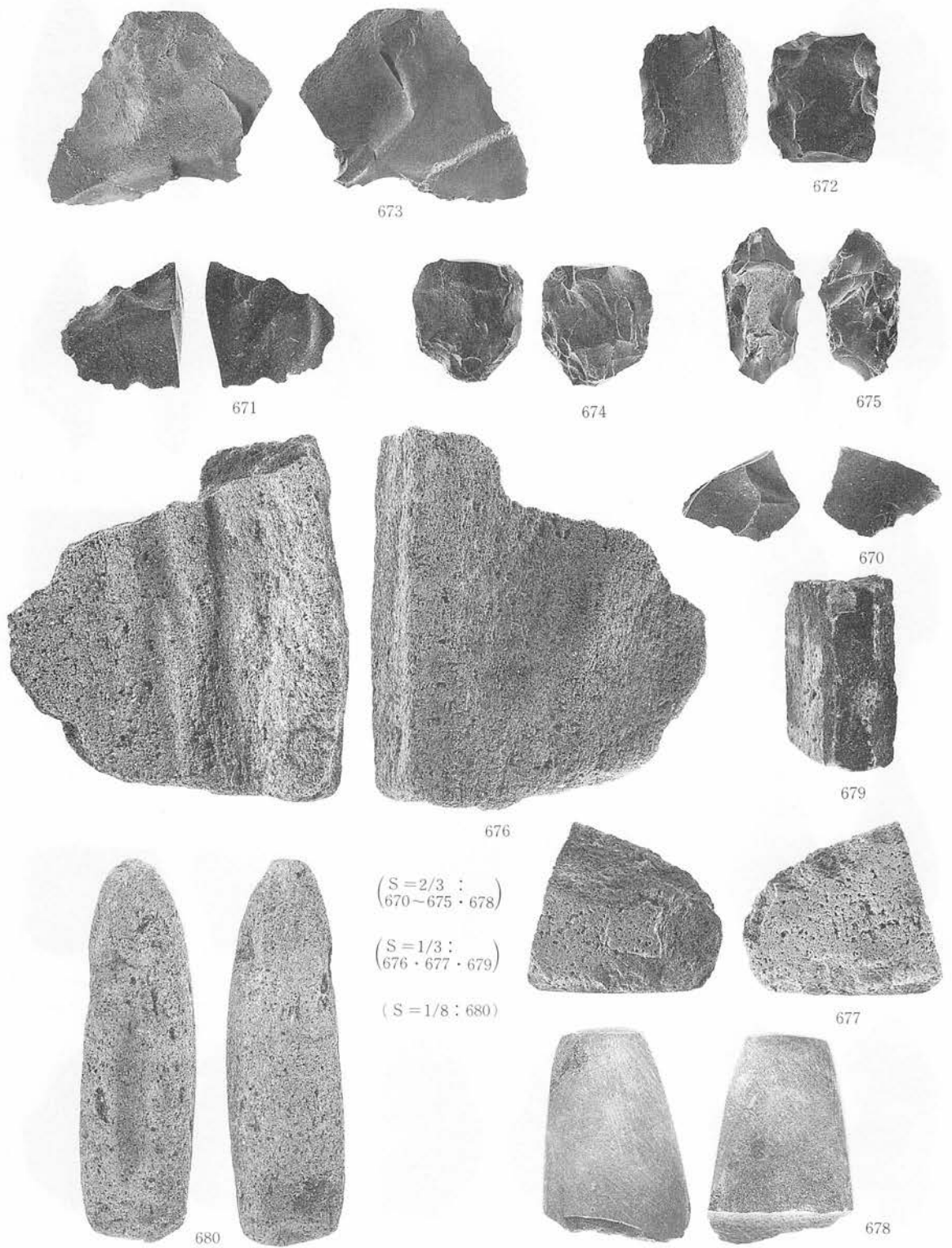


652

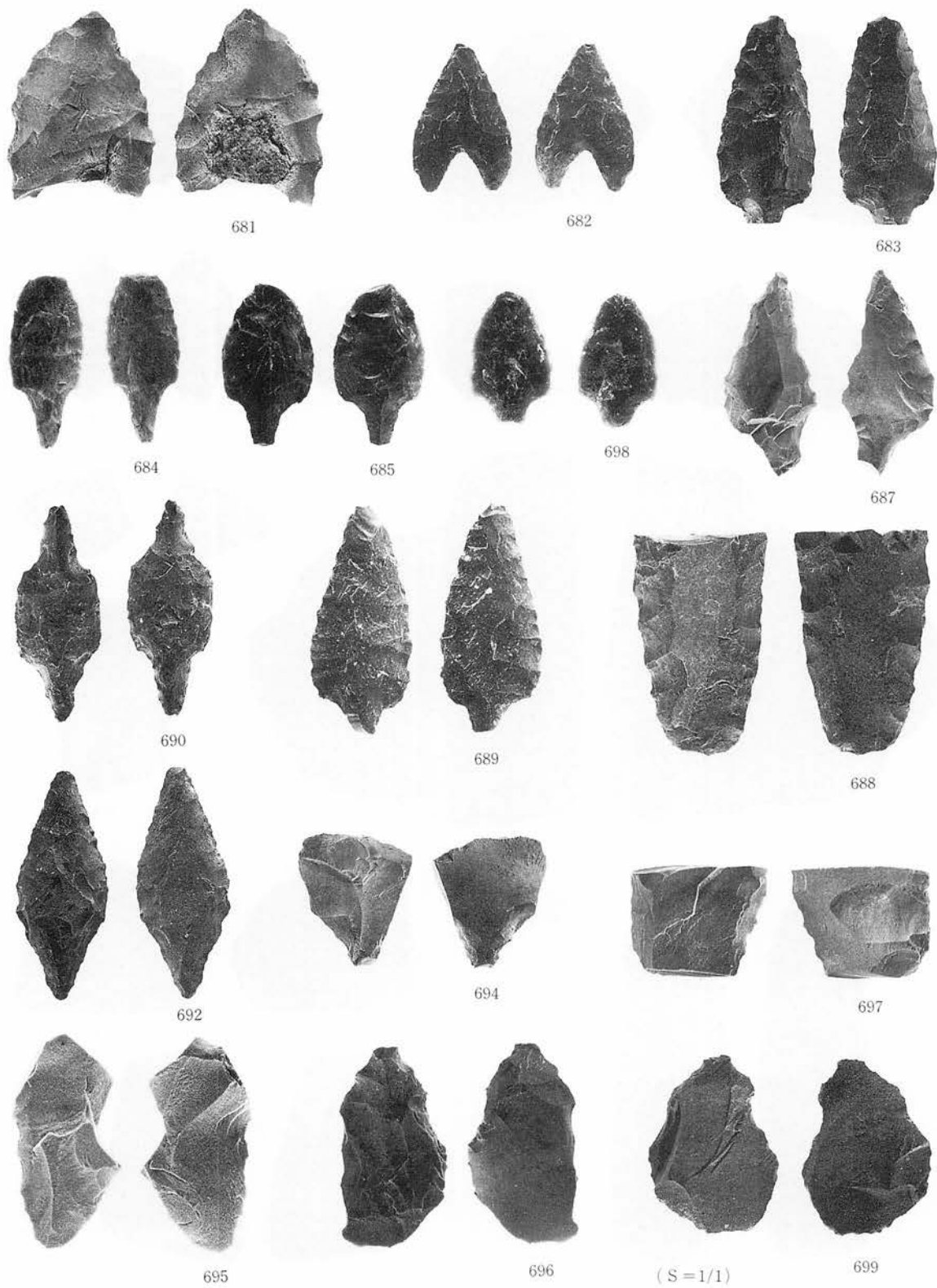
写真図版43 第3号住居跡出土遺物(1)



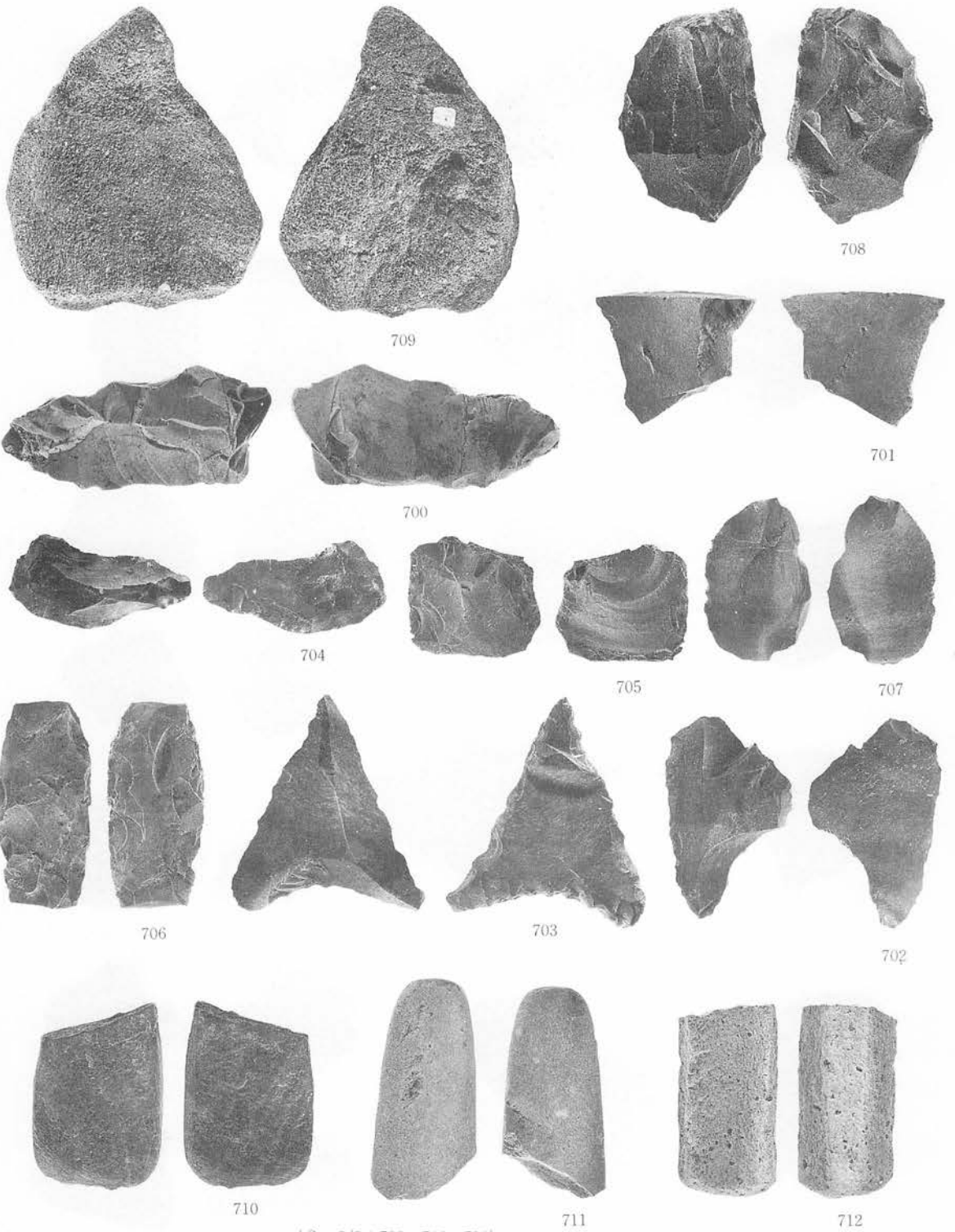
写真图版44 第3号住居跡出土遺物(2)



写真図版45 第3号住居跡出土遺物(3)



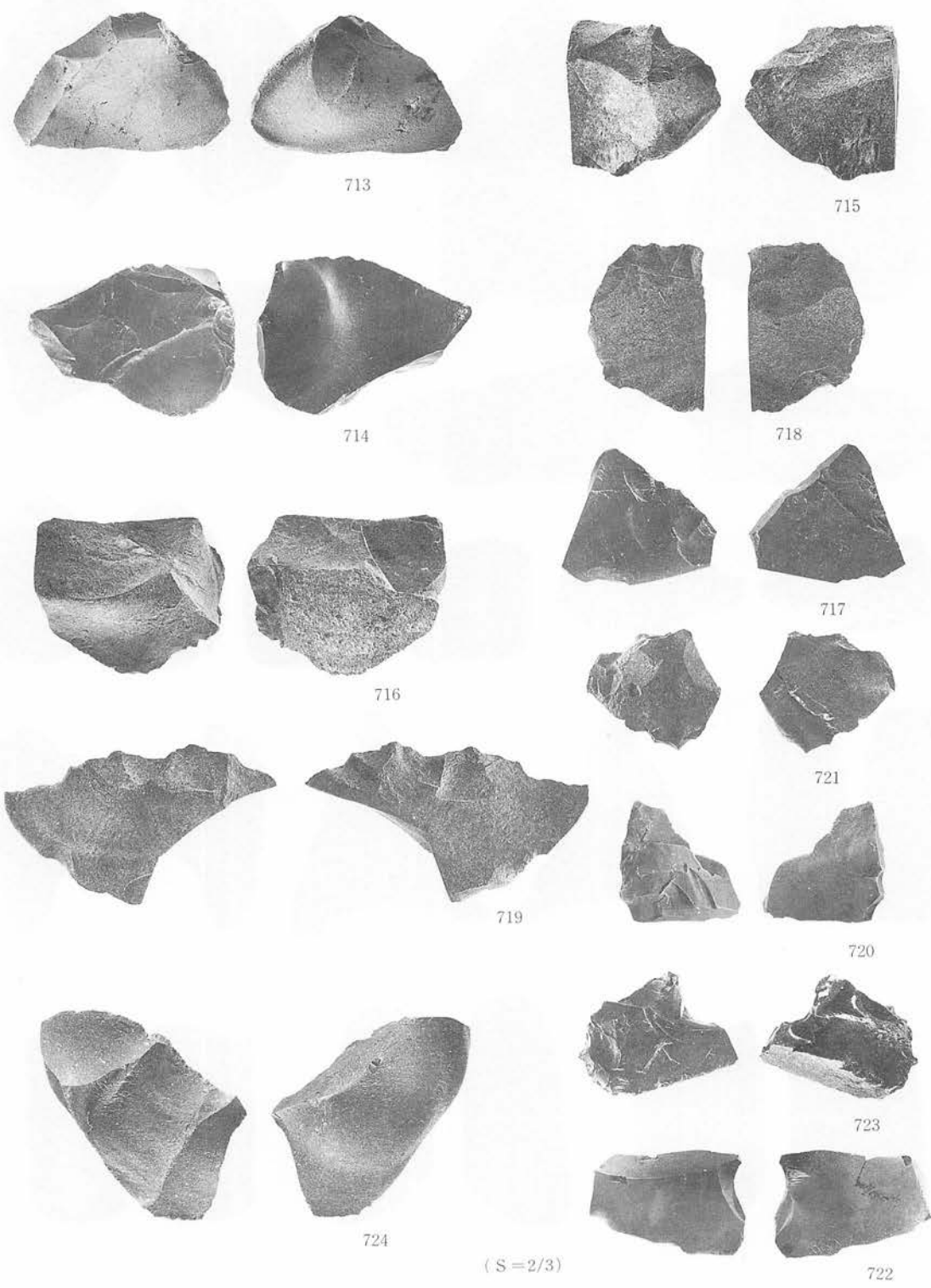
写真图版46 第4号住居跡出土遺物(1)



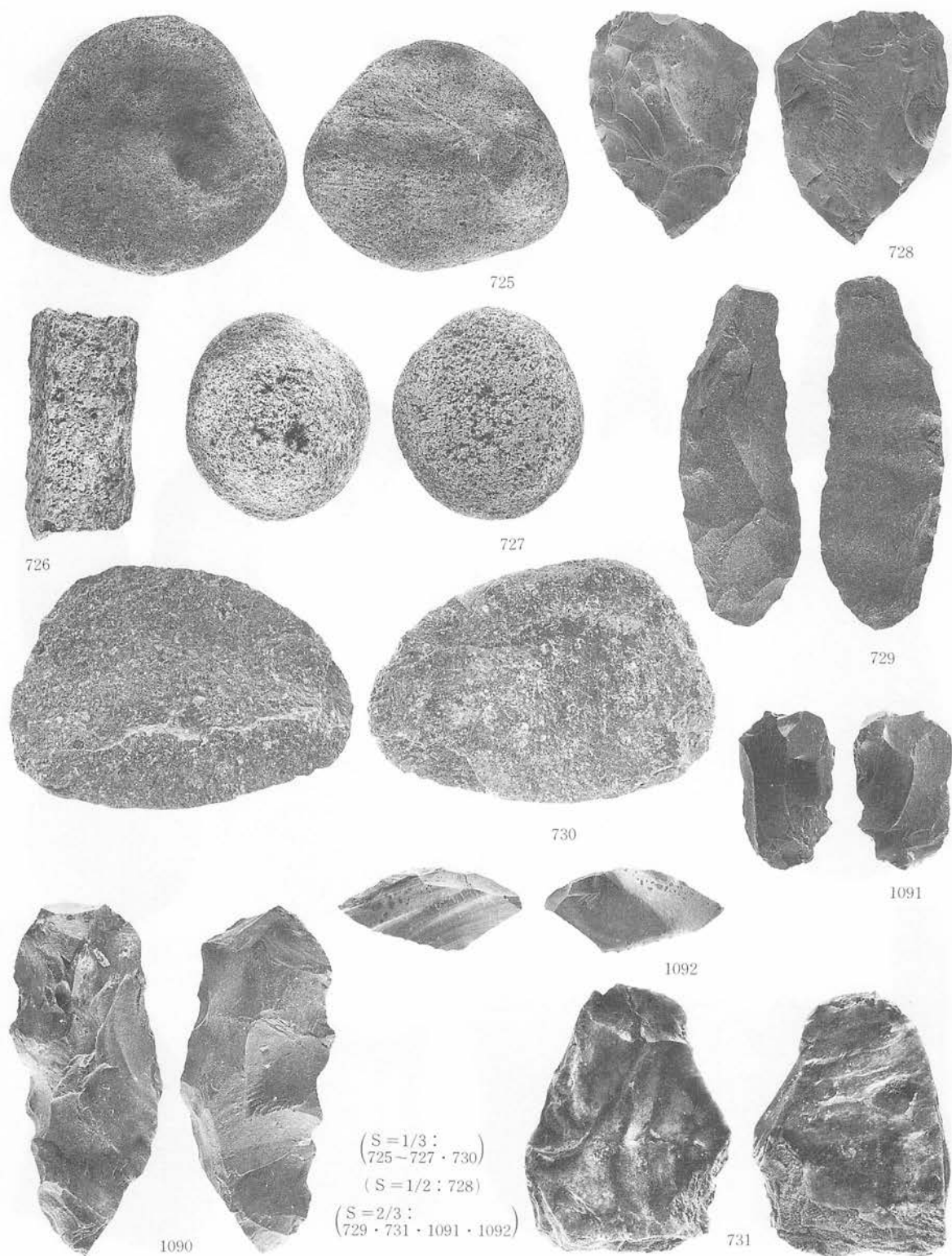
(S=2/3 : 700~708・710)  
 (S=1/3 : 709・711・712)

写真図版47 第4号住居跡・出土遺物(2)

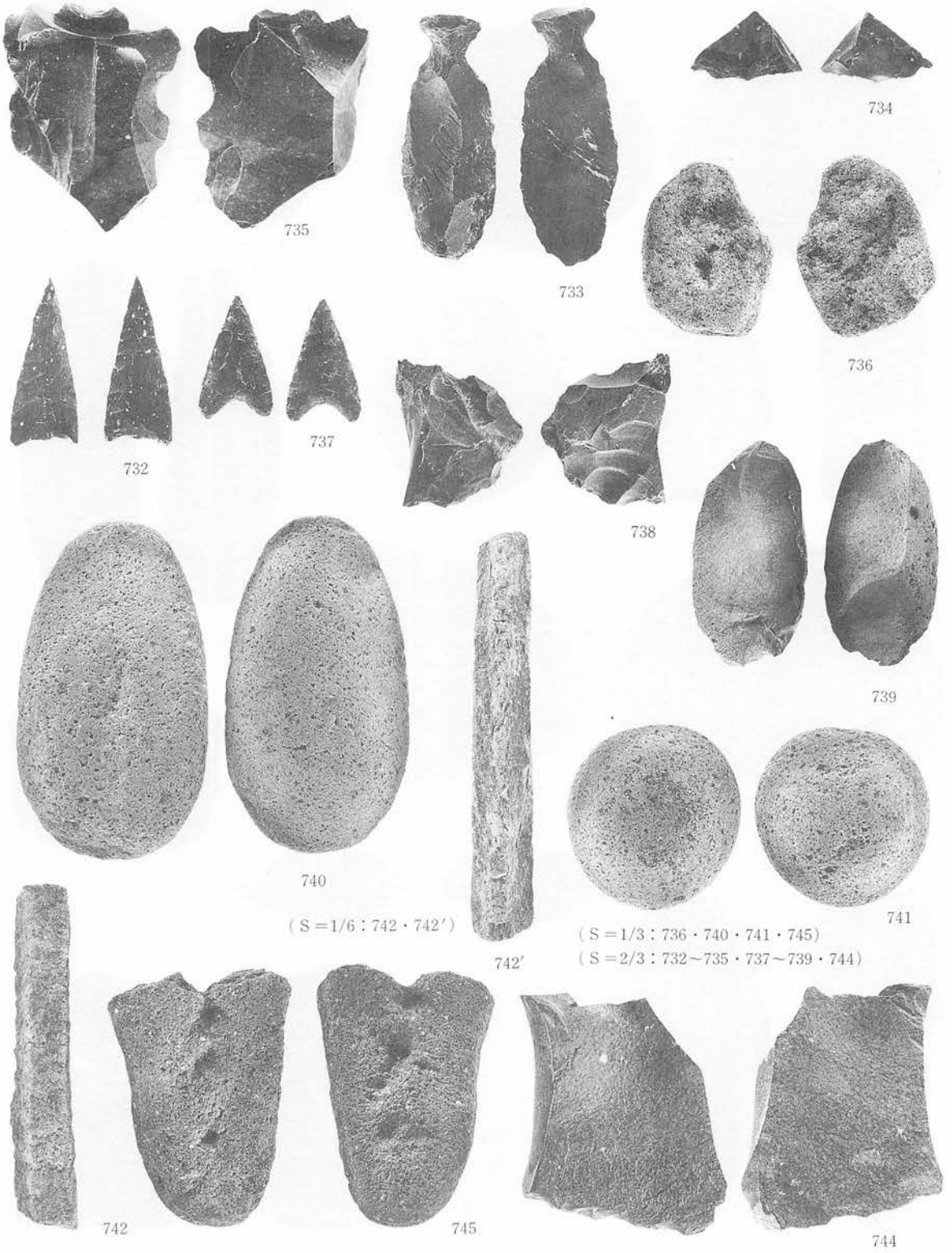




写真図版48 第5・7・8号住居跡・出土遺物



写真図版49 第8・10号住居跡、第1・3号土坑出土遺物



写真図版50 第12・16~17号土坑出土遺物



743



750



749



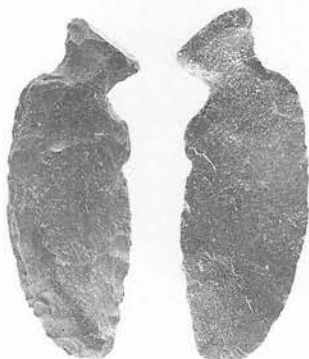
746



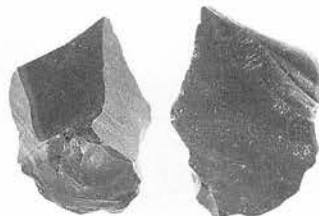
747



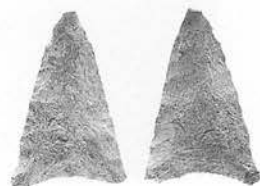
748



754

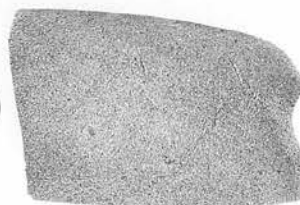


751



752

(S=2/3 :  
749と753を除くもの)  
(S=1/3 :  
749・753)



753

写真図版51 第17~20号土坑出土遺物



216



217



219



215



218

写真図版52 遺構外出土土器(1)





220



222



221



223



224



230



228



229



231

写真図版53 遺構外出土土器(2)



227



232



226



233



234



225



239



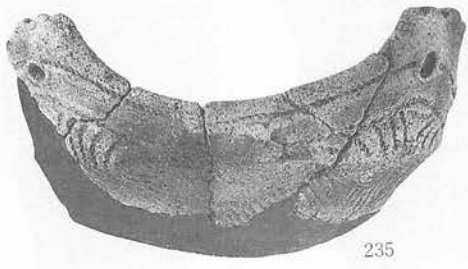
236



238



237



235

写真図版54 遺構外出土土器(3)





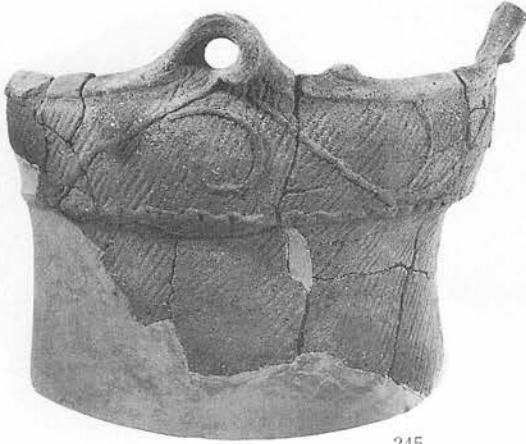
243



242



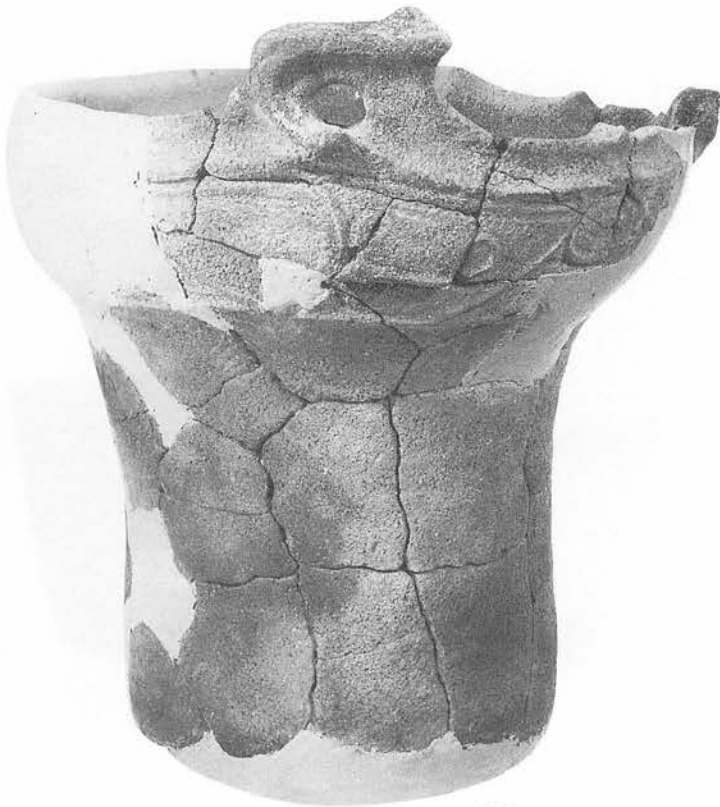
241



245



248



240



244

写真図版55 遺構外出土土器(4)



246



252



250



251

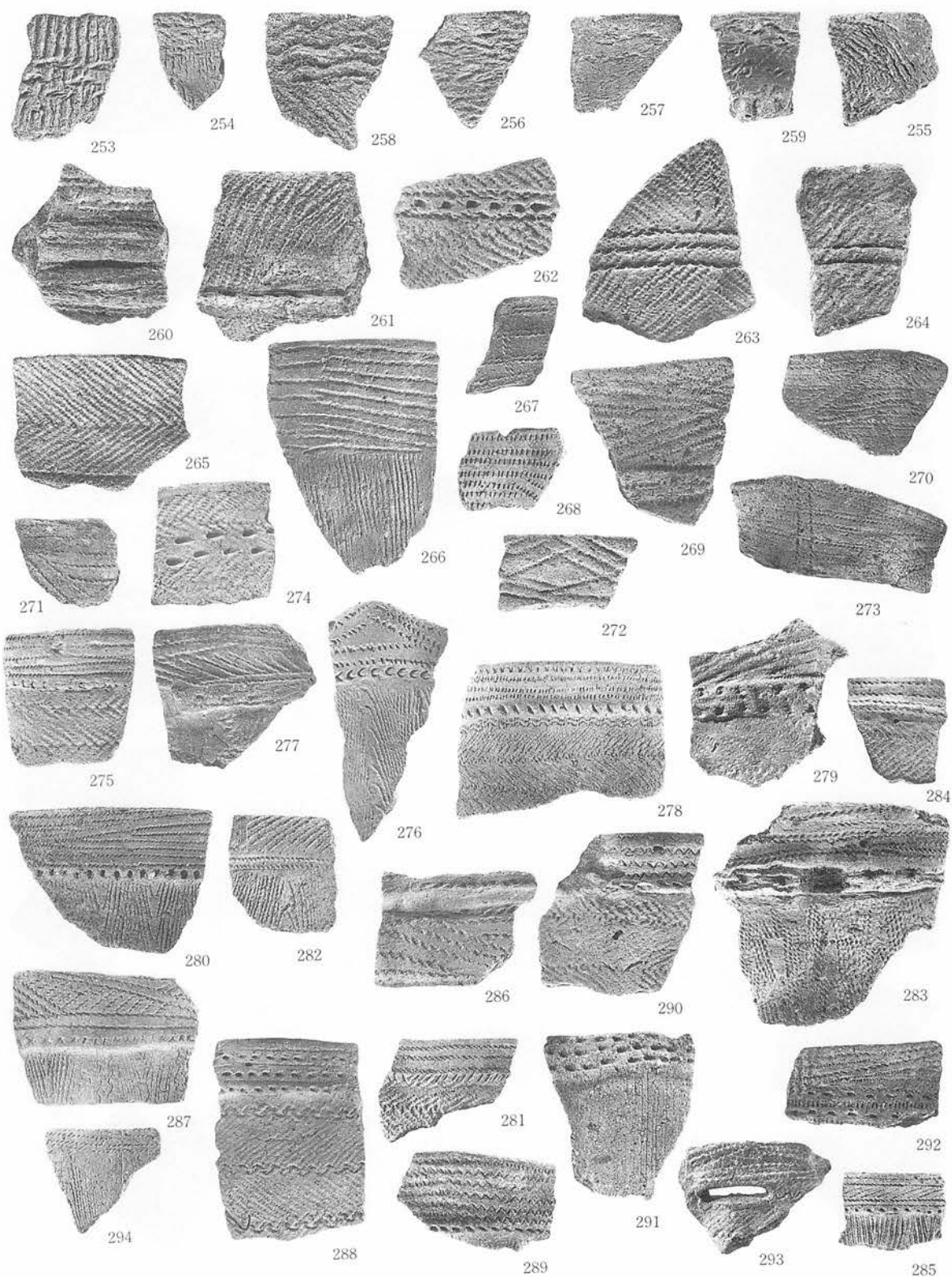


247

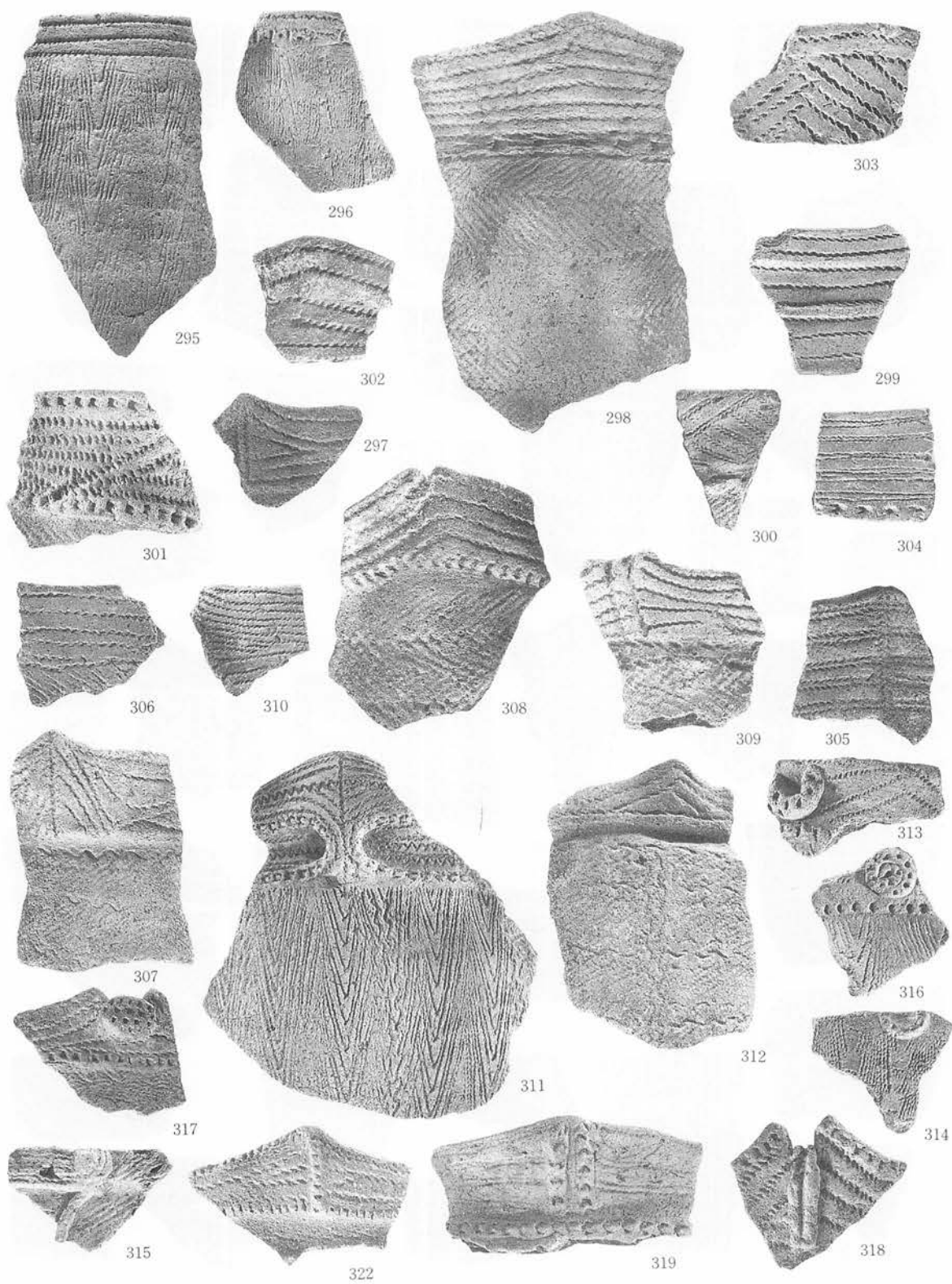


249

写真図版56 遺構外出土土器(5)

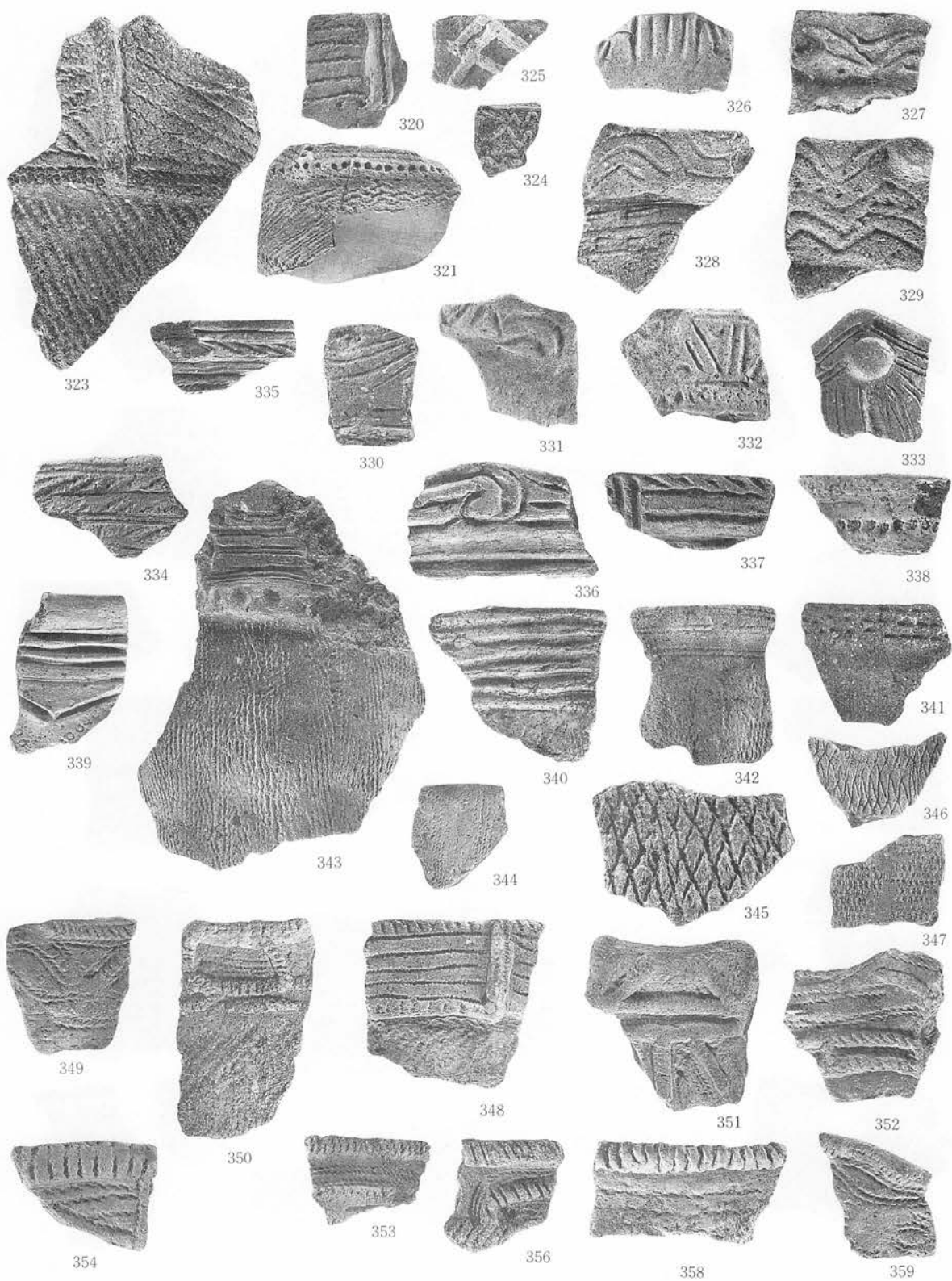


写真图版57 遺構外出土土器(6)

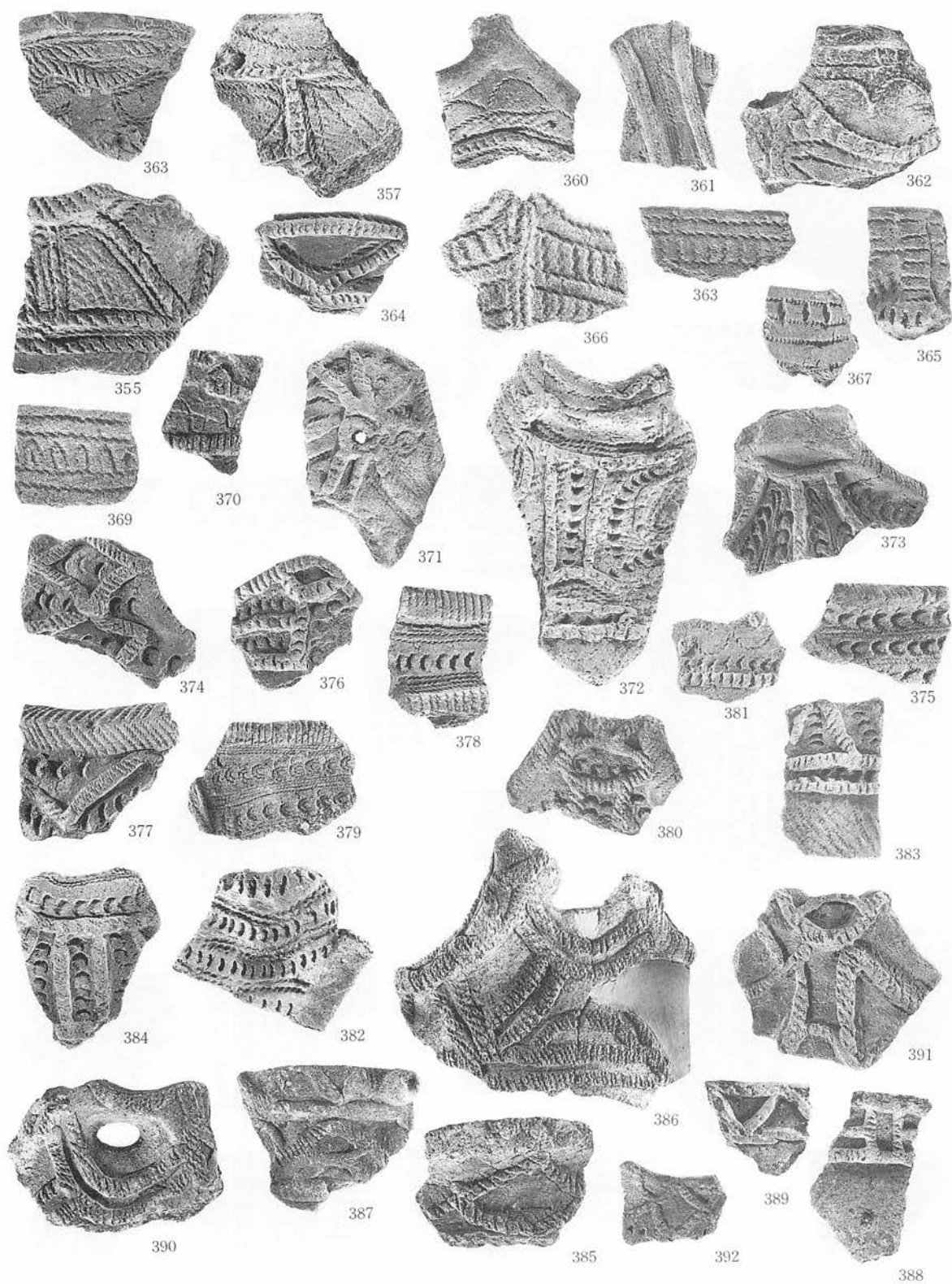


写真図版58 遺構外出土土器(7)

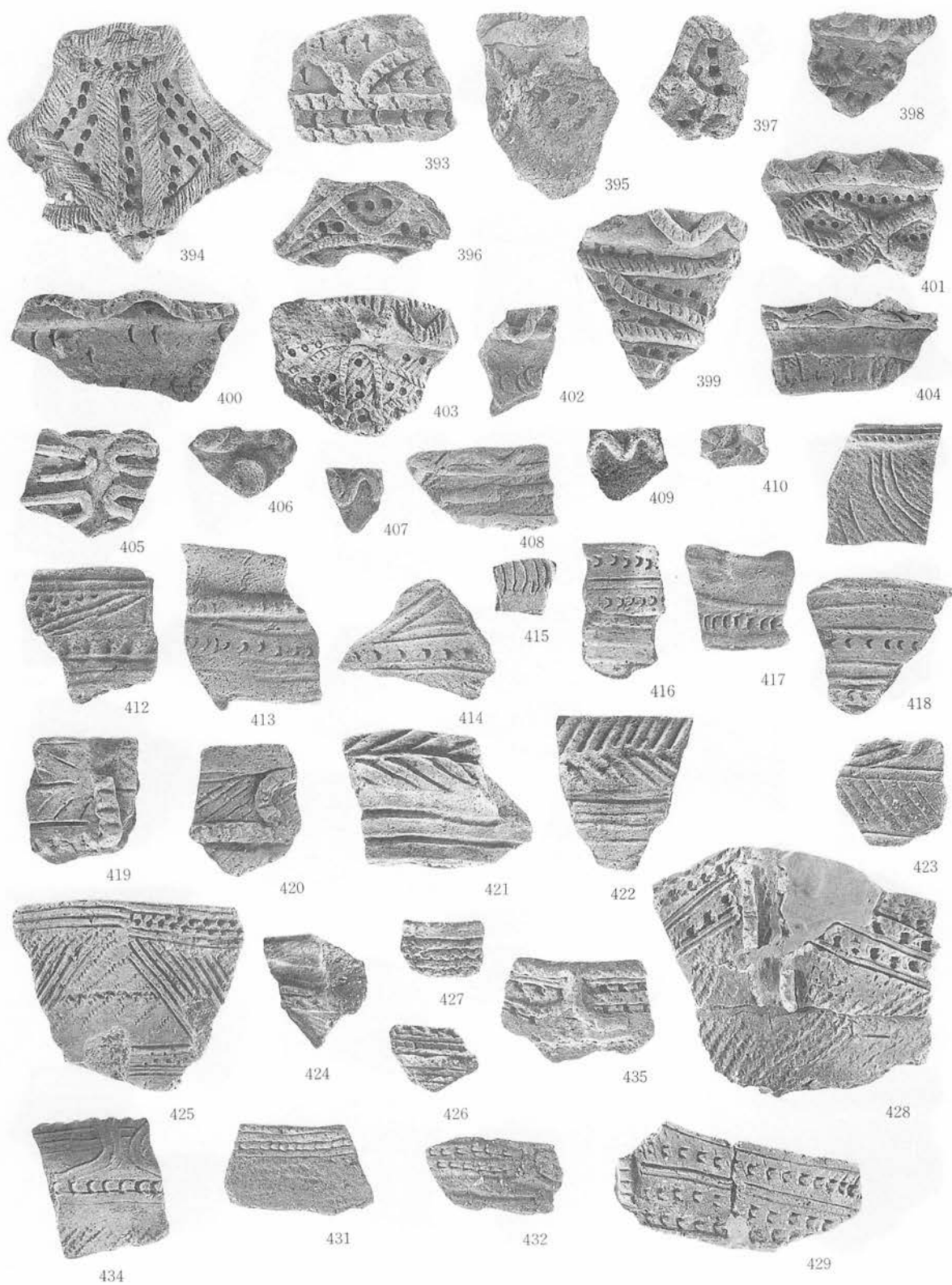




写真図版59 遺構外出土土器(8)

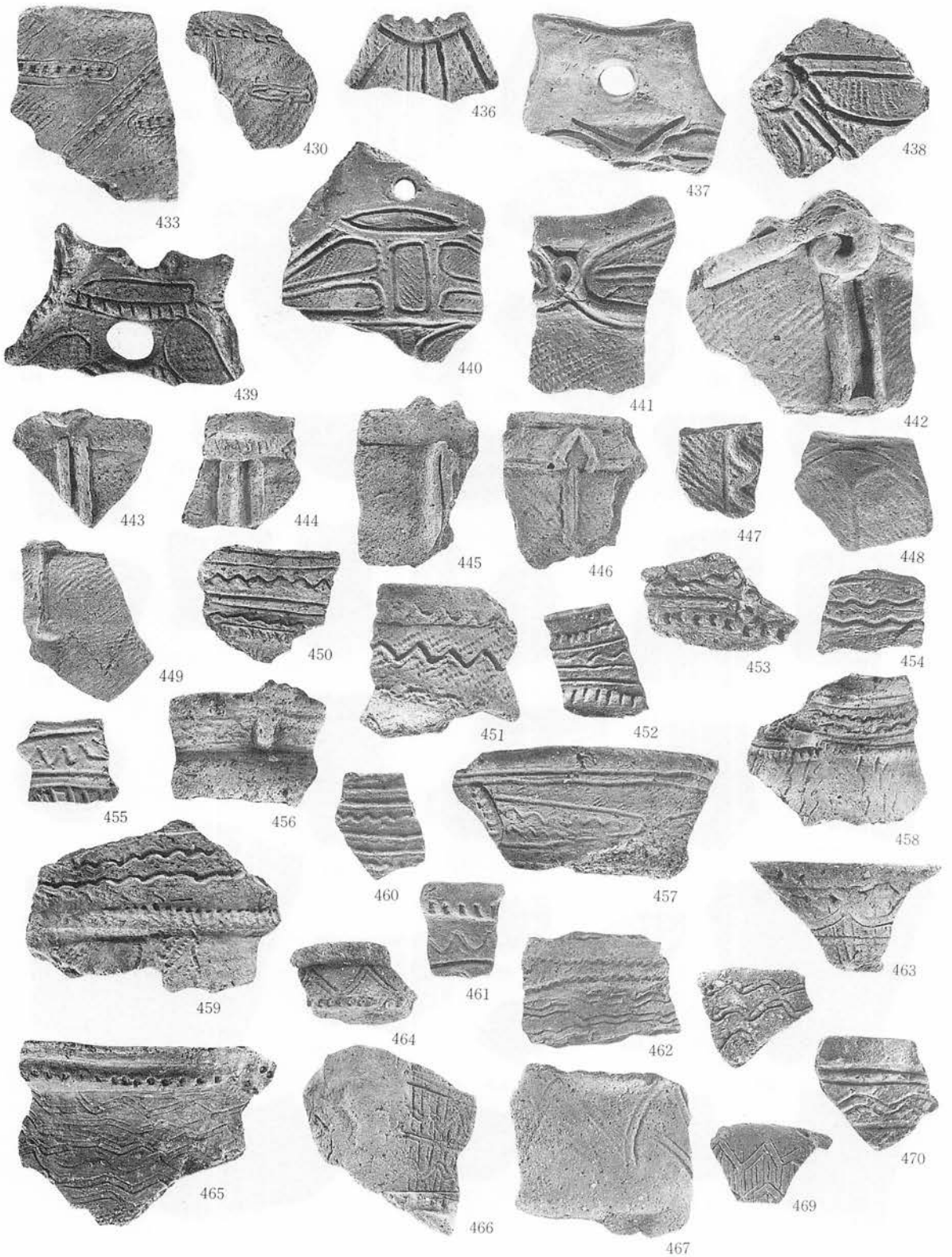


写真図版60 遺構外出土土器(9)

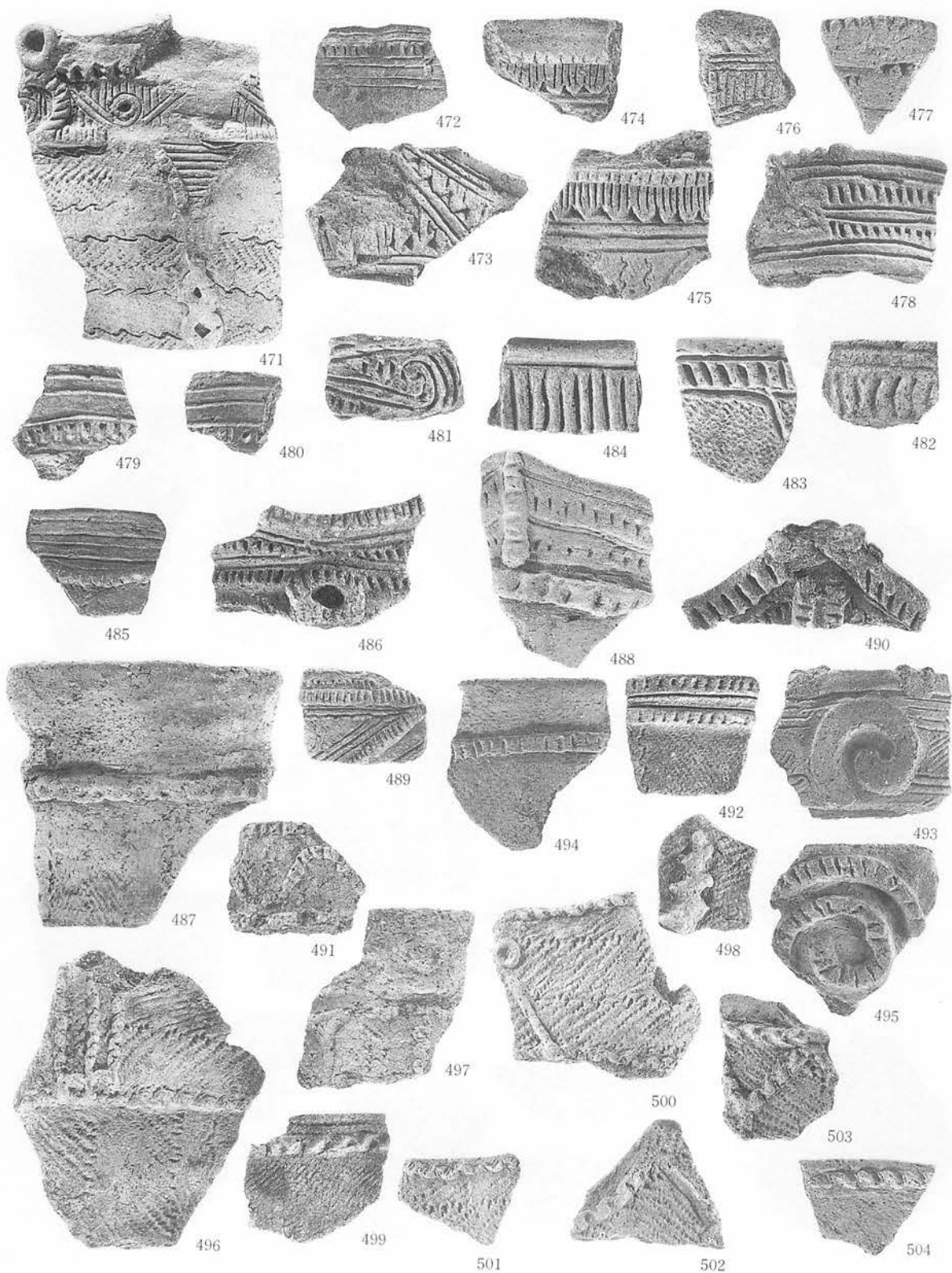


写真図版61 遺構外出土土器(10)

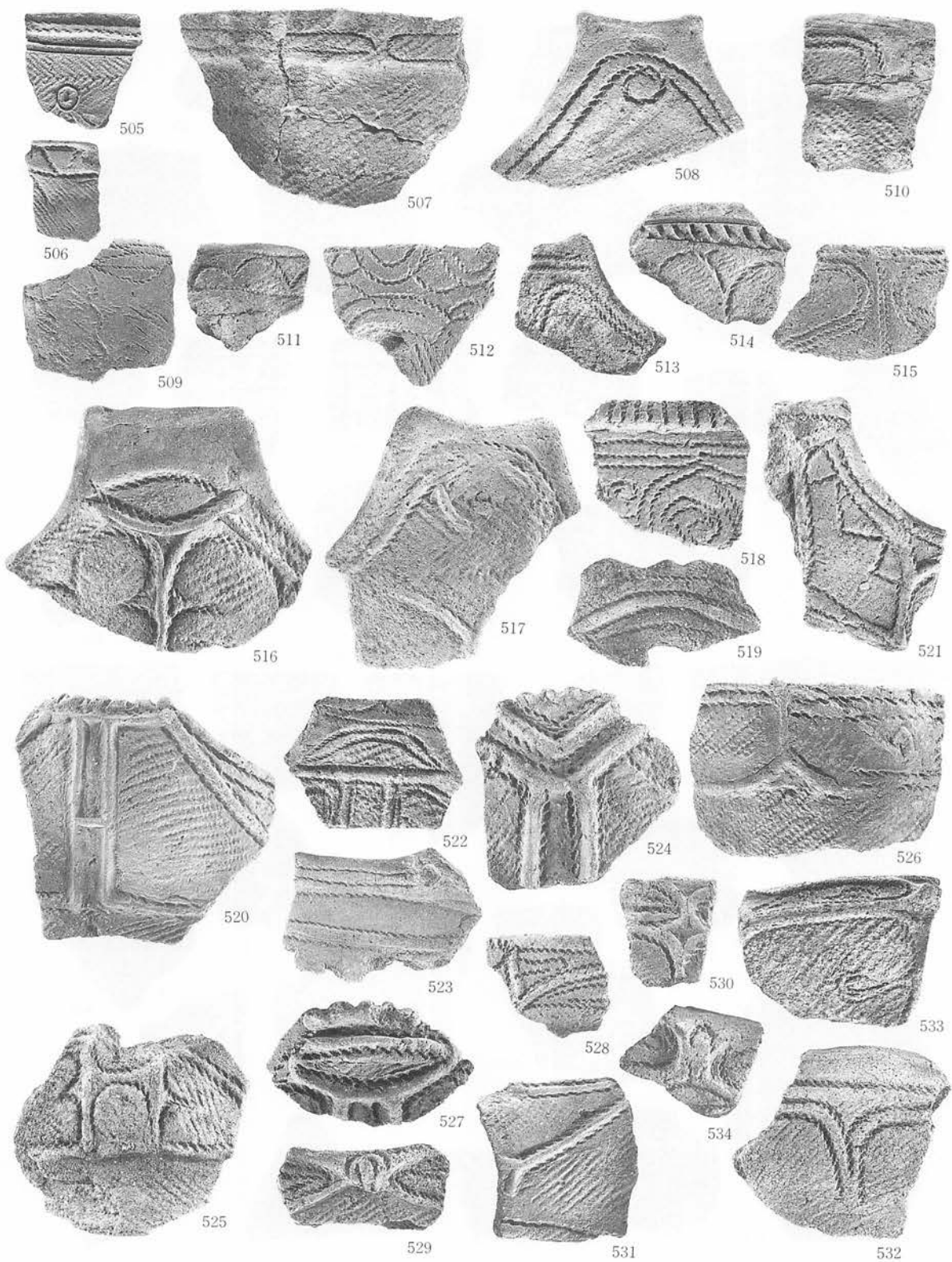




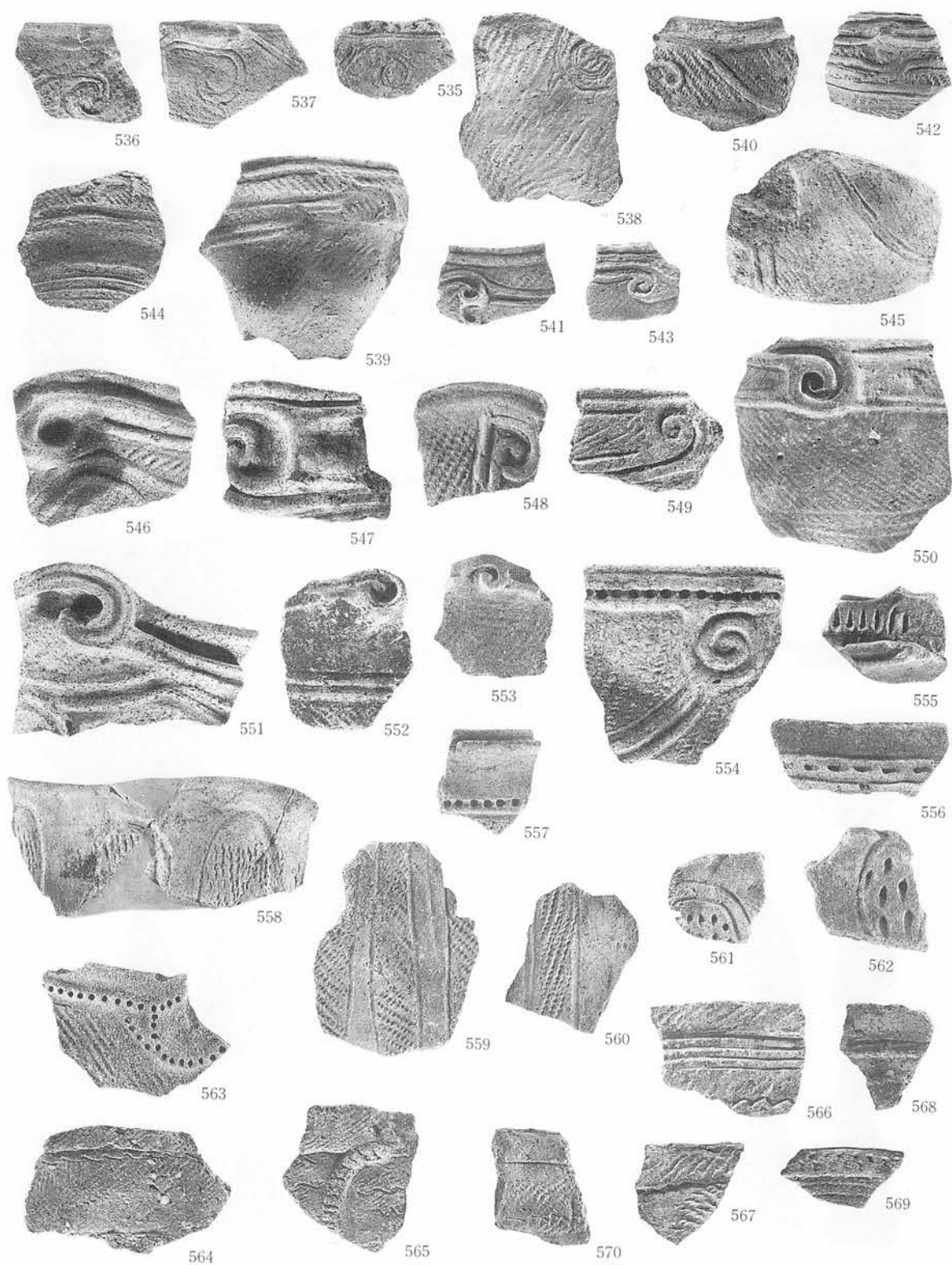
写真図版62 遺構外出土土器(11)



写真図版63 遺構外出土土器(12)

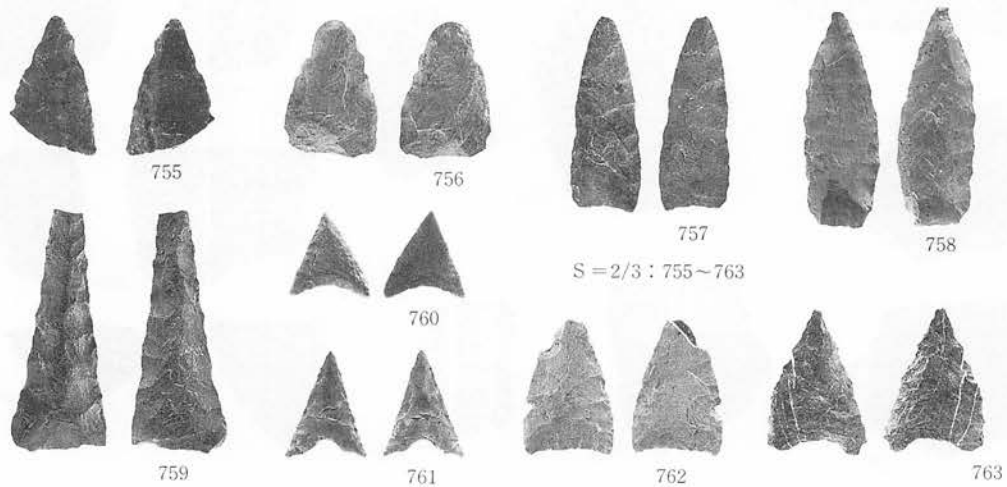
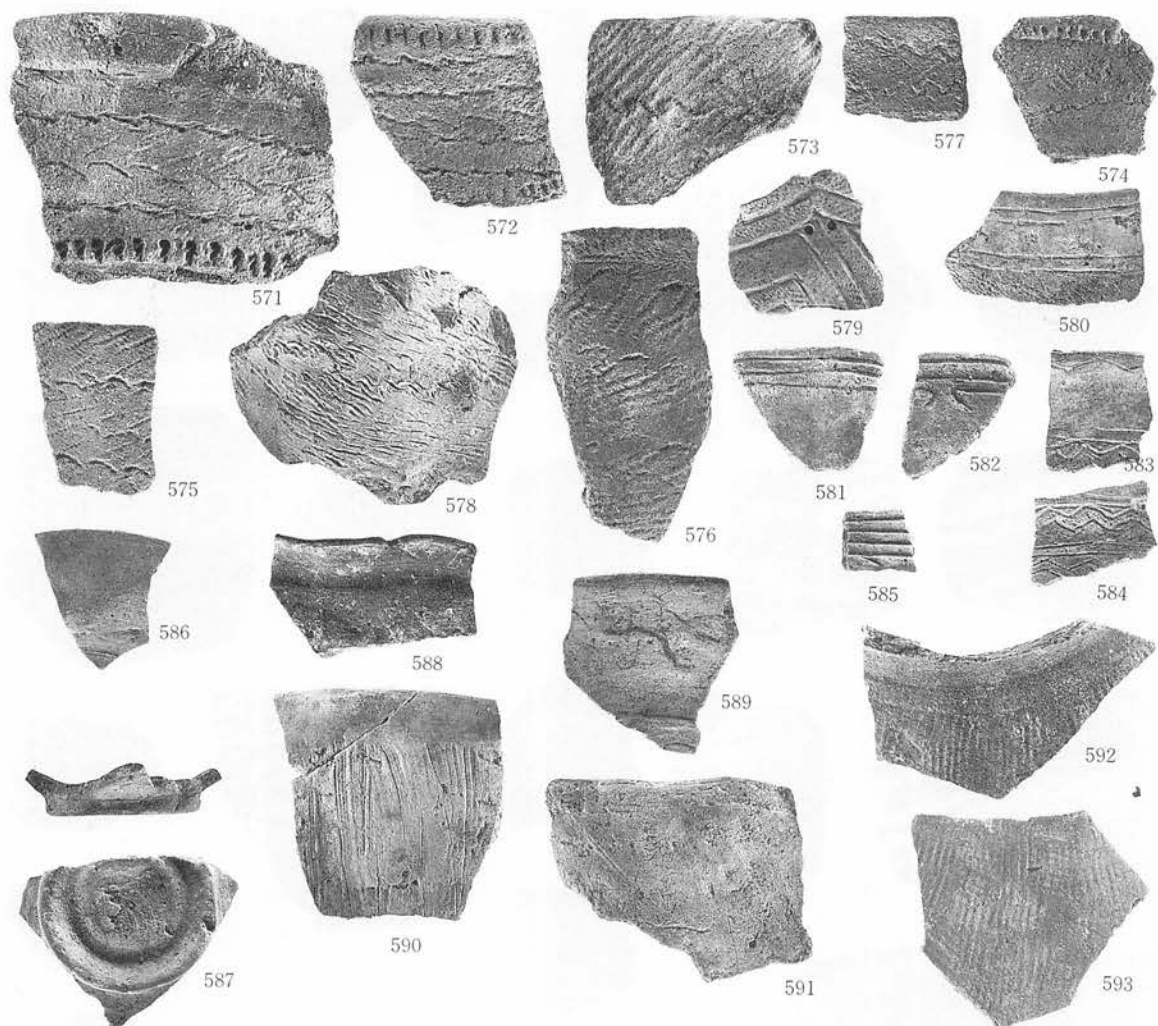


写真図版64 遺構外出土土器(13)

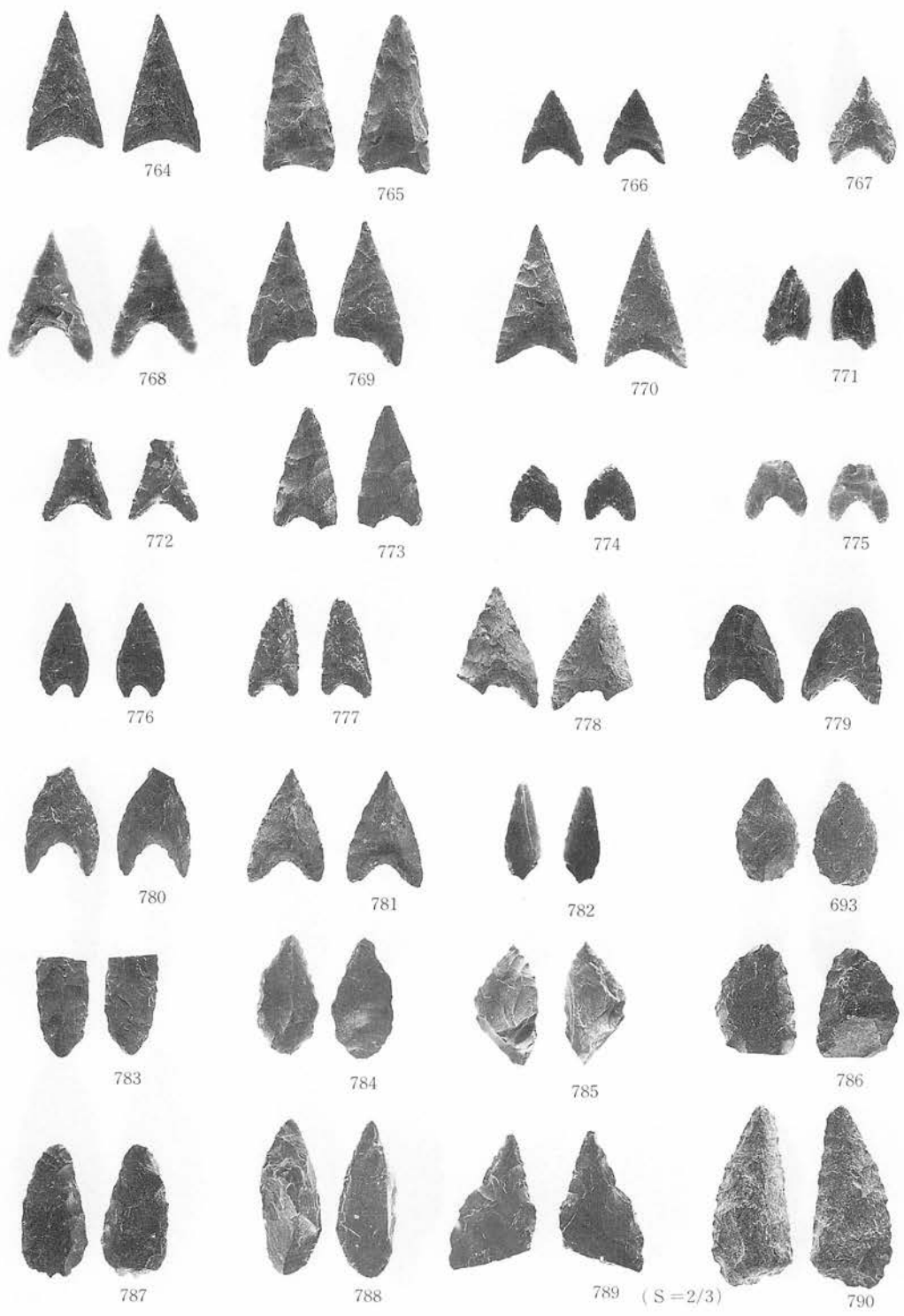


写真図版65 遺構外出土土器(14)





写真図版66 遺構外出土土器(15)



写真図版67 遺構外出土石鏃(1)



791



792



793



794



795



796



797



798



799



800



801



802



803



804



805



806



807



808 (S=2/3)



809

写真図版68 遺構外出土石鏃(2)





810



811



812



813



814



815



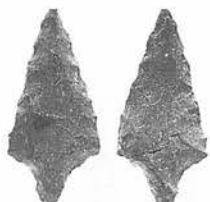
816



817



818



819



820



821



822



823



824



825



826



827



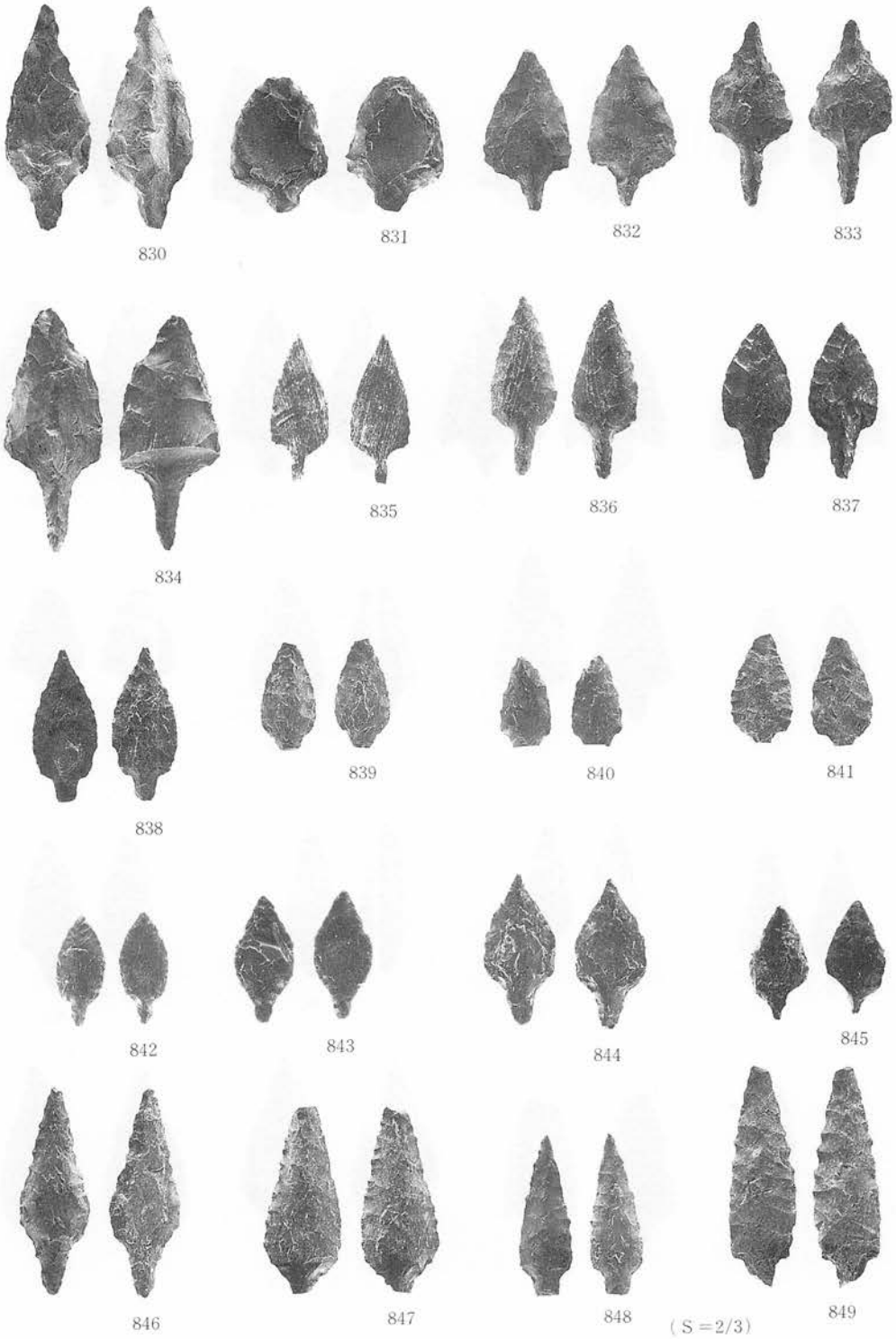
828



829

(S=2/3)

写真図版69 遺構外出土石鏃(3)



写真図版70 遺構外出土石鏃(4)



850



851



852



853



854



855



856



857



858



859



860



861



862



863



864



865



866



867



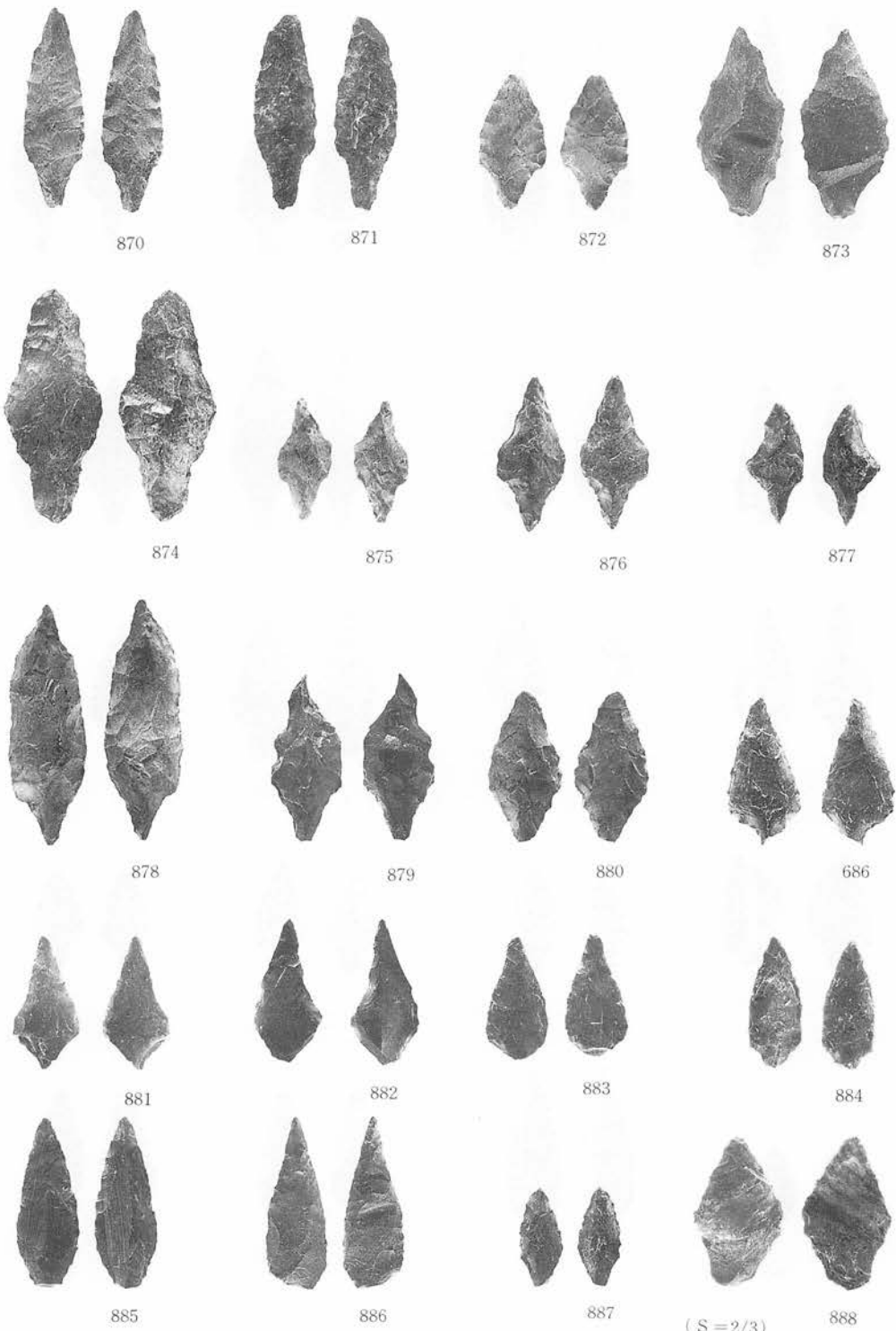
868



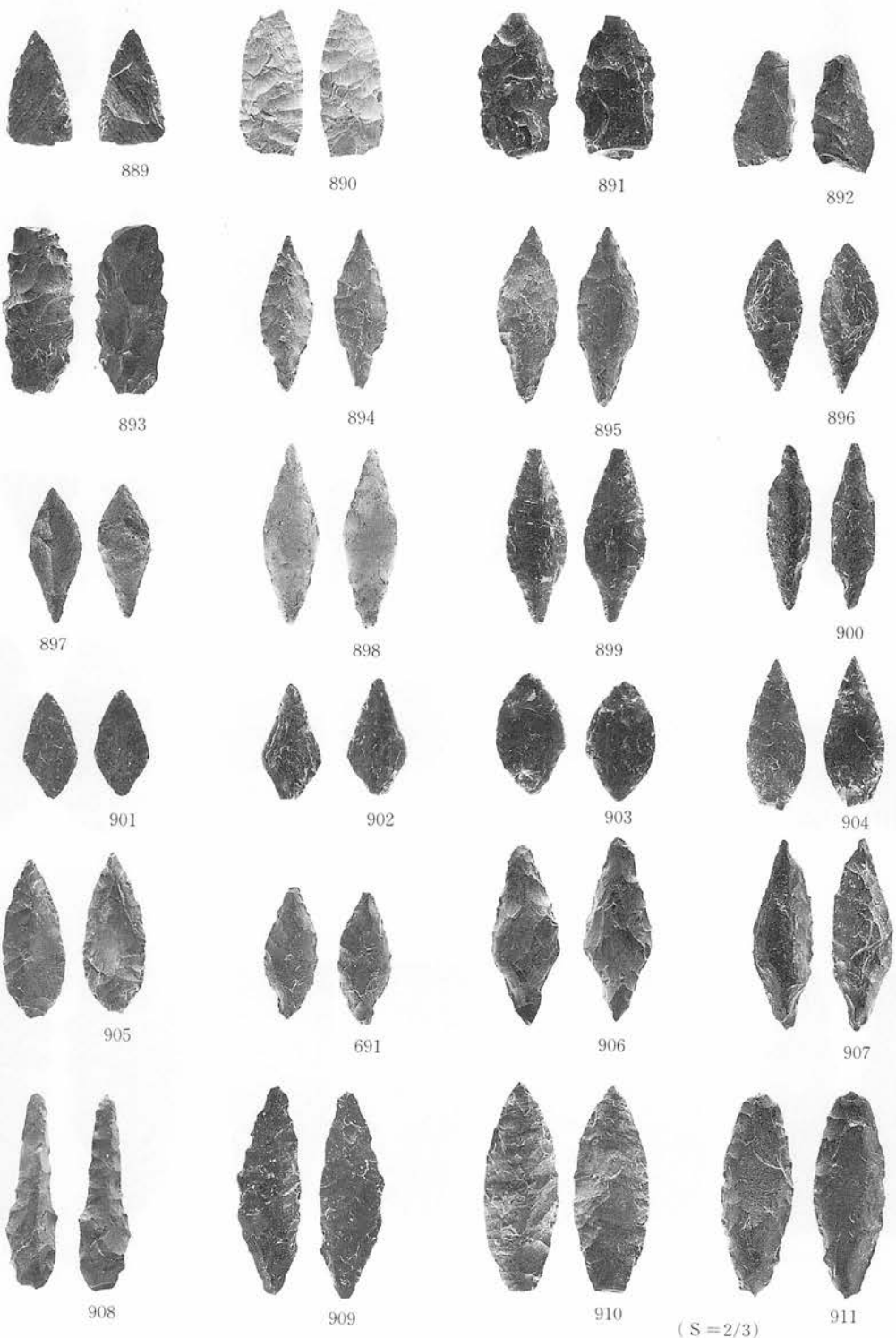
869

(S=2/3)

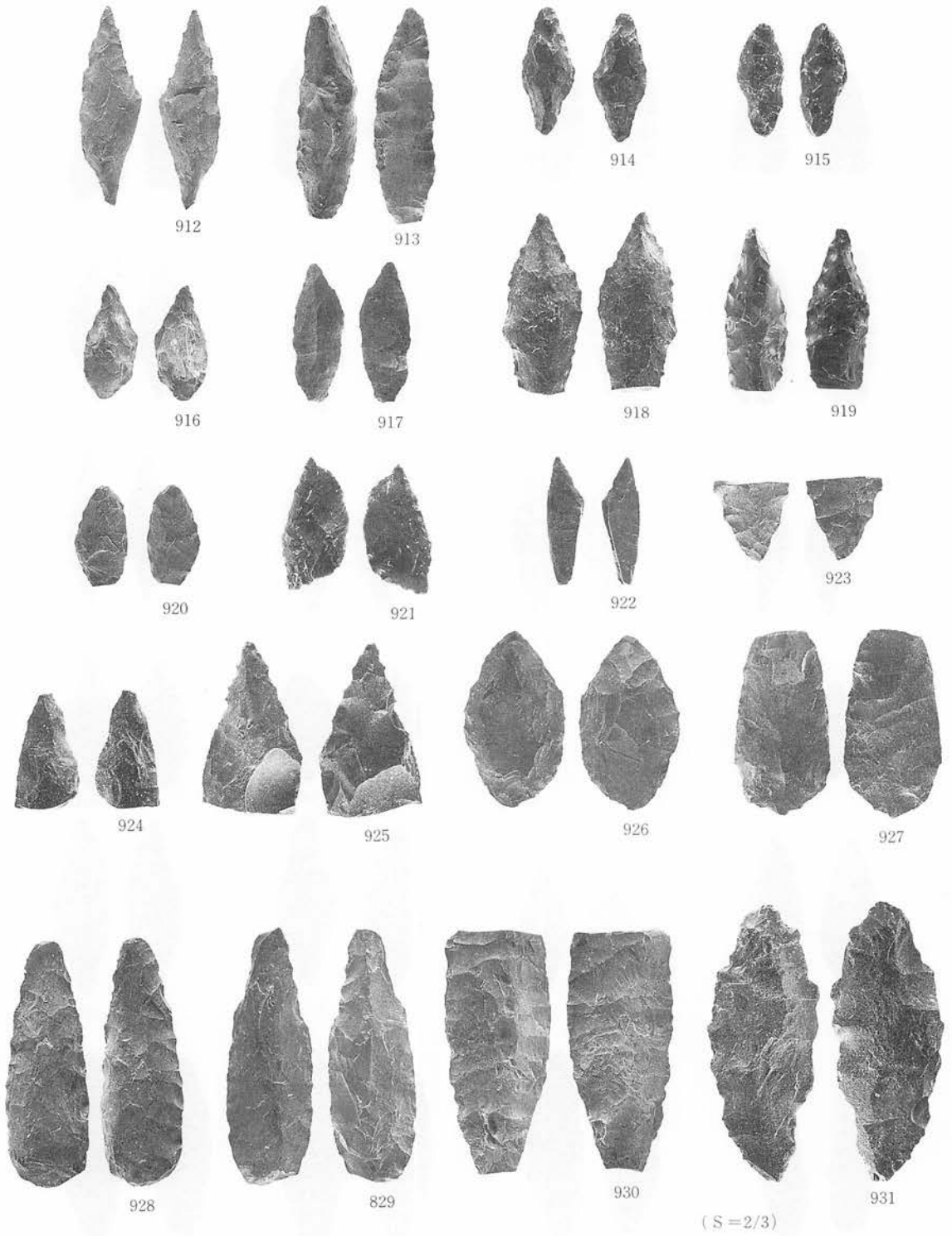
写真図版71 遺構外出土石鏃(5)



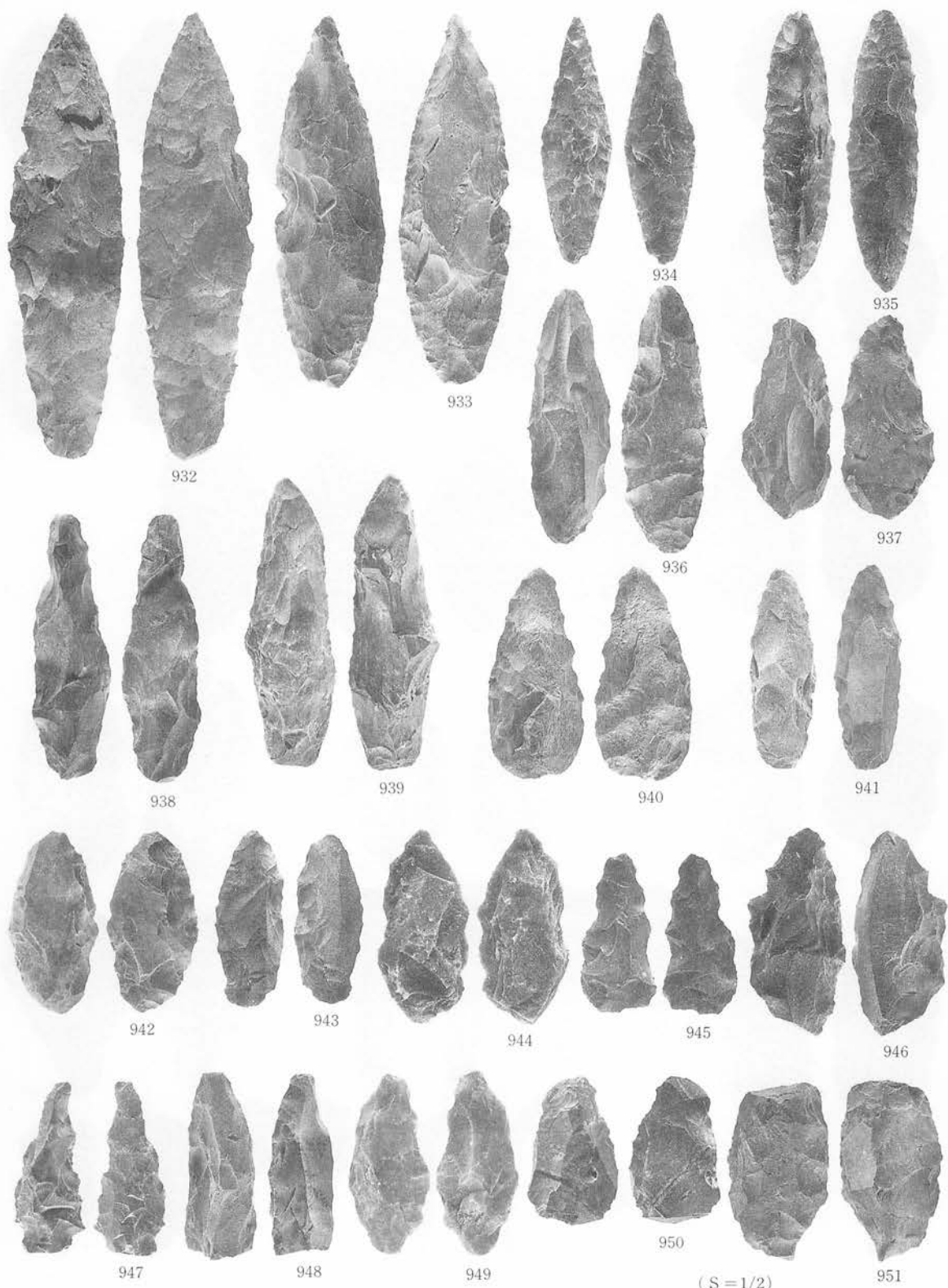
写真図版72 遺構外出土石鏃(6)



写真図版73 遺構外出土石鏃(7)

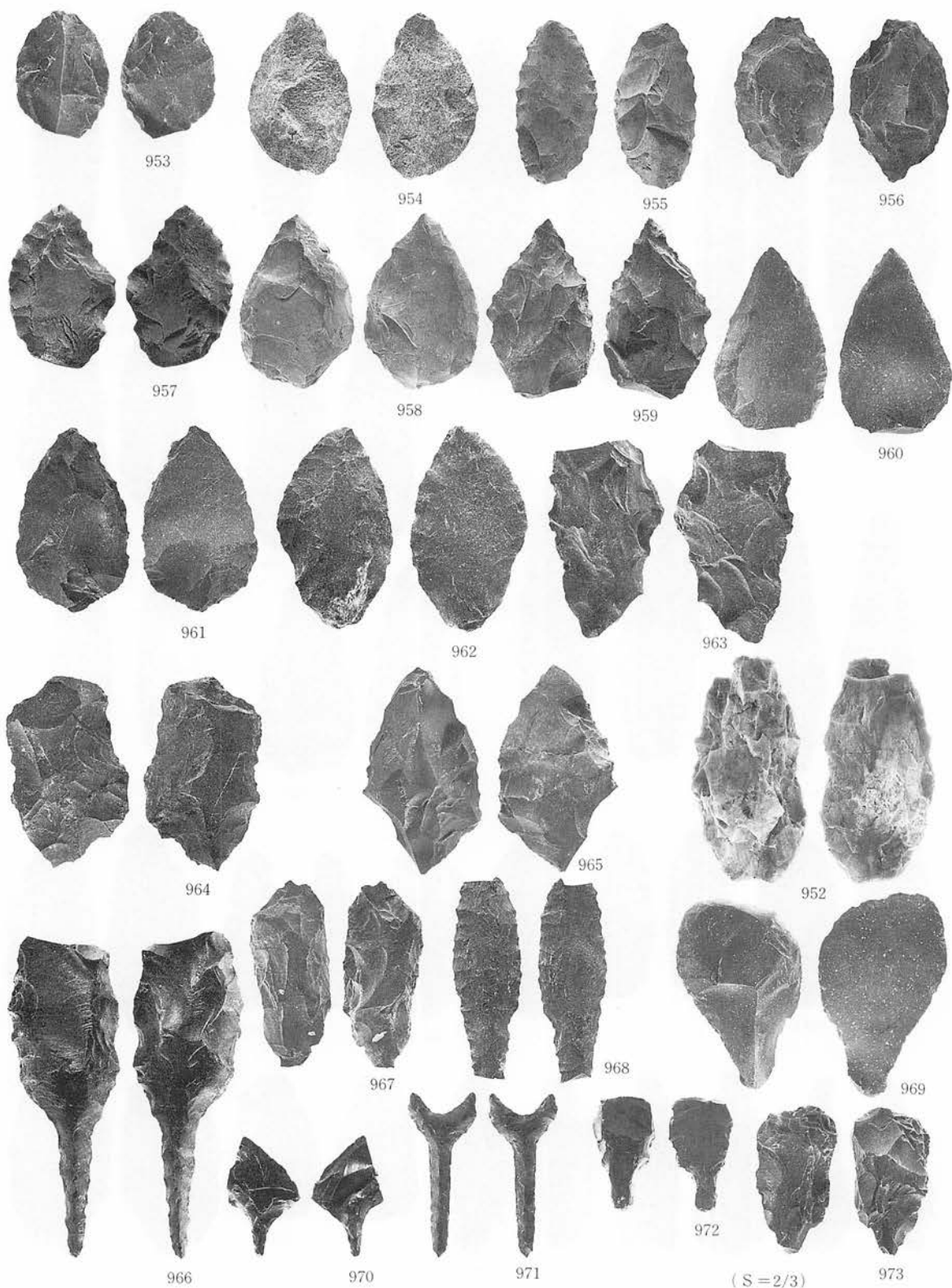


写真図版75 遺構外出土石鏃(8)・石槍(1)

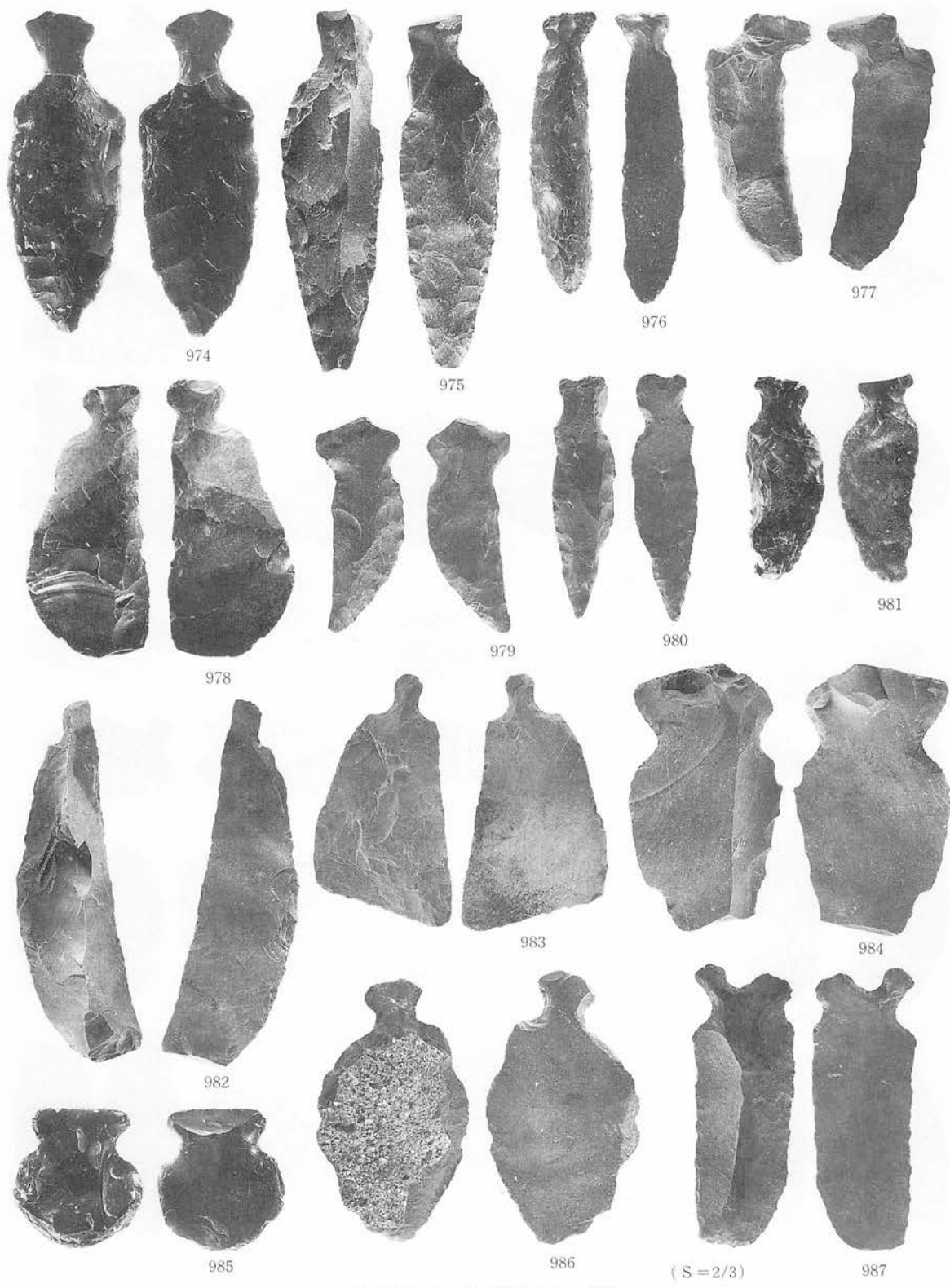


写真図版74 遺構外出土石槍(2)

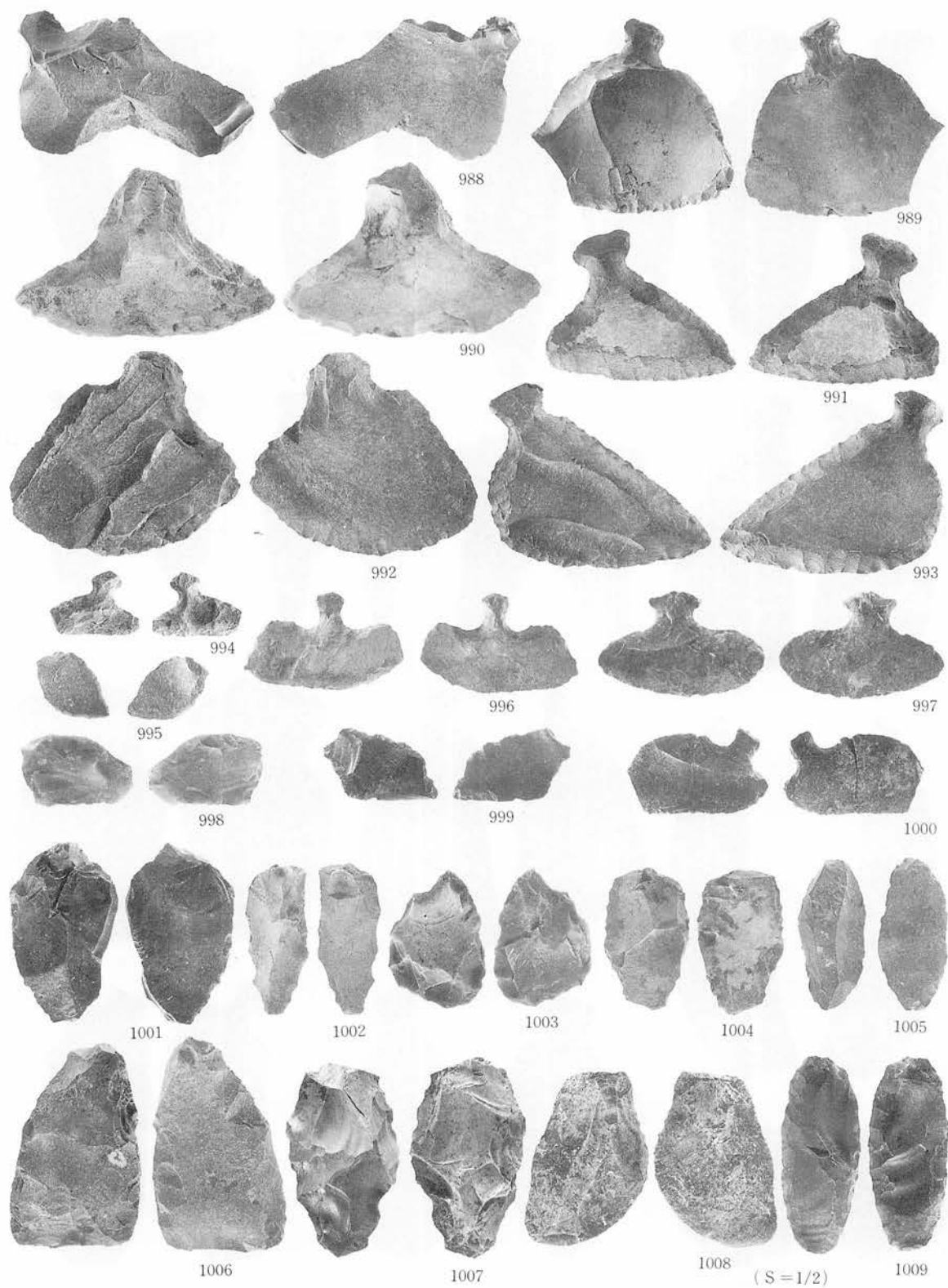




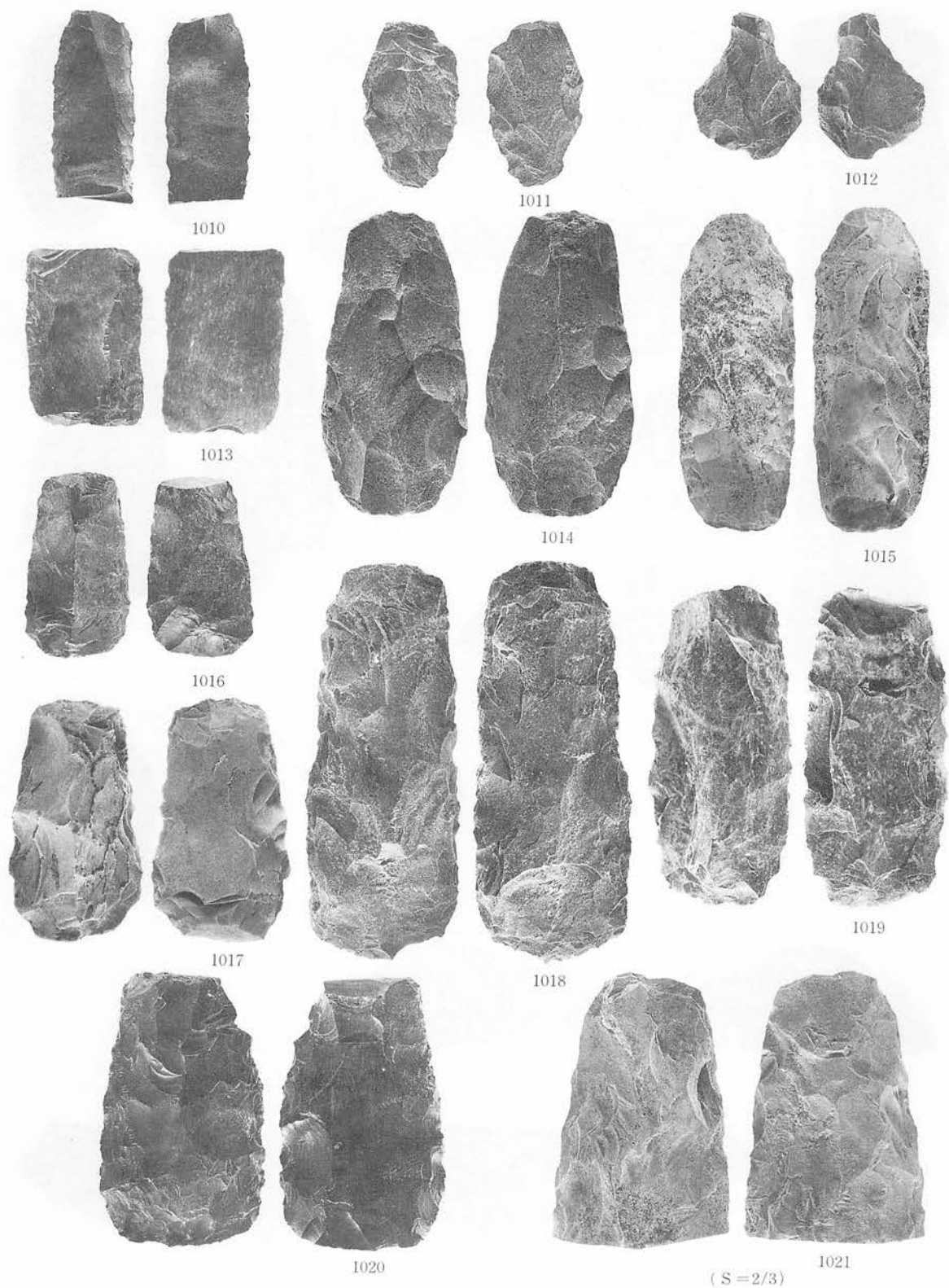
写真図版76 遺構外出土石槍(3)・石錐



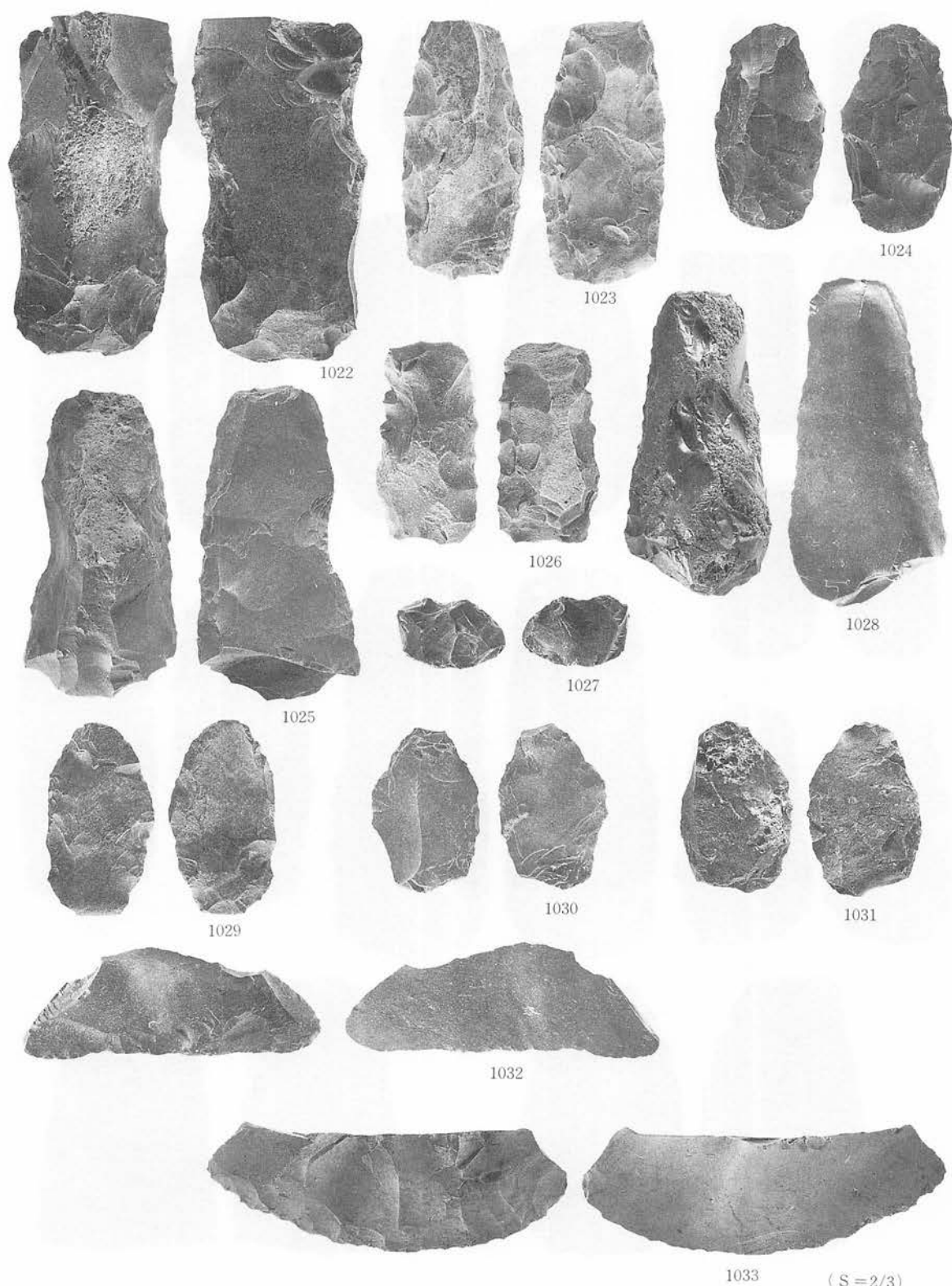
写真図版77 遺構外出土石匙(1)



写真図版78 遺構外出土石匙(2)他



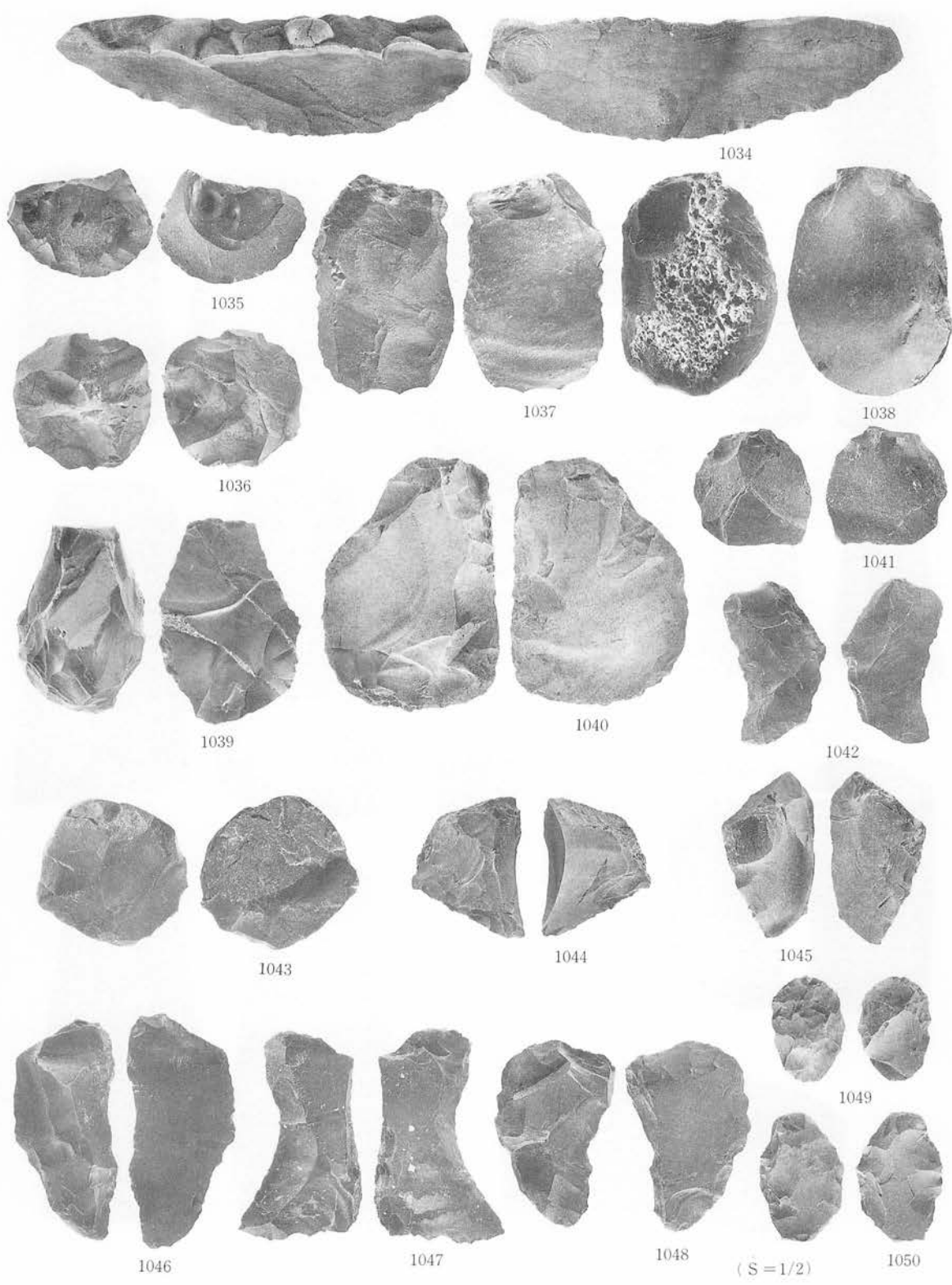
写真図版79 遺構外出土石筭



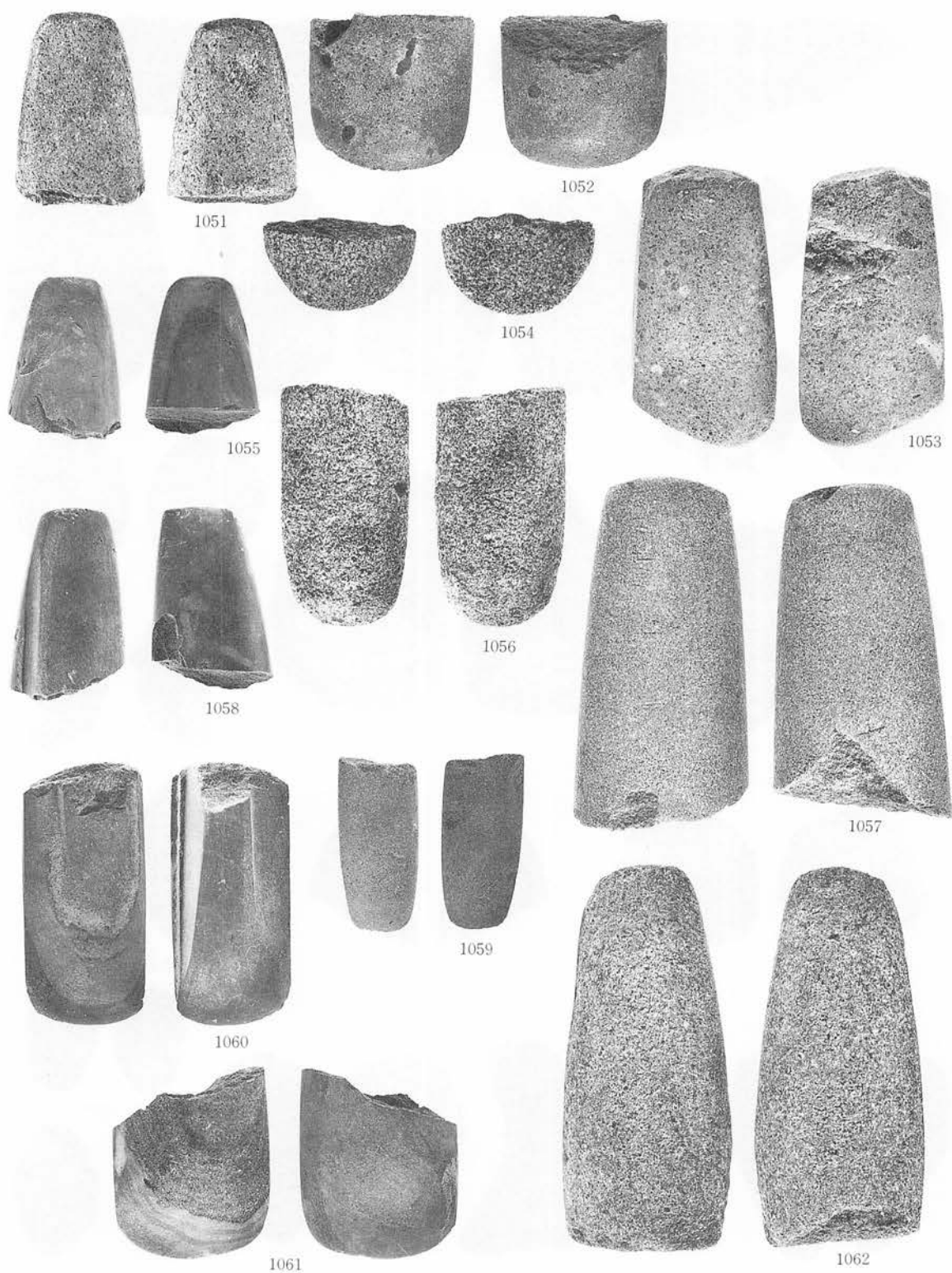
写真図版80 遺構外出土石筩・楔形石器・削器(1)

1033 (S=2/3)





写真図版81 遺構外出土削器(2)・搔器



(S=1/2)

写真図版82 遺構外出土石斧





1063



1064



1065



1066



1067



1068



1069



1070



1071



1072



1073



1074

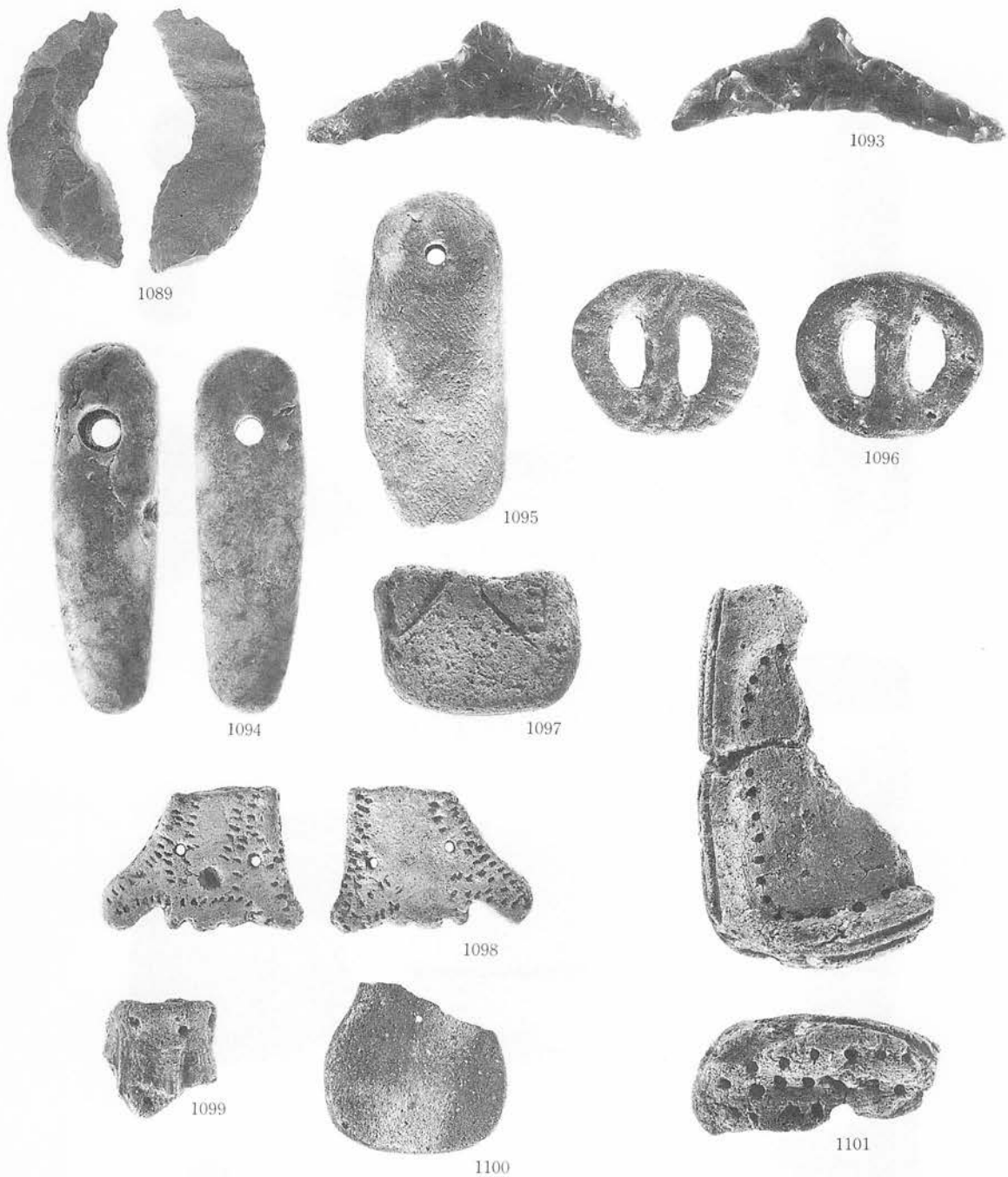


(S=2/3)

写真图版83 遺構外出土不定形石器

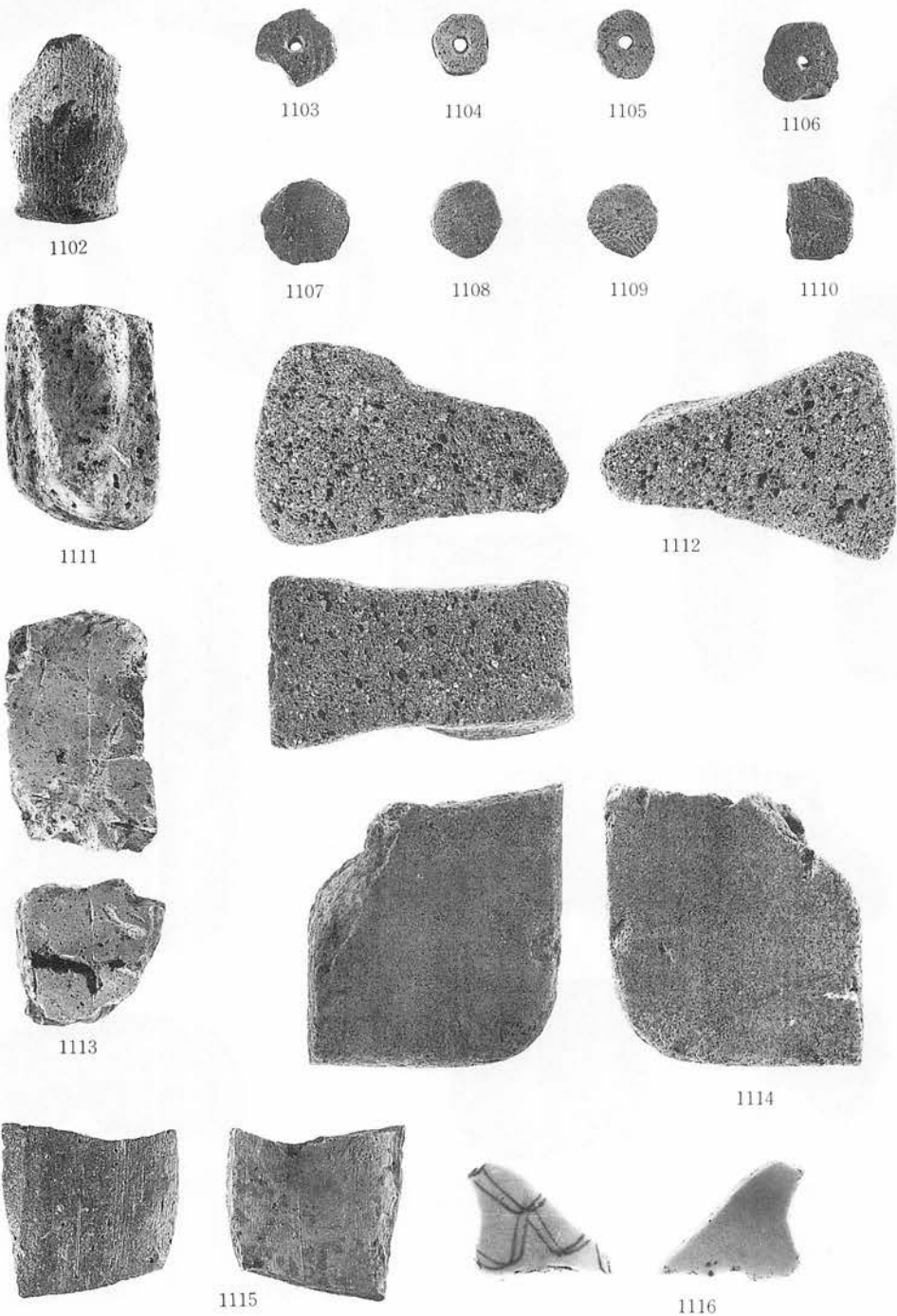


写真図版84 遺構外出土礫石器



(S=1/1 : 1089・1093・1094・1096・1097)  
 (S=1/2 : 1095・1098~1101)

写真図版85 遺構外出土石製品および土製品



S=1/2 : 1102 · 1111 ~ 1113 · 1116    S=1/4 : 1103 ~ 1110  
 S=1/1 : 1114

写真図版86 遺構外出土土製品他

## 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

理事兼所長 小笠原 喜 一

副 所 長 米 澤 康 雄

[管理課]

管理課長(兼) 米 澤 康 雄

課長補佐 森 岡 陽 一

主 事 阿 部 隆 広

嘱 託 吉 田 一 男

〃 山 館 昇

運 転 技 師 兼 技 能 員 佐 藤 春 男

[調査課]

調 査 課 長 昆 野 靖

課長補佐 佐々木 嘉 直

主任文化財 小田野 哲 憲

専門調査員 〃 三 浦 謙 一

〃 工 藤 利 幸

〃 高橋 與右衛門

〃 平 井 進

〃 中 村 良 一

〃 中 川 重 紀

〃 藤 村 敏 男

〃 高 橋 義 介

文 化 財 齋 藤 實

専門調査員 〃 佐 瀬 隆

〃 千 葉 孝 雄

〃 齋 藤 博 司

〃 東海林 隆 幹

〃 佐々木 弘

〃 川 村 均

〃 鈴 木 貞 行

〃 伊 東 格

〃 遠 藤 修

〃 齋 藤 邦 雄

〃 神 敏 明

文 化 財 佐々木 信 一

専門調査員 〃 小 原 眞 一

〃 村 上 修

〃 酒 井 宗 孝

〃 松 本 建 速

〃 金 子 昭 彦

〃 濱 田 宏 久

期 限 付 菅 常 久

専門調査員 〃 相 原 伸 裕

〃 及 川 靖 世

〃 阿 部 勝 則

〃 菊 池 明 芳

〃 及 川 涉

〃 星 雅 之

〃 森 下 宏

〃 鈴 木 知 己

〃 菊 地 幸 裕

〃 藤 村 隆

〃 千 葉 悟

〃 大久保 茂

〃 熊 谷 博 由

[資料課]

資 料 課 長 高 橋 薫

主任文化財 田 鎖 壽 夫

専門調査員

---

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第156集

## 間館 I 遺跡発掘調査報告書

土地改良総合整備事業寺田西部地区関連遺跡発掘調査

印刷 平成3年2月25日

発行 平成3年2月28日

発行 財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 紫波郡都南村大字下飯岡11字高屋敷185

電話 (0196) 38-9001~2

印刷

川 口 印 刷 工 業 (株)

〒020 盛岡市本町通2-13-8

電話 (0196) 23-3351